19. シラバス

【2014 年度シラバス　目次】

《一般科目》

ICTビジネス入門 1
ITアドミニストレータ 2
ITマネジメントⅠ 3
ITマネジメントⅡ 4
アジア経済論Ⅰ 5
アジア経済論Ⅱ 6
アジア・若者マーケット論 8
English ExpressionⅠ 10
English ExpressionⅡ 12
Englishビジネスコミュニケーション 13
インターンシップⅠ 14
インターンシップⅡ 15
Webサービス開発 16
WebデザインⅠ 17
WebデザインⅡ 18
Webプログラミング 19
AP数学 20
SNS社会論 21
海外活動英語コミュニケーションⅠ 23
海外活動英語コミュニケーションⅡ 25
観光学概論 26
韓国経済論 27
韓国語Ⅰ 28
韓国語Ⅱ 29
韓国ビジネスコミュニケーションⅠ 30
韓国ビジネスコミュニケーションⅡ 32
管理会計入門 34
キャリアデザイン入門 35
キャリアデザインⅠ 37
キャリアデザインⅡ 38
キャリアデザインⅢ 40
教育心理学 42
教育相談 43
近現代史：世界と日本 44
金融論 47
グローバルビジネス入門 48
経営科学Ⅰ 49
経営科学Ⅱ 50
経営学概論Ⅰ 52
経営学概論Ⅱ 53
経営基礎Ⅰ 54
経営基礎Ⅱ 56
経営実務Ⅰ 58
経営実務Ⅱ 60
経営情報数学Ⅰ 62
経営情報数学Ⅱ 64
経営情報論Ⅰ 65
経営情報論Ⅱ 67
経営組織Ⅰ 69
経営組織Ⅱ 71
経営と意思決定 73
経済学入門 75
経済統計学 77
原価分析 78
現代アメリカ論 79
現代中国入門 81
現代メディア論Ⅰ 82
現代メディア論Ⅱ 84
国際経営入門Ⅰ 86
国際経営入門Ⅱ 88
国際経済 90
コンピュータ概論 91
コンピュータサイエンス 93
コンピュータネットワーク活用 94
財務会計Ⅰ 96
財務会計Ⅱ 97
財務管理 98
財務諸表分析 100
システムデザイン 102
システム分析概論 104
自然科学概論Ⅰ 106
自然科学概論Ⅱ 108
実践的事業経営特講 110
社会経済政策 111
社会心理 114
社会調査士実習Ⅰ 115
社会調査士実習Ⅱ 116
消費心理 117
情報概論 118
情報工学概論 119
情報セキュリティ 120
情報探索法 121
情報通信と社会 123
情報と職業 124
情報ネットワーク概論Ⅰ 126
情報ネットワーク概論Ⅱ 127
情報法 128
初級簿記 129
女性のためのキャリアデザイン 131
数字力で語る 133
スタディーアブロードⅠ～Ⅷ 135
スポーツⅠ 136
スポーツⅡ 137
スポーツと健康 138
世界と日本のエネルギー問題Ⅰ 140
世界と日本のエネルギー問題Ⅱ 141
ソーシャルメディア論 143
多国籍企業Ⅰ 145
多国籍企業Ⅱ 147
多摩学入門Ⅰ 148
多摩学入門Ⅱ 150
地域活性化戦略論 152
地域観光とビジネス 153
地域政策マネジメント論 154
地域ビジネス論 155
中級簿記 157
中国経済論 159

中国語Ⅰ……161
中国語Ⅱ……162
中国ビジネスコミュニケーションⅠ……163
中国ビジネスコミュニケーションⅡ……164
中小企業論……165
データ解析……167
データベース……169
統計……170
統計学Ⅰ……172
統計学Ⅱ……173
TOEICⅠ……174
TOEICⅡ……175
特別講座Ⅰ……176
特別講座Ⅱ……177
日本経営史Ⅰ……178
日本経営史Ⅱ……179
日本経済史Ⅰ……180
日本経済史Ⅱ……181
日本経済論……182
日本語講座（初級）……184
日本語講座（中級Ⅰ）……186
日本語講座（中級Ⅱ）……188
日本語講座（上級）……190
日本語表現法Ⅰ……192
日本語表現法Ⅱ……193
日本政治史……194
認知心理……196
比較文化論Ⅰ……198
比較文化論Ⅱ……200
ビジネスコミュニケーション入門Ⅰ……202
ビジネスコミュニケーション入門Ⅱ……203
ビジネス数学基礎……204
ビジネススキル基礎Ⅰ……205
ビジネススキル基礎Ⅱ……206
ビジネス戦略入門……207
ビジネス戦略Ⅰ……209
ビジネス戦略Ⅱ……211
ビジネスソフトウェア活用……213
ビジネス特講Ⅰ……214
ビジネス入門Ⅰ……216
ビジネス入門Ⅱ……218
Practical English ConversationⅠ……219
Practical English ConversationⅡ……220
プログラミング言語入門Ⅰ……221
プログラミング言語入門Ⅱ……223
プログラミング言語Ⅰ……224
プログラミング言語Ⅱ……226
文章伝達入門……227
Basic Office EnglishⅠ……228
Basic Office EnglishⅡ……229
法学（憲法）……230
マーケティングデータ分析Ⅰ……232
マーケティングデータ分析Ⅱ……233
マーケティングリサーチ……234
マーケティング入門……236
マーケティングマネジメント論……238
マーケティングモデリング……239
マクロ経済学……240
マネジメントデザイン論Ⅰ……242
マネジメントデザイン論Ⅱ……244
マルチメディア実践……246
ミクロ経済学……248
問題解決学総論……249
余暇マネジメントⅠ……250
余暇マネジメントⅡ……252
ライフデザイン入門……254
ライフデザイン……255
リサーチ入門……256
立志論Ⅰ……257
立志論Ⅱ……259
立志論Ⅲ……261
立志論Ⅳ……263
立志論Ⅴ……265
流通論……267
歴史と文化……268

《演習科目》

プレゼミナールⅠ……270
プレゼミナールⅡ……271

〈ホームゼミナール（立志セミナー）〉
金子　邦博、梅澤　佳子、清松　敏雄、
杉田　文章……272

〈ホームゼミナール〉
安藤　美冬……273
飯田　健雄……275
石川　晴子……276
出原　至道……277
今泉　忠……278
梅澤　佳子……279
大森　映子……280
大森　拓哉……281
奥山　雅之……282
金子　邦博……283
金　美徳……284
清松　敏雄……285
小林　英夫……286
齋藤　S.裕美……287
彩藤　ひろみ……288
酒井　麻衣子……289
椎木　哲太郎……290
志賀　敏宏……291
下井　直毅……292
杉田　文章……293
趙　佑鎭……294
常見　耕平……295
豊田　裕貴……296
中庭　光彦……297
中村　その子……298
中村　有一……300
バートル……301
浜田　正幸……302
樋口　裕一……303

久恒　啓一.....304
増田　浩通.....305
村山　貞幸.....306
諸橋　正幸.....307

〈インターゼミナール〉
寺島　実郎、久恒　啓一、金　美徳、諸橋　正幸、
出原　至道、中庭　光彦、バートル、奥山　雅之、
小林　英夫、久保田　貴文、木村　知義、
荻野　博司、(SGS:安田　震一)、(SGS:中澤 弥)..308

〈プロジェクトゼミナール〉
伊藤　暢人.....309
江頭　満正.....310
江頭　満正.....311
大風　薫.....312
荻野　博司.....313
栢原　伸也.....315
片桐　徹也.....316
片桐　徹也.....318
木村　知義.....320
木村　知義.....323
田中　雄.....326
多摩市役所.....327
富田　直美.....328
中野　未知子.....329
中村　紳吾.....330
浜田　健史.....331
原田　曜平.....332
松本　祐一.....333
松本　祐一.....334
見山　謙一郎.....335
もしもしホットライン.....337
森本　美行.....338
八代　比呂美.....339
渡辺　幸裕.....340

〈合同ゼミナール〉
大森　拓哉.....341
金子　邦博.....342
酒井　麻衣子.....343
豊田　裕貴.....344
村山　貞幸.....345
大森　拓哉.....346
金子　邦博.....347
彩藤　ひろみ.....348
酒井　麻衣子.....349
下井　直毅.....350
豊田　裕貴.....351
村山　貞幸.....352
諸橋　正幸.....353

《教職に関する科目》
教育原理.....354
教育史.....356
教育実習.....358
教育制度論.....359
教育方法.....360
教職概論.....362
教職課程総論.....364
教職実践演習.....365
情報科教育法.....366
生徒指導.....368
特別活動.....370

科目名 ICTビジネス入門（Introduction to ICT Business）

サブタイトル

担当教員 今泉 忠、出原 至道、彩藤 ひろみ、中村 有一、諸橋 正幸

■講義目的

ICT分野では、日進月歩で技術革新が進んでいるものの、必ずしも、技術を高度に進歩させれば（よい技術にすれば）、市場に普及する商品（売れる商品）になるとは限らない。

ICTビジネス入門では、知っておくべきICT技術の解説だけではなく、その技術をビジネスとして展開するためのポイント（商品企画入門）の解説と、企画書（提案書）の書き方、さらにプレゼンテーションについて解説する。

また、いくつかのICTの技術をテーマに、商品企画演習を行い、単なる座学ではなく、技術から考える商品企画についても学習する。

これらを通じて、職業としてのICTビジネス分野の可能性と魅力について理解し、かつ、その分野での就職を目指す基礎を作るのが本講義の目的である。

■講義分類

顧客理解
ビジネス創造
ビジネスICT

■到達目標

技術をいかにビジネス（商品）化するかについて、講義事例を学び、その上で、各自が商品開発ならびにその提案書、企画書を書く基礎を身につけることが目標となる。

■講義形態

講義 +レポート：学外学習なし

■講義の概要

<第1講> オリエンテーション
ICTビジネス入門の全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション
※以下、第2講から第14講に共通する〈予習、復習のポイント〉
本講義の最も重要なポイントは、解説される事例や考え方をいかに自分の興味のあるテーマに置き換えて考えるかにある。したがって、予習よりはむしろ復習が重要であり、知識の応用の仕方を考えることに力点が置かれる。
各回の内容を講義で用いたものとは異なる技術や事例によって、各自が説明できるようになることが、復習の目安である。
<第2講>マーケティングから考えるICTビジネス①
手段目的の連鎖からニーズとシーズの関係を把握し、技術のビジネス上の価値を考える視点をマスターする。
事前学習しておくべき用語や単語：「付加価値」
<第3−5講>知っておくべきICT事例
ICTの代表的な技術や今後注目される技術について、各回2教員が解説する。なお、その技術についての簡単な要約を講義内レポートとし評価に用いることとする。
事前学習しておくべき用語や単語：VR、ビッグデータ
<第6講>マーケティングから考えるICTビジネス②
技術革新（イノベーション）をもとにビジネスを展開する場合に巻き込まれるジレンマが指摘されている。このジレンマ（イノベーションのジレンマ）とは何か、また、マーケティング的にはいかにこのジレンマから抜け出すかを解説する。
事前学習しておくべき用語や単語：ドラッカ
<第7講>最新情報サービスにみる技術とビジネス
様々な情報サービスが提供されているが、それは特許などで知的財産としても保護されている。この情報サービスと特許情報の関係について解説を行なう。また、ビジネスを考える上で非常に有効な情報であり、その検索のしかたから読み方までを解説する。
事前学習しておくべき用語や単語：特許技術
<第8講>提案書・企画書の書き方
特許情報の書き方を応用し、技術がどんなニーズを解決するのかを中心にした提案書・企画書の書き方を解説する。最終レポートの書き方に関係するため、欠席しないこと。
<第9-10講>ICTビジネスプレゼン事例
実際のICT技術のプレゼンを見て、その商品の特徴をまとめると同時に、そのプレゼンがもっとわかりやすくするには、どうすれば良いと思うかについて検討を加えていく。講義内レポートを予定している。
<第11-14講>ICTビジネス企画演習①・②
具体的な2つの技術（講義時に発表）についての説明を聞き、それをもとにした説明資料と提案書を作成する演習を行う。
<第15講>優秀プレゼンおよび全体のまとめ
ここまでの優秀なレポートや提案書を選び、プレゼンをしてもらう。その上で、全体のまとめを行う。

■教科書

なし

■指定図書

・Christensen, Clayton M. (1997), The Innovator's Dilemma: When New Technologies Cause Great Firms to Fail. Boston, Harvard Business School Press.（クレイトン・クリステンセン著、玉田俊平太（監修）、伊豆原弓（訳）（2001）『イノベーションのジレンマ―技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』翔泳社）
・Clayton M. Christensen, Michael E. Raynor(2003), The Innovator's Solution: Creating and Sustaining Successful Growth, Harvard Business School Press.（クレイトン・クリステンセン著、マイケル・レイナー著、玉田俊平太（監修）、櫻井祐子（訳）（2004）『イノベーションへの解 利益ある成長に向けて』翔泳社）
・豊田裕貴、蓑田文男（2011）『特許情報のテキストマイニング―技術経営のパラダイム転換』ミネルヴァ書房
・蓑田文男、松島三兒、高橋敏昭、垣内淳、矢賀部裕（2007）『技術と市場ニーズの探索・融合』税務経理協会

■参考文献

講義時に随時紹介する

■参考URL

■評価方法

通常点（「出席講義」と「講義レポート」）70%および期末レポート30%により評価する。

■評価基準

絶対評価
・提案書を書ける
・ICT事例を整理できる
・技術開発とビジネスについてまとめることができる

■事前履修科目等

第1回目に各回での講義概要およびキーワードを示すので、事前にそれらについて調べてから講義に臨むこと

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・新規開講科目のため、受講希望者は、第一回目の講義に出席し、オリエンテーションを受けることを強く推奨する。
・全回出席を前提とする（何回まで休んでも良いかというような愚問をしないこと）。
・ケースの紹介などが多く、途中からの出席では理解できないため、遅刻をしないこと。遅刻は減点対象とし、10分以上の遅刻入室も認めない（10分後施錠します）。
・後期のICTイノベーション入門とあわせて受講することを推奨する。
・就職先としてICT業界を視野に入れておくためにも、受講を推奨する。

科目名　ITアドミニストレータ(IT Administrator)

サブタイトル

担当教員　トランスコスモス

■講義目的

今日の社会では企業での業務に限らず、日常の生活においても情報通信技術(ＩＣＴ)が欠かせないものとなっており、今後もＩＣＴの必要性はより増大していく傾向にある。この科目ではその情報通信技術を、特にコンピュータ基礎知識とネットワーク基礎知識を中心に修得する。尚、本講座を提供するトランスコスモスでは、春学期に「マーケティングのためのｗｅｂ解析技法」「ビジネスソフトウェア活用」のＩＴ講座を提供しており、これらの講座をトータルに受講することにより、ITの基礎能力を育成し、IT人材への成長を目指す構成となっている。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

(1) コンピュータの仕組みについて説明できる
(2) コンピュータの各コンポーネントについて、その役割を説明できる
(3) ネットワークの通信の仕組みについて説明できる

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>ＩＴとコンピュータ
概要：コンピュータの世界はデジタルであることを学ぶ
事前学習しておくべき用語[2進数、基数変換、ビット、バイト]
詳細：デジタル表現を理解するために2進数について学習し、さらに通常の表現として使用される10進数との相互変換および2進数を簡易的に表現するために使われる16進数との変換を学習する。
<第2講>内部表現
概要：データの表現について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[1の補数、2の補数、ASCIIコード]
詳細：すべてが0と1だけで構成されるコンピュータの内部で数値データ、文字データ、音声・画像データがどのように表現されるかを学習する。
<第3講>論理演算・論理回路
概要：コンピュータの計算の仕組みを学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[論理和、論理積、真偽値表、ベン図]
詳細：コンピュータの演算装置（加算器）および記憶装置の仕組みを論理演算の考え方を元に学習する。
<第4講>コンピュータの構成
概要：コンピュータを構成する装置(コンポーネント)を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[制御装置、演算装置、記憶装置、入出力装置]
詳細：コンピュータを構成する五大要素といわれる制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置について、その働きの概要を学習する。
<第5講>コンピュータの外部周辺装置
概要：外部記憶装置やコンピュータに接続して利用する周辺装置について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[ハードディスク、インタフェース、USB]
詳細：外部記憶装置として利用されるハードディスクやCD、入出力装置であるディスプレイ装置やプリンターについて学習する。
<第6講>オペレーティングシステム
概要：コンピュータの働きを制御、管理する基本ソフトウェア（OS）について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[マルチタスク、仮想記憶、ファイルのツリー構造]
詳細：事前学習しておくべき用語やポイント[マルチタスク、仮想記憶、ツリー構造]
オペレーティングシステムの主な役割であるタスク管理、メモリー管理、ファイル管理、デバイス管理等の機能を学習する。
<第7講>表計算とデータベース
概要：ソウトウェアとしてよく利用される表計算ソフトとデータベースについて学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[RDB、主キー、外部キー]
詳細：ビジネス分野においてよく使われる表計算ソフトウェアについて学習し、さらに膨大な量のデータを管理し取り扱えるソフトウェアであるデータベースについてその仕組みを学習する。
<第8講>ネットワーク
概要：ローカルエリアネットワークの構築について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[LAN、パケット、トポロジ、プロトコル]
詳細：コンピュータ同士が通信を行なうネットワークの仕組みについて学習し、その形態や通信規則について知識を得る。
<第9講>ＩＰアドレス
概要：インターネットで通信相手を特定するためのＩＰアドレスについて学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[ＩＰアドレス、サブネットマスク]
詳細：インターネットで使用されているＩＰアドレスがネットワークアドレスとホストアドレスから構成されていることを学習し、通信相手を特定する仕組みを理解する。
<第10講>ネットワーク演習
概要：ＰＣのネットワーク設定について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[ローカルエリア接続のプロパティ]
ＰＣを充電して持参すること
詳細：各自のＰＣにＩＰアドレスを設定する方法を学び、ホスト間のネットワークの接続の仕組みを体験する。ネットワークの設定演習はグループワークによって行なう。
<第11講>サーバとクライアント
概要：クライアントサーバシステムについて学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[ポート番号、サーバ、クライアント、URL]
詳細：インターネットで一般的に利用されているクライアントサーバシステムについて、特にDNSサーバ、DHCPサーバ、Webサーバの仕組みについて学習する。
<第12講>ネットワークセキュリティ
概要：ネットワークセキュリティとしてファイアウォールと暗号化について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[ファイアウォール、共通鍵方式、公開鍵方式]
詳細：ファイアウォールの一例としてプロキシサーバによるネットワークセキュリティを学習し、さらに通信データを暗号化する技術として共通鍵方式と公開鍵方式を学習する。
<第13講>開発技術
概要：システム開発の流れを学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[アルゴリズム、基本設計、ウォーターフォール型]
詳細：システムの企画、要件定義、プログラム設計、開発、テスト、運用というシステム開発の概要について学習する。
<第14講>システムの評価
概要：システムの信頼性や可用性、障害対策について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[稼働率、MTBF、MTTR、RAID]
詳細：システムの評価基準となる稼働率、平均故障間隔、平均修理時間の計算方法を学習し、さらに障害対策としてバックアップ戦略やディスクに冗長性を持たせるRAIDの技術について学習する。
<第15講>企業と法務、ストラテジ
概要：ＩＣＴにおける法規則および企業の経営戦略、システム戦略について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[著作権、変動費、固定費、仕訳、アローダイアグラム]
詳細：プログラムの著作権および配布形態による権利の違いについて学習する。また企業の戦略として販売管理、財務管理、工程管理を学習する。

■教科書

『やさしいＩＴパスポート講座 2014年版』　高橋麻奈著　ソフトバンククリエイテイブ

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

評価は、出席率70％以上の者に対し、期末定期試験(100%)により行う.
注1）遅刻・早退は欠席扱いとする。電車遅延の際は遅延証明書を提出すること
注2）就職活動等による止むを得ない欠席は証明書の提出により3回まで認める

■評価基準

絶対評価
期末定期試験100点満点中40点以上を合格とする絶対評価とする
A+ ： 90点以上,A ： 80点以上,B ： 60点以上,C ： 40点以上,F ： 40点未満

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

私語、飲食、授業と関係のないＰＣ操作、携帯電話操作、帽子・サングラス着用、その他履修態度としてふさわしくない行為を禁止する。また著しく履修態度の悪い者にはその後の出席ならびに期末試験の受験資格を認めないことがある。

科目名 ITマネジメントI（IT Management I）

サブタイトル

担当教員 村上　治

■講義目的

ビジネスマンを目指す学生を対象に、経営とITの関わりについてわかりやすく解説する。 この講義を通じて、ITは経営と密接に関わっていることを理解してもらうことが狙いである。 ITマネジメントIでは「リスクマネジメント」を基本にして、ITという経営ツールをいかに管理すればよいのかをマネジメントシステム（管理のしくみ）の学習を通じて学ぶ。PDCAモデル、ライフサイクルモデル、情報セキュリティマネジメントのマネジメントシステム、事業継続のマネジメントシステム、内部統制のマネジメントシステム、ITサービスマネジメントのマネジメントシステムなどを解説。以上の学習を通して、経営においてITをどのように管理していけばよいのかを考える。

難しい話や数学的な話はしないので、楽しく学んでもらえれば幸いである。

■講義分類

ビジネスマネジメント、ビジネスICT

■到達目標

ITの様々なマネジメント手法を理解できていること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>講義の概要
概要： 講義全体を通して目的、内容を解説
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：講義の目的は、企業経営においてITをどのようにマネジメントすべきかを理解すること。講義前半では、現代のマネジメントで基本的な要素となっているリスクマネジメントについて学ぶ。後半はその応用としての様々なITマネジメントの例を学ぶ。
<第2講> リスク
概要： リスクの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[リスク、危機]
詳細：リスクの基本的な定義、リスクと類似の概念などを理解する。具体的なリスクの例からリスクの構成要素が何かを考え、リスクの理解を深める。
<第3講>リスク評価
概要： リスク評価の方法の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[発生確率、結果の重大性]
詳細：リスクを評価する方法をいくつかのバリエーションを通して理解する。実際の事例に基づきリスク評価を行ってみる。
<第4講>インパクト分析
概要： インパクト分析の方法の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[インパクト、BIA]
詳細：リスクとインパクトの違い、リスク管理と危機管理の違いを理解する。事業インパクト分析を通じて、インパクト分析の概念、方法を理解する。
<第5講>リスクマネジメント
概要： リスクマネジメントの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[リスク対応、コントロール]
詳細：リスクマネジメントのプロセスを理解する。リスクマネジメントのプロセスにしたがいリスクマネジメントを机上で行ってみる。
<第6講>マネジメントシステム
概要： マネジメントシステムの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[プロセス、システム]
詳細：マネジメントプロセスとマネジメントシステムの違いを理解する。事例をもとに簡単なマネジメントシステムを作ってみる。
<第7講>ＰＤＣＡモデル
概要：ＰＤＣＡの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[PDS、PDCA]
詳細：PDSから発展したPDCAの概念を理解する。事例をもとに簡単なPDCAを机上で行ってみる。
<第8講>インシデントコマンドシステム
概要： インシデントマネジメントの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[インシデント]
詳細：インシデントマネジメントの概念を理解する。世界で標準となっているインシデントマネジメントの考え方を学ぶ。
<第9講>情報セキュリティマネジメント
概要：情報セキュリティマネジメントの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[機密性、完全性、可用性、脅威、脆弱性]
詳細：企業における情報セキュリティマネジメントとは、どのようなものであるかを理解する。情報セキュリティマネジメントにおけるリスク評価の方法を理解する。また情報セキュリティマネジメントの体系とその中での対策の内容を学ぶ。
<第10講>事業継続マネジメント
概要：事業継続マネジメントの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[BIA、BCP]
詳細：企業の危機管理としての事業継続マネジメントとは、どのようなものであるかを理解する。事業継続マネジメントにおける、事業インパクト分析の方法を理解する。また事業継続マネジメントの導入のプロセスを学ぶ。
<第11講>内部統制
概要：内部統制の概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[SOX法、J-SOX法、RCM]
詳細：内部統制の概念を理解し、それが必要とされるに至った歴史的背景を解説する。内部統制の体系を理解し、企業は内部統制においてどのような活動をするのかを学ぶ。
<第12講>集中と分散
概要： コンピュータと通信の歴史の中での>集中と分散の変化
事前学習しておくべき用語やポイント[集中処理、分散処理、クラウドコンピューティング]
詳細：現在、クラウドコンピューティングが進展しつつあるといわれているが、ここに至るまでのコンピュータと通信の歴史を紐解いていく。
<第13講>ＩＴサービスマネジメント
概要：ＩＴサービスマネジメントの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[ITIL]
詳細：現在、ＩＴビジネスがハード・ソフトの提供から、サービスの提供に変わりつつある。サービス時代のＩＴサービスをマネジメントする方法を、ＩＴＩＬフレームワークを基本に解説する。
<第14講>グリーンＩＴ
概要：ＩＴと環境問題の関係の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[データセンター、省エネルギー]
詳細：環境に優しい産業と言われてきたＩＴ業界も、環境問題に悩んでいる。ＩＴ業界における環境問題への取り組みの状況を解説する。
<第15講>まとめ
概要： 半年間の講義全体を通して、そのポイントを確認する。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

必要に応じ講義時に指定。

■参考URL

■評価方法

授業内期末試験　55%
出席　45%

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

講義はプロジェクターを使って進める。

科目名　ITマネジメントII（IT Management II）

サブタイトル

担当教員　村上　治

■講義目的

ビジネスマンを目指す学生を対象に、経営とITの関わりについてわかりやすく解説する。

この講義を通じて、ITは経営と密接に関わっていることを理解してもらうことが狙いである。

ITマネジメントII では「ロジカルシンキング」を基本にして、戦略の策定方法の解説、eビジネスの戦略のケーススタディ、IT戦略の変遷と将来の方向性などの解説を行う。以上の学習を通して、経営においてITをどのように利用していけばよいのかを考える。

難しい話や数学的な話はしないので、楽しく学んでもらえれば幸いである。

■講義分類

ビジネスマネジメント、ビジネスICT

■到達目標

ITの様々なマネジメント手法を理解できていること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>講義の概要
概要： 講義全体を通して目的、内容を解説
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：講義の目的は、ITを利用したビジネスの現状と方向性を理解すること。講義前半では、ビジネス戦略を構築するうえで必要な要素となっているロジカルシンキングについて学ぶ。後半はその応用としての様々なITビジネス、IT戦略の現状と方向性を学ぶ。
<第2講> コミュニケーション
概要： コミュニケーションの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[コミュニケーション]
詳細：コミュニケーションの基本的な定義、経営戦略とコミュニケーションの関係を理解する。コミュニケーションの構成要素からコミュニケーションがうまくいかない時の問題点を考える。
<第3講> MECE
概要：情報の整理の仕方の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[MECE]
詳細：コミュニケーションにおいてメッセージを正しく伝えるためにはMECEの概念が大切である。MECEの概念を理解し、例題によってMECEに情報を整理する演習を行う。
<第4講> So What Why So
概要：　論理のつながりの理解
事前学習しておくべき用語やポイント[So What、Why So]
詳細：論理の飛躍を防ぐSo What /Why Soの概念を理解する。例題で論理の飛躍のチェックの方法と論理展開の方法を理解する。
<第5講>論理パターン
概要：論理構造の概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[MECE、So What /Why So]
詳細：MECE、So What /Why Soを組み合わせた論理パターンを理解する。例題によって論理の構造化の演習を行う。
<第6講>戦略策定のプロセス
概要：戦略策定のプロセスの理解
事前学習しておくべき用語やポイント[戦略、パレートの法則、ロングテール]
詳細：戦略の定義を理解する。戦略策定のプロセスを理解する。例題をもとに簡単なIT戦略を策定してみる。
<第7講>戦略分析のツール
概要：戦略分析のツールの理解
事前学習しておくべき用語やポイント[PPM、Value Chain、Advantage Matrix]
詳細：さまざまな戦略分析のツールを理解する。事例をもとに簡単な戦略分析を机上で行ってみる。
<第8講> ITの変遷
概要：ITと経営の変遷を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[レガシーシステム、クライアントサーバ、Web系技術]
詳細：ITと経営は密接に関連しあって発展、変遷してきたことを学ぶ。
<第9講> ITと経営戦略
概要：ITと経営戦略の関係を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[ERP、SCM、CRM]
詳細：経営戦略発展の歴史を理解する。その中でITと経営戦略が互いに影響し合って発展してきたことを学ぶ。
<第10講>クラウド化の波
概要： クラウドコンピューティングの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[クラウドコンピューティング、サービス化]
詳細：現在進展しているクラウドコンピューティングとは何か、またその現状と方向性を学ぶ。
<第11講>セミ・グローバリゼーション
概要：セミ・グローバリゼーションの概念の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[CAGE]
詳細：企業のグローバル化の問題点とその克服に当たっての考え方を学ぶ。
<第12講> IT業界の世代交代
概要：IT業界の世代交代とその意味を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[ITIL]
詳細：現在、IT業界の世代交代が進展しているが、その意味と向かっている先には何があるのかを学ぶ。

<第13講> ITビジネスの現状
概要：現状のITビジネス各社の状況を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[Google、Microsoft、Oracle]
詳細：ITビジネスの現状を理解し、ITビジネスはこれからどこに向かうのか、その将来像を学ぶ。
<第14講>ビッグデータ
概要：ビッグデータとは何かを学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[ビッグデータ、データマイニング]
詳細：ビッグデータとは何か。これまでのデータ分析の変遷とビッグデータの可能性を学ぶ。
<第15講>まとめ
概要： 半年間の講義全体を通して、そのポイントを確認する。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

必要に応じ講義時に指定。

■参考URL

■評価方法

授業内期末試験　55%
出席　45%

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

講義はプロジェクターを使って進める。

科目名 アジア経済論Ⅰ(Asia EconomyⅠ)

サブタイトル 企業戦略

担当教員 金　美徳

■講義目的

今や日本企業は、アジア市場に進出するか、アジアのヒト・モノ・カネ・情報を取り込まずにして、生き残れない。換言すれば「ビジネス=アジア」、「人生=アジア」の時代と言っても過言でない。

したがって本講義では、アジア経済の体系的な知識・理論やアジアの企業・産業・市場情報の収集・分析方法を学ぶ。また、「アジア」をキーワードにして、日本企業の戦略・営業・経営企画・ビジネスモデルや日本経済の課題を考える。さらに、アジア経済論Ⅰで学んだことを「いかに就活や起業に活かせるか」シュミレーションする。

本講義のキーワードは、アジア・ユーラシアダイナミズム、アジア企業、アジア戦略、アジア情報、アジア市場、アジア消費者、アジアマーケティング、中小・ベンチャー企業のアジアへの販路拡大、アジア企業やアジア観光客の日本誘致、新興国ビジネスモデル、アジアの知恵と日本の知恵の融合、地政学的知と地政学的戦略、アジアマインド、アジアセンス。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

①アジアの政治外交・経済ビジネス・文化社会に関する基礎的な知識・理論を習得する。
②アジア発の国際情報の収集力・分析力・発信力を身に付ける。
③アジアの潮流・論理・視点に基づく経営戦略力やビジネスモデル構築力の向上を図る。

■講義形態

講義のみ：学外学習なし

■講義の概要

<第1講>アジア経済論Ⅰガイダンス
事前学習しておくべき用語やポイント:アジアに関する情報を図書館・本屋や新聞・ネットで探す
<第2講>アジア・ユーラシアダイナミズムといかに向き合うか(1)
事前学習しておくべき用語やポイント: 日本の知恵とアジアの知恵について調べる。

<第3講>アジア・ユーラシアダイナミズムといかに向き合うか(2)
事前学習しておくべき用語やポイント:アジアビジネスとグローバル人材について調べる。
<第4講>アジア・ユーラシアダイナミズムといかに向き合うか(3)
事前学習しておくべき用語やポイント:アジア(中央アジア、西アジア、南アジア、東アジア、東南アジア、北アジア)とユーラシア大陸の概念について調べる。
<第5講>ビジネスに重要な平和に対する敏感さ(1)
事前学習しておくべき用語やポイント:北東アジアの概念について調べる。
<第6講>ビジネスに重要な平和に対する敏感さ(2)
事前学習しておくべき用語やポイント:北東アジアの経済と世界の経済圏について調べる。
<第7講>ビジネスに重要な平和に対する敏感さ(3)
事前学習しておくべき用語やポイント:北東アジアの情勢について調べる。
<第8講>日本企業の現状と課題(1)
事前学習しておくべき用語やポイント:日本企業の実態について調べる。
<第9講>日本企業の現状と課題(2)
事前学習しておくべき用語やポイント:日本企業の課題と解決策について調べる。
<第10講>アジア経済圏とアジア戦略(1)
事前学習しておくべき用語やポイント:アジア経済の実態について調べる。
<第11講>アジア経済圏とアジア戦略(2)
事前学習しておくべき用語やポイント:日本と韓国の経済関係について調べる。
<第12講>アジア経済圏とアジア戦略(3)
事前学習しておくべき用語やポイント:中国・ロシア、韓国・ロシア、中国・韓国の経済関係について調べる。
<第13講>アジア経済圏とアジア戦略(4)
事前学習しておくべき用語やポイント:中国・北朝鮮、ロシア・北朝鮮、韓国・北朝鮮の経済関係について調べる。
<第14講>アジア経済圏とアジア戦略(5)
事前学習しておくべき用語やポイント:希望する就職先(企業・業界)のアジア戦略や興味のあるアジアビジネスについて調べる。
<第15講>アジア戦略レポートのテーマ発表
事前学習しておくべき用語やポイント:テーマ、理由、目次を全員が発表する。

■教科書

①『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美徳、PHP新書、2012年)
②『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美徳、中経出版、2012年)
③『韓国企業だけが知っている日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美徳、中経出版、2013年)

■指定図書

①『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)
②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)
③『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)

■参考文献

随時、関連資料を配布する。

■参考URL

■評価方法

①相対評価。
②評価は、出席（35%）、毎回提出の講義メモ（35%）、最終レポート（30%）の割合で行う。

■評価基準

①出席と毎回提出する講義メモを重視（35%+35% =70%）する。
②講義メモは、最低限の記述内容が記載されていない場合は、減点する。また、採点後、講義の最終段
階で返却する。
③戦略レポート（30%）は、A4用紙3枚以上とする。尚、図表の活用や枚数が増える場合は、高く評価す
る。15回の講義終了後、指定された提出期限までに提出すること。
④質問や意見は、講義への積極的な参加・貢献として加点する。発言者は、講義終了後に発言者リスト
に学籍番号と氏名を記入すること。

■事前履修科目等

グローバルビジネス系科目を積極的に履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①携帯電話・パソコンは、使用を禁止する。
②私語、帽子着用、飲食は、禁止する。
③遅刻および途中退室は、厳禁とする。途中退室は、必ず入退室を記録（日付・時間・学籍番号・氏名）
すること。また、大幅な減点を行う。虚偽記録をした場合は、不合格扱いとする。
④就職活動による欠席は、公平性を保つため欠席扱いとする。
⑤講義メモの不正提出は、即刻、不合格とする。友人への提出依頼や欠席したにも関わらず講義終了
時に提出するなどの行為。
⑥戦略レポートの不正提出は、不合格とする。友人のレポートのコピーや他科目のレポートを提出する
行為。

科目名　アジア経済論II（Asia EconomyII）

サブタイトル

担当教員　バートル

■講義目的

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を摘出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。
本講義では、世界経済の牽引役として、また政治や外交面でも国際的プレゼンスの高まりを見せている中国を中心としながら、大中華圏（中国・台湾・香港・シンガポール）や中国の辺境経済圏を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎知識の習得と日本をめぐる世界潮流を「読む」力の養成を目指す。
具体的には最前線事例を取りあげながら産業社会が求める問題発見能力と問題解決能力及び高度なコミュニケーション能力を備えた人材育成を念頭に置いた講義を行う。受講生は、本講義を通じて習得した知識を自分の将来に向けて活用できるようにすることを求められる。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

①中国・大中華圏・中国辺境経済圏のビジネスに関する基礎的な知識の習得。
②中国・大中華圏・中国辺境経済圏の特徴と関連企業の経営戦略を分析し、日本企業の新たな経営戦略・ビジネスモデルの立案、企業間の協力の可能性について考える。

■講義形態

講義のみ：基本的に実施しない

■講義の概要

<第1講>大中華圏（1）～台湾編
概要：台湾の歴史、文化、経済状況
事前学習しておくべき用語やポイント[中華民国、台湾]
詳細：大中華圏の一角をなす台湾の一般概況に加え、中台、日台関係の現状と今後の展望について解説する。
<第2講>大中華圏（2）～香港編
概要：香港の歴史、文化、華人財閥
事前学習しておくべき用語やポイント[香港、華僑、華人財閥]
詳細：大中華圏の一角をなす香港の一般概況に加え、中国やアジア経済における香港の役割について解説する。
<第3講>大中華圏（3）～シンガポール編
概要：シンガポールの歴史、文化、経済状況
事前学習しておくべき用語やポイント[シンガポール、華僑]
詳細：大中華圏の一角をなすシンガポールの一般概況に加え、中国やアジア経済におけるシンガポールの役割について解説する。
<第4講>中国の「辺境経済圏」（1）
概要：「新シルクロード経済圏」
事前学習しておくべき用語やポイント[新疆ウイグル自治区・中央アジア]
詳細：「新シルクロード経済圏」の概要と中国の新疆ウイグル自治区のプレゼンスを解説する。
<第5講>中国の「辺境経済圏」（2）
概要：「グレーターメコン経済圏」
事前学習しておくべき用語やポイント[広西チワン族自治区・雲南省・GMS、ASEAN]
詳細：「グレーターメコン経済圏」の概要に加え、中国の雲南・広西チワン族自治区とGMS諸国との経済関係を解説する。
<第6講>中国の「辺境経済圏」（3）
概要：「北東アジア経済圏」
事前学習しておくべき用語やポイント[内モンゴル自治区・東北三省・ロシア極東地域・モンゴル国・]
詳細：「北東アジア経済圏」の概要に加え、中国の東北3省・内モンゴル自治区とロシア極東地域・モンゴル国との経済関係を解説する。
第7講>中国の「辺境経済圏」（4）
概要：「ヒマラヤ経済圏」
事前学習しておくべき用語やポイント[チベット自治区・インド・ネパール]
詳細：「ヒマラヤ経済圏」の概要に加え、中国のチベット自治区とインド・ネパールとの経済関係を解説する。
<第8講> 中国企業の経営戦略
概要： 国営企業と民営企業
事前学習しておくべき用語やポイント[国有企業・民営企業]
詳細：中国の代表的な国営企業と民営企業数社を取り上げて、それぞれの経営戦略を解説する。
<第9講>中国企業の対外投資
概要：中国企業の海外進出の目的と成果
事前学習しておくべき用語やポイント[「走出去」政策・国有企業・私営企業]
詳細：中国政府による中国企業の海外進出促進策の概要と中国企業の海外進出の目的と特徴を解説する。
<第10講>中国の対外関係（1）～米中関係
概要：米中戦略・経済対話
事前学習しておくべき用語やポイント[米中戦略・経済対話]
詳細：「米中戦略・経済対話」の概要とその成果を中心に米中両国の経済関係を解説する。
<第11講>中国の対外関係（2）～ 中露関係
概要： 中国とロシア両国の経済・外交関係
事前学習しておくべき用語やポイント[SCO]
詳細：中国とロシア両国の歴史的関係を踏まえた上で、近年における上海協力機構（SCO）を軸とした両国の政治、経済関係を解説する。
<第12講>中国の対外関係（3）中国と中東・アフリカ関係
概要：中国と中東アフリカ関係の現状
事前学習しておくべき用語やポイント[中国・アフリカ、中国・アラブフォーラム]
詳細：外交やエネルギー安全保障の観点から具体的事情や事例を挙げて、中国・中東アフリカ関係を解説する。
<第13講>中国の対外関係（4）～中国と欧州関係
概要： 中国と欧州関係の現状
事前学習しておくべき用語やポイント[EU]
詳細：中国と欧州の経済関係に関し、欧州企業の対中ビジネスと中国企業の欧州進出の現状を踏まえて解説する。
<第14講>日中経済関係の現状と課題
概要：日中経済関係の最新状況
事前学習しておくべき用語やポイント[日中経済]
詳細：最新のデータ等を用いて日中経済関係の現状と課題について解説する。
<第15講> まとめ概要：秋学期の講義内容の総まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[大中華圏・中国の辺境経済圏の最新動向・秋学期の総括]
詳細：秋学期の講義内容を簡単に振り返ったうえ、受講生全員を対象に本講義に対する感想と最終レポートのテーマについて、意見聴取すると共に、講義の改善点等について意見交換会を行う。

■教科書

特にない

■指定図書

関志雄『チャイナ・アズ・ナンバーワン』（東洋経済新聞社、2009年）
寺島実郎『世界を知る力』（PHP新書、2010年）
寺島実郎『世界を知る力～日本創生編』（PHP新書、2011年）
寺島実郎『第中華圏』（NHK出版、2012年）
真家陽一『中国経済の実像とゆくえ』（ジェトロ、2012年）
三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』（共同通信社、2012年）

■参考文献

随時紹介（資料配布）する。

■参考URL

■評価方法

評価は、出席(30%)、毎回提出の講義メモ(30%)、最終レポート(30%)、質問・意見(10%)により行う。

■評価基準

相対評価
出席と毎回提出する講義メモを重視(30%+30%=60%)する。レポート(30%)は、A4用紙3枚以内。質問意見(10%)は、講義への積極的な参加・貢献として評価し、発言回数に基づいて1%～10%の評価を加える。講義メモは、講義内容を理解し、かつ独自の問題意識を持ち、問題解決へ向けての取り組み姿勢が顕著に表れているのかを重視する。採点後、最後に返却する。
尚、評価点100%(出席30%+講義メモ30%+レポート30%+質問意見10%)のうち60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

『アジア経済論』Ⅰ
『中国経済論』
『韓国経済論』
『特別講座』など、グローバルビジネス関連科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

以下の機関の発表資料や情報を随時確認すること。
日本外務省HP：http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html
日本貿易振興機構HP：http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/
日本財務省貿易統計HP：http://www.customs.go.jp/toukei/info/
日本銀行HP：http://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/
（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構http://www.jogmec.go.jp/
（株）三井物産戦略研究所http://mitsui.mgssi.com/
東京財団http://www.tkfd.or.jp/
キャノングローバル戦略研究所http://www.canon-igs.org/

科目名　アジア・若者マーケット論

サブタイトル

担当教員　小祝　誉士夫

■講義目的

グローバルビジネスにおいて存在感を増すアジア地域。この地域の特長は人口ボリュームの多い若者たちが消費をリードし、今後も伸びゆく市場であること。その中でも注目されるASEAN（タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーを中心に扱います）の若者たちを理解し、マーケティングしていくための基本事項や最新事例を各国テーマ別（食、ファッション、暮らし、健康、美容、メディア、結婚や恋愛、日本との関係など）に講義します。各国独自のライフスタイル、国民性、宗教、コミュニティなどの理解がマーケティングの現場でどう活用されていくのかを学んでいきましょう。後半は、国別にグループを分け、学校外でのフィールドワーク（取材、調査、交流会など）を実施予定。グループ別にテーマを設けてアジアの若者マーケティングを研究していきましょう。フィールドワークを通じて、コミュニケーション力、問題解決のための方法、マーケティング調査設計などビジネス現場の実践的な知識も高めていきましょう。70ヶ国以上の海外ネットワークを持つマーケティング会社の経営者として、多数の海外案件に携わってきた私の現場経験を皆さんに共有させていただきます。また、講義では内容に合わせて適宜、現地事情に詳しい有識者、進出企業の担当者、アジアからの留学生、現地在住者なども交えていく予定です。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人力育成、グローバルビジネス

■到達目標

海外マーケティングの基礎スキルを身につけるための、
・各国最新事情の理解
・各国若者のリアルな実像を理解
・各種調査や取材など実践的手法の理解

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講>
概要：アジアの若者たちの基礎知識（ライフスタイル、宗教、民族など）
事前学習しておくべき用語やポイント[アジアの若者、ASEAN、イスラム教]
詳細：タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーのASEAN5カ国において、若者のライフスタイルの概要、宗教や民族の違いなどについて講義します。今後の講義内でのディスカッションやグループワークを行う5つのグループ分けを実施予定です。
<第2講>
概要：アジアの若者たちの食マーケティング
事前学習しておくべき用語やポイント[各国の食習慣の違い、ハラルフード]
詳細：タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーのASEAN5カ国の若者を中心に、現地の食事情、食トレンド、食品企業のマーケティングなどについて講義し、各グループでディスカッションを行います。
<第3講>
概要：アジアの若者たちの美容マーケティング
事前学習しておくべき用語やポイント[各国の美容意識の違い、メンズコスメ]
詳細：タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーのASEAN5カ国の若者を中心に、現地の美容事情、美容トレンド、化粧品メーカーのマーケティングについて講義し、各グループでディスカッションを行います。
<第4講>
概要：アジアの若者たちの健康マーケティング
事前学習しておくべき用語やポイント[各国の健康意識の違い、各国別の人気スポーツ]
詳細：タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーのASEAN5カ国の若者を中心に、現地の健康事情、健康トレンド、健康に関するマーケティングについて講義し、各グループでディスカッションを行います。
<第5講>
概要：アジアの若者たちの接触メディア
事前学習しておくべき用語やポイント[各国のメディア環境の違い、SNS、タッチポイント]
詳細：タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーのASEAN5カ国の若者を中心に、現地のメディア事情や若者が接触するメディアやSNSについて講義し、各グループでディスカッションを行います。
<第6講>
概要：アジアの若者たちのファッション
事前学習しておくべき用語やポイント[人気のローカルブランド、ショッピングサイト]
詳細：タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーのASEAN5カ国の若者を中心に、現地のファッション事情やファッショントレンド、アパレル企業のマーケティングについて講義し、各グループでディスカッションを行います。
<第7講>
概要：アジアの若者たちのショッピング事情
事前学習しておくべき用語やポイント[人気のモール、流通チャネル、コンビニ]
詳細：タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーのASEAN5カ国の若者を中心に、現地の流通事情や流通チャネル別の各国比較などについて講義し、各グループでディスカッションを行います。
<第8講>
概要：アジアの若者たちの結婚・恋愛事情
事前学習しておくべき用語やポイント[ウェディングビジネス]
詳細：タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーのASEAN5カ国の若者を中心に、現地の結婚・恋愛事情について講義し、各グループでディスカッションを行います。
<第9講>
概要：タイの若者マーケティング　まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[タイ人の美容意識、食事情の変化、訪日旅行客の増加]
詳細：タイの若者をどうマーケティングしていくか？学外での調査や交流会などのフィールドワークによって実践的知識を身につけます。適宜、タイに詳しい有識者を招いて認識を深めていきます。
<第10講>
概要：　ベトナムの若者マーケティング　まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[ベトナム人の金銭意識、ホーチミンとハノイの違い]
詳細：ベトナムの若者をどうマーケティングしていくか？学外での調査や交流会などのフィールドワークによって実践的知識を身につけます。適宜、ベトナムに詳しい有識者を招いて認識を深めていきます。
<第11講>
概要：　インドネシアの若者マーケティング　まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[インドネシア人のトレンド感度、SNS、コミュニティ意識、地方都市について　]
詳細：インドネシアの若者をどうマーケティングしていくか？学外での調査や交流会などのフィールドワークによって実践的知識を身につけます。適宜、インドネシアに詳しい有識者を招いて認識を深めていきます。
<第12講>
概要：フィリピンの若者マーケティング　まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[宗教と民族について、アメリカの影響、海外出稼ぎ比率]
詳細：フィリピンの若者をどうマーケティングしていくか？学外での調査や交流会などのフィールドワークによって実践的知識を身につけます。適宜、フィリピンに詳しい有識者を交えて認識を深めていきます。
<第13講>
概要：　ミャンマーの若者マーケティング　まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[伝統文化、日本食を中心とした外食事情、政権について]
詳細：ミャンマーの若者をどうマーケティングしていくか？学外での調査や交流会などのフィールドワークによって実践的知識を身につけます。適宜、ミャンマーに詳しい有識者を交えて認識を深めていきます。
<第14講>
概要：　フィールドワーク発表会①
事前学習しておくべき用語やポイント[日系企業が現地進出した際のマーケティング戦略をシュミレーション　]
詳細：学外で実施したフィールドワークで得られたもの、本講義を通じて学べたことなどを各グループに分かれて報告して、アジア各国の若者たちをどうマーケティングしていくか？どんな商品やサービスがあれば受け入れられるかなどをディスカッションします。
<第15講>
概要：フィールドワーク発表会②
事前学習しておくべき用語やポイント[日系企業が現地進出した際のマーケティングシュミレーション]
詳細：学外で実施したフィールドワークで得られたもの、本講義を通じて学べたことなどを各グループに分かれて報告して、アジア各国の若者たちをどうマーケティングしていく

か？どんな商品やサービスがあれば受け入れられるかなどをディスカッションします。

■教科書

■指定図書

■参考文献

■参考URL

http://lifestyle.tenace.co.jp/

■評価方法

出席　50%
グループワークやフィールドワークの課題提出や発表　50%

■評価基準

絶対評価
A+ ：合計86点以上
A ：合計76~85点
B ：合計66~75点
C ：合計56~65点
F ：合計55点以下

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　English ExpressionI（English Expression I）

サブタイトル　グローバルビジネス、地域ビジネスで志を実現するために必要な英語力養成

担当教員　中村　その子、石川　晴子、ガイ　ローズ、チェン　リサ　ウェイイン、市川　やよい、加藤　みゆき、尾崎　令子

■講義目的

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようにする。
最初は自己紹介、自由時間の過ごし方と好きなこと、自分の長所や短所、成功体験、失敗談などを語るところから始め、スモールトークや日常会話を円滑に行えるようにする。徐々に、アルバイトやボランティア活動、自分の住んでいる町の特徴などについて話す練習、ものごとの起源やプロセスを説明する練習に移り、英語力の社会的な幅を広げて行きたい。また、単なる和文英訳的な会話をすることに終わらず、なんらかの調査や研究を行って自分の考えをまとめ、それを英語で学生同士話し合ったり、プレゼンテーションとして発表する場も設ける予定である。グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を重視し、産業社会の最前線事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れる。大学の学びでは、学習したものを自分なりにまとめて、自分の将来に向けて活用できるようになることを必須である。
経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようにする。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようにする。以下がこの授業のゴールとなる。
(1)　自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、提案できる　＝　発信
(2)　相手からの発信を正確に理解し、状況に応じて的確な処理が行える　＝　受信
(3) 自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献など)を検索し、内容を読み取って利用できる＝　情報理解
(4) 社会の課題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：フィールドワークおよび、ゲスト講師との外部活動を予定

■講義の概要

<第1・2講>
自己紹介　～～～　でも普通の自己紹介では印象に残りません。アピール度を増すためのちょっとしたスパイスを加えましょう。
以下のモデル文を練習し、お互いに実際に自己紹介、他人紹介をします。
以下の英文に用いられている語を事前学習しておきましょう。
How do you do?　Nice to meet you.
My name is Taro Tama and I am from Hachioji, Tokyo.
Please call me Taro.
I am 18 years old.　There are 5 people in my family: my father, my mother,
my brother, my sister and me.　I have a pet dog whose name is Pochi.
In my free time, I enjoy listening to Japanese pops and playing football (soccer).
My favorite foods are Korean barbecue（焼肉）and Pizza.
I'm a big fan of Ronaldinho and SMAP.
My favorite school subject （科目）is history, and my least favorite is science.
In English Expression, I would like to talk with my friends and EE teachers in as much as possible and study how to make a presentation in English.
(In Tama University, I would like to study marketing and accounting（会計）and join the
soccer club.)
In the future, (After graduating from Tama University,) my goal is to set up a travel agency（旅行会社を設立する）.
I also have a dream of building the largest theme park in the world.
（世界で一番大きいテーマパークを建設する）
I look forward to studying with you at Tama University.

<第3講>
以下の教室英語表現を学び、英語で英語を学ぶ世界を体験すると同時に、下記の表現の中に用いられている表現文型を学びます。以下の英語表現を事前学習しておきましょう。
1)　Excuse me? / Pardon? / Sorry?
2)　How do you say _____ in English?
3)　How do I spell _____ ?
4)　What does _____ mean?
5)　How do you pronounce this/that?
6)　Could you repeat that please? / Could you say that again? / What did you say?
7)　I'm not sure what to do. / Could you tell me what to do?
8)　I have a question. / Could I ask a question?
9)　Could I go to the restroom?
10)　I don't understand.
11)　I don't know.
12)　Do you have a partner?
13)　Let's be partners.
14)　Could you please explain _____ ?
15)　Could you please slow down?
16)　Could you please speak up?
17)　I'm sorry I'm late.
18)　I overslept.
19)　I missed the train.
20)　The train/bus was delayed.
21)　I was sick. / I had to go to the hospital.
22)　What is the assignment/homework?
23)　When is the assignment/homework due?
<第4講>
スモールトークは、人間関係を円滑に運び、スムーズなコミュニケーションを行うための「世間話」です。世間話と言っても、してもしなくてもよいくだらないおしゃべりではなく、その人の社会での人間力を左右するものです。上手にスモールトークができることはビジネスパーソンの必須素養の一つでもあり、相手がどこの国の人であれ、お互いの理解と親密さを深め、ひいてはビジネスを成功させる重要な要素でもあるのです。
基礎的なスモールトーク表現を学び、さらに初対面の相手にいい印象を与える練習をします。
スモールトークに必要な英語表現を調べ、単語リストを作り事前学習しておくこと。
<第5講>
スモールトークの話題としては、天気、旅行、スポーツ、音楽、映画、芸術、などが無難だと言われています。これらの話題について話す練習を取り入れ、さらにスモールトーク力を磨きます。
上記の話題に頻出の単語を事前に調べ予習しておくこと。
<第6・7講>
あなたの「イケている」ところ「イケていない」ところ　＝　長所と短所を語る
自分、もしくは他の人の性格を描写する表現を学び、人間の内面、長所と短所を語る練習をします。これは将来、英語で面接を受ける時の準備でもあります。またそこから発展させて、同じく定番質問であるTell me about yourself.に対する受け答えなど、英語の面接に必要な基礎的表現を同時に学びます。
面接でよく用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。
<第8・9講>
あなたが犯人の目撃者になってしまったら、あなたが英語テレビショッピングで商品紹介をするなら、という想定で人間の外見描写、モノの形状・機能・特徴描写の表現を学びます。以下のような表現を取り上げます。上記のトピックでよく用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。
Introduce your new products
Today I take great pleasure in introducing our new electric fan called Ecofan. Let me tell you about some of the features of this new product……

　※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

<第10・11講>
自由時間の過ごし方とあなたが好きなもの、こだわっているものを語りましょう。単に語るだけでなく、自分のこだわりや、自分が好きなものの魅力を他の人にもわかりやすく語るコツと表現を学びます。インターネット上のブログやTwitter, Facebook などで自分のことについて発信することを見据えた授業活動です。上記のトピックでよく用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。
<第12講>
映画、ドラマ、アニメーション、小説、などストーリーのあるものの内容（あらすじ）を語る練習をします。これは自分は知っているけれど、他の人は知らないストーリーをわかりやすく、かつ魅力的に語る練習です。上記のトピックでよく用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。
<第13講>
ものごとの手順を英語で説明する練習をします。英語で指示を出す、指示を受ける、という状況に的確に対処できるようになるための学習項目です。PCへのソフトのインストール、ソフトの使用方法、トラブルシューティングなどが主要なものになりますが、PC関係には特にこだわらず、学生から要望を集めて授業内容を柔軟に決めて行きます。料理やお菓子の作り方、日常生活のちょっとしたアイデア技、時短テクニックなどみなさんからの提案を歓迎します。上記のトピックで用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。

<第14・15講>
総まとめのスピーチテスト、および期末試験

■教科書

TOPIC TALK ISSUES　EFL Press を予定（ただし変更があった場合は第1回目の授業で告知します。

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

出席	20%	授業内小テスト	20%
宿題	20%	中間テストおよび期末テスト	40%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、
60点~69点　C
70点~79点　B
80点~89点　A
90点~100点　A+
とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

指定されたクラスに履修登録をして出席すること。
なお、E－ラーニングオプション、およびTOEICオプションでEnglish Expression I または　II　の単位を取得しようとする学生に対しては、学期初めにT−next，および一階事務局掲示板に説明を掲示するのでそれをよく読んで指示にしたがうこと。E-ラーニングオプションとTOEICオプションは原則として再履修の学生のみを対象としている。

科目名 English ExpressionII（English Expression II）

サブタイトル

担当教員 中村　その子、石川　晴子、ガイ　ローズ、チェン　リサ　ウェイイン、市川　やよい、加藤　みゆき、尾崎　令子

■講義目的

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようにする。
最初は自己紹介、自由時間の過ごし方と好きなこと、自分の長所や短所、成功体験、失敗談などを語るところから始め、スモールトークや日常会話を円滑に行えるようにする。徐々に、アルバイトやボランティア活動、自分の住んでいる町の特徴などについて話す練習、ものごとの起源やプロセスを説明する練習に移り、
英語力の社会的な幅を広げて行きたい。また、単なる和文英訳的な会話をすることに終わらず、なんらかの調査や研究を行って自分の考えをまとめ、それを英語で学生同士話し合ったり、プレゼンテーションとして発表する場も設ける予定である。グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を重視し、産業社会の最前線事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れる。大学の学びでは、学習したものを自分なりにまとめて、自分の将来に向けて活用できるようになることを必須である。
経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようにする。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようにする。以下がこの授業のゴールとなる。
(1)　自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、提案できる　＝　発信
(2)　相手からの発信を正確に理解し、状況に応じて的確な処理が行える　＝　受信
(3) 自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献など)を検索し、内容を読み取って利用できる＝　情報理解
(4) 社会の課題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講>
今までの成功体験と恥ずかしい失敗談
自分の経験を感想を交えて生き生きと英語で語る練習をします。この練習では、英語の時制と感想・感情表現を中心に学びます。自分や経験談・エピソードを、ユーモアも交えて魅力的に語れるようにすると同時に、他の人の経験談・エピソードを聞いたときに、ふざけた意味ではなく上手に「突っ込んで」場を盛り上げるテクニックも身につけます。
<第2講>
第6講の続きとして、次は一番嬉しかったこと、腹が立ったことを語りますが、今度は個人的なことではなく、自分が客として利用した会社やお店の顧客サービスについて語ります。これにより、エピソードを語る技術に加えて、基礎的な顧客サービスに関する英語表現も習得することができます。
<第3講>
慣用句やその他の事物の起源、使用プロセス、理由を語るプチプレゼンテーション。
何らかのビジュアル（現物も含めて）を効果的に見せながら上記を人前で語る練習をします。プレゼンテーションに必要な英語表現だけなく、姿勢、アイコンタクト、声の調子、ジェスチャー、聴衆をひきつけるその他の工夫など付随した技術も学びます。
<第4・5講>
あなたの住んでいる(またはふるさとの)町について語ります。ただ単に説明するだけではなく、市民としての目線をもって、その町の歴史や風土、行政(サービス)、産業、住民の性質、その他いろいろな特徴、を語ります。ちょうどテレビの旅行紀行番組を作るような気持ちになって自分の町を語ります。次に、もし自分が町を改善、開発、PRするとしたら、またビジネスを始めるとしたらどのようにするか(ビジネスチャンスの発見)について考え小さいプレゼンテーションを行います。
(例、あなたの住んでいる町にパン屋を作るとしたらどんな店？
　住民はどんな会社がどんな商品、サービスを提供してくれることを望んでいる？住民はどんな行政サービスを望んでいる？
<第6・7講>
コカコーラVSペプシ　　明治VS森永　　カルビーVS湖池屋
　永遠のライバル対決に終止符を打つのはキミだ！　ブラインドテースティングで勝負！自分の味覚を英語で表現する練習から始め、そのあｔ、アンケート作成、実施、集計、販売計画立案など一連の販売促進活動をシミュレーションし、必要な英語表現
<第10・11講>
アイスクリーム新商品開発。
市場リサーチと分析、アンケート作成と実施、結果分析、企業見学、新製品開発、プレゼンテーション、コマーシャル（キャッチコピー）作成、販売促進戦略作成、などの一連の活動を英語で行います。
<第12講>
コンビニエンスストアにはよく行きますか？
～～～大手のコンビニエンスストアを比較して、それぞれの特徴について考えてみましょう。
　　その結果を友達と話し合い、プレゼンテーションにまとめてみましょう。誰も気づかなかったコンビニエンスストアの秘密、発見できるかもしれません。
<第13講>
最近、流行しているものについて調べ、それが流行した原因から現在の状況に至るまでのプロセスを説明しましょう。自分なりの分析や、ユニークな視点なども加えるように心がけてください。また、成功している外食産業、旅行代理店、お肉屋さん、美容院、などなど、そしてそれらのお店の独自のアイデアを調べ、その秘訣を英語で話したり、書いたりしてみましょう
<第14・15講>
総まとめのスピーチテストと期末テスト

■教科書

TOPIC TALK ISSUES　EFL Press を予定（ただし変更があった場合は第1回目の授業で告知します。

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

出席	20%	授業内小テスト	20%
宿題	20%	中間テストおよび期末テスト	40%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、
60点～69点　C
70点～79点　B
80点～89点　A
90点～100点　A+
とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

指定されたクラスに履修登録をして出席すること。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名　Englishビジネスコミュニケーション（English Business Communication）

サブタイトル

担当教員　飯田　健雄

■講義目的

英語力を単なる英会話、資格獲得や知識教養として捉えるのではなく、実際のグローバル・ビジネスで活かせる英語コミュニケーションのあり方を講義していく。

■講義分類

グローバルビジネス・国際経営

■到達目標

グローバル人材とみなされるような実践的コミュニケーション方法を獲得する。

■講義形態

講義形式で適宜、演習方式をとる。：学外学習無

■講義の概要

<第1講>ビジネス英語が必要とされる理由
詳細：日本企業は、1970年代から国際化を進め、2000年代には、多くの大企業・中堅企業で、売上高が国内より海外の比率が高まった。2010年代からは、本社ベースでの外国人正規従業員の大量採用も行われ、英語を使用する機会が倍増している。ネットのビジネスでも英語を使用する機会が飛躍的に増えている。
事前学習のポイント　日本の上場企業の国内売上高と海外売上高を時系列的に比較してみよう。
<第2講>ビジネス英語と一般英会話の違い
詳細：ビジネス英語は一般的英語会話と違って、話題の集中と仕事への責任を生ずる。ここでは、その違いについて詳述していきたい。
事前学習のポイント　一般英会話は非常に難しいです。その理由を考えてみよう。
<第3講> ビジネス英語の諸分類
詳細：ビジネス英語でも、そのカテゴリーは4つに峻別できる。ひとつひとつのカテゴリーを説明していく。
事前学習のポイント　経営学で使われる英語と通常のビジネスで使われる英語では違いがあるのか考えてみよう。
<第4講>準拠集団と異文化経営
詳細：準拠集団とは、その人が属する集団・国家をさす。準拠集団は、その人の考える思考枠といってよい。そのために、日本的に英語を解釈するので、英語圏の人々とコミュニケーションをとる時に思わぬ誤解が生じる。その誤解例と原因を述べていきたい。
事前学習のポイント　準拠集団は社会学の用語であるが、この言葉の意味を検索してみよう。
<第5講>仕事本位の英語を学ぶ
詳細：仕事本位の英語がビジネス英語である。時間が限られているビジネス・パースンがいかに効率的にビジネス英語を会得できるかについて講義していく。
事前学習のポイント　一度、就職すると、勉学する機会が難しくなると言われるが、社会人の方々に、「勉強する環境作り」がいかに難しいかを聞いてみよう。
<第6講>英語学習不安症からの脱却
詳細：ビジネス英語の学習を始めるにあたって、何から初めていいのか、戸惑う人々は多く存在する。そのような、不安やコンプレックスを取り除くテクニックについて解説していきたい。
事前学習のポイント　なぜ、語学学習が苦手な人々が多いか、自分を含んで考えてみよう。
<第7講>学習の継続性問題
詳細：「継続は力なり」という格言にも関わらず、語学学習からたやすく脱落してしまう人々は多い。どのように、英語学習に関して自分自身を動機付け、継続性を維持できるかについて焦点をあてていきたい。
事前学習のポイント　動機づけの継続性は一般的に難しいが、自分の継続しているスポーツや習い事の継続させている動機づけを考えてみよう。
<第8講> TOEICトレードマークの長所と短所
詳細：TOIECは英語検定とならんで受験する人々は多い。就職や昇進にも大きなポイントとなる。一方で、丁々発止のビジネスの中で本当にTOEICで得た知識が縦横無尽に活用できるのかについて考えていきたい。
事前学習のポイント TOIECの本を図書館でみて、自分がどれだけとれるか考えてみよう。図書館には100冊に近いTOEIC関連本が蔵書されています。
<第9講> ビジネス英語研修での問題点
詳細：ビジネス研修を企業側が行う場合の注意点を探り出していく。ネィティブ教師であれば誰でもいいのか。テキストに問題はないのか。講義内容についても批判的な考察をしていきたい
事前学習のポイント　語学の先生で、「この先生は教え方がうまい！」と感じた時、その理由を思い出してみよう。
<第10講>コーチングとビジネス英語
詳細：コミュニケーションとは、単に知識・情報のやりとりだけではない。殊に、ビジネスに関すれば、人間関係の構築もビジネス成功への大きな要素となる。コーチングを使用したビジネス表現を考えていきたい。
事前学習のポイント　図書館にコーチングの本が50冊近くあります。一度、「コーチングとは何か」を関連本を借りて下さい。
<第11講>英語プレゼンテーションの技術
詳細：プレゼンテーションとは報告会や発表会ではない。プレゼンターを通した製品の売り込みや研究成果を聴衆に納得させるテクニックである。ここでは、英語圏の人々へのプレゼンテーションの成功テクニックについて考察していきたい。
事前学習のポイント　NHKの教育テレビ番組ではプレゼンテーション番組、TEDを放映しています。一度、プレゼンテーションのプロの手法をみて下さい。
<第12講>英文Eメールについて
詳細：ネィティブとやり取りするビジネスEメールは、高校受験や大学受験での英作文とは違います。また、日本的感覚で書くと、全く相手に通じるどころか、誤解をも与えてしまいます。簡単な英文Eメールを作ってみましょう。
事前学習のポイント
<13講>会議の英語について
詳細：英語での会議の仕切り方、発言の仕方を学びましょう。日本人にとって、直截に言いづらいYes, Noの表現方法も学んでいきましょう。
事前学習のポイント　KYとは、日本語では侮蔑に近い言葉ですが、欧米圏では、どうなのでしょうか。「会議で何もいわない」ことは英語圏では美徳かどうか考えてみましょう。
<第14講>電話の英語について
詳細：簡単な英会話はできるけれど、電話は怖くて、ネィティブに掛けられないという人は多いはずです。ここでは、電話で自分の意志を最低でも伝えられる表現を学んでいきましょう。
事前学習のポイント　「〇〇さんをお願いします」この言い方を、英語を使って、電話でなんと表現するかを事前に調べておいてください。
<第15講>まとめ
詳細：英語での「ビジネス・コミュニケーションとは何か」もう一度、再考察していきます。

■教科書

適宜指定する。

■指定図書

飯田健雄『現場英語』桐原書店、2006年。

■参考文献

鈴木孝夫『日本人はなぜ英語ができないか』、岩波新書、1999年。

■参考URL

■評価方法

期末定期試験（70%）、出席(30%)

■評価基準

評価は相対評価で、A+, A, B, C, Fとなる。

■事前履修科目等

NHKのテレビ・ラジオの英語語学番組を聞く習慣をつけていこう。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。

■留意点

講義中に講義内容に疑問点があれば、積極的に、その場で質問していこう。

科 目 名　インターンシップⅠ(Internship Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　浜田　正幸

■講義目的

1.職場での実務体験を通して、しっかりとした職業観、労働観形成のきっかけとする。
2.関心のある業界・職種の実態を知り、将来の職業選択に役立たせる。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

インターン受け入れ会社の担当者から、社会人としての最低限の及第点を得られることが目標。

■講義形態

GD・GW・PR　：学外学習有
<実施期間等>
1.実施期間　3年生の8月1日から9月30日の2ヶ月間(2週間程度から企業側と個々に期間を決める)
2.派遣方法　1)実習希望学生を募り、受け入れ企業の説明会を行う。
　　2)学生から希望企業を申し出させ、大学側で面談の上、派遣。
3.賃金、交通費は企業負担の場合もある。賃金は各企業の意向で支給する場合もあるし、支給しない場合もある。
4.企業、学生との窓口　実務上の責任者は浜田としキャリア支援課が窓口となる。
5.具体的な実習内容は、各派遣先からの指示による。

■講義の概要

事前学習しておくべきポイント：ビジネスマナー、礼儀、報連相、社会人基礎力、コミュニケーション力

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

特になし。

■参考URL

■評価方法

1.企業側の提出する評価および実習者本人の提出する実習報告書の内容により100%評価。
2.企業提出の評価では、実習中の態度(遅刻・欠勤の状況、仕事の理解度、コミュニケーション能力、仕事に対する積極的な態度等)や仕事の内容で、絶対評価。

■評価基準

実習報告書では実習内容のレベル、実習に対する取組み、姿勢および報告書のまとめ方、書き方を重視する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

1.「インターンシップ説明会」に参加しなければならない。
2.春学期の「キャリア講座」すべてに出席していることが望ましい。
3.秋の履修登録の際に登録すること。
4.9月27日（土）実施予定の「インターンシップ報告会」出席しなければならない。
5.指定する日までに、「インターンシップ参加報告書」を提出しなければならない。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科 目 名　インターンシップII（Internship II）

サブタイトル

担当教員　浜田　正幸

■講義目的

1.職場での実務体験を通して、しっかりとした職業観、労働観形成のきっかけとする。
2.関心のある業界・職種の実態を知り、将来の職業選択に役立たせる。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

インターン受け入れ会社の担当者から、社会人としての最低限の及第点を得られることが目標。

■講義形態

GD・GW・PR　：学外学習有
<実施期間等>
1.実施期間　3年生の8月1日から9月30日の2ヶ月間(2週間程度から企業側と個々に期間を決める)
2.派遣方法　1)実習希望学生を募り、受け入れ企業の説明会を行う。
　　2)学生から希望企業を申し出させ、大学側で面談の上、派遣。
3.賃金、交通費は企業負担の場合もある。賃金は各企業の意向で支給する場合もあるし、支給しない場合もある。
4.企業、学生との窓口　実務上の責任者は浜田としキャリア支援課が窓口となる。
5.具体的な実習内容は、各派遣先からの指示による。

■講義の概要

事前学習しておくべきポイント：ビジネスマナー、礼儀、報連相、社会人基礎力、コミュニケーション力

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

特になし。

■参考URL

■評価方法

1.企業側の提出する評価および実習者本人の提出する実習報告書の内容により100%評価。
2.企業提出の評価では、実習中の態度(遅刻・欠勤の状況、仕事の理解度、コミュニケーション能力、仕事に対する積極的な態度等)や仕事の内容で、絶対評価。

■評価基準

実習報告書では実習内容のレベル、実習に対する取組み、姿勢および報告書のまとめ方、書き方を重視する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

1.「インターンシップ説明会」に参加しなければならない。
2.春学期の「キャリア講座」すべてに出席していることが望ましい。
3.秋の履修登録の際に登録すること。
4.9月27日（土）実施予定の「インターンシップ報告会」出席しなければならない。
5.指定する日までに、「インターンシップ参加報告書」を提出しなければならない。

科目名　Webサービス開発（Web Service Building）

サブタイトル

担当教員　彩藤　ひろみ

■講義目的

Webデザインを習得した後、Webプログラミングの前段になる科目として、Webサービス開発を学んでもらう。世の中に散らばる様々なデータを自動で（プログラミングで）集めてきて、使いやすい形にまとめる。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成

■到達目標

XML形式のデータ構造が理解できること
応用Webプログラミングが出来るようになること
クラウドコンピュータの概念を理解し、自由に使えるような自信をつけること。
Webサービス開発の新しい提案ができること。

■講義形態

講義 + PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
講義の流れの説明
XMLについて説明
　アマゾン{http://amazon.com}利用の練習
〈予習、復習のポイント〉
　WEBサービス開発という言葉を検索してみる
<第2講>
XMLについての理解
XML(eXtended Markup Language) の考え方と利点について
〈予習、復習のポイント〉
　アマゾンのWebサービスの仕組みについて事前調査。
<第3講>
サービスの提供
　アマゾンのWebサービスを利用して、自分で新しいWebページを組み立てるにはどうしたらいいか。
〈予習、復習のポイント〉
　実際にWebサービス開発する場合、何をセレクトするか、いくつか実験をおこなう
<第4講>
　世の中（インターネット上）に散らばっているデータをいかに集めて整形して提示するか
〈予習、復習のポイント〉
　インターネット上に散らばっていると思われるデータを調査する
<第5講>
　デザイン実践。j Quwryの利用。
〈予習、復習のポイント〉
　Webデザインの復習と自分が作成したいページイメージのデッサン
<第6講>
　大量データを扱う企業を調査
<第7講>
Google研究
〈予習、復習のポイント〉
　Googleについて調査。
<第8講>
Google提供のWebサービス開発について
〈予習、復習のポイント〉
　Googleサイトの調査。
<第9講>
プログラミングの基本と実際（j Queryパッケージを中心としたjavascriptを利用）
〈予習、復習のポイント〉
　Webプログラミングの復習
<第10講>
　クラウドコンピュータについて
〈予習、復習のポイント〉
　クラウドコンピュータについて調査
<第11講>
　実践プログラミング（j Queryパッケージを中心としたjavascriptを利用）
〈予習、復習のポイント〉
　いろいろなWebサービスについて調査
<第12講>
プログラミング応用と実際
〈予習、復習のポイント〉
　最終課題準備
<第12講>
Webサービス提案
フローチャートの作成
〈予習、復習のポイント〉
　最終課題準備
<第13講>
仮発表
〈予習、復習のポイント〉
　最終課題準備
<第14講>
仮発表
　最終課題準備
<第15講>
プレゼンテーション。授業内試験
〈予習、復習のポイント〉
　プレゼンテーションの準備。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

授業内で必要に応じて指示する。

■参考URL

http://pub.edu.tama.ac.jp/hiro/

■評価方法

出席（10%）、授業内レポート（30%）、作品（20%）、試験（40%）

■評価基準

相対評価
　A+ ：基準A+先進的なWebサービス開発の提案　（合格者の5%以内）
　A ：基準B+新しい考え方への挑戦　（合格者の30%以内）
　B ：基準C+Webサービスの新しい提案
　C ：Webサービス開発の基本の理解
　F ：

■事前履修科目等

WebデザインⅠまたはWebデザインⅡ。
絶対ではないが、事前履修が強く推奨される。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

原則として、3年次からの履修を想定している。
　2年次生で履修希望する者は、事前にレポート提出による理解度試験（Webデザイン、Webプログラミング）に合格する必要があるので、相談にくること。

科目名 Webデザイン I（Web Design I）

サブタイトル

担当教員 齋藤　S. 裕美

■講義目的

Webデザインでは、HTMLおよびCSSを用いて中級レベルのWebサイトを自分の手でつくりあげることを最終目標とする。演習を通じて、Webページを記述するためのマークアップ言語のひとつであるHTMLとCSSの記述方法、それぞれの特徴と使い方を習得し、あわせてWebページのデザインに関する基礎的な知識およびWebサイトの管理運営に関して必要な知識を身につける。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

HTML5とCSSを用いたWebサイト構築技術の習得およびWebページのデザインに関する基礎的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　HTMLの構造
・HTMLの構造（ヘッダ部、ボディ部、フッタ部）
・HTMLの書法（HTMLタグの記述）
<予習・復習のポイント>
課題を作成し、HTMLの基本構造、HTMLタグの使い方を理解する。
<第2講>　Webページのレイアウトと構成要素
・ブラウザに対するレイアウト／ページのレイアウト／グループのレイアウト
・トップページのレウアウトと構成要素／各構成要素の意義と内容
・代表的なレイアウトとWebサイトの事例
・HTMLとCSSの関係／CSSの書法
<予習・復習のポイント>
課題を作成し、CSSの働き、CSSの記述方法、HTMLとCSSの関係を理解する。
<第3講>　トップページの作成
・CSSを用いた2ペインレイアウトの作成
・CSSを用いたボックスモデルの記述方法
<予習・復習のポイント>
課題を作成し、各ボックス内の表示を変化させ、ボックスモデルを理解する。
<第4講>　色彩設計
・色や配色による印象の相違とWebサイトの事例
・色の三要素（色相・彩度・明度）
・Webセーフカラー
・CSSによる背景色・文字色などの指定とカラーコード
<予習・復習のポイント>
課題を作成し、CSSによる色の指定方法、色の特徴や働きを理解する。
<第5講>　フォントの特徴
・文字の可読性と可視性（セリフ・サンセリフ、明朝体・ゴシック体）
・プロポーショナルフォントと等幅フォント
・文字組み（行間・行送り・字間）
・ジャンプ率
・CSSによるフォントの指定
<予習・復習のポイント>
課題を作成し、CSSによるフォントの指定、フォントやポイント数による印象の違いなどを理解する。
<第6講>　画像の取扱い
・画像の種類（ラスタ画像・ベクタ画像）
・画像ファイルの形式（JPEG・GIF・PNG・WMF・ESPなど）
・図版率と版面率
・HTMLによる画像の挿入
・CSSによる背景画像の指定
<予習・復習のポイント>
課題を作成し、HTMLによる画像の挿入方法、CSSによる背景画像の指定方法、ファイル形式による情報量や表示の違い、画像の大きさによる印象の違いなどを理解する。
<第7講>　写真の取扱い
・構図の種類（横構図・縦構図、三分割構図・日の丸構図）
・トリミングと輪郭の処理，・写真の役割，・視覚度
<予習・復習のポイント>
各自の課題で使用する写真を撮影し、構図の大切さや視覚度などについて理解する。
<第8講>　テーブルの取り扱い
・グリッドレイアウトとグリッド拘束率
・HTMLによるテーブル作成
・CSSによる線の表示
・アクセシビリティの観点からのテーブルを扱う際の注意点
<予習・復習のポイント>
課題を作成し、HTMLを用いたテーブル作成の方法、グリッドレイアウトの効果などを理解する。
<第9講>　Webのアクセシビリティ
・アクセシビリティとユーザビリティ、ユニバーサルデザイン
・JIS X8341-3
・CSSの意義
・読み上げブラウザやオートスキャンのソフトや専用機器の紹介
・アクセシブルなWebサイトにするための工夫
<予習・復習のポイント>
課題を作成し、色や画像、フォントなどによって使いやすさ・使いにくさが左右されることを理解する。
<第10講>　ファイルのアップロードと著作権
・アップロードの方法
・リンクとファイルの絶対参照・相対参照
・著作権（送信可能化・自動公衆送信権）
・フリーウェアとシェアウェア
<予習・復習のポイント>
課題を作成し、リンクの記述、ファイルの参照方法を理解する。
<第11講～第15講>課題制作

■教科書

猿橋大　『詳解 HTMLタグ辞典』　秀和システム

■指定図書

猿橋大　『詳細 CSSスタイルシート辞典』　秀和システム
エビスコム　『HTML/XHTML&スタイルシートレッスンブック』　ソシム

■参考文献

特になし。

■参考URL

■評価方法

課題作品40%、期末試験45%、出席状況15%を基本とし、授業への参加態度などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

絶対評価
作品は、次の3点を中心に評価する。
(1)技術の基本を理解しているか。
(2)デザイン的に見所のある作品か(内容の深さ・表現の美しさ)。
(3)著作権に配慮しているか。
また、期末試験は、次の2点を中心に評価する。
(1)Webデザインに関わる基礎知識を正しく理解しているか。
(2)HTML、CSSについて基本的な使い方を理解しているか。
A+ ：上記評価方法で評価点95点以上
A ：上記評価方法で評価点80点以上95点未満
B ：上記評価方法で評価点70点以上80点未満
C ：上記評価方法で評価点60点以上70点未満
F ：上記評価方法で評価点60点未満

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。
但し、最終課題を提出していない履修生，期末試験を受験していない履修生，出席回数が2分の1以下の履修生に対しては実施しない。

■留意点

積み重ねが大切な授業であるから、途中で欠席しないこと。

科目名　WebデザインII（Web Design II）

サブタイトル

担当教員　彩藤　ひろみ

■講義目的

html,CSSといったWebデザインの基本を1で学んだ後、クライアントサイドのWebプログラミングである、JavaScriptとそのライブラリであるjQueryについて基礎的なことを学ぶ。応用としては、次の学期に用意されているWebサービス開発やWebプログラミングで学ぶことを推奨する。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

Webとプログラミング言語（JavaScript)との関係について学ぶ。自由にホームページを作成できるような技術力を身につける。サーバーとの関係についても理解を深め、セキュリティについても関心を持つようにする。

■講義形態

講義 + PR　：学外学習なし

■講義の概要

<第1講>
Webデザイン1の復習　htmlとcss
事前に学習しておくべきポイント：WEBデザイン1の復習
<第2講>
htmlとcss
事前に学習しておくべきポイント：第1講の復習
<第3講>
Javascriptとホームページ
事前に学習しておくべきポイント：実際に世の中に出ているホームページをいくつか見ておくこと
<第4講>
JavascriptのライブラリjQueryを使う
事前に学習しておくべきポイント：ｊQueryとは何か、早く理解するために、jQueryの解説サイトを探してまとめてみる
<第5講>
jQueryとセレクタの関係　jQueryの書き方
事前に学習しておくべきポイント：第4講の復習
<第6講>
jQueryのセレクタとメソッドの関係
事前に学習しておくべきポイント：第4講、第5講の復習
<第7講>
クリックイベントの操作
事前に学習しておくべきポイント：アンケートサイトなどのサイトをいくつか見て仕組みを考える
<第8講>
マウスオーバーによる操作
事前に学習しておくべきポイント：第7講の復習
<第9講>
フォーム要素の理解
事前に学習しておくべきポイント：Googleサイトを使ってみる
<第10講>
要素の表示・非表示　ダイナミック処理
事前に学習しておくべきポイント：第4講からの復習
<第11講>
要素の作成や追加
事前に学習しておくべきポイント：第4講からの復習
<第12講>
文字列操作
事前に学習しておくべきポイント：第4講からの復習
<第13講>
jQueryをとりいれたホームページ作成
事前に学習しておくべきポイント：jQueryプラグインサイトの調査
<第14講>
デザインについて
事前に学習しておくべきポイント：課題作品のための準備
<第15講>
作品講評
事前に学習しておくべきポイント：レポートなど提出物の最終確認と作品完成

■教科書

必要に応じて指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

必要に応じて指示する。

■参考URL

■評価方法

理解度を測るため、授業内または試験期間中試験を実施。
試験50%、出席30%、提出物20%

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

マルチメディア実践、Webデザイン1の履修が望ましい（条件ではないが、強く推奨する）。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

パソコンを初回から持ってくること。電源も一緒にもってくること。

科 目 名　Webプログラミング（Web Programming）

サブタイトル

担当教員　中村　紳吾

■講義目的

この講義では、実践を通じて、Webプログラミング環境構築、HTMLの基礎、CSSの基礎、PHPプログラミングの基礎、を習得し、Webプログラミングの全体像を理解することにより、今後のさまざまなシーンでより高度にWebを活用し、問題解決に資する能力を高めることを目的としている。
授業では、受講生がノートPCを持参し、Webサーバ上の受講生用フォルダにHTMLファイルやPHPプログラムをアップロードして動作を確認しながら進める。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

（1）Webプログラミング環境を構築できる
（2）HTMLを使ったWebページを作成できる
（3）HTMLにCSSを組み込んでWebページを作成できる
（4）PHPプログラムを作成できる
（5）PHPプログラムによりHTMLのフォームを作成し処理できる

■講義形態

講義のみ
その他(PCを使用した実習)：学外学習無

■講義の概要

<第1講> Webの基礎と環境構築
概要：講義の目標、進め方および評価基準の説明、Webの基礎の習得、講義用Webサイトの使い方の説明
事前学習しておくべき用語やポイント[Webサーバ]
詳細：講義の目標、進め方および評価基準を説明する。また、Webの基礎を学習し、講義で使用するWebサイトの使い方も紹介する。
<第2-3講> HTMLの基礎
概要：HTMLの基礎の習得およびHTMLを使ったWebページの作成
事前学習しておくべき用語やポイント[HTML]
詳細：HTMLの基礎を学習し、Webサーバ上にHTMLページを作成して表示する。簡単な自己紹介ページを作成して表示されることを確認する。
<第4-5講> CSSの基礎
概要：CSSの基礎の習得およびCSSを使ったWebページの作成
事前学習しておくべき用語やポイント[CSS]
詳細：CSSの基礎を学習し、Webサーバ上にCSSを組み込んだHTMLページを作成して表示する。第2講で作成したHTMLページにCSSを組み込んで表示されることを確認する。
<第6-7講> PHPの基礎(1)
概要：PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成
事前学習しておくべき用語やポイント[PHP、プログラミング]
詳細：PHPの基礎を学習し、PHPプログラムを作成して実行する。PHPのプログラム作成方法、画面表示、変数、演算、配列などを習得する。
<第8-9講> PHPの基礎(2)
概要：PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成
事前学習しておくべき用語やポイント[PHP、プログラミング]
詳細：PHPの基礎を学習し、PHPプログラムを作成して実行する。条件分岐、繰り返しなどを習得する。
<第10-11講> PHPの基礎(3)
概要：PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成
事前学習しておくべき用語やポイント[PHP、プログラミング]
詳細：PHPの基礎を学習し、PHPプログラムを作成して実行する。関数などを習得する。
<第12-13講> HTMLフォームおよび入力されたデータを処理するPHPプログラムの作成
概要：HTMLフォームおよび入力されたデータを処理するPHPプログラムの作成
事前学習しておくべき用語やポイント[フォーム]
詳細：HTMLによるフォームおよびフォームから送信されたデータを処理するPHPプログラムを作成して実行する方法を習得する。
<第14講> 復習
概要：これまでに学習した内容の復習と応用
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：これまでに学習した内容を復習し、応用する。
<第15講> 試験
概要：試験
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでの授業内容を復習しておく]
詳細：

■教科書

なし（講義用Webシステム上で授業のための資料を提供する予定）

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

講義内で複数回出題される課題提出(60%)、試験(40%)
試験は講義の最終回に実施する予定

■評価基準

相対評価
(1)Webプログラミングのための環境構築ができるか
(2)基本的なHTMLページを作成できるか
(3)基本的なCSSを使ってHTMLページを作成できるか
(4)基本的なPHPプログラムを作成できるか
(5)基本的なフォームデータ処理ができるか

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

日常的にWebを使用し、Webプログラミングに興味をもっていることを期待したい。
前提知識として、①Webの使い方、②基礎的なプログラミングの知識・能力、を知っていることとする。
扱う内容が多岐にわたり（HTML、CSS、PHPなど）、それらの知識を積み上げていく必要があるため、理解が難しいと感じた場合は自らWebや参考書籍などで調べてフォローする姿勢を期待したい。
講義への出席は評価には影響しないが、課題や試験に関連する内容は講義用Webシステムで紹介するので、出席できなかった場合は講義ページを使用して大学あるいは自宅で学習することを期待したい。
課題提出が評価に大きく影響し、最終試験のみでは及第は難しい可能性があるので注意されたい。

科目名 AP数学（Advanced Practical Mathematics）

サブタイトル

担当教員 大森　拓哉

■講義目的

経営情報学部においては、複合領域での知識や技術の修得が必要となる。このような複合領域を対象とする分野で必要になるデータを扱う数学的手法の基礎について、演習と講義により身につけることが本講義の目的である。

この講義はビジネス数学基礎の内容を完全理解したものにのみ単位履修が認められる。本講義では、問題解決方法の理解とそれを応用した問題解決演習を行い、産業社会において必要な数理技能の基礎を完全習得する。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、ビジネスICT、地域ビジネス

■到達目標

経営情報学部で学ぶ上での最低限の数学の能力が身についているか。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
学外学習：なし

■講義の概要

<第1講> <第2講>
概要： 1次・2次方程式
事前学習しておくべき用語やポイント[方程式]
詳細：1次・2次方程式が完全に解けるかどうか。
<第3講> <第4講>
概要：連立方程式・その他の方程式
事前学習しておくべき用語やポイント[連立方程式]
詳細：連立方程式が完全に解けるかどうか。

<第5講><第6講>
概要：不等式
事前学習しておくべき用語やポイント[不等式]
詳細：不等式が完全に解けるかどうか。

<第7講><第8講>
概要：関数とグラフ
事前学習しておくべき用語やポイント[関数]
詳細：関数による表現の理解とグラフの描画ができるかどうか。

<第9講><第10講>
概要：図形
事前学習しておくべき用語やポイント[図形]
詳細：図形における計算ができるかどうか。
<第11講><第12講>
概要：論理問題
事前学習しておくべき用語やポイント[論理問題]
詳細：論理問題の理解・解答ができるかどうか。

<第13講><第14講>
概要：確率
事前学習しておくべき用語やポイント[確率]
詳細：確率問題の計算・解答ができるかどうか。

<第15講>
概要：まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：これまでの講義内容についてのテストを行う。不合格であった場合は、後半の授業に出席し、学期末の認定テストを受験しなければならいない。

■教科書

講義においてプリントを配布する。

■指定図書

中学・高校の数学の教科書

『社会科学系の数学入門』若尾良男、水谷昌義共著　ムイスリ出版
『高校数学がまるごとわかる』　間地秀三著　ベレ出版
『文系数学超入門』　大川隆夫他著　学術図書出版社
『経済学と数学がイッキにわかる』　石川秀樹著　学習研究社
『計算力が身に付く数学基礎』　佐野公朗著　学術図書出版社
『まんがDE入門経済数学』　西村和雄著　日本評論社

■参考文献

■参考URL

■評価方法

成績評価は、80%以上の出席を単位取得の条件とし、その上で試験（90%）、平常点（10%）により評価する。

注)遅刻・早退は欠席扱いとする。電車の遅延や病欠などの際には、遅延証明書・診断書を提出すること。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修はビジネス数学基礎内において許可された者のみ可能である。
授業中の私語、飲食、携帯電話操作、ノートPC操作、帽子・サングラス着用等禁止する。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科 目 名　SNS社会論(SNS Synousiacs)

サブタイトル　発信力をつけ、プロジェクトをつくる

担当教員　安藤　美冬

■講義目的

「発信力のある個人になる」「プロジェクトを立ち上げ、実行する」。この2点が本講座の目指すところです。世界11億人をつなげる「フェイスブック」を筆頭に、近年はSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）によって"手のひら（ケータイ）から世界とつながる"ことが可能になりました。本講座は「社会論」と名付けてありますが、机上の講義が主体ではありません。SNSが社会と人間の暮らしをどう変えていくのか、大まかに学びつつ、大半の時間を「実践」に充てていきます。SNS活用法、自分の強みを明確にするプロフィール作成の他、発信についてのメリットやデメリットについてもグループディスカッションで議論をしていきます。さらに、与えられたテーマに沿ってチーム制でプロジェクトを実際に立ち上げ、SNSを駆使しながら実行する様子を、中間発表や最終プレゼンテーションにて披露してもらいます。新しい一歩を踏み出す気概ある学生をお待ちしています。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人力育成、地域ビジネス

■到達目標

・SNS（ツイッター、フェイスブック、ブログなど）の基本を学び、ひと通り使いこなす
・自分の強みを明確にして、プロフィールをつくる
・発信力をつける
・コミュニティをつくる
・SNSを活用してプロジェクトを立ち上げ、実行する

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： SNSと社会
事前学習しておくべき用語やポイント[SNS　150人理論　社会関係資本]
詳細：第一回目の講義として、秋学期で学ぶことを概論として説明します。日本を取り巻く社会状況から、新しい資産と位置づけられる社会関係資本としてのつながりなど、様々な事象について取り上げていきます。後半は個人ワークとグループワークの時間を設けて、この講座で学びたいことを明確にしていきます。
<第2講>
概要： 個人として発信力をつける
事前学習しておくべき用語やポイント[ストロングタイ　ウィークタイ]
詳細：各SNSの特性を知り、どう使いこなすかを知るだけでなく、ソーシャルメディアを使うことによるメリット・デメリットや、必要なマインドなど広範に学んでいきます。本講座の目指す目標である、「発信力のある個人になる」「プロジェクトを立ち上げ、実行する」意義と、この2つを叶えることによって自分を取り巻く世界がどう変わっていくのかを、実践している個人（や企業）の事例を取り上げながら説明していきます。後半は、グループディスカッションを行いながら、各自の意見を交換し合う機会も設けます。
<第3講>
概要： ゲスト講義（前編）：「私のSNS発信活用法」
事前学習しておくべき用語やポイント[メディアリテラシー　]
詳細：実際にtwitterやブログなどを使って個人で発信している人たち2名（予定）に登壇してもらい、自分の取り組みがいかに多くの人たちに知ってもらえるようになったのかを説明してもらいます。後半は質疑応答の時間を設けて、疑問などをクリアにする機会を取ります。
<第4講>
概要： 自分自身を振り返る
事前学習しておくべき用語やポイント[ポートフォリオ　]
詳細：これまで2回の講義を受けて、本講座の骨子である「個人の発信力」と「プロジェクト」についてひとりひとりが考える時間を設けます。改めて自分自身がどう周囲や社会とつながっているかを振り返り、自分の発信力への課題、今後どのようなプロジェクトで社会に対して発信をしていきたいかについて向き合ってもらいます。簡単な個人ワークのあとで各自で現状振り返りを発表してもらい、どのようなことに興味を持ち、何に取り組んでいきたいのかを表明してもらいます。
<第5講>
概要： ゲスト講義　浅野ヨシオ先生「自分の強みを発見する」
事前学習しておくべき用語やポイント[強み、キャラクターを知る　市場移転]
詳細：今回はゲスト講師を招聘し、「自分の強みを発見する」というテーマで60分の講義を行います。元々は家業を継いだ一介のサラリーマンだった浅野先生は、40歳を過ぎて自分の強みを発見し、初めての著書が5万部を超えるベストセラーとなり、現在は本業の傍ら、私塾を経営しながら「女性支援」を行っています。彼の成功のキーワードは、「発信力」そして「強みのキーワード化」です。後半は質疑応答の時間を設けて、様々な疑問にお答えいただく予定です。
<第6講>
概要： プロフィールを作成する
事前学習しておくべき用語やポイント[4つのキーワード　ブルー・オーシャン戦略]
詳細：実際に、ツイッターが設けている160文字のプロフィール欄をベースに、プロフィールを作成します。プロフィールとは、SNS発信時代における「自分の看板」です。160文字という限られた制限の中に、自分のオリジナリティを打ち出すための「キーワード」を入れ込み、自身のキャラクターや強み、取り組みを魅力的に発信するための土台を作ります。講義中に学んだことを元に、次週までにプロフィールを提出していただきます。
<第7講>
概要： プロジェクトを立ち上げる
事前学習しておくべき用語やポイント[コミュニティ　サードプレイス　]
詳細：「コミュニティづくり」「地域活性」「ビジネス」「問題解決」のカテゴリの中から1つ選び、3名から5名のチームを編成します。チームメンバーで1つの具体的なプロジェクトを議論して決定し、講義の最後で発表をしてもらいます。なお、プロジェクトは今回の講座から正式に発足するものとし、取り組みを「中間発表」「最終プレゼンテーション」にて報告してもらいます。
<第8講>
概要： ゲスト講義（後編）：「プロジェクトを立ち上げるということ」
事前学習しておくべき用語やポイント[クラウドファンディング]
詳細：実際にプロジェクトを発足して活動している人たち2名（予定）に登壇してもらい、プロジェクトをはじめたきっかけ、着眼点のポイント、人を巻き込む秘訣、持続するために気をつけていることなど様々なことについて説明してもらいます。また、SNSを有効に活用することで多くの共感を呼び、プロジェクトを成功させている個人（や企業）、ネット上でプロジェクトを表明して、ユーザーから広くお金を集める「クラウドファンディングサービス」まで様々な事例について紹介します。
<第9講>
概要： ネットワーク理論について
事前学習しておくべき用語やポイント[セーフティーネット　スモールワールド実験]
詳細：教科書に指定している『人はなぜつながっているのか』を土台にしながら、SNSを中心に人がつながっていくことで起きる事象のメカニズムについて読み解いていきます。また、これまで様々な講義や実践を通して、改めてSNSと社会にまつわる疑問点を洗い出し、ワークやディスカッションを行いながら明らかにしていきます。
<第10講>
概要：個人発信のメリット・デメリット
事前学習しておくべき用語やポイント[自分ポータルサイト化　炎上]
詳細：これまで、「発信力のある個人」になるための活用法や実際につかいこなす人たちの講義などを通じてお話をしてきましたが、改めてリテラシーの問題について取り上げたいと思います。ネット上を日々賑わす「炎上」の事例やリテラシーの低下が招いた様々な事象を取り上げながら、ネットとうまくつきあうために押さえておきたいポイントについて講義をします。後半はグループワーク（またはグループディスカッション）形式を取り、自分や周囲に起きた事例などを踏まえて意見を交換し合います。
<第11講>
概要： ゲスト講師：「大学生ならではのSNS活用法」
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：今回は（他校の）大学生にゲストとして登壇していただきます。大学生ならではのSNS活用法から、社会人を巻き込んでプロジェクトを行う秘訣、就職活動やロールモデル探しにも使えるポイントまで、ざっくばらんにお話をしていただきます。後半は懇親会形式でざっくばらんな雰囲気の中で、ゲスト講師を囲みながら質疑応答にうつります。
<第12講>
概要： プロジェクト中間発表&講評
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと]
詳細：第6講で発足したプロジェクトについて、1チーム5分～10分程度で中間発表を行ってもらいます。また、講師より各チームに講評として、今後の進め方のポイントや修正点などをアドバイスいたします。
<第13講>
概要：「自分の名前で発信するということ」
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと]
詳細：最終プレゼンテーションまで講義はあと3回となりました。残り2回の講義につい

ては、プレゼンテーションに向けての準備となるため、実質今回が最後の授業となります。最終回では、「自分の名前で発信するということ」をテーマに、個人として発信していくうえで忘れてはならない「マインド」についてお話をします。多くの人を巻き込み、自分のプロジェクトを世の中に定着させていくためには、継続的に発信をし、自分の発言に責任と覚悟を持つことで、社会にコミットしてくことが必要となります。くじけず、新しい一歩を踏み出し続けていくために、モチベーションやマインドセットについて学んでまいります。
<第14講>
概要： プレゼンテーション準備&質疑応答
事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細：次週の最終プレゼンテーションに向けて、各チームに分かれて準備を行います。講師が各チームの進捗状況をチェックし、ポイントに沿ってアドバイスを行う他、これまで13回の講義を振り返って、個別の質問にも答えていきます。
<第15講>
概要： 最終プレゼンテーション&講評
事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細：これまで学んできたことをもとに、チーム（3名~5名1組）を組んで最終プレゼンテーションを行います。各チームのプレゼンテーション終了後は、講師より個別に講評をし、プロジェクトを継続させていくためのポイントについて解説をします。

■教科書

『冒険に出よう』安藤美冬（ディスカヴァー・トゥエンティワン）
『私たちはどうつながっているのか―ネットワークの科学を応用する』増田直紀（中公新書）

■指定図書

■参考文献

■参考URL

http://p.tl/m16b

■評価方法

評価は、講義中の演習・最終プレゼンテーション（50%）、出席（30%）、レポート（20%）により行います。

■評価基準

相対評価
　講義中の演習・最終プレゼンテーションは、次の3点を中心に評価します。
①グループ内で主体的に動き、役割を果たしているか
②積極的な発言を行っているか
③発表方法に工夫が凝らされているか
　レポートは、次の2点を中心に評価します。
①自分の体験や実践をベースに語られているか
②自分の頭で考え、かつ独自性を伴っているか

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座を受講される学生は、SNSを実際に使っている者に限ります（対象：ツイッター、フェイスブック、ブログ）。まだアカウントを保持していない学生は、第1講が始まる前に必ずいずれかを取得しておいてください。

科目名　海外活動英語コミュニケーションⅠ(English communication Ⅰ)

サブタイトル　若者よ、海外に出よう

担当教員　安藤　美冬

■講義目的

「日本の若者が海外に行かなくなった」と言われて久しい日本ではありますが、確かにデータを見てみると、欧米をはじめとした大学進学率やMBAを目指す日本人の数は減少しています。しかしながら一方で、シンガポールやインドネシアなどアジアで就職や起業をする者、フィリピンなど物価の安い地域で語学留学をすることがブームになるなど、まだまだ海外を目指す若者の姿が目立ちます。そもそも、「行きたい場所」「何かしたいこと」がなければ海外に行くモチベーションも上がりません。「この場所に行きたい！」「こんなことをやってみたい！」という強烈な欲求こそが、島国日本を飛び出し、海外を目指す原動力になるのだと思います。春学期は（英語から少し離れて）旅行、プチ留学、就職など様々な海外活動事例を挙げ、秋学期の「海外活動英語コミュニケーションⅡ」では具体的に必要な英語を実践的に学んで行く予定です。本講座の最後は、個別にプレゼンテーションを行ってもらいます。自分がどの海外で何を行いたいのか、「プランニング」を行い、発表してもらう予定です。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

・旅行、プチ留学、海外就職など、海外と日本をつなぐ手段を理解すること

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： 海外活動英語コミュニケーション概論
詳細： 講義第一回目として、それぞれの自己紹介にはじまり、現在の海外での取り組みやモチベーションなどを発表。この講座で学びたいことをシェアしていきます。
<第2講>
概要： 海外での活動事例①旅行
事前学習しておくべき用語やポイント[LCC]
詳細： まずは最も手軽で簡単な事例として、海外旅行について取り上げていきます。ツアーや個人旅行など多様なやり方がありますが、これまで（講義者本人が）体験してきた旅のエピソードを振り返りつつ、同時に行き先を決め、お金を貯め、当日まで計画を練り、旅行中にも異文化に触れるなど「スキルアップ」が可能という観点からも海外旅行を論じていきます。
<第3講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[パックツアー　個人旅行]
詳細： 現役の大学生に登壇してもらい、夏休みや春休みを使ってどのような海外旅行をしているのか、同じ目線でざっくばらんに語っていただきます。その中で大学生が旅をする際に気をつけておきたいことや、大学生ならではの旅行術なども触れてもらいます。
<第4講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[ソーシャルトラベル　trippiece　AirB&B]
詳細： 大学生を中心とした若者に絶大な人気を誇る某海外旅行サービスの運営者に登壇いただき、今こそ大学生におすすめの渡航先や、大学生が旅をする意義などを広範に渡ってお話をいただきます。
<第5講>
概要： 海外での活動事例②ボランティア
事前学習しておくべき用語やポイント[ボランティア　テーマのある旅　ワーキングホリデー]
詳細： 単なる旅行だけではなく、渡航先でボランディア活動をする事例が増えています。植林をしたり、子どもたちに絵本を届けたり、被災地で労働をしたり、様々な「援助のかたち」があります。ここでは、海外でボランティア活動事例を取り上げていきます。
<第6講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[アウトバウンド　インバウンド]
詳細：大手海外旅行代理店の現役営業マンに登壇いただき、ここ数年の海外旅行事例についてお話をいただきます。特に大学生に人気の渡航先や、大学生が知ったらとてもお得な海外旅行先選びのほか、「農業体験」「ボランティア体験」「資格取得」など、旅をしながら様々な経験を積む―石二鳥な新しい旅のサービスもご紹介いただきます。
<第7講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[社会起業家　国連]
詳細：今回は海外で学校（図書館）を建設している大学生ボランティアスタッフに登壇いただきます。どうやってアイデアを得て、仲間を集め、お金を集めて海外でボランティア活動を実現させたのか。そのプロセスにおける苦労話も含めてざっくばらんにお話いただきます。
<第8講>
概要： 海外での活動事例③資格取得
事前学習しておくべき用語やポイント[スキルアップ　専門性]
詳細：1週間～1ヶ月ほどの滞在中に資格取得ができるプランが増えています。マッサージ師、コーヒーマイスター、アロマセラピスト……。アジア諸国であれば、滞在費も含めて欧米よりも5分の1程度の予算で済む事も可能です。単なる海外旅ではなく、実際にスキルアップを図り、何かしらの資格取得を狙うということ。就職活動にも時に有利に運ぶかもしれません。こうした具体的なプランを検討していきます。

<第9講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[キャリアデザイン　転職　独立]
詳細：海外で資格取得をした一般人のゲストをお呼びして、どのような資格をどのようにして取得したのか、そしてそれがその後のキャリアにどうつながっているのかなど、途中途中で質疑応答を挟みながらお話を聞いていきます。

<第10講>
概要：ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[MBA　奨学金]
詳細：前回は短期滞在で海外にて資格を取得した人に登壇してもらいましたが、こちらはより中長期に渡って海外で一生もののキャリアを手に入れた人の話を伺っていきます。まだ日本にはないような新しい職業などについても触れながら、海外活動でどうキャリアをつくるのかを論じていきます。
<第11講>
概要： 海外での活動事例④留学
事前学習しておくべき用語やポイント[eラーニング　語学留学]
詳細：今回は留学を取り上げます。留学といっても、本学と海外での大学が正規に提携する先に渡航するケースもあれば、一定期間非正規ルートで留学をする事例もあります。またここ数年で爆発的人気を誇る留学先がフィリピンのセブ島です。1週間から1ヶ月程度の短期留学で何が得られるのかを考えつつ、広い意味での現代らしい留学のかたちを取り上げていきます。
<第12講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[コミュニティ]
詳細：フィリピンにプチ留学をした一般の方をお招きして、なぜプチ留学をするに至ったのか、目的や予算、実際の講義内容やその後の変化まで、質疑応答を挟みながら話を伺って行きます。
<第13講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[マネープラン]
詳細：前回は短期留学、プチ留学を取り上げましたが、今回のゲストは「MBA」「学位取得」「海外就職」などを見据えたより本格的な中長期留学を経験した人に登壇していただきます。アメリカ、イギリスなど様々な国の大学事情を紹介しながら、今留学をすることの意義について考えて行きます。
<第14講>
概要： プレゼンテーション準備&質疑応答
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと]
詳細：次週の最終プレゼンテーションに向けて、各チームに分かれて準備を行います。講師が各チームの進捗状況をチェックし、ポイントに沿ってアドバイスを行う他、これまで13回の講義を振り返って、個別の質問にも答えていきます。
<第15講>
概要： 最終プレゼンテーション&講評
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと]
詳細：これまで学んできたことをもとに、チーム（3名～5名1組）を組んで最終プレゼンテーションを行います。各チームのプレゼンテーション終了後は、講師より個別に講評をし、プランニングを実行させていくためのポイントについて解説をします。

■教科書

『自分の仕事をつくる旅』成瀬勇輝

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、出席（50%）、レポート、プレゼンテーション（50%）により行います。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名　海外活動英語コミュニケーションⅡ（English communication II）

サブタイトル　世界に通用する意識と教養を身につける

担当教員　安藤　美冬

■講義目的

春学期の「海外活動英語コミュニケーションⅠ」では、英語から少し離れて旅行、ボランティア活動、プチ留学、就職など様々な海外活動事例を挙げ、ゲスト講師を招きながら実際的な内容を学びました。秋学期の本講座では、「海外活動英語コミュニケーションⅡ」として具体的に必要な英語を実践的に学んでいきます。毎回時事的な英語をキーワードとして挙げながら、ディスカッションを中心に講義を進めていく予定です。最後は、各自自己紹介を含む個別のプレゼンテーションを行います。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

・旅行、プチ留学、海外就職など、海外と日本をつなぐ手段を理解したうえで、具体的な行動にうつすための基礎的な英語力を身につけること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： 海外活動英語コミュニケーション概論
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細： 講義第一回目として、春学期に学んだことを振り返りながら、本講座のオリエンテーションを行います。本講義にて、今後使用するテキストを指定しますので、次回までに各自用意をお願いします。
<第2講>
概要： 旅行基礎英語①
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細： オリエンテーションで指定するテキストを見ながら、旅行の会話に必要な基礎的な英語について学んでいきます。
<第3講>
概要： 旅行基礎英語②
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：引き続き、旅行の会話に必要な基礎的な英語について学んでいきながら、実際に航空券やホテル、ビザなどの手配から現地を移動する際に必要な英単語のほか、現地で病気になった場合などのアクシデントを想定して学んでいきます。
<第4講>
概要： 旅行基礎英語③
事前学習しておくべき用語やポイント[ディベートの方法]
詳細： 旅先でのとあるシチュエーションを想定しながら、少人数でディスカッションを行います。すべて英語で行いながら、英語を連続的に話す実践的な演習を行います。
<第5講>
概要： ゲスト講師
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスマナー]
詳細： 英語ネイティブ、あるいは主として英語を用いている現役のビジネスパーソンに登壇してもらい、英語でのディスカッションや意見交換などを行います。
<第6講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[japan times newyork times]
詳細：前回同様、英語ネイティブ、あるいは主として英語を用いている現役のビジネスパーソンに登壇してもらい、新聞記事を用いながら時事的なテーマを想定してディスカッションや意見交換などを行います。
<第7講>
概要：英語で自己紹介をする①
事前学習しておくべき用語やポイント[スピーチコンサルティング　セルフイメージ]
詳細：初対面の印象は最初の15秒で決まると言われています。初対面の際に挨拶する時にすぐに使える自己紹介を各自つくっていきます。海外では当たり前とされている「スピーチコンサルティング」と印象操作などのアドバイスを交えながら、インパクトがありかつ好印象の残る自己紹介を考えます。
<第8講>
概要：英語で自己紹介をする②
事前学習しておくべき用語やポイント[起承転結　ストーリーブランディング]
詳細：前回の講義同様、3分程度で自己紹介をするための具体的な技術を学んでいきます。各自みんなの前でスピーチをしながら、フィードバッグも行います。
<第9講>
概要：英語で履歴書を書く①
事前学習しておくべき用語やポイント[リンクトイン]
詳細：海外留学、就職や転職をする予定がなくても、英語で履歴書を書く力は今後必須能力となります。「ブログ」や「ソーシャルメディア」などで世界誰とでもどこでもつながれる時代に、より大きなフィールドで活動することは以前よりもぐっと容易になりました。テキストを用いながら、英語で履歴書を書く練習をしていきます。
<第10講>
概要：英語で履歴書を書く②
事前学習しておくべき用語やポイント[強み　市場移転]
詳細：前回の講義同様、英語で履歴書を書く練習を行います。完成した履歴書を提出してもらう他、グループ内で評価しあうなど、客観的な意見やアドバイスを交換する機会ももちます。
<第11講>
概要： 映画、映像鑑賞①
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：テキスト演習から少し離れて、今回は趣向を変えて映画（映像）を取り上げながら、そこで使われている英語や立ち居振る舞い、名台詞について深く学んでいきます。
<第12講>
概要： 映画、映像鑑賞②
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：前回同様、映画（映像）を例に挙げながら、実践的な英語やビジネスマナー、言い回しを学んでいきます。途中、実演演習なども行う予定です。
<第13講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[宗教上のマナー　世界の常識]
詳細：最終プレゼンテーションを前に、ネイティブ英語を使うゲストに登壇してもらいます。海外で活動するために必要な心構えやマナー、一般常識について、分かりやすく話してもらいます。また、途中ではディスカッションや質疑応答なども挟む予定です。
<第14講>
概要： プレゼンテーション準備&質疑応答
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと]
詳細：次週の最終プレゼンテーションに向けて、各チームに分かれて準備を行います。講師が各チームの進捗状況をチェックし、ポイントに沿ってアドバイスを行う他、これまで13回の講義を振り返って、個別の質問にも答えていきます。
<第15講>
概要： 最終プレゼンテーション&講評
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと]
詳細：これまで学んできたことをもとに、最終プレゼンテーションを行います。終了後は、講師より個別に講評をし、海外で自分らしい活動を行うためのポイントについて解説をします。

■教科書

※オリエンテーション（初回講義）に指定します。

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、出席（50%）、レポート、プレゼンテーション（50%）により行います。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

原則的に、講義参加は春学期の「海外活動英語コミュニケーションⅠ」受講生に限ります。

科目名　観光学概論(Tourism Development)

サブタイトル

担当教員　中庭　光彦

■講義目的

日本の社会経済を支える有力な産業に「観光産業」があります。温泉地、歴史ある都市、魅力ある景観、その土地ならではの名産品・・・様々な観光商品・観光サービスを企業や自治体が開発し、観光客、すなわち「移動する顧客」を相手にしたビジネスを伸ばしてきました。

昔は、大都市の旅行代理店と観光地の宿泊施設が協力して観光客を集めていました。今は、各観光地が魅力づくりを競った結果、海外からの観光客も増え、元気になる地域も出てきています。かつては、「観光業」と言えばどんな仕事か誰もが想像できましたが、今では様々な観光業が生まれ、「これも観光業なの？」という仕事も生まれています。例えば、ネット通販の楽天はホテル予約ポータルサイト運営者として巨大な観光業者となっています。一方観光地の魅力をつくる「着地マーケティング」の力不足が日本の弱点となっています。

そこで、本講義前半では、これまでまったく産業や地域について考えたことがなかった主に2年生を対象に、観光産業の基本・現状を伝え、「移動する人間」が社会経済を変える影響力や地域観光政策の考え方について学びます。後半では観光まちづくりに焦点を絞り、観光地をつくるマーケティングや政策の戦略について学びます。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
地域ビジネス

■到達目標

（1）観光産業を考えるための基礎的な視点・知識を覚えること。
（2）新聞や経済雑誌に掲載された観光関係記事の意味を解釈できるようになること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> オリエンテーション
概要：観光資源と観光ビジネスの概要を簡単に説明。
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
<第2講> 観光論が対象とする様々なビジネス
概要：観光ビジネスの拡がりについて理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[観光]
<第3講>観光業界
概要：現在の観光業界について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[市場占有率]
<第4講>観光地と観光産業の関係
概要：観光地と観光産業の多様な関係を説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント[観光資源]
<第5講>観光立国・クールジャパンについて考える
概要：国の観光振興政策について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[訪日海外旅行客]
<第6講>ホスピタリティについて考える
概要：ホスピタリティ・マネジメントを解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ホスピタリティ]
<第7講>コンベンション・ビジネスについて考える
概要：コンベンション・ビジネスの世界を紹介する。
事前学習しておくべき用語やポイント[MICE]
<第8講>テーマパークと観光地の関係について考える
概要：テーマパーク・ビジネスについて紹介する。
事前学習しておくべき用語やポイント[テーマパーク]
<第9講>マスツーリズムからニューツーリズムへ
概要：過去半世紀の観光ビジネスの歴史を解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ニューツーリズム]
<第10講>観光まちづくり①変わりつつある観光地プロモーションとブランド化を考える
概要：観光地ブランド化について紹介する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ブランド化]
<第11講>観光まちづくり②観光地ブランド化と文化の関係を考える
概要：前回に引き続き、観光地のブランド化について紹介する。
事前学習しておくべき用語やポイント[SWOT分析]
<第12講> 観光まちづくり③ゆるキャラ
概要： 地域の観光まちづくり手法について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[象徴化とデザイン]
<第13講>観光まちづくり④歴史の魅力と都市観光
概要： 地域の観光まちづくり手法について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[都市観光]
<第14講>観光まちづくり⑤空間と景観
概要：魅力的な空間、景観とはどのような要素から成立しているのか解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[景観]
<第15講>観光まちづくり⑥まとめ
概要：地域の観光まちづくり手法について総括する。
事前学習しておくべき用語やポイント[パターンランゲージ]

■教科書

特に定めません。

■指定図書

適宜指示します。

■参考文献

青木義英・廣岡裕一・神田孝治編著『観光入門』新曜社（2011）
石井淳蔵・高橋一夫『観光のビジネスモデル』学芸出版社（2011）
安島博幸監修『観光まちづくりのエンジニアリング』学芸出版社（2009）
岡本伸之編『観光学入門』有斐閣（2001）
フィリップ・コトラー『コトラーのホスピタリティ＆ツーリズム・マーケティング　第3版』ピアソン・エデュケーション（2011）
宗田好史『創造都市のための観光振興』学芸出版社（2009）

■参考URL

■評価方法

出席（40%）、期末レポート（60%）

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科 目 名　韓国経済論（Korean Economy）

サブタイトル　日韓ビジネス

担当教員　金　美德

■講義目的

一つは、韓国企業について学ぶ。日本企業(中小・ベンチャー企業含む)が韓国進出するか否か、韓国企業をライバルにするかパートナーにするか、韓国人観光客や韓国企業の日本への誘致策を考える。また、韓国企業と日本企業の経営スタイルやグローバル戦略を比較研究することにより、新たな経営戦略やビジネスモデルを考察する。さらに、韓国企業を通じて、アジア企業やアジアビジネスについて学ぶことである。

もう一つは、朝鮮半島情勢を知る。朝鮮半島は、韓国と北朝鮮、南北に分断されており、緊迫かつ不安定な情勢である。そのため、日本の平和や企業のリスクマネジメントを考える上で、朝鮮半島の情勢分析は必要不可欠である。

本講義のキーワードは、日韓ビジネスと日韓企業連携、韓国企業とアジア企業、韓流マーケティングとアジアマーケティング、アジアビジネスと新興国ビジネスモデル、激動する朝鮮半島とアジアダイナミズムである。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

①韓国と北朝鮮の政治外交・経済ビジネス・文化社会に関する基礎知識を習得する。
②韓国企業の経営スタイルやグローバル戦略などの特徴を分析し、日本企業の新たな経営戦略やビジ
ネスモデルを立案する。または日韓ビジネスのアイデアを考える。
③朝鮮半島問題に対する問題意識の向上を図り、国際情勢や平和に敏感になる。

■講義形態

講義のみ：講義のみ

■講義の概要

<第1講>韓国経済論ガイダンス
事前学習しておくべき用語やポイント:韓国に関する情報を図書館・本屋や新聞・ネットで探す。
<第2講>韓国政治の基礎(1)
事前学習しておくべき用語やポイント:韓国の基礎データを調べる。例えば外務省のHPを見る。
<第3講>韓国政治の基礎(2)
事前学習しておくべき用語やポイント:北朝鮮の基礎データを調べる。例えば外務省のHPを見る。
<第4講>韓国文化の基礎
事前学習しておくべき用語やポイント:韓流(KPOP、ファッション、韓国料理など)について調べる。
<第5講>韓国経済の基礎(1)
事前学習しておくべき用語やポイント:韓国の経済規模や韓国企業について調べる。
<第6講>韓国経済の基礎(2)
事前学習しておくべき用語やポイント:韓国の貿易・対内外直接投資について調べる。
<第7講>韓国経済の基礎(3)
事前学習しておくべき用語やポイント:韓国経済の歴史について調べる。
<第8講>韓国4大財閥(1)サムスングループとLGグループ
事前学習しておくべき用語やポイント:サムスンとLGについて調べる。
<第9講>韓国4大財閥(2)ヒュンダイ自動車グループとSKグループ
事前学習しておくべき用語やポイント:ヒュンダイ自動車とSKについて調べる。
<第10講>韓国のグローバル戦略(1)米州・中南米
事前学習しておくべき用語やポイント:日韓企業の米州・中南米戦略について調べる。
<第11講>韓国のグローバル戦略(2)欧州・中東・アフリカ
事前学習しておくべき用語やポイント:日韓企業の欧州・中東・アフリカ戦略について調べる。
<第12講>韓国のグローバル戦略(3)アジア大洋州
事前学習しておくべき用語やポイント:日韓企業のアジア大洋州戦略について調べる。
<第10講>日韓企業比較(1)
事前学習しておくべき用語やポイント:日韓企業の経営や戦略の違いを調べる。
<第13講>日韓企業比較(2)
事前学習しておくべき用語やポイント:日本企業の韓国進出動向、韓国企業の日本進出動向について調べる。
<第14講>日韓ビジネス
事前学習しておくべき用語やポイント:日韓ビジネスのアイデアを考える。
<第15講>韓国戦略レポートのテーマ発表
事前学習しておくべき用語やポイント:テーマ、理由、目次を全員が発表する。

■教科書

①『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美德、PHP新書、2012年)
②『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美德、中経出版、2012年)
③『韓国企業だけが知っている日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美德、中経出版、2013年)

■指定図書

随時、紹介する。

■参考文献

随時、関連資料を配布する。

■参考URL

■評価方法

①相対評価。
②評価は、出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の割合で行う。

■評価基準

①出席と毎回提出する講義メモを重視(35%+35%=70%)する。
②講義メモは、最低限の記述内容が記載されていない場合は、減点する。また、採点後、講義の最終段
階で返却する。
③レポート(30%)は、A4用紙3枚以上とする。尚、図表の活用や枚数が増える場合は、高く評価する。15
回の講義終了後、指定された提出期限までに提出すること。
④質問・意見は、講義への積極的な参加・貢献として加点する。発言者は、講義終了後に発言者リスト
に学籍番号と氏名を記入すること。

■事前履修科目等

グローバルビジネス系科目を積極的に履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①携帯電話・パソコンは、使用を禁止する。
②私語、帽子着用、飲食は、禁止する。
③遅刻および途中退室は、厳禁とする。途中退室は、必ず入退室を記録(日付・時間・学籍番号・氏名)
すること。また、大幅な減点を行う。虚偽記録をした場合は、不合格扱いとする。
④就職活動による欠席は、公平性を保つため欠席扱いとする。
⑤講義メモの不正提出は、即刻、不合格とする。友人への提出依頼や講義には出席していないのに終
了時に提出するなどの行為。

科目名　韓国語I(Korean I)

サブタイトル

担当教員　趙　佑鎭、朴　浩烈

■講義目的

多摩大学では世界潮流としてのアジアダイナミズムを体得すべく諸々の教育プログラムを提供しているが、アジアの第一関門は隣国の韓国であろう。本講義では韓国語をはじめて学ぶ学生を対象に、ハングル文字と発音、基礎的文法やコミュニケーションを学ぶことを目的とする。韓国語の単語を一つ知ることに、フレーズを一つ学ぶごとに、学生の目に映る韓国や韓国人は変わってくるものである。韓国語のみならず韓国や韓流を知りたい意欲ある学生の参加を望む。本講義を１年間積極的に参加することで、中級レベルの韓国語も扱う韓国ビジネスコミュニケーションI・IIの学習につながることを期待するものである。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

・ハングル文字や発音を徹底してマスターした後に、基本的文法を理解する
・韓国ビジネスコミュニケーションI・II・韓国経済論・アジア経済論Iを学ぶ際の土台づくり

■講義形態

講義のみ
その他(韓国語と韓国を扱ったビデオ・視聴覚教育)
：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
　概要：オリエンテーション、韓国語について
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
「ハングル」とは、語順と語彙、ハングル文字の仕組みを理解する
<第2講>
　概要：基本母音
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
基本母音10個を発音できるようにする
<第3講>
　概要：基本子音
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
　基本子音19個を発音できるようにする。「激音」、「濃音」を発音できるようにする
<第4講>
　概要：複合母音
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
　「複合母音」。子音と母音を組み合わせて文字を書けるようにする
<第5講>
　概要：パッチム、　ハングル理解度のテスト
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
　「パッチム」。パッチムの形と発音を理解する、ハングル理解のテスト実施
<第6講>
　概要：発音の変化
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
　有声音化、連音化、舌側音化、濃音化、口蓋音化を意識して発音できるようにする
<第7講>
　第1課（以降、教科書順）　私は浅井ゆかりです
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
　あいさつと簡単な自己紹介を学習する
<第8講>
　第2課　出身はソウルですか
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
　「～ですか」を学習する
<第9講>
　第3課　図書館ではありません
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
　「～ではありません」という否定型を学習する
<第10講>
　第4課　時間がありますか
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
「あります／ありません」を学習する
<第11講>
　第5課　インターネットをします
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
「します／しますか」を学習する
<第12講>
　第6課　貿易会社で働いています
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
「します」を学習する
<第13講>
　第7課　東大門市場に行きます
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
動詞を学習する
<第14講>
　第8課　しょっちゅうスーパーで買います
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
用言を学習する
<第15講>
　総括・期末小テスト
※　小テストは、ほぼ毎回の講義ごとに実施することを留意されたい

■教科書

木内　明著『基礎から学ぶ韓国語講座　初級』国書刊行会　2100円

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

・授業での毎回の小テストの総計点と期末小試験＋授業態度(加算点)
・出席を疎かにすると毎回実施する小テストを受けられないことになるので、結果的には成績に著しく不利になることを留意されたい。よって、出席が一定未満だとF処理されることを警告する。

■評価基準

相対評価
・上記の総合評価
・評価の際に、学習理解度の高い学生が多いと判断された場合、絶対評価に変わることもあり得る。
・語学は積み重ねが重要であるため評価における「出席」は大事である。評価基準と比重の詳細は、オリエンテーションの際に提示する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

　・授業態度における私語、携帯電話（をいじること）、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、徹底的に厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なものであるが、このような注意と授業態度を静粛に保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は絶対的に勧められない。この点に関しては何度も強調したいところである。
・語学の学習には地道さ、根気強さが必要であるため、なるべく毎回の出席を望む。これまでの経験だと、出席が良好な学生が成績も上位であり、毎回の出席こそ語学上達の近道である。一定の出席に満たない場合、学期途中においてもF になる可能性を警告する。
・復習を重視すること
・授業では随時、筆記や発音の小テストがあるが、決して高いハードルではない
・この科目は2008年度以前の入学生は履修することが出来ない。

科目名 韓国語II(Korean II)

サブタイトル

担当教員 趙　佑鎭

■講義目的

多摩大学ではアジアダイナミズムを体得すべく諸々の教育プログラムを提供しているが、アジアの第一関門は隣国の韓国であろう。本講義では韓国語をはじめて学ぶ学生を対象に、ハングル文字と発音、基礎的文法やコミュニケーションを学ぶことを目的とする。韓国語の単語を一つ知るごとに、フレーズを一つ学ぶごとに、学生の目に映る韓国や韓国人は変わってくるものである。韓国語のみならず韓国や韓流を知りたい意欲ある学生の参加を望む。本講義を１年間積極的に参加することで、中級レベルの韓国語も扱う韓国ビジネスコミュニケーションI・IIの学習につながることを期待するものである。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

・ハングル文字や発音を徹底してマスターした後に、基本的文法を理解する
・教科書内容の基本会話の習得
・韓国ビジネスコミュニケーションI・II・韓国経済論・アジア経済論Iを学ぶ際の土台づくり

■講義形態

講義のみ
その他(韓国語と韓国を扱ったビデオ・視聴覚教育)
：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
　第9課　それは1万ウォンです
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
漢数詞を学習する
<第2講>
　第10課　今、何時ですか
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
固有数詞と時計の読み方を学習する
<第3講>
　第11課　日本語を話されますか
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
敬語、敬語の特殊例を学習する
<第4講>
　第12課　そんなに遠くありません
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
用語の否定形を学習する
<第5講>
　第13課　いつ韓国に来ましたか
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
用言の過去形を学習する
<第6講>
　第14課　民俗村に一緒に行きましょう
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
勧誘の言葉を学習する
<第7講>
　第15課　パーティーの準備をしています
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
用言の現在進行形を学習する
<第8講>
　第16課　何も食べられませんでした
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
可能／不可能の表現を学習する
<第9講>
　第17課　陶磁器が見たいです
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
「～したい」という表現を学習する
<第10講>
　第18課　写真を撮ってもいいですか
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
禁止の表現を学習する
<第11講>
　第19課　もう行かなければなりません
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
義務の表現を学習する
<第12講>
　第20課　手紙を書きますよ
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
意志・推量の表現を学習する
<第13講>
　韓国の映画を見ながらのビデオ学習、韓国語の文法とボキャブラリー(I)
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
　これまで学んだ重要なボキャブラリーと助詞のまとめを学習する
<第14講>
韓国の映画を見ながらのビデオ学習、韓国語の文法とボキャブラリー(II)
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
変則活用の用言、連体形のまとめを学習する
<第15講>
　期末小テストと総括
※　小テストは、ほぼ毎回の講義ごとに実施することを留意されたい

■教科書

木内　明著『基礎から学ぶ韓国語講座　初級』国書刊行会　2100円

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

・「毎回の授業ごとに実施する小テストと期末小試験の総計点」＋授業態度(加算点)
・出席を疎かにすると毎回実施する小テストを受けられないことになるので、結果的には成績に著しく不利になることを留意されたい

■評価基準

相対評価
・上記の総合評価
・評価の際に、学習理解度の高い学生が多いと判断された場合、絶対評価に変わることもあり得る。
・語学は積み重ねが重要であるため評価における「出席」は大事である。評価基準と比重の詳細は、オリエンテーションの際に詳細に提示する。

■事前履修科目等

韓国語Ⅰ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・授業態度における私語、携帯電話（をいじること）、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、徹底的に厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なものであるが、このような注意と授業態度を静粛に保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は絶対的に勧められない。この点に関しては何度も強調したいところである。
・語学の学習には地道さ、根気強さが必要であるため、なるべく毎回の出席を望む。これまでの経験だと、出席が良好な学生が成績も上位であり、毎回の出席こそ語学上達の近道である。一定の出席に満たない場合、学期途中においてもF　確定になる可能性を警告する。
・復習を重視すること
・授業では随時、筆記や発音の小テストがあるが、決して高いハードルではない
・この科目は2008年度以前の入学生は履修することが出来ない。

科目名　韓国ビジネスコミュニケーションⅠ(Korean Business Communication Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　朴　浩烈

■講義目的

教材と配布資料を使って 読む、書く、話す、聞くのレベルにおいて「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を踏まえた上での韓国語中級を目指す。外国語マスターへの道は根気と不断の努力以外にはあり得ないので、適宜小テストを行い韓国語向上を目指す。板書はすべて韓国語とし、講義の際の対話や解説もできるだけ日本語を排する。受講生たちにはハングル能力検定試験（1級～5級）の受験を奨励する。しかし外国語レベルとコミュニケーションレベルは必ずしも比例するとは言い難い。したがって「ことばと文化」を通して韓国（朝鮮半島）を幅広く理解することによって、様々なビジネスシーンや国際交流などにおけるコミュニケーションを能動的に行う上での自信やヒントを得ようとするのも講義目的である。ことばと文化における日韓間の類似点や相違点を双方向的に捉えることは、お互いの心理的距離を縮める接近法ともなろう。「ことばと文化」を幅広く理解するための手段として関連する政治、社会、歴史、教育、芸能、スポーツ、ナショナリズム、時事問題など最前線事例も適宜トピックとして扱いながら、個々人が疑問に思うことなども議題に取り上げ、ディスカッションも行う。楽しく白熱した議論になれば幸いである（自信がなくてもできるだけ韓国語を使ってみる）。一切タブーはない。その過程において集団（国家・民族・企業など）として、又は人間個々人として日韓間に存在する問題点を発見し、受講生なりの解決へのアプローチを見りだすことも目的とする。下に掲載した教材・参考文献以外にも韓国の新聞記事やコラムなどを利用し、それらを読んだり書いたりしながら韓国語能力の向上を図るとともに思考力や想像力を高める。

■講義分類

社会人力育成
ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

1. 「韓国語Ⅰ. Ⅱ」を踏まえた上での 韓国語中級レベルの達成
2. ディスカッションを通しての自己主張とコミュニケーション能力の向上
3. 「韓流」と「日流」を通してのビジネス事情理解（最前線事例理解）
4. 異文化理解力の向上とグローバル化における他者認識の方法論習得
5. 綜合的韓国（朝鮮半島）学に対する知の蓄積と問題意識の涵養

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：「韓国ビジネスコミュニケーション」ガイダンス
事前学習しておくべき用語やポイント[「韓国語」Ⅰの復習と理解が難しかったところのチェック]
詳細：この講義は何をどのような方法を使って学ぶのかを解説し、受講生たちがこの科目の目的や目標を理解することを中心に据える。また教材と指定図書、参考文献の説明と講義評価基準についても述べる。指定図書を夏休みまで各自が読みレポート提出を課す。「韓国」や「韓流」などをキーワードに受講生のイメージを聞き出し、そのようなイメージはなぜ作られたのかなどをディスカッションする。
<第2講>
概要：「韓国語」Ⅱの復習と理解が難しかったところのチェック]
事前学習しておくべき用語やポイント[日本語と韓国語の類似点や相違点を「「韓国語Ⅰ，Ⅱ」を学んだ土台から考えてみる]
詳細：ハングルの読む練習を行う。特に発音変化を重点的に復習する。韓国語と朝鮮語は同じなのか違う言語なのか、ハングル表記や発音、言葉使いなどにおいて、韓国語と朝鮮語の違いはあるのかなど、言語問題から朝鮮半島の歩みと現状を理解する.。
<第3講>
概要：「第1課　遅れて申し訳ありません」と日韓のことばと文化①
事前学習しておくべき用語やポイント[第1課の予習（予習は毎回CDを聴きながら読む練習を行ってくること）]
詳細：第1課を学ぶ。そして参考文献の内容を概説・要点を整理し、韓国（人）と日本（人）の文化における類似点と相違点を考えてみる。文化はどのように形成されるのかをディスカッションを通して考えてみる。
参考文献：①、②、④，⑨
<第4講>
概要：「第2課　この背の高い人がご主人ですか」と 日韓のことばと文化②
事前学習しておくべき用語やポイント[第1課の練習問題とCDを使って第2課の読む練習]
詳細：日常生活や空間意識の違いなどから日韓比較文化論を考えてみる。その後、自文化と多文化、文化相対主義と批判的文明論を考えてみる。
参考文献：①、②、⑨
<第5講>
概要：「 第3課付き合っている人はいませんでした」と韓流について①
事前学習しておくべき用語やポイント[第2課の練習問題とCDを使って第3課の読む練習]
詳細：第3課を学ぶ。また日本における韓流需要の過程を時系列的に分析し、単なる「ブーム」として捉えるのではなく、ひとつの社会文化現象とグローバル化ということから社会学的に考察する。
参考文献：⑲
<第6講>
概要：「 第4課　通いながらずっと学びましたが」と韓流について②
事前学習しておくべき用語やポイント[第3課の練習問題とCDを使って第4課の読む練習]
詳細： 韓流ドラマやK－POPなどの特徴を分析する。主題や内容もさることながら韓国ドラマや映画が歩んできた歴史を分析する時、韓国の政治や社会の変遷と深く関わりを持つことが認められるが,韓流に込められた韓国側の戦略などを資料を手掛かりに分析する。
参考文献：⑲
<第7講>
概要：「 第5課　どこへ行くつもりですか」と日流について
事前学習しておくべき用語やポイント[第4課の練習問題とCDを使って第5課の読む練習]
詳細：第5課を学ぶ。また参考文献とドキュメンタリー番組、そして新聞記事などの最新の資料を駆使し、韓国における日流を分析する。
参考文献：⑲
<第8講>
概要：「第6課　小学校で習ったことがありますよ」、そして「嫌韓」、「反日」とナショナリズムを考える①
事前学習しておくべき用語やポイント[第5課の練習問題とCDを使って第6課の読む練習]
詳細：第6課を学ぶ。そして「嫌韓」、「反日」の現状を分析し、偏狭で排外主義的ナショナリズムの危険性を考える。「嫌韓（嫌韓流）」、「反日」とは何か、どのような「批判」や「主張」と連動しながら展開されているのかなどを講義する。ハンナ・アーレントの『全体主義の起源』からポピュリズムまでを視野に入れる。
参考文献：⑭、⑰
<第9講>
概要：「第7課　韓国が勝ちそうです」、そして「嫌韓」、「反日」とナショナリズムを考える②。
事前学習しておくべき用語やポイント[第6課の練習問題とCDを使って第7課の読む練習。「嫌韓」「反日」、「ナショナリズム」をキーワードにディスカッションの準備を行ってくること]
詳細：第7課を学ぶ。そしてディスカッションを行う。自分の意見を述べ合いながら、他人の意見を聴くことによって相互理解と合意点を見出すコミュニケーション能力を高める。
参考文献：⑫
<第10講>
概要：「第8課　見ようと思います」を学ぶ。そして「グローバル人材とコミュニケーション能力」を講義する。
事前学習しておくべき用語やポイント[第7課の練習問題、CDを使って第8課の読む練習]
詳細：第8課を学ぶ。その後、さまざまな資料を駆使して日本において議論されているグローバル人材像、それに欠かせないと考えられているコミュニケーション能力とは何かについて講義する。先週のディスカッションから見えてくるコミュニケーション上の課題や問題点などを議論する。資料は配布する。
<第11講>
概要：「第9課　雨が降り始めました」を学ぶ。そして「多文化共生社会」を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[第8課の練習問題、CDを使って第9課の読む練習]
詳細：第9課を学ぶ。在日外国人が200万人を超えている日本の社会現状、日韓ともにグローバル化の中で国際結婚や外国人労働者の増加によって足元からグローバル化(内なるグローバル化）は訪れていることなどを抑える。グローバル化は私たちにとっても空間移動によっていつでも外国人になりえる可能性が高まっていると考えられるが、身近な国

際化を追体験することによって、問題があるのか、あるとすれば解決はどのように図られるべきなのかを考える。
参考文献：⑯
<第12講>
概要：「第10課　食事でもしに行きましょうか」そして 日韓文化交流史を紐解く①
事前学習しておくべき用語やポイント[第9課の練習問題、CDを使って第１０課の読む練習]
詳細：第10課を学ぶ。その後、参考文献の解説、そして「渡來人」と「文禄慶長の役」をキーワードに日韓の交流史を文化から考えてみる。特に日本の陶磁器文化の歴史と発展過程が朝鮮文化と深い関係にある事、キムチに欠かせない唐辛子は日本伝来であることなどを説明し、ハイブリッドとしての文化を考えてみる。文化相対主義に関する理解も深める。
参考文献：⑪
<第13講>
概要： 第1課～第10課までの復習①、そして日韓文化交流史を紐解く②
事前学習しておくべき用語やポイント[第1課～第10課までのCDを聴きながら読む練習を行って講義に参加すること]
詳細：教科書を読む。この時点においてハングルは基本的に読めるようにすることを目的とする。特に発音変化を完全にマスターし、韓国の新聞も意味が分からなくても読めるような水準に達することを求めるが、自己点検を行い、課題を見つける。「日韓文化交流史を紐解く②」の講義においては、鎖国と言われる江戸時代に実は朝鮮との交流があったことを詳細に学び、今日の日韓あるいは日朝間に存在する障壁や問題点をあぶり出し、問題解決を模索してみる。 キーワードは「雨森芳洲」、「海遊録」とする。
<第14講>
概要： 第1課～第10課までの復習②
事前学習しておくべき用語やポイント[これまで習得した韓国語文法知識の総点検]
詳細：教科書内容（文法）を復習する。学んだ文法知識を使って韓国語で話してみる。自信がなくてもできるだけ韓国語を使用することによって語学（話す）能力向上を図る。
<第15講>
概要： 春学期のまとめと夏休みの課題を提示する。
事前学習しておくべき用語やポイント[教科書 第1課～１０課まで学んだ単語の暗記]
詳細：春学期の講義を通しての感想や疑問点などを、韓国語を駆使して述べてみる。夏休みの課題として韓国映画を見て感想文を書くことを提示する。視聴する韓国映画のリストを配布し、夏休み明けの授業にて各自発表するようになる。指定図書のレポート提出。

■教科書

木内明『基礎から学ぶ韓国語講座　中級』国書刊行会

■指定図書

田中宏・板垣竜太[編](2007)『日韓新たな始まりのための20章』岩波書店

■参考文献

①金栄勲(2010)『韓国人の作法』集英社新書
②齋藤明美(2005)『ことばと文化の日韓比較』世界思想社
③徐勝、他［編］（2007）『「韓流」のうち外-韓国文化力と東アジアの融合反応』御茶ノ水書房
④李御寧（昭和59）『「縮み」志向の日本人』講談社文庫
⑤和田春樹(2010)『これだけは知っておきたい日本と朝鮮の100年史』平凡社新書
⑥玄武岩（2007）『統一コリア-東アジアの新秩序を展望する』光文社新書
⑦曹斗欽(1981)『韓国特派員の見た日本　日本人　日本社会』日本風景社
⑧塚本勲(2001)『朝鮮語を考える』白帝社
⑨綾部恒雄[編](平成18年)『文化人類学20の理論』弘文同
⑩鑪幹八郎(1990)『アイデンティティの心理学』講談社現代新書
⑪野村進(2006)『千年働いてきました－老舗企業大国ニッポン』角川oneテーマ
⑫姜尚中(2006)『愛国の作法』朝日新聞出版サービス
⑬朴三石（2002）『海外コリアン』中公新書
⑭朴一[編・著]（2006）『「マンガ嫌韓流」のここがデタラメ』コモンズ
⑮B・アンダーソン（白石さや、白石隆[訳]（2007）『想像の共同体』]NTT出版
⑯：田中宏（2013）第3版『在日外国人－法の壁、心の溝』岩波新書
⑰仲正昌樹（2009）『今こそアーレントを読み直す』講談社現代新書
⑱大沢真幸・姜尚中[編](2009)『ナショナリズム論・入門』有斐閣
⑲クォン・ヨンソク(2010)『「韓流」と「日流」－文化から読み解く日韓新時代』NHKブックス
その他、韓国と日本の新聞、雑誌、カタログ、チラシなど

■参考URL

■評価方法

出席50%、レポート、ディスカッション、小テストを含む講義参加態度50%

■評価基準

絶対評価
A+ ：出席率が90%以上、講義参加態度が最優であること
A ：出席率が80%以上、講義参加態度が優であること
B ：出席率が70%以上、講義参加態度が良であること
C ：出席率が60%以上、講義参加態度が良であること
F ：上記の要求を満たしていない場合
遅刻、早退も出席評価に含む。

■事前履修科目等

「韓国語」Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

教科書と指定図書の2冊は各自が購入し講義に参加すること。

科目名　韓国ビジネスコミュニケーションII（Korean Business Communication II）

サブタイトル

担当教員　朴　浩烈

■講義目的

教材と配布資料を使って 読む、書く、話す、聞くのレベルにおいて「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を踏まえた上での韓国語中級を目指す。外国語マスターへの道は根気と不断の努力以外にあり得ないので、適宜小テストを行い韓国語向上を目指す。板書はすべて韓国語とし、講義の際の対話や解説もできるだけ日本語を排する。受講生たちにはハングル能力検定試験（1級～5級）の受験を奨励する。しかし外国語レベルとコミュニケーションレベルは必ずしも比例するとは言い難い。したがって「ことばと文化」を通して韓国（朝鮮半島）を幅広く理解することによって、様々なビジネスシーンや国際交流などにおけるコミュニケーションを能動的に行う上での自信やヒントを得ようとするのも講義目的である。ことばと文化における日韓間の類似点や相違点を双方向的に捉えることは、お互いの心理的距離を縮める接近法ともなろう。「ことばと文化」を幅広く理解するための手段として関連する政治、社会、歴史、教育、芸能、スポーツ、ナショナリズム、時事問題など最前線事例も適宜トピックとして扱いながら、個々人が疑問に思うことなども議題に取り上げ、ディスカッションも行う。楽しく白熱した議論になれば幸いである（自信がなくてもできるだけ韓国語を使ってみる）。一切タブーはない。その過程において集団（国家・民族・企業など）として、又は人間個々人として日韓間に存在する問題点を発見し、受講生なりの解決へのアプローチを見いだすことも目的とする。下に掲載した教材・参考文献以外にも韓国の新聞記事やコラムなどを利用し、それらを読んだり書いたりしながら韓国語能力の向上を図るとともに思考力や想像力を高める。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

1. 「韓国語Ⅰ. Ⅱ」を踏まえた上での 韓国語中級レベルの達成
2. ディスカッションを通しての自己主張とコミュニケーション能力の向上
3. 「韓流」と「日流」を通してのビジネス事情理解（最前線事例理解）
4. 異文化理解力の向上とグローバル化における他者認識の方法論習得
5. 綜合的韓国（朝鮮半島）学に対する知の蓄積と問題意識の涵養

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：「韓国ビジネスコミュニケーションⅡ」ガイダンス、課題発表とディスカッション
事前学習しておくべき用語やポイント[夏休みの課題である韓国映画を視聴してのレポート作成済みのこと]
詳細：この講義は何をどのような方法を使って学ぶのかを解説し目的や目標を理解することを中心に据える。また教材,指定図書、参考文献の説明と講義評価基準についても述べる。指定図書を各自が読んでのレポート提出を課す（最終講義日提出期）。夏休みの課題である韓国映画の感想文を各自発表する。発表を踏まえてディスカッションを行う。
<第2講>
概要「：第11課　実現したらいいのですが」、韓国映像文化（映画・ドラマ）からのリスニング
事前学習しておくべき用語やポイント[CDを聴きながら第12課の読む練習]
詳細：第11課を学ぶ。その後韓国映像文化のリスニング。受講生たちが各々聞き取れたこと、聞き取れなかったことを述べあう。一般的に外国語の映像文化（映画やドラマ）を視聴すると早口に聞こえるとの分析があるが、なぜ外国語を聞く時、早口に聞こえるのかを言語学から考察し教授する。リスニング無しにはコミュニケーションは図れない。韓国映画を視聴し自分のリスニング能力を確かめ、リスニングにおける課題と目標、向上方法などをディスカッションを通して考えてみる。
<第3講>
概要：「 第12課　高校の時に修学旅行で来ました」、そして日韓の食文化の特徴とマナー
事前学習しておくべき用語やポイント[第11課の練習問題、CDを聴きながら第11課の読む練習]
詳細：キムチは韓国を代表するおかずであるが、日本の代表は？、混ぜることは、破壊ではなく新しい味の創造？、「クッパ」と「猫まんま」は似て非なるところがある？、韓国人とのビジネスコミュニケーションにおいてお酒（酒宴）はかかせない？、出産・誕生日にはワカメスープ？など、日韓の食文化の特徴を比較食文化から考察する。日韓ビジネスの最前線に立った時、大変役に立つ韓国における食文化の伝統・情報やマナー、食に関する人々の意識などを紹介する。
参考文献：①
<第4講>
概要：「第13課　開かれるといいます」、現代韓国の社会事情①
事前学習しておくべき用語やポイント[第12課の練習問題、CDを聴きながら第13課の読む練習]
詳細：第13課を学習する。現代韓国の社会事情①では、韓国における教育事情を幅広く解説する。学歴社会、就職事情、海外留学などを扱う。今日の姿かたちは近代化の過程を経て形成されたと考えられているが、韓国においては儒教（朱子学）の伝統が色濃く残っていることなどを考察する。
<第5講>
概要：「第14課　すごくきれいになりましたよ」、現代韓国の社会事情②
事前学習しておくべき用語やポイント[第13課の練習問題、CDを聴きながら第14課の読む練習]
詳細：第14課を学ぶ。その後、軍事独裁と民主化、親日と反日、反共と親米などをキーワードに、現代韓国を語るさいに欠かせない政治・社会問題を講義する。
参考文献：⑥、⑲
第6講>
概要：「第15課　建てられて以来どのくらい経ちましたか」、韓国の世界遺産と国宝、観光名所
事前学習しておくべき用語やポイント[第14課の練習問題、CDを聴きながら第15課の読む練習]
詳細： 第15課を学ぶ。その後、韓国の世界遺産と国宝、観光名所を紹介するが、トラベルガイドブック的な紹介だけではなく、これらから韓国（人）のアイデンティティ、美意識、歴史性、指向性などを読み解く。
参考文献：⑨
<第7講>
概要：「第16課　健康そうですね」、「アイデンティティ、ナショナリズム」を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[第15課の練習問題、CDを聴きながら第16課の読む練習]
詳細：第16課を学ぶ。その後、「アイデンティティ、ナショナリズム」というテーマで講義を行う。国際交流やビジネスにおいて他者をどのように理解し接するのかは重要である。ここでは何故「〇〇人」になるのか、どのような文脈においてアイデンティティが表出するのかなどを、社会言語学を絡め考察してみる。排除か包摂かにはナショナリズムが絡むとの論理から日韓の相互理解と友好のためのアイデンティティ、排撃したいナショナリズムはどのようなものなのかを議論する。 韓国朝鮮特有のものと考えられている「ウリ」意識についても考察する。
参考文献：⑩、⑫、⑮、⑱
<第8講>
概要：「第17課　同じ年かもしれません」、 海外の韓国人とグローバルネットワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[第16課の練習問題、CDを聴きながら第17課の読む練習]
詳細：第17課を学ぶ。現在日本では台湾企業を足がかりに中国へ進出しようとする試みも見られるが、韓国とのビジネスも海外に住むコリアンとのネットワークが有効に作用する場合があり得る。このようなことを踏まえ海外コリアンの現状を資料から立体的に分析する。
参考文献：⑬
<第9講>
概要：「第18課　タレでも作っておいて」、 在日コリアンと商業活動
事前学習しておくべき用語やポイント[第17課の練習問題、CDを聴きながら第18課の読む練習]
詳細：第18課を学ぶ。約70万人といわれる在日コリアンの商業活動を焼き肉屋や韓国料理店のメニュー、そして宣伝雑誌やチラシなどを通して見てみるが、もちろん日本で出回っている韓国語のチラシも配布するので韓国語能力を試すこともできる。
<第10講>
概要：「第19課　痩せるためには我慢しなくちゃ」、日韓ネット事情を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[第18課の練習問題、CDを聴きながら第19課の読む練習]
詳細：第19課を学ぶ。その後、日本と韓国におけるインターネット上の無責任で非科学的な書き込みを検証する。ネット上のやり取りと対人コミュニケーションを考えながら、「杞憂、節度」を個人レベルではなく社会的視野から眺め、世論形成の一断面を分析する。

参考文献：⑰
<第11講>
概要：「第20課　私もいくから」、日韓ベストセラーから見えるもの。
事前学習しておくべき用語やポイント[第19課の練習問題、CDを聴きながら第20課の読む練習]
詳細：第20課を学ぶ。その後、日本と韓国のベストセラー（書籍）を紹介し、違いと特徴を分析する。
<第12講>
概要：教科書の復習①
事前学習しておくべき用語やポイント[CDを聞きながら教科書（本文と練習問題）を通読すること]
詳細：教科書の本文を読む。任意のページを指定し個人個人読んでもらう。評価は小試験として扱う。
<第13講>
概要：教科書の復習②
事前学習しておくべき用語やポイント[教科書の文法知識を復習し、理解不足の部分を探す]
詳細：今まで学んだ教科書の 文法知識のおさらい。文法知識を活用し短文を作ってみる。
<第14講>
概要：教科書の復習③
事前学習しておくべき用語やポイント[今まで課題としてきた教科書内の練習問題の中で解いていない個所を全て埋めて参加する事]
詳細：練習問題の中から任意の問題を提示し、問題を解く。小試験も行う。
<第15講>
概要：講義のまとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[異質な他者とのコミュニケーションにおいて重要なことは何かを考えてくる、そして指定図書に関するレポート作成]
詳細：秋学期の講義を踏まえ総括する。異質な他者とのコミュニケーションにおいて重要なことは何かを討論する。指定図書に関する質問などを聞く。

■教科書

木内明『基礎から学ぶ韓国語講座　中級』国書刊行会

■指定図書

和田春樹（2010）『これだけは知っておきたい日本と朝鮮の100年史』平凡社

■参考文献

①金栄勲(2010)『韓国人の作法』集英社新書
②齋藤明美(2005)『ことばと文化の日韓比較』世界思想社
③徐勝、他［編］（2007）『「韓流」のうち外-韓国文化力と東アジアの融合反応』御茶ノ水書房
④李御寧（昭和59）『「縮み」志向の日本人』講談社文庫
⑤田中宏・板垣竜太[編](2007)『日韓新たな始まりのための20章』岩波書店
⑥玄武岩（2007）『統一コリア-東アジアの新秩序を展望する』光文社新書
⑦曹斗欽(1981)『韓国特派員の見た日本　日本人　日本社会』日本風景社
⑧塚本勲(2001)『朝鮮語を考える』白帝社
⑨綾部恒雄[編](平成18年)『文化人類学20の理論』弘文同
⑩鑪幹八郎(1990)『アイデンティティの心理学』講談社現代新書
⑪野村進(2006)『千年働いてきました－老舗企業大国ニッポン』角川oneテーマ
⑫姜尚中(2006)『愛国の作法』朝日新聞出版サービス
⑬朴三石（2002）『海外コリアン』中公新書
⑭朴一[編・著]（2006）『「マンガ嫌韓流」のここがデタラメ』コモンズ
⑮B・アンダーソン（白石さや、白石隆[訳]（2007）『想像の共同体』]NTT出版
⑯：田中宏（2013）第3版『在日外国人－法の壁、心の溝』岩波新書
⑰仲正昌樹（2009）『今こそアーレントを読み直す』講談社現代新書
⑱大沢真幸・姜尚中[編](2009)『ナショナリズム論・入門』有斐閣
⑲クォン・ヨンソク(2010)『「韓流」と「日流」－文化から読み解く日韓新時代』NHKブックス
その他、韓国と日本の新聞、雑誌、カタログ、チラシなど

■参考URL

■評価方法

出席50%、レポート、ディスカッション、小テストを含む講義参加態度50%

■評価基準

絶対評価

A+ ：出席率が90%以上、講義参加態度が最優であること
A　：出席率が80%以上、講義参加態度が優であること
B　：出席率が70%以上、講義参加態度が良であること
C　：出席率が60%以上、講義参加態度が良であること
F　：上記の要求を満たしていない場合
遅刻、早退も出席評価に含む。

■事前履修科目等

「韓国語」Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

教科書と指定図書の2冊は各自が購入し講義に参加すること。

科目名　管理会計入門(Introduction to Management Accounting)

サブタイトル　意思決定と業績管理に関する会計的手法を学ぶ

担当教員　金子　邦博

■講義目的

本講義は、産業社会を支える企業などの組織体の経営・管理活動における問題発見や問題解決に役立つ情報を提供するためのシステムとしての管理会計について、最新の理論と手法を学習することで、企業の戦略的な経営に資することを目指して会計情報を活用していくことの意義を理解することを目的とする。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業で使われている意思決定への情報提供システムとしての管理会計における理論と手法についての基礎的な知識を習得すること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　序　管理会計とは
概要：管理会計の意義について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）管理会計とはどのような学問なのかを理解する。
<第2講>　1　管理会計の諸概念
概要：管理会計で使われる諸概念について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）管理会計で使われる諸概念についてその内容を理解する。
<第3講>　2　事業部制の業績管理
概要：責任センターの意義と業績管理の考え方を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）部門別の業績管理の手法を理解する。
<第4講>　3　損益分岐点分析
概要：損益分岐点分析の手法を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）損益分岐点分析の計算ができるようになる。
<第5講>　4　利益計画と予算
概要：利益計画と予算管理について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）利益計画策定のプロセスと予算管理の仕組みを理解する。
<第6講>　5　原価企画
概要：原価企画について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）原価企画の仕組みと原価低減の推進方法を理解する。
<第7講>　6　ABC
概要：活動基準原価計算（ABC）について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）活動基準原価計算の仕組みを理解する。
<第8講>　7　コストのマネジメント
概要：コストのマネジメント技法を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）ライフサイクル・コスティング、品質原価計算、現場での原価管理手法、営業費管理を理解する。
<第9講>　8　経営意思決定
概要：短期的意思決定の手法を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）受注の可否などの短期的な意思決定の計算ができるようになる。
<第10講>　9　戦略的意思決定
概要：戦略的な意思決定手法を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）投資の採算を判断する計算ができるようになる。
<第11講>　（計算問題の総まとめ）
概要：損益分岐点分析、経営意思決定、戦略的意思決定の問題演習。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）損益分岐点分析、経営意思決定、戦略的意思決定の計算問題が解けるようになる。
<第12講>　10　戦略的・戦術的価格決定
概要：商品や製品の価格決定の手法を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）商品や製品の価格決定の手法を理解する。
<第13講>　11　経営戦略と管理会計
概要：経営戦略と管理会計のつながりを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）企業価値創造に結びつく戦略の策定手法を理解する。
<第14講>　12　バランスト・スコアカード
概要：バランスト・スコアカードの仕組みを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）バランスト・スコアカードの意義とその利用可能性を理解する。
<第15講>　13　無形資産とコーポレート・レピュテーション
概要：無形資産とコーポレート・レピュテーションについて学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）無形資産とコーポレート・レピュテーションの意義を理解する。

■教科書

櫻井通晴　『管理会計　基礎編』　同文舘出版

■指定図書

[1]上埜　『管理会計の基礎』　税務経理協会
[2]倉地裕行　『サクッとうかる日商1級工業簿記・原価計算3テキスト』　ネットスクール
[3]川野克典　『管理会計の理論と実務』　中央経済社
[4]浅田孝幸ほか　『管理会計・入門〔第3版〕』　有斐閣
[5]谷　武幸　『エッセンシャル管理会計』　中央経済社

■参考文献

[1]古田清和ほか　『基礎からわかる管理会計の実務』　商事法務
[2]千賀秀信　『管理会計の基本』　日本実業出版社
[3]林　總　『50円のコスト削減と100円の値上げでは、どちらが儲かるか？』　ダイヤモンド社
[4]中元文徳　『豆大福分析』　中央経済社
[5]淺田孝幸・鈴木研一・川野克典　『固定収益マネジメント』　中央経済社

■参考URL

http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/

■評価方法

期末定期試験の成績により評価する（100%）。ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、期末定期試験の成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

期末定期試験の成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、期末定期試験の得点順に成績評価する。
相対評価

■事前履修科目等

この講義の受講に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしないが、「原価分析」が履修済みであることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

講義のなかで随時計算演習を行うので、電卓ないしPCを毎回持参すること。

科目名 キャリアデザイン入門(Introduction to Career Design)

サブタイトル これからの大学生活をデザインする

担当教員 浜田　正幸

■講義目的

自分の人生について考える。
大学生の4年間は人生にとっては、とても重要な時期である。
その4年間をいかに過ごすかによって、その後の人生は大きく変わってくる。本講義では、その「大学4年間をどう過ごすのか」を考えていく。同時に将来を見て、自分が何をやりたいのか、何になりたいのかについても、さまざまな角度から切り込んでいく。
大学生になるまでも、もちろん人生の選択をしてきたと思うが、ここまではある程度すすむべき方向が見えていたのことだろう。それほど多様な選択肢があった訳ではない。しかし、大学を卒業する時には、だれも人生の進むべき方向を決めてくれない。だから、自分自身で自分の人生をつくっていくしかない。
本講義では、「人生」とか「働くこと」を考える。ただ講義を聴くのではなく、自らが「自分の人生を考える」ことに重点を置いている。
目的は、「自分の人生」の方向性を見いだし、大学4年間の過ごし方を考えることである。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成

■到達目標

大学卒業後の自己イメージ明らかになっている。
そのための大学4年間をデザインできている。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： キャリアデザイン入門の範囲
事前学習しておくべき用語やポイント [　キャリア、キャリアデザイン　]
詳細： 本講全体で何を学ぶのか説明し、同時にラーニングゴールを明確にする。すなわちガイダンスである。
<第2講>
概要：キャリアとは何か
事前学習しておくべき用語やポイント[　キャリア、就労意識　]
詳細：キャリアとは、いろいろな定義がある。それらを解説しつつ、本講で扱うキャリアの意味を深く考察していく。

<第3講>
概要：「働く」意義
事前学習しておくべき用語やポイント[　働く、仕事　]
詳細： 「働く」とは単におカネを稼ぐことだけを意味するのではない。自給自足の生活はおカネを稼いでいない。自給自足者は働いていないのだろうか。いろいろな角度から「働く」ことに切り込んで、働く意味を考えていく。
<第4講>
概要： 「仕事」とは何か
事前学習しておくべき用語やポイント[　社会的役割　]
詳細：仕事とは何だろうか、主婦は仕事をしているのだろうか。学生が災害復興のボランティア活動をすることは、仕事だろうか。自衛隊が災害復興の支援をすることは仕事だろうか。仕事とは何か哲学的に考察していく。
<第5講>
概要： 社会と仕事・働くこと
事前学習しておくべき用語やポイント[　社会的役割、分業、川上産業、川下産業]
詳細： 私たちが消費する商品が、私たちの手に届くまでに、一体どれくらいの人たちが仕事をしているのだろうか。もし仕事をすることをやめてしまうと社会はどうなるのだろうか。仕事・働くことと、社会との関係を考察する。

<第6講>
概要：キャリアと適性
事前学習しておくべき用語やポイント[　適性検査、性格　]
詳細：キャリアには適性があるが、その適性はどのように調べれば良いのだろうか。既にある程度確立された方法があるので、それに則ったキャリア適性を考える。
<第7講>
概要： CANを増やす
事前学習しておくべき用語やポイント[　MUST, WILL, CAN、　キャリア・アンカー　]
詳細： キャリアを考える時に自身のMUST,WILL,CANを分析する。その上で特にCANがどれだけあるか棚卸しをする。その際、学生同士の相互カウンセリングで個々のCANを探索してみる。
<第8講>
概要：キャリアデザインの理論①
事前学習しておくべき用語やポイント[　積極的不確実性　]
詳細： キャリアデザインの際の「積極的不確実性」理論を取り上げる。将来は不確実であるが、一歩一歩進んでいけば、将来に近づくことが出来る。その意思決定の連続について考察する。
<第9講>
概要：キャリアデザインの理論②
事前学習しておくべき用語やポイント[　計画された偶発生　]
詳細： 将来何かが起こるが、何が起こるかはわからない。そこで、何がやってきても大丈夫なように常に準備し、学習し続けることが求められる。現状に安住せずに未来に向かって、はたらきかける姿勢を考える。
<第10講>
概要： キャリアデザインの理論③
事前学習しておくべき用語やポイント[　プロティアンキャリア　]
詳細： キャリアは自分一人でデザインされるものではない。常に人と人との関係でキャリアが形成される。それをプロティアンキャリアというが、人との関係がキャリアをつくるのならば、どのように人間関係が関与するのか、さらに学生時代の今、出来ることを考えていく。
<第11講>
概要： キャリアの運命論
事前学習しておくべき用語やポイント[　運命　]
詳細： キャリアは遺伝子や生まれ・育ちで決まるのだろうか。確かにそのような要素は無視できないが、だからといって全てを運命だとあきらめてしまうのでは、希望がない。キャリアと運命について考察していく。
<第12講>
概要： 人生の目的
事前学習しておくべき用語やポイント[　人生、運命　]
詳細： 生きていく目的はなんだろうか。生をうけて、単に生きているだけが人生ではないだろう。では何のために生きていくのか、自身の人生の目的を考えてみる。

<第13講>
概要：社会人基礎力
事前学習しておくべき用語やポイント[　社会人基礎力　]
詳細：社会人として求められる社会人基礎力の各能力について詳細に解説する。それらはどのように獲得すれば良いのか、残りの大学生活を設計してみる。
<第14講>
概要： 日本のキャリアシステム
事前学習しておくべき用語やポイント[　終身雇用、日本的経営　]
詳細： キャリアは必ずしも自分自身が描いた通りにはならない。特に会社での人事は自分の想い通りにはならない。日本企業のキャリアシステムについて説明し、今後の自分のキャリア形成に対処する方法を考える。
<第15講>
概要： 講義内容理解確認のための試験
事前学習しておくべき用語やポイント[全講義の内容確認]
詳細：試験問題は講義内（一ヶ月程度前）で発表する。資料の持ち込みは可とし、事前に調べておかないと回答できない論述問題が出題される予定である。

■教科書

特になし

■指定図書

渡邉美樹『きみはなぜ働くか。』日本経済新聞社
立花貴『心が喜ぶ働き方を見つけよう』大和書房

■参考文献

講義内に適宜紹介する

■参考URL

■評価方法

講義の最終回に試験を実施し、その答案の量と質で評価する。
出席点は加点されるが、減点はされない。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

真摯な態度で講義にのぞむこと。
ディスカッションに参加すること（聴くだけの授業ではない）。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名 キャリアデザインⅠ(Employment and Management Ⅰ)

サブタイトル 自分の人生を自ら創る方法

担当教員 浜田　正幸

■講義目的

1年生の秋学期は、大学生活全体から俯瞰すると、どのような位置づけにあるのか、また社会人として成長していく過程として、どのようなキャリアポジションにあるのかを認識する。
その上で、自分自身のキャリアデザインをどのようにしていくのか熟考し、人生をどのように創っていくのか、その方法と演習を行う。
以上を通じて、2年時からスタートするホームゼミナールを選択し、以降の大学生活を自ら計画していくことを目的にする。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成

■到達目標

本講のゴールは以下である。
1. ホームゼミナールを選択し、そこで何を学ぶのか、各人が目的意識を明確に持つ。
2. 大学の先にある社会人イメージを持つ。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
GD・GW・PR
：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： 全体の位置づけ
事前学習しておくべき用語やポイント[　ホームゼミナール、就活時期　]
詳細： 大学1年の秋学期が大学生活全体でどのような位置づけにあるのか確認し、この時期に何をすべきなのか明確にする。
<第2講>
概要：ゼミナールとは何か？
事前学習しておくべき用語やポイント[　ホームゼミナール、プロジェクトゼミナール　]
詳細： ゼミナールとは何をどのように学ぶのか？
高校まで、ほとんどの人がゼナールを体験していない。ゼミナールが何をどのように学ぶ場なのか、様々なゼミのバリエーションを取り上げて紹介する。
<第3講>
概要：ゼミ選択
事前学習しておくべき用語やポイント[　ホームゼミナール、専門領域　]
詳細： ゼミ選択はどうすればよいのか？
ゼミ選択は、いくつかの切り口がある。その切り口を解説し、自分自身のゼミ選択に活用できるようにする
<第4講>
概要： ゼミ選択の演習①
事前学習しておくべき用語やポイント[　多摩大学HP内のホームゼミナールを研究しておく　]
詳細： どのゼミを選択したいか、その目的、志望動機などを記述してみる。
<第5講>
概要： やりたいこと
事前学習しておくべき用語やポイント[　キャリアデザインのWILL, MUST, CAN　]
詳細：自分がやりたいことは何か？　何になりたいのか？
多くの若者がやりたいことやなりたい自分がイメージできていない。一般のキャリア論では、それが決まらないと始まらないと言われているが、それは、徐々に見つけていけばよい。
<第6講>
概要：将来のイメージ
事前学習しておくべき用語やポイント[　職種、業種、業界　]
詳細：将来の職種、業種・業界を想定してみる。漠然としたところから始めて、ぼんやりイメージできればよい。
<第7講>
概要： リーダーシップ論
事前学習しておくべき用語やポイント[　リーダーシップ論　]
詳細： リーダーシップは社会人能力として必須であるが、ほとんど学ぶことなく社会に出て行く。ここでは、リーダーシップとは何かを解説し、その能力をどのようにトレーニングすればよいのか確認する。
<第8講>
概要： 調査・分析演習
事前学習しておくべき用語やポイント[　現状分析、社会人基礎力、調査方法　]
詳細： 企業研究と分析の演習を通じて、社会人に必須の調査・分析力を確認する。
<第9講>
概要：社会人に求められる能力
事前学習しておくべき用語やポイント[　社会人基礎力　]
詳細： 社会人に求められる能力を解説し、自分自身の能力を自己評価する。
<第10講>
概要： ゼミ選択の演習②
事前学習しておくべき用語やポイント[　多摩大学HP内のホームゼミナールを研究しておく　]
詳細： どのゼミを選択したいか、その目的、志望動機などを記述してみる。
<第11講>
概要：何ができるのか（演習）
事前学習しておくべき用語やポイント[　キャリアデザインのWILL, MUST, CAN　]
詳細： 自分のできること、得意なこと、関心領域ついて、リスト作成の演習を通じて確認していく。
<第12講>
概要：キャリア理論
事前学習しておくべき用語やポイント[　プロティアンキャリア、Planned Happenstance Theory　]
詳細： 自らのキャリアは、自ら創っていく。そのための方法を学び、自分自身のキャリアデザインに活用する。
<第13講>
概要： 能力の習得と計画化
事前学習しておくべき用語やポイント[　人材開発、能力開発の方法論　]
詳細： 社会人に求められる能力を自己評価し、足りない能力や伸ばしたい能力を特定し、それを今後の学習でどのように習得していくのか計画化する。
<第14講>
概要： 視野を広げる
事前学習しておくべき用語やポイント[　世界・地球規模の課題　]
詳細： グローバル化の中で、日本や自分自身の立ち位置を再確認すべく、世界レベルで現状をとらえる。
<第15講>
概要： 講義内容理解確認のための試験
事前学習しておくべき用語やポイント[全講義の内容確認]
詳細：試験問題は講義内（一ヶ月程度前）で発表する。資料の持ち込みは可とし、事前に調べておかないと回答できない論述問題が出題される予定である。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

講義内に適宜紹介する

■参考URL

■評価方法

講義の最終回に試験を実施し、その答案の量と質で評価する。
毎回実にレポートを課す。その内容を評価に加味する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

毎回の講義で、パソコンを使用する。各人が必ずパソコン持参のこと。

科 目 名　キャリアデザインⅡ(Career Design Ⅱ)

サブタイトル

担当教員　トータル アカデミー

■講義目的

キャリアデザインⅡ（開発）は、学生が社会の仕組みの中で働く力をつけることを目的とする。社会という大きな仕組みの中で其々の役割を担う社会人に求められる様々なスキル、常識、マナーなどを学ぶことにより、社会で活躍できる人材の育成を実現する。

ビジネスマナー、コミュニケーションマナー、来客応対はもちろんのこと、就業マナーやコンプライアンスに関する事項も理解を促し、自信を持って社会に羽ばたいて頂ける基礎力を培う。

講座形式としては、グループディスカッションやグループワークを多く取り入れ、コミュニケーション能力を伸ばしながら、実践的に学べる本講義を通し、より多くの学生に、就職活動への橋渡しができるよう、社会人基礎力を培うことができる講座内容とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

社会人に求められるビジネスマナー、コミュニケーションマナー、就業マナー等の知識を身に付ける。敬語、電話応対、来客応対などの習得を通し、社会人となるための基礎力を培う。また、グループディスカッションやグループワークを多く取り入れることで、社会人として求められるコミュニケーション能力を伸ばす。ビジネスマナーの知識、敬語の修得、社会人基礎力養成を目標とする。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：

■講義の概要

<第1講>ガイダンス
概要：キャリアデザインⅡ（開発）の全15回の概要を説明。単位修得に際しての評価基準等詳細を明示する。
事前学習しておくべき用語やポイント[キャリア]
詳細：　第一印象をアップするための基礎トレーニングとして発声練習ならびに表情訓練を行う。また、習得するのに継続したトレーニングが必要な敬語の実践的な練習を行う。この基礎トレーニングを実践することで、より効果的に好感度を高めることができる。今後は、基礎トレーニングを習慣的に実践することを求める。特に敬語が日常の会話で使いこなせるよう反復練習する。
<第2講> キャリアデザイン
概要：就職活動の現状把握
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、インターンシップ]
詳細：　就職活動の現状を解説する。また、最近多くの企業で取り入れられているインターンシップについて解説する。企業側、学生側双方のメリット、参加に際しての心構えを解説し、より多くの学生の前向きな実習への取り組みを促す。次回までに、インターンシップの取り組みに関し、自己の考えをまとめる。
<第3講> 自分を知る
概要：自己分析を行い、自己のアピールポイントを知り、自己啓発に繋げる。
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、自分史作成資料集め]
詳細：　自分の長所や短所、興味、関心を整理し、自己PRを作成しておくことは、卒業後の仕事やキャリアを考える上で重要なことである。また、面接でも自己PRは必ず聞かれるため、自信が持てる自己PRを作成することは、就職活動を行う上で必要なことである。次回までに、自分史を完成させる。
<第4講>立居振舞い
概要：好印象につながる所作/立ち姿・座り姿・立ち方・座り方・歩き方・お辞儀/動作に添えるもの5つ
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習]
詳細：　人と接する上で、印象を大きく左右する立居振舞いについて、立ち姿、座り姿など6項目に分けて実践的に習得する。繰り返し実技をすることで、より美しい身のこなしが自然にできるようにする。本講義後も、自宅で、学んだ立居振舞い6項目を身につくまで復習することが必要である。
<第5講>ビジネスマナー
概要：　社会人の常識/プラスの心理・マイナスの心理/挨拶・笑顔・身だしなみ・言葉遣い・
態度
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ビジネスマナー]
詳細：　ビジネスマナーについて、基本事項を講話を交えて分かりやすく解説。就職活動につながる知識を身に付ける。とりわけクッション言葉や効果的な依頼の仕方など普段から活かせる言葉のテクニックを中心に学ぶ。本講義後は、本講義で学んだことを日常の生活に取り入れるよう努めていただきたい。特に、挨拶の励行、笑顔トーク、身だしなみ（髪型、服装、メイク等）の配慮、正しい言葉遣い、向上心を持ったよい態度は重要である。
<第6講>コミュニケーションマナー
概要：電話のマナー／Eメールのマナー／手紙のマナーについて学習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、コミュニケーション]
詳細：　電話のかけ方、受け方、携帯電話の扱いも含めた電話、Eメール、手紙など、コミュニケーションツールを使用する際のマナーを学ぶ。次回までに、電話独自の言い回しなど、本講義で学習したことを確認しておく。
<第7講>ビジネス文書作成演習
概要：　お礼状の書き方（例:インターンシップのお礼状）、お詫び状の書き方（例:内定辞
退のお詫び状）を学習し、必要な時に備える。
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ビジネス文書]
詳細：　お礼状とお詫び状の書き方のポイントを学習する。インターンシップや面接終了後にお礼状を出すことを徹底するため、書き方も実践的に習得する。次回までに、本講義で作成したお礼状を参考に、別パターンのお礼状を書いてみる。
<第8講>就業マナー
概要：個人情報管理と守秘義務／公私混同、受命・報告／報告・連絡・相談の重要性とその正しい振舞い方を解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、就業マナー]
詳細：　入社後、職場でよい評価を受けるために、社会人の常識である就業マナーを学ぶ。出社時間・就業時間の常識や、コンプライアンスに関わる個人情報管理と守秘義務について、危険性も含めて講話する。公私混同と捉えられる行動についても抑止し、コンプライアンスの問題に巻き込まれないよう注意を促す。
<第9講>接遇マナー
概要：来客応対／物の授受・湯茶接待・ご案内・指し示し方・上席の知識・名刺交換・メモの取り方・お見送りなど
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、接遇]
詳細：　「物の授受」「湯茶接待」「ご案内」「指示し方」「上席の知識」について学習し、繰り返し練習して身に付ける。
<第10講>グループワーク①
概要：グループディスカッション
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ディスカッション]
詳細：　学生と社会人の違いとは、入社までに具体的に何を習得することが必要か、職場でどのようなことが求められるか等をディスカッション形式で考え、認識を新たにする。このことにより、本講座で学習したビジネスマナー、コミュニケーションマナー、就業マナー等の復習を行う。
<第11講>グループワーク②
概要：グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ホウレンソウ]
詳細：　職場で多くの指示のもとに仕事をする中で特に大切な指示の受け方や報告の仕方について学ぶ。報告・連絡・相談（ホウレンソウ）の必要性を解説し、実際にグループワークでは、職場上司と実習生のロールプレイを通し、指示を受ける際、報告をする際のポイントを習得する。
<第12講>グループワーク③
概要：グループディベート
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ディベート]
詳細：　就職活動の面接形式として採用されているグループディベートについて解説し、実際に体験する。
<第13講> グループワーク④
概要：電話応対を想定したロールプレイ
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、第6講の復習]
詳細：　第6講で学んだ、コミュニケーションマナーの中で、電話応対について再確認し、実際の場面を想定したロールプレイをグループワークで実施。正しい電話応対について学び、スムースに電話のやり取りができるよう、実践を通して習得する。
<第14講>グループワーク⑤
概要：来客応対を想定したロールプレイ
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、第9講の復習]
詳細：　第9講で学んだ、「物の授受」「湯茶接待」「ご案内」「指示し方」「上席の知

識」などをお客様と職員の役割分担をして、小道具を使用して、実践的にロールプレイで習得する。これは、接客適性にも繋がる技量なので、学生時代に、磨けるだけ磨き、社会人基礎力をアピールできるよう取り組む。次回までに、学んだお茶出しやご案内の仕方等を自宅で復習する。
<第15講>期末試験
概要：期末試験実施
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習]
詳細：　テキストを中心に講義内容より出題。特に必須事項を復習することで、より有利な就職活動に繋げる。

■教科書

「多摩大学　就活ハンドブック」日本トータルアカデミー松井直美（又は、同　就職活動必勝マニュアル）

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

「出席回数」「授業態度」「提出物」合わせて50%+「期末テスト」50%=100%

■評価基準

相対評価
　期末試験により、講義内容の習得度を測る。グループワーク等の取組む姿勢、授業態度、提出物、出席回数等も加味して評価する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　キャリアデザインIII（Employment and Management III）

サブタイトル　就職して働くためのキャリアデザイン

担当教員　浜田　正幸

■講義目的

自らの意思で社会人になる。
大学を卒業したら、自動的に社会人になるわけではない。自ら社会人という地位と役割を、選び取り、そのキャリアを自ら創っていかなければ、社会人にはなれない。
本講では、社会人になる一つの道筋として、就職を標榜する。
① 就職するために、何ができていなければならないのか
② 採用する側の企業は、どのような仕組みになっているのか
③ どのようにして就職し、働き始めるのか
以上のことを明らかにし、自らのキャリアをデザイナすることが目的である。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成

■到達目標

各人が就職活動に取り組む覚悟と、具体的な行動がイメージできることが、本講のゴールである。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
GD・GW・PR
：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： 本講の全体像
事前学習しておくべき用語やポイント[　就職、就職活動　]
詳細： 就職活動とは何をすればよいのか？
本講では、何を学ぶのか説明し、同時にラーニングゴールを明確にする。すなわちガイダンスである。
<第2講>
概要：会社選び
事前学習しておくべき用語やポイント[　業種、業界、株式上場、理念、ビジョン]
詳細： 就職しようとする時、どのように会社を選べばよいのだろうか？
会社の選び方は、さまざまな視点でとらえる必要がある。その視点を使って、方向性をさだめる。
<第3講>
概要：会社研究
事前学習しておくべき用語やポイント[　会社四季報、HP、就職サイト　]
詳細： ある程度、業種・業界を絞り込んだ後、具体的な企業はどのように研究すればよいのか？
業界研究、企業研究の方法について、複数のツールの使い方を知り、実際に調べてみる。
<第4講>
概要： 選考の進み方
事前学習しておくべき用語やポイント[　エントリー、会社説明会面接、グループワーク、筆記試験　]
詳細： 就活はどのように進んでいくのか？
就活の A to Z を時系列で解説するとともに、各段階で具体的にどのようなイベントがあり、どう対処すべきなのか解説する。
<第5講>
概要： グループワークの演習
事前学習しておくべき用語やポイント[　グループワーク、役割、司会、書記、タイムキーパー　]
詳細：グループワークは、どうすれば及第することができるのか？
実際にグループワークを実施し、選考側はどこをみているのかを知り、自分自身の能力を把握する。同時に自信の課題の克服方法を考える。

<第6講>
概要：自己分析
事前学習しておくべき用語やポイント[　自己分析、マインドマップ、履歴書、エントリーシート、自己PR　]
詳細：自分らしさは何か？　会社に対して、自分の何をアピールするのか？
会社に対して何を伝えればよいのか、自分自身の特徴や特性をあぶり出す。また、会社が知りたがっていることを知って、それに対する自分自身の直球ど真ん中の球をみつける。

<第7講>
概要： 履歴書の作成演習
事前学習しておくべき用語やポイント[　履歴書　]
詳細： 履歴書の書き方を解説し、形式的に書く部分を書式に従って、正確に書いてみる。また、前講の自己分析を基にして、自己PRを簡潔に書いてみる。
<第8講>
概要： 会社のキャリアマネジメント 等級制度
事前学習しておくべき用語やポイント[　等級制度、資格制度、コース別管理　]
詳細： 会社では、どのように社員のキャリアを管理しているのか？
就職の際に事前に知っておかないと、就職後「こんなはずではなかった」と後悔しないために、知っておくべき等級制度やコース別人事について理解する。
<第9講>
概要： 会社のキャリアマネジメント 賃金制度
事前学習しておくべき用語やポイント[　初任給、基本給、手当、賞与、業界水準　]
詳細： 会社では、どのように社員の賃金を管理しているのか？
就職の際に事前に知っておかないと、就職後「こんなはずではなかった」と後悔しないために、知っておくべき賃金制度や昇給について理解する。
<第10講>
概要： 会社のキャリアマネジメント 評価制度
事前学習しておくべき用語やポイント[　成果主義、年功賃金、　]
詳細： 会社では、どのように社員を評価しているのか？
就職の際に事前に知っておかないと、就職後「こんなはずではなかった」と後悔しないために、知っておくべき評価制度や昇進・昇格の仕組みについて理解する。
<第11講>
概要： 会社での働き方
事前学習しておくべき用語やポイント[　労務管理、労働基準法　]
詳細： 会社に入ったら、どのような働き方をするのか？　週休2日なのか？　残業はあるのか？
会社に入ったら、どのような働き方をするのかイメージできた方がよい。労働条件や労務管理のルールや仕組みを理解する。
<第12講>
概要: 社会人として求められる能力
事前学習しておくべき用語やポイント[　社会人基礎力、　コンピテンシー]
詳細： 社会人として求められる能力は何か。それはどのように習得するのか？
社会人として求められる能力は、専門能力ではない。いわゆる社会人基礎力といわれるものである。それを獲得することと、ペーパー試験で高い点数を採ることとは、全く異なるものである。これから、どのような能力をどのようにつけるべきなのか解説する。
<第13講>
概要： 社会人基礎力を用いた仕事の演習
事前学習しておくべき用語やポイント[　問題解決力、問題解決技法　]
詳細： 前講で仕事をする際に求められる能力について理解したが、実際にその能力を使って、会社の一般的な課題を例題として仕事のシミュレーションを体験してみる。
<第14講>
概要： 就職の現状
事前学習しておくべき用語やポイント[　大卒就職率、離職率、第二新卒　]
詳細： 現実の就職や雇用の実態について理解を深め、これから始まる就職活動に向けて、何をしなければならないのか、行動計画を立案する。
<第15講>
概要： 講義内容理解確認のための試験
事前学習しておくべき用語やポイント[全講義の内容確認]
詳細：試験問題は講義内（一ヶ月程度前）で発表する。資料の持ち込みは可とし、事前に調べておかないと回答できない論述問題が出題される予定である。

■教科書

特になし

■指定図書

渡邉正裕『若者はなぜ「会社選び」に失敗するのか』東洋経済新報社
渡辺峻『大学生のためのキャリア開発入門』中央経済社

■参考文献

講義内に適宜紹介する

■参考URL

■評価方法

講義の最終回に試験を実施し、その答案の量と質で評価する。
毎回ミニレポートを課し、その内容が評価に加味される。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

毎回パソコン必須、持参のこと。

科目名　教育心理学（Educational Psychology）

サブタイトル

担当教員　大森　拓哉

■講義目的

教育心理学とは、人間の「教える」「学ぶ」という営為について、心理学の観点から科学的に理解・考察する学問である。この学問の目的は、心理学の研究から得られた知見や技術を教育活動の場に応用することによって、教育という活動を社会において効率的・効果的に行えるようにすることである。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

教育・発達について、心理学的な観点から科学的に理解し、一般社会における学校教育・社会教育においても本講義で学んだ知見を応用できるようにすることを目標とする。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習なし

■講義の概要

<第1講>
概要： 教育心理学とは何か
事前学習しておくべき用語やポイント[教育心理学、発達、学習]
詳細：心理学における教育心理学の担う役割、教育における教育心理学の重要性、教育心理学で取り上げるテーマなどについて概説する。
<第2講>
概要：教育と発達
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：生まれてから成人になるまでの発達過程と、その過程での心理状態、発達の状況に応じた教育方法などについて解説する。
<第3講>
概要：認知発達
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：人間の発達における認知能力の変化と、人間の脳のしくみ、認知機構などについて概説する。
<第4講>
概要：学習理論
事前学習しておくべき用語やポイント[学習、習得、記憶、棒客]
詳細：教育の基本となる学習行動について、心理学的な面から解説し、発達に応じた学習方法や様々な学習形態について言及する。
<第5講>
概要：教授・学習過程
事前学習しておくべき用語やポイント[集団学習、個別学習]
詳細：教授 - 学習過程は学校教育におけるもっとも基本的な形態である。その形態の中でも様々な方法が存在するが、適切教授方法、学習方法などについて概説する。
<第6講>
概要：意欲と動機づけ
事前学習しておくべき用語やポイント[古典的条件付け、オペラント条件付け]
詳細：学習するための動機には様々なものがあるが、学習する意欲との関係は大きい。そのための動機付けの意義や、条件付けのための理論・方法などを解説する。
<第7講>
概要： パーソナリティ・個人差
事前学習しておくべき用語やポイント[パーソナリティ]
詳細： 性格の違い、能力の違いは多かれ少なかれ存在するものである。個人個人の持つもの（パーソナリティ）について、性格や能力について考える。
<第8講>
概要：個に応じた学習指導
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：個々の児童・生徒には必ず個人差が存在する。その差は個性・性格の違い・能力の違いなどさまざまである。個人個人に合った教育やその方法はどのようなものかについて考える。
<第9講>
概要：集団における人間関係
事前学習しておくべき用語やポイント[集団行動]
詳細：人間社会は集団の中での生活であり、学校現場も集団生活の場である。その中での教育がどのように行われるべきか、集団行動の中での人間関係がどのようなものであるか、クラス集団などがどのような役割を果たしているか、などについて考える。
<第10講>
概要：言語の発達
事前学習しておくべき用語やポイント[言語発達]
詳細：幼児は成長とともに言語を獲得する。その際の概念獲得と教育の方法について解説する。
<第11講>
概要：数概念の発達と算数・数学の学習
事前学習しておくべき用語やポイント[数概念の獲得]
詳細：数の概念は成長とともに正確に学習されるが、その途中段階での様子とそれに応じた学習などについて解説する。
<第12講>
概要：知能と学力
事前学習しておくべき用語やポイント[知能検査、学力検査]
詳細：知能とは何か、学力とは何かということを考え、それらを図るためにはどのような方法があるかを考える。
<第13講>
概要：教育評価
事前学習しておくべき用語やポイント[テスト、評価]
詳細：学力の評価や態度評価など、教育において評価する場面は数多く存在するが、その評価の意味や役割などを正確に理解し、その評価の方法と活用の仕方などについて解説する。
<第14講>
概要： ライフスキルを高める教育
事前学習しておくべき用語やポイント[生涯学習]
詳細：教育は義務教育や高等教育などの学校教育で終わるものではなく、一生涯続くものである。社会人あるいはそれ以降においても教育・学習行動は必要となってくることは十分考えられる。それらのことを踏まえ、今後の日常生活と教育について心理学的な観点から解説する。
<第15講>
概要： まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：本講義のまとめを行う。

■教科書

特に指定なし。講義ごとに紹介する。

■指定図書

教育心理学Ⅰ、大村彰道編、東京大学出版会、1996
教育心理学、荒井邦二郎他、培風館、2009
よくわかる教育心理学、中澤潤編、ミネルヴァ書房、2008

■参考文献

特に指定なし。講義ごとに紹介する。

■参考URL

■評価方法

出席50%、課題50%

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

情報系科目全般

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は教職科目の中の一科目でもあるので、教職課程履修のものは必修の授業である。講義中の飲食、携帯電話操作、帽子・サングラスの着用等は厳禁である。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名 教育相談(Educational Counseling)

サブタイトル

担当教員 大森　拓哉

■講義目的

本講義は、教育場面において相談を受ける立場となった時のその方法や技術・知識の習得と、理論的学問的な背景、 実践場面での応用などについて学ぶ。実際にカウンセラーとなって 業務を行うには数多くの経験と豊富な知識が必要であり、本講義だけでそれを満たすことは 不可能であるが、相談を受ける立場の者として最低限必要な素養を身につけることを目的とする。 教育場面とは、学校教育のみならず、社会人教育、人材教育などの場面も想定し、実社会で必要な、意味のある知識を習得する。

■講義分類

志，キャリア
産業社会，サービス，最前線事例
課題発見，問題解決，実践的知識獲得
問題解決のための理論，問題解決のための科学，問題解決のための方法
顧客理解，ビジネス環境理解，ビジネス創造，ビジネスマネジメント，
社会人力育成，社会人基礎力

■到達目標

教育相談の理論と実践について、適切に理解し、実際の場面でも適応できるかどうか。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： 教育相談とは何か
事前学習しておくべき用語やポイント[教育相談、カウンセリング]
詳細：教育における相談とはどういうものか、相談体制、相談方法、教育相談の効果、教育の中での教育相談の役割、などについて包括的に講義する。
<第2講>
概要：幼児・児童期の発達
事前学習しておくべき用語やポイント[幼児期、児童期]
詳細：人が生まれてから幼児期、児童期までの心の動きと心身の発達について解説する。同時に、自分自身についての振り返りも行う。
<第3講>
概要：思春期・青年期の発達
事前学習しておくべき用語やポイント[思春期、成年期]
詳細：思春期・青年期の心の動きと心身の発達について解説する。
<第4講>
概要：不適応・不登校
事前学習しておくべき用語やポイント[不登校、不適応]
詳細：不適応・不登校の児童・生徒の実態と、その対応の方法と支援体制について解説する。
<第5講>
概要： いじめ・虐待
事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細：
<第6講>
概要：学習障害・発達障害
事前学習しておくべき用語やポイント[アスペルガー症候群、ADHD]
詳細：学習障害、発達障害といった
<第7講>
概要：学校カウンセリング
事前学習しておくべき用語やポイント[相談室、スクールカウンセラー]
詳細：学校における心理相談の体制、スクールカウンセラーの導入、その方法と効果などについて解説する。
<第8講>
概要： カウンセリングの技法①
事前学習しておくべき用語やポイント[心理カウンセリング、来談者中心療法]
詳細：カウンセリングの技法の概要とその手法について解説する。本講ではまずカウンセリングの流れを解説し、その後各手法について解説する。本講では来談者中心療法について解説する。
<第9講>
概要：カウンセリングの技法②
事前学習しておくべき用語やポイント[精神分析、行動療法、認知行動療法]
詳細：カウンセリングの各技法について解説する。本講では、精神分析、行動療法、認知行動療法等について解説する。
<第10講>
概要： カウンセリングの技法③
事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細： カウンセリングの各技法について解説する。本講では、自律訓練法、森田療法、音楽療法、箱庭療法などについて解説する。
<第11講>
概要：心理テスト①
事前学習しておくべき用語やポイント[質問紙法、性格検査]
詳細：面接場面における心理テストの方法として、質問紙法の利用の仕方について解説する。性格検査、抑鬱度測定検査などを実際に行いながら解説する。
<第12講>
概要：心理テスト②
事前学習しておくべき用語やポイント[面接法、投影法]
詳細：面接場面における心理テストの方法として、面接法や投影法による心理検査の利用の仕方について解説する。
<第13講>
概要：ソーシャルスキル・ライフスキル教育
事前学習しておくべき用語やポイント[社会性、対人関係、生涯教育]
詳細：良好な人間関係をつくり、保つための知識と具体的な方法であるソーシャルスキルと、生涯教育としてのライフスキルについて解説する。
<第14講>
概要： キャリア相談
事前学習しておくべき用語やポイント[進路指導、キャリア支援、就職指導]
詳細：進路指導、就職指導、将来のキャリア形成に関して、教育機関・教育者がどのようなことを支援すべきか等について解説する。
<第15講>
概要： まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細：これまでの講義のまとめを行う。

■教科書

プリント等を配布

■指定図書

教師のための学校カウンセリング、小林正幸他、有斐閣アルマ、2008
生徒指導と教育相談、角田豊編、創元社、2009
教師のためのカウンセリング実践講座、菅野純、金子書房、2007
教師のための教育相談の基礎、久芳美恵子、三省堂、2003

■参考文献

講義内で紹介する

■参考URL

■評価方法

出席・レポート50%、期末テスト50%

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は教職科目の中の一科目でもあるので、教職課程履修のものは必修の授業である。

科目名　近現代史：世界と日本（Modern History）

サブタイトル

担当教員　椎木　哲太郎

■講義目的

本講座は、史学科的な歴史研究ではなく、若い諸君が確固たる時代認識を持ち、これからの人生にどう向き合うかを考えるための一つの契機となることをめざしている。そして、現代の世界が直面する諸課題とその歴史的背景を知り、複雑な相互連関の中にある国際関係や経済問題を考察するための共通認識を深め、未来への適切な選択につなげていけるような歴史的教訓を得ることをねらいとしている。歴史を動かすものは何かと問いかけよう。さらに、日本の近現代についても、世界史の流れの中で再検討したい。幕末・明治維新以後の日本は、西洋近代の大きな歴史的潮流に抗えず飲み込まれたが、その一方で、渦中に消すことのできない楔を打ち込み、近現代世界史の1ページを飾る主体へと変身した。

グローバル化の中を生き抜くためには、他者を知らねばならない。世界の各地域、欧米や中国、アジア、ロシアやイスラーム世界について理解を深めるには、地政学的視点とともに、その歴史に遡って考究することが不可欠であろう。アジア・太平洋地域の協力関係のあり方をめぐっては議論が分かれているが、仮に「東アジア共同体」といった枠組みを志向するのであれば、EUへの道のりがどのような茨に満ちたものであったかを追跡しておく必要があるのではないだろうか。少子・高齢社会、「持続可能な社会」への取り組みは、北欧諸国等の「実験」からも示唆を得ることができよう。

半期15回という限られた時間の中で、歴史を扱う際の時代的制約（現代の価値基準で評価することの危険性、等）を十分意識しつつ、こうした現代的問題意識に沿って、通史よりもテーマ中心の大胆なアプローチを試みたい。前半で歴史を動かす諸要因について検討し、後半では欧州、米国、中国、ロシア、アジア・アフリカ、イスラーム世界、そして日本の近現代史について概観する。20世紀的原理とはいかなるものであったのだろうか。21世紀において、それはどのように展開、変容を遂げていくのであろうか。配布資料の事前の読解（予習）を前提に、ディスカッションを交えた密度の濃い講座となるよう心がけたい。また諸君にも、自らが歴史を創る主体に他ならないことを銘記して臨んで頂くことを期待する。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

世界と日本の相互作用、光と影に満ちた近現代史を学ぶことを通じて、現代社会の直面する諸課題の解決につながる豊富な示唆を獲得し、学問としての社会研究の基盤と、グローバル社会に生き、グローバルビジネスを円滑に進めるために有効な視座を構築することができる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>近現代史と現代社会
概要：現代とのつながりを意識し、近現代史を学ぶ意義を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[近代，現代，第二次世界大戦，国際連合（連合国），G20]
詳細：何のために歴史を学ぶのか。歴史研究はどう「役に立つ」のか。2009年の第二次世界大戦開戦70周年、2011年のアジア・太平洋戦争開戦70周年等を例に、現在は歴史とどうつながっているのか、いかなる歴史的枠組み、世界秩序の下にあるのかを考える。これまでの近現代史には進歩史観・西欧中心史観が色濃く投影されており、それがどのような社会的影響を及ぼしてきたかを考察する。
<第2講>近現代通史を紐解く
概要：近代の始まりから時系列的に近現代史の流れを跡づける。
事前学習しておくべき用語やポイント[近世，ルネサンス，宗教改革，大航海時代，主権国家，科学革命，近代合理主義，市民革命，産業革命，国民国家，議会制民主主義，資本主義，帝国主義，近代経済成長，共産主義，コミンテルン，ファシズム]
詳細：近代は中世と何が異なるのか。歴史に法則はあるのか。何が歴史を動かすのか。歴史学の新しい動きとは？議会制民主主義はいかに誕生し、世界的に普及していったのか。産業化，「産業革命」の実態と波及過程はどのようなものであったのか。20世紀を考える上で欠かせない「共産主義」とはいかなるものか。それはどのような影響を与えたのか。
<第3講>歴史からの教訓：ヴァイマル共和政の崩壊を例に
概要：歴史からの教訓を得ることの重要性について、ヴァイマル共和政を例に考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[第一次世界大戦，ヴェルサイユ体制，ヴァイマル共和政，ハイパー・インフレーション，ヴァイマル憲法，ヴァイマル文化，社会民主党，ナチズム，ナチ党]
詳細：なぜ選挙を通じてナチ党が第一党となって政権奪取に成功し、民主的憲法を持つヴァイマル共和政は崩壊したのか。マクロ経済のパフォーマンスと政治的混乱はどうつながるか。後にホロコーストを起こし、多くの戦争犠牲者を生み出したヒトラーの野望をどうすれば阻止することができたのか。ファシズム、ナチズム、全体主義とは、どのような歴史的背景で誕生し、いかなる性格を持った社会運動なのか。
<第4講>リーダーシップの役割
概要：歴史の動向を決定づけたリーダーたちの決断についてその当否と成否を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[スペイン内戦，ミュンヘン会談，チャーチル，東西「冷戦」，キューバ危機，ベトナム戦争，ケネディ，渋澤栄一]
詳細：チャーチル、ケネディ、渋澤栄一の3人を例に、そのリーダーシップがどのように歴史を変え、動かしたかを明らかにする。1938年9月の「ミュンヘン会談」でヒトラーを阻止できなかったチェンバレンと、度々失敗を犯しながらも戦時宰相として返り咲き「大英帝国」を守るためにリーダーシップを発揮したチャーチルの違いは何か。1962年のキューバ危機、あるいは後のベトナム戦争に際して、ミュンヘン会談の教訓はどう生かされたか。渋澤栄一が日本の近代化過程において果した役割の重要性は、今日の発展途上国にどのような示唆を与えるか。「英雄史観」の問題点は何か。
<第5講>近代経済成長と社会経済思想の役割
概要：近代経済成長の過程を概観し、近現代史を動かしたいくつかの社会経済思想について掘り下げる。
事前学習しておくべき用語やポイント[重商主義，アダム・スミス，自由放任，社会民主主義，共産主義，ケインズ，混合経済，ハイエク，新自由主義]
詳細：近代経済成長はいかにして実現されたのか。19世紀前半以降に急激な成長への離陸が見られたのはなぜか。アダム・スミスやマルクス、ケインズ、ハイエク等の社会経済思想は、現代にどのような影響を及ぼしているのか。20世紀を動かした社会経済思想はどのようなものであったか。欧州社会主義の主流はマルクス=レーニン主義（共産主義）ではなく、日本人には馴染みの薄い「社会民主主義」であった。社会民主主義とはいかなる社会思想か。前世紀末から今世紀初頭にかけて世界を席捲した「新自由主義」は、いかにして誕生したのか。

<第6講>ヨーロッパの近現代
概要：EU統合に至るヨーロッパの近現代史について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[EEC，NATO，EU，社会民主主義，キリスト教民主主義，福祉国家]
詳細：EU統合への道は、いかなる要因、思想、リーダーシップによって切り拓かれたのか。そのプロセスは「東アジア共同体」をめぐる議論にいかなる示唆を与えるのか。ヨーロッパのアイデンティティとは何か。アメリカとは何が異なるのか。欧州社会民主主義は、例えば北欧諸国、ドイツ、オランダ等においてどのような社会的実験に取り組み、具体的成果を上げてきたのか。保守勢力との対立点は？近年の社会民主主義はいかなる変貌を遂げつつあるのか。
<第7講> アメリカの近現代
概要： アメリカとはいかなる国か、200年の歴史の中でどう変貌を遂げたか。
事前学習しておくべき用語やポイント[建国宣言，トクヴィル，WASP，モンロー主義，ニューディール連合，公民権運動,ベトナム戦争，対抗文化，レーガノミクス，宗教右派]
詳細：自由と民主主義の国、アメリカはいかにして形成されたのか。19世紀初めに訪米した仏人貴族アレクシス・ド・トクヴィルにとって、アメリカはヨーロッパとどのような違いを持つ国として映ったか。フランクリン・ローズヴェルト大統領のニューディール政策とはどのようなもので、それまでのアメリカをどう変えたのだろうか。1960年代の公民権運動、ベトナム戦争以後、アメリカ社会はどのような変貌を遂げていったのだろうか。レーガン大統領の登場はアメリカに何をもたらしたのだろうか。「二つのアメリカ」と呼ばれるような今日の状況は、いかにして生じたのであろうか。
<第8講>ロシア・東欧の近現代
概要： 世界初の共産革命を起こした大国ロシアの集権制の背景には何があり続けたのか。
事前学習しておくべき用語やポイント[ロマノフ王朝，ロシア正教会，農奴解放，ロシア革命，ボリシェヴィキ，スターリン，計画経済，スターリン批判，ペレストロイカ，ソ連解体]
詳細：文豪ドストエフスキーやトルストイの見た後発資本主義国ロシアの実態は、いかなるものであったか。1917年のロシア革命では、なぜ世界で初めて共産党が政権を奪取することができ、体制維持をなしえたのか。革命はその後の世界にどのような影響を与えたのか。それから74年後、ソ連邦はなぜ崩壊することになったのか。スターリンの独裁はなぜ生まれ、何を引き起こしたのか。「ベルリンの壁」はなぜ崩れたのか。
<第9講>中国の近現代

概要：清朝の崩壊から中華人民共和国の建国、高度成長に至る近現代史について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[華夷秩序，清朝，乾隆帝，マカートニー，アヘン戦争，辛亥革命，孫文，国民党，蒋介石,中国共産党，五四運動，国共内戦，毛沢東，文化大革命，鄧小平，改革開放，天安門事件]
詳細：中国とはいかなる国か。「中華思想」と言われるものはどのような歴史的起源を持ち、清朝にあってはいかなる形で西欧諸国に向けて発露されたのであろうか。辛亥革命はどのようにして実現したのか。共産党はなぜ国民党との内戦に勝利できたのだろうか。文化大革命とはいかなるもので、現在の中高年世代はどのような犠牲を払ったのであろうか。鄧小平の思想と改革の内容とは？中国の「市民社会」の動向をどう見るべきか。
<第10講>日本の近現代(1)
概要： 日本の近代化はどのように実現され、日本人の世界認識はどう変わったのか。
事前学習しておくべき用語やポイント[江戸時代，明治維新，文明開化，自由民権運動，脱亜入欧，大日本帝国憲法，統帥権，家父長制，男尊女卑，日露戦争，韓国併合，大正デモクラシー，在郷軍人会,憲政の常道]
詳細：江戸期の日本は、明治の近代化に何を提供することができたのか。開国後に訪日した外国人の目に映った日本とは？明治憲法体制（大日本帝国）とは？それを支えた草の根の組織とはどのようなものであったか。「富国強兵」はいかにして、どのような犠牲の上に実現されたか。日本人のナショナリズムとアジア観はどう変化していったか。戦前の日本には民主主義が存在しなかったとするブッシュ前米大統領に代表される歴史認識はどこが誤りか。
<第11講>日本の近現代(2)
概要：アジア・太平洋戦争の惨禍、戦後の高度経済成長とその終焉から何を学ぶべきか。
事前学習しておくべき用語やポイント[ワシントン体制，近衛文麿，北一輝，満州事変，国体，アジア・太平洋戦争，日本国憲法，占領改革，1955年体制，高度経済成長]
詳細：これまでの欧米諸国の近現代史に日本のそれを重ね合わせ、1930年代の世界がどのような動きをしたのかをトータルに描き出してみよう。日本はなぜアジア・太平洋戦争を起こし、多くの犠牲者を生むことになったのか。他の選択肢はなかったのか。戦争への圧力はどこから生まれたのか。欧州のファシズムと日本の軍国主義はどう異なるのか。「昭和」戦前の日本社会はどのようなものであったのだろうか。戦前と戦後では何が変わったのか。高度経済成長の要因は何か。日本人のめざすものは、どう変わってきたのか。「領土問題」を近現代史の中で考える。
<第12講>アジア・アフリカの近現代
概要： 19世紀に欧米の植民地とされたアジア・アフリカ諸国の独立とその後を展望する。
事前学習しておくべき用語やポイント[国民会議派，ウィルソンの14か条，ガンディー，スワデーシ，ネルー，ヒンドゥー・ナショナリズム，ASEAN，ベルリン会議，ンクルマ，アパルトヘイト，ANC，AU]
詳細：アジア・アフリカ諸国の独立の契機は何か。イギリスに支配されたインドは、いかなる歴史を経て今日の経済発展にたどりついたのか。パキスタンとの関係は？国民会議派とはいかなる政治勢力であったのか。ヒンドゥー至上主義の本質は何か。ASEAN諸国の近現代史はどのようなものであったか。アフリカの貧困は何によってもたらされたのか。アジアと比較すると、何が障害となったのか。21世紀に入って、アフリカはどう変わりつつあるのか。
<第13講>イスラーム世界の近現代
概要：アフリカからアジアに至る広範なイスラーム世界の近現代史を展望する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ワッハーブ運動，シオニズム，バルフォア宣言，トルコ革命，汎アラブ主義，中東戦争，イラン革命，公正発展党，イラク戦争，アラブ革命]
詳細：かつて西洋文明（キリスト教世界）をリードしたイスラーム圏は、危機に直面してどのような復興・改革運動を展開したのか。「世俗化」とは何か。トルコやエジプトをはじめとするイスラーム諸国の近代化と、日本の近代化に至る歩み（攘夷→倒幕→文明開化）はどう重なるか。イラン革命とはいかなるものであったのか。中東紛争、パレスチナ問題の起源はどこにあるのか。なぜ深刻化したのか。中東諸国の民主化の動きはどう展開するか。何が影響を与えるのか。最後に中国、日本、アジア、アフリカの近現代史を重ね合わせ、非西欧世界の20世紀像をトータルに描き出してみよう。
<第14講>20世紀から21世紀へ
概要： 20世紀とはいかなる世紀であったのか。近現代史の学びを通じて、21世紀は何を受け継ぎ、何を変えねばならないのかを考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[産業主義，国民国家，ナショナリズム，大衆民主主義，ポピュリズム，地球環境問題，知識=情報社会，グローバル化]
詳細：近現代を貫いた諸原理、諸思想、行動様式は、どこまでが変わらず、どこまでが変わりつつあるのか。科学や技術の「進歩」は歴史をどう変えてきたのか、変えるのか。
<第15講>再び、近現代史と現代社会
概要：我々は近現代史から何を学んだのか。
事前学習しておくべき用語やポイント[歴史の潮流，歴史の教訓]
詳細：我々はどこへ向かおうとしているのか。歴史から得た教訓をどう生かさねばならないのか。講義全体を踏まえて、あらためて近現代史の学びから得られた認識を掘り下げる。
＊履修者少数の場合は、授業時間内試験を行う。

■教科書

使用しない（毎回資料を配布する）。

■指定図書

[1] 正村公宏(1995)『現代史』筑摩書房
[2] T.C.W.ブランニング編［望月幸男・山田史郎監訳］(2009)『オックスフォードヨーロッパ近代史』ミネルヴァ書房
[3] 久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士(2008)『現代中国の歴史 両岸三地100年のあゆみ』東京大学出版会
[4] 遠藤乾編(2008)『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会
[5] デートレフ・ポイカート［小野清美・田村栄子・原田一美訳］(1993)『ワイマル共和国 古典的近代の悲劇』名古屋大学出版会［原著：1987］
[6] 寺島実郎(2007)『20世紀から何を学ぶか(上)ー1900年への旅 欧州と出会った若き日本』新潮選書［原著：2000］
[7] 寺島実郎(2007)『20世紀から何を学ぶか(下)ー1900年への旅 アメリカの世紀、アジアの自尊』新潮選書［原著：2002］
[8] 正村公宏(1996)『世界史のなかの日本近現代史』東洋経済新報社
[9] 正村公宏(2010)『日本の近代と現代 歴史をどう読むか』NTT出版

■参考文献

[1]須藤眞志編（2005）『20世紀現代史』一藝社
[2]ポール・ジョンソン[別宮貞徳訳]（1992）『現代史：1917−1991』共同通信社
[3]ウィリアム・H・マクニール[増田義郎・佐々木昭夫訳]（2008）『世界史』（上・下）中公文庫
[4]『世界の歴史』中央公論社[全30巻]（1996−1999）
[5]『岩波講座 世界歴史』[全28巻]岩波書店（1997−2000）
[6]『興亡の世界史』[全21巻]講談社（2006−2010）
[7]『世界史資料』[全12巻]岩波書店（2006−刊行中）
[8]J.M.ロバーツ（2003）『世界の歴史』[全10巻]創元社
[9]『新版世界各国史』[全28巻]山川出版社
[10]ケンブリッジ版世界各国史　創土社（2005−刊行中）
[11]岩波書店『ヨーロッパ史入門』
　<第Ⅰ期>『ルネサンス』『フランス革命』『帝国主義』『ロシア革命1900−1927』『スターリニズム』他
　<第Ⅱ期>『ドイツ宗教改革』『市民結社と民主主義1750−1914』『冷戦1945−1991』他
[12]フェルナン・ブローデル[浜名優美訳]（1991−1995）『地中海』[全5巻]藤原書店
[13]イマニュエル・ウォーラースティン[川北稔訳]（1997）『近代世界システム1730−1840s 大西洋革命の時代』名古屋大学出版会
[14]アンドレ・グンダー・フランク[山下範久訳]（2000）『リオリエント：アジア時代のグローバル・エコノミー』藤原書店[原著：1998]
[15]水島司編（2008）『グローバルヒストリーの挑戦』山川出版社
[16]正村公宏（1993）『産業主義を越えて』講談社学術文庫[原著：1986]
[17]P.F.ドラッカー[上田惇生訳]（2008）『傍観者の時代 ドラッカー名著集12』ダイヤモンド社[原著：1979]
（経済史）
[18]ミシェル・ボー[筆宝康之・勝俣誠訳]『資本主義の世界史』藤原書店
[19]ポール・ケネディ[鈴木主税訳]（1993）『大国の興亡 決定版』（上・下）草思社[原著：1987]
[20]C．P．キンドルバーガー[中島健二訳]（2002）『経済大国興亡史 1500−1995』岩波書店[原著：1996]
[21]E.L.ジョーンズ[天野雅敏訳]（2007）『経済成長の世界史』名古屋大学出版会
[22]ウィリアム・バーンスタイン[徳川家広訳]（2006）『豊かさの誕生 成長と発展の文明史』日本経済新聞社[原著：2004]
[23]ダニエル・ヤーギン/ジョゼフ・スタニスロー[山岡洋一訳]（2001）『市場対国家 世界を作り変える歴史的攻防』（上・下）日経ビジネス人文庫[原著：1998]
[24]金井雄一・中西聡・福澤直樹編（2010）『世界経済の歴史 グローバル経済史入門』名古屋大学出版会
[25]アンガス・マディソン[金森久雄監訳]（2004）『経済統計で見る世界経済2000年史』柏書房
[26]宮崎犀一・奥村茂次・森田桐郎編（1981）『近代国際経済要覧』東京大学出版会
（アジア近現代史）
[27]『岩波講座東アジア近現代史』
[28]川島真・服部龍二編（2007）『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会
[29]三谷博・並木頼寿・月脚達彦編（2009）『大人のための近現代史19世紀編』東京大学出版会
[30]秋田茂（2003）『イギリス帝国とアジア国際秩序』名古屋大学出版会
[31]秋田茂（2012）『イギリス帝国の歴史 アジアから考える』中公新書

[32]杉原薫（1996）『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房
[33]スミット・サルカール[長崎暢子・臼田雅之・中里成章・粟屋利江訳]（1993）『新しいインド近代史−−下からの試み』Ⅰ・Ⅱ研文出版
[34]『岩波新書 シリーズ中国近現代史』
[35]礪波護・岸本美緒・杉山正明編（2006）『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会
[36]『中国の歴史』[全12巻]講談社（2004−2005）
[37]『原典中国現代史』[全8巻、別巻1]岩波書店（1994−1995）
[38]『新編原典中国近代思想史』[全7巻]岩波書店（2010−　）
[39]溝口雄三・丸山松幸・池田知久編（2001）『中国思想文化事典』東京大学出版会
[40]マカートニー[坂野正高訳]（1975）『中国訪問使節日記』[東洋文庫]平凡社
[41]ルシアン・ビアンコ[坂野正高訳／坪井善明補訳]（1989）『中国革命の起源 1915−1949』東京大学出版会
[42]厳家祺・高[コウ][辻康吾監訳]（2002）『文化大革命十年史』（上・中・下）岩波現代文庫[原著：1986]
[43]ユン・チアン+ジョン・ハリデイ[土屋京子訳]（2005）『マオ 誰も知らなかった毛沢東』（上・下）講談社
[44]高文謙[上村幸治訳]（2007）『周恩来秘録 党機密文書は語る』（上・下）文藝春秋
[45]飯島渉・久保亨・村田雄二郎編（2009）『シリーズ20世紀中国史』[全4巻]東京大学出版会
（アメリカ近現代史）
[46]有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎（2010）『アメリカ史研究入門』山川出版社
[47]アレクシス・ド・トクヴィル[松本礼二訳]（2005）『アメリカのデモクラシー』[第1巻上・下]岩波文庫[原著：1835]
[48]アレクシス・ド・トクヴィル[松本礼二訳]（2008）『アメリカのデモクラシー』[第2巻上・下]岩波文庫[原著：1835]
[49]宇野重規（2007）『トクヴィル 平等と不平等の理論家』講談社選書メチエ
[50]松本礼二（1991）『トクヴィル研究 家族・宗教・国家とデモクラシー』東京大学出版会
[51]J.ブアスティン[新川健三郎・木原武一訳]（1976）『アメリカ人 大量消費社会の生活と文化』（上・下）河出書房新社
[52]エリック・フォーナー[横山良次他訳]（2008）『アメリカ 自由の物語 植民地時代から現代まで』（上・下）岩波書店
[53]アメリカ学会編（2006）『原典アメリカ史 第8巻 衰退論の登場』岩波書店
[54]アメリカ学会編（2006）『原典アメリカ史 第9巻 唯一の超大国』岩波書店
[55]『史料で読むアメリカ文化史』[全5巻]東京大学出版会（2005−2006）
[56]秋元英一・菅英輝（2003）『アメリカ20世紀史』東京大学出版会
[57]グレアム・T・アリソン（1977）『決定の本質 キューバ・ミサイル危機の分析』中央公論社[原著：1971]
[58]アーネスト・メイ[進藤榮一訳]（2004）『歴史の教訓 アメリカ外交はどう作られたか』岩波現代文庫[原著：1977]
[59]デイヴィッド・ハルバースタム[浅野輔訳]（2009）『ベスト&ブライテスト』（上・中・下）二玄社
（ヨーロッパ近現代史）
[60]望田幸男・野村達朗・藤本和貴夫・川北稔・若尾祐司・阿河雄二郎編（2006）『西洋近現代史研究入門 第3版』名古屋大学出版会
[61]福井憲彦（2010）『近代ヨーロッパ史 世界を変えた19世紀』ちくま学芸文庫
[62]福井憲彦（2005）『ヨーロッパ近代の社会史 工業化と国民形成』岩波書店
[63]ノーマン・デイヴィス[別宮貞徳訳]（2000）『ヨーロッパ Ⅲ 近世』共同通信社
[64]ノーマン・デイヴィス[別宮貞徳訳]（2000）『ヨーロッパ Ⅳ 現代』共同通信社
[65]ジェイムズ・ジョル[池田清訳]（1975・1976）『ヨーロッパ100年史』（上・下）みすず書房[原著：1973]
[66]トニー・ジャット[森本醇訳]（2008）『ヨーロッパ戦後史』（上・下）みすず書房[原著：2005]
[67]E.H.カー[原彬久訳]（2011）『危機の二十年 理想と現実』岩波文庫[原著：1939]
[68]A・J・Pテイラー[吉田輝夫訳]（2011）『第二次世界大戦の起源』講談社学術文庫[原著：1964]
[69]遠藤乾編（2008）『原典ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会
（日本近現代史：一部）
[70]『日本の近代』[全16巻]中央公論新社
[71]坂野潤治（2012）『日本近代史』ちくま新書
[72]中村隆英（1993）『昭和史』Ⅰ・Ⅱ東洋経済新報社
[73]南亮進[牧野文夫協力]（2002）『日本の経済発展 第3版』東洋経済新報社
[74]渡辺京二（2005）『逝きし世の面影』平凡社ライブラリー[原著：1998]
[75]テッサ・モーリス・鈴木[藤井隆至訳]（2010）『日本の経済思想 江戸期から現代まで』岩波モダンクラシックス[原著：1991]
[76]三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧 補訂版』東京大学出版会
[77]筒井清忠（2012）『昭和戦前期の政党政治』ちくま新書
[78]加藤陽子（2009）『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社
[79]石川真澄・山口二郎（2010）『戦後政治史 第3版』岩波新書
（共産主義国家の近現代史）
[80]アーサー・ブラウン[下斗米伸夫監訳]（2012）『共産主義の興亡』中央公論新社
（ヨーロッパ各国近現代史）、（ロシア近現代史）、（イスラーム近現代史）、（アフリカ近現代史）、（日本近現代史）についてはここに掲載できなかったため、講義の中で紹介する。

■参考URL

■評価方法

評価は、期末試験[持込み不可]の結果(70%)、レポート・小テスト・出席(30%)により行う.

■評価基準

試験範囲が十分学習され、理解できているか。答案に学習の形跡が十分認められるか。配布資料や文献が読み込まれ、シラバスに記載された「論点」、そして私が講義の中で力点を置いて詳述した内容が十分説明できているか。近現代史に関するトータルかつ体系的な認識が深まり、視野が広がったか。

相対評価

■事前履修科目等

「歴史と文化」を履修済みであることが望ましいが、必要条件ではない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は毎回、前週に配布した資料を読み込んでいることを前提として進行する。資料の持参を忘れた者、読んでこなかった者は、原則として当日の受講を認めない。また、第2回までに重要不可欠な点を説明するとともに、連続性を重視した積み上げ型の講義であるため、第2回の講義までに全く出席しなかった者、さらに途中で欠席3回を超えた者は、本講座の履修を認めない。

レポート作成にあたっては、MS Officeを使いこなすことを目標とする。

科 目 名　金融論(Finance)

サブタイトル

担当教員　下井　直毅

■講義目的

この講義では、金融の理論と仕組みの基礎知識について学ぶ。また、産業社会にとっても重要である金融の役割を理解する。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

日本の金融の現状と課題についての基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 金融の基本的な機能
概要：金融の基本的な機能を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[ファイナンス、証券市場、金融資産、負債、直接金融、間接金融]
詳細：金融とは何か、その特徴は何かを学ぶ
<第2講> 企業と政府のファイナンス
概要：企業と政府のファイナンスを理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[資金調達、内部資金、外部資金、財政赤字、国債]
詳細：企業の資金調達は何か、政府の資金調達は何かを学ぶ
<第3講> 日本の金融機関と金融市場
概要：日本の金融機関や金融市場について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[日本銀行、金融仲介機関、証券会社、金融市場]
詳細：日本の金融市場はどのようなものかを学ぶ
<第4講> 貨幣とインフレ
概要：貨幣とインフレについて理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[マネーストック、マネタリーベース、インフレ、デフレ]
詳細：貨幣の機能は何か、またインフレを引き起こす要因や問題点などを学ぶ
<第5講> 金融政策の運営
概要：金融政策の運営について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[金融政策、公開市場操作、貨幣創造、量的緩和政策]
詳細：現在の日本の金融政策はどのようなものかを学ぶ
<第6講> 債券市場と金利
概要：債券市場と金利について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[国債市場、社債、転換社債、ワラント債、現在価値]
詳細：債券市場にはどのようなものがあるかを学ぶ
<第7講> 株式市場と株価
概要：株式市場と株価について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[証券取引所、上場、日経平均株価、TOPIX、バブル]
詳細：株価はなぜ変動するのかを学ぶ
<第8講> 金融規制の課題と仕組み
概要：金融規制の課題と仕組みについて理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[金融規制、情報の非対称性、プルーデンシャル規制、自己資本規制、インサイダー取引]
詳細：証券市場における規制にはどのようなものがあるかを学ぶ
<第9講> 金融危機の発生
概要：金融危機の発生について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[金融危機、不良債権、信用収縮、預金保険制度、サブプライムローン危機、証券化]
詳細：金融危機のメカニズムはどのようなものかを学ぶ
<第10講> 国際金融
概要：国際金融について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[外国為替市場、為替レート、投機、資本流出、資本流入]
詳細：為替レートはなぜ変動するのかを学ぶ
<第11講> 金融派生商品とリスク・ヘッジ
概要：金融派生商品とリスク・ヘッジについて理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[金融派生商品、リスク・ヘッジ、先物、差金決済、プット・オプション、コール・オプション]
詳細：金融派生商品とは何か、リスクを回避するものとしてどういうのがあるのかを学ぶ
<第12講> 日本の金融をめぐる諸問題(I)
概要：日本の金融をめぐる諸問題を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[円の国際化、グローバル、アジア]
詳細：日本の金融の課題は何かを学ぶ
<第13講> 日本の金融をめぐる諸問題(I)
概要：日本の金融をめぐる諸問題を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[円の国際化、グローバル、アジア]
詳細：日本の金融の課題は何かを学ぶ
<第14講> 講義前半の復習
概要：金融の基本的な機能や金融市場について復習する
事前学習しておくべき用語やポイント[金融、直接金融、間接金融、金融機関]
詳細：全体を通じて金融に対する理解が深まったかを確認する
<第15講> 講義後半の復習
概要：金融規制の課題や金融危機発生のメカニズムを復習する
事前学習しておくべき用語やポイント[金融規制、自己資本比率規制、金融危機、バブル]
詳細：全体を通じて金融に対する理解が深まったかを確認する

■教科書

谷内満　『入門 金融の現実と理論』　同友館(2009年)

■指定図書

講義中に紹介する

■参考文献

講義中に紹介する

■参考URL

■評価方法

期末テスト（70%）、出席（20%）、宿題（10%）

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

2010年度以前の入学生は、「経済学基礎」の単位修得者に限り、また2011年度以降の入学生は、「産業社会論入門（経済）」の単位修得者に限り、履修登録ができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名　グローバルビジネス入門(Introduction to Global Business)

サブタイトル　世界と日本を知る

担当教員　金　美徳、飯田　健雄、椎木　哲太郎、下井　直毅、バートル、趙　佑鎮

■講義目的

6名の担当教員が「世界から見た日本」と「日本から見た世界」という視点から、日本と世界、政治と経済、歴史と未来などをテーマに最前線事例を踏まえて解説する。また、日本や世界を高度産業社会に再構築するための問題点と解決策を考察する。

主な目的は、グローバルビジネス系科目や特別講座ⅠⅡ(寺島学長監修リレー講座)の基礎学習や社会科学の基本的な考え方を学ぶこと。また、自らの立ち位置や、将来進むべき方向性を思索することである。

主なキーワードは、世界潮流と時代認識、アジア・ユーラシアダイナミズム、グローバルビジネスと国際経済、日本の若者と社会、グローカルである。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

①グローバルビジネス系統科目の特性を理解するとともに、他分野の系統科目との関連性を把握する。
②2年時の特別必修科目である「特別講座ⅠとⅡ(共通テーマ「世界潮流と日本の進路」)」の基礎知識を習得する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>世界潮流入門のガイダンス(担当教員全員)
履修者を確定する。
<第2講>「アジアとどう向き合うか(1)」(金美徳)
事前学習しておくべき用語やポイント:外務省HPでアジアを調べる。
<第3講>「アジアとどう向き合うか(2)」(金美徳)
事前学習しておくべき用語やポイント:外務省HPでアジアを調べる。
<第4講>「中国を見る目(1)」(バートル)
事前学習しておくべき用語やポイント:ジェトロ(日本貿易振興機構)HPで中国の政治経済概況を調べ
る。
<第5講>「中国を見る目(2)」(バートル)
事前学習しておくべき用語やポイント:ジェトロ(日本貿易振興機構)HPで中国の政治経済概況を調べ
る。
<第6講>「若者論とグローバル化)」(趙 佑鎭)
事前学習しておくべき用語やポイント:若者論について調べる。
<第7講>「韓国を見る目」(趙佑鎭)
事前学習しておくべき用語やポイント:韓国について調べる。
<第8講>中間レポートを作成する。(金美徳、バートル、趙 佑鎭)
事前学習しておくべき用語やポイント: 第7講までの講義内容と配布資料を準備する。
<第9講>「世界の大きな流れを知ろう」(飯田健雄)
事前学習しておくべき用語やポイント:世界経済に関連する資料を読む。

<第10講>「世界の大きな流れに乗っていこう」(飯田健雄)
事前学習しておくべき用語やポイント:世界経済に関連する資料を読む。
<第11講>「日本経済と世界経済について(1)」(下井直毅)
事前学習しておくべき用語やポイント:日本経済に関連する資料を読む。
<第12講>「日本経済と世界経済について(2)」(下井直毅)
事前学習しておくべき用語やポイント:日本経済に関連する資料を読む。
<第13講>「社会や経済についての考え方はどう変わってきたか」(椎木哲太郎)
事前学習しておくべき用語やポイント:社会経済思想に関連する資料を読む。
<第14講>「国際協力はなぜ必要か、私たちに何ができるか」(椎木哲太郎)
事前学習しておくべき用語やポイント:国際協力について調べる。
<第15講>最終レポートを作成する。(趙佑鎭、椎木哲太郎、下井直毅)
事前学習しておくべき用語やポイント: 第1講から第14講までの講義内容と配布資料を準備する。

■教科書

担当教員が随時紹介する。

■指定図書

担当教員が随時紹介する。

■参考文献

担当教員が随時紹介する。

■参考URL

■評価方法

出席率と合計8つのレポートとに基づいて評価する。
①6名の担当教員が2コマずつオムニバス形式で講義を行い、それぞれレポートの提出を求める(6レポート)。
②中間レポート(前半3名の担当教員の講義終了後)と最終レポート(後半3名の担当教員の講義終了後)の提出を求める。

■評価基準

①相対評価。
②評価は、出席と6レポート(70%)、中間および最終レポート(30%)の割合で行う。

■事前履修科目等

無

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①第1回目の世界潮流入門ガイダンスに出席しない場合は、履修できない。
理由は、6名の担当教員によるオムニバス形式の講義が、第2回目より開始される為。
②パソコン・携帯電話・音楽イヤホンは、使用を禁止する。
③私語・帽子着用・飲食は、禁止する。
④遅刻および途中退室は、厳禁とする。

科目名 経営科学Ⅰ(Management Science Ⅰ)

サブタイトル

担当教員 増田　浩通

■講義目的

経営科学の基本的な考え方を理解することを目的とします。

■講義分類

顧客理解
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

この授業では数学とＥＸＣＥＬを多く使います。数学的考えを身につけ、EXCELの基本が身につくことを到達目標とします。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

経営科学は、経営諸問題に対する科学的アプローチを目指す学問です。
<第1講>
概要：　ガイダンス：半年間の講義の目的と授業の予定を述べる。
<第2講>
概要：経営科学に使われる数学の復習1
経営科学では、数学を多く使います。そのために高校数学までに学んできた数学の復習を行います。
事前に学習するポイント：連立方程式
<第3講>
概要：経営科学に使われる数学の復習2
詳細：前回に引き続き高校数学までに学んできた数学の復習を行います。
事前に学習するポイント：指数関数
<第4講>　待ち行列1
事前に学習するポイント：平均サービス時間
<第5講>　待ち行列2
事前に学習するポイント：モンテカルロシミュレーション
<第6講>　待ち行列3
事前に学習するポイント：指数乱数
<第7講>　中間テスト
事前に学習するポイント：特になし
<第8講>　計画の検討1
事前に学習するポイント：目的関数
<第9講>　計画の検討2
事前に学習するポイント：制約条件
<第10講>　計画の検討3
事前に学習するポイント：輸送問題
<第11講>　在庫問題1
事前に学習するポイント：定量発注法
<第12講>　在庫問題2
事前に学習するポイント：定期発注法
<第13講>　在庫問題3
事前に学習するポイント：安全在庫
<第14講>　在庫問題4
事前に学習するポイント：需要データの解析
<第15講>　期末テスト

■教科書

授業中に指示をする。

■指定図書

田畑吉雄　「経営科学入門」　牧野書店(2000)

■参考文献

加藤豊・小沢正典　「ORの基礎-AHPから最適化まで-」　実教出版(2007)

■参考URL

■評価方法

授業内での評価　30％：積極的に授業に参加しているか否か.
中間テスト　30％：中間テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする.
期末テスト　40％：期末テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする.
就職活動等で中間テスト，期末テストを受けられなくなったときは，①就職活動の証明書類を用意し，②テスト前に増田宛（masuda@tama.ac.jp）に連絡をすること.
①，②を満たさない場合は授業評価を不可（F）とする.

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

.

科目名　経営科学II（Management Science II）

サブタイトル

担当教員　増田　浩通

■講義目的

経営科学の基本的な考え方を理解することを目的とします。この講義は、高校までの数学の知識が必要です。またEXCELも使う予定ですので、パソコンを持ってくる必要があります。経営科学Ｉを履修することが望ましい。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
社会人力育成

■到達目標

第1は、「最小の努力で最大の効果を上げる」という経営科学の基本的な考え方を理解することです。第2は、経営科学で使われる代表的なモデルであるPERTと線形計画法を理解することです。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　ガイダンス
概要：　半年間の講義の目的と授業の予定を述べる。この講義は高校までの数学の知識を必要とするので、その調査（テスト）を行う予定である。

<第2講>
概要：　PERTの背景と目的を把握し、従来の日程計画法との違いを扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[問題解決，PERTの目的]
詳細：PERT(Program Evaluation and Review Technique)の第1回目の授業で、PERTが用いられる背景と目的、PERTの簡単な例を扱います。実際の社会での日程計画の重要性を理解するとともに，PERTが日程計画の問題解決に用いられる背景、利点、PERTが何を目的にしているのかを理解します。

<第3講>
概要：従来の日程計画法を理解し、その問題点をPERTと比較して理解します。クリティカル・パスの意味を扱います。
詳細：事前学習しておくべき用語やポイント[クリティカル・パス]
PERTの第2回目の授業で、従来の日程計画法をPERTと比較し，従来の日程計画法にどのような欠点があり，また，PERTにどのような長所があるのかを述べます．また、PERTの短所を示します．PERTで重要な概念であるクリティカル・パスの必要性を理解し，モデル構成を扱います。
<第4講>
概要：作業表からPERT図の作成を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[PERT図（パート・ダイアグラム），ノード，矢線]
詳細：PERTの第3回目の授業で、作業表からモデルに基づいてPERT図を作成し、クリティカル・パスの考え方と，ノードと矢線を用いたPERT図を用いたクリティカル・パスの求め方を扱います。PERT図の作成を習得し、クリティカル・パスの考え方と意味を理解し、日程計画におけるクリティカル・パスの意味を考えます。
<第5講>
概要：各作業についての余裕時間を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[余裕時間、クリティカル・パス]
詳細：PERTの第4回目の授業で、日程の余裕時間を扱う予定です。ノードと矢線によるPERT図を用いて求めたクリティカル・パスに加えて，各作業に焦点を当てます．各作業について，その作業の開始時刻，終了時刻を算出し，クリティカル・パスの日程を守るために許される余裕時間を求めます．
<第6講>
概要：PERTについての演習
事前学習しておくべき用語やポイント[PERTでの最適化，クリティカル・パス]
詳細：　PERTの第5回目の授業で、PERTについての演習を行い，PERTの理解をさらに深める予定です。授業では，PERTの練習問題を解く予定です。PERTの第1回から第4回までに扱った，さまざまな概念，モデルに基づいて，最適化を図り，パート図の作成，クリティカル・パスや各作業の余裕時間の考え方とそれらを求める手順の理解を深めます．
<第7講>
概要：PERTの概念、モデル、パート図の作成，クリティカル・パスや各作業の余裕時間を実際に算出できるように理解します。
事前学習しておくべき用語やポイント[PERTの概念での最適化の考え方と具体的方法]
詳細：第1回の試験を行う予定です。筆記試験を行います．試験の範囲は，[PERTについて第1回から第4回までに扱い，第5回に行った演習で扱った内容について行う予定です。PERTでの最適化の考え方とそのための具体的方法を，自分自身で確認するための機会とします．
<第8講>　中間テスト
概要：PERTについての筆記試験の問題の解説を行います。
事前学習しておくべき用語やポイント[制約，最適化]
詳細：筆記試験で解いた問題を各自で考察し、理解が不十分な点や不完全な点を補います。PERTが問題解決に用いられる背景、PERTが何を目的にしているのかを理解する。後半は、線形計画法の第1回目の授業で，線形計画法について簡単な紹介を行います。線形計画法の用いられる背景と目的、線形計画法の簡単な例を扱い、線形計画法のモデル構成の基礎的な考え方を扱います。
<第9講>
概要：線形計画法の概要

<第10講>
概要：　線形計画法のモデルの必要性とその構成を扱います．
事前学習しておくべき用語やポイント[線形計画法のモデル，目的関数]
詳細：線形計画法の第2回目の授業で、線形計画法のモデル構成とモデルを使った最適化の考え方を扱う予定です。モデルを構成する前提となる仮定について考え，それらの仮定が，どのような意味をもっており，どのような制約を与え，現実の問題の解決にどのような影響があるのかを考えます。
<第11講>
概要：線形の制約をグラフに表し、どのようにして目的を最適化するのかを扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[制約条件，目的関数の最適化]
詳細：線形計画法の第3回目の授業で、線形計画法のモデルの制約とモデルを使った目的関数の最適化，すなわち，解の求め方（利益の最大化など）を扱う予定です。具体的な解の求め方は，最も基本的な手順であるグラフを用いた幾何学的な方法です。幾何学的な方法での線形な制約条件の意味を考えます。
<第12講>
概要：目的関数を最適化して解を求める方法を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[シンプレックス法]
詳細：線形計画法の第4回目の授業で、線形計画法のモデル構成とモデルを使った解の求め方の詳細を扱う予定です．グラフを用いた幾何学的な方法の問題点，その解決方法について述べます。また，グラフを用いた幾何学的な方法と，それ以外の方法（シンプレックス法等）の比較し，グラフを用いた幾何学的な方法の問題点を述べます．
<第13講>
概要：　線形計画法についての演習
事前学習しておくべき用語やポイント[制約条件，目的関数]
詳細：線形計画法の第5回目の授業で、線形計画法についての演習を行い，線形計画法の理解をさらに深める予定です。授業では線形計画法の練習問題を解く予定です。線形計画法の第1回から第4回までに扱った，さまざまな概念，モデルに基づいて，最適化を図り，制約のもとで目的関数を最適化するための考え方と手順の理解を深めます。
<第14講>
概要：線形計画法の概念、モデル、モデルに基づいた目的関数の最適化を実際に行えるように理解します。
事前学習しておくべき用語やポイント[制約条件，目的関数]
詳細：
<第15講>　期末テスト

■教科書

授業中に指定します。

■指定図書

田畑吉雄　「経営科学入門」　牧野書店(2000)

■参考文献

加藤豊・小沢正典　「ORの基礎-AHPから最適化まで-」　実教出版(2007)

■参考URL

■評価方法

授業内での評価　30％：積極的に授業に参加しているか否か.
中間テスト　30％：中間テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする.
期末テスト　40％：期末テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする.
就職活動等で中間テスト，期末テストを受けられなくなったときは，①就職活動の証明書類を用意し，②テスト前に増田宛（masuda@tama.ac.jp）に連絡をすること.
①，②を満たさない場合は授業評価を不可（F）とする.

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　経営学概論Ⅰ(Introduction to Management Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　常見　耕平

■講義目的

経営学理論を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

経営学の理論について理解する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

経営学理論のうち、古典的（あるいは伝統的）管理論と呼ばれるものを学ぶ。

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は57.7%（31名中51名）である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

<第1講>経営学の理論的理解（その1）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第2講>経営学の理論的理解（その2）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第3講>経営学の理論的理解（その3）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第4講>経営学の理論的理解（その4）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第5講>経営学の理論的理解（その5）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第6講>経営学の理論的理解（その6）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第7講>経営学の理論的理解（その7）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第8講>経営学の理論的理解（その8）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第9講>経営学の理論的理解（その9）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第10講>経営学の理論的理解（その10）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第11講>経営学の理論的理解（その11）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第12講>経営学の理論的理解（その12）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第13講>経営学の理論的理解（その13）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第14講>講義の振り返り
概要：これまでの講義を振り返る。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第15講>最終試験
概要：講義内容に基づく試験を実施する。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

相対評価
合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。
講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。
試験は、2014年7月17日(木)第3時限に実施する予定である。
但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。
講義を通して得た経営学理論についての基本的な知識を習得できているか。
試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

秋学期開講科目「経営学概論Ⅱ」との連続を前提に講義を進める。

科目名 経営学概論II（Introduction to Management II）

サブタイトル

担当教員 常見　耕平

■講義目的

経営学理論を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

経営学の理論について理解する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

経営学理論のうち、戦略論・組織論・マーケティング論を中心に学ぶ。

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は60.8%（51名中31名）である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

<第1講>経営学の理論的理解（その1）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第2講>経営学の理論的理解（その2）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第3講>経営学の理論的理解（その3）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第4講>経営学の理論的理解（その4）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第5講>経営学の理論的理解（その5）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第6講>経営学の理論的理解（その6）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第7講>経営学の理論的理解（その7）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第8講>経営学の理論的理解（その8）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第9講>経営学の理論的理解（その9）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第10講>経営学の理論的理解（その10）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第11講>経営学の理論的理解（その11）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第12講>経営学の理論的理解（その12）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第13講>経営学の理論的理解（その13）
概要：経営学の理論を学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第14講>講義の振り返り
概要：試験結果に基づき、講義の振り返りを行う。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第15講>最終試験
概要：講義内容に基づく試験を実施する。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

相対評価
合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。
義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。
試験は、2015年1月15日(木)第3時限に実施する予定である。
但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。
講義を通して経営学の基本的な知識と理論を習得できているか。
試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

春学期開講科目「経営学概論Ⅰ」との連続を前提に講義を進める。
但し、経営学概論Ⅰの単位取得を、受講登録の条件とはしない。

科目名　経営基礎Ⅰ(Introduction to Business Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　常見　耕平

■講義目的

企業経営についての基本を学ぶ科目である。

この科目は2014年度入学生を対象とした「選択」必修科目である。

2014年度入学者については、クラス指定で開講する。A、B、Cのクラス指定は、語学受講クラス分けに基づいて行う。受講クラスの指定および座席指定は、2013年秋学期のオリエンテーション期間中に掲示およびクラス表配布という形式で行う。

なお、2013以前入学者で受講を希望する学生は、他の履修科目の受講計画に応じて、クラスを選ぶことができる。

科目名に「基礎」とあるが、内容自体が簡単で安易な科目と誤解しないこと。2013年実績によると、本科目履修者の単位取得率72.7%（取得者253名、未取得者95名）である。この数値から、学習への意思と意欲に欠ける履修者には、単位取得が困難であることが明らかである。この点を理解した上で科目選択を行うことを求める。

経営基礎は、企業の目的や責任、役割や仕組みについての基礎的な知識だけでなく、ビジネスの全体像を把握し、基本的な理解を得ることを目的とする講義である。講義では、ビジネスを知識として理解するだけでなく、ビジネスに従事するための基本的な態度・姿勢を身につけることも目指していく。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

受講上の注意や試験実施等についての指示があるので、評価基準と方法や留意点もかならず読んでおくこと。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

経営の基礎を身につける。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

<第1講>経営の基礎を学ぶ（その1）
概要：経営を計数から理解する（その1）。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第2講>経営の基礎を学ぶ（その2）
概要：経営学の理論を学ぶ（その2）。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第3講>経営の基礎を学ぶ（その3）
概要：マーケティングを学ぶ（その1）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第4講>経営の基礎を学ぶ（その4）
概要：マーケティングを学ぶ（その2）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第5講>経営の基礎を学ぶ（その5）
概要：マーケティングを学ぶ（その3）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第6講>経営の基礎を学ぶ（その6）
概要：経営戦略を学ぶ（その1）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第7講>経営の基礎を学ぶ（その7）
概要：経営戦略を学ぶ（その2）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第8講>ここまで学んできたことの振り返り試験
概要：ここまで学んできた学習内容の振り返り試験。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第9講>経営の基礎を学ぶ（その8）
概要：経営戦略を分析的に理解する（その1）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第10講>経営の基礎を学ぶ（その9）
概要：経営戦略を分析的に理解する（その2）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第11講>経営の基礎を学ぶ（その10）
概要：経営戦略を分析的に理解する（その3）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第12講>経営の基礎を学ぶ（その11）
概要：組織と人事について学ぶ（その1）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第13講>経営の基礎を学ぶ（その12）
概要：組織と人事について学ぶ（その2）
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第14講>経営の基礎を学ぶ（その13）
概要：経営分析を学ぶ
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第15講>これまで学んできたことのまとめ試験
概要：ここまで学んできた学習内容に基づき試験を実施する。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

相対評価
評価方法
合否(単位取得)は、講義時間内で合計2回実施する試験成績のみで判定する。
試験日程・内容等は、講義開始後に、より詳細に指示する。
試験開始後、20分間は、試験実施教室への入室を禁止する。
いかなる理由による遅刻・欠席でも、受験機会の喪失、解答作成時間の減少等への配慮は行わない。

■評価基準

2回の試験の合計点数が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。
成績評価(A+、A、B、C)判定には、試験成績のほか、課題への取り組みや受講姿勢を加味する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(1)講義は、受講者(2014年入学者)を3つのグループに分け、実施する。
　グループ分けは、語学（必修）の時間割によって決定する予定である。グループ分けは、2013年秋学期のオリエンテーション期間に掲示等で指示する。
　2013年度以前の入学者でこの科目履修を希望する学生は、他の科目も含めた自分の履修計画に応じて、クラスを選ぶことができる。
(2)講義は、座席指定制で実施する。講義開始前に、必ず指定された座席に着席していることを求める。
(3)時間を守ること
　講義開始時(第1時限は9時、第2時限は10時40分)に指定された座席に着席していることを要求する。
　したがって、次の時刻以降は、教室に入ることはできない。
　　第1時限　8時59分　(講義開始時刻にかかわりなく、講義時間は90分間である)
　　第2時限　10時39分　(講義開始時刻にかかわりなく、講義時間は90分間である)
これは、定刻に指定された座席に着席し、受講する学生の講義を受ける権利を最大限擁護するためである。
公共交通機関の遅延を含め、理由の如何を問わず、遅刻者の受講は認めない。
(4)遅刻者の入室を認めないため、いわゆる延着証明書、病気の診断書等は受け取らない
　欠席者あるいは遅刻者への配慮はいっさい行わないので、延着証明書、診断書等を提出する必要はない。
(5)10月半ば以降、履修登録が完了次第、あらためて教室での座席を指定する予定である。
(6)以上の注意点などは経営基礎Ⅰのみに適用される
　評価基準や出欠席の取り扱い、診断書提出の有無、開講日、講義の休みの日、試験方法など、他科目の方針、指示と異なっている点があることに注意すること。

科目名　経営基礎II（Basic Management II）

サブタイトル

担当教員　杉田　文章、井上　良弘、出原　至道、常見　耕平

■講義目的

多摩大学の学生が将来進んでいくであろう、方向を考えるとき、二つの教育的課題が想定される。

第一は産業社会における企業活動の全体像を、いかにして(それも出来るだけ早い段階で)理解してもらうか、ということであり、第二は、「主体的に問題解決に取り組み、成功させる能力」をいかにして修得してもらうか、という点である。

本講義は、この二つの課題を解決するために、開設されている。

具体的には、受講学生は、(1)講義を受講し、(2)「多摩大式経済経営シミュレーター」ゲームへ参加する。この2点が、本講義の概要である。

ゲームでは、一定のルールにのっとり、ゲーム上に作られた仮想の市場において、参加者すべてが、企業経営者と消費者の役を果たす。複数業種の中から選んだある業種に属する会社を設立、経営し、経営理念に従った経営を展開し、利益の確保を目指す。まさに、これらの行為すべてが、問題発見と問題解決の実践である。

講義では、当初の述べたような目的を達成するのに必要な、具体的もしくは抽象的な情報を学生諸君に伝えんとする。そしてこれを踏まえ、ゲームの中での企業経営を、自らがたてた経営目標に合致するように進める。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

① 企業経営の全般について理解し、表現できるようになること。
② 自分が経営にかかわった企業や、他の企業の経営の概要を把握、分析することができるようになること
③ 受講後、自分の専攻分野がより明確に絞り込むことができ、さらに、その専攻分野が全体の中でどのような位置にあるのかについて理解できるようになること。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
その他　：学外学習有

■講義の概要

授業開始後、ルールブックを作成・配布し、詳細について説明するので、ここではゲームの概略についてふれておく。

シミュレーションゲームは、いくつかの製品によって成り立つ市場に、学生諸君によって組織された企業が参入し、これらの企業によって投入された商品を、消費者としての学生が、所属する企業からの給与や賞与をもとに購入することによって進められていく。企業が製品を製造し販売するにはコストがかかるが、研究開発費や宣伝広告費を多く使って価格の高い商品(同時に「商品魅力度」も高い商品)を投入することもできるし、コストを押さえて廉価の商品を投入することもできる。

一週間が一つの決算期となり、各期に会社は決算を出す。利益が出ればそれを時期の製品の生産につぎ込むこともできるし、役員賞与として、社員の購入活動に回すこともできる。

このようにして、会社としてはより利益を追求し、また消費者としては、なるべく「商品魅力度」の高い商品を多く購入することによって、「消費ポイント」を獲得しようとするゲームである。

講義内容についての注意

最終回「株主総会」は、各クラスの授業時間ではなく、イレギュラーな時間を設定し、各クラス全員が一同に集まって開催されることになる予定である。具体的開催日程については、授業開始後アナウンスするので、注意されたい。(出席することが、単位取得の基本条件になります)

また、ゲームの進行状況によっては、各講義の内容が変更となることがある。

<第1講>　(講義)「オリエンテーション」
・スタッフ紹介
　・この授業の趣旨、目的、目標について
　・「大学における思考と能力開発」

多摩大学での学習の課題をひとことで言えば、それは「ビジネス社会において要求される能力を開発することである。まずどのような能力、資質が必要なのかを理解してもらいたい。次に、この授業が自らその能力を開発しようとする学生の学習を支援するために開設しているものである、ということをまずは理解していただきたい。

(ゲーム)「経営シミュレーションゲームの説明」
　1)ゲームの趣旨、概要について理解する
　2)具体的ルールの概要について理解する

「多摩大式経済経営シミュレーター」では、会社としてグループで動く部分と、消費者の一人として、個人で動く部分とがある。ルールブックにのっとって、ゲームの説明を行う。

最初は紙上でゲームを動かし(手計算またはExcelを使う)、ゲームルールを覚える。4名から7名の仮グループを作り、そのグループでゲームを手計算する。さらに、実際のゲームをためしに動かしてみる。

■予習・復習のポイント
シラバスをよく読み、この講座の目的について理解しておくことが必要である。

<第2講>　(講義)「企業の経営理念と経営戦略」

「企業の経営理念や経営方針を戦略的に考える」とは、どういうことだろうか。

企業や組織などにおいても、また個人においても、その意識と行動は、PLAN-DO-SEEというサイクル化したプロセスを持っていると考えられる。すなわち、思考し、その思考結果にもとづいて行動し、行動した結果を評価し、これが次の思考の材料となるのである。経営理念、経営方針とは、具体的に言えば、PLAN-DO-SEEの「PLAN」をどう考えるのか、ということだが、自分たちの経営戦略を構築するには、前提としての経営理念があるのだ、というような認識について理解してもらいたい。

「経営理念を具現化する方法」については、たとえば価格重視なのか、ニッチでいくか、付加価値重視か、等、各会社の方針に沿った経営をするならば、どのような行動をとったらいいかなど、現実の事例もふまえながら、経営戦略のたて方について学ぶ。この「理念」が実際の「経営戦略」に結びつくのである。

(ゲーム)「試しバージョンの初期投入」
　1)ゲームのルールの概要をあらかた説明した上、簡単な紙上のシミュレーションをする。
　2)試しチーム(このチームは本番のメンバーと同一である必要はない)によって、実際にスペック投入して
みる。

■予習・復習のポイント
春学期科目「経営基礎Ｉ」において学んだ、「経営の目的」「経営理念」について、今一度よく理解し、それらをめぐる現実的課題について整理しておくこと。

<第3講>　(講義)「企業内での役割分担と組織」

役割分担の概念と実際。そこでの責任体制と権限構造、また、いわゆる「チーム制」などについて講義する。たとえば大きな費用をかけてもライバル製品を上回るものを作りたい製品開発担当と、できるだけ「結果的な無駄」をなくしたい財務担当では、課せられたテーマがあい矛盾する。総合的、最終的な意思決定(判断)によってこれらがバランスされていくという会社のしくみの中で、各担当はどう行動するか、するべきか、などについて論じる。

(ゲーム)「試しバージョンの初期投入結果の読み取り、評価、次期投入の検討」

1回目に紙上で行ったシミュレーションの結果をもちより、なぜそうなったか分析する。グループごとに発表し、インストラクターからコメントをもらう。

この段階で意図されるのは、売上・利益・コストなど、基本的な概念に、実際に触れるということである。同時に、このゲームにおいて、最低どの程度の利益をださなければならないか、といった感覚もつかんでほしい。

■予習・復習のポイント
会計上の基礎概念について、復習しておくこと。とくに、「固定費」「変動費」「販売管理費」等の概念について予習しておくことが望ましい。

<第4講>　(講義)「会社数字の読み方」

損益計算、損益分岐点について理解する。管理会計の視点から会計を見る見方について学習してもらいたい。

(ゲーム)「試しバージョン2期目の結果の評価、検討と、本ゲームの開始」

本番の開始。メンバーの再構成、会社名、取り扱い製品、役割分担、経営理念・方針、等を決定、初期値をあらたに決定、投入。社長のペナルティや、給与についても決定する。ウェブ上のゲームはリセットされ、新たに開始される。

・設立手順の説明を受けたのち、雛形に沿って、自分たちの会社を設立する。
・利益追求型か社会還元重視型か、などの経営方針もここで話し合うことになる。
・話合うにあたり、ブレーンストーミング、KJ法などの手法を学ぶ。
・なお経営会議では、ゲーム始動後、毎期ごとに出力される決算をもとに、次期の入力ス

ペック検討を行う。その際、あらかじめ販売数や同業他社の動向等のデータを学生諸君が用意しておく必要がある。
■予習・復習のポイント
損益分岐売上の概念について、受講の前にぜひ理解しておきたい。
<第5講> （講義）「会社数義の読み方(2)」
財務諸表の読み方と、経営の基本について学ぶ。この授業を履修する諸君はすでに「経営基礎I」などの授業を通じて、基礎的な知識を得ている段階であるので、これを前提に、財務的に経営を成立させる基本事項について学んでいく。
(ゲーム)「経営会議」
初期投入の結果の評価と、次期投入スペックの検討、経営理念と、実際の経営の整合制などについての評価、検討も始める。
■予習・復習のポイント
第4講におなじである。
<第6講> （講義）「製品政策と価格政策」
まず、マーケティングの4P'sについて確認し、ゲームを前提に考えると特に重要であると思われる製品製作、価格政策についてより詳細に検討する。
どのような製品を企画するのか。それはなぜか。ゲーム上でも実際でも、市場の状況や需要の動向から、製品を企画しあるいは価格を決定することになろう。その実際と、方法について理解してもらう。また、標題に関連して、PPMマトリクスなどの理論などにも触れ、研究開発や広告宣伝に資金を投入するとは、どういうことなのか理解する。また、このゲーム上ではどのような動きが得られているか、分析する。
(ゲーム)(第5回にほぼ同じ。)
■予習・復習のポイント
テキストとして配布された資料から、価格を上げること・下げることが、決算にどのように影響するかについて理解しておくことが望ましい。
<第7講> （講義）「経営活動報告のしかた」
経営活動を表現することを学習する。
1)数量的な評価方法とその結果の生かし方
2)非数量的な評価方法とその結果の生かし方
講義では、実際の実業会における「事業報告書」や経営の自己評価について紹介する。また、これまで出させてきた各チームの「報告書」と、決算書によって、良いチームを紹介するかもしれない。
(ゲーム)「中間報告書の作成と、戦略の再構築」
講義を受けて、実際に報告書を作ってみる。また、次期投入スペックもいつも通り決定する。
■予習・復習のポイント
経営報告のあらましについて、概要を把握しておくことがのぞましい。
また、講義後、実際の経営報告の事例をあたり、理解に努めること。
<第8講> （講義）「競争戦略」など
標記の他、「事業報告書」について理解する。
(ゲーム)(第5、第6回にほぼ同じ)
■予習・復習のポイント
① 理論としての競争戦略について、今一度復習する。
② ゲームにおける、同業種の戦略を比較してみる。
<第9講> （講義）「事業報告書の書き方と、報告の技術」
株主に対して社の方針や行動を、どのように理解してもらうか。大切な点はなにか。「事業報告」にポイントをしぼり、学習する。
(ゲーム)
事業報告書の作成
これまでの経営結果の整理、分析、自己評価￫報告書にまとめる作業
■予習・復習のポイント
収益性、安全性、成長性などの概念について今一度復習し、理解することが望ましい。
<第10講> （講義）「まとめ」
1.「経営基礎IIのまとめ」:これまでのまとめ
2.「株主総会について」:ビデオも利用、企業にとって株主総会とはなにか。
株主総会の実際を学んだ後、実際に株主総会に向けたシナリオを作成し、経営活動についてのプレゼンテーションを行う。その際、会社への投資者からの質問も想定し、返答の準備も行う。
(ゲーム)「資料の作成作業」
株主総会用資料作成(前回の「事業報告書」を仕上げ、その他必要資料を作成する。)
■予習・復習のポイント
経営報告が誰に対してなんの目的に応じた活動であるかを理解し、そのうえで、あるべき報告について考察しておく。
<第11講> 「株主総会」
前述のとおり、通常の授業時間ではなく、別途設定された時間にすべての履修者が集合して開催するので、まず開催日時について注意されたい。
全ての会社が株主総会の準備をしてもらう。各業種から、当日発表企業を決定し、演台より経営報告と、フロアよりの質疑への対応を行う。
個人ポイントのランキングの発表なども予定している。
■予習・復習のポイント
他社の報告にも積極的に耳を傾け、報告の内容、方法とうについてよりよいありかたについて メンバー間相互で討議する。
<第12講> 「経営分析」
本番のゲームが終了した時点で、自社も含め、すべての学生が、すべての会社の財務についてみることができるようになる。前回の株主総会をも踏まえ、自分達の経営を振り返り、多面的に分析する。指標としては、授業の中で学習した経営分析指標を使用し、全期における企業経営について、詳細に検討し、レポートを作成する。
■予習・復習のポイント
これまでの学習を通じて、企業経営のさまざまなディメンジョンを理解し、「何のために」「何を」「どのように」行うのかについての全体像を、自分の中でまとめてみよう。

<第13講> クラス別「株主総会」本番
<第14講> 全体での「株主総会」本番
<第15講> 講義内でのテスト、理解のみきわめを行う。

■教科書
シミュレーションゲームのマニュアルを兼ねた冊子（印刷物）を授業内にて配布する。

■指定図書
特になし。

■参考文献
特になし。

■参考URL

■評価方法
(1)ゲームへの参与の度合い(出席を含む)
(2)レポート
(3)試験
を総合して評価を行う。このほかにも、シミュレーションゲームの結果も、ある程度成績に加味する。

■評価基準
まず、上記三つの評価方法のそれぞれにおいて、一定の基準を上回ることが、単位取得の条件となる。これを超えていることを前提に、これら三つの項目の合計によって、評価を行う。
試験は、ゲームのオペレーションおよび、ゲームを通じて得た企業経営に関する知識の理解がなされているかどうかを判定するものである。
相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施
実施しない

■留意点
すべての授業に出席・参加することが単位取得の基本条件であることを銘記されたい。
また、言うまでもなく、ネットワーク上のゲームにアクセスすることで、経営シミュレーションを行うのであるから、PCと、電源ケーブルは必須である。必ず持参して参加されたい。

科目名　経営実務Ⅰ(Business Administration Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　川端　敏郎

■講義目的

経営実務Ⅰでは、経営戦略、マーケティング、アカウンティングを中心に企業活動の中での経営の問題解決、事業プランの選定などの分野を、理論のマネジメントの応用という視点で捉え社会科学が机上の空論ではなく、実践から生まれ、実践に回帰することを理解することを目的に講義を行う。

講義登録者が40名を超えない場合は、事例を取り上げる回数を増やして、実務上の課題を討議しつつ講義を進める予定である。

講義は、基本的には教科書の事前学習を前提として行う。

現状のビジネス環境を理解する為に最新の企業情報を取り入れながら講義を進める。

レポートの提出を求める(回数は未定)。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント

■到達目標

会社という組織を経営戦略・マーケティングを中心に見ることで実際の企業行動がなぜそのように行われているのかを基本的に理解することで戦略やそれと不可分のマーケティングの考え方を理解する。

■講義形態

講義 ＋ GD：

■講義の概要

現代の経営は日常の問題解決や新しい事業プランの策定など、あらゆる分野で経営に関連する理論をフルに活用し、迅速かつ的確に対処できる能力を要求される。

このためには情報機器を自在に操作できることは勿論、経営関連科目で得た知識を実際に応用できる「知恵」を持つことが必要である。「社会科学の理論は実践から生まれ実践に回帰する」と言われるが、本講座は理論のマネジメントへの利用方法についての理解を目的としている。

内容としては
経営実務Ⅰ・・・経営戦略・マーケティング・アカウンティング
経営実務Ⅱ・・・ファイナンス・組織と人・情報技術・ビジネスプラン
を対象とする。

<第1講>経営戦略(1)全社戦略と事業戦略

実務の場では「知識として知っていることと、実際に出来ることには大きな隔たるがある」と言うが、理論を理解することは、それが実際に使える段階に到達して初めて効果が上がることになる。経営関連の理論は、学問上大きな問題として取り上げられているが実務面ではそれ以上に課題とせねばならぬ問題も多い。この講座ではこうした事例を示し、理論の応用にあたっての観点を説明する。

次に経営戦略の手法を概観するが、経営に於ける戦略・戦術・戦技の区分は
1)　戦略=戦う相手、範囲、経営資源の配分など経営の根幹に関する決定
2)　戦術=決定された戦略の中で、最も経済的な戦い方の決定
3)　戦技=戦う技術とその具体的活用法
となるが、ここ数年の情報技術の進展という戦技の変化は現代の戦略・戦術に大きい影響を与えている事実を強く認識し、本講では
1.全社戦略の意味と事業戦略の策定プロセス　2.経営戦略と企業変革　3.経営理念、ドメインとCI
について解説する。

<予習・復習のポイント>

経営学の中で占める経営戦略の位置づけを明確にし、現代企業において戦略の重要性が増していることを確認する。実務のレベルにおける経営戦略の実例を念頭に置いて戦術、戦技の変化が戦略に及ぼす影響についても理解する。

<第2講>経営戦略(2)企業変革とポートフォリオ

事業ポートフォリオ(Portfolio)を考える上で重要なことは
1)事業の魅力
2)競争優位の見込み
3)他の事業へのシナジー
を検討することにある。
これを具体的に表すものがポートフォリオ・マトリックスである。

本講では
1.事業ポートフォリオと事業ライフサイクル　2.ポートフォリオ・マトリクス　3.GE社のポートフォリオ・マネジメント　4.事業拡大と多角化の基本戦略
について説明、ポートフォリオ・マトリックスを実際に描く演習を予定している。

<予習・復習のポイント>

企業における事業のポートフォリオがなぜ重要なのかを具体的な焦れを基に考える習慣をつけるとともに、ポートフォリオを応用すればリスク分散が実現できることを理解する。

<第3講>経営戦略(3)環境分析

事業戦略は内外の環境分析・経済性分析に基づいて策定されるが、これには基礎理論の理解が必要である。本講では
1.競争優位を築くための3つの基本戦略　2.事業の経済性分析　3.外部環境分析:業界構造と5つの力・アドバンテージ・マトリックス　4.内部環境分析:価値連鎖　5.コスト・リーダーシップ戦略・差別化戦略・集中戦略
について考え、その実例を示して理解を深める予定である。

<予習・復習のポイント>

競争環境を的確に分析し、それに対処することは企業にとって重要な問題であり環境の変化が急速に進展する時代では、環境の変化を事業に生かすことが極めて重要な戦略ともなることを理解する。

<第4講>経営戦略(4)個別戦略

企業にはその市場でのポジションとしてリーダーとフォロワーがあり、それによって戦略は基本的に相違する。さらに国際化への戦略、戦略的提携など戦略の類型は多様化している。本講では
1.リーダーの戦略とフォロワーの戦略　2.国際化戦略　3.M&Aと戦略的提携　4.成熟期における戦略
を実例を交え解説し、併せてバブル崩壊後の企業戦略の展望を俯瞰するつもりであり、経営戦略のとりまとめとトピック的な話題をここで解説を行う予定である。

<予習・復習のポイント>

個別の企業戦略はどのように形成され、競争環境の中にあってはそのポジションによってもとられる戦略は異なるものであることを理解する。

<第5講>マーケティング(1)マーケティングの役割

企業は変化する事業環境に適応するため市場変化を敏感に受け止め、企業内に売れる仕組みを構築し、供給サイドへの枠組みを示すことがマーケティングの役割である。

本講ではその内容とプロセスを
1.マーケティングの発想と役割　2.マーケティング環境分析　3.市場機会と脅威の発見　4.競争市場戦略
5.マーケティング・プロセス　6.市場細分化と標的市場　7.製品ポジショニング
といった角度で眺めることにする。

<予習・復習のポイント>

市場をの確に把握して必要とされる製品・サービスを提供するためにはマーケティングの知識は必要不可欠である。マーケティングを真に生かすためには戦略に最適なマーケティング戦略を行う必要性があることを理解する。

<第6講>マーケティング(2)製品特性とブランド

マーケティング戦略は製品特性・ライフサイクル・ブランドイメージといった製品戦略、それに応じた価格戦略と流通戦略が一体化し、さらにはこれにプロモーション戦略が付加されて成立する。

本講では
1.製品特性とライフサイクル　2.ブランドの機能・効果と新製品開発　3.価格政策と価格設定の手法
4.流通チャネルの意義と設計
から各戦略の理論と整合性について説明する。

<予習・復習のポイント>

マーケティング戦略の中での製品のライフサイクル、製品特性を理解しておかなければ陳腐化が進行したのちでは企業の存続を危うくする可能性が高くなることを理解する。

<第7講>マーケティング(3)戦略的価格設定

プロモーション戦略の立案は消費者の態度変容プロセスに応じてプロモーション・ミックスを考えなければならない。この問題を中心に本講では
1.プロモーション戦略　2.広告戦略　3.営業管理
について考え、今後のマーケティングの動向を左右する事項として、プライベート・ブランドの台頭と関係性マーケティングや問題解決型マーケティングに言及する予定である。

<予習・復習のポイント>

競争戦略におけるプロモーションや広告といった直接的に販売に大きく影響を及ぼす行動を採用する際に陥りやすい側面を正しく理解し、消費者の行動変容をもたらす要因を理解する。

<第8講>マーケティング(4)Accounting・Promotion,財務諸表

マーケティングのPromotionについて概説し、その後にAccountingに入る。ア

カウンティングは外部向けの財務会計・税務会計と内部向けの管理会計に区分され、管理会計は業績管理会計と意思決定会計に細分化される。
本講では
1.企業経営とアカウンティング　2.収益・費用の認識　3.貸借対照表項目の性格　4.損益計算書の性格
5.キャッシュフロー・ステートメント
について説明する。財務会計はアカウンティングの基礎構造であり、特に新しい思考方向の理解が大切な理由を明確に説明する。
<予習・復習のポイント>
企業における財務的知識がなぜ必要になるかを財務諸表の関係を概観しながら数字で把握することの重要性ならびに数字の裏に隠されている企業行動の読み取り方を理解する。
<第9講>Accounting(2)財務諸表の構造
企業における収益と費用の関係を踏まえ、貸借対照表と損益計算書の関係。更にはキャッシュフロー・ステートメントに言及し、そうした会計的アプローチを評 価する際の総合力分析の指標としてROAとROEを取り上げ、併せて収益性分析の意味、算出の方法等について講義する。
本講では
1.財務諸表の成り立ち　2.貸借対照表の構造　3.損益計算書の構造　4.ROAとROE
5.収益性分析
について説明する。財務会計はアカウンティングの基礎構造であり、その構造の理解が大切な理由を明確に説明する。
<予習・復習のポイント>
財務の理解を深めるために、貸借対照表、損益計算書の概要を理解し、経営の重要な指標としてのROEやROSの持つ意味と役割を理解する。
<第10講>Accounting(3)経営分析
企業の経営分析指標としての安全性分析を概説し、財務諸表分析の意味とその手法について講義する。また主な項目のうち有価証券、減価償却、オフバランス取引などについて個別に項目ごとに触れる。
本講では
1.安全性分析　2.財務分析の手法　3.棚卸資産・有価証券・減価償却　4.税務会計
5.連結会計とオフバランス取引
について説明する。会計の幅広い範囲を概説することで大枠を捉えていく考え方の重要性を確認し、併せて会計制度の変化の流れについても理解することの重要性を説明する。
<予習・復習のポイント>
企業経営を行った結果を定量的に把握するための経営分析手法のうち、安全性と収益性の関係を財務諸表との関連において概略的に理解する。
<第11講>Accounting(4)損益分岐点
管理会計を理解する上で最も基礎的な事項は損益分岐点であろう。これは単にBEPの計算ができるだけでなく、ここから利益計画のポイントを把握することが重要である。最終講のビジネスプランに繋がる概念を計算問題などを例題として講義する。
本講では
1.損益分岐点分析　2.損益変化と損益分岐点　3.限界利益と固定費　4.損益分岐点の応用
についてプリント・計算例題を加えて解説する。
<予習・復習のポイント>
管理会計手法の重要なもののひとつである損益分岐点分析の考え方、並びに計差するための計算方法を理解する。
<第12講>Accounting(5)原価計算
費用を把握することは事業の採算性を検討する重要な項目となる。費用を把握する手法としての直接原価計算や特殊原価計算、標準原価計算制度については実務的な理解が必要である。こうした観点から計算方法や各計算方法による特色を理解し具体的な事例を検討する。
本講では
1.直接原価計算　2.特殊原価計算
について解説する。
<予習・復習のポイント>
製造業にかかわらずすべての企業における費用の管理のための原価計算の果たす役割とその計算手法を理解する。
<第13講>Accounting(6)会計的管理
意思決定における採算性の問題を検討するには管理会計の手法が欠かせない。マネジメント・コントロール・プロセスにおける会計的側面を実務的に照らした場 合の責任会計を理解することは重要である。さらに、わが国の会計制度が大きく変化している現状を考えたときに国際会計基準の導入による変化までを考えて行 動することが求められる。
本講では
1.マネジメント・コントロール　2.責任会計　3.国際会計基準の導入
について大きな流れを踏まえて、その対応と考え方を解説する。
<予習・復習のポイント>
マネジメントを行う際に必要となる会計的側面からのコントロールに影響を及ぼす要因を理解する。近年の会計基準の変更は何を意図し行われているのかを理解する。
<第14講>事例研究(1)
企業の様々な行動を分析する際に必要となる視点を広くすることを目的に、ケーススタディ形式による事例を検討する(取り扱う事例は講義の中で選定する予定)
<予習・復習のポイント>
実際の企業を取り上げた事例研究を通じて戦略やマーケティングをどのように考え、どのような行動指針として活用しているかを事例を通じ確認する。
<第15講>事例研究(2)
事例研究で取り上げた内容をもう一段掘り下げることを目的としたグループ討議を実施予定。
<予習・復習のポイント>
事例を通じて学んだ内容を意見交換することで様々なとらえ方や考え方が存在することを理解し、多角的視点に立つことの重要性を確認する。

■教科書

(株)グロービス編著　『改訂3版・MBAマネジメント・ブック』　ダイヤモンド社
特には定めないが、適宜講義の中で紹介をする

■指定図書

特には定めないが、適宜講義の中で紹介をする

■参考文献

記に記した教科書として使用するMBAシリーズの他の書籍

■参考URL

■評価方法

期間中、講義時間内に行うレポートの内容と提出状況をもって平常点とし、これに期末に行レポートの結果を総合して評点する。

■評価基準

絶対評価
A+ ：95点以上
A ：94～90点
B ：89～80点
C ：79～60点
F ：試験受験なし、またはレポート提出なし

■事前履修科目等

講義の中で参考文献等を紹介するので、レポートの提出もしくは試験の受験だけでは単位は取りにくいことを明記しておく

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。

■留意点

講義資料は講義時間の開始時に配布するので講義時間中・事後教科書と併用復習を行うこと。なお、講義は事前に教科書を読んでいるものとして行う予定である。
レポートの提出に際しては別途課題を指定する。

科目名　経営実務II（Business Administration II）

サブタイトル

担当教員　川端　敏郎

■講義目的

経営実務IIでは、ファイナンス、組織と人・IT・ビジネスプランを中心に企業活動の中に占める経営の問題解決、事業プランの策定などの分野を、理論の マネジメントへの応用という視点で捉え社会科学が机上の空論ではなく、実践から生まれ実践に回帰することを理解することを目的に講義を行う。
講義登録者が40名を超えない場合は、事例を取り上げる回数を増やして、実務上の課題を討議しつつ講義を進める予定である。
レポート作成に必要な資料は講義時間に配布し、レポート作成に際してはコメントを入れることを実施し、基準をクリアするまで指導する予定である。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント

■到達目標

経営に関するファイナンス、人事政策、情報化への対応の各分野に関する知識を学習し、ビジネスプラン（新規事業計画を含む）へとまとめる力を身につける。

■講義形態

講義 + GD：

■講義の概要

本講座は「経営実務I」に続いて諸理論のマネジメントやプランニングへの利用方法についての理解を深めることを目的としている。
<第1講>
企業経営におけるファイナンスは企業価値最大化のため投資の選択とそのための調達手段に中心が置かれる。
　過去、我が国企業の財務戦略の誤りは土地の高騰を過大視し、ファイナンス本来の目的を忘却したところに生まれた。企業財務は企業会計とは別のスタンドポイントに立ち、企業活動と表裏一体で流れている資金（Cash Flow)を管理することにある。
　本講では、1.企業経営と企業財務　2.キャッシュフロー　3.運転資金管理　4.金銭の時間的価値の基本原則　5.ディスカウント・キャッシュフロー(DCF)法
について計算実例を交えて解説する。
<予習・復習のポイント>
　企業における資金は非常に重要な資源であり、其の重要な資源をどのような方法で確保してくるかを実践するファイナンスは欠かせない企業の活動であることを理解する
<第2講>ファイナンス(2)投資の評価
　企業における投資はその正否が企業の命運を左右するだけに、そのリスクを含め評価方法が研究され、実務上でも利用されている。
　本講ではその代表的手法を中心に、1.投資評価のさまざまな方法　2.投資収益率とリスク　3.分散投資の効果としてのポートフォリオ理論と資本資産モデル
についてコンピュータによる計算表示方法を加えて説明する予定である。
昨今の米国を震源地とした金融不安における投資のあり方についても言及するとともに、健全な投資についての投資家としての行動をどのように考えておくべきかについても触れる予定である。
<予習・復習のポイント>
ファ イナンス活動によって得られた資金を最も有効な投資対象に投資することは企業の活動にとっては非常に重要である。投資先を間違えれば市場からの撤退を招く 可能性すら引き起こすことを考えるとお寿司対象の評価を行う手法を理解することは重要なポイントであることを理解する。
<第3講>ファイナンス(3)資金調達
　企業はその成長期においても資金調達能力に対して過大な売上成長力を続けることができず、この管理は企業財務の命題である。企業の維持成長には適正な資本コストでの資金調達手段を確立することが大きい課題といえる。
　本講では、1.企業成長とファイナンス　2.企業の資金調達手段　3.資本コスト　4.株主資本コストの推定
5.企業の最適資本構成の理論と実際
について実例を交え解説する。
<予習・復習のポイント>
　資金調達は別な形での資本コストを発生させることになる。新たなコストを上回る投資対象に資金を踏め鼠ることは企業の成長戦略には欠かせない行動であることを理解する。
<第4講>ファイナンス(4)企業価値
　企業価値とは理論的には企業が将来生み出すキャッシュフローの現在価値である。しかし、その算定は困難な点もあるので、この代替的な算出方法として会計的 利益からと、精算価値での方法が採られる。また、株式の価値や経営者の義務としてのROE維持の戦略もまた重要な事項である。
　本講では、1.配当政策　2.企業価値の算出　3.株価決定メカニズム　4.経営者の義務と株主資本利益率
に言及するとともに、これからの企業財務のありかたを論ずる。
<予習・復習のポイント>
　企業価値という考え方が重要視されつつある中で、今なぜ企業価値なのかを環境の変化やグローバル化の進展といった中でどのようにとらえるべきなのかを理解する。
<第5講>組織・人(1)組織文化とマネジメント
　経営資源の1つである人材は組織と人の良きマネジメントや組織文化から生まれる。
　本講では、1.企業経営と組織・人マネジメント　2.組織：人マネジメントのフレームワークと影響を与える諸要因　3.組織文化の生成と浸透　4.経営組織と組織文化
<予習・復習のポイント>
　経営資源の中でもヒトの果たす役割は他の経営資源に比較してもより重要となる。企業におけるヒトの側面に焦点を当てマネジメントの大きな対象となるヒトの問題を理解する。
<第6講>組織・人(2)組織形態と能力開発
　人材という経営資源は同じでも、インセンティブ次第で組織への貢献度合に差がでてくる。働くことに対する人のモチベーションに組織がうまくインセンティブを組み合わせることがポイントだが、これらはやみくもに行うべきではなく理論的理解が必要である。
　併せて人間の側面に焦点を当てる。
　本講では、1.モチベーションとインセンティブ　2.モチベーションの理論　3.個人間対立の管理　4.パワーの源泉　5.リーダーシップVSマネジメント
について説明、人間ゆえの諸問題について言及する。
<予習・復習のポイント>
　人が組織の中で働くインセンティブやそのインセンティブに大きな影響を及ぼす外部環境との関係を理解する。
<第7講>情報技術(1)企業経営と情報技術
　情報技術の進展はInternetやWindowsに象徴されるようにコンピュータ・通信技術とも高速・大容量化し、Net-Work時代を招来させている。これにともない企業のマネジメントも戦略・戦術に至るまで根本的な変革が生まれている。
　本講では、1.企業経営と情報技術戦略　2.技術進化の捉え方と情報構造　3.BPR・ERP・SCMとロジスティック
などについて実証的に説明する予定である。
<予習・復習のポイント>
　近年のネットワーク環境の進展が企業経営の及ぼす影響と、ITを知り、その技術をいかに企業経営に生かすかが企業の経営に重要性を増していることを理解する。
<第8講>情報技術(2)ナレッジマネジメントとネットワーク
　情報技術の中でも事業構造の再構築をもたらすような変革はネットワーク環境の進展と共にその重要度を増加させている。特に知的活動をめぐる各企業の生産性 の向上は大きな課題ともなってきており知的財産権などの言葉と共に知的財産をめぐるナレッジ経営は企業規模の大小を問わずその重要度をましている。
　本講では　1.インターネット　2.ナレッジ経営　の2点に焦点を絞り込んでマーケティングなどの手法などにも影響を与え始めている問題を検討する。
<予習・復習のポイント>
　IT化の進展は企業という組織の中で働く人の行動に様々な影響を及ぼしている。特に個々人の中にある知識をいかに組織として活用できるかは企業の成長行動に大きな影響を及ぼすことを理解する。
<第9講>ビジネスプラン概観
　ビジネスプランの基本は経営外部や内部に企業の方向や結果としての成果を示すと共に、マネジメントの基準を明らかにすることにある。
　業績管理システムの基準もビジネスプランから生まれる。ビジネスプランにはその目的によって種々の形態があり、それぞれが関連性を持って作られるし、作成には一定のルールがある。
　本講はプリントにより、1.経営の規範としてのビジネスプラン　2.ビジネスプランの種類と特性　3.ビジネスプラン準備のための留意点　4.ビジネスプラン作成上の留意点など、ビジネスプラン全般についての概説を行う。
<予習・復習のポイント>
　これまで学習してきた内容を総合的に理解する材料としてビジネスプランを取り上げることで、個別の講義の寄せ集め的知識ではなく、それらの知識を総合的に活用することの重要性を理解する。

<第10講>Business Planにおける利益計画の考え方作り方
　ビジネスプランの中核をなすものは利益計画であるが、これには利益目標の設定に始まり、それを可能とする売上・製品原価・販売及び一般管理費・金融費など の計画を行うが、それは体系的な理論に基づいたものであると共に満足する計画になるまで各要素の検討修正を必要とする。
　本講はプリントにより、1.企業での利益の重要性とそのための目標設定　2.はじめに売上計画ありき　3.売上数量計画から展開する諸計画　4.変動費の計画　5.固定費の計画　6.利益計画確定までの流れ
についてステップ的に説明する。
<予習・復習のポイント>
　ビジネスプランの中心的課題である利益計画はいかに考え、それの実現を図るための定量的な詰めの重要性を理解する。
<第11講>Business Planにおける資金計画の考え方作り方
　利益計画は資金の投下や調達方法によって変化することはファイナンスにおいて説明済みであるが、実際には合理的な計画設定システムを持つ企業は少なく、利 益計画に期首期末の資産・負債・資本比較と減価償却など非資金費用を調整し、正味キャッシュフローを求める程度である。
　この水準では真の意味で利益計画と資金計画の連動は困難で、特に季節変動と資金波動の関連を明らかにできない。そこで本講では資金損益結合表の方法を示す。
　本講ではプリントにより、1.「勘定合って銭足らず」は絵空事　2.資金循環の原則　3.資金計画化への2つの考え方　4.資金損益結合表による資金計画　5.資金計画のステップ
などについて経験談を交えて解説を行う。
<予習・復習のポイント>
　勘定合って銭足らずの事態を招かないことは実務の世界では必要不可欠であり、そのために必要となる資金計画の重要性を理解する。
<第12講>Business Plan Simulation試案
ビジネスプランを作成するに当たり、事前準備段階で諸種の条件を付与した場合の損益・資金への影響を検討できるシミュレーション化が必要であることから、会計的相関を考慮して損益・資金の相互関連モデルを作成した。
　これはかつて吉田・松野両氏が開発したセルバプランを発展させ表計算ソフトでの計算を前提に試作したものであるが、損益分岐点理論や政策決定値の影響さらには必要資金の算定まで小型ながら計画損益計算書・貸借対照表を試算できる利点がある。
　本講ではプリントにより、1.シミュレーションとは　2.ビジネスプランのためのシミュレーション・モデル　3.事例としての XYZ 社の経営実態　4.ビジネスシミュレーションで営業部長・経理部長案の検討と社長の結論　5.ビジネスシミュレーションのロジックと作成上の留意点
についてコンピュータでの体験からの理解を求める予定である。
　併せて企業を人体に喩えた場合の病気についてその兆候はどのように点に留意すべきかについて検討する。
<予習・復習のポイント>
　ビジネスプランを理解するためのモデルを取り上げ、シミュレーションによる検証をするための考え方を理解する。
<第13講>シミュレーションモデルの概説
　前項におけるシミュレーションの実際を表計算ソフトを用いて計算方法の組み立てを検討し、実務における使用方法を含めて概説する。
<予習・復習のポイント>
　シムレーションで取り上げる考え方を現実的なモデルとして作成する考え方、並びにシミュレーションを
組み上げるためのここの計算式を確認してモデル全体を理解する。
<第14講>事例研究
　企業のビジネスプランの事例を題材に、実際のビジネスプランの作成に必要とされる内容を検討し、具体的な作成の方法についての概説をする。
<予習・復習のポイント>
　ビジネスプランとして実際に使われたものを事例として取り上げることで、総合的な理解を深める。
<第15講>事例研究
　実際の企業の事例を取り上げて、ケーススタディの考え方やその活用、さらには問題に対する分析能力の向上を目指した討議を中心とした形式での学習を実施する。
<予習・復習のポイント>
　事例研究を通じてこれまでの学習内容を実際の事例の仮名で検証するので、それまでに得られた学習内容を確認する。

■教科書

(株)グロービス編著　『改訂3版・MBAマネジメント・ブック』　ダイヤモンド社

■指定図書

特には定めないが、適宜講義の中で紹介をする

■参考文献

特には定めないが、適宜講義の中で紹介をする

■参考URL

■評価方法

期間中、講義時間内に行うレポートの内容と提出状況をもって平常点とし、これに期末に行うレポートの結果を総合して評点する。

■評価基準

絶対評価
　A+ ：95点以上
　A ：94~90点
　B ：89~80点
　C ：79~60点
　F ：試験受験なし、またはレポート提出なし

■事前履修科目等

講義の中で参考文献等を紹介をし，レポートの提出に際してコメントのやり取りを行うので，指導を受けずに単位は取りにくいことを明記しておく。

■卒業年次生対象再試験の実施

レポートの指導を行うので期間内での指導に従うことを前提とする

■留意点

講義資料は講義時間の開始時に配布するので講義時間中・事後教科書と併用復習を行うこと。なお、講義は事前に教科書を読んでいるものとして行う予定である。

科目名　経営情報数学Ⅰ(Mathematics for Management and Information Sciences Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　久保田　貴文

■講義目的

第1は、データ分析なで用いられる統計学のさまざまな概念や操作を、幾何学的に、すなわち、図的に表現するとどのようになるのかということを理解することです。第2は、線形代数の基礎的な知識を、とくに、幾何学的な表現に基づいて身につけることです。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

線形代数の基礎であるベクトルと行列の概念を理解し、基礎的な操作を習得します。通常の数値や変数であるスカラーと、ベクトルおよび行列との階層的な関係を理解し、特に，データ分析や統計学との関連を理解することです。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：　半年間の講義の目的と授業の予定を述べます。
事前学習しておくべき用語やポイント[データの幾何学的表現、ベクトル]
詳細：データの幾何学的な表現，すなわち，図的に表現する方法と線形代数の関連を考えます。ベクトルの意味とその利点を考えます。線形代数の役割、統計的な概念や演算あるいは操作との関連、および、その幾何学的な意味を述べ、授業でとりあげる内容の概要を説明し、授業と試験の日程をお知らせします。
<第2講>
概要：　ベクトルを使ったデータの幾何学的（図的）な表現を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[スカラー、ベクトル，行と列]
詳細：ベクトルとスカラーの違いを理解します．特に，ベクトルとスカラーのもつ階層的な関係の重要性を説明します．データをベクトルを使って幾何学的（図的）に表現する方法を理解します。そして，ベクトルを用いて幾何学的（図的）にデータを表現することにどのような意味があるのかを考えます。
<第3講>
概要：ベクトルのスカラー倍とベクトルの和と差を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトルが等しいとは，ベクトルのスカラー倍]
詳細：ベクトルが等しいということの意味を理解します．ベクトルをスカラー倍することの意味を述べ，その幾何学的な考え方，データ分析での意味を説明します。特に，ベクトルの方向とその大きさのもつ意味を考えて，ベクトルのスカラー倍との関係について説明します。
<第4講>
概要：ベクトルの演算の基礎を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトルの演算、和と差]]
詳細：ベクトルの演算について説明します。特に、スカラーの演算との違いを理解します。ベクトルの演算の第1歩として，ベクトルの和と差を求めることの意味を述べ、その幾何学的な考え方やデータ分析での意味を説明します。必要に応じて総和記号（Σ：シグマ）の使い方を補足説明します。
<第5講>
概要：ベクトルのスカラー倍、和、および、差を組み合わせたベクトルの1次結合を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトルの1次結合]
詳細：ベクトルの1次結合は、スカラー倍したいくつかのベクトルの和あるいは差により求められるベクトルであることを理解します．ベクトルの1次結合が，ベクトルの幾何学的（図的）表現で，どのような意味をもっているのか、また、統計的にはどのような意味があるのかを考えます．
<第6講>
概要：ベクトルの内積について述べ、統計的な意味を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトルの内積、ベクトルの内積の幾何学的表現]
詳細：ベクトルの1次結合の幾何学的な意味に基づいて、ベクトル間の関係（近さや遠さ）という概念を考えます．それに基づいて，ベクトルの1次結合と内積の関係を考えます．ベクトルを幾何学的（図的）に表現した場合に2つのベクトルの成す角とベクトルの内積との関係を考えます．
<第7講>
概要：ベクトルの内積とその統計的な意味を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトルの内積と相関]
詳細：ベクトルの内積と幾何学的（図的）に表現した場合に2つのベクトルの成す角，そして，相関係数、さらに、さまざまな統計的な概念との関連を理解します。変数の関連を分析するために、多変量データを分析する多変量解析法と，上に述べた内積の関係を考えます。
<第8講>
概要：ベクトルの直交性と1次独立と1次従属を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトルの直交、1次独立と1次従属]
詳細：ベクトルを幾何学的（図的）に表現した場合に，ベクトルが成す角について考えます．特殊な場合として，ベクトルの直交性を取り上げ，その幾何学的な意味を理解します。ベクトルが表されている空間について考え、ベクトルの1次独立と1次従属を理解し、ベクトルが表す空間（直線、平面、3次元空間、・・・）について考えます。
<第9講>
概要：ベクトルの1次独立性と基底を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[1次独立、基底]
詳細：ベクトルの1次独立と1次独立の違い、また、基底という概念を理解しますベクトルの1次独立と1次独立ということと基底の関係を理解し、基底とベクトルが表す空間の次元数の関係を考えます。それに基づいて，1次独立なベクトルの最大個数、基底、空間を張るベクトルを考えます。
<第10講>
概要：ベクトルについて理解を深めます。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトルの幾何学的表現、ベクトルの演算]
詳細：第１回の試験を行う予定です。筆記試験を行います。筆記試験の範囲は，第1講から第9講で扱い，授業中に随時に演習で扱った内容について行う予定です。ベクトルの幾何学的（図的）表現の意味，ベクトルの演算と幾何学的（図的）表現との関係，さらに，その統計学的な意味を自分自身で確認するための機会とします。
<第11講>
概要：筆記試験の問題の解説を行います。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトルの幾何学的表現，ベクトルの演算、情報の表現]
詳細：筆記試験の問題の解説を行います。筆記試験で解いた問題を各自で考察し、理解が不十分な点や不完全な点を補います。ベクトルを幾何学的に表現するということの意味と，データのもつ情報を表現することの意味を考えます。そのために必要な方法の理解を深めます。
<第12講>
概要：行列の概念，行列の幾何学的な表現を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[行列、行列の幾何学的（図的）な表現]
詳細：行列の概念を述べます．なぜ、行列が必要になるのかを説明し、スカラーとベクトルとの関係、および、ベクトルと行列の関係から，それらの間にある階層的な関係を理解します．それに基づいて、行列の幾何学的（図的）な表現を考え、行列によるデータの幾何学的（図的）な表現を考えます。
<第13講>
概要：：さまざまな行列(対称行列、単位行列、対角行列、三角行列、零行列など)を紹介し、その意味を扱う予定です。
事前学習しておくべき用語やポイント[零行列、単位行列、対称行列、対角行列]
詳細：特殊な性質をもついくつかの行列を取り上げます。それらの行列のもっている意味をスカラーやベクトルとも関連づけて理解します。また、これらの行列が、その性質を利用して、どのような目的のために有効に利用されているのかを述べます．レポートを提出して貰います。
<第14講>
概要：ベクトルと行列について理解を深めます。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトル、行列]
詳細：第２回の試験を行う予定です。筆記試験を行います．試験の範囲は，第1講から第13講で扱い，授業中に随時に演習で扱った内容について行う予定です。ベクトルと行列の幾何学的（図的）表現，ベクトルと行列の演算と幾何学的（図的）表現との関係，さらに，その統計学的な意味を自分自身で確認するための機会とします。を自分自身で確認するための機会とします。
<第15講>
概要：筆記試験の問題の解説を行います。
事前学習しておくべき用語やポイント[ベクトル、行列、情報の表現]
詳細：筆記試験の問題の解説を行います。筆記試験で解いた問題を各自で考察し、理解が不十分な点や不完全な点を補います。ベクトルと行列を幾何学（図的的）に表現するということの意味と，それによりデータのもっている情報が，どのように表現されるのか，そこにはどのような長所と短所があるのかを考えます。

■教科書

岡太彬訓　「データ分析のための線形代数」　共立出版(2008)

■指定図書

岡太彬訓　「基礎数学」　新曜社(1977)

■参考文献

佐武一郎　「線形代数」　共立出版(1997)

■参考URL

■評価方法

講義への出席状況（10％）、講義中におけるあるいは質問用紙への質問の良さ（10%）、2回の試験（各30%）とレポート（20%）を総合して評価します。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習と復習を必ず行うこと.

科目名　経営情報数学II（Mathematics for Management and Information Sciences II）

サブタイトル

担当教員　今泉　忠

■講義目的

経営上では，情報を活用して，未来の状態を予測し，そこで発生するで問題を事前に対応できるようにすることは重要である．

本講義では、数学的知識を用いたモデル構築のための基礎としての、数学的な考察およびモデルの構築を目指し、関数の概念とその応用、微分積分の概念と応用について、基礎的な概念についての理解と実際の計算方法についての習得を目指す。
できるだけ，実際での問題解決のための数学と位置づけて講義を行う。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

(1)初等関数について微分積分を理解して行える
(2)多変数関数の微分を理解して行える
(3)関数近似について理解して行える

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　グラフから学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント：グラフ，2次関数
変化や加速度などの関数のグラフのポイントを学ぶ
CAS(Computer algebra system)システムのインストール
PCやスマートフォンにCASをインストールする。
<第2講>　関数
事前学習しておくべき用語やポイント：連続性
変化を表現する事の重要性と数学における関数の表現について学ぶ
<第3講>　微分の基本
事前学習しておくべき用語やポイント：差分
極限としての微分を捉える場合の枠組みについて理解する．
<第4講>　基本的な関数の微分法
事前学習しておくべき用語やポイント：多項式関数や三角関数のグラフ
2次関数から初めて，多項式関数や三角関数の微分法について学ぶ
<第5講>　合成関数の微分法
事前学習しておくべき用語やポイント：関数の和や積などのグラフ
実際の場面では，初等関数の和、積、商の関数を扱う．この場合の微分について学習する
<第6講>　変化率からその総量を求める
事前学習しておくべき用語やポイント：局所的な変化
関数でのある部分の面積を求めることを通じて積分の基礎を学ぶ
<第7講> テラー展開
事前学習しておくべき用語やポイント：多項式近似
関数の近似のためのテラー展開について講義する
<第8講> テラーの公式
事前学習しておくべき用語やポイント：テラー展開
2つの関数の近似について講義する
<第9講> 最適化問題
事前学習しておくべき用語やポイント：テラー展開
テラーの公式を用いた場合の最適化問題について講義する
最適化問題などについて講義する
事前学習しておくべき用語やポイント：ニュートン法
<第10講> 最適化問題応用
事前学習しておくべき用語やポイント：テラー展開
テラーの公式を用いた場合の最適化問題とその応用について講義する
<第11講>　不定積分の基本
事前学習しておくべき用語やポイント：積分の操作
微分との対応での不定積分について講義する
<第12講>置換積分と部分積分
事前学習しておくべき用語やポイント：微分の公式
微分の公式をもとにして合成関数の場合の積分について講義する
<第13講>多変数関数と偏微分
事前学習しておくべき用語やポイント：偏微分と全微分の違い
ここでは，2変数の場合に用いられる偏微分について講義する
<第14講>多変数関数と偏微分 II
事前学習しておくべき用語やポイント：グラフ
様々な関数の場合に関しての偏微分について講義する
<第15講> まとめ

■教科書

テキストは配布する

■指定図書

[1]岡部恒治・長谷川愛美「図解ざっくりわかる！　微分・積分入門」青春出版社
[2]矢野 健太郎・田代 嘉宏「 社会科学者のための基礎数学」
[3]石村園子　「やさしく学べる微分積分」　共立出版
[4]山田善靖他　「経営情報学のための微分積分」　共立出版
[5]志賀浩二　「微分積分30講」　朝倉書店

■参考文献

[1]若尾良男・水谷昌義　「社会科学系の数学入門 第2版」　ムイスリ出版
[2]石井望他　「経済・経営のための基礎数学　新版」　実教出版株式会社
[3]足利義則　「経営と情報のための数学概論-経営情報の数学的手法-」　培風館
[6]小林龍一他　「解析序説」　ちくま学芸文庫
その他、授業中に適宜紹介。

■参考URL

http://stat.tama.ac.jp

■評価方法

通常の課題等による平常点(60%)と学期末の試験結果(40%)により総合評価

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

数学系の基礎科目

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

本講義は，基本的な数学の知識を習得するためのものであり、経営情報数学Iと並列する基礎的な数学を習得するため、基礎的な数学に関する理解が求められる．また統計学・IIでは、本講義の内容の理解が必要となるので本講義の履修が望ましい。

科目名　経営情報論Ⅰ(Management Information Systems Ⅰ)

サブタイトル　企業における情報の収集と活用

担当教員　諸橋　正幸

■講義目的

企業内の情報や顧客情報をいかにタイムリーにかつ正確に集め、企業活動に利用していくかについて理解する。企業内のIT化というときに常に取り上げられる情報収集・活用の一般的な方法を学ぶ。情報の蓄積についてはデータベース利用が確立された手段として現在も重要な役割を果たしているが、情報の活用手段としては、集合知やビッグデータといった新たな手法が開発され、企業戦略や新たなビジネスモデル開拓に使われる。また、情報収集手段も、かつてのアンケートからインターネットを利用した自動収集に重きが置かれるようになった。それらを含む概括的手法を紹介する。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
ビジネスICT

■到達目標

企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げ、また、事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解する。さらに、顧客側により満足を与えるサービスを提供する目的で行われる購買行動分析や企業間連携が行われている現状を理解する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
0章　本講義の目的
1章　企業活動と情報システム
1.1節　仕事の仕組みと情報システム
予習、復習のポイント：
「講義目的の紹介」では、企業の基幹業務を扱う際の情報システムの役割を説明することで本講義全体の目的を紹介する。
「仕事の仕組みと情報システム」では給与計算や受注～納品の仕組みを玲にして、その抽象モデルとしての情報システムを理解する。
<第2講>
1.2節　セブンイレブンにおける情報システム（事例1）
予習、復習のポイント：
加盟店を統括する形での商品発注・納品の仕組みを自動化する「スリップオーダー方式」から、商品の売行き予測まで行う「店舗総合情報システム」に至る情報システムの発展を概観する。
<第3講>
1.3節　製造業における情報システム
予習、復習のポイント：
製造業を作業手順から組み立て加工型、枝分かれ型に分類し、また、受注形態からオーダーメイド・非オーダーメイドに分類して、それぞれの形態の特徴とそれに合わせた情報システム構築の要件を捉える。
<第4講>
1.4節　トヨタにおける情報システム（事例2）－概要
予習、復習のポイント：
組み立て加工・非オーダーメイド型の代表である自動車組み立て工場の情報システムの例として、トヨタの情報システムを紹介し、自動車産業の歴史の流れの中でシステムの存在意義を理解する。
<第5講>
1.4節　トヨタにおける情報システム（事例2）－平準化・かんばん方式
予習、復習のポイント：
トヨタシステムの代表的機能である平準化、かんばん方式の考え方を簡単な例を用いて理解する。
<第6講>
1.5節　CAD、FA，CIM（設計から生産までの自動化）
予習、復習のポイント：
製造業における設計から生産自動化にいたる代表的技術とそれをシステム化した製品を紹介する。
<第7講>
2章　情報管理から戦略への情報活用へ
2.1節　米国流仕事の階層
予習、復習のポイント：
マニュアル化に代表される効率重視の考え方が効果を発揮する定型業務と意思決定プロセスの的確さを重視する非定型業務の違いを明確にし、特に意思決定プロセス支援に関連する情報系システムの概要を紹介する。
<第8講>
2.2節　データベース、データウェアハウス、データマイニング
予習、復習のポイント：
従来、基幹系システムの代表であったDBMSが、どういう形で情報系システムに役立つ形に変化していったかを技術的な観点から理解する。
<第9講>
2.4節　SIS（戦略的情報システム）－定義と事例
予習、復習のポイント：
SISの定義と情報システムの中での位置づけを理解し、その成功事例（米航空会社AALとUALのシステム）を通して設計の考え方を学ぶ。
<第10講>
2.4節　SIS（戦略的情報システム）－事例その2
予習、復習のポイント：
SISの成功事例としてAHS、FEDEX、トスステムを取り上げ、これら成功事例に共通するSISの考え方の理解を深める。
<第11講>
2.5節　BPR（Business Process Reengineering）－必要性の背景と定義
予習、復習のポイント：
BPRの生まれた背景と発展の歴史を理解し、単なるリストラとは異なる考え方であることを理解する。
<第12講>
2.6節　BPR（Business Process Reengineering）－事例
予習、復習のポイント：
IBMクレジットの例を通して、リエンジニアリングの実際を知る。
<第13講>
3章　つながる世界
3.1節　SCM（サプライチェーン・マネージメント）
予習、復習のポイント：
SCMの定義、事例を通して、企業間の情報共有の有効性を知る。
<第14講>
3.2節　KM（ナレッジ・マネージメント）
予習、復習のポイント：
KMの考え方、知識創造プロセス（SECI）の概念、実現のための4つのアプローチ（タイプ）を理解する。
<第15講>
3.3節　CRM（カスタマー・リレーションシップ・マネージメント）
3.4節　e－ビジネス／e－コマース
予習、復習のポイント：
実例を通してCRMの考え方を理解する。また、e－ビジネス／e－コマースを通して、企業が取るB-to-B、B-to-Cのアプローチを紹介する。

■教科書

講義用テキストを用いる

■指定図書

■参考文献

各回の講義内容に応じて、適宜紹介する。

■参考URL

■評価方法

評価は、講義中の理解度確認テストおよびレポート課題(50%)、期末試験(50%)により行う。

■評価基準

理解度確認テスト、レポート、期末試験ともに、講義内容をどの程度理解したかを見る。
相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

紹介する最新技術やビジネスモデルには、その性格上、英語の略語が頻出する。単にその略称を覚えるのではなく、元の英語名称を覚えることで内容を理解するように努めること。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名　経営情報論II（Management Information Systems II）

サブタイトル　ウェブによる情報の発信・収集・活用

担当教員　諸橋　正幸

■講義目的

企業活動を効果的に行うには顧客嗜好や社会動向をタイムリーかつ的確につかむ必要がある。従来はアンケート調査等に頼っていたがウェブの発達により安価で正確な情報をつかむことが可能になった。これらの技術の利用法とその実例を紹介する。

ウェブ2.0の登場によりウェブ上には一部の専門家や企業ばかりでなく一般多数の人々の意見・心情が公開できる場になった。そうした意見・心情の中から人々の考え方、流行に対する受け入れ方を分析し、企業活動に活かす方法について学ぶ。なお、分析対象はウェブに記載された文章ばかりでなくマウス等を用いたユーザの振る舞いも含まれる。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
グローバルビジネス
ビジネスICT

■到達目標

ウェブ2.0上で活用されている最新技術の動向を理解した上で、企業がそれをどのように活用しているか、また、ユーザとして利用することで社会全体がどのような変化を起こしつつあるかを理解し、ネット社会とどう付き合っていくかを考えた行動がとれるようにする。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
0章　本講義の目的
1章　ネットワークを介した情報の収集／発信
1.1節　ネットワーク発展の歴史
予習、復習のポイント：
商用コンピュータの誕生からネットワーク活用の歴史を振り返り、ネットワークが必要とされてきた背景と要求の変化を知る。
<第2講>
1.2節　発展の歴史が示すもの－未来への方向性
予習、復習のポイント：
ウェブ2.0の登場と現在の開発競争の中から将来の方向を知るとともに、その中で一般大衆としての我々の生活スタイルに与える影響を概観する。
<第3講>
2章　ブラウザとデータベースの結合
2.1節　ブラウザとは
2.2節　ブラウザとデータベースシステムを結合するには
予習、復習のポイント：
ウェブの重要な要素となっているブラウザの仕組みを理解し、発展の歴史から現状を理解する。特に、データベースとの結合の必要性とその実現手段について概観する。
<第4講>
3章　検索サイトのビジネスモデル
3.1節　検索サイトとは
予習、復習のポイント：
情報検索手段の代表であるディレクトリ検索とキーワード検索の違いを知った上で、実際の検索サイトがどのように両方式を融合させてユーザの満足を得ようとしているかを理解する。
<第5講>
3.2節　検索サイトの技術的意義
3.3節　ビジネスモデル
予習、復習のポイント：
ディレクトリ方式とキーワード方式を実現するための技術的側面を理解する。また、ビジネスモデルとしての検索サイトの運営法を学ぶ。
<第6講>
確認テスト
予習、復習のポイント：
1~6講までの講義内容の理解度確認をとるためにテストを行う。
<第7講>
4章　Web2.0のビジネスモデル
4.1節　Web2.0の定義
予習、復習のポイント：
ウェブ2.0の実現事例をみながら、名付け親であるティム・オライリーの定義に従って、ウェブ2.0の本質を理解する。
<第8講>
4.2節　Web2.0によって何が変わったか
4.3節　ビジネスモデル
予習、復習のポイント：
ウェブ2.0の実現事例や先端技術動向から一般社会生活に与える影響を考える。また、その中で活動する企業のビジネスモデルについても学ぶ。
<第9講>
5章　Web2.0を利用したサービス
5.1節　CGM(Consumer Generated Media)
予習、復習のポイント：
ウェブ2.0の具体的実現例の中からCGMについて知る。また、それが社会に与える影響を「光と影」の両面から考える。
<第10講>
5.2節　集合知とウェブ市場調査
予習、復習のポイント：
ウェブ2.0の具体的実現例の中から集合知獲得技術とウェブ市場調査の実態について知る。また、それが社会に与える影響を「光と影」の両面から考える。
<第11講>
5.3節　オンライン広告
5.4節　オンラインショッピング
予習、復習のポイント：
ウェブ2.0の具体的実現例の中からオンライン広告・オンラインショッピングについて知る。
<第12講>
5.5節　モバイル向けサービス
予習、復習のポイント：
ウェブへ参加する手段がＰＣからモバイルへと傾斜しているが、その実態を技術面からとらえる。また、多機能携帯（スマートフォン）の出現によって可能になったサービスの実態を学ぶ。
<第13講>
6章　クラウド・コンピューティング
6.1節　クラウド・コンピューティングとは
6.2節　その狙いとビジネスモデル
予習、復習のポイント：
クラウド・コンピューティングの定義と実態を学ぶ。
<第14講>
7章　ユビキタス・コンピューティング
7.1節　センサーおよびウェアラブル端末の発展
予習、復習のポイント：
ユビキタス・コンピューティングの定義を知る。また、実現のための先端技術の動向を知る。
<第15講>
7.2節　ユビキタス社会
予習、復習のポイント：
ユビキタス・コンピューティングが社会に与える影響を考える。また、実際にこの技術をビジネスに活かした事例を通して、その実態を確認する。

■教科書

講義用テキストを用いる

■指定図書

■参考文献

各回の内容に応じて、適宜紹介する。

■参考URL

■評価方法

評価は、講義中の理解度確認テストおよびレポート課題(50%)、期末試験(50%)により行う.

■評価基準

理解度確認テスト、レポート、期末試験ともに、講義内容をどの程度理解したかを見る。相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

紹介する最新技術やビジネスモデルには、その性格上、英語の略語が頻出する。単にその略称を覚えるのではなく、元の英語名称を覚えることで内容を理解するように努めること。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名 経営組織Ⅰ(Management Organization Ⅰ)

サブタイトル

担当教員 小林　英夫

■講義目的

企業は最も重要な経営資源である人（々）を一つの組織としてまとめあげ、直面する内外の課題を解決し、成果をあげ続けることを目指す存在である。時代とともに変貌する組織のあり方、組織を構成する人的資源を最大に発揮する方法などを考える科目である。

経営組織Ⅰでは、この問題に関する基礎的項目について最前線事例を踏まえて学び、実践的知識を獲得する。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

・組織とは何であり企業組織はどのように運営されているのかを理解し説明できる。
・組織の主要構成要素である人的資源が組織の中でどのように活かされているのかを理解し説明できる。
・自らが組織を通じてキャリアを築き産業社会へ貢献することのイメージを描くことができる。

■講義形態

・講義のみ
：学外学習無

■講義の概要

<第1講> イントロダクション
概要：　様々な組織観
事前学習しておくべき用語やポイント[組織]
詳細：　組織とは何か、経営の観点から組織とはどのように捉えられるのかについて、多様な見方が存在することを知り、その概要について学ぶ。
<第2講> 組織運営1
概要：　経営、個人と組織
事前学習しておくべき用語やポイント[企業、経営、企業の機能]
詳細：　経営組織を考える上での前提となる企業とはそもそもどのような存在であるか、その経営とはどのようなものであるか、会社はどのようにして社会に役立っているかを学ぶ。
<第3講> 組織運営2
概要：　企業統治～会社は誰が動かしているのか
事前学習しておくべき用語やポイント[株式会社、コーポレート・ガバナンス]
詳細：　資本主義社会における株式会社では、株式所有者と会社経営者は異なった存在であることが多い。実際の経営の意思決定を担う経営者が、会社の社会的役割を正しく果たすように行動するための仕組みについて学ぶ。
<第4講> 組織運営3
概要：　組織構造～会社はどのような仕組みで動いているのか
事前学習しておくべき用語やポイント[職能別組織、事業部制組織、持株会社]
詳細：　効率的に活動するために、会社には部門が作られ部門間で仕事が調整されている。会社を動かしている仕組みとして、職能別組織や事業部制組織などの組織形態や企業グループ運営などを学ぶ。
<第5講> 組織運営4
概要：　職務設計～社員は仕事をどのように分担しているのか
事前学習しておくべき用語やポイント[分業、調整、権限、職務設計]
詳細：　個人の職務を設計することや個人間の分業を行うことの意味やその方法を知る。また、コンベア生産方式とセル生産方式の違いを取り上げて、会社がどのように生産を行い、労働者はどのようにそれに関与しているのかを学ぶ。
<第6講> 組織運営5
概要：　企業集団～会社は他の会社とどのように協力しているのか
事前学習しておくべき用語やポイント[系列、サプライ・チェーン・マネジメント]
詳細：　企業集団や財閥、系列や下請け、戦略的提携などを取り上げて、会社組織が他の会社組織とどのように協力しているのかを学ぶ。
<第7講> 組織運営6
概要：　ネットワーク組織～社会的ネットワークは組織でどのように活かされているのか
事前学習しておくべき用語やポイント[ソーシャルキャピタル]
詳細：　ソーシャルキャピタルの概念と意義について学んだ上で、企業内の人的ネットワークや企業間のつながりがソーシャルキャピタルをどのように生み出しているかについて考える。
<第8講> 組織運営7
概要：　企業理念と組織文化～会社はどのような方針で動いているのか
事前学習しておくべき用語やポイント[経営理念、組織文化]
詳細：　会社を牽引しているのは経営者であるが、多くの社員を組織目的に沿うように動かすためには、社員が共通に理解する方針や基本的な方向付けが必要である。そのための仕組みや、組織に築かれる文化について学ぶ。
<第9講> 個人と組織1
概要：　組織社会化～人はどのように会社に染まってくのか
事前学習しておくべき用語やポイント[組織社会化]
詳細：　2週にわたり映画を視聴する。1週目は、映画を通じて、人が組織に入ってどのように変容していくかを観察し、そのような変化が起こる理由について学ぶ。
<第10講> 個人と組織2
概要：　キャリア・マネジメント～人はどのようにキャリアを選択していくのか
事前学習しておくべき用語やポイント[キャリアマネジメント]
詳細：　2週にわたり映画を視聴する。2週目は、映画を通じて、人が組織との関わりのなかでどのようにキャリアを選択していくかを観察し、キャリア選択の要因について学ぶ。
<第11講> 人的資源管理1
概要：　人の管理とはどのようなことか
事前学習しておくべき用語やポイント[人的資源、人事労務管理]
詳細：　貴重な経営資源の一つとされる人材、それを管理するということはどういうことなのか、その役割や特徴にはどのようなものがあるかを、歴史的経緯も踏まえて学ぶ。
<第12講> 人的資源管理2
概要：　動機づけ～組織は人をどのように捉えるのか
事前学習しておくべき用語やポイント[人間モデル、モチベーション]
詳細：　人にとっての労働の意味を考えた上で、人にはどのような欲求があり、人が働くという行動はどのような欲求に動かされているのかを学ぶ。
<第13講> 人的資源管理3
概要：　影響力～人はどのように動かされるのか
事前学習しておくべき用語やポイント[認知、持論]
詳細：　人は自らの欲求に従って行動するだけでなく、暗黙の持論に従ったり、無意識のうちに何かの力に動かされていることもある。そのような影響力について知り、リーダーとしての影響力の行使を学ぶ基礎とする。
<第14講> 人的資源管理4
概要：　リーダーシップ～人をどのように動かすか
事前学習しておくべき用語やポイント[人間として一皮むけること]
詳細：　リーダーシップとはどのようなものであり、それは育成可能なものであろうか。リーダーシップを発揮した行動とはどのようなもので、リーダーと呼ばれる人はどのようにしてそれを身に付けているのかを学ぶ。
<第15講> ラップアップ
概要：　経営組織の展望
事前学習しておくべき用語やポイント[本講座で扱った組織観]
詳細：　本講座におけるさまざまな組織観を振り返り、それが実務においてどのような形で表れていたのかを考えるとともに、経営組織についての今後の学習深耕を導く。

■教科書

特になし。講義用資料を適宜配布または紹介する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■参考URL

■評価方法

授業貢献点（59%）、期末試験（41%）
単位取得には60%以上の得点が必要であり、授業に殆ど出席しない場合や、期末試験を受験しない場合は、単位取得は認められない。

■評価基準

相対評価

毎回の授業においてコメントシートまたはミニレポートの提出を求め、その内容をA（授業を聴き良い気づきがあった）、B（授業を聴いていた）、C（授業を聴いていたとは思われない）の3段階評価し、授業貢献点とする。Aは加点対象（2点）、Bが標準（1点）、Cは減点（−1点）、欠席は0点とする。従って、授業に出席していても、受講態度が悪い場合は欠席以下の評価となる。

期末試験では、経営組織に関する知識の習得度とともに、組織を通じたキャリア形成イメージが描けるようになっているかを評価する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名 経営組織Ⅱ（Management Organization II）

サブタイトル

担当教員 小林　英夫

■講義目的

企業は最も重要な経営資源である人（々）を一つの組織としてまとめあげ、直面する内外の課題を解決し、成果をあげ続けることを目指す存在である。時代とともに変貌する組織のあり方、組織を構成する人的資源を最大に発揮する方法などを考える科目である。

経営組織Ⅱでは、この問題に対してこれまでの学術的成果を踏まえ理論的側面からの検討を行うとともに、理論を実務に適用する際の考慮点を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

・1900年代より現在に至る経営組織理論の進展を体系的に説明することができる。
・経営組織の理論と実際の組織運営における課題を結び付けて考え、理論を用いて実務的な問題解決方法を考えることができる。
・自らが組織を通じてキャリアを築き産業社会へ貢献することのイメージを描くことができる。

■講義形態

・講義のみ
：学外学習無

■講義の概要

<第1講> イントロダクション
概要：　経営組織論の体系
事前学習しておくべき用語やポイント[マクロ組織論、ミクロ組織論]
詳細：　経営組織とは何かを、経営学の中で経営管理と経営組織はどのように位置づけられるのかを学ぶ。さらに、ミクロ/マクロの経営組織論の体系を俯瞰し、第2講以降の理解を促進する前提知識を身に付ける。
<第2講> 組織とは何か
概要：　様々な組織と官僚制
事前学習しておくべき用語やポイント[官僚制、ウェーバー]
詳細：　様々な組織の定義や組織観を概観し、経営組織論における組織の捉え方について学ぶ。その上で、官僚制の定義と長短所の学習を通じその意味を再考し、実際の組織運営に対する意義を考える。
<第3講> 古典的組織論
概要：　科学的管理法と管理過程論
事前学習しておくべき用語やポイント[テイラー、ファヨール]
詳細：　科学的管理法とフォードの生産システム、管理過程論を手掛かりに、初期の経営組織論における組織の捉え方と人間観（経済人モデル）について学ぶ。
<第4講> 新古典派組織論
概要：　人間関係論
事前学習しておくべき用語やポイント[ホーソン実験、集団力学]
詳細：　ホーソン実験を手掛かりに、メイヨーとレスリスバーガーによる人間関係論について学ぶ。その人間観（社会人モデル）について学んだ上で、組織における集団の概念について考える。
<第5講> 近代組織論
概要：　バーナード革命と意思決定論
事前学習しておくべき用語やポイント[経営者の役割、限定合理性]
詳細：　バーナードによる組織の定義と経営者の役割や、サイモン、マーチ、サイアートと続く意思決定論の基本的な考え方を学ぶことにより、組織の意思決定について考え、実務への示唆を得る。
<第6講> コンティンジェンシー理論
概要：　組織の環境適応と組織構造設計
事前学習しておくべき用語やポイント[条件適合理論、組織観関係論]
詳細：　組織のコンティンジェンシー理論の概念やオープン・システム観を学び、組織と環境との関わりについて考える。その上で、環境との関わりの中で組織をどのように設計していくかについて学ぶ。
<第7講> 制度派組織論
概要：　組織と制度
事前学習しておくべき用語やポイント[経営学における制度]
詳細：　取引コスト理論、個体群生態学、および制度派組織論の概念と事例を知ることを通じて、組織境界や組織形態の決定や組織における制度の重要性について学び、経営への意義について考える。
<第8講> 行動科学的管理論1
概要：　モチベーションの強度
事前学習しておくべき用語やポイント[欲求階層理論]
詳細：　自己実現人モデルも含めた人間観、人の欲求、人が動機付けられる要因について概観した上で、モチベーションの強さに大きく影響する欲求系モチベーション理論について学ぶ。
<第9講> 行動科学的管理論2
概要：　モチベーションの方向性と持続性
事前学習しておくべき用語やポイント[内発的動機づけ]
詳細：　モチベーションの方向性に影響する認知系モチベーション理論と、持続性に影響する報酬系モチベーション理論について学ぶ。その上で、目標管理制度や職務再設計などの理論の実践的応用手法について知る。
<第10講> 行動科学的管理論3
概要：　リーダーシップの定義
事前学習しておくべき用語やポイント[リーダーに求められる資質と行動]
詳細：　リーダーシップとは何か、リーダーシップの理論はどのように展開されてきたのかを学ぶことを通じて、組織のメンバーを動かす力としてのリーダーシップの望ましいあり方はどのようなものかを考え学ぶ。
<第11講> 行動科学的管理論4
概要：　リーダーシップ・スタイル
事前学習しておくべき用語やポイント[リーダーシップ行動の2つの軸]
詳細：　自己のリーダーシップ・スタイルの分析を行うとともに、状況に応じたリーダーシップのあり方や様々なリーダーシップのタイプについて学ぶことを通じて、組織のメンバーを動かす力としてのリーダーシップの望ましいあり方はどのようなものかを考え学ぶ。
<第12講> 行動科学的管理論5
概要：　リーダーによる動機づけの事例研究
事前学習しておくべき用語やポイント[星野リゾート]
詳細：　父親から承継した温泉旅館を全国的なリゾート運営事業へと発展させた星野佳路についての事例を学び、リーダーシップの発揮と部下の動機づけの実践について考える。
<第13講> 行動科学的管理論6
概要：　職業人としてのキャリア
事前学習しておくべき用語やポイント[キャリア・マネジメント]
詳細：　キャリアの概念と様々なキャリア発達の理論について学ぶ。その上で、簡単な事例をもとにして、組織内でのキャリア発達の規定因について考える。
<第14講> 行動科学的管理論7
概要：　キャリアの形成要素
事前学習しておくべき用語やポイント[キャリア・アンカー]
詳細：　職業選択におけるキャリア理論としてのトランジション論と、生き方におけるキャリア理論としての計画された偶然性理論について学ぶ。その上で、現代におけるキャリア形成の困難を乗り越えるために必要とされることについて考える。
<第15講> ラップアップ
概要：　経営組織の展望
事前学習しておくべき用語やポイント[組織理論の体系、現代組織]
詳細：　これまでの経営組織理論を再整理し、今後の組織のあり方や個人の働き方を展望する。最後に本講座における組織の視座を振り返り、それが実務にどのように役立つのかを考えるとともに、経営組織についての今後の学習深耕を導く。

■教科書

特になし。講義用資料を適宜配布または紹介する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■参考URL

■評価方法

授業貢献点（59%）、期末試験（41%）
単位取得には60%以上の得点が必要であり、授業に殆ど出席しない場合や、期末試験を受験しない場合は、単位取得は認められない。

■評価基準

相対評価

毎回の授業においてコメントシートまたはミニレポートの提出を求め、その内容をA（授業を聴き良い気づきがあった）、B（授業を聴いていた）、C（授業を聴いていたとは思われない）の3段階評価し、授業貢献点とする。Aは加点対象（2点）、Bが標準（1点）、Cは減点（−1点）、欠席は0点とする。従って、授業に出席していても、受講態度が悪い場合は欠席以下の評価となる。

期末試験では、経営組織に関する知識の習得度とともに、経営組織の理論と実際の組織運営における課題を結び付けて実務的な問題解決方法を考えることができるようになっているかを評価する。

■事前履修科目等

経営組織Ⅰを履修していることが望ましいが、必須ではない

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　経営と意思決定（Decision Making for Management Sciences）

サブタイトル

担当教員　今泉　忠

■講義目的

経営では，競争があり，そこではさまざまな問題解決のためには戦略的なアプローチが必要である．それは，これらがリスク下での意思決定問題として表現できることからもわかる。本講義では，さまざまな状況下で適切に判断できる能力や技法などの意思決定の基礎について合理的な解決に活用しうる数理的方法及び統計的方法について実例を交えながら学ぶ．いくつかの課題については，グループ課題として行う．

1.意思決定とは
2. 確実性のもとでの意思決定
3. 不確実性のもとでの意思決定
4.ベイズ意思決定

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

意思決定に関して，以下の項目について講義する．

1.意思決定とは
2. 確実性のもとでの意思決定
3. 不確実性のもとでの意思決定
4.ベイズ意思決定

特に，以下の習得に目標とする．

（1）AHP法について理解している
（2）Decision　Treeについて理解している
（3）ベイズ意思決定について理解している

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　意思決定を考える：何故定量的な意思決定が必要かについて講義する
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：意思決定の必要性の認識
社会や企業の活動では，絶えざる意思決定が必要である．この意思決定の枠組について講義する．
<第2講>　確実性のもとでの意思決定
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：定量と定性
意思決定基準には定性的な評価と定量的な評価があるが，この違いについて講義を行う．
<第3講>　確実性のもとでの意思決定　機会費用とサンクコスト
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ミクロ経済学での費用の考えた方
経済学で扱った機会費用とサンクコストについて復習する．これらはしばしば見過ごされているが，意思決定を行う場合には重要な概念である．
<第4講>　確実性のもとでの意思決定　代替案の選択I　選択基準
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：選択基準の種類
意思決定のプロセスは，いくつかのステップにより表現することができる．
それは，（0）目標の設定，（1）選択基準の設定，（2）解決案の候補の設定，（3）実施案の決定である．これについて講義をする
<第5講>　確実性のもとでの意思決定　演習
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：平均と標準偏差
データをもとにして定量的な意思決定を行う場合について平均と標準偏差の活用について学ぶ．特に，平均をリターン，標準偏差をリスクと定義して，これを用いて意思決定について学ぶ 。
EXCELなどの表計算ソフトを用いる。
<第6講>　選択基準（効用を評価する）
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ラプラス基準，マクシミン基準
定量的意思決定では，活用できるデータが同じでも，どのような選択基準を用いるかで，実施案の選択が異なる．これらについて学ぶ．
<第7講>　選択基準　期待値
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ラプラス基準，マックスミン基準，ミニマックス基準
期待値を用いた場合の選択基準について講義する。
<第8講>ゲーム理論入門
第6講で学んだ選択基準を用いて演習を行うことにより選択基準による実施案の違いを習得する．
義を行う
<第9講>　多属性意思決定　AHP
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：AHP，多属性意思決定でのモデル化，一対比較
現実の問題を階層構造の問題として表現し，その解決を図るAHPについて講義する．
AHPでは階層の各段階で一対比較行列をもとにして，選択案を評価する．これについて講義する．
<第10講>　多属性意思決定　AHP演習
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：AHP，一対比較，行列の演算
学習したAHPについて演習を通じて理解を深める。
EXCELなどの表計算ソフトやCAS(Computer algebra system)を用いてので環境を用意すること。
<第11講>　不確実性のもとでの意思決定　ディジョンツリーI
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：分岐型の意思決定
意思決定において，分岐型の意思決定を行う場合に必要となるディジョンツリー(決定木)の基礎について学ぶ
<第11講>　不確実性のもとでの意思決定　ディジョンツリーII
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ディジョンツリーでの意思決定の評価
不確実性をある場合の分岐型意思決定について講義する
<第12講>　ベイズ統計入門　I
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：条件付き確率，事前確率と事後確率
不確実性がある場合には，ベイズ統計が用いられる．この枠組みについて講義する．
また，事前確率と事後確率の枠組みついても学ぶ
<第13講>　ディジョンツリーとベイズ意思決定I
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ディジョンツリーでの期待値の計算
以前学習したディジョンツリーをベイズ意思決定の観点から学ぶ
<第14講>　ディジョンツリーとベイズ意思決定II
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ディジョンツリーでの期待値の計算，リアルオプション
ディジョンツリーをベイズ意思決定の観点から捉え直す．特に，未来でのシナリオを想定した評価法について学ぶ．
<第15講>　まとめ
事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ディジョンツリーやベイズ意思決定
ディジョンツリーやベイズ意思決定についてまとめる

■教科書

テキストを公開する

■指定図書

福澤英弘　定量分析　実践講座　ファーストプレス
松原望　「統計の考え方」(改訂版)　放送大学教材

■参考文献

繁桝算男　「意思決定の認知統計学」　朝倉書店(1995)
多田洋介　「行動経済学入門」　日本経済新聞社(2003)

■参考URL

http://stat.tama.ac.jp

■評価方法

評価は、講義中の小テスト(50%)、レポート(40%)、出席(10%)により行う．
講義中の小テストは、次の3点を中心に評価する．
(1)統計的モデルを想定しているか．
(2)モデルを検討するに必要十分な前提を考慮しているか．
(3)確率を評価して判断できるか．
　レポートは次の3点から評価する．
(1)分布の設定が出来ているか．
(2)数式モデルとして表現されているか．
(3)検討が統計的に正しく行われているか．

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

統計学I、II

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

PCなどを用いているので，PCを活用できることが必要である。

科目名 経済学入門(Basic Economics)

サブタイトル

担当教員 下井　直毅、椎木　哲太郎

■講義目的

この科目では現代産業社会の構造・メカニズムを学び、社会問題の解決に発展させていくために不可欠な分析装置である経済学の基礎を講義する。できるだけ現実の経済現象に関心を持ち、それを分析する枠組みとしての経済学を学んでもらえると幸いである。この講義の目的は、経済理論の構造を明らかにし、それによって自分の頭で経済問題について考える力をつけるようになることに存する。
経済学は社会科学の中で重要な位置を占める「経世済民」の学である。かつてイギリスの経済学者A.マーシャルは、経済学徒に「冷静な頭脳」と「温かい心」の必要性を説いた。現代社会は、経済学になお多くの役割を求めている。経済政策の運営、「安定成長の実現」に失敗すると、深刻な政治的混乱がもたらされることは歴史の教訓である。是非、そのことに想いを馳せて熱心に学んでいただきたい。そして、この科目を起点として、ミクロ経済学やマクロ経済学、金融論、国際経済学や経済統計学、日本経済論や社会経済政策、さらに各国経済論と、応用分野に至る広範な経済学の世界を学んで活かしていってもらえると幸いである。
(1)経済学とは　(2)/(3)需要と供給　(4)/(5)価格の決定とその変化
(6)/(7)資源配分と所得分配の決定　(8)/(9)政府の役割　(10)/(11)国内総生産の決定
(12)/(13)経済の変動と安定化政策　(14)経済成長　(15)まとめ

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

経済学の基本的な考え方を身につけ、現代産業社会の現状や課題について考える力を身につけることをめざす。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 経済学とは　「経世済民」　希少性と資源配分
概要：経済学の概観を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[財・サービス、生産、消費、資源]
詳細：経済学とはどういう学問なのか。産業社会を分析し、社会的課題の解決に貢献する重要な「問題解決の実学」であることを理解する。
<第2講> 需要と供給(1)
概要：需要について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[需要曲線、需要曲線のシフト、代替財、補完財]
詳細：需要を決定する要因にはどのようなものがあるのかを理解する。
<第3講> 需要と供給(2)
概要：供給について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[供給曲線、供給曲線のシフト]
詳細：供給を決定する要因にはどのようなものがあるのかを理解する。
<第4講> 価格の決定とその変化(1)
概要：均衡の概念について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[均衡、超過需要、超過供給]
詳細：完全競争市場における財・サービスの価格はどのように決定され、需要曲線や供給曲線の変化によってどのように変化するのかを理解する。
<第5講> 価格の決定とその変化(2)
概要：均衡がどのように変化するのかを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[需要の価格弾力性、供給の価格弾力性]
詳細：供給曲線がシフト（移動）したときに価格がどのように変化するのか。「豊作貧乏」は需要曲線と供給曲線を用いてどのように説明できるかを理解する。
<第6講> 資源配分と所得分配の決定(1)
概要：資源配分や所得分配の概念について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[コーリン・クラークの法則、生産要素]
詳細：完全競争市場において、資源配分や所得分配はどのように決まるのか。20年後の日本の産業（構造）はどのような姿になっていると予想できるかを理解する。
<第7講> 資源配分と所得分配の決定(2)
概要：所得分配の決定について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[賃金、地代]
詳細：人々の間の所得分配はどのようにして決まるのか。賃金の格差はなぜ生じるのか。経済の循環の様子はどうなっているのかを理解する。
<第8講> 政府の役割(1)
概要：市場の失敗について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[市場の失敗、費用逓減産業、公共財]
詳細：政府の役割とはどういうものなのか。市場の機能がうまく働かないのはどういう場合なのか。鉄道や電話事業はなぜ民営化されたのかを理解する。
<第9講> 政府の役割(2)
概要：政府の役割について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[外部性、所得再分配政策、社会保障制度]
詳細：外部性による市場の失敗や情報の不完全性にかかわる政府の役割とは何か。市場経済で生じた人々の間の所得格差を是正する所得再分配政策には何があるのか。公的年金制度はなぜ必要なのかを理解する。
<第10講> 国内総生産の決定(1)
概要：国内総生産の概念を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[GDP、付加価値、国内総所得]
詳細：マクロ経済学とは何か。マクロ経済変数には何があるのかを理解する。
<第11講> 国内総生産の決定(2)
概要：国内総生産の決定について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[有効需要の原理、総需要、総供給]
詳細：物価が変動しないとき、国内総生産と国内総支出はどのように決定されるのか。45度線を使った経済モデルの意味を理解する。
<第12講> 経済の変動と安定化政策(1)
概要：国内総生産の変動について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[経済成長率、投資乗数、自発的失業、非自発的失業]
詳細：なぜ国内総生産は変動するのか。投資乗数の意味を理解する。
<第13講> 経済の変動と安定化政策(2)
概要：経済の変動要因や安定化政策について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[完全雇用、財政政策、金融政策]
詳細：国内総生産の変動を小さくして完全雇用を維持するためには、どのようなマクロ経済の安定化政策を採用すればよいのか。1990年代以降、日本政府は財政支出を増加させてきたが、それは現在、どのような問題を生じているのかを理解する。
<第14講> 経済成長
概要：経済成長要因を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[人的資本、市場経済、計画経済、高度経済成長]
詳細：供給サイドからアプローチしたとき、経済はどのような要因によって成長するのか。経済成長はなぜ必要なのかを理解する。
<第15講> まとめ
概要：これまでの流れを復習する
事前学習しておくべき用語やポイント[GDP、経済成長、付加価値]
詳細：明治時代以降、日本はどのように経済成長を行なってきたのか。高度経済成長期の成長要因は何だったのか。諸君の生きた時代は、なぜ低成長が続いてきたのか。これからの日本経済はどのようにあるべきかを学ぶ。

■教科書

岩田規久男『経済学への招待』新世社(2007年)

■指定図書

■参考文献

伊藤元重『入門 経済学』日本評論社(2009年)
正村公宏『経済学入門 21世紀型文明をどう築くか』筑摩書房(1999年)

■参考URL

■評価方法

期末定期試験（80%）、出席（20%）

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

・高校時代までには学んでこなかった科目であるため、ややとっつきにくい内容であるかも知れない。積み重ねが大切な科目であるので、授業に休まず、分からないことは質問し、予習・復習を欠かさないように努めることが肝要である。
・2004年度以降の入学生は、この科目の単位を修得しないと、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「日本経済論」（2011年度入学生まで）が履修できない。
・2008年度以降の入学生は、この科目の単位を修得しないと、「国際経済」、「社会経済政策」（2011年度入学生まで）が履修できない。
・2010年度以降の入学生は、この科目の単位を修得しないと、「金融論」、「経済統計学」が履修できない。

科目名 経済統計学(Economic Statistics)

サブタイトル

担当教員 下井　直毅

■講義目的

産業社会を分析する上では多種多様な問題が提起される。経済成長の見通しはどうなのか、中高年層の雇用の予想はどうなるのか、為替相場の動向はどう予想されるのか、等々である。こうした問題について経済理論はもちろん必要だが、経済統計データもあわせてみる必要がある。この講義では、日本経済の現状および日本経済が抱える課題について学び、最前線事例を紹介しつつ、その際に必要なデータについての基礎知識を身につけることを目的としている。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

日本経済の現状と課題についての基本的な知識や経済データに関する必要な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 日本経済の全体像
概要：日本経済の全体像を把握する
事前学習しておくべき用語やポイント[GDP、経済成長]
詳細：日本経済の姿はどのようなものなのかを学ぶ
<第2講> 戦後日本の経済成長
概要：戦後日本の経済成長の推移を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[経済成長、需要、供給]
詳細：戦後の高度成長の著しい伸びの背景には何があったのかを学ぶ
<第3講> 景気循環の姿とそのとらえ方
概要：景気循環について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[景気循環、先行指数、一致指数、遅行指数]
詳細：景気はなぜ変動するのか、そのメカニズムを学ぶ
<第4講> ストックから見た日本経済
概要：ストック面から日本経済を概観する
事前学習しておくべき用語やポイント[資産、実物資産、金融資産]
詳細：日本の資産の現状はどのようなものなのかを学ぶ
<第5講> 雇用の変動と日本型雇用慣行の行方
概要：雇用環境について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[完全失業率、有効求人倍率、終身雇用制度、年功賃金制度]
詳細：日本の雇用構造はどのような姿なのかを学ぶ
<第6講> 企業行動と日本型企業経営の行方
概要：日本の企業行動について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[合成の誤謬、バブル、日本型企業経営]
詳細：従来型の日本経営とはどのようなものだったのか、日本型経営が向かう方向はどのようなものかを学ぶ
<第7講> 産業構造の変化と将来のリーディング産業
概要：産業構造の変化や将来のリーディング産業について考える
事前学習しておくべき用語やポイント[アジア、グローバル、サービス化]
詳細：日本の産業構造変化の背景は何だったのか、リーディング産業はどのようなものかについて考える
<第8講> 物価の変動とデフレ問題
概要：物価の変動とデフレの問題について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[消費者物価指数、インフレ、デフレ]
詳細：物価変動の要因やデフレの背景は何かを学ぶ
<第9講> 円レートの変動と日本経済
概要：為替相場の変動や日本経済に及ぼす影響について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[為替レート、交易条件、Jカーブ]
詳細：円レートはなぜ変動するのか、日本経済に及ぼす影響はどのようなものかを学ぶ
<第10講> 貿易と国際収支の姿
概要：貿易と国際収支の姿を概観する
事前学習しておくべき用語やポイント[比較優位、経常収支]
詳細：日本の貿易構造の変化はどのようなものかを学ぶ
<第11講> 直接投資と空洞化をめぐる議論
概要：直接投資と空洞化をめぐる議論を概観する
事前学習しておくべき用語やポイント[対外直接投資、対内直接投資、空洞化]
詳細：日本の対外直接投資の動きはどのようなものか、空洞化論で注意するべき点は何かを学ぶ
<第12講> 財政をめぐる諸問題
概要：財政をめぐる諸問題について考える
事前学習しておくべき用語やポイント[クラウディング・アウト、リカードの等価定理、プライマリー・バランス]
詳細：日本の財政の再建はできるのかを考える
<第13講> 経済再生の鍵を握る金融
概要：経済再生の鍵を握る金融について考える
事前学習しておくべき用語やポイント[安全資産、危険資産、金融政策、間接金融、直接金融]
詳細：日本の金融の長期的課題は何かを考える
<第14講> 講義前半の復習
概要：講義前半の復習
事前学習しておくべき用語やポイント[経済成長、景気循環、雇用]
詳細：全体を通じて日本経済に対する理解が深まったかどうか振り返る
<第15講> 講義後半の復習
概要：講義後半の復習
事前学習しておくべき用語やポイント[産業構造、デフレ、為替相場、国際収支]
詳細：全体を通じて日本経済に対する理解が深まったかどうか振り返る

■教科書

小峰隆夫『最新 日本経済入門』日本評論社（2008年）

■指定図書

■参考文献

小峰隆夫他『データで斬る世界不況 エコノミストが挑む30問』日経BP社（2009年）
小峰隆夫『政権交代の経済学』日経BP社（2010年）

■参考URL

■評価方法

期末テスト(70%)、出席（20%）、宿題(10%)

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

2010年度以前の入学生は、「経済学基礎」の単位修得者に限り、また2011年度以降の入学生は、「産業社会論入門（経済）」の単位修得者に限り、履修登録ができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名　原価分析(Management Accounting)

サブタイトル

担当教員　山原　克明

■講義目的

管理会計は、事前的に組織の経済的意思決定の判断材料となる有用な情報を提供するとともに、事後的に組織の業績を内部的に評価するために有用な原価情報を解析・提供するものである。現代の管理会計において重要となっているのは、判断材料となる有用な経営情報の提供であるが、組織の業績を内部的に評価するための有用な原価情報の解析・提供はその基礎となる。

この講義では、まず管理会計の学習の前段として、伝統的な原価計算の基礎概念やプロセスを理解する。次に、有用な経営情報の解析力を身に付けるという視点から、経営戦略・マーケティングなどとのかかわりを考察しながら、管理手法としての役割や原価情報の分析を理解していく。

■講義分類

顧客理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

コストの計算と分析について、経営情報(経営戦略・マーケティングなど)との関連を考察しながら、原価計算の基本から管理会計の入り口にあたる知識の習得までをめざす。

■講義形態

講義のみ：学外学習　無

■講義の概要

講義では、まず伝統的な原価計算の基礎概念や計算プロセスを理解する。次に、有用な経営情報の解析力を身に付けるために、経営戦略、マーケティングなどとのかかわりを考察しながら、原価情報の計算・分析や解析手法を理解していく。計算プロセスと計算・分析手法については、講義中に演習(専門用語や計算等の問題)を組み合わせて進め、その裏付けとなっているコスト・マネジメントのロジックまでを明らかにする。このために、他の経営情報領域の科目との関連を常に考えながら、計算分析手法の理解とそのロジックを積み上げるように学習を進める必要がある。
講義では、要点を示しながら進め、資料として内容に関する『原価分析研究ノート』(講義用冊子)やプリント教材を配布する。また、講義ごとに出席カードを兼ねた小テストを実施するとともに、必要な時に中間テストを行って理解度を確認しながら進める。

<第1講>　原価分析の全体像
・適正な原価と利益を分析してみよう。
・企業活動で管理会計はどのような位置を占め、なぜそういった情報が重要なのか。
・どのように原価を分類し、特有の専門用語はどのように使われるのか。
・原価はどのように計算し、その目的は何か。
<予習・復習ポイント>
　原価分析の全体像を理解し、ロジックをはっきり把握して計算・分析できたか。
<第2講～第3講>　費目別計算
・原価計算で使われるキーとなるタームを記憶できたか。
・材料費・労務費・経費の計算と、費目を区分するロジックを把握できたか。
・製造間接費の計算とは、どのようなコストとしての特性を持っているのか。
<予習・復習ポイント>
　費目別計算について理解し、計算・分析できたか。
<第4講>　部門別計算
・部門別計算とその目的は何か。
・原価部門(原価発生場所別区分)の分類・集計はなぜ必要なのか。
・部門別の計算には、どのような方法があり、どのような計算の考え方があるのか。
<予習・復習ポイント>
　部門別計算について理解し、計算・分析できたか。
<第5講>　製品別計算
・個別原価計算とは、どのようなコスト集計方法で、その特徴はどこにあるのか。
・適用される生産スタイルは何か。
<予習・復習ポイント>
　製品別計算について理解し、計算・分析できたか。
<第6講～第8講>　総合原価計算　-　基礎から応用へ　-
・総合原価計算とは、どのようなコスト集計方法で、その特徴はどこにあるのか。
・適用される生産スタイルは何か?
・単純総合原価計算の基本的な計算方法とそのロジックを理解できたか。
・工程別・組別・等級別の原価計算の計算方法を理解できたか。
・仕損品・減損の取り扱いについて、基礎的な知識を応用できるか。
<予習・復習ポイント>
　総合原価計算について理解し、計算・分析できたか。
<第9講～第11講>　標準原価計算　-　基礎と応用　-
・標準原価計算の目的と予算制度との関連どのようなものか。
・標準原価の種類と運用手順を理解できたか。
・直接材料費・直接労務費と差異分析プロセスを計算手法と結び付けられたか。
・製造間接費と差異分析プロセスを計算手法と結び付けられたか。
・各差異の発生原因を理解し、正確な専門用語を使用できるか。
<予習・復習ポイント>
　標準原価計算の基礎的な手法を理解し、具体的に計算・分析できるか。
<第12講～第14講>　原価計算から原価管理へ
・原価管理活動の重点移行を理解できたか。
・原価管理(Cost Management)とは何か。
・伝統的な原価計算と直接原価計算、ABC(Activity-Based Costing:活動基準原価計算)
原価企画の意義、目的、構造を知識として身に付けられたか。
<予習・復習ポイント>
　直接原価計算、原価企画、ABCについて理解し、具体的に計算・分析できるか。
<第15講>　原価分析の総括と総合演習

■教科書

山原克明編『原価分析研究ノート』　講義の要点を整理した講義用テキスト(冊子)
小林健吾著　『新訂版 原価計算総論』　創成社

■指定図書

[1] 小林啓孝著　『現代原価計算講義』　中央経済社
[2] 青木雅明著　『管理会計』　同文舘出版
その他、講義のなかで指示する。

■参考文献

[1] 田中隆雄・小林啓孝編　『原価企画戦略』　中央経済社
[2] 清水孝著　『戦略管理会計』　中央経済社
[3] 金子智朗著　『SEの会計知識』
日経BP社
その他、講義のなかで指示する。

■参考URL

■評価方法

期末試験(60%)、小テスト・課題(10%)、出席(30%)

■評価基準

相対評価
・期末試験
　・専門の用語、基本的な原価の算出プロセスを正確に理解しているか。
　・正確に計算、分析する知識が身に付いているか。
　・原価分析の意義やロジックを理解して、適切に処理ができるか。
・小テスト
　・毎時間の講義の要点をよく理解しているか。(小テストと合わせて出席を取る。)
・課　題
　・課題の着眼点を正確に把握し、適切な結果が示されているか。
　・簡潔な表現で要点が論述されているか。(課題などは、期日を厳守して提出する)

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

実施する

科 目 名　現代アメリカ論（America Study）

サブタイトル

担当教員　市川　周

■講義目的

第二次世界大戦後、最強の経済力と軍事力で世界をリードして来たアメリカ。一方、「敗戦国」ー「戦勝国」という根本的関係を歴史的原点として内包させながら、最大最強の同盟国としてアメリカを位置づけて来た日本。二十一世紀の日米関係は今後、如何なる変質をとげていくのであろうか。こんな問題意識をもとに「アメリカなるもの」を追いかけていく。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

日米関係の今後はこれから大学を巣立ってい新しい世代の日本人とアメリカ人の思考と行動そしてその結果にかかっている。講義の大きな軸としては日米関係史と日米産業間における「競争的共存関係」に重点を置きながら、講義参加者がそれぞれの「アメリカ観」をつかむことを目指す。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>日米関係の源流を探る(1)
概要：ペリー黒船来航と「白旗伝説」について
事前学習しておくべき用語やポイント[開国，明治維新]
詳細：日米関係の出発点はペリー提督が黒船(蒸気船の近代式軍艦)を引き連れ来航し、250年にわたる日本の鎖国を終わらせた時に始まる。日本人のアメリカ人との出会いは恐怖心と敵意(ライバル心)を根底にもった形で始まった。敗北する時は白旗を振れと、日本人に始めて教えたのがペリー提督であったという逸話から考えていく。
<第2講>日米関係の源流を探る(2)
概要：「坂の上の雲」と脱亜・興亜そして侵亜
事前学習しておくべき用語やポイント[日露戦争，脱亜論]
詳細：明治の勃興期、日本人のアメリカ人対するライバル心が醸成された過程は、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』で描かれたアジアでの自己主張と重なる。それは脱亜で始まり、興亜という役割意識に転じ、さらに侵亜という形でアジア太平洋を舞台にアメリカと衝突していく展開でもあった。この辺のダイナミクスを追いかけてみる。
<第3講>日米関係の源流を探る(3)
概要：新渡戸稲造という存在-「架け橋国家論」の夢と挫折
事前学習しておくべき用語やポイント[『武士道』，国際連盟]
詳細：日米関係をいたずらに敵対関係にもって行こうとする流れは必ずしも日本人の本意ではなかった。「我、太平洋の架け橋とならん」を自己の使命とした新渡戸稲造の人生軌跡を通して、西洋(アメリカ)と東洋(中国)の間で葛藤する日本のポジションの難しさを考える。
<第4講>日米関係の源流を探る（4）
概要：大東亜戦争とアメリカ-日本は何故、戦ったのか?
事前学習しておくべき用語やポイント[真珠湾攻撃，大東亜共栄圏]
詳細：日米関係の決定的な破局が大東亜戦争であった。何故、日本はこの無謀とも言えるアメリカとの戦争に突入してしまったのか?当時の世界情勢の中で日本はアメリカ、さらにアジア・中国との関係でどんな立場に立たされていたのか、そして日本が選択した「自存自衛」の戦略の意味とは何であったのかを考える。
<第5講>日米関係の源流を探る(5)
概要：日本の敗戦-失ったものと得たもの
事前学習しておくべき用語やポイント[玉音放送，平和憲法]
詳細：沖縄戦、東京大空襲、広島・長崎原爆投下という絶望的悲劇を経て迎える日本の敗戦の意味を、現代に生きる日本人の視点から振り返り、考える。天皇が国民に示した「大東亜戦争終結の証書」と、日本が国際社会への復帰を果たした国際連合加入時の重光葵外相演説の間にあるものに焦点を当てながら考える。
<第6講>日米関係の源流を探る(6)
概要：「日米安保」とは何か?-敗戦国と戦勝国
事前学習しておくべき用語やポイント[沖縄米軍基地，自衛隊]
詳細：「日米安保」とは日米安全保障条約の略であるが、ここに敗戦国日本と戦勝国アメリカの基本的関係が凝縮されている。何故、独立国家たる日本に60年以上にわたって外国の軍隊が駐留し続けるのか?その存在を空気や水のように考えたり、どうしょうもないこと現状追認する前に、「日米関係の源流」の観点から考えてみる。
<第7講>日米関係の源流を探る(7)
概要：第1～6講のまとめとレビュー
事前学習しておくべき用語やポイント[これからの日米関係]
詳細：第6講までの日米関係史の位置づけを振り返りながら、現代の私たちに問われていることとは何かについて考えてみる。
<第8講>ゲスト講師レクチャー
概要：アメリカとう国家を考える
事前学習しておくべき用語やポイント[アメリカ建国の精神]
詳細：日米関係の舞台で現在も活躍している、あるいは活躍していたゲストを迎え、縦横無尽に語って頂く。
<第9講>日米産業の競争ダイナミズム(1)
概要：　「相互進化」型ライバル関係という視点
事前学習しておくべき用語やポイント[ダーウィンの進化論，日米自動車産業]
詳細：ダーウィンの進化論に従えば、生命体であれ組織体であれ、その進化はパートナーあるいはライバルの存在があってこそ成立する。日本とアメリカの経済、産業、ビジネスにおいても、この「相互進化」現象が見られる。そのシンボリックな例とし先ず、自動車産業の現場に目を向けて考える。
<第10講>日米産業の競争ダイナミズム(2)
概要：日本型経営とアメリカ型経営
事前学習しておくべき用語やポイント[「運命共同体」，「利益共同体」]
詳細：日本企業とアメリカ企業は「相互進化」しながらお互いの長所を伸ばし、短所を克服してきたわけだが、両者には一方で簡単には一体化できない考え方も存在する。この議論の代表的なものに、企業を「運命共同体」と見るか、「利益共同体」と見るかという問題がある。多くの日本人は前者の考えを是として来たが、これから企業社会に入っていく若者の視点から考えてもらう。
<第11講>日米産業の競争ダイナミズム(3)
概要：企業人としての関心
事前学習しておくべき用語やポイント[就職と就社，入りたい企業とは]
詳細：日米経営の相互進化ダイナミズムを振り返りながら、自分自身が企業人となっていく上での意味を考えてみる。
<第12講>日米産業の競争ダイナミズム(4)
概要：日米技術力競争の現実と可能性
事前学習しておくべき用語やポイント[発明と商品化，企業とR＆D]
詳細：経済、産業の対外競争力のレベルは、その国の生産性とそれを支える技術力によって左右される。果たして日本の技術力はアメリカと比較した場合、どんな強みと弱みがあるのか、この点を明らかにしていくと共に、両国がこれからの世界競争の中でそれぞれどんな開発戦略を持とうとしているのかを考える。
<第13講>日米産業の競争ダイナミズム(5)
概要：第9～12講のまとめとレビュー
事前学習しておくべき用語やポイント[各講のキーワード]
詳細：ここまでの理解度をチェックしてみる。
<第14講>講義全体総括
概要：21世紀のアメリカと日本-どう共存し、切磋琢磨するのか?
事前学習しておくべき用語やポイント[「我が訪米計画」]
詳細：君がニューヨーク・JFK空港に出張であるいは、赴任で到着し、前方にマンハッタンの摩天楼(ここに2001年9・11テロで消滅したワールドトレードセンターのツインビルはもはやないが)を遠望しながらイエローキャブ(アメリカのタクシー)を走らせている時、アメリカにおける自分の仕事の意味を考えるであろう。その時、君はまちがいなく21世紀のアメリカと日本の関係を形成していく大きな流れの中にいる自分を感じるはずだ。そのために見据えておかねばならないことは何か?本講義の総括としたい。
<第15講>期末試験

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義の中で適宜紹介。

■参考URL

■評価方法

平常点　40%
出席状況やグループディスカッションに対する参加意欲を重視。
又、講義終了15分前におけるオピニオンメモの作成提出を適宜、実施する。
期末試験　60%

■評価基準

アメリカなるもの」を自分のテーマとして引きつける意欲的な問題意識と旺盛な好奇心のマグニチュードで評価する。
相対評価

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

教室の中の熱いコミュニケーションを大切にしたいので出席を重視。私語厳禁。その代り数回実施するグループディスカッションでは大いに語り合ってもらう。

科目名　現代中国入門（Collaboration of modern China forum）

サブタイトル

担当教員　安田　峰俊

■講義目的

中国は日本にとって重要な貿易相手国のひとつであり、政治・経済・文化・人的交流の各方面で日本と密接な関係がある一方、近年は政治・外交・軍事面などでの摩擦も目立ちます。この巨大な隣国について「どんな国、どんな社会なのか」「どんな人々が暮らしているのか」を知ることは、これからの社会を生きる多くの人にとって重要なテーマとなります。
中国ビジネスへの従事はもちろん、職場や取引先などで中国人と仕事をともにする機会は、みなさんの多くが将来的に体験するのではないでしょうか。本講義は、政治・歴史・文化の各分野について中国の「いま」を紹介した上で、日本人の中国観、中国人の日本観を整理し、両国間における相互認識のギャップを描き出すことを目標としています。みなさんの中国への関心を喚起し、隣国への客観的な理解を深め、将来のビジネスシーンに役立つ基礎教養を身につけていただくことを目的にしています。
内容は、別講義「中国経済論」の基礎・入門編と考えてください。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

現代中国についての客観的理解を深め、日本人が陥りがちな隣国への固定観念を克服し、将来的にビジネスシーンで中国に触れる際に役立つ基礎教養を体得する。

■講義形態

講義のみ　：学外学習無

■講義の概要

※以下は暫定です。同時期に中国でなにかニュースが発生したり、安田（＝講師）が現地取材をしたりすると内容が変わるかもしれません。
※事前に学習しておくべき用語：中華人民共和国、中国共産党、習近平、微博（中国のインターネット）、尖閣問題　など
※事前に学習しておくべきポイント：テレビ・新聞・週刊誌・ネットニュースなどの中国に関連する報道をしっかりチェックしておき、大気汚染・対日関係・現代ポップカルチャーなど「自分が特に関心がある分野はどこか」を講義以前に自分のなかで明確化しておくといいでしょう。毎回の講義終了時にアンケートを書いてもらいます。
知りたい問題についてリクエストがあれば、その都度、講義内容に反映していきます。
<第1講>
オリエンテーション＆「中国とは何か」
概要：「おいしい中国料理」「現代中国入門」「中国との領土紛争」……、こうした様々な文脈で使われる「中国」という言葉は、果たして何を指す概念なのでしょうか。講義の前に、まずは「中国」という枠組みについて知ることにします。
加えて、北京・上海・香港・台湾といった地名／地理的背景についても説明します。
<第2～4講>
「中国はなぜ、現在の『中国』になったのか」　現代中国史
概要：1949年に建国され、いまや世界2位のGDPを誇る大国にのし上がった中華人民共和国。しかし、中国はわずか30年ほど前までは硬直的な社会主義計画経済が敷かれる貧しい国でした。彼らはなぜ、現在のような大国になったのか、1940年代の抗日戦争～改革開放政策、天安門事件、江沢民・胡錦濤時代の中国を概観します。
<第4講>
「中国の政治はどうなっているのか　～いちばんえらい人は誰なのか～」　現代中国政治概説
中国共産党概説、習近平政権概説など。
<第5講>
「中国の社会はどうなっているのか」現代中国社会概説
次世代農民工、戸籍問題、社会格差問題など。
<第6～8講>
「日中関係はどうなっているのか　～仲がいい時代もあった？～」　日中関係史
日中関係史、尖閣問題の経緯とその問題点、反日デモなどについて述べます
<第9講>
「中国の日本ポップカルチャー受容」　現代中国社会概説
高倉健から蒼井そら、進撃の巨人まで。70年代～現在の中国民間社会における日本ポップカルチャー需要について述べます
<第10講>
「現代中国におけるインターネットとメディア」　現代中国メディア概説
<第11講>
「遠い民主化」現代中国民主化問題解説
<第12講>
「台湾と香港とはどんな場所か　～もうひとつの中国の姿～」　台湾・香港・華僑概説
<第13講>
「現代中国における少数民族問題」　少数民族問題概説
<第14講>
「となりの中国人　～在日華人の世界～」　在日華人概説
<第15講>
「中国社会とはなにか」

■教科書

■指定図書

■参考文献

安田峰俊『中国・電脳大国の嘘』（文藝春秋）
高井潔司，藤野彰，曽根康雄，遊川和郎，石井利尚『現代中国を知るための40章』（明石書店）
園田茂人『はじめて出会う中国』（有斐閣）
天児慧『中華人民共和国史』（岩波新書）、『日中対立』（ちくま新書）
毛里和子,園田茂人『中国問題: キーワードで読み解く』（東京大学出版会）
波多野淳彦『中国経済の基礎知識　改訂新版』（ジェトロ）

■参考URL

■評価方法

出席　30%
中間レポート　30%
期末レポート　40%
※出席…講義のうちで講師が任意で選んだ3～4回（どの講義が該当するかは明言しません）の出席率。就活などで忙しい学生は別途レポートの際などに報告すること。

■評価基準

絶対評価
A+ ：合計86点以上
A　：合計76～85点
B　：合計66～75点
C　：合計56～66点
F　：55点以下

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

科目名　現代メディア論Ⅰ(Contemporary Media Studies Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　木村　知義

■講義目的

「感じる空間、考える教室」へ！そして世界と時代に向き合う知のシャワーを。

新聞、読まない、テレビ、見ないという若者たち。いま、メディアの風景はどのようなものだろうか。

新聞購読者の減少、視聴率競争にさらされるテレビ、広告収入の落ち込みによる既存マスメディアの経営悪化、一方ではインターネットの台頭とソーシャルメディアの爆発的な広がり・・・。

メディア環境の変化のうねりをまえに、メディアの危機が語られ、いまメディアは大きく変わろうとしている。

さらに東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故にかかわる報道を重要な契機として、既存のマスメディアへの不信が一層深まり、メディアのあり方が根底から問われる時代となっている。

このような時代状況の中で、一体何が情報で、その背後にある「構造」は何かを見抜き、読み解くことがますます重要になっている。つまり、情報の受け手としての我々にとって、メディアリテラシー（メディアを的確に読み解き、活用する能力）の重要性が一層増しているというべきである。

情報の受け手である私たちには、この時代、どのような問題意識と力が必要とされているのか？！

メディアを読み解くことを通じて世界と時代の動向を的確に認識し、現代の情報社会を生き抜く実践的な知識と、問題解決のための道を考え抜く力を獲得することをめざす。そのために、日々メディアで伝えられるニュースや「できごと」をアップトゥーデイトに取り上げビビッドで実践的な学びの場としていく。これらの学びを総合して、問題発見能力、論理的思考そして問題解決能力にいたる、現代社会を生きるうえで必要とされる人間としての基礎力の涵養にチャレンジする。

大学という場から産業社会に巣立つ際に不可欠な世界潮流と時代環境への理解を深め、同時にコミュニケーション能力を鍛えることで、社会に立ち向かうための新たなリベラルアーツともいうべき創造的な学びの場をめざす。

将来の進路としてメディアをめざすわけでもないのに「メディア論」など学んで一体なんの役に立つのだろうか、と思う諸君もいるかもしれない。ここでは、ものの見方、考え方を育み、世界と時代を見る眼を鍛え、人間としての生きる力の獲得、練磨をめざす。もちろん、メディアをめざす諸君にとっても必須の学びの場となることはいうまでもない。

合言葉は、感じる空間、考える教室、胸躍る学びの場へ！

■講義分類

社会人力育成　　ビジネスICT
ビジネス環境理解　グローバルビジネス

■到達目標

1. 現在のメディア状況について知見を広げ、メディアと社会に対しての問題意識を持つことができる。
2. 日々、世界と日本で起きる出来事、ニュースについて、自分の頭で考え、分析して自分の言葉で語ることができる。
3. メディアにおける表現とその背後にある認識、問題意識の関係について、具体事例を通じて理解できる。
4. メディアのあり方について認識を深め、自分の意見、見識を持ってメディアと向き合うことができる。
5. 情報を読み解く力、問題発見能力を鍛え、問題解決のための実践的知識と力を社会生活の中で活用できる。
6. これらを総合して、現代社会を生きる上で不可欠なコミュニケーション能力を獲得し、実生活で実践できる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講> メディアの「風景」　変わるメディアとメディアの危機
概要：メディアの変化、変貌を概観しながら「メディアの危機」について考える。同時に、「現代メディア論」がめざすものは何かについてオリエンテーション。
事前学習しておくべき用語やポイント：「メディア危機」
なぜこの講義に関心を持ったのかなど、各自、受講の動機について発言できるよう考えを整理しておく。
詳細：インターネットの急速な台頭など、メディア環境の大きな変化と「メディアの現況」について概観しながら現在の「メディア危機」とメディアが抱える問題について認識を深める。同時に、この講義で何をめざすのか、「現代メディア論Ⅰ」の内容と目標、そして講義のすすめ方について提示する。

<第2講>変わるメディア（1）
概要：アメリカのメディアに起きている変化と新しいトレンドを手掛かりに、メディアの現在と未来について考える。
学習しておくべき用語やポイント：「Webメディア」「ハイブリッド報道」
詳細：従来のメディアとWebとの融合など、アメリカのメディアに起きている最新動向の具体事例をとおして、いまメディアの何が、どう変わろうとしているのかを学び、メディアの現在の姿とそれが抱える課題について考えることで、日本のメディアのこれからの行方について展望する。

<第3講>変わるメディア（2）
概要：Webメディアへの展開の中で生まれてきた、アメリカの「NPOメディア」やオピニオン型メディアについて学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：「NPOメディア」「プロパブリカ」「ポリティコ」「ハフィントン・ポスト」などネットジャーナリズムの現状について調べる。
詳細：既成メディアからWebへの展開の中で、アメリカで生まれてきた「NPO」を主体としたメディアやデータ集積型メディア、オピニオン型メディアなどの事例を通じて、大きな転換期にあるメディアのあり方を考える。これらの知見をもとに日本のメディア動向についてさらに深めて考える。

<第4講>新聞は読めるか？！（1）
概要：新聞は誰でも読める、しかし誰もが読めるわけではない、ではどうする・・・。
事前学習しておくべき用語やポイント：とにかく、新聞を手にする、読んでみるということからはじめる。
詳細：ネット依存で新聞を読まない若者世代。まず、新聞を手にして関心を持った記事を見つけ、その記事について何をどう考えたのかを語ることから始める。履修対象者が、就職活動に直面しこれから社会に出る4年生、あるいは就職活動を控えた3年生ということをふまえて、新聞を教材にして、情報を的確に読み解くには何が必要なのかを実践的に学ぶ。
注）当日の「朝刊」を必ず持参すること。

<第5講>新聞は読めるか？！（2）
概要：新聞をさらに深く読み込み、新聞を読む意味をしっかりとつかみ、情報をどう読み解いていくのかを具体事例を通して実践的に学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：新聞各紙の一面記事の比較、対照から何が見えてくるのかを考える。また同じニュースの扱いの違いや、ニュアンスの違いを読み分ける。さらに紙面の記事同士の相関、連関を考える。
詳細：新聞を深く読むことを通して、情報の相関、連関を読み解く重要性を知り、メディアと向き合う遠近法ともいうべき情報の「受け手」の側のメディアを読む力 - 情報解読能力、すなわちメディアリテラシーについて問題意識を深める。戦前、朝日新聞記者尾崎秀実が上海赴任を前にして東大時代の友人、歴史家の羽仁五郎を訪ねた際の新聞にかかわる「問答」を引きながら、新聞を読む意味とその方法について実践的に深める。

<第6講>新聞は読めるか？！（3）
概要： 新聞メディアの歴史を学ぶことを通じて、新聞が社会でどのような役割を果たしてきたのかを知り、新聞メディアと向き合う際に必要な基本的な知識とリテラシーを身につける。
事前学習しておくべき用語やポイント：新聞の歴史について調べる。
詳細：新聞を実践的に読むということを重ねてきた。そこで新聞の歴史に立ち戻って、メディアとの向き合い方についてさらに深める。特に災害と戦争を通して新聞が飛躍的な「発展」を遂げた歴史から新聞メディアが果たしてきた歴史的役割について認識を深めるとともに「メディアを批判的に読み取る」とはどういうことなのか、具体的な事例を通して考える。

<第7講>メディアの現場から - ネット時代とメディアの未来（特別講義）
概要：日本におけるWebメディアの現場で仕事をする報道人から話を聞く。
事前学習しておくべき用語やポイント：「ハフ・ジャパン」など日本のWebメディアの活動
詳細：日本のWebメディアの現場で仕事をする（比較的若い世代の）報道人から話を聞いて、日本のメディアにおける新しいトレンドについて知見を広げ、深める。同時に、学生たちのキャリアデザインの視野を広げ、進路をひらく力につなげていく。

<第8講>戦争とメディア（1）「検証　米メディアのイラク戦争報道」から
概要：NHKBSドキュメンタリー「検証　米メディアのイラク戦争報道」(2005年)を視聴して考える「戦争とメディア」
事前学習しておくべき用語やポイント：イラク戦争、大量破壊兵器、アブグレイブ刑務所
詳細：「戦争の最初の犠牲者は真実である」といわれるが、戦争とメディアの関係はさくて新しい問題であり続けている。米国のイラク戦争をめぐるメディアのあり方を検証したドキュメンタリーを視聴して、戦争とメディアについて考える。

<第9講>戦争とメディア（2）戦争報道の現場では
概要：戦争報道とメディアについてベトナム戦争以来の歴史を振り返りながら、戦地でメディアに何が起きていたのかを具体事例を通じて学ぶとともに戦争とメディアについて深める。
事前学習しておくべき用語やポイント：ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガン、イラク戦争,エンベッド取材、フセイン政権崩壊
詳細：ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガンそしてイラク戦争を振り返りながら、時代の変遷の中での戦争報道とメディアについて考える。特に、戦地でメディアに何が起きていたのかを具体事例を通じて知るとともに戦争とメディアについて深め、「メディアを批判的に読み取る」ということについて考える。
<第10講>戦争とメディア（3）
概要： 日本においてメディアは戦争にどうかかわってきたのかを振り返り、現在のメディアのあり方を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：戦争報道と商業主義、大本営発表
詳細：メディアが国際政治に深くかかわる「最初」の戦争とされる日露戦争以来の日本のメディアと戦争の関わりを振り返りながら、現在のメディア状況について見据え、メディアのあり方、さらには情報の受け手としての我々のメディアとの向き合い方について深める。
<第11講>横並び報道の病理を考える
概要：いまメディアの深刻な問題として指摘される「横並び」主義について具体事例を通して考え、メディアとの向き合い方をさらに深める。
事前学習しておくべき用語やポイント：パックリポーティング、メディアのコンフォーミティ
詳細：メディアの「横並び」現象が指摘されて久しい。この「横並び」はどこから生まれてくるのか、なぜ問題なのかを考え、情報の受け手である我々に必要な「メディアリテラシー」とはどのようなものであるべきなのか、実践的に深めていく。
<第12講>いま、エドワード・サイードに学ぶ～メディアを読み解く遠近法①～
概要： エドワード・W・サイードの問題提起をもとに、国際報道をどう読み解くのか深める
事前学習しておくべき用語やポイント：エドワード・W・サイード、「オリエンタリズム」
エドワード・W・サイードについて調べ、彼がどのような問題提起を重ねてきたのかについて、まとめてみる。とりわけ、『イスラム報道』における、メディアのありようについての問題提起を日常の国際ニュースに結びつけて考えてみる。
詳細：生前、現代世界が直面する問題、課題について衝迫力に富む論考を重ねた、元コロンビア大学教授エドワード・サイードの問題提起をもとに、メディアにおける情報やイメージがどのように形作られるのか、そこでの「画一性」をどうこえていくのかを考え、国際情報の読み解き方、ひいては「メディアの読み方」についてさらに深める。
<第13講>メディアと「わかりやすさ」「面白さ」の壁～メディアを読み解く遠近法②～
概要：メディアでは「わかりやすさ」「面白さ」が強く求められる時代になっている。若者世代もまたそうした尺度でメディアを語ることが多い。しかし、そこには重大な落とし穴が！
事前学習しておくべき用語やポイント：「そうだんたんだ！現象」について考えてみる
詳細：メディアでは「わかりやすさ」「面白さ」が強く求められる時代になっている。「そうだったんだ○○」という解説本もベストセラーという状況である。しかし「わかりやすさ」「面白さ」とは何をもってそう考えるのか、あるいはこの「わかりやすさ症候群」「面白症候群」の背景に何があり、それらがメディアに何をもたらしているのかについてはほとんど顧みられることはない。「わかりやすさ」「面白さ」に潜む問題について具体事例を通して考えてみる。そこから我々の「知」のあり方について深める。
<第14講>歴史意識と想像力～メディアを読み解く遠近法③～
概要：メディアと向き合う際に不可欠な歴史意識について考えてみる。同時にそこで求められる想像力とはどのような力なのかを考えメディアを読み解く力を鍛える。
事前学習しておくべき用語やポイント：歴史意識とはどのようなことか考える。「未発の可能性」について調べ、想像力について考える。
詳細：メディアと向き合う際に重要なカギとなる歴史への眼差しについて具体事例をとおして考える。さらに想像力とはどのような力なのかについても深め、メディアをとおして、時代と世界を見つめ、人間についての理解を深めるための力を鍛える。
<第15講>今日のニュースは明日の歴史―春学期のまとめに代えて
概要：メディアと向き合う力、メディアを活用して生きる力を鍛えるために学んできた春学期のポイントについて整理しながら、再確認する。
事前学習しておくべき用語やポイント：あらためて、メディアリテラシーとはどういうことなか。]
詳細：メディアと向き合う際に重要な、歴史意識とメディアの役割についてさらに深めながら、春学期の問題意識の整理と到達点の確認をおこなう。同時に、残された問題、課題を整理して秋学期への架け橋とする。

■教科書

なし。毎回、パワーポイントによるスライドやプリントなど、教材を準備する。

■指定図書

『図説日本のメディア』藤竹暁編著（NHK出版2012年）
『エンサイクロペディア　現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育研究所編（早稲田大学出版部2013年）
『アメリカ・メディア・ウォーズ～ジャーナリズムの現在地～』大治朋子（講談社2013年）
『ジャーナリズムの可能性』原　寿雄（岩波書店2009年）
『メディア危機』金子勝、アンドリュー・デウィット（NHK出版2005年）
『イスラム報道』エドワード・W・サイード（みすず書房2003年）
『メディアリテラシー～世界の現場から～』菅谷明子（岩波書店2000年）

■参考文献

『5年後、メディアは稼げるか』佐々木紀彦（東洋経済新報社2013年）
『これでいいのか！日本のメディア』岡本厚ほか（あけび書房2013年）
『そして、メディアは日本を戦争に導いた』半藤一利、保坂正康（東洋経済新報社2013年）
『「本当のこと」を伝えない日本の新聞』マーティン・ファクラー（双葉社2012年）
『メディアと日本人－変わりゆく日常』橋元良明（岩波書店2011年）
『ジャーナリズムが滅びる日』猪熊建夫（花伝社2011年）
『戦争絶滅へ、人間復活へ～九十三歳・ジャーナリストの発言』むのたけじ（岩波書店2008年）
『テレビ的教養　一億総博知化への系譜』佐藤卓己（NTT出版2008年）

■参考URL

■評価方法

学期終了時に課題レポートを提出。
加えて途中2回の「ミニ・レポート」を課する。
また、意見発表、討論など教室での積極性を重視する。
学期末の課題レポートとミニ・レポート：70パーセント
教室での発言、発表など積極性：30パーセント。
なお、レポートはMicrosoftOfficeのWardで作成のこと。

■評価基準

相対評価
レポートの評価にあたっては、講義内容をふまえてそれぞれが考えをどう深め、何にどう触発されて自己の思考を発展させたのかを重視し、何よりも自分で考え、自分のことばで語る、各自のオリジナリティーを最重視して評価、採点する。
引用を逸脱するWebからのコピーアンドペーストによるレポート作成は評価の対象外として不合格とする。またWebからの引用にあたっては必ず典拠を明示すること。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

この講義は、概説的なメディア論をめざすものではなく、メディアによって日々伝えられるニュースや話題さらには放送番組などを活用し、現代のメディア状況と情報の「読み解き」を実践的に学びながら、時代や世界を読み解く力を鍛えることをめざすため、素材として、日々のニュースなどビビッドな新事例を取り上げていく。従って、講義計画については、基本的枠組みは尊重しつつ、臨機応変に組み替えていくこともありうる
また、授業では毎日のニュースについての意見発表や事前に示したテーマについての発表、討論を求めていくので、事前に調べ、考えを整理して臨むことが不可欠となる。教室で、積極的に発言して、自身の考えを自らのことばで論理的に語る力の獲得につなげていくことも重要な目標となる。
履修にあたっては以上のことをあらかじめ理解、承知しておくこと。

科目名　現代メディア論II（Contemporary Media Studies II）

サブタイトル

担当教員　木村　知義

■講義目的

春学期の「現代メディア論I」をふまえて、さらに問題意識を深めていく。

春学期は、メディアの世界に起きている新たな動き、トレンドに注目してメディアの転換期についての知見と問題意識を深めるとともに、新聞をはじめとするメディアを通して、情報をどう読み解き、時代や世界についての認識をどう深めるのかを考えた。それはとりもなおさず、情報の受け手としての我々に必要とされるメディアリテラシーを鍛える営みであった。このメディアリテラシーの真髄は「メディアが形作る『現実』を批判的に読み取る力」であり、「建設的」な批判力の獲得、練磨であった。

そこに通底する問題意識は、日々洪水のように押し寄せる情報の波に翻弄されていてはならない！ ということである。あるいは饒舌なまでに語られるが、伝えられるべきことは語られていない、という問題意識でもあった。メディアの危機が語られる現代のメディア状況を前に、世界で、日本で、いま一体何が起きているのか、時代はどこに向かうのかなどを、的確に読み解き、認識できる力をどのようにして獲得し、鍛えるのかということでもある。

長年にわたって、放送の現場で教養、文化および報道分野の仕事を重ね、ラジオの朝の「報道・情報番組」のアンカーを務めてきた経験に立って、メディアから日々伝えられるニュースや話題をもとに、情報とは何かということにはじまり、それをどう読み解くのかを実践的に深め、時代や世界を読み解く力を鍛え、現代社会を生きる力としてのメディアリテラシーと創造性豊かな知性の獲得をめざす。

秋学期は、特に、「スクープ報道」「客観報道」「調査報道」といったテーマを重要な柱にして、新聞記事や国内、海外のテレビ・ドキュメンタリーなどを活用しながら、いまメディアに問われるものは何かについてさらに深めていく。

同時に、春学期にも掲げたように、大学という場から産業社会に巣立つ際に不可欠な情報への感度を高め、情報の解析能力、さらにはそれらにもとづいたコミュニケーション能力を総合的に鍛え、現代社会を生きるための新たなリベラルアーツともいうべき創造的な学びの場をめざす。

合言葉は春学期同様、感じる空間、考える教室、胸躍る学びの場へ！そして世界と時代に向き合う知のシャワーを、である。

■講義分類

社会人力育成　　ビジネスICT
ビジネス環境理解　グローバルビジネス

■到達目標

1．現在のメディア状況について知見を広げ、メディアと社会に対しての問題意識を持つことができる。
2．日々、世界と日本で起きる出来事、ニュースについて、自分の頭で考え、分析して自分の言葉で語ることができる。
3．メディアにおける表現とその背後にある認識、問題意識の関係について、具体事例を通じて理解できる。
4．メディアのあり方について認識を深め、自分の意見、見識を持ってメディアと向き合うことができる。
5．情報を読み解く力、問題発見能力を鍛え、問題解決のための実践的知識と力を社会生活の中で活用できる。
6．これらを総合して、現代社会を生きる上で不可欠なコミュニケーション能力を獲得し、実生活で実践できる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講> なぜ、メディアリテラシーは必要なのか～現代メディア論Ⅱがめざすもの～
概要：「メディア危機」と「メディアリテラシー」という二つのキィワードを手がかりに、現在のメディア状況について概観し、メディアの何が問題として横たわっているのかを整理する。
事前学習しておくべき用語やポイント：「メディア危機」「メディアリテラシー」について調べ、論点を整理する。また、なぜこの講義に関心を持ったのかなど、各自の受講の動機について発表できるように考えを整理しておく。
詳細：秋学期のスタートに当たり、春学期をつらぬく「通奏低音」ともいうべき「メディアリテラシー」の意味について再確認する。また、この講義で目指すものと講義のすすめ方を提示し学ぶ意味と目標を明確にする。特に、「スクープ報道」「客観報道」「事実とは何か」「調査報道」などのテーマに力点をおいて考えていくことを示し秋学期の問題意識について整理する。

<第2講>「ニュース報道の危機」は何を語りかけてくるのか
概要：アメリカのテレビニュース報道に起きている具体事例を通じて、メディアに押し寄せる「変化の波」について考える。
学習しておくべき用語やポイント：「テレビのバラエティー化」について考える。
詳細：NHK・BSドキュメンタリー「アメリカ　ニュース報道の危機～報道の娯楽化とブログの攻勢～」を視聴し、意見発表を交えながら、これが何を物語るのかを考える。同時に、これが、「アメリカで起きている事例」にとどまらず、まさに日本のテレビの現在進行形の問題としてあることを、具体事例にふれながら考え、これからのメディアのあり方について問題意識を深める。

<第3講>特ダネ、スクープの罠とメディアリテラシー（1）
概要：新聞やテレビの特ダネ、スクープ記事がはらむ「落とし穴」について、具体事例をもとに考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：「iPS細胞報道」など「スクープ・誤報」問題について調べる。
詳細：メディアの世界では特ダネ、スクープは読者、視聴者の注目を集めるだけではなく、社会や政治までをも動かす力になることがある。しかし一方では独自ネタを追い求めるメディアに思わぬ「落とし穴」が待っていることもしばしばである。「世紀のスクープ」が誤報となった事例を通して、情報の受け手にとって、いま求められる「メディアを読む力」とはどのような力なのか深める。

<第4講>特ダネ、スクープの罠とメディアリテラシー（2）
概要：新聞やテレビの特ダネ、スクープ記事がはらむ「落とし穴」についてさらに考える。特に企業、経済ニュースの「スクープ」について具体事例をもとに深める。
事前学習しておくべき用語やポイント：「企業合併」などの経済・産業に関わるスクープについて調べる。
詳細：産業・経済の特ダネ、スクープがはらむ背景の複雑さを、具体事例をもとに考えてみる。そこには企業にかかわる「広報」と「ニュース」の狭間で揺れるメディアの姿が見えてくる。それは産業・経済マターにとどまらず、広く政治、社会に及ぶ「ニュースの作られ方」にかかわる問題として横たわっていることがわかる。我々に必要な「メディアを読む力」とはどのような力なのか、さらに深める。

<第5講>「客観報道」とは何か(1)
概要：「客観報道」とは何か(1) ～客観報道はどう議論されてきたのか～
メディアの「伝える」という機能、営為を考えるとき避けて通れない「客観報道」とはどういうことかについて考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：客観報道をめぐるさまざまな考え方について調べ、論点を整理する。
詳細：まずこれまで「客観報道」がどのような言説で語られ、議論されてきたのかを整理し、それらが内包する問題について考えてみる。するとメディアにおける「客観報道」というテーマが実に手ごわい問題であることが見えてくる。合わせて、人の認識の深まり、あるいは問題意識はどのようにして獲得されるのかという、認識論と客観報道の関係についても深めて考える。

<第6講>「客観報道」とは何か(2)
概要：「客観報道」とは何か(2)～客観報道主義に潜むものは何か～
事前学習しておくべき用語やポイント：「客観報道主義」について調べる。
詳細：「客観報道」をめぐる言説と議論の論点をふまえて、客観報道をめぐる問題提起をもとに、メディアにおける「客観報道主義」に内在する問題について考える。さらに、前講での考察を発展させて、メディアで「客観的に伝えられること」を批判的に吟味、検証できるよう問題意識を鍛えていく。

<第7講>事実の時代へ、事実とは何か（1）
概要：メディアにおける報道では事実にもとづくことがカギであることは誰もが認めることである。では事実とはどういうものか・・・。
事前学習しておくべき用語やポイント:：客観的事実とは何かについて考える。
詳細：英国のメディア研究者ブライアン・マクネアは「客観的ジャーナリズム」の要件として第一に「事実と意見の分離」を挙げる。しかし「事実とは何か」という問いへの答えはきわめてむずかしい。事実ということをめぐる考察を深め、メディアで伝えられる具体事例に分け入って、事実をめぐる認識について整理する。

<第8講>事実の時代へ、事実とは何か（2）
概要：「客観的事実」だけを伝える、とはメディアの現場で常に言われることだ。では対比して「主観的事実」はとはどのようなものなのか。あるいは「事実」と「真実」との関係は・・・。
事前学習しておくべき用語やポイント:：「客観的事実」とは何かをさらに深めて考えるとともに、事実をめぐる議論、言説について調べる。
詳細：「事実とは何か」という問いへの答えはきわめてむずかしいことがわかった。事実というものへの認識を深めながら、放送現場での仕事を通じた実践的な考え方と事実に向き合う方法論について提示しながら、事実と向き合う力、メディアリテラシーの練磨、向

上の手がかりを共有する。
<第9講> メディアの現場から
概要：メディアの現場で仕事と取り組む人々を特別講師に招きメディア最前線のビビッドな動きや仕事を通しての思いと問題提起を聴く。
事前学習しておくべき用語やポイント：＊講師が確定した段階で別途提示する
詳細：メディアの現場で働く人々はどのような問題意識で仕事に当たっているのか。メディアの最前線の現場からの発言、問題提起に耳を傾け、メディアのあり方について考える。同時に受講学生のキャリア形成への示唆としても役立てる。
注）メディアの現場で仕事をする人物を特別講師に招くため、業務との兼ね合いで、変更などもありうる。不可能な場合は別途テーマ設定をする。
なお、2010年度はNHKスペシャル「無縁社会～"無縁死"3万2千人の衝撃～」の企画、制作者、板垣淑子氏、2011年度は「NHKニュースウオッチ9」編集責任者、原神琢氏、2012年度はNHK国際放送局中国語班の大梧美代子氏、2013年度はNHK放送文化研究所主任研究員田中孝宜氏を招いた。
<第10講>調査報道とメディアの可能性（1）
概要：「調査報道」とは一体どういうものか、ジャーナリスト、研究者らの言説や最新の具体事例をもとに考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：ウオーターゲート事件報道。発表報道と調査報道について調べる。
詳細：日々のニュースは政府、官庁、企業などからの「発表報道」によって埋め尽くされているといっても過言ではないメディア状況である。これに対して、ジャーナリストが独自の視点と問題意識によって事実や問題を掘り起し、取材、調査を積み上げて伝えていく「調査報道」がある。メディアの危機が語られる中で、あらためて「調査報道」の重要性が語られている。メディアにおける最新の事例を通して「調査報道」とはどのようなものかについて知見を深めるとともに、なぜ調査報道に期待が集まるのかを考える。
<第11講>調査報道とメディアの可能性（2）
概要： 調査報道の具体例を読みながら、調査報道の意味と可能性について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：ロッキード事件、リクルート事件などの報道について調べる。
詳細：東日本大震災報道、とりわけ原発事故にかかわる報道においてメディアへの信頼が根底から揺らいだといえる。それは政府や東京電力の発表そのままに伝えることへの読者、視聴者の不信と怒りを招いたことによる。こうしたメディア状況を前に独自の視点と取材によって事実を掘り起し、積み重ねられた調査報道にこそメディア再生の可能性を見出すことができるという指摘がある。ロッキード事件やリクルート事件など過去の調査報道の事例を見ながら調査報道の可能性について深めていく。
<第12講>調査報道とメディアの可能性（3）
概要：「調査報道は生き方である」という問題提起について考え、メディアと向き合う際の意味について深める。
事前学習しておくべき用語やポイント：すぐれた調査報道の事例と「書き手」との関係、それをめぐる言説について調べる。
詳細：調査報道はメディアの新たな可能性を拓くことができるのか、過去に調査報道によって高い評価と信頼を獲得したジャーナリストの言説を読み込みながら、調査報道の可能性とメディアの将来について考える。斎藤茂男氏（元共同通信記者）の調査報道記事や黒田清氏（元読売新聞大阪本社編集局次長）の企画記事など、メディア関係者のみならず社会に大きな影響を与え足跡を残した言説を振り返りながら、メディアのこれからのあり方について深める。
<第13講> 情報の「受け手」からメディアの「主役」へ
概要：「調査報道は生き方である」ということを学んだことをふまえ、情報の「受け手」の側からの「情報発信」の勘動に注目して、メディアリテラシーの「もうひとつ」の重要な構成部分について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：「パブリックアクセス」の意味や「市民発の情報発信」の事例について調べる。
詳細：メディアリテラシーの重要な「もうひとつ」の構成部分は、情報の「受け手」が単なる受容者としてではなく、メディアを活用して能動的に表現していく力を獲得、発揮することにある。世界および日本ではじまっている市民による情報発信、メディアの新たな「公共圏」創造への事例を通して知見をひろげるとともに、「受け手」の側からのメディア参画の意味について深める。
<第14講>「遠音」を聴く感性と世界を見つめる力を
概要： 世界にあって、戦火や貧困などにあえぎ、苦しむ人々が発する、はるかな「遠音」を聴きとる力を持たなければならない。メディアを読み解く力、メディアリテラシーの重要な構成部分としての「つきつめる力」「想像力」「歴史意識」をとりあげ、これらの意味と相互の関係について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：「想像力」「歴史意識」とはどのようなことを意味するのかについて考える。
詳細：情報の「受け手」－受容者から能動的な「読み手」へという、メディアリテラシーの「もうひとつ」の重要性について学んできたが、その際、メディアと向き合う「遠近法」において欠かせない「突きつめる力」「想像力」そして「歴史意識」の重要性に目を向けて考える。現代社会を生きる力としてのメディアリテラシーという位置づけで、世界とどう向き合っていくべきか、その視座のあり方、我々に必要とされる人間としての感性と「見つめる力」について深める。
<第15講>「きょうのニュースは明日の歴史」
概要：秋学期を通じて学んできたことのまとめと新たな「旅立ち」にむけての課題について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：あらためて、メディアリテラシーとは何かを考える。
詳細：秋学期の問題意識の整理と到達点の確認をおこない、「現代メディア論Ⅰ・Ⅱ」を通して考えてきたメディアに内在する問題とそれへの向き合い方についてまとめる。さらに現代社会を生きる上で、メディアとどう向き合っていくのか、そのための視座と実践的方法論について総括する。

■教科書

なし。

■指定図書

『図説日本のメディア』藤竹暁編著（NHK出版2012年）
『権力VS調査報道』高田昌幸・小黒純（旬報社2011年）
『調査報道がジャーナリズムを変える』田島泰彦他編（花伝社2011年）
『「客観報道」とは何か－戦後ジャーナリズム研究と客観報道論争』中正樹（新泉社2006年）
『自分自身への審問』辺見　庸（毎日新聞社2006年）
『斎藤茂男－ジャーナリズムの可能性』斎藤茂男・内橋克人・筑紫哲也・原寿雄編
（共同通信社2001年）
『メディアリテラシー～世界の現場から～』菅谷明子（岩波書店2000年）

■参考文献

『「危機」と向き合うジャーナリズム』谷藤悦史ほか（早稲田大学出版部2013年）
『官報複合体』牧野洋（講談社2012年）
『ジャーナリズムの可能性』原　寿雄（岩波書店2009年）
『怯えの時代』内山節（新潮社2009年）
『テレビ的教養～一億総博知化への系譜～』佐藤卓己（NTT出版2008年）
『ジャーナリズムの社会学』ブライアン・マクネア（リベルタ出版2006年）
『事実が私を鍛える』斎藤茂男（太郎次郎社1981年）

■参考URL

■評価方法

学期終了時に課題レポートを提出。
加えて途中2回の「ミニ・レポート」を課する。
また、意見発表、討論など教室での積極性を重視する。
学期末の課題レポートとミニ・レポート：70パーセント
教室での発言、発表など積極性：30パーセント。
なお、レポートはMicrosoftOfficeのWardで作成のこと。

■評価基準

相対評価
レポートの評価にあたっては、講義内容をふまえてそれぞれが考えをどう深め、何にどう触発されて自己の思考を発展させたのかを重視し、何よりも自分で考え、自分のことばで語る、各自のオリジナリティーを最重視して評価、採点する。
引用を逸脱するWebからのコピーアンドペーストによるレポート作成は評価の対象外として不合格とする。またWebからの引用にあたっては必ず典拠を明示すること。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

「現代メディア論Ⅰ」に続くこの講義も、概説的なメディア論をめざすものではなく、あくまでも、メディアによって日々伝えられるニュースや放送番組を素材に、情報の読み解き方を学び、それを通して時代や世界を見る目を鍛え、同時に現代のメディアのあり方を考えることをめざしていく。新聞の企画報道やテレビのドキュメンタリー番組を通してメディアの現在と未来について考えることに力点を置くことから、その時々の最新の具体事例、新聞記事やテレビ番組をビビッドに取り上げるため、当初の講義計画に沿いながらも柔軟に変更することがあることをあらかじめ承知しておくこと。
なお、意見発表や討論によって問題意識を深めていくことを重視していくので、教室で、積極的に発言して、自らのことばで論理的に語る力を鍛えることが重要になる。
履修にあたっては以上のことをあらかじめ理解、承知しておくこと。

科目名　国際経営入門I(Introduction to International Management I)

サブタイトル

担当教員　飯田　健雄

■講義目的

国際経営は世界政治・経済に利益を求めてダイナミックに動くトランスナショナル(超国家的)組織体です。この組織を外部・内部から探求していきましょう。

国際経営の多面性を理解していきます。それゆえ、講義はきわめて多岐にわたりますが、その本質には「たえず経営とは何か」が横たわっています。ひとつひとつやさしく解説していきます。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

国際経営の各事業・業務部門をそれぞれ理解していく。

■講義形態

講義のみ：

■講義の概要

国際経営の基礎を包括的に学んでいく。国際経営とは国内で履行される経営の海外適用・応用という考えをもってもよい。しかし、その海外事業展開には国内競争では想像もできなかった複雑性・困難な問題が待ち受けている。その理由を解き明かしていくのがこの講義の最大の目的である。学生は、経営の基礎をきちんと学んでから履修することを希望する。

<第1講>　国際経営とは何か
詳細：国際経営はInternational Managementといい、多国籍企業はMultinational Corporationsという。国際経営とは、企業内部からの国外にかかわる経営活動であり、多国籍企業とは、経営を超えて、その企業が属する産業と絡み合った経営行動パターンである。この講義では、企業内部の国際戦略にかかわる諸活動を1年の講義を通してみていきたい。
事前学習のポイント
多国籍企業を検索してみよう。どのような企業がスクリーン上に現れるであろうか。講義後、トヨタの海外工場の数やその地理的位置をネットでみてみよう。

<第2講>　国際経営組織I
詳細：国際経営組織とは、本社内部の海外取引および子会社管理の組織的展開のありかたであると同時に、海外予習として子会社の組織体系でもある。ここでは、いかに国際組織が発展してきたのか歴史的に俯瞰していきたい。
事前学習のポイント
経営組織を検索してみよう。講義後、本社と海外子会社の関係を商社を例にネットで調べてみよう。

<第3講>　国際経営組織II
詳細：ここでは、国際組織として自動車企業、家電企業の本社組織や海外組織図を具体的なケースを使用して焦点をあてていく。純粋な国内志向企業のとの違いを理解していこう。
事前学習のポイント
日本企業の海外組織図をネットで探してみよう。講義後、ウォルマートやネスレ等の巨大多国籍企業の組織図をネットで調べてみよう。

<第4講>　国際人事管理I
詳細：人事管理はPersonnel ManagementからHuman Resource Managementと発展していった。その根底には、人を管理する経営政策から人の能力を引き出す経営政策に移行している。国際経営においてもこの傾向にある。この週では、国際人事管理の理論的側面をみていこう。
事前学習のポイント
人事管理を検索してみよう。講義後、人事管理という仕事を考えてみよう。

<第5講>　国際人事管理II
詳細：ここでは、1950年代からの日本企業の国際人事管理の発展をみていき、現在の日本の国際人事管理に関する問題点を理解していく。
事前学習のポイント
国際人事を検索してみよう。講義後、日本企業でも海外で現地スタッフが社長になっている企業を調べてみよう。

<第6講>　国際マーケティングI
詳細：この週では、国内マーケティングと国際マーケティングの展開方法の違いについて述べていく。また、国際マーケティングにおけるマルチドメスティック型とグローバル統合型の違いについても述べていく。
事前学習のポイント
マーケティングを検索してみよう。講義後、マーケティングの4Pについて考えてみよう。

<第7講>　国際マーケティングII
詳細：ここでは、世界的トイレタリーや清涼飲料水企業が、そのマーケティング戦略をどのように進出国において効果的に展開していくのかケーススタディ方式で述べていく。
事前学習のポイント
国際マーケティングを検索してみよう。講義後、P&GやネスレのCMを意識的にみてみよう。

<第8講>　国際生産管理I
詳細：ここでは、企業の海外生産移行への要素を講義する。それらの要素は、(1)製品自体の優位性、(2)生産へのノウハウの蓄積、(3)広告・マーケティングの上手さ、(4)豊富な資金量(100%子会社・コンソーシアム・戦略的提携・合弁)、(5)為替レートの変動回避、(6)立地要因があげられる。
事前学習のポイント
生産管理を検索してみよう。講義後、なぜ、日本企業は海外で生産をしたがるのか考えてみよう。

<第9講>　国際生産管理II
詳細：この週においては、国際生産の理論を踏まえながら、日本企業の国際生産の歴史的展開を講義していきたい。さらに、国際生産の領域で使用される用語も解説していく。
事前学習のポイント
国際生産管理を検索してみよう。講義後、アメリカにおいてのトヨタの生産方式をネットで調べてみよう。

<第10講>　異文化経営論I
詳細：国際経営で異文化経営論の領域が台頭してきた理由は、純粋な経営のレベルだけでは解決しない経営問題が国際事業には存在するからである。これを企業と経営の外的制約と呼んでいいだろう。この週では、企業における本社-海外子会社の次元からポリセントリズム、エスノセントリズム、ジオセントリズムの3類型にわけ説明していく。
事前学習のポイント
異文化経営を検索してみよう。講義後、中国から来ている留学生に日本と中国の生活様式の違いについて尋ねてみよう。

<第11講>　異文化経営論II
詳細：ここでは、海外子会社における日本人社員と現地社員の文化的コンフリクトを探ってみよう。そして、このコンフリクトを軽減する異文化インターフェイス管理のアプローチを説明していきたい。
事前学習のポイント
異文化インターフェイスを検索してみよう。講義後、文化の違いによって、経営組織内にどのようなトラブルが発生しやすいか考えてみよう。その参考として東洋水産の海外進出を描いた映画「燃ゆるとき」をみてみよう。

<第12講>　国際提携戦略I
詳細：この週では、なぜ1980年代以降、急激に国際戦略提携が急増していったのかその理由を探っていこう。
事前学習のポイント
企業提携を検索してみよう。そして、どのような企業同士の提携があるかみてみよう。講義後、提携の戦略的意義について考えてみよう。

<第13講>　国際提携戦略II
詳細：この週では、国際提携のアプローチを理解する。どのような提携を取れば、長期的関係が保たれるか、どのような要因によって提携が解消・失敗していくのか理解していく。
事前学習のポイント
国際提携を検索してみよう。どのような国際提携があるかみてみよう。講義後、提携がどの分野で頻繁におこなわれているかネットで調べてみよう。

<第14講>　国際研究開発
詳細：研究開発はテクノストックの蓄積や次世代製品開発による競争優位の源泉となる。ここでは、なぜ国際研究開発がほとんど本社次元で行われる理由について述べていきたい。
事前学習のポイント
研究開発を検索してみよう。講義後、IT産業における製品の陳腐化の速さを考えてみよう。

<第15講>　まとめ
事前学習のポイント
試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

飯田健雄『これならわかる国際経営入門』中央経済社、2007年

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

相対評価

■評価基準

期末試験(60%)、小テスト(10%)、出席点(30%)。
(1)国際経営の歴史性を理解したかどうか。
(2)国際経営の多面性(政治・経済・文化)を理解したかどうか。
(3)国際経営の事業展開を理解したかどうか。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

科目名　国際経営入門II（Introduction to International Management II）

サブタイトル

担当教員　飯田　健雄

■講義目的

世界政治・経済に利益を求めてダイナミックに動くトランスナショナル(超国家的)組織体です。この組織を外部・内部から探求していきましょう。
前期に学んだ国際経営の基本をより深く、具体的に掘り下げていきます。一つ一つやさしく解説していきます。簡単な達成度を測る小テストも行いますので、休まず出席してください。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

国際経営の各事業・業務部門をそれぞれ理解していく。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

国際経営の基礎を包括的に学んでいく。国際経営とは国内で履行される経営の海外適用・応用という考えをもってもよい。しかし、その海外事業展開には国内競争では想像もできなかった複雑性・困難な問題が待ち受けている。その理由を解き明かしていくのがこの講義の最大の目的である。学生は、経営の基礎をきちんと学んでから履修することを希望する。

<第1講>　国際SCM I
詳細：サプライチェーン・マネジメントのグローバルな適用が国際SCMの問題でもある。ここではサプライチェーンを理論的に説明しながら、国内システムからグローバルシステムへの発展プロセスを述べていく。
事前学習のポイント
物流・ロジスティクス・SCMを検索してみよう。講義後、クロネコヤマトの企業発展を図式化してみよう。

<第2講>国際SCM II
詳細：ここではケーススタディとしてこの週では、国際ロジスティクス企業の雄、FedExの事業内容企業を理解しよう。
事前学習のポイント
FedExを検索してみよう。講義後、空港を描いた映画「ターミナル」をみてみよう。

<第3講>国際M&A I
詳細：1990年代以降、日本でもM&Aは一つの企業戦略として積極的に取り入れられるようになってきた。その歴史的背景を知ろう。
事前学習のポイント
M&Aを検索してみよう。講義後、買収劇がなぜ人々の興味を引くか考えてみよう。

<第4講>国際M&A II
詳細：2000年代以降、恒常的円高によりM&Aは一つの企業戦略として積極的に取り入れられるようになってきた。その現況を知ろう。
事前学習のポイント
鉄鋼業やビール業界の国際M&Aをネットで調べてみよう。講義後、2000年代における大型買収をネットで調べてみよう。

<第5講>国際ブランディング管理I
詳細：まず、この週ではブランドの定義からはじめ、その類型を説明していく。ブランドは理性的な巧緻をもって企業はその構築に邁進するが、消費者レベルでは、非常に感性的な次元でとらえられる厄介な領域である。
事前学習のポイント
予習としてブランドを定義しているサイトをネットで見つけよう。講義後、どうすれば多摩大学がブランドするか考えてみよう。

<第6講>国際ブランディング管理II
詳細：ブランドで有名を博している多国籍企業を紹介していきたい。特に、そのブランド成立に至るクリティカルな時期をみていきたい。
事前学習のポイント
国際的なブランドであるルイ・ヴィトンのサイトをみてみよう。講義後、ユニクロのグローバルなブランド戦略を考えてみよう。

<第7講>国際法務
中国ではITソフトを中心に違法コピーが出回っている。また、研究開発面においても特許をめぐって、アメリカ、ヨーロッパ、日本の企業が激しく裁判で係争している。なぜ、知識財産権がグローバルに問題とされるのか考察していきたい。
予習・復習のポイント
企業法務を検索してみよう。講義後、海外で課徴金を支払わねばならなかった日本企業を調べ、その原因を探ってみよう。

<第8講>国際財務管理I
詳細：国際財務戦略は、本社・子会社間での取引で各国の物価水準・インフレ・資本コスト・為替リスク・税率および会計制度をグローバルに統合・管理する有効なシステム構築である。この週では国際資金調達に焦点をあてていきたい。
事前学習のポイント
財務という用語を検索してみよう。講義後、企業活動における財務の重要性を考えてみよう。

<第9講>国際財務管理II
詳細：この週では、財務の戦略的機能についてのべる。一つはトランスファープライシング(振替価格)であり、もう一つはタックス・ヘイブン(租税回避地)の選定である。
事前学習のポイント
国際財務を検索してみよう。講義後、企業活動のグローバルな節税展開について考えてみよう。

<第10講>国際会計
詳細：多国籍化された企業はどのように利益を財務諸表に表すのであろうか。本社・子会社間の会計上からの利益管理である連結経営とはどのように作成されるのか理論的に考究してみる。
事前学習のポイント
国際会計を検索してみよう。講義後、IFRSという新しい国際会計の流れをネットで調べてみよう。

<第11講>国際経営戦略 I
詳細：この週ではSWOT分析とポーターのダイヤモンド図式を理解しながら、トヨタ自動車のレクサス市場参入を考えていこう。
事前学習のポイント
予習・復習のポイント
ダイヤモンド図式戦略を検索してみよう。講義後、酒業界（ウィスキー・ビール・日本酒・焼酎・ワイン）をめぐるダイヤモンド図式を構築してみよう。

<第12講>国際経営戦略II
詳細：この週ではマッキンゼー社とマイケルポーターによるバリューチェーン分析を理解していく。このバリューチェーンをデルコンピュータにあてはめて、バリューチェーンという概念の理解をふかめよう。
事前学習のポイント
バリューチェーンを検索してみよう。講義後、バリューチェーンの図式をIT企業に適用してみよう。

<第13講>国際経営戦略III
詳細：バリューチェーンを発展させた戦略モデル、VRIOのフレームワークを説明していく。VRIOとは、V(価値)、R(稀少性)、I(模倣可能性)、O(組織)をさす。このVRIOフレームを使用してアメリカの清涼飲料水メーカーの競合をみていきたい。
事前学習のポイント
VRIO戦略を検索してみよう。講義後、VRIOを使って仮想的な企業を設立してみよう。

<第14講>国際経営戦略IV
詳細：ここでは、製品の差別化戦略について述べていく。製品の差別化は単なるマーケティング戦略を超えて、国際経営の組織構造全体の問題になっている。競合製品を市場に送り出すことは、グローバルな総力戦である。ここでは、日産の新車種投入(製品の差別化)から、グローバルな組織改革をみていきたい。
事前学習のポイント
製品差別化を検索してみよう。講義後、製品の差別化戦略を多摩大学に適用してみよう。

<第15講>まとめ
事前学習のポイント
試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

適時指示する

■指定図書

適時指示する。

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

相対評価

■評価基準

期末試験(60%)、小テスト(10%)、出席点(30%)。
(1)国際経営の歴史性を理解したかどうか。
(2)国際経営の多面性(政治・経済・文化)を理解したかどうか。
(3)国際経営の事業展開を理解したかどうか。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

適時、アドバイスする

科目名　国際経済（International Economics）

サブタイトル

担当教員　下井　直毅

■講義目的

この講義では、最前線事例を紹介しつつ、国際経済をめぐる問題をとりあげる。国際経済は日本経済に大きな影響を及ぼしている。グローバル化という言葉をよく耳にするが、世界の経済状況がめまぐるしく変わる中で、その動きを理解することはとても大切である。日頃、目や耳にしている出来事や現象を通して、日本や世界を取り巻く産業社会における経済動向の仕組みやメカニズムについて学んでほしい。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

世界経済の現状と課題についての基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 国際化の中の日本
概要：日本経済の状況を概観する
事前学習しておくべき用語やポイント[:ボーダーレス化、グローバル化]
詳細：日本を取り巻く世界の状況はどうなっているのかを学ぶ
<第2講> 戦後の国際経済体制の流れについて
概要：戦後の国際経済体制の流れをおさえる
事前学習しておくべき用語やポイント[先進国、途上国、新興国、GATT、IMF]
詳細：GATT／WTOやIMFの役割は何かを学ぶ
<第3講> 貿易の基本的メカニズムについて(1)
概要：貿易の基本的メカニズムについて理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[:交易条件、絶対優位、比較優位]
詳細：比較優位とはどういうものかを学ぶ
<第4講> 貿易の基本的メカニズムについて(2)
概要：貿易の基本的メカニズムについて理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[ヘクシャー=オリーンの貿易理論]
詳細：貿易理論はどのように変遷してきたかを学ぶ
<第5講> 保護貿易や自由貿易の功罪
概要：保護貿易や自由貿易について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[関税、輸入数量制限、非関税障壁、貿易の利益]
詳細：保護貿易や自由貿易とはどういうものか、どのようなメリットないしはデメリットがあるのかを学ぶ
<第6講> 外国為替について
概要：外国為替について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[外国為替市場、為替レート]
詳細：外国為替市場とはどういうものかを学ぶ
<第7講> 為替レートの決定理論（1）
概要：短期の為替レートの決定理論について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[金利裁定]
詳細：短期的な為替レートはどのような要因に依存するのかを学ぶ
<第8講> 為替レートの決定理論（2）
概要：長期の為替レートの決定理論について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[購買力平価]
詳細：長期的に為替レートはどのように決まると考えられているかを学ぶ
<第9講> 為替相場制度について
概要：様々な為替相場制度について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[:固定相場制度、通貨バスケット制度、変動相場制度]
詳細：どのような為替相場制度があるのか、それぞれのメリットやデメリットは何かを学ぶ
<第10講> 国際収支表の見方（1）
概要：国際収支表の見方を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[経常収支、貿易収支、所得収支]
詳細：経常収支とは何か、日本はどのような状況なのかを学ぶ
<第11講> 国際収支表の見方（2）
概要：国際収支表の見方を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[資本収支、投資収支、直接投資]
詳細：資本収支とは何か、日本はどのような状況なのかを学ぶ
<第12講> 貿易摩擦について
概要：貿易摩擦の歴史を振り返る
事前学習しておくべき用語やポイント[ダンピング、輸出自主規制、集中豪雨的輸出、セーフガード]
詳細：日本の貿易摩擦の問題はどのように推移してきたのかを学ぶ
<第13講>　GATT／WTOの原則と例外について
概要：GATT／WTOの原則と例外について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[自由貿易協定、農業自由化問題、セーフガード協定、FTA]
詳細：GATT／WTOの原則および例外は何かを学ぶ
<第14講> 開放経済における経済政策について
概要：開放経済における経済政策について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[財政政策、金融政策、マンデル=フレミングモデル]
詳細：開放経済の下では財政政策や金融政策はどういう効果を持つのかを学ぶ
<第15講> まとめ
概要：これまでの復習
事前学習しておくべき用語やポイント[貿易、為替レート、国際収支、貿易摩擦、GATT/WTO体制]
詳細：全体を通じて国際経済の知識が身についたかを振り返る

■教科書

特になし

■指定図書

講義中に紹介する

■参考文献

伊藤元重『ゼミナール 国際経済入門(第3版)』日本経済新聞社(2005)

■参考URL

■評価方法

試験(70%)、授業評価(20%)、宿題（10%）

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

2010年度以前の入学生は、「経済学基礎」の単位修得者に限り、また2011年度以降の入学生は、「産業社会論入門（経済）」の単位修得者に限り、履修登録ができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科 目 名　コンピュータ概論(Introduction to Computers)

サブタイトル

担当教員　出原　至道

■講義目的

この講義の目的は「コンピュータはどういう機械か」ということを学び、「情報技術の専門家ではないが一通り技術を知っている人」を育てることである。この講義によって、情報技術やコンピュータの雑誌記事・ニュースなどが理解できるようになることを目指す。

この講義の主な対象は、「情報技術も一通り理解しています」と言えるようになりたい一般の学生である。情報技術を活用して勝負したい学生は、講義の中で、より深いテーマを話題として提供するので、各自自習の上で質問や議論を持ってきてもらいたい。ただし、これは成績評価とは無関係である。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

コンピュータに関する基礎的な用語が理解できていること。コンピュータの仕組みが大まかに把握できていること。2進数などの演算の仕方が理解できていること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　コンピュータの種類と構成要素
概要：コンピュータの種類にはどのようなものがあるか。また基本的な構成要素は何か？
詳細：
コンピュータの構成要素を実際に観察しながら、コンピュータの内部構造を学ぶ。
事前学習しておくべき用語：ハードウェア、ソフトウェア、中央処理装置、主記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置、CPU、ハードディスク、光ディスク、CD-ROM、DVD
<第2講>　コンピュータハードウェア
概要：様々なハードウェア
詳細：
パーソナルコンピュータとは異なる様々なコンピュータを学びながら、そもそもコンピュータとは何か考える。
事前学習しておくべき用語：コンピュータ、プログラム、科学技術計算、パソコン、組み込み、補助単位
<第3講>　2進数
概要：2進数とは何か、なぜ2進数がコンピュータの基礎なのかをここで学ぶ。
詳細：
「コンピュータの基礎は2進数」という言葉がよく使われる。我々がふだん使っている数は10進数である。2進数の考え方の基礎を学ぶ。
事前学習しておくべき用語：2進数、ビット、バイト
<第4講>　2進数と10進数
概要：2進数と10進数の対応について学ぶ。
詳細：
2進数の10進数の対応について学ぶ。
事前学習しておくべき用語：2進数、10進数
<第5講>　16進数
概要：16進数と2進数・10進数の対応について学ぶ。また、浮動小数点数についても学ぶ。
詳細：
16進数と2進数・10進数の対応について学ぶ。また、小数を扱う仕組みとしての浮動小数点数についても実験を通して学ぶ。
事前学習しておくべき用語：16進数、浮動小数点数
<第6講>　内部データ
概要：コンピュータ内部のデータについて学ぶ
詳細：
いまやコンピュータは、何の不思議もなく、文字や数値ばかりでなく画像や音声などを処理している。どのようにコンピュータ内部にデータが蓄えられているのか、実験を通して学ぶ。
事前学習しておくべき用語：デジタル、デジタル化、サンプリング定理、文字コード
<第7講>　確認テスト
概要：ここまでの内容について確認テストを行う
詳細：確認テスト
事前学習しておくべき用語：
<第8講>　内部データ（マルチメディアデータ）
概要：コンピュータのマルチメディアデータについて学ぶ
詳細：
コンピュータでマルチメディアデータを扱うとき、適切なファイル形式を選択する必要がある。さまざまなファイル形式の特徴を学ぶ。
事前学習しておくべき用語：可逆圧縮、非可逆圧縮、画像ファイル形式
<第9講>　ネットワーク（1）
当たり前のように使っているネットワークだが、そもそもどのような仕組みで動いているのか実験を通して学ぶ。
事前学習しておくべき用語：インターネット、TCP/IP、IPアドレス、IPv6、ネームサーバ、DNS、WIFI
<第10講>　ネットワーク（2）
概要：ネットワーク周辺技術について学ぶ。
詳細：
無線ネットワーク、アドレス変換、ポート番号など、ネットワークで使用される技術について学ぶ。
事前学習しておくべき用語：WIFI、無線LAN、NAT、IPマスカレード、ポート番号、プライベートアドレス
<第11講>　オペレーティングシステムとユーザインタフェース
概要：オペレーティングシステムと周辺技術について学ぶ
詳細：
オペレーティングシステム、ユーザインタフェース、メモリ管理技術などについて学ぶ。また、プログラミングの基礎として、インタプリタとコンパイラについて理解する。
事前学習しておくべき用語：オペレーティングシステム、ユーザインタフェース、メモリマッピング、インタプリタ、コンパイラ
<第12講>　コンピュータの歴史
概要：コンピュータの歴史を概観する。
詳細：
商品としてコンピュータが登場したのは1951年。そのときのコンピュータはパソコンといえるような代物ではなかった。どのような経緯でパソコンが生まれ、発展していったか。それを支え、コンピュータの基盤となった半導体技術の発展も概観する。
事前学習しておくべき用語：自動織機、チューリングマシン、集中処理、分散処理、タイムシェアリングシステム
<第13講>　論理演算
概要：「0か1か」は「真か偽か(true or false)」ということでもある。「真か偽」を扱う論理演算について学ぶ。
詳細：
論理演算は、コンピュータのもっとも基本的な処理である。NOT, OR, ANDなどの論理演算を、身近な例を通して学ぶ。真理値表、ベン図についても書けるようにする。ビットごとの論理演算についても触れる。
事前学習しておくべき用語：論理演算、NOT, OR, AND, NOR, NAND, EQUIV, XOR, 真理値表、ベン図
<第14講>　2進数演算
概要：2進数と論理演算の関係について学ぶ。
詳細：
2進数と論理演算は、相性のよい演算である。特定のビットを取り出す・特定のビットを立てるなどの処理について学ぶ。
事前学習しておくべき用語：ビットマスク
<第15講>　まとめ
概要：期末試験模擬試験
詳細：
期末試験の模擬試験と解説を行う。
事前学習しておくべき用語：

■教科書

必要に応じて補足的な教材を配布する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

学期末試験70%
ミニテスト・レポートなど30%

■評価基準

講義内容を理解しているか

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

コンピュータを持ってくること。
授業と並行して、日経コンピュータ、週刊アスキーなどの入門雑誌や、ITMedia などのインターネットニュースサイトを読むことを推奨する。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名　コンピュータサイエンス（Computer Science）

サブタイトル

担当教員　中村　有一

■講義目的

コンピュータの仕組みを深く理解するには、機械語を使った経験がカギになる。機械語はコンピュータの内部構造を反映したものであり、その可能性と限界を示すものでもある。このような視点から簡単な機械語のプログラムを解読することを通して、コンピュータの構造を理解し、高級言語とのギャップを実感することから始めよう。

数値をコンピュータで扱うための表現方法として２進数が使われるが、それはなぜか。またなぜ整数型と浮動小数点実数型が主に使われるのかなど、単に仕組みがどうなっているかだけでなく、その理由も考えてみよう。

前半ではコンピュータの仕組みに重点が置かれるが、後半ではアルゴリズムとデータ構造を中心として、実際にプログラムを動かしながらコンピュータによる問題解決の手法を学んでいくことにする。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

ハードウェアの基礎を理解したうえで、基本的なアルゴリズムとそのプログラムを使いこなせる。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　コンピュータサイエンス入門
概要：コンピュータサイエンスでは何を扱うか。どのような問題があるか概説する。
詳細：コンピュータサイエンス（計算機科学）の対象は非常に広く、その応用も広範囲にわたっている。ここではその全体像をつかむため、他の分野との境界領域も含めて概観する。
予習用語：コンピュータサイエンス
<第2講>　ハードウェアの仕組み
概要：現在主流であるコンピュータのハードウェアの大まかな仕組みを理解する。
詳細：コンピュータはさまざまな部品からできている。その役割を理解したうえで、全体としてどのような設計思想（アーキテクチャ）によって作られているか考察する。
予習用語：ハードウェア、CPU、メモリ
<第3講>　ソフトウェアの基礎
概要：ソフトウェアの役割、関連した用語などをまとめる。
詳細：ソフトウェアに関する基本的な知識を整理してまとめておく。オペレーティングシステム(OS)、言語処理系（コンパイラ、インタープリタなど）、ユーザインターフェースなどの意味を理解する。
予習用語：OS, 言語処理系、コンパイラ、インタープリタ
<第4講>　機械語と高級言語
概要：機械語プログラムの解読方法と演習のための環境整備
詳細：機械語で書かれたプログラム例を解読することを通じて、コンピュータの内部構造の理解に役立てる。また高級言語による演習の準備として、Javascriptでプログラミングできる環境を、各自のノートパソコン上に構築する。
予習用語：なし
<第5講>　数値の表現方法
概要：２進数・１６進数について理解する。
詳細：２進数について、その原理を理解し、１０進数との変換、四則演算などについて解説する。ハードウェア的にどのように実現するかについても検討する。１６進数の扱いについてもふれる。また機械語でどのように扱われるか解説する。
予習用語：２進数、１６進数
<第6講>　負数・固定小数点数の表現
概要：２進数では負数はどのように表現されるか。固定小数点数とはどのようなものか。
詳細：２進数では負の数は、２の補数表現という手法であらわされることが多い。これにはどのようなメリットがあるのか考える。
予習用語：負数、２の補数、固定小数点数
<第7講>　浮動小数点数
概要：浮動小数点数について理解する。
詳細：浮動小数点数はなぜ必要になったのか。数値計算分野の基礎的な知識を踏まえて解説する。計算誤差についても理解を深める。
予習用語：浮動小数点数、丸め誤差、打切り誤差
<第8講>　関数と再帰的定義
概要：関数の概念と再帰的定義の意味を理解する。
詳細：関数の基本的な仕組みを理解し、再帰的定義のメリットを考察する。応用としてはパズルを解く問題を考える。
予習用語：関数、再帰的定義
<第9講>　ポインタと動的データ構造
概要：ポインタの仕組みを理解し、動的データ構造の意味を考える。
詳細：ポインタは、初心者には理解しにくい概念である。ポインタの基本的な意味を理解したうえで、その応用として動的データ構造の基礎を学ぶ。
予習用語：ポインタ、動的データ構造、構造体
<第10講>　探索のアルゴリズム
概要：配列の中からデータを見つけ出す探索のアルゴリズムを学ぶ。
詳細：逐次探索と２分探索について、プログラムを動かしながら理解する。
予習用語：逐次探索、２分探索、番兵
<第11講>　ソートのアルゴリズム（1）
概要：簡単なソートのアルゴリズムを紹介する。
詳細：バブルソート、単純選択ソートについて原理を理解する。また実際にプログラムを動かし確かめてみる。計算時間などについても考察する。
予習用語：バブルソート、単純選択ソート
<第12講>　ソートのアルゴリズム（2）
概要：高速なソートのアルゴリズムを理解する。
詳細：クイックソート、バケットソートなど、高速なソートアルゴリズムについて原理を理解する。また実際にプログラムを動かし確かめてみる。計算時間などについても考察する。
予習用語：クイックソート、バケットソート
<第13講>　線形リスト
概要：線形リストと呼ばれるデータ構造について理解する。
詳細：線形リストは動的データ構造の中では単純な部類である。この仕組みを理解し、ソートなどに利用する。
予習用語：線形リスト、動的データ構造
<第14講>　ツリー
概要：ツリーと呼ばれるデータ構造について理解する。
詳細：ツリーは動的データ構造の中では実用上もっとも重要なものである。この仕組みを理解し、ソートなどに利用する。
予習用語：ツリー、二分木、AVL木、Bツリー、動的データ構造
<第15講>　期末テスト
概要：全体を通して期末テストを行う。
詳細：資料などをもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。例題はすべて自分で打ち込んで動作を確認しておくこと。
試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてみること。わからない点があれば質問して解決しておくこと。
予習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

授業中に適宜紹介する。

■参考URL

http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture

■評価方法

学期末試験70%　レポートなど平常点30%

■評価基準

相対評価
コンピュータの仕組みが実感として理解できているか、
アルゴリズムとデータ構造の基礎が理解できているか、を評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

プログラミングに関する科目をすでに履修していること、あるいは同時に履修することが望ましい。

科目名　コンピュータネットワーク活用(Utilization of Computer Network)

サブタイトル

担当教員　中村　有一

■講義目的

ネットワーク技術は、いま世の中でもっとも必要とされる技術の1つである。単に概念を理解するだけでなく、具体的にネットワークにコンピュータを接続し、システムとして機能するようにしなければならない。さらに安定してネットワークを利用するには、セキュリティや信頼性の面にも配慮しておく必要がある。これらのことを、1つ1つ意味を理解しながらできるようにしていくのがこの講義の目的である。

受講にあたっては、基本的な用語とその概念を理解し、実習を通して、具体的なネットワーク構築に必要な知識を習得する。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

現在主流として使われているネットワーク技術TCP/IPの基礎的な仕組みを理解し、実際にネットワークを利用したり、トラブルに対処したりできるように、知識とスキルを身につける。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　プロトコルとは
概要：プロトコルとは何か。一般的な事項を学ぶ。
詳細：最初にイントロダクションとして、授業の全体像を提示する。
ネットワーク上のコミュニケーションを成立させるためのプロトコル一般の考え方と、そこで提案された標準化(7階層モデル・5階層モデル)、実装されたプロトコルとの違いなどを学習する。TCP/IPプロトコルとそれ以外のプロトコルについて概略を理解したうえで、TCP/IPにおけるデータ形式と受け渡し手順について学ぶ。
予習用語：プロトコル、OSI参照モデル、TCP/IP、パケット、ヘッダ、RFC
<第2講>　物理層、データリンク層の仕組み
概要：階層モデルで、下位の2層に対応する物理層とデータリンク層の仕組みについて学ぶ。有線LAN、無線LANの規格についても、現状と今後の方向性について理解する。
詳細：物理層、データリンク層について解説する。Ethernetの歴史的な発展の経緯についても学ぶ。インターネットのアクセスラインにはどのような種類があり、それぞれどのような利点・欠点があるのかを理解する。取り上げるものとしては、ADSL, VDSL, 光ファイバ、CATV, 無線LANなどである。具体的な配線の仕組みなどについても取り上げる。
予習用語：物理層、データリンク層、Ethernet、ADSL、光ファイバ、無線LAN
<第3講>　IPアドレスの仕組み
概要： ネットワーク層（IP層）について、その役割を理解する。
詳細：IPアドレスの割り当て、クラス、アドレスのビット構成（ネットワーク部とホスト部）などについて学ぶ。グローバルIPアドレス、ローカルIPアドレス、プライベートIPアドレスの違いを理解する。これに関連して、CIDRの仕組みを取り上げる。演習として2進数の計算、関数電卓の使い方を学ぶ。
予習用語：インターネット層、IPアドレス、グローバルIPアドレス、ローカルIPアドレス、プライベートIPアドレス、クラス、ネットワーク部、ホスト部、CIDR
<第4講>　IPアドレスの知識
概要： プリフィックス、ネットマスクの概念、ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレスの意味について理解する。
詳細：プリフィックス、ネットマスクと同一ネットワークの概念、ブロードキャスト・マルチキャスト・ユニキャストの違い、ループバックアドレスの意味などについて学習する。ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレスの意味についても理解する。グローバルアドレスが、世界的にどのように管理・配布されているかについても触れる。演習としてコマンドプロンプトの利用法を実際に操作しながら学ぶ。Windows系のネットワークコマンドとしてipconfigを動かしてみる。
予習用語：プリフィックス、CIDR表記、ネットマスク、サブネットマスク、ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレス、ipconfigコマンド、ブロードキャスト、マルチキャスト、ユニキャスト、ループバックアドレス
<第5講>　MACアドレスとインターネット層のプロトコル
概要：MACアドレスとインターネット層のプロトコルARP, RARP, ICMPの仕組みを理解する。
詳細：MACアドレスとは何か、IPアドレスとはどのような関係にあるかなどの点を学ぶ。またこれに関連してインターネット層のプロトコルであるARP, RARP, ICMPというプロトコルについても、その仕組みを理解する。データリンク層に属するPPPおよびPPPoEなどについても学ぶ。16進数と2進数・10進数の変換を演習として取り上げる。またWindows系のarp, ping, tracert, pathpingコマンドについて、実際に操作しながら学んでいく。
予習用語：MACアドレス、ARP、RARP、ICMP、arpコマンド、pingコマンド、tracertコマンド、16進数、PPP、PPPoE
<第6講>　トランスポート層の役割とホスト名・ドメイン名の仕組み
概要：トランスポート層の役割について学ぶ。ホスト名・ドメイン名の仕組みと、その配布・管理方式について学習する。
詳細：トランスポート層において重要な役割を果たすポート番号の意味を理解した上で、この階層に属するTCP、UDPという2つのプロトコルについて、その役割と特徴を整理する。ポート番号の割り当てとセッションの管理についても学ぶ。ホスト名・ドメイン名の仕組み、ドメイン名の種類についても理解する。演習としてWindows系のnetstatコマンドについて、実際に操作しながら学んでいく。
予習用語：トランスポート層、TCP、UDP、ポート番号、ウェルノウンポート番号、コネクション、セッション、ウィンドウ制御、ホスト名、ドメイン名、FQDN
<第7講>　アプリケーション層の役割
概要：アプリケーション層が扱う代表的アプリケーションとそこで行なう仕事の概略について学ぶ。DNSとHTTPの仕組みを理解する。
詳細：DNSの基本的な仕組みや用語について学習する。また、実際の設定例などを取り上げながら解説していく。ウェブサービスにおいて広く使われているHTTPというプロトコルについて、概略の仕組みを学ぶ。またそこで使われるクッキーの概念についても理解する。HTTPSと呼ばれるセキュリティに配慮したウェブ用のプロトコルについても簡単に取り上げる。演習としては、Windows系のnslookupコマンド, hostnameコマンドを取り上げる。
予習用語：DNS、名前解決、正引き、逆引き、ルートDNSサーバ、HTTP、WWW、Webブラウザ、Webサーバ、クッキー、SSL、HTTPS、Web2.0
<第8講>　アプリケーション層のプロトコル（メール、FTP、文字端末）
概要：メールサーバの仕組みについて学習する。また、SMTP、POP、IMAPなどのプロトコルの役割についても学ぶ。さらにFTP、TELNET、SSHについても学ぶ。
詳細：メールサーバの仕組み（SMTP、POP、IMAP）について基本を理解する。また歴史的な経緯についても考察する。セキュリティに配慮したAPOP, POP before SMTPなどの方式についても触れる。ファイル転送に使われるFTPの仕組みを学ぶ。またPassiveモードの意味について理解する。文字端末のプロトコルとしてtelnetとSSHの基本を学ぶ。演習としては、Windows系のtelnetコマンドによりWindowsマシンから、Linuxサーバに接続する仕方を実際に操作しながら学ぶ。応用としてtelnetを使ったメール送信の実験を行う。またftpコマンドの使い方を学ぶ。
予習用語：電子メール、メールサーバ、SMTP、POP、IMAP、SPAMメール、不正中継、SMTP拡張、POP before SMTP、FTP、匿名FTP、Passiveモード、ファイアウォール、telnet、SSH、ポートフォワーディング、文字コード
<第9講>　その他のアプリケーションプロトコル（DHCP, NNTP, SNMP, NTP）
概要：その他のアプリケーションプロトコルの中から、DHCP, NNTP, SNMP, NTPを取り上げる。
詳細：DHCPについては仕組みや使い方だけでなく、さらに管理者側の立場で設定方法などについても学ぶ。NNTPと呼ばれる電子掲示板のような役目をするプロトコル、SNMPと呼ばれるネットワーク機器を管理するためのプロトコル、NTPと呼ばれる正確な時間を管理するためのプロトコルなどについて簡単に解説する。演習としては、Windows系のipconfigコマンドを使って、DHCPの設定情報を調べてみる。またTeraTermという端末ソフトの使い方を学び、Linuxマシンにログインする操作を実行してみる。
予習用語：DHCP, NNTP, SNMP, NTP
<第10講>　ルーティングの仕組み
概要：ルーティングの仕組みの基本を理解する。各種ルーティングプロトコルの特徴を知る。
詳細：TCP/IPのパケットは、ルータにより経路選択をして目的地に送られる。このルーティングの仕組みについて、基本的な事柄を理解する。スタティックルーティングとダイナミックルーティングがどのように役割分担して利用されているか理解する。さまざまなルーティングプロトコルの中から、代表的なものとして、RIP、OSPF、IGRPなどを取り上げ、その特徴を解説する。演習としては、UNIX系のネットワークコマンドifconfig, arp, ping, traceroutoの使い方を学ぶ。
予習用語：ルーティング、ルータ、ブロードバンドルータ、経路選択、ゲートウェイ、ルーティングテーブル、メトリック、スタティックルーティング、ダイナミックルーティング、ルーティングプロトコル、ディスタンスベクタ方式、リンクステート方式、RIP、OSPF、IGRP、自律システム

<第11講>　アドレス変換の仕組み
概要：組織内のプライベートアドレスをインターネットの世界で使えるグローバルアドレスに変換するためのアドレス変換の仕組みについて理解する。
詳細：組織内のネットワークをプライベートアドレスで構築した場合、外の世界に出るには、グローバルアドレスに変換する必要ある。これをアドレス変換と呼んでいるが、1対1に対応させるNATと1対多に対応させるNAPT（IPマスカレード）という方式がある。これらの原理について説明する。またアドレスを固定して変換する静的NAT、静的NAPTについても解説する。演習としては、UNIX系のネットワークコマンドnetstat, nslookup, host, dig, hostname, whoisの使い方を学ぶ。
予習用語：アドレス変換、プライベートアドレス、グローバルアドレス、NAT、NAPT、IPマスカレード、静的アドレス変換、静的NAT、静的NAPT
<第12講>　プロキシサーバとファイアウォール
概要：インターネットに潜む危険性についてある程度認識したうえで、その対応策としてのプロキシサーバおよびファイアウォールについて解説する。
詳細：インターネットには、ウィルス、スパイウェア、フィッシングなど、さまざまな危険性が潜んでいる。これらに対応するために、プロキシサーバやファイアウォールなどが使われる。これらの機能や、方式ごとの違いについて理解する。またファイアウォールを使ったネットワーク構成の例としてDMZモデルを取り上げる。
予習用語：プロキシサーバ、ファイアウォール、パケットフィルタリング方式、アプリケーションゲートウェイ方式、ステートフルパケットインスペクション方式、DMZモデル
<第13講>　VPNとIP電話
概要：VPNとそれに関連する技術を解説する。またIP電話の仕組み、通信品質の確保に関する話題を取り上げる。
詳細：VPNは、暗号化の技術を使ってインターネット上に仮想的な信頼性の高い経路を作るための仕組みである。インターネットはもともと信頼性の面でいろいろな問題を抱えているが、これにより組織内のネットワークの一部をインターネットで代替できるようになり、コスト的に大きなメリットがある。IP電話は、音声をデジタル化してインターネット上で通話ができるようにした技術である。通話の品質を維持するための仕組みについても学ぶ。
予習用語：VPN、トンネリング、広域Ethernet、IP電話、音声符号化、P2P、QoS、IPv6
<第14講>　パケットキャプチャ
概要：パケットキャプチャーツールを使って、実際にネットワークを流れているパケットをキャプチャーし、解析してみる。
詳細：ネットワーク上を流れているパケットを実際にキャプチャーすることにより、実際にどのような仕組みで通信が行われているかを実感してもらうことが目的である。パケットをキャプチャーするには、キャプチャー用のソフトをインストールする必要がある。そのインストール法から使い方まで一通り解説する。
予習用語：パケット、パケットキャプチャ、ヘッダ、IPアドレス、ポート番号
<第15講>　期末テスト
概要：全体を通して期末テストを行う。
詳細：資料などをもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。レポートを事前に出題しておくので、解いておくこと。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。さまざまなプロトコルの仕組みを理解しておくこと。2進数などの計算ができるようにしておくこと。
試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてみること。わからない点があれば質問して解決しておくこと。

■教科書
なし

■指定図書
なし

■参考文献
渡邉郁郎　「TCP/IP をめぐる88問88答」オーム社（2010）

■参考URL
http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture

■評価方法
学期末試験70%　レポートなど平常点30%

■評価基準
相対評価
　技術用語を単に記憶しているだけではなく、的確にその意味を知っていて、どのような場合に何をやればよいかが分かって初めてネットワーク技術を習得したといえる。そういう観点から演習と試験の結果を評価する。

■事前履修科目等
なし

■卒業年次生対象再試験の実施
実施しない

■留意点
コンピュータを使った演習については、自分で必ず実際に動かしてみること。単に本を読むだけでは得られない知識が得られるはずである。

科目名　財務会計Ⅰ(Principle of Acounting Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　清松　敏雄

■講義目的

本講義は、「ビジネス入門Ⅱ」の講義内容に関する理解を深化させることが目的である。具体的には、財務諸表のうち、損益計算書と貸借対照表（特に資産）に焦点を当て、会計処理の背後にある理論をマスターすることが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

損益計算書および貸借対照表（特に資産）に関する論点を理解することが目標である。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：イントロダクション。会計の種類と役割。
事前学習しておくべき用語やポイント：財務諸表
詳細：会計の役割や財務諸表の種類について解説する。特に、主な財務諸表として損益計算書と貸借対照表をとりあげ、それぞれの財務表が何を示そうとしているのかを解説する。
<第2講>
概要：損益会計の基礎
事前学習しておくべき用語やポイント：損益計算書、発生、実現
詳細：発生基準・実現基準・費用収益対応の原則などの、損益計算の基本原則について解説する。株式会社においては、現金入金時に収益を認識するわけではなく、また現金支出時に費用を認識するわけでもない。会計上は、原則として実現、発生という考え方に基づいて収益・費用を認識することを解説する。
<第3講>
概要：損益計算書の区分と表示
事前学習しておくべき用語やポイント：売上高、売上総利益、営業利益、経常利益、税引き前当期純利益、当期純利益
詳細：損益計算書における区分および各区分の意味について解説する。この際、時間の許す限り実際の損益計算書を用い、それぞれの段階利益が何を示しているのかを具体的に解説する。
<第4講>
概要：貸借対照表の区分の表示
事前学習しておくべき用語やポイント：貸借対照表、資産、流動資産、固定資産、繰延資産
詳細：貸借対照表における区分および各区分の意味について解説する。この際、時間の許す限り実際の貸借対照表を用い、それぞれの区分が何を示しているのかを具体的に解説する。
<第5講>
概要：資産評価の基本原則
事前学習しておくべき用語やポイント：取得原価基準（取得原価主義）
詳細：取得原価・時価・割引現在価値について解説する。保有する資産の評価にあたって、どのような評価基準を採用するかは一律に定められているわけではない。そこで、まずはどのような評価基準が考えられるのかを解説する。
<第6講>
概要：金銭債権の評価
事前学習しておくべき用語やポイント：貸倒引当金
詳細：金銭債権の評価について解説する。特に、貸倒引当金について解説する。たとえば、取引先が多数存在する場合、売掛金の件数も膨大なものとなる。そうすると、取引先によっては、支払が滞るということが生じる。とはいえ、完全に支払が滞ってから情報を発信するのでは、事実上、価値のない資産が計上されることになりかねない。そこで、回収可能価額で金銭債権を評価することを解説する。
<第7講>
概要：費用性資産の会計処理とその背景にある考え方
事前学習しておくべき用語やポイント：費用配分の原則、取得原価基準（取得原価主義）
詳細：費用性資産の会計処理とその背景にある考え方について、費用配分の原則を中心に解説する。購入した費用性資産は、期末において原則として取得原価に基づいて評価される。そうすると、購入時には取得原価の決定が重要となり、また、そのうちのどの程度が費用となり、どの程度が期末に資産として残るかを把握した上で、取得原価を分割しなければならない。このように、取得原価の決定と原価配分（費用配分）が重要となることを解説する。
<第8講>
概要：棚卸資産
事前学習しておくべき用語やポイント：棚卸資産、先入先出法、平均法
詳細：棚卸資産の費用配分について解説する。棚卸資産の費用配分は、数量計算と単価の計算に分けて行われる。そこで、数量計算、単価の計算それぞれについて数値例を用いつつ解説する。
<第9講>
概要：有形固定資産
事前学習しておくべき用語やポイント：減価償却
詳細：有形固定資産の費用配分について解説する。有形固定資産の費用配分は、基本的に減価償却という手続が用いられる。そこで、なぜ減価償却という手続が必要となるのか、また、減価償却という手続は何を目的としているのかを解説する。
<第10講>
概要：低価基準（低価法）
事前学習しておくべき用語やポイント：低価基準
詳細：低価基準について解説する。棚卸資産の期末評価は、低価基準が用いられる。取得原価基準を原則的な考え方としつつ、棚卸資産の期末評価に低価基準を用いる趣旨は何なのか、また、低価基準とはどのような評価基準であるのかを解説する。
<第11講>
概要：減損会計
事前学習しておくべき用語やポイント：減損
詳細：有形固定資産等の減損処理について解説する。収益性の低下を反映する手法として、棚卸資産については低価基準が用いられているが、固定資産（特に有形固定資産）については、減損という手法が用いられている。そこで、有形固定資産の減損処理とはどのような考え方に基づくものなのか、また、具体的なプロセスはどのようなものなのかを解説する。
<第12講>
概要：無形固定資産
事前学習しておくべき用語やポイント：特許権、のれん
詳細：無形固定資産の会計処理の背後にある考え方を解説する。無形固定資産は、基本的に有形固定資産と同じように考えることができるものの、第13講で述べる繰延資産との比較のためにも、再確認をする。
<第13講>
概要：繰延資産と研究開発費等
事前学習しておくべき用語やポイント：研究開発費、繰延資産
詳細：繰延資産の意義、研究開発費の会計処理の背後にある考え方を解説する。研究開発費の会計処理は、我が国の会計基準と国際財務報告基準で異なる点であり、実務的にも話題になっている論点である。そこで、研究開発費の会計処理としてどのような処理が考えられ、また、我が国ではどのような理由に基づいて一括費用化しているのかを解説する。
<第14講～第15講>
概要：全体のまとめを行う。
事前学習しておくべき用語やポイント：第13回までの講義を復習してくること。
詳細：講義全体を振り返り、全体像や個々の講義のポイントはどのようなものであったかを確認する。

■教科書

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

■指定図書

■参考文献

必要に応じて講義中に指定する。

■参考URL

■評価方法

授業内で実施する試験の成績により評価する。なお、授業内での積極的な発言等については加点事由とする。

■評価基準

相対評価
損益計算書および貸借対照表（特に資産）に関する論点を理解していることを基準とする。

■事前履修科目等

ビジネス入門Ⅱの単位を取得していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

「財務会計Ⅰ」は、秋学期に行われる「財務会計Ⅱ」の事前履修科目である。

科目名 財務会計II（Principle of Acounting II）

サブタイトル

担当教員 清松　敏雄

■講義目的

本講義は、産業社会論（会計）および財務会計Ⅰの内容に関する理解を深化させることが目的である。具体的には、財務諸表のうち、貸借対照表（特に負債・純資産）の会計処理の背後にある理論をマスターすることが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

貸借対照表（特に負債・純資産）に関する論点を理解することが目標である。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：イントロダクション。貸借対照表の概要の復習。
事前学習しておくべき用語やポイント：貸借対照表
詳細：貸借対照表の全体像について解説する。貸借対照表は、資産の部、負債の部および純資産の部に分かれている。それぞれに、どのような内容が示されているのか、また、表示上は資産・負債について流動・固定分類がなされているが、それはどのような分類なのかを解説する。
<第2講>
概要：財務会計Ⅰの復習
事前学習しておくべき用語やポイント：資産、取得原価基準、貨幣性資産と費用性資産
詳細：貸借対照表のうち、資産について解説する。特に、貨幣性資産と費用性資産の分類、貨幣性資産の評価、費用性資産の評価と原価配分（費用配分）について解説する。
<第3講>
概要：負債会計その1
事前学習しておくべき用語やポイント：負債、流動負債、固定負債、金銭債務
詳細：負債の中でも、特に金融負債について解説する。具体的には、金銭債務にはどのようなものがあるのか、金銭債務はどのような評価するのかが中心となる。その中でも、社債についてとりあげ、償却原価法についても言及する。
<第4講>
概要： 負債会計その2
事前学習しておくべき用語やポイント：未払費用、引当金
詳細：負債の中でも、特に未払費用と負債性引当金について解説する。未払費用については、未払金とどのように異なるものなのかを中心に解説する。また、負債性引当金をとりあげ、なぜこのような項目を負債計上する必要があるのかを解説する。
<第5講>
概要： 負債会計その3
事前学習しておくべき用語やポイント：製品保証引当金、賞与引当金、退職給付引当金
詳細：負債性引当金の個々の内容について解説する。特に、製品保証引当金、賞与引当金及び退職給付引当金をとりあげる。
<第6講>
概要： 負債会計その4
事前学習しておくべき用語やポイント：金銭債務、前受金、引当金
詳細：負債について、まとめを行う。この際、前受金のように、金銭債務ではなく、他の資産やサービスの引き渡し義務を負うケースについてもとりあげる。
<第7講>
概要：純資産の構成要素その1
事前学習しておくべき用語やポイント：純資産、株主資本
詳細：純資産の分類や個々の項目の内容を解説する。具体的には、株主資本とその他の項目、払込資本と留保利益の分類、さらに、資本金、資本剰余金、利益剰余金についても解説する。
<第8講>
概要：純資産の構成要素その2
事前学習しておくべき用語やポイント：資本金、資本剰余金、利益剰余金
詳細：損益計算書と貸借対照表のつながりを解説する。第7講で解説した資本金、資本剰余金、利益剰余金のうち、特に利益剰余金に注目し、損益計算書と貸借対照表の関連について解説する。
<第9講>
概要：自己株式
事前学習しておくべき用語やポイント：自己株式
詳細：自己株式の会計処理の背後にある考え方について解説する。自己株式を保有している上場企業は多いが、同様に、他者の株式を保有している企業も多い。なぜ他者の株式と自社の株式で会計上の取り扱いが異なるのか、具体的にどのような会計処理を行うのかを解説する。
<第10講>
概要：その他有価証券評価差額金
事前学習しておくべき用語やポイント：その他有価証券、その他有価証券評価差額金
詳細：その他有価証券の会計処理および評価差額金の会計処理の背後にある考え方について解説する。
<第11講>
概要：純資産に関する復習
事前学習しておくべき用語やポイント：純資産、株主資本、利益剰余金と当期純利益
詳細：純資産について、まとめを行う。特に、貸借対照表と損益計算書のつながりについて解説する。この際、すでに解説した当期純利益と利益剰余金の関連のみならず、その他の項目についてもとりあげる。第11講の内容は、第14講で別途とりあげる包括利益の内容を一部含んでいる。
<第12講>
概要：株主資本等変動計算書
事前学習しておくべき用語やポイント：損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書
詳細：株主資本等変動計算書について解説する。この際、株主資本等変動計算書、損益計算書、貸借対照表のつながりを重点的に解説する。
<第13講>
概要：包括利益について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：その他の包括利益、包括利益
詳細：近年導入された包括利益という概念について、当期純利益との相違、他の財務諸表との関連について解説する。
<第14講>
概要：連結財務諸表
事前学習しておくべき用語やポイント：連結財務諸表
詳細：連結財務諸表についてとりあげる。実際の連結財務諸表を確認しつつ、少数株主持分（非支配株主持分）など、連結固有の項目についてもとりあげる。
<第15講>
概要：財務会計Ⅱのまとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習してくること
詳細：財務会計Ⅱで取り扱った論点について、まとめを行う。

■教科書

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

■指定図書

■参考文献

必要に応じて講義中に指定する。

■参考URL

■評価方法

講義の進行にあわせて実施する授業内テストにより評価する。

■評価基準

相対評価
貸借対照表（特に負債・純資産）に関する論点を理解していることを基準とする。

■事前履修科目等

財務会計Ⅱを履修することができるのは、財務会計Ⅰの単位取得者に限る。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

なし

科目名　財務管理（Financial Management）

サブタイトル

担当教員　清松　敏雄

■講義目的

本講義は、企業が存続していくために不可欠な資金繰りについて概観することを通じ、財務管理の基礎的事項について検討を行っていく。講義を通じ、長期的な意思決定（設備投資の意思決定）、企業のキャッシュフローと会計上の利益との相違についての知識および計算能力を身につけることが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

資金繰り・資金運用の意思決定に関する知識および計算能力を習得することが目標である。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：イントロダクション。経営意思決定の流れを解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：経営意思決定
詳細：経営上の意思決定にはさまざまなものがあるが、そのうち、財務上の意思決定について、その流れを解説する。
<第2講>
概要：設備投資の意思決定の基本的考え方について解説する。また、貨幣の時間価値を考慮しない方法について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：回収期間法、投資収益率法（投資利益率法）
詳細：意思決定を行うには判断基準が必要である。そこで、設備投資の意思決定の判断基準の概要を解説する。特に、第2講においては、回収期間法と投資収益率法の計算と判断を解説する。また、貨幣の時間価値を考慮する必要性（考慮しない場合の問題点）を解説する。
<第3講>
概要：貨幣の時間価値と割引計算について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：将来価値、現在価値
詳細：将来価値と現在価値とは何かを解説する。また、比較的シンプルな例を用いて、実際に将来価値や現在価値の計算を試みる。
<第4講>
概要：貨幣の時間価値と割引計算（第3講の続き）について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：年金将来価値、年金現在価値
詳細：年金将来価値と年金現在価値とは何かを解説する。具体的には、定期的な支払・受け取りがある場合を想定し、将来における利息込みの金額、または現在価値の計算を解説する。
<第5講>
概要：正味現在価値法について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：正味現在価値法
詳細：正味現在価値は、将来におけるネット・キャッシュ・フローの割引現在価値から初期投資額を控除した額であるが、その計算方法について解説する。
<第6講>
概要：内部収益率法について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：内部収益率法（内部利益率法）
詳細：内部収益率法は、NPVがゼロになるような割引率であるが、その計算方法について解説する。
<第7講>
概要：タックス・シールドについて解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：タックス・シールド
詳細：将来キャッシュ・フローの計算にあたって考慮すべき、法人税等の税金の影響について解説する。
特に、我が国は比較的税率が高い国であるため、税金による将来キャッシュ・フローの減少およびタックス・シールドの影響が大きい。そこで、これらの影響について解説する。
<第8講>
概要：会計上の利益と資金繰り（キャッシュフロー）との相違について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：利益、キャッシュフロー
詳細：会計上の利益は、通常、キャッシュフローと一致しない。どのような取引によって利益とキャッシュフローの不一致が生じるのかを中心に解説する。特に、第8講においては、掛け販売、掛け仕入・在庫の影響について解説する。
<第9講>
概要：会計上の利益と資金繰り（キャッシュフロー）との相違について、減価償却のような会計上の手続によって生じる項目を解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：減価償却、引当金
詳細：会計上の利益は、通常、キャッシュフローと一致しないが、掛販売のような取引だけでなく、減価償却費の計上や引当金繰入額の計上など、会計上の独特の手続きによっても利益とキャッシュフローの不一致が生じる。この点について解説する。
<第10講>
概要：ビジネスゲーム①
事前学習しておくべき用語やポイント：売上、費用、収入、支出
詳細：紙ベースのビジネスゲームを用いて、利益とキャッシュフローのズレが具体的にどのように生じるのかを確認するとともに、資金繰りを考慮しながらの意思決定をディスカッション形式で検討する。
<第11講>
概要：ビジネスゲーム②
事前学習しておくべき用語やポイント：在庫、売上原価、製造費用
詳細：紙ベースのビジネスゲームを用いて、特に在庫が利益とキャッシュフローに与える影響を確認するとともに、資金繰りを考慮しながらの意思決定をディスカッション形式で検討する。
<第12講>
概要：ビジネスゲーム③
事前学習しておくべき用語やポイント：在庫、売上原価、製造費用、在庫管理コスト
詳細：紙ベースのビジネスゲームを用いて、特に在庫が利益とキャッシュフローに与える影響を確認するとともに、資金繰りを考慮しながらの意思決定をディスカッション形式で検討する。特に、第11講と異なり、在庫管理コストまで考慮して検討する。
<第13講>
概要：資本コスト、負債コストについて解説する
事前学習しておくべき用語やポイント：資本コスト
詳細：資本コスト、負債コストと節税効果について解説する。資本コストは投資家の要求利回りであるとともに、企業にとっては必要利益率でもある。この点を解説した上で、すでに取り扱った正味現在価値法と内部収益率法において資本コストがどのような用いられているかを確認する。また、資本コストのうち負債コストをとりあげ、節税効果を加味することを解説する。
<第14講>
概要：株主資本コストについて解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント：株主資本コスト
詳細：株主資本コスト、配当割引モデル、CAPM（資本資産評価モデル）について解説する。株主資本コストは、加重平均資本コストの算定のために、負債コストと並んで必要なものである。しかし、株主資本コストの算定は負債コストに比べれば難解である。そこで、比較的シンプルなモデルである配当割引モデルを紹介した上で、CAPMについても簡単に解説する。
<第15講>
概要：全体のまとめを行う。
事前学習しておくべき用語やポイント：第14回までの内容を復習しておくこと
詳細：講義全体を振り返り、全体像や個々の講義のポイントはどのようなものであったかを確認する。

■教科書

[1] 石原久士著『スッキリわかる日商簿記1級 工業簿記・原価計算V　意思決定・特殊論点編』TAC出版

■指定図書

[1] TAC株式会社（簿記検定講座）編著『よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記1級工業簿記・原価計算III』TAC出版
[2] 櫻井通晴著『管理会計（第4版）』同文館出版

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

授業内で実施する試験の成績（60%）およびレポート（40%）により評価する。なお、

授業内での積極的な発言等については加点事由とする。

■評価基準

相対評価
複数ある選択肢（投資案）の中から適切なものを論理的な根拠をもとに判断・選択する能力が身に付けられているのか、利益とキャッシュフローの相違を理解しているかを基準に評価する。

■事前履修科目等

財務会計Ⅰ、財務会計Ⅱの単位を取得していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名　財務諸表分析(Financial Analysis)

サブタイトル

担当教員　山原　克明

■講義目的

本講義は、財務諸表から得られる財務データを中心に、経営分析のために会計情報を適切に読み取り、使える知識・技法として習得することを目指している。経営戦略、マーケティング、企業組織・文化、企業変革などにかかわる定性的な視点を加え、いろいろな事例やケースを用いて、企業の経営力(組織力: 組織力をコアに生産力・販売力・財務力などを総合したもので、経営体(企業)の総合的な能力)の見方・分析・解釈・評価の手順や方法を知識として身に付ける。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

財務諸表による定量的な会計データをコアに、経営資源(人・物・金・情報)にかかわる定性的な情報を加味して、企業の経営活動を読み解く。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習　無

■講義の概要

企業経営に関する情報は多方面から発せられている。これらの情報を分析するためには、企業が公表する財務諸表をみるのがよい。財務諸表に集められたデータは、企業の過去から現在に至るまでの実態を伝える信頼性の高い豊かな情報の源である。定量的(quantitative :数値データ)な会計情報を的確にとらえるとともに、経営活動に関する広い定性的(qualitative:数値以外)な知識を合わせて、企業の現状の価値を理解して未来を見通す取り組みが求められる。定量的な会計(アカウンティング)やファイナンス(Finance：金融＝資金の融通・財務＝資金の運用と調達に関する業務)面の解明から、数値を超えて、ストラテジー＝マーケティング＝カルチャー(組織文化)による定性的な面へと観察を深める。
世界は広がり、数値が静かに語りかける。それが現れた過去　⇒　それが現れている現在　⇒　それが現れるだろう未来までを探る。本講義では、多くの多様な会計情報が集約され(ディスクロージャー制度に裏打ちされ)、過去と現在の経営状況が明らかにする。過去・現在の状況を理解するだけにとどまらない。それは、企業の未来へのロードマップ上の道標の連なりでもある。「リターン(利益)の最大化を計り、企業価値を高めているか?」、経営資源を「効率的・効果的にマネジメントしているか?」。この問いかけに対して、羅針盤の針となる経営情報が把握できるように。
<第1講～第2講>　総論:企業の強さ・弱さ、高い収益力・安定した財務力の発見
ケースによる財務諸表の分析を通じて、企業内外の利害関係者が経営的な意思決定を行うための問題点を摘出する。さらに、改善案を提案し、企業成長発展のシナリオを策定するための経営情報を提供する。
　　○企業集団(グループ)特有の経営力の分析と解釈
企業経営の現状は、関連事業への進出、地域別販売会社の配置などにより、多角　化・分社化が進んでいる。親会社と企業集団(グループ)の会計情報を結合した連結財務諸表により、企業集団としての全体像を分析する。あわせて、どのセグメントが収益力、安全性、成長性、将来の発展性で優れていたり、劣っていたりするのかを的確に判定する。
<予習・復習ポイント>
　企業集団(グループ)特有の経営力の分析と解釈の意義を理解できたか。
<第3講～第6講>　収益性の分析と解釈　企業価値の理解
収益性では、損益計算書(包括利益計算書)の項目の利益と売上高と総資産や自己資本との関係から、さまざまな利益率・回転率などを観察する。まず、投下した資本と利益の関係から総資産利益率(ROA)を算出して解析する。さらに、売上高と利益の関係から売上利益率に、売上高と総資産の関係から回転率に分解して、収益性と効率性の観察へと展開する。また、自己資本利益率(ROE)を算出して、株主の観点からの収益性を分析する。合わせて、企業の成長性を利益、売上高、設備投資、従業員数の推移や伸びから検討する。
○企業価値の評価　将来の見通し
　　企業価値について理解し、DCF法で評価できるようにする。また、企業価値を向上させるための考え方を明らかにするとともに、過去から現在に至る評価に基づいて、将来のあるべき企業の姿を予測してみる。
<予習・復習ポイント>
　収益性の分析について理解し、計算・分析できたか。
<第7講～第9講>　安全性の分析と解釈
財務的な安全性(流動性)とは企業の支払能力(短期支払能力・長期支払能力)をいうが、貸借対照表(財政状態計算書)の各項目の関係からこの安定性を検討する。あわせて、キャッシュ・フローの状況について、キャッシュ・フロー計算書に示されているキャッシュの諸活動から分析する。
<予習・復習ポイント>
　安全性の分析について理解し、計算・分析できたか。
<第10講>　生産性(会社の物作り・サービスの効率を読み取る数値)の分析と解釈
生産性分析は、付加価値分析ともいわれている。付加価値を使って、企業の生産性を分析し、経営資源を投入して、どれだけの付加価値を生み出したかを検討する。
<予習・復習ポイント>
　生産性の分析について理解し、計算・分析できたか。
<第11講>　損益分岐点の分析による利益を獲得する力の判定
費用を固定費と変動費に分解して、その構造の観察から利益に及ぼす影響を評価する。損益分岐点の売上高(Break Even Point)に基づき、目標利益を達成するためには、売上高をどれだけ伸ばせばよいのか、費用をどれだけ削減すればよいのかを検討して、経営管理の手段とする。
<予習・復習ポイント>
　損益分岐点の分析について理解し、計算・分析できたか。
<第12講～第15講>　模擬ケースの分析と解釈　－ 論理、普遍的な考え方を学ぶ －
ケースに現れる経営のディテールは、さまざまな経営に関する「ロジック」を考えるための材料、論理的な推論のシードを提供する。考えを巡らせ、自問自答してみれば、多様な戦略や戦術の有り様を手にすることができる。適宜、財務諸表分析によって得た指標の数値によって示される情報の枠をこえて、経営そのもののあり方や、経営理念・経営戦略・組織文化などを深く考えて、「普遍性(universal)」を発見する。
<予習・復習ポイント>
　ケースの分析を通じて、収益性。安全性の諸指標を計算し、経営のあり方、経営理念・
経営戦略・組織文化などを深く考え、ロジックの組立てができたか。

■教科書

山原克明著　『財務諸表分析テキスト』講義の要点を整理した講義用テキスト教材(冊子)

■指定図書

[1]野村健太郎著　『連結企業集団の経営分析』(全訂版)　税務経理協会
[2]高田直芳著　『明解経営分析バイブル』　講談社
[3]大津広一著　『企業価値を創造する会計指標入門』　ダイヤモンド社
　　その他、講義のなかで指示する。

■参考文献

[1]渋谷武夫著　『経営分析の考え方・すすめ方』　中央経済社
[2]落合俊彦著　『決算スーパー分析』(第3版)　金融財政事情研究会
[3]経営戦略研究会著　『経営戦略の基本』　日本実業出版社
　　その他、講義のなかで指示する。

■参考URL

http://info.edinet.go.jp/

■評価方法

期末試験(50%)　小テスト・レポート(10%)　出席(40%)

■評価基準

相対評価
・期末試験
　　専門用語の意味を正確に理解し、結果の判定に適切に用いることができるか。
　　基本的な指標の算出法を理解し、数値を正確に判定し、論述する知識が身に付いているか。
・小テスト・課題
　　計算ロジックに基づいて、指標の算出が正しくできるか。
　　簡潔な表現で、よく整理された構成になっているか。
　　着眼点を正確に把握し、適切な分量で記述しているか。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

・講義では知識の積み重ねが求められるので、講義内容の確認のために小テストを行い、これを出席カードとする。
・テキスト・資料・ノートなどに講義で理解した内容を記録し、これを基に予習・復習することが必要である。
・課題、レポートは期日を厳守して提出する。
・日ごろから経済記事、ニュースに関心を持っていることが望ましい。

科目名　システムデザイン（System Design）

サブタイトル

担当教員　中村　有一

■講義目的

システム設計において重要なことは、与えられた問題(システム化の要求)を抽象化し、それを最もうまく処理するモデルを選択することである。本講義では、ビジネスアプリケーションによく用いられる(おもに部品としての)モデルを紹介し、それらを当てはめて要求仕様を満たす具体的なシステム設計を行い、それを仕様書として作成する手順および記述法を実習形式で学ぶ。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

システム設計の基本的な方法が理解されていること。DFD、ERD、流れ図などの従来の図的表現手法に加えて、オブジェクト指向の設計手法UMLにおける図的表現（ユースケース図など）が描けるようになること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　コンピュータシステムとは
概要：システムの設計に入る前提として、その対象となるコンピュータシステムについて概観しておく。
詳細：一般的なシステムの概念について定義したのち、コンピュータシステムおよびシステム化について論ずる。システム開発の手順についても簡単に触れる。コンピュータシステムの発展の歴史を振り返りながら、身近なITシステムとして、販売流通システム、銀行システム、鉄道システムを取り上げる。組み込みシステムについてもここで概要を把握しておく。
予習用語：システム、コンピュータシステム、システム化、システム開発、ダウンサイジング、オープン化、POS端末、ATM、非接触型ICカード、組み込みシステム

<第2講>　システム開発の工程
概要：システム開発工程の全体的な流れを学ぶ。開発の各段階における仕様書とテストの関係について理解する。
詳細：まずシステムの規模を把握したうえで、それに適した開発の形態を決める。システム開発工程は、一般に上流工程と下流工程に分かれる。上流工程では、まず要求仕様から要件定義を行い、外部設計、内部設計、プログラム設計へと移る。下流工程では、プログラム作成、テスト、運用・保守という手順となる。
予習用語：システム開発工程、上流工程、下流工程、要求仕様、要件定義、外部設計、内部設計、プログラム設計、プログラム作成、テスト、運用、保守

<第3講>　開発モデル
概要：開発モデルによる開発手順の違いを理解する。
詳細：開発工程をどのように実行するかを決めるのが、開発モデルである。ウォータフォールモデル、プロトタイピングモデル、スパイラルモデル、アジャイルソフトウェア開発などのモデルがあり、状況に応じて選択される。
予習用語：開発モデル、ウォータフォールモデル、プロトタイピングモデル、スパイラルモデル、アジャイルソフトウェア開発

<第4講>　上流工程（要求仕様から要件定義まで）
概要：システム開発の上流工程の話にはいる。上流工程における仕様書の意味について学ぶ。ここでは要求仕様書と要件定義書がどのようなものであるか理解することに重点が置かれる。
詳細：上流工程の最初の部分である要求仕様から要件定義までの流れを詳しく見ていく。要求仕様書は、ユーザ側がシステム化についてどのような要望を持っているかを記述したものである。これをシステム開発側が分析して、設計者向けに整理しなおしたものが要件定義書である。
予習用語：要求仕様書、要件定義書

<第5講>　開発計画と業務の図的表現手法
概要：開発計画について概観する。またデータの流れを記述するDFD(Data Flow Diagram)とデータの関係を記述するERD (Entity Relationship Diagram)の書き方を習得する。
詳細：開発計画の工程については、簡単に整理する程度にとどめる。業務の内容を理解する上でデータの流れを把握することが重要である。これを図的に表現する手法としてよく使われるのがDFDである。ERDはデータベースの設計の際に、その出発点としてデータ間の関連を理解するために描かれる。
予習用語：開発計画、DFD, ERD

<第6講>　機能の設計手法
概要：UMLの手法の中からユースケース図とアクティビティ図を取り上げる。
詳細：オブジェクト指向開発の手法であるUML(Unified Modeling Language)の中から、ユースケース図とアクティビティ図を取り上げる。ユースケース図は、システムの持つべき機能を記述するもので、アクティビティ図は、システムの動作を記述するものである。またユースケース図に加えて、それを詳しく説明するものとして、ユースケースシナリオとユースケース記述を書くことがある。
予習用語：UML, ユースケース図、アクティビティ図、ユースケースシナリオ、ユースケース記述

<第7講>　外部設計（前編）
概要：外部設計では、ユーザ側の人も知っておく必要のある項目を設計する。出力設計、性能面の設計、コード設計などが含まれる。
詳細：外部設計の段階では、ユーザが直接対面する端末画面や帳票などを設計する。また応答時間などの性能面の設計も行う。この段階でよく利用されるHIPO (Hierarchy plus Input-Process-Output)と呼ばれる手法を取り上げる。
予習用語：外部設計、HIPO

<第8講>　外部設計（後編）
概要：外部設計の中で、コード設計、論理データ設計などを取り上げる。
詳細：コード設計として、コードの意味、コードの種類、誤り検出など、コードに関連する話題を取り上げる。また外部設計の残りの項目として、出力設計、入力設計、論理データ設計を簡単に取り上げる。
予習用語：出力設計、コード設計、誤り検出、論理データ設計

<第9講>　内部設計
概要：外部設計がシステムを外側から見た利用者の立場で作られるのに対して、内部設計は、それをどのように実現するかの詳細を設計することである。
詳細：内部設計の意味、手順を理解したうえで、機能分割、入出力詳細設計、物理データ設計について学ぶ。物理データ設計では、リレーショナルデータベースについても簡単に触れる。
予習用語：内部設計、物理データ設計、リレーショナルデータベース

<第10講>　プログラム設計
概要：プログラム設計はプログラムを作成する直前の段階であり、ここまで準備すればプログラミングに取り掛かれる。レビューの方法についても学ぶ。
詳細：プログラム設計の考え方を学ぶ。ここではプログラムを階層的に分割する手法、モジュールの独立性と強度、モジュール間の結合度について概観する。レビューの手法については、机上レビュー、ウォークスルー、インスペクションについて簡単に触れる。
予習用語：プログラム設計、モジュール、独立性、強度、結合度、レビュー、机上レビュー、ウォークスルー、インスペクション

<第11講>　プログラム作成
概要：プログラムのコーディング、構造化プログラミングなどについて学ぶ。
詳細：システム開発の下流工程には、プログラム作成、テスト、運用・保守の3つの段階がある。プログラム作成の段階では、手続き型の開発手法の場合、構造化プログラミングの考え方を理解することが重要である。
予習用語：下流工程、コーディング、構造化プログラミング

<第12講>　テスト
概要：単体テストから運用テストに至る一連のテスト工程について学ぶ。
詳細：テストには、ブラックボックステストとホワイトボックステストという大きく分けて2つの考え方がある。また単体テスト、結合テスト、システムテスト、運用テストという段階ごとの区別もある。
予習用語：テスト、ブラックボックステスト、ホワイトボックステスト、単体テスト、結合テスト、システムテスト、運用テスト、ドライバ、スタブ

<第13講>　運用と保守
概要：運用・保守の基本的な考え方について理解する。
詳細：運用は、完成したシステムを実際の業務で使用することである。また保守は、システムの運用後に、システムを修正・変更・改良する作業のことである。保守は、地味な作業なので、軽視されがちであるが、重要な作業であり、かかる費用も大きい。
予習用語：運用、保守

<第14講>　全体のまとめとレポート作成
概要：全体を見通してまとめを行う。残りの時間でレポートの仕上げを行う。
詳細：開発工程の概要の視点から全体の流れをもう一度見直し、まとめとする。また、手法の視点から、取り上げた手法の意味などをまとめて整理する。
予習用語：なし

<第15講>　期末テスト
概要：全体を通して期末テストを行う。
詳細：資料などをもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解

きなおしてみること。わからない点があれば質問して解決しておくこと。
予習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

[1] 松永俊雄、中村太一、亀田弘之「コンピュータシステム開発入門」オーム社(2008)
[2] 平澤 章「オブジェクト指向でなぜつくるのか 第2版」日経BP社(2011)

■参考URL

http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture

■評価方法

学期末試験70%　レポートなど平常点30%

■評価基準

相対評価
本講義は設計仕様書が書けるようになることを目標とする。したがって、講義の最後までにはまとまった仕様書が書けるようになることを期待する。必要に応じて、仕様書の提出を要求する場合がある。このときは提出物も評価の対象とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習としては、予習用語について調べておく。これにより、授業中の理解度が高まるだろう。また疑問点があれば、事前に調べておいてもよい。復習は、配布される資料などを見直し、疑問点がないか確認すること。疑問点はできるだけ授業中に質問して、解決しておこう。

科目名 システム分析概論(Systems Analysis)

サブタイトル

担当教員 下山　智明

■講義目的

ビジネスICTを利用した情報システムの構築を前提としたシステム分析を学ぶ。システム分析は情報システムを構築（または開発）する最初の段階であり、現状の課題発見と問題解決案を作り出すという重要な位置づけにある。本講義では具体的な事例を通してDFDやERDといった技法を使うことで、システム分析を実践的に理解することを目的とする。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

(1) システム分析は何を目的として、どの様なプロセスをたどり、各プロセスではどの様な技法を使うのかを理解する。
(2) システム分析で使うDFD、ERDなどの表現を理解し、読み取れるようにする。
(3) システムを抽象化し、論理的に把握する方法を理解する。
(4) システム分析ドキュメントを理解し、現行もしくはこれから構築する将来のシステムについて概要を把握できる。

■講義形態

講義 ＋ GW・PR：学外学習なし

■講義の概要

<第1講> システム分析とは
概要： 講義の内容と進め方
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスICT、情報システム]
詳細：最初にシステム分析とは何か、その目的は何かを明確にする。また、本講義を通してシステム分析の対象として使う仮想企業"(㈱多摩事務機販売"（以下、タマハン）の概要を紹介する。タマハンの業務内容を記述したテキストを配布し、その概要を紹介する。
到達目標：システム分析の意味と講義の進め方を理解する。
<第2講> システムを表現する
概要： システムを分かり易く他人に説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント[タマハンの受注業務]
詳細：タマハンの受注業務の内容を説明し、他人が理解できるように発表する。資料の作成や発表はグループ単位で行う。発表内容については、聴衆者（他グループ）により採点を受け、コンテスト形式で評価する。
到達目標：システムを第三者に理解してもらうための方法を考える。
<第3講> データフローダイアグラム1
概要： 情報の流れに注目してシステムをDFDで表現する。
事前学習しておくべき用語やポイント[DFD]
詳細：業務を表現する技法の1つ、データフローダイアグラム（DFD）の基本的な書き方を学ぶ。業務手順ではなくデータの流れに注目してシステム全体を捉える。
到達目標：DFDで利用する記号の使い方を理解し、簡単なシステムをDFDで表す。
<第4講> データフローダイアグラム2
概要： ミニ仕様書を使って各機能の詳細を表現する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ミニ仕様書]
詳細：具体的な事例を使ってDFDの詳細を説明する。また業務内容を具体的に記述するミニ仕様書を学ぶ。
到達目標：DFDで表された業務を理解する。
<第5講> データフローダイアグラム3
概要： 色々な情報をデータ定義で表現する。
事前学習しておくべき用語やポイント[データ定義]
詳細：DFDで使われるデータを詳細に表現するために、データの構造を表現する記法であるデータ定義を学び、DFDドキュメントの体系を理解できるようにする。
到達目標：データ定義とDFDドキュメント体系を理解する。
<第6講> 現行物理モデル
概要： タマハンの業務をDFDで表現する。
事前学習しておくべき用語やポイント[タマハン業務内容]
詳細：タマハンの現行の業務を表したDFDドキュメントについて学ぶ。タマハンの業務をDFDドキュメント（DFD+データ定義+ミニ仕様書）で表現する。
到達目標：タマハンの業務内容の詳細な理解とDFDとの対比ができる。
<第7講> システム分析推進ステップ
概要： システム分析の全体像を把握する。
事前学習しておくべき用語やポイント[論理モデル，物理モデル]
詳細：現行システムを抽象化し、それを元に新しいシステムを作り出すまでの一連の流れを説明する。論理モデルと物理モデルの違いについて説明する。グループ学習を通して論理モデルと物理モデルの違いを発表する。
到達目標：システム分析の推進ステップを理解する。物理モデルと論理モデルの違いを理解する。
<第8講> ERDとデータの正規化1
概要： ERDを使って情報と情報の関連を表現する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ERD]
詳細：業務で使われている情報を表現する技法としてERDを説明する。また、カーディナリティ、オプショナリティの概念を説明する。
到達目標：基本的なERDを解釈し、カーディナリティ、オプショナリティを正しく解釈できる。
<第9講> ERDとデータの正規化2
概要： 情報を正規化することで複雑な情報を整理する。
事前学習しておくべき用語やポイント[正規化]
詳細：ERDで使う"実体"を求める技法として正規化の手法を説明する。タマハンで使われている帳票を正規化することで、本質的に必要な情報（実体）を抽出する。
到達目標：データを第1正規形、第2正規形、第3正規形へと変換できる。
<第10講> 現行論理モデル1
概要： タマハンの現行業務をスリム化して本質を理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[正規化]
詳細：タマハンを例として使い、現行物理モデルを抽象化し導き出す現行論理モデルを説明する。全ての帳票類を正規化することで重複する情報を統合し、本質的では無い作業を取り除くことで、現行業務の本質を捉える。
到達目標：正規化の結果から導き出される実体を見つけERDとして描く。
<第11講> 現行論理モデル2
概要： タマハンの現行業務をスリム化して本質を理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[タマハン業務内容]
詳細：タマハンを例として使い、現行物理モデルを抽象化し導き出す現行論理モデルを説明する。重複する情報を統合し、本質的では無い作業を取り除くことで、現行業務の本質を捉える。
到達目標：タマハンの物理モデルと論理モデルを対比して、なぜ変化したのかを理解する。
<第12講> 将来論理モデル1
概要： タマハンの新しい業務の概要を作る。
事前学習しておくべき用語やポイント[タマハン業務改善案]
詳細：業務改善案を取り入れた新しいシステムの論理モデルを説明する。タマハンの事例を使って、どの様に業務を改善すれば目標を達成し、かつ効率よく仕事することが出来るかを導き出す（前半）。
到達目標：現行論理モデルと業務改善案を取り入れた将来論理モデルの違いを理解する。
<第13講> 将来論理モデル2
概要： タマハンの新しい業務の概要を作る。
事前学習しておくべき用語やポイント[タマハン業務改善案]
詳細：業務改善案を取り入れた新しいシステムの論理モデルを説明する。タマハンの事例を使って、どの様に業務を改善すれば目標を達成し、かつ効率よく仕事することが出来るかを導き出す（後半）。
到達目標：現行論理モデルと業務改善案を取り入れた将来論理モデルの違いを理解する。
<第14講> 将来物理モデル1
概要： タマハンの新しい業務の具体案を作る。
事前学習しておくべき用語やポイント[システム案の骨子]
詳細：将来論理モデルを元に、現実の業務に即した最終案、将来物理モデルを作成する。どの様に作業を行えば良いのか、どの部分をコンピュータで実現し、どの部分を人間が行うのか、と言った具体的な仕組みを導き出す（前半）。
到達目標：論理モデルとそれから導かれる物理モデルの違いを理解する。
<第15講> 将来物理モデル2
概要：タマハンの新しい業務の具体案を作る。
事前学習しておくべき用語やポイント[システム分析推進ステップ]
詳細：将来論理モデルを元に、現実の業務に即した最終案、将来物理モデルを作成する。どの様に作業を行えば良いのか、どの部分をコンピュータで実現し、どの部分を人間が行うのか、と言った具体的な仕組みを導き出す（後半）。
到達目標：一連のシステム分析推進ステップで、どのようにシステムの構造が変化し、それはどの様な理由によるものかを理解する。

■教科書

適宜資料を配布して講義する。

■指定図書

なし

■参考文献

[1]「構造化分析とシステム仕様」 Tom DeMarco著 高梨智弘・黒田純一郎監訳 日経マグロウヒル 1986
[2]「情報システムの分析と設計」 G. Cutts著 浦昭二監訳 培風館 1995
[3]「情報資源管理の技法-ERモデルによるデータベース設計-」 酒井博敬著 オーム社 1987
[4]「データ中心システム設計」 堀内一著 オーム社 1988
主としてDFDに関する参考書が[1][2]で、ERDに関する参考書が[3][4]である。[1]はDFDに関する古典的な書物、[2]はDFD・ERDを含み、英国が設定したシステム分析標準手法SSADM(Structured Systems Analysis and Development Methodology)の解説書。[3]がERD中心に書かれているのに対し、[4]はERDに関連してデータの標準化や正規化に詳しい。DFDについては、この他ソフトウェア工学、システム分析、システム開発、ソフトウェア設計開発に関する書物が、またERDについては、データベース関係の書物が参考になる。

■参考URL

■評価方法

日常課題点（練習問題、ミニテスト、レポートなど）と期末試験の2つで評価する。成績は課題50%、期末試験50%とし、合格点60%(予定)で評価する。出欠点は考慮しない。過程よりも結果重視型である。

■評価基準

課題は次の点を中心に評価する。
(1) 講義内容を理解しているか。
期末試験は次の点を中心に評価する。
(1) 分析対象のシステムを適切に理解できているか。
(2) システム分析の各段階がどの様な役割を持っているかを適切に理解しているか。
(3) 技法を適切に理解し、利用できるか。
相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

出欠は取らないが少なくとも8割程度は出席していないと講義内容を理解することは難しい。就職活動などで欠席の場合は、欠席した講義内容に関してテキスト・配布資料の復習、質問や講義メモを入手する、講師に質問する等で理解しておく必要がある。

科目名　自然科学概論I（Introduction to Natural Science I）

サブタイトル　地球と私たち

担当教員　山本　博聖

■講義目的

地球は生まれて46億年経過している。地球の理解を通して，私たちの地球について様々な面からの考える力を養い、これまでの科学が果たしてきた役割を学ぶとともにこれからの地球環境についての個々が取り組む基本的な姿勢を身につけることを目的とする。具体的に、太陽紫外線の働き、成層圏オゾンの役割とその将来，オゾンホールやオーロラ、また地球上での生命の歩みについても取り上げる。この講義を通して、一般によく用いられている「地球に優しい」の表現が持つ危うさにも気づいて欲しい。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

地球が生まれてからの歴史をたどると私たち人類が現在住んでいるこの地球環境がいかに人類にとって優しい環境であるかに気づく。この講義を学ぶことで、私たちはよく語られる「地球に優しい」の表現が何を意味するのか、地球に住み始めて数十万年にしかならない人類と、誕生から46億年経過し多くの極限状況を生き抜いてきた地球の関係から、自分の言葉でその表現が適切かどうかを語る。。

■講義形態

講義のみ：

■講義の概要

<第1講> 宇宙の中の地球
概要： 本講義全体の流れを説明し、宇宙の誕生から地球の今までを概説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[宇宙、地球]
詳細：私たちの住む地球についてじっくりと考えてみる。私たちの地球が含まれている銀河系は宇宙に数多くある銀河系のひとつである。そこにある太陽系、そして太陽系惑星の一つの地球に住む私たちと地球の関係を捉えるためにこれからの講義を活用する。
<第2講> 太陽系誕生と太陽
概要：超新星爆発の残骸から生まれた太陽系とこの地球。母なる星の太陽の輝きの度合いによっては私たちは生まれてくることはなかった可能性もある。
事前学習しておくべき用語やポイント[星の最後と誕生]
詳細：137億年前に誕生したこの宇宙において星はその輝く程度に応じて一生の長さが決まる。多くの星たちはすでにその寿命をまっとうし、星のサイズによっては最終段階で超新星爆発とよばれる最後を迎える。超新星爆発の残骸から太陽系は生まれた。中心に輝く太陽、その周りをとりまく惑星系において太陽からの距離が丁度よい地球の環境を概説する。また月の形成についても学ぶ。
<第3講>太陽紫外線1
概要：太陽は私たちに無限大とも思えるエネルギーを供給している。太陽から地球に届く光のうち私たちに大きな害を及ぼし得るのは太陽からの紫外線である。2回にわたって紫外線について考える。また、その後に太陽紫外線と大気オゾンとの関係についても学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[太陽紫外線]
詳細：私たちは太陽がなければ生きて行くことはできない。太陽は表面温度6000度とても高い温度で光っている。太陽が放出している光で最もエネルギーが大きいのは眼で見える可視光線であり、同時に紫外線と赤外線なども出している。人類は地球に届く太陽紫外線とうまくつきあって生きてきている。紫外線のうち極めて生物に危険なUVCは大気中に生まれたオゾンによってブロックされ、私たちの住む地表には届かない。生物が陸に上がってきたのはオゾン層が形成された後であり、それは大気中に酸素が生まれた結果である。
身の回りに降り注ぐ太陽紫外線の強度はいつ強いのか、一日でどの時間帯に注意しなければいけないのか、季節は、など常識と思っていることで間違いは案外多い。実際の観測結果をもとに説明する。
<第4講>太陽紫外線2
概要：前回と同じ
事前学習しておくべき用語やポイント[太陽紫外線とのつきあい]
詳細：私たちはこれまで無意識に上手に太陽からの有害な紫外線と付き合ってきている。近年人々の生活はこれまでの暮らしていた土地を離れて広く地球全体へと広がっている。その結果これまで意識して来なかった太陽紫外線の害を受けることになった。私たちが気をつけるべきことは何か。注意すれば防げることが数多くあることを学ぶ。
<第5講>大気オゾン
概要：地球大気には極めて微量であるがオゾンが含まれている。このオゾンが大気に存在することで生物は地球上で生存可能となる。
学習しておくべき用語やポイント[大気オゾンと酸素]
詳細：太陽系惑星の中で地球だけに酸素が豊富に存在している。酸素は常に呼吸などで消費されているがほぼ同量が生まれている。酸素の存在によって大気にはオゾンが生まれた。太陽紫外線とオゾンの関係を理解し、成層圏オゾンの破壊がもたらす生物への危険性について学ぶ。
<第6講>大気中の様々な現象
概要：青空や雨上がりに見える虹、気がつくと不思議な木漏れ日の形など身近で起こる様々な現象の多くは太陽からの光が生み出している。
事前学習しておくべき用語やポイント[可視光線]
詳細：空を見上げると青い。宇宙から地球を見ると青く輝いている。これらはすべて太陽からの光によってうみだされている現象である。赤く見えるりんごや絵の具の色など身の回りで色を感じることができるのはどうしてか。これらの関連性をもとに身近で起きる様々な現象を太陽と地球の視点から理解する。

<第7講>オーロラ現象
概要： 地球で最も美しい自然現象の一つにオーロラがある。その命名からの歴史を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[オーロラ]
詳細：オーロラはなぜ光るのか。オーロラはどの高さで光っているのか。従来からのオーロラ研究の歩みに沿って学び、現在最も妥当と考えられているオーロラ発光機構を紹介する。オーロラが見える場所はどのように決まっているのか、わが国でも見えるのか、空からおりてくるカーテンや北から迫ってくるオーロラの仕組み、また見える季節はいつかなど次回とあわせて幅広く学ぶ。
<第8講>授業内テスト
概要：前半で学習したことについて復習をかねてテストを実施する。
事前学習しておくべき用語やポイント[前半で学んだこと]
詳細：穴埋め的な問題ではなく、これまで学んだことについて問う。A4版用紙に多くても表と裏に納まる範囲で与えられた課題について自分の考えをこれまで学んだことを踏まえて展開する。
<第9講>生命の誕生
概要：地球上の生命は海から誕生したとされている。その根拠を紹介し、その後の地球環境に大きな変化をもたらす光合成、そして真核生物の出現を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント [シアノバクテリア、真核生物]
詳細：微惑星衝突から生まれた地球はしばらくすると衝突頻度が低下するとともに冷えて原子大気中の水蒸気が雨となって地表に降り注ぎ海が形成される。この海が生命の発生した場所だと考えられている。その後出現したシアノバクテリアが地球環境を大きく変える酸素を生み出す。大気環境の変化と原核生物出現から真核生物への流れについて学ぶ。
<第10講>プレートテクトニクス
概要：地球の大陸はゆっくりとではあるが移動している。ウェゲナーの大陸移動の考えは当初はまったく評価されなかった。彼が提示した多くの証拠は無視されたが、彼の死後になってその考えをもとにしたプレートテクトニクス理論が成立した。
事前学習しておくべき用語やポイント[大陸移動説、ウェゲナー]
詳細：今からおよそ3億年前にはパンゲアと呼ばれる超大陸が存在した。その後パンゲアはゆっくりと分裂をはじめ、赤道地域にあった南極大陸も3000万年前に現在の極地に移動し、氷の大陸となった。現在、地球は表面を10数枚の固い岩盤（プレートと呼ぶ）で覆い尽くされている。プレートはお互いにゆっくりと動くとともに、地球奥深くのマントルから新たな岩盤がつけ加わっている。プレートテクニクス理論を学び、改めて地球の持つ偉大さを知る。
<第11講>スノーボールアース
概要： 地球は氷河期を幾度も経験してきている。もっとも過酷な状況がスノーボールアースと呼ばれる全地球凍結である。
事前学習しておくべき用語やポイント[スノーボールアース]
詳細：地球全土が氷河で覆われていた時代があった。なぜそれが起こったのか、どのように地球は回復したのか。またこのスーボールアースによって地球に何がもたらされたのか。様々な証拠の蓄積から地球がすべて氷で覆われていた時代があったことが明らかになったのはきわめて最近のことである。
<第12講>カンブリア爆発
概要：アメーバの世界でしかなかったこの地球上に突然多種多様な生物が誕生した。地球史からみるときわめて短時間に起こったこの現象を「カンブリア大爆発」と呼ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[カンブリア紀]
詳細： スノーボールアースからの脱却の直後にカンブリア紀は位置する。スノーボールアースが地球上に複雑な生命体をもたらしたことはほぼ間違いがない。しかし、カンブリア紀のわずかな期間に多種多様な生命体が生まれたのか、その少し前からゆっくりと進んでいたのか、など論争が続いている。
<第13講>恐竜絶滅の隕石衝突説
概要：1億5千万年以上にも渡って地球を支配していた歴史上もっとも強大な恐竜は突然この地球上から消え去ることになる。その理由と証拠をもとに考察する。

事前学習しておくべき用語やポイント[恐竜、隕石衝突]
詳細：三畳紀から1億数千万年以上にもわたり恐竜は地球を支配していた。恐竜がこの地球上に存在していたことの発見や恐竜化石の発掘の戦いなどを紹介し、突然絶滅したその原因を探る。
<第14講>人類の出現
概要：我々ホモ・サピエンスは地球上に存在する唯一の人類である。人類が地球に誕生してほぼ700万年、しかし人類としての文明はわずか1万年である。その人類が地球と共存できるのか、その発生から探る。
事前に学習しておくべき用語やポイント [ホモ・サピエンス]
詳細：恐竜全盛時代をひっそりと生き抜いた人類の祖先はその後多くの進化を経てホモ・サピエンスにたどり着いた。ホモ・サピエンスの登場は15万年前で、一時期ホモ・ネアンデルターレンシスと共存していた時期もあったが、なぜホモ・サピエンスだけになったのか確たる証拠はまだ見つかっていない。地球と我々との関係をじっくりと考えたい。
<第15講>授業内テスト2
概要： 後半で学んだことを中心に問う。
事前学習しておくべき用語やポイント[後半の復習]
詳細：問いかけの範囲は後半に学んだ個所で、問いかけや解答の形式は第1回と同じ。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

授業内で提示する

■参考URL

■評価方法

毎回の授業後に提出するコメントカードで授業参加度を見る（50%），小テスト2回で理解度を見る（50%）

■評価基準

絶対基準
A+ 授業内容について十分理解し、それらを関連付けて自分の考えをもとに的確にその内容を表現し伝えることができる。
A A+までは到達しないが個々のテーマについて的確に内容を伝えることができる。
B 内容把握は的確だが、その内容を十分伝えるまでには到達していない。
C 学んだ内容について十分には理解していない。
F 著しく理解が不十分である。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業環境を乱すような行動には厳しく対処する。
私語や携帯使用などは厳禁とし、即刻退室を言い渡すこともある。
15分を超えての遅刻は入室を許可しない。

科目名　自然科学概論II（Introduction to Natural Science II）

サブタイトル　科学リテラシーのすすめ

担当教員　松山　伸一

■講義目的

自然科学の一分野である生命科学の基礎を学び、日常生活や社会との密接な関わりを通して、「科学の眼」と「持続的な好奇心」を養う。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

日常生活の中で生命科学がいかに多くの事柄と結びついているのかを知り、学んだ知識が机上にとどまることなく、実生活の中で生かせるようになる。また、世間にあふれる玉石混淆の情報の中から有益なものを選択できる基礎力を身につけ、恒常的に科学リテラシーの向上をはかることができる。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：細胞
事前学習しておくべき用語やポイント[原核細胞、真核細胞、動物細胞、植物細胞、細胞小器官、核、ミトコンドリア、葉緑体、DNA、ATP、光合成]
詳細：細胞の構造と機能、およびウイルスについて学ぶ。細菌やウイルスによって引き起こされる食中毒、性感染症などの実態、症状、治療、予防についてお話しする。また、体脂肪を蓄える機能しかないと考えられていた脂肪細胞の新たな機能について紹介する。
<第2講>
概要：細胞分裂
事前学習しておくべき用語やポイント[体細胞分裂、減数分裂、細胞周期、染色体、紡錘体、微小管、動原体、対合、二価染色体、相同染色体、常染色体、性染色体、極体]
詳細：体細胞分裂、および生殖細胞（卵子と精子）の形成に必須の減数分裂について学ぶ。減数分裂の際に引き起こされる染色体不分離による先天異常症候群や「卵子の老化」、「無精子症」をはじめとした不妊などについて紹介する。
<第3講>
概要： 生殖と遺伝
事前学習しておくべき用語やポイント[ゲノム、卵子、精子、優性、劣性、メンデルの法則、伴性遺伝、複対立遺伝子]
詳細：受精のメカニズムを学び、両親の遺伝子をどのように受け継ぐのかを理解する。血液型の遺伝、疾病の遺伝などを紹介するとともに、生命倫理の観点から議論を呼んでいる出生前診断、再生医療などについてお話しする。
<第4講>
概要：人体を構成する物質①：タンパク質
事前学習しておくべき用語やポイント[生体高分子、重合体(ポリマー)、アミノ酸配列、高次構造、タンパク質の折りたたみ、酵素]
詳細：生体高分子としてのタンパク質の構造と機能を学ぶ。タンパク質を構成するアミノ酸、栄養素としての必須アミノ酸、紫外線とメラニン色素、コラーゲンの構造と機能、タンパク質の誤った折りたたみが引き起こす病気などについて紹介する。
<第5講>
概要：人体を構成する物質②：糖質
事前学習しておくべき用語やポイント[単糖、二糖、多糖、ブドウ糖（グルコース）、ショ糖、乳糖、麦芽糖、グリコーゲン、デンプン、肝臓、筋肉]
詳細：生体高分子としての糖質の構造と機能を学ぶ。冷やすと甘くなる果物、糖としてのビタミンC、糖の重合体であるヒアルロン酸やコンドロイチン、血液型を決める糖鎖などについてお話しする。
<第6講>
概要：人体を構成する物質③：脂質
事前学習しておくべき用語やポイント[脂肪酸、飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、必須脂肪酸、脂肪、リン脂質、コレステロール、生体膜]
詳細：生体高分子としての脂質の構造と機能を学ぶ。食べてはいけない油と食べなくてはいけない油、コレステロールと健康、性ホルモン、体臭としての脂質などについて紹介する。
<第7講>
概要： ビタミンとミネラル
事前学習しておくべき用語やポイント[水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、補酵素、ナトリウム、カリウム、カルシウム、鉄、亜鉛、電解質]
詳細：ビタミンとミネラルの役割について学ぶ。欠乏症と過剰症、減塩の功罪、微量元素と健康、貧血、金属アレルギー、放射性物質の人体への影響、水銀汚染などについてお話しする。
<第8講>
概要：物質代謝①：生活習慣病
事前学習しておくべき用語やポイント[恒常性（ホメオスタシス）、ホルモン、インスリン、血糖、心臓、血管、肝臓、腎臓、脂肪細胞]
詳細：糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの生活習慣病を物質代謝に基づいて科学する。生活習慣病の今と昔、生活習慣病における学会の役割、膨張し続ける国民医療費、健康食品とサプリメントなどについてお話しする。
<第9講>
概要：物質代謝②：ダイエットの科学
事前学習しておくべき用語やポイント[タンパク質、糖質、脂質、ATP、解糖系、糖新生、アンモニア、肥満ホルモン、脂肪細胞、肝臓、筋肉]
詳細：ダイエットを物質代謝の観点から科学する。絶食すると体内で何が起こるか、痩せすぎは肉体と精神にどのような影響を及ぼすのか、なぜダイエットするのか、安全で健康的に痩せることはできるのかなどについて、科学的にお話しする。
<第10講>
概要： 遺伝子
事前学習しておくべき用語やポイント[ゲノム、染色体、DNA、RNA、複製、転写、翻訳、ポリペプチド鎖、遺伝暗号、突然変異、常染色体、性染色体]
詳細：遺伝子とは何か、遺伝子に刻まれた遺伝情報はどのように発現するのかを学ぶ。お酒に強いか弱いかを決める遺伝子、飲酒と健康、ハゲの遺伝子、肥満の遺伝子、浮気の遺伝子、遺伝子検査の功罪などについて紹介する。
<第11講>
概要： がん
事前学習しておくべき用語やポイント[細胞、染色体、DNA、突然変異、交叉（乗換え）、細胞分裂、細胞周期、ブドウ糖、解糖系、血管]
詳細：日本人の死因の30%を占めるがんの基礎を学ぶ。発がん物質、がんと遺伝、がん治療、がん幹細胞、がんに関する迷信などについて紹介する。
<第12講>
概要： 神経
事前学習しておくべき用語やポイント[神経細胞（ニューロン）、伝導と伝達、ナトリウムとカリウム、イオンチャネル、神経伝達物質、シナプス]
詳細：神経細胞の構造と神経伝達の仕組みを学ぶ。神経毒、精神障害と向精神薬、麻薬・覚醒剤などの科学的なメカニズムについてお話しするとともに、自殺白書、精神保健福祉資料などについても紹介する。
<第13講>
概要： 筋肉
事前学習しておくべき用語やポイント[筋繊維、筋原繊維、カルシウム、筋小胞体、ATP、ブドウ糖、解糖系、酸素、タンパク質、脂質、神経]
詳細：筋肉の構造と機能について学ぶ。筋肉の成長と修復、運動能力と遺伝子、競走馬と遺伝子、日常生活における筋肉の重要性、筋肉ホルモン（マイオカイン）などについてお話しする。
<第14講>
概要： 血液と免疫
事前学習しておくべき用語やポイント[赤血球、白血球、血小板、血漿、リンパ節、抗原、抗体、自然免疫、獲得免疫、細胞性免疫、液性免疫]
詳細：血液成分の機能と免疫における役割について学ぶ。白血病と骨髄移植、救世主兄弟、アレルギーなどについて紹介する。
<第15講>
概要： 感覚器
事前学習しておくべき用語やポイント[細胞、筋肉、神経、細胞分裂、遺伝、遺伝子、タンパク質、脂質、生体膜、免疫]
詳細：目、耳、皮膚、舌などの感覚器について学ぶ。近視のメカニズム、レーシック手術、ヘッドホン難聴、乾燥肌と敏感肌、アトピー性皮膚炎とフィラグリン変異、子どもの野菜嫌いと遺伝子などについてお話しする。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

毎回の授業時にその単元の参考図書を紹介する。
高校「生物」の教科書が手元にない人は、教科書出版社が発行している生物資料集（数

研出版「視覚でとらえるフォトサイエンス　生物図録」鈴木孝仁監修　880円+税など）をお勧めする。

■参考URL

■評価方法

出席（25%）+毎回の課題（25%）+期末試験（50%）

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

なし

科目名　実践的事業経営特講（Practical Business Management）

サブタイトル

担当教員　村山　貞幸

■講義目的

日本のさまざまなビジネス業界は、業界固有の課題と日々戦いながら、あらゆる問題解決に挑んでいる。講義では、各業界からゲストをお招きし、その生々しい状況をご説明いただく。リアルな最前線事例を聴くことを通じて、さまざまな業界を具体的に理解することを目的とする。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成

■到達目標

（1）業界の現状、将来性を理解する。
（2）自分のキャリアと結びつけて、業界を理解する。

■講義形態

講義,
パネルディスカッション、
質疑応答：学外学習無

■講義の概要

毎回さまざまな業界の企業からゲストスピーカーを招き、業界の概要についてご説明いただく。業界の経済、技術、顧客、競争、流通などの環境は無論のこと、その業界で働くということはどういうことなのか、具体的なイメージがわくように、詳細をご紹介いただく。
サービス業、IT、金融、ヘルスケア、物流、製造業（部品メーカーなど）、不動産業など幅広い業界を視野に入れていく。また、多摩を含めた地域ビジネス、あるいはグローバルビジネスを展開している企業が含まれる予定。
詳しくは、第一回講義にて提示する予定。
※事前に学習しておくべき用語は、各業界の基本的な用語、市場成長率、市場シェア、競争ポジション、経営理念。

■教科書

講師の配布資料

■指定図書

講義の中で紹介する。

■参考文献

講義の中で紹介する。

■参考URL

■評価方法

試験　100%

■評価基準

試験評価基準
（1）業界が正しく理解されているか。
（2）自分の将来と結びつけて、業界が理解されているか。
相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

（1）外部講師を意識した行動をとること。マナーに反する学生は退室させることがある。
（2）授業中の私語、携帯電話、飲食等授業を妨げる行為は禁止する。
（3）遅刻は認めない。

科目名 社会経済政策（Social and Economic Policy）

サブタイトル

担当教員 椎木　哲太郎

■講義目的

「ポスト産業社会」を生きる市民の生活の質を高めていくためには、成熟した「持続可能な社会」を実現するための体系的な社会経済政策が不可欠である。経済社会を完全に制御できるような万能性を持ち合わせている訳ではないが、政策選択を誤った場合には災厄が待ち受けていることは歴史が教えてくれる。企業活動においても、自国のみならず各国政府の時代を先取りした政策展開を予想することが重要となっている。また、市民生活に直結する労働政策や教育政策は言うに及ばず、社会保障政策や環境政策、さらには文化政策までもが経済と産業のあり方を規定するのが現代である。そうした重層的認識に立ち、広い視野から社会経済問題解決の学としての活用方法を習得したい。

本講座は「グローバルビジネス」の系列に位置づけられている。日本よりも先に「産業化以後」の課題に直面することとなった欧米諸国の社会経済政策から学ぶべき点は多い。制度改革等の社会的イノベーションについて、豊富な知見を提供してくれる。また、日本に続いて高齢化や少子化の進むアジア諸国の取り組みに対しても、現状分析を踏まえた積極的提言が必要となろう。

そして、社会保障政策や国土・都市政策、農業政策等の動向は、その国の医療・福祉産業、住宅・建設産業、農業等のあり方を大きく左右することとなる。どこに成長の余地があるのか、参入機会が存在するのか。ビジネスを通じて社会的課題の解決を志す近年のトレンド、そして多摩大学の方向性とも合致した講義と言えよう。福祉・介護・医療関連の仕事を志望する諸君にとっても必ずや有益な講座となろう。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

経済成長政策と両立する社会保障政策を中心に幅広い社会経済政策を学ぶことによって、成熟した「持続可能な社会」を実現するための総合的な視点を身に付け、狭い利害に捉われることなく、地球市民、主権者たる日本国民として連帯し、高い志を持って積極的に行動・貢献することができるようになる。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>成熟社会と社会経済政策
概要：成熟社会の課題と、社会経済問題の解決を志向する「経世済民」の学としての社会経済政策の特質を明らかにする。「国際公共政策」についても論及する。
事前学習しておくべき用語やポイント[社会経済政策，国際公共政策，非物質的価値，sustainability，国際公共財，グローバルタックス，ソーシャル・キャピタル，Weak Ties，財政の三機能，政策レジーム]
詳細：社会経済政策とは何か。成熟社会の政策的課題とは何か。我々の直面する「持続可能性の危機」とは何か。成熟社会にあっては、なぜ「社会経済政策」・「国際公共政策」が必要なのか。「経済」と「社会」の関係、「先進国」と「途上国」の関係について考える。

<第2講>経済成長の意義と理論
概要：経済成長の意義と理論について考察を深める。
事前学習しておくべき用語やポイント[成長会計，全要素生産性，イノベーション，新古典派成長理論，資本の限界生産性，定常状態，内生的成長理論，人的資本，制度資本]
詳細：成熟社会にあって高度成長は資源環境問題の点から論外であるが、一定の経済成長はなぜ必要とされるのか。「成長否定(懐疑)論」の問題点を検討する。経済学の提起した経済成長理論は、経済成長のメカニズムについてどこまで解明できているのか。新古典派成長理論、内生的成長理論について検討する。

<第3講>経済成長政策
概要：経済成長を促進するための経済政策とその効果について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[研究開発，アイデアの非競合性，スピルオーバー，外部効果，産業集積]
詳細：経済成長率を経済政策によって上昇させることは可能か。経済成長を促進するための経済政策に関して、重要とみなされる諸要因を検討し、効果的な成長政策の政策手段を探る。

<第4講>産業政策・農業政策
概要：産業政策と経済成長の関係について考える。先進産業社会における農業政策について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[産業政策，ターゲティング政策，租税特別措置，R&D減税，政策金融，官民ファンド，国力，生産調整，農業補助金，食糧自給率，第二種兼業農家，戸別所得補償]
詳細：産業政策とは何か。日本やアジア諸国の高度経済成長に産業政策はどれほど寄与したのか。各国の産業政策の実態と効果を検討する。ターゲティング政策は成長促進的な産業政策か？農業は多面的機能を持つ。環境保全や食糧自給の視点からも重視されねばならないが、途上国の輸出産業である点も見逃せない。先進国に相応しい「産業」としての農業のあるべき姿とは？EUの農業政策の方向性は？日本農業改革の道筋は？

<第5講>貿易・通商政策
概要：経済成長と貿易の関係、貿易・通商政策について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[比較優位，要素価格均等化定理，直接投資，技術移転，関税，非関税障壁，幼稚産業保護論，戦略的貿易政策，WTO，FTA，貿易創出効果]
詳細：経済成長と貿易の関係について考える。国際公共財としての貿易ルールについて考える。成長促進的な貿易・通商政策とは？FTA競争はどのような意味を持つのか？自由貿易協定のあり方とは？自由貿易はあらゆる場合において望ましいのか。

<第6講>国際協力・開発援助政策
概要：地球社会が共存していくための国際協力、開発援助政策について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[輸入代替政策，輸出指向政策，ODA，直接借款，構造調整政策，ミレニアム開発目標，マイクロファイナンス，BPOビジネス，トービン税，国際連帯税，金融取引税]
詳細：国際協力・開発援助政策とは？途上国の貧困撲滅、衛生・医療制度の改善、環境保全等は国際公共財と見なすことができる。では、それらを供給するための財源調達のあり方は？これまでのODA政策はどのように評価できるか？アジア諸国とアフリカ諸国の成長戦略の違いは何だったのか。途上国の経済成長に効果的な経済政策とは？農業政策をどう位置づけるか。日本（・先進国）は国際協力において何をなすべきか。

<第7講> 金融政策とプルーデンス政策
概要：経済成長の基盤となる国際公共財としての金融システムの健全な維持について検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント[金融危機，通貨危機，プルーデンス政策，マクロプルーデンス政策，システミックリスク，自己資本比率規制，リスクアセット，バーゼルⅢ，預金保険制度，ペイオフ，金本位制，ブレトンウッズ体制，マンデルの実現不可能な三角形]
詳細：通常の金融政策、マネタリー政策では対応できない金融システム不安、金融危機にどう対処すべきか。事前的な政策、事後的な政策についてそれぞれ検討する。世界恐慌の原因は何か。なぜ金融危機と不況が深刻化したのか。世界恐慌からの政策論的教訓は何か。それはその後の経済政策に十分に活かされてきたか。アジア通貨危機やリーマンショックからの教訓は？金融規制のあり方を検討する。

<第8講>生活の質と社会経済政策
概要：経済成長による雇用や所得の向上に加え、環境やコミュニティのあり方も含めた「生活の質」の改善は重要な政策課題である。それを可能にするための社会経済政策のあり方を考察する。
事前学習しておくべき用語やポイント[QOL，How's Life indicators]
詳細：生活の質を決める要因にはどのようなものがあるのか。物的資本、自然資本、人的資本、ソーシャル・キャピタルはどのように生活の質を規定するのか？生活の質を測定するための指標作成は可能か？日本は、東京は、どのような水準にあると言えるか。改善するための社会経済政策は？

<第9講>労働政策
概要：持続可能な社会に相応しい労働政策を検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ワークシェアリング，ワークライフバランス，ワークフェア，積極的労働政策，ｆｌｅｘｉｃｕｒｉｔｙ，M字カーブ，GEM，クオータ制，協同労働，ワーカーズコープ，ディーセントワーク]
詳細：グローバル化の進展とともに、先進国の労働市場はどう変化しているのか？それぞれのライフステージにおいて多様な働き方を選択できる労働市場のあり方とは？オランダモデルとは？協同労働の可能性について考える。少子化や若年失業率の上昇が進行する中で、依然として男性正社員中心の日本の労働政策について検討する。

<第10講>国土・都市政策
概要：良好な生活環境の創出につながる空間利用のあり方を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[国土計画，都市計画，土地利用規制，用途規制，容積率，土地税制，借地借家法，グローバル・シティ，コンパクト・シティ，サステイナブル・シティ，景観法，ピークロード・プライシング]
詳細：大きな外部効果を持つ空間の利用には、政策的対応（規制や自然環境・景観の保全と創造）が不可欠である。中央と地方、都市と農村、都心と郊外、それらの関係は？経済成長・生活の質（快適な住環境）と不可分な都市政策・住宅政策のあり方を考える。人々

を引き付ける都市の条件とは？大都市都心部の開発と規制のあり方について検討する。
<第11講>社会保障政策（1）
概要：社会保障の役割、社会保障と経済成長の関係について考える。「福祉レジーム論」に依拠して欧米諸国やアジアの社会保障政策を検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ジニ係数，逆選択，社会支出，自由主義（アングロサクソン）レジーム，保守主義（大陸ヨーロッパ）レジーム，社会民主主義（スカンジナビア）レジーム]
詳細：社会保障の役割とは何か。単なる弱者救済ではなく、広くリスクをシェアする社会的共同事業であることを理解する。社会保障と経済成長との関係を考察する。エスピン=アンデルセンの「福祉レジーム論」に依拠して各国の社会保障の制度設計思想を概観する。「人生前半の社会保障」について。
<第12講>社会保障政策（2）
概要：年金制度・医療政策・生活保護制度を中心に社会保障と経済の関係を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[積立方式，賦課方式，負の所得税，給付付き税額控除，ワーキングプア，ベーシック・インカム，国民皆保険，診療報酬，出来高払い方式，人頭払い方式，モラルハザード，フリーアクセス，ゲートキーパー制，プライマリーケア]
詳細：「税と社会保障の一体改革」の必要性に関して年金制度を中心に検討する。持続可能な年金制度とは？医療制度（・年金制度）の国際比較を試みる。出来高払いと人頭払いの違いは？生活保護（公的扶助）制度について考える。フリードマンの提唱した「負の所得税」とは？医師不足問題や老人医療費問題を検討する。日本の医療産業の成長を阻害する要因は何か？
<第13講>社会保障政策（3）
概要：介護や障害者福祉等、福祉政策について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[ノーマライゼーション，社会的包摂，社会的企業]
詳細：社会福祉政策、地域福祉のあり方を考える。介護と障害者福祉のあり方を考える。福祉・医療ビジネスの直面する課題と可能性について考察する。社会的包摂を進めるためのEUの社会的企業育成政策を検討する。
<第14講>少子化対策・教育文化政策
概要：少子化対策、教育文化政策について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[合計特殊出生率，女性労働力率，（ワークライフバランス，）デンマークの出産休業均等法，育児手当，公的教育支出]
詳細：少子化対策、人口政策はなぜ必要か。どのような政策が効果的か。成熟社会の教育政策とは？潜在能力を開花させ、キャリア形成につながる教育とは？「文化政策」の重要性について。
<第15講>社会経済政策の有効性
概要：成熟社会における社会経済政策の有効性について総括する。
事前学習しておくべき用語やポイント[経済成長政策と社会保障政策]
詳細：これまでの講義を踏まえ、途上国との関係を視野に入れた上で、成熟社会におけるトータルな社会経済政策・国際公共政策の体系性、整合性を検討する。日本社会に必要とされる社会経済政策を提言する。
＊「持続可能性」の問題と地球環境政策は不可分である。幸い本学にはそうした問題を扱う講座が存在するので、関心のある諸君には聴講を進めたい。時間が許されれば、本講座でも是非検討してみたい。
履修者少数の場合は、授業時間内試験を行う。レポートに替える場合もある。

■教科書

使用しない。

■指定図書

水島治郎（2012）『反転する福祉国家　オランダモデルの光と影』岩波書店

■参考文献

（「日本経済論」も参照のこと）
[1]インゲ・カール／イザベル・グルンベルグ／マーク・A・スターン編[FASID国際開発研究センター訳](1999)『地球公共財　グローバル時代の新しい課題』日本経済新聞社
[2]C.P.キンドルバーガー[吉野俊彦・八木甫訳](2004)『熱狂、恐慌、崩壊　金融恐慌の歴史』日本経済新聞社[原著第4版：2000]
[3]秋元英一(2009)『世界大恐慌』講談社学術文庫[原著:1999]
[4]林敏彦(1988)『大恐慌のアメリカ』岩波新書
[5]鎮目雅人(2009)『世界恐慌と経済政策』日本経済新聞出版社
[6]若田部昌澄(2009)『危機の経済政策 なぜ起きたのか 何を学ぶのか』日本評論社
[7]B・スノードン+H・R・ヴェイン[岡地勝二訳](2001)『マクロ経済学はどこまで進んだか』東洋経済新報社[原著:1999]
[8]ミルトン・フリードマン+アンナ・シュウォーツ[久保恵美子訳](2009)『大収縮1929−1933「米国金融史」第7章』日経BP社
[9]ピーター・テミン[猪木武徳他訳](1994)『大恐慌の教訓』東洋経済新報社
[10]竹森俊平(2002)『経済論戦は甦る』東洋経済新報社
[11]竹森俊平(2006)『世界デフレは三度来る』(上・下)講談社
[12]竹森俊平(2007)『1997年--世界を変えた金融危機』朝日新書
[13]竹森俊平(2008)『資本主義は嫌いですか：それでもマネーは世界を動かす』日本経済新聞出版社
[14]竹森俊平(2010)『中央銀行は闘う:資本主義を救えるか』日本経済新聞出版社
[15]翁百合(2010)『金融危機とブルーデンス政策:金融システム・企業の再生に向けて』日本経済新聞出版社
[16]岩田規久男編(2004)『昭和恐慌の研究』東洋経済新報社
[17]高橋亀吉・森垣淑(1993)『昭和金融恐慌史』講談社学術文庫
[18]星岳雄+A.カシャップ[鯉渕賢訳](2006)『日本金融システム進化論』日本経済新聞社
[19]安達誠司(2006)『脱デフレの歴史分析　「政策レジーム」転換でたどる近代日本』藤原書店
[20]田中隆之(2009)『金融危機にどう立ち向かうか:「失われた15年」の教訓』ちくま新書
[21]黒田東彦(2005)『財政金融政策の成功と失敗』日本評論社
[22]世界銀行[白鳥正喜監訳／海外経済協力基金開発問題研究会訳]（1994）『東アジアの奇跡　経済成長と政府の役割』東洋経済新報社
[23]ケント・E・カルダー[谷口智彦訳](1994)『戦略的資本主義　日本型経済システムの本質』日本経済新聞社
[24]三輪芳郎+J・マーク・ラムザイヤー(2002)『産業政策論の誤解』東洋経済新報社
[25]戸堂康之（2008）『技術伝播と経済成長　グローバル化時代の途上国経済分析』勁草書房
[26]ミレヤ・ソリース+バーバラ・スターリングス+片田さおり編(2010)『アジア太平洋のFTA競争 Free Trade Agreement』勁草書房
[27]本間正義(2010)『現代日本農業の政策過程』慶應義塾大学出版会
[28]齋藤修(2008)『比較経済発展論 歴史的アプローチ』岩波書店
[29]黒崎卓・山形辰史(2003)『開発経済学 貧困削減へのアプローチ』日本評論社
[30]浅沼信爾・小浜裕久(2007)『近代経済成長を求めて 開発経済学への招待』勁草書房
[31]白井早由里（2005）『マクロ開発経済学　対外援助の新潮流』有斐閣
[32]大塚啓二郎・櫻井武司(2007)『貧困と経済発展』東洋経済新報社
[33]平野克己(2009)『アフリカ問題 開発と援助の世界史』日本評論社
[34]八代尚宏(2009)『労働市場改革の経済学』東洋経済新報社
[35]脇坂明(2011)『労働経済学入門　新しい働き方の実現を目指して』日本評論社
[36]大沢真知子(2006)『ワークライフバランス社会へ：個人が主役の働き方』岩波書店
[37]山口一男・樋口美雄(2008)『論争日本のワーク・ライフ・バランス』日本経済新聞出版社
[38]山口一男(2009)『ワークライフバランス:実証と政策提言』日本経済新聞出版社
[39]イエスタ・エスピン=アンデルセン[大沢真理監訳]（2011）『平等と効率の福祉革命　新しい女性の役割』岩波書店
[40]G.エスピン=アンデルセン[岡沢憲芙・宮本太郎監訳]（2001）『福祉資本主義の三つの世界　比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房
[41]清家篤・山田篤裕(2004)『高齢者就業の経済学』日本経済新聞社
[42]小塩隆士(2005)『社会保障の経済学（第3版）』日本評論社
[43]鈴木亘(2009)『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
[44]橘木俊詔(2005)『消費税15%による年金改革』東洋経済新報社
[45]正村公宏(2000)『福祉国家から福祉社会へ』筑摩書房
[46]上村敏之(2009)『公的年金と財源の経済学』日本経済新聞出版社
[47]鈴木亘・八代尚宏編（2011）『成長産業としての医療と介護　少子高齢化と財源難にどう取り組むか』日本経済新聞出版社
[48]大泉啓一郎（2007）『老いてゆくアジア　繁栄の構図が変わるとき』中公新書
[49]加藤久和（2011）『世代間格差』ちくま新書
[50]高橋孝明（2012）『都市経済学』有斐閣ブックス
[51]前田章(2010)『ゼミナール環境経済学入門』日本経済新聞出版社
[52]植田和弘・岡敏弘・新澤秀則(1997)『環境政策の経済学　理論と現実』日本評論社
[53]細田衛士（2008）『資源循環型社会　制度設計と政策展望』慶應義塾大学出版会
[54]天野明弘(2009)『排出取引』中公新書
[55]八代尚宏（2013）『規制改革で何が変わるのか』ちくま新書
[56]諸富徹（2013）『私たちはなぜ税金を納めるのか 租税の経済思想史』新潮選書

■参考URL

■評価方法

評価は、期末試験の結果(70%)、レポート・小テスト・出席(30%)により行う.

■評価基準

試験範囲が十分学習され、理解できているか。答案に学習の形跡が十分認められるか。

私が講義の中で力点を置いて説明した内容が十分理解できているか。グローバルな視点から社会経済政策をめぐる論点を理解し、それらに対する自らの考え方を体系的に論じることができたか。データに基づいて論を進める習慣が身に付いたか。
相対評価

■事前履修科目等

2011年度入学生は「産業社会論入門（経済学入門）」、2008年度以降2010年度以前入学生は「経済学基礎」

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修者少数の場合には、試験をレポートに替える可能性がある。
本講義は連続性を重視した積み重ね型の講義であり、最初に重要な点を概説する。これらの理解なくしてその後の学習は困難である。したがって、第3回目までに全く出席しなかった者は履修を許可しない。
本講座は2010年度までの「経済学特講Ⅲ」の内容と同一である。したがって、「経済学特講Ⅲ」の単位を取得済みの諸君は本講座の単位を取得することはできない。
2008年度以降2011年度以前の入学生は「産業社会論入門（経済学入門）」、「経済学基礎」の単位取得者に限り履修することができる。
レポート作成にあたっては、MS Officeを使いこなすことを目標とする。

科目名　社会心理(Social Psychology)

サブタイトル

担当教員　近藤　隆雄

■講義目的

人間の社会関係を対象とし、その関係における個人の欲求、認知、感情、価値などの心理システムを分析し理解する。取り上げる社会関係は、個人を中心とする対人関係、集団、組織、社会などである。

具体的事例を挙げて説明し、学生が社会心理学の基礎概念を理解し、それを知って実際の社会関係を分析できるようになることを目的とする。

■講義分類

顧客理解
社会人力育成

■到達目標

①人間関係において、相手の気持ちを理解できるようになること。
②人間関係において、その状況に適切な態度を取ることができるようになること。

■講義形態

講義のみ：学外学習なし

■講義の概要

<第1講> 社会心理学はどんな学問か（1）
概要： 自分にとって人間関係はどんな意味をもっているかを考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[価値、行動　]
詳細：自分の判断を左右するものは何か、それは社会で成長する間に身につけた価値観である。
<第2講> 社会心理学はどんな学問か（2）
概要： 社会心理学の他学問との関係や位置、特徴
事前学習しておくべき用語やポイント[科学、社会科学、行動科学　]
詳細：学問体系の中で社会心理学はどのように位置づけられるか。
<第3講>社会化:ヒトはどうやって人間になるか。
概要： 人間は自然に放置されては人間にならない。
事前学習しておくべき用語やポイント[野生児、社会化　]
詳細：何が人間を人間たらしめているか、の考察。社会の中で人が成長することによって、社会で適応的な行動が取れる人間となる。
<第4講>社会化のメカニズム
概要： 社会化のメカニズムにはどんなものがあるか。
事前学習しておくべき用語やポイント[条件付け理論、ジェンダー　]
詳細：人間が社会に適応的な行動を取れるようになるメカニズムの解明。複数のモデルを説明する。
<第5講>他者についての理解と判断
概要：他人を理解するうえでの認知枠組みの理解
事前学習しておくべき用語やポイント[認知的均衡論、帰属理論　]
詳細：他者を理解するうえで、どのような要因が影響するのか、その枠組みの理解。
<第6講>欲求、性格、態度
概要： 人間行動の原因となり、その行動の特徴を形作るのは何か。
事前学習しておくべき用語やポイント[欲求段階説、性格の分類　]
詳細：人間行動の底にあり、行動を引き起こすものは何か。
その特徴や分類。
<第7講>動機付け理論
概要： 行動を動機付けるメカニズムの理解
事前学習しておくべき用語やポイント[期待価値理論、二要因理論　]
詳細：人が一定の行動に動機付けられる仕組みを理解し、それを現実に応用し、活用できる段階を目指す。
<第8講>リーダーシップ論
概要： リーダーシップとは何で、どんなパターンがあるのか。
事前学習しておくべき用語やポイント[状況適応理論、民主的リーダーシップ　]
詳細：リーダーシップを発揮するにはどんな条件が必要なのか。それは状況の違いでどんな影響を受けるのか。
<第9講>)コミュニケーション
概要： 人が他人とコミュニケーションを取るとはどんなことか。
事前学習しておくべき用語やポイント[チャネル、メッセイジ、ボディランゲージ　]
詳細：人はさまざまな方法で他人とコミュニケーションを取るが、それはしばしば意図とは異なる受け取り方をされる。
<第10講>マス・コミュニケーション
概要： マスコミの影響力の内容。その真実と影響する社会的要因。
事前学習しておくべき用語やポイント[信頼性、世論　]
詳細：マスコミはその報道によって世論を形成する役割を持っているが、さまざまの要因が真実の報道を歪める作用を持っている。
<第11講>態度の変容
概要：態度とは何で、態度を変えるためにはどんな方法があるか。
事前学習しておくべき用語やポイント[認知不協和理論　]
詳細：態度は人間の認知、感情、行動が複合したものだが、それはさまざまの条件で左右され、変化していく。
<第12講>対人魅力
概要： 人を好きにさせる要素とその条件とは何か。
事前学習しておくべき用語やポイント[好意の返報性、錯誤帰属説　]
詳細：人が他人を好きになるにはさまざまな条件が作用し、その条件の働きを気づかない人が多い。
<第13講> 援助行動
概要： 他人を自発的に援助する行動はどういうメカニズムによって起こるか。
事前学習しておくべき用語やポイント[援助の規範、他者存在の影響　]
詳細：援助行動はさまざまの条件によって、促進されたり阻害されたりする。それは本人の親切心や性格とは無関係に起こる。
<第14講>攻撃行動
概要： 人が他人を攻撃するとはどんなことで、どんな状況で起こるか。
事前学習しておくべき用語やポイント[欲求不満、攻撃の環境要因　]
詳細：他人を攻撃する場合、どんな理由が存在するか。それは本人の性格とは無関係に発生する。
<第15講>集団
概要： 集団はその成員にどんな影響を与え、どんな行動を取らせるか。
事前学習しておくべき用語やポイント[分類、フォーマル/インフォーマル、凝集性　]
詳細：集団はそのメンバーにさまざまな影響を与え、驚くような行動を取らせる場合がある。集団の影響力とは何で、それはなぜ力を発揮するのか。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

我妻洋『社会心理学入門(上) &(下) 』講談社学術文庫

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

レポート30%、出席20%、期末テスト50%

■評価基準

絶対評価
A+ ：社会心理の概念を正しく理解していて応用することができる。
A ：社会心理の概念を正しく理解している。
B ：社会心理の概念を授業で説明した半分程度は理解している。
C ：社会心理の概念を部分的にしか理解していない。
F ：社会心理の概念をほとんど理解していない。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 社会調査士実習Ⅰ(practical trainning for social Researcher Ⅰ)

サブタイトル

担当教員 酒井　麻衣子

■講義目的

社会調査を適切に用いるためには、問題の設定の仕方、調査設計、調査方法、分析方法、そして結果の解釈などの様々な専門知識を学習する必要がある。ただし、これらの知識を覚えたとしても、必ずしも効果的な調査が行えるとは限らない。これは、社会調査が現実の社会の問題を取り扱うものであり、基本を踏まえつつ柔軟に応用する力が必要となるためである。社会調査を学ぶ上で欠かすことのできない、実際にそれらの知識を関連させ、実際に調査しまとめるという調査に関する総合力を身につけることを目的とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

社会調査に関連する知識を総合的に活用し、実際に社会調査の一連の流れを実施できるようになる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習有

■講義の概要

本講義は、調査設計から報告書の作成・発表までをグループ演習という形で学習する。
以下を予定している。
・グループワーク
・SRC（Students Reserch Conference）でのプレゼンテーション
※事前に学習しておきべき用語：母集団と標本、量的調査・質的調査、データ分析（基礎統計量、検定、多変量解析）に関する基礎的な用語。

■教科書

適宜資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書としておくので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

・飽戸 弘（1987）『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
・ティム・メイ（著),中野正大（訳）（2005)『社会調査の考え方―論点と方法』世界思想社
・谷岡一郎（2000）『「社会調査」のウソ―リサーチ・リテラシーのすすめ』文藝春秋
・石川淳志・佐藤健二・山田一成　（1998）『見えないものを見る力』　八千代出版
・苅谷剛彦（2002）『知的複眼思考法』講談社

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

■評価方法

実習での取り組みと発表、および個人レポートにより総合的に判断する。

■評価基準

相対評価
(1)問題意識を調査可能な形に具体化し、適切な調査設計ができたか
(2)調査設計に従い、適切な実査が行えたか
(3)実査の結果を適切に分析し、解釈することができたか
(4)グループでの取り組みに積極的に参加し、他のメンバーと適切な協力体制を築くことができたか
これら各点から、社会調査を実行する上で必要となるスキルが身についたかどうかを評価する。

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・本講義を履修する場合は、ⅠおよびⅡを両方履修すること(片方のみの履修はできない)
・社会調査士認定科目(G)に該当するため、資格を取得したい場合には、必ず履修すること。
・実習を効果的に行うため、他の社会調査士資格認定科目を修得し、ある程度の事前知識があることが望ましい。
注1)選抜試験について
　本科目は、実習科目のため、履修上限人数を20名とする。そのため、履修に際しては、選抜試験を実施し、その成績によって受講者を選抜する。選抜方法などについては、随時発表するので、掲示板などを確認すること。
注2)社会調査士については、一般社団法人 社会調査協会{http://jasr.or.jp/}を参照のこと。

科目名　社会調査士実習Ⅱ(practical trainning for social Researcher Ⅱ)

サブタイトル

担当教員　酒井　麻衣子

■講義目的

社会調査を適切に用いるためには、問題の設定の仕方、調査設計、調査方法、分析方法、そして結果の解釈などの様々な専門知識を学習する必要がある。ただし、これらの知識を覚えたとしても、必ずしも効果的な調査が行えるとは限らない。これは、社会調査が現実の社会の問題を取り扱うものであり、基本を踏まえつつ柔軟に応用する力が必要となるためである。社会調査を学ぶ上で欠かすことのできない、実際にそれらの知識を関連させ、実際に調査しまとめるという調査に関する総合力を身につけることを目的とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人育成
ビジネスICT

■到達目標

社会調査に関連する知識を総合的に活用し、実際に社会調査の一連の流れを実施できるようになる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習有

■講義の概要

本講義は、調査設計から報告書の作成・発表までをグループ演習という形で学習する。
以下を予定している。
・グループワーク
・SRC（Students Reserch Conference）でのプレゼンテーション
※事前に学習しておきべき用語：母集団と標本、量的調査・質的調査、データ分析（基礎統計量、検定、多変量解析）に関する基礎的な用語。

■教科書

適宜資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書としておくので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

・飽戸 弘（1987）『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
・ティム・メイ（著),中野正大（訳）(2005)『社会調査の考え方―論点と方法』世界思想社
・谷岡一郎（2000）『「社会調査」のウソ―リサーチ・リテラシーのすすめ』文藝春秋
・石川淳志・佐藤健二・山田一成　(1998)『見えないものを見る力』　八千代出版
・苅谷剛彦（2002）『知的複眼思考法』講談社

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

■評価方法

実習での取り組みと発表、および個人レポートにより総合的に判断する。

■評価基準

相対評価
(1)問題意識を調査可能な形に具体化し、適切な調査設計ができたか
(2)調査設計に従い、適切な実査が行えたか
(3)実査の結果を適切に分析し、解釈することができたか
(4)グループでの取り組みに積極的に参加し、他のメンバーと適切な協力体制を築くことができたか
これら各点から、社会調査を実行する上で必要となるスキルが身についたかどうかを評価する。

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・本講義を履修する場合は、ⅠおよびⅡを両方履修すること(片方のみの履修はできない)
・社会調査士認定科目(G)に該当するため、資格を取得したい場合には、必ず履修すること。
・実習を効果的に行うため、他の社会調査士資格認定科目を修得し、ある程度の事前知識があることが望ましい。
注1)選抜試験について
　本科目は、実習科目のため、履修上限人数を20名とする。そのため、履修に際しては、選抜試験を実施し、その成績によって受講者を選抜する。選抜方法などについては、随時発表するので、掲示板などを確認すること。
注2)社会調査士については、一般社団法人 社会調査協会(http://jasr.or.jp/)を参照のこと。

科目名　消費心理（Consumer Psychology）

サブタイトル　消費者の心理と、その裏をかく企業の仕掛け

担当教員　浜田　正幸

■講義目的

ビジネスないしマネジメントは、顧客の創造である。中でもB to Cは、私たちにとっても身近なビジネスであり、ビジネスの流れからとらえれば、一番川下に相当する重要な位置づけにある。その川下のマーケットの対象はわれわれ消費者であるが、企業は、その消費者を深く研究している。そこで本講では、消費心理の把握(調査)の方法や分析方法を理解し、それらを活用した基本的かつ主要なファインディングズについて、理論やモデルを学ぶことを目的とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント

■到達目標

経営学における消費行動、消費心理、社会心理の基礎的な知識と研究方法を修得することが到達目標である。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：

■講義の概要

<第1講>
概要：消費心理の範囲
事前学習しておくべき用語やポイント[　社会心理学、マーケティング　]
詳細：本講でとりあげる「消費心理」の領域について解説する。すなわち第1講はガイダンスである。社会心理学やマーケティング、大衆心理などとの関係を解説するとともに、具体的なテーマについても概観しておく。
<第2講>
概要：ブランドの心理
事前学習しておくべき用語やポイント[　ブランド　]
詳細：人はなぜブランド品を買うのだろうか？　ブランド品購入の消費心理を、因子分析によって抽出した心理因子で解読する。
<第3講>
概要：流行の心理
事前学習しておくべき用語やポイント[　流行　]
詳細：なぜ流行が発生するのだろうか？　多くの消費者が流行に駆り立てられるのは、消費者間の相互作用が影響するからである。E. M. ロジャーズの普及理論や同調行動などから流行の心理を読み取っていく。
<第4講>
概要：価格の心理
事前学習しておくべき用語やポイント[　プロスペクト理論　]
詳細：10万円のバッグが高いか安いか？　これはもちろん人によって答えは異なる。フレーミング効果やプロスペクト理論を用いて、価格の心理を紐解いていく。
<第5講>
概要：化粧の心理①
事前学習しておくべき用語やポイント[　化粧、錯覚　]
詳細：人はなぜ化粧をするのか？　化粧を、ジェンダーの問題や、儀式など文化人類学の側面、社会心理や社会学の側面からから考察する。さらに化粧の生理心理的な効果や臨床的応用に至るまで、幅広く言及する。
<第6講>
概要：化粧の心理②
事前学習しておくべき用語やポイント[　同調行動、社会的役割行動　]
詳細：化粧によって何が変わるのか？　化粧する側の心理や生理的効果を確認する。さらに化粧を見る側の変化についても解説する。特に錯覚が大きな役割を持っていることと、心理的変化を理解する。
<第7講>
概要：消費心理のアプローチ方法
事前学習しておくべき用語やポイント[　統計学、実験、方法論　]
詳細：「心理」は見ることも触ることもできない。どのように「消費心理」を知ることができるのか？　消費心理へのアプローチ方法を解説する。
<第8講>
概要：統計から読む消費心理
事前学習しておくべき用語やポイント[　経済、景気、統計指標　]
詳細：消費者の心理は目に見えるものではないが、統計データからある程度読み取ることが可能である。統計データ（数字）から消費心理を解読していく。
<第9講>
概要：広告の消費心理①
事前学習しておくべき用語やポイント[　サブリミナル効果、プラセボ効果　]
詳細：私たちは広告にだまされている。だますといってもウソをついているわけではなく、企業は巧みな心理作戦で、消費者の心の中に入り込んでいるのである。その手法と人の深層心理について解説する。
<第10講>
概要：広告の消費心理②
事前学習しておくべき用語やポイント[サンクコスト、精緻化見込みモデル　]
詳細：人の認知機能とその落とし穴を説明し、その落とし穴にはまる広告手法や効果を解説する。
<第11講>
概要：広告の消費心理③
事前学習しておくべき用語やポイント[　認知的不協和理論、ピグマリオン効果、]
詳細：広告の技術（テクニック）は、広告主とそれを受け取る側のさまざまな交互作用を生み出している。社会心理や教育心理の理論や効果を、いかにして広告の技術としているか解説する。
<第12講>
概要：サービスと消費心理①
事前学習しておくべき用語やポイント[　サービス、エンターテインメント　]
詳細：サービスは物品の購入とは違い、無形である。クオリティの高いサービスとはどのようなものだろうか？　ディズニーリゾートの事例から、テーマパークの消費心理を読み解く。
<第13講>
概要：サービスと消費心理②
事前学習しておくべき用語やポイント[　サービス、エンターテインメント　]
詳細：ディズニーリゾートの事例をとりあげ、ハードとソフトの両面から、エンターテインメントと消費心理の関係を読み解く。
<第14講>
概要：小売業の消費心理
事前学習しておくべき用語やポイント[　商品陳列、動線　]
詳細：コンビニエンスストアは巧みに、人に買わせる仕掛けをしている。私たち消費者はその作戦にまんまと掛かってしまっている。その心理策とは何か？
<第15講>
概要：講義内容理解確認のための試験
事前学習しておくべき用語やポイント[全講義の内容確認]
詳細：試験問題は講義内（一ヶ月程度前）で発表する。資料の持ち込みは可とし、事前に調べておかないと回答できない論述問題が出題される予定である。

■教科書

特になし

■指定図書

資生堂ビューティーサイエンス研究所編『化粧心理学』フレグナンスジャーナル社
高木修監修『被服と化粧の社会心理学』北大路書房
北岡明佳『だまされる視覚 錯覚の楽しみ方』化学同人
竹村和久編『消費行動の社会心理学』北大路書房

■参考文献

講義内に適宜紹介する

■参考URL

■評価方法

講義の最終回に試験を実施し、その答案の量と質で評価する。
毎回ミニレポートを課す。その内容も評価に加味する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

真摯な態度で講義にのぞむこと。

科目名　情報概論(Information Industry and Sciences)

サブタイトル

担当教員　中村　有一

■講義目的

20世紀後半からコンピュータや通信の技術が急速に発達し、情報技術が社会や産業に大きなインパクトを与えるようになってきた。さらに21世紀になって、それまで予測されていたことがほぼ現実のものとなり、本格的な情報社会が到来した。これに伴って、これまでの工業社会とは異なる考えかたやモラルが必要とされる時代となった。また個人の生活の中にもパソコンなどの情報機器が普及し、それらの原理や役割を正しく把握し、うまく利用することが求められるようになってきた。この講義の目的は、現代の情報社会で必要とされる知識やモラルを身につけ、情報産業などの分野で活躍できる基礎をつくることである。また、本講義によって情報通信の分野に、より興味をもってもらい、将来のゼミ選択や就職にも参考になるようにしたい。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

情報技術の概略を理解すること。情報化にともなう社会変化、産業構造の変化など、大きな流れを把握した上で、さまざまな課題を自分の頭で考えられるような能力を身につける。また情報社会で生きていくうえで必要なモラルについても習得する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

第1部　情報技術
<第1講>　ハードウェア
概要：コンピュータのハードウェアについて、ミクロな仕組みとマクロな設計思想について学ぶ。
詳細：まず、全体を通して必要となる情報とは何かについて基本的な話をする。コンピュータで扱うデータの表現方法として、ビットや2進数などについて理解したうえで、論理回路などのコンピュータの基本的な動作原理を説明する。またコンピュータを構成する代表的な装置を取り上げ、その仕組みや機能などについて理解する。またコンピュータの全体的な構成について考察する。
予習用語：2進数、論理回路、半加算器、全加算器、階層構成
<第2講>　ハードウェア
第1講と同じ
<第3講>　ソフトウェア
概要：OSの仕組みと役割、代表的なアプリケーションソフトの要点について取り上げる。
詳細：ソフトウェアについては、基本ソフトウェアとアプリケーションソフトウェアに分けて考える。基本ソフトウェアの中では、特にオペレーティングシステム(OS)について、その必要性や機能などを解説する。また具体的なOSを取り上げ、その歴史や特徴について比較考察する。アプリケーションソフトウェアについては、代表的なものとして、日本語ワープロ、表計算ソフト、データベース管理ソフトなどについて解説する。
予習用語：基本ソフトウェア、OS、アプリケーションソフトウェア、日本語ワープロ、表計算ソフト、データベース管理ソフト
<第4講>　ソフトウェア
第3講と同じ
<第5講>　ネットワーク
概要：通信の基礎技術、コンピュータ同士をつなぐインターネットの仕組みなどについて話す。
詳細：コンピュータや人間をつなぐネットワークの仕組みについて基本的な事項を解説する。集中処理や分散処理の仕組みについても取りあげる。具体的な例としては、インターネットを構成するネットワーク技術について論じる。
予習用語：ネットワーク、アナログ通信、ディジタル通信、パケット交換、インターネット、TCP/IP
<第6講>　ネットワーク
第5講と同じ
第2部　情報社会
<第7講>　情報化と社会生活の変化
概要：情報化によって社会がどのように変化したか、またその問題点は何かなどの点について考える。
詳細：情報化の現状を生活者の立場から考察していくことがここでの目的である。まず情報伝達手段の歴史的な変遷について取り上げ、現在どのような情報化の段階にあるかを把握する。またコンピュータなどの情報処理機器についても利用者の視点で取り上げる。これをふまえて情報化が現代の社会生活にどのような影響を与えているかについて考える。
予習用語：情報化、情報社会
<第8講>　情報化と社会生活の変化
第7講と同じ
<第9講>　情報産業の発展
概要：情報化による産業構造の変化、および新しい情報産業の発展について考える。
詳細：情報化によって産業構造が大きく変化している現状を把握し、情報産業と社会の関わりについて考察する。またインターネット関連やマルチメディア関連などの新しい情報産業の事例を取り上げ、産業としての未来を展望する。
予習用語：産業構造、第3次産業、情報産業
<第10講>　情報産業の発展
第9講と同じ
<第11講>　情報産業の発展
第9講と同じ
<第12講>　情報社会におけるモラル
概要：情報化によって新しいモラルの考え方が必要になった。
詳細：情報化の進展に伴って、それに対応した社会人としてのモラルが重要になってきている。著作権やプライバシーの侵害、情報の不正な取得や改竄など、様々な問題が発生しているが、これらについて正しく認識し、正しい行動がとれるようなモラルが必要となる。また対抗手段としての情報セキュリティ対策についても理解しておく必要がある。
予習用語：モラル、著作権、プライバシー、個人情報保護、不正アクセス、情報セキュリティ
<第13講>　情報社会におけるモラル
第12講と同じ
<第14講>　情報社会におけるモラル
第12講と同じ
<第15講>　期末テスト
概要：全体を通して期末テストを行う。
詳細：詳細については別途連絡する。
予習のポイント：講義ノートや各自が授業中にとったノートをもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。2進数などの計算ができるようにしておくこと。
復習のポイント：試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてみること。わからない点があれば質問して解決しておくこと。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

授業内で適宜紹介する。

■参考URL

http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture

■評価方法

学期末試験70%　レポートなど平常点30%

■評価基準

相対評価。情報社会を生きていく上で必要な知識やモラルが理解できているか、また自分なりに考える能力が身に付いているかなどの点を考慮して評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予備学習のポイント：PowerPointの資料は、概略を示したものなので、これだけを読んでも理解できないだろう。復習するときに、内容を整理するために使う。授業中に適宜紹介する参考文献を読むことにより、授業内容をより深く理解できるようにすることが望ましい。

科目名 情報工学概論(Information Engineering)

サブタイトル

担当教員 増田　浩通

■講義目的

ICTを基盤とした高度情報社会における実情やさまざまな問題を，社会との関係に重点をおいた視点で学ぶ.

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

高度情報化社会における問題と社会のかかわりについて，常識として知っておくべき事項を体系的に理解することを目標とする.

■講義形態

講義のみ：学外実習無

■講義の概要

第1回 ガイダンスおよび情報化社会の問題点
事前に学習するポイント：情報システムのリスク
第2回 情報が変えていく社会
事前に学習するポイント：携帯電話の多様化、メディアのソーシャル化
第3回 情報社会が抱える問題
事前に学習するポイント：情報格差（デジタルデバイド）
第4回 情報倫理
事前に学習するポイント：知的財産権の尊重と個人情報の保護
第5回 ウイルスの問題とその対策
事前に学習するポイント：フィッシング、不正アクセス
第6回 情報とコミュニケーション
事前に学習するポイント：情報の定義、情報通信分野でのコミュニケーション
第7回 中間テスト
第8回 コミュニケーションモデル
事前に学習するポイント：階層モデル
第9回 ヒューマンコンピュータインタラクション
事前に学習するポイント：グラフィカルユーザーインターフェイス
第10回 インターネットの仕組み
事前に学習するポイント：インターネット技術の歴史
第11回 WEBサービス
事前に学習するポイント：WebサーバとWebブラウザ
第12回 データベースの基本概念
事前に学習するポイント：データベース管理システム
第13回 データマイニングの基礎
事前に学習するポイント：クラスタリング
第14回 情報システム
事前に学習するポイント：POSシステム、バーコード
第15回 期末テスト

■教科書

情報とネットワーク社会，駒谷・山川・中西ら著，オーム社
{http://www.amazon.co.jp/%EF%BC%A9%EF%BC%B4-%EF%BC%B4%EF%BD%85%EF%BD%98%EF%BD%94%EF%BC%88%E4%B8%80%E8%88%AC%E6%95%99%E8%82%B2%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%BA%EF%BC%89-%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%81%A8%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E7%A4%BE%E4%BC%9A-IT-Text/dp/4274211215/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1360186219&sr=8-1}

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

授業内での評価　30％：積極的に授業に参加しているか否か.
中間テスト　30％：中間テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする.
期末テスト　40％：期末テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする.
就職活動等で中間テスト，期末テストを受けられなくなったときは，①就職活動の証明書類を用意し，②テスト前に増田宛（masuda@tama.ac.jp）に連絡をすること.
①，②を満たさない場合は授業評価を不可（F）とする.

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

教科書中心に講義を進めるので，第2回目の授業までに購入すること.

科目名 情報セキュリティ（Information Security）

サブタイトル

担当教員 中村　紳吾

■講義目的

企業や組織における情報セキュリティ技術者の重要性が高まっている。本講義では、IPAの情報セキュリティスキルマップを下敷きに、事例研究や演習を利用しながら、情報セキュリティプロフェッショナルに求められる知識を習得する。これにより、情報セキュリティに関連する問題を解決する能力を身に付けることを目標とする。
授業は、基本的に座学でおこなう。講義内容によっては、教室設置のPCや携帯機器を使用する場合もある。

■講義分類

社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

（1）情報セキュリティとは何かを説明できる
（2）情報セキュリティへの脅威を認識し、対策をすることができる

■講義形態

講義のみ
その他(PCや携帯を使用した実験も実施予定)
：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 情報セキュリティとは
概要：情報セキュリティの基本概念、情報セキュリティ侵害の現状の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[情報セキュリティ]
詳細：情報セキュリティの概念を学習した上で、今日のセキュリティリスク事例、コンピュータや携帯機器を日常的に使用しているときに発生しうる危険について習得し、情報セキュリティの脅威が身近に存在しうることを認識する。
<第2-3講> リスク要因
概要：外部/内部のリスク要因、情報リテラシーと情報倫理の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[リスク、インシデント]
詳細：情報セキュリティのリスク要因には外部からのものと内部からのものがあること、およびそれらの特徴について学習する。また、現代社会で情報を扱う上で必要な情報リテラシーと情報倫理についても理解する。
<第4-5講> 個人レベルのセキュリティ対策(1)
概要：マルウェアの理解、共通の対策方法の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[マルウェア]
詳細：コンピュータに対する不正プログラムであるマルウェアについて、その特徴、感染原因、感染した結果などについて理解し、対策方法を習得する。
<第6-7講> 個人レベルのセキュリティ対策(2)
概要：攻撃手法と対策の理解、無線LANのセキュリティの理解
事前学習しておくべき用語やポイント[無線LAN]
詳細：コンピュータに対する外部からの攻撃方法について、その特徴と対策を理解する。また、最近スマートフォンなどで利用が広がっている無線LANの特徴および脅威について学習し、デモを通じて無線LANのセキュリティの脅威を実際に確認する。
<第8講> 組織のセキュリティ対策
概要：企業や組織でのセキュリティ対策の特徴、PDCAサイクルなどの理解
事前学習しておくべき用語やポイント[PDCA]
詳細：組織レベルでの情報セキュリティ対策の特徴を学習した上で、除法セキュリティマネジメントの必要性、PDCAサイクル、従業員としての心得、情報漏えい対策について習得する。
<第9講> 情報セキュリティ関連の法規と制度
概要：情報セキュリティの国際標準、関連法規、関連制度の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[情報セキュリティマネジメント、知的財産、迷惑メール]
詳細：情報セキュリティに関連する国際標準、関連法規、関連制度について学習する。また、情報セキュリティを法的に規制・保護するときの特徴について習得する。
<第10-11講> セキュリティ技術：基礎
概要：インターネット通信の基礎、アカウント管理、通信データ閲覧のデモ
事前学習しておくべき用語やポイント[TCP/IP、インターネット通信、パスワード]
詳細：情報セキュリティが実際の問題となる現在の通信技術であるTCP/IPの特徴について学習し、またセキュリティの基本であるアカウントの管理方法について習得する。デモを通じてTCP/IP通信の特徴とアカウントのセキュリティの脆弱性について実際に確認する。
<第12-13講> セキュリティ技術：基礎(2)
概要：攻撃手法、ルータ関連技術、暗号技術の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[ポート、ファイアウォール、暗号化]
詳細：情報セキュリティの脅威となる攻撃手法の技術的手法、ネットワークを外部から防御するファイアウォール、データを保護する暗号化について学習する。
<第14講> 復習
概要：これまでの講義内容の理解の確認
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでの授業内容を復習しておく]
詳細：
<第15講> 試験
概要：試験
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでの授業内容を復習しておく]
詳細：

■教科書

「情報セキュリティ読本 ?IT時代の危機管理入門- 四訂版」（ISBN978-4-407-33076-2） 定価525円
（本体500円） 実教出版株式会社
毎回の講義時にレジュメ配布を予定

■指定図書

■参考文献

■参考URL

http://www.ipa.go.jp/security/index.html

■評価方法

試験60%　平常点40%
出席確認は学生証をリーダーにかざす方法でおこなう

■評価基準

相対評価
　日常生活でITを利用する際に必要とされる情報セキュリティの基礎的な知識・スキルが身についてい るかどうかで判断する

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

就活等の理由により出席できなかった学生については申請があれば出席不足について考慮する
試験は講義の最終回に実施する予定

科 目 名　情報探索法（Information Serching Methods）

サブタイトル

担当教員　宮内　美智子

■講義目的

この授業は、ITリテラシー教育の一環として、各種文献やインターネットを中心とするデジタル情報資源から、主体的に情報を検索・収集・整理・分析・加工・発信するために必要な知識と技術を学習する。
生涯学習の素地を基本から体得する。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成

■到達目標

1.メディア&インフォメーション・センター（多摩大学図書館）と各種図書館の活用力
2.資料・情報の収集力と読解力
3.デジタル情報資源の活用力
4.情報倫理と著作権法（改正著作権法）の理解と実践力
5.レポート・論文の作成法力と効果的なプレゼンテーション力

■講義形態

講義+GW+PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：1．授業についてのオリエンテーション
2．図書館の役割と活用
3．学生の授業に対する質問・要望の調査
事前学習しておくべき用語[高等学校図書館、公共図書館]
詳細：①多摩大学図書館（メディア&インフォメーション・センター）を見学し、利用体験を得る。
②図書館の蔵書の特徴を理解し、活用力をつける。
③各種図書館（国立国会図書館・公共図書館・専門図書館）の特徴を理解し、活用力をつける。

<第2講>
概要：1．情報リテラシーについての理解
2．各種図書館のOPAC（オンライン利用者目録)についての理解
3．資料情報の組織化についての理解
事前学習しておくべき用語[ISO,書籍コード、ISBN]
詳細：①資料・情報の探索と入手法、資料・情報の分析法、有効な情報の発信力・伝達力を向上させる。
②各種図書館のOPACの特徴を活用して、いつでも必要情報を検索できる力をつける。
③資料・情報を迅速・的確に検索し収集するためのツールである目録、分類、件名、シソーラスについて、それぞれの特徴を理解し、活用力をつける。

<第3講>
概要：1．検索の手順
2．　検索エンジンの使い方
事前学習しておくべき用語[Google、Yahoo、goo、検索デスク]
詳細：①検索内容の明確化・情報資源の選択・キーワードの設定・検索結果の評価を検証する。
②主な検索エンジン・検索エンジンの弱点・検索エンジンの賢い利用力をつける。

<第4講>
概要：データベース検索　　1
多摩大学メディア&インフォメーション・センターの施設を利用する。
事前学習しておくべき用語[国立情報学研究所、聞蔵Ⅱ]
詳細：①.朝日新聞オンライン記事データベース(聞蔵Ⅱビジュアル)を学内で、常時活用する。
②.CiNii（国立情報学研究所の学術コンテンツ・ポータル）を理解し、活用力をつける。
③.EBSCO（「EBSCO host（エビスコホスト）- Research Database」）を理解し、活用力をつける。

<第5講>
概要：データベース検索　　2
多摩大学メディア&インフォメーション・センターの施設を利用する。
事前学習しておくべき用語[日経テレコン21]
詳細：①.日経テレコン21（「日経テレコン21操作ガイドを配布する）を学内で、常時活用する。
特に、記事検索（詳細検索、演算子の利用、各種コマンドの利用）、人事検索、企業検索、便利な機能　　の活用力をつける。

<第6講>
概要：インターネット上の情報源の多角的な活用
事前学習しておくべき用語[検索デスク]
詳細：①サーチエンジンの種類と事象にあった上手な利用法を理解し、活用力をつける。
②　Googleでの効率的な検索法を理解し、活用力をつける。
③検索デスク（Search Desk）の活用力をつける。

<第7講>
概要：雑誌論文・雑誌記事の検索力と読解力
事前学習しておくべき用語[CiNii、雑誌記事索引、『雑誌・新聞総かたろぐ』]
詳細：①メディアとしての雑誌を理解する。
②一般雑誌と学術雑誌の相違を理解する。
③雑誌記事検索の留意点を理解し、活用力をつける。
④大宅壮一文庫の特徴を理解し、活用力をする。
⑥国内の学術論文の検索力と活用力をつける。

<第8講>
概要：新聞記事の検索力と読解力
事前学習しておくべき用語[全国の新聞社リンク集]
詳細：①新聞記事を探す場合のツール[形態：縮刷版・CD-ROM・オンラインデータベース]を理解し、活用力をつける。
②新聞の特性を理解する。
③新聞記事検索の留意点を理解する。
④新聞記事検索[国内全国紙、国内地方紙、国内専門誌、海外紙]の活用力をつける。
⑤日経新聞紙［日経新聞朝刊・夕刊の構成、日経新聞週末版の構成等]を理解し、活用力をつける。
★<第5講>のデータベース検索2の「日経テレコン」の授業とも関連あり。

<第9講>
概要：資料・情報の活用法と表現法（1）
事前学習しておくべき用語[ITリテラシー授業]
詳細：①レポート・論文作成の基本スキルの理解と実践力をつける。[1)テーマの選択、2)事前調査、3)仮アウトラインの作成、4)関連文献・情報の調査、5)データベースの検索、6)視聴覚・電子メディアの調査、7)アンケートとインタビュー、8)文献・情報の読解と執筆（最終アウトラインの作成と執筆）、9)出典の表示、10]仕上げ）
②学生のレポート・論文作成の体験を発表し、次回の授業に生かす。

<第10講>
概要：伝達・発表の在り方（2）
事前学習しておくべき用語[ITリテラシー授業]
詳細：①情報整理法の基本スキル[1)収集と保管、2)選択、3)分類、4)保存、5)評価]を理解し、実践力をつける。
②情報表現法の基本スキル[1)機器の活用、2)発表内容、3)構成、4)発表資料の作成等]を理解し、実
践力をつける。
③学生の今までの発表体験との相違を討議し、今後に生かす。

<第11講>
概要：著作権法の理解と実践力
事前学習しておくべき用語［知的財産、特許権]
詳細：①著作権法の沿革[1)日本、2)外国]を理解する。
②知的財産権・著作物の種類・著作者の権利[1）著作者人格権、2）著作権(財産権)]、著作者の権利の保護期間・著作隣接権・外国の著作物の保護について理解する。
③著作物の利用手順と著作物を自由に使える場合の条件を理解する。
④個人情報保護法を理解し、日常生活において活用できるようにする。

<第12講>
概要：改正著作権法(平成24年に成立「著作権法の一部を改正する法律」)の理解と実践力
事前学習しておくべき用語[著作権]
詳細：①いわゆる「写り込み」等に係る規定の整備
②国立国会図書館による図書館資料のインターネット送信（自動公衆送信）等に係る規定の整備

③公文書等の管理に関する法律
④著作権等の技術的保護手段に係る規定の整備
⑤違法ダウンロードの刑事罰化に係る規定の整備

<第13講>
概要：各種情報の検索の検証１
事前学習しておくべき用語[情報の組織化]
詳細：①ニュース情報の検索
②一般的情報の検索
③よみかた情報の検索
④人物情報の検索
⑤地理・地図情報の検索
⑥団体・企業情報の検索
＊学生の検索体験の発表（紹介）をする
<第14講>
概要：各種情報の検索の検証２
事前学習しておくべき用語[情報の組織化]
詳細：①法律情報の検索
②統計情報の検索
③政治情報の検索
④医療情報の検索
＊学生の検索体験の発表（紹介）をする
<第15講>
概要：<第１講>から<第１４講>の総括（紙媒体の情報源の特徴も理解し、活用力をつける。）
事前学習しておくべき用語[第1講から第14講までの学習確認]
詳細：①本の探し方[1）国内本、2)国外本、3)レファレンスツール、4)全集・叢書]
②新聞・雑誌の種類と所蔵館
③事実・事項調査に役立つ主要データベース

■教科書

宮内美智子著　「情報探索法」(私家版、授業時に配布する)

■指定図書

講義の中で随時紹介すると共に、メディア&インフォメーション・センター（多摩大学図書館）で購入している資料等を活用する。

■参考文献

[1] 伊藤民雄著、『インターネットで文献検索2013年版』、日本図書館協会、2013、(JLA図書館実践シリーズ)
[2]川崎良孝[ほか]編　『大学生と「情報の活用」情報探索入門 増補版』京都大学図書館情報学研究会、2001
[3]日本図書館協会総合監修　『情報の達人　第1・2・3巻』[DVD]　紀伊國屋書店、2007

■参考URL

■評価方法

試験(50点)、学習課題レポート(35点)、出席(15点)

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業中の飲食を禁止します。

科 目 名　情報通信と社会（Advanced to Telecommunication）

サブタイトル

担当教員　諸橋　正幸

■講義目的

ICTを基盤とした高度情報社会における実情やさまざまな問題を，社会との関係に重点をおいた視点で学び、企業人として、また、個人としてICTを正しく利用できる力を身につけさせる.

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
ビジネスICT

■到達目標

情報通信事業について，常識として知っておくべき事項を体系的に理解すること，および社会人として仕事をしていく上で必要になるデータ通信について理解を深めることを目標とする.

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> ガイダンス、情報が変えていく社会
概要： 本講義のガイダンスを行う.
情報社会の中でどのような変化が起きているのか，我々の身の回りにある道具，サービス，考え方の変化を概観する。
予習、復習のポイント：
身の回りの道具、サービスについて気がついたものを並べ上げ、整理する。情報社会が発展する以前とどう違うかを考えてみる。
<第2講> 情報が変えていく社会
概要：情報社会の急激な変化の現状を理解し、それに対応するための知識を得るとともに、急速な情報化が抱える問題について解説を行う.
予習、復習のポイント：
情報化社会の到来により起きた変化を実感として受け止め、整理してみる。
<第3講> 情報社会が抱える問題
概要： 情報社会に生きる我々は，情報社会が抱える負の側面も認識しておく必要がある. 本講義では，情報社会になることによって発生するさまざまな問題に焦点を当てる.
予習、復習のポイント：
情報化社会の到来により起きたと思われる社会問題について具体的な事例を調べておく。それらの問題の背景にあるものを理解する。
<第4講> 情報倫理
概要： 知的財産権とは何かを学び，著作権の意義と新しい流れに関する理解を深める.
予習、復習のポイント：
知的財産権と著作権について、それらを保護しなければならない理由を押さえておく。また、過剰な保護に依る社会発展への阻害要件を考えてみる。両者の長所・短所から新しい流れの中の提案を考えてみる。
<第5講> ウイルスの問題とその対策
概要： 自分が被害を受けないためだけでなく，自分自身が加害者にならないようにするためにも，コンピュータウイルスにどのようなことを注意すべきかを学ぶ.
予習、復習のポイント：
ウイルスに利用されている技術の本質を知ることと、技術の悪用として、コンピュータウイルスを捉えなおす。さらには、ウイルスに影響されない技術の利用法を知る。
<第6講> コミュニケーションの基本
概要：情報化社会になって、コミュニケーションの手段は変化したが、伝えるべきこと、正確に受けるべきことに関しては、man-to-manコミュニケーションと変わりはない。その基本となるコミュニケーションについて改めて確認する。
予習、復習のポイント：
コミュニケーションは情報化社会到来の前から必要とされてきたことである。その本質を改めて考えて見る。
<第7講> 情報とコミュニケーション
概要： 情報行為は，コミュニケーション行為や言語行為を含む広い概念であり，情報社会では，人間の情報行為は情報システムの支援を受けていることを学ぶ.
予習、復習のポイント：
情報化の技術や情報システムがコミュニケーションにどのような影響を与えたかを学ぶ。
<第8講> コミュニケーションモデル
概要： 情報行為と深いかかわりを持つコミュニケーションの概念や重要性について学び，コミュニケーションモデルの意義について明らかにしてゆく.
予習、復習のポイント：
コミュニケーションの本質をモデルという視点から整理する。
<第9講> ヒューマンコンピュータインタラクション
概要： 本講義では，人間とコンピュータのやり取りであるヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）について学ぶ.
予習、復習のポイント：
コンピュータを使うという行為が「ヒューマンコンピュータインタラクション」という観点でどのような設計思想が採用されているものなのかを具体例と思想の両面から検証してみる。
<第10講> インターネットの仕組み
概要： 日常生活においてインターネットは通信インフラとして欠かせないものになってきている. そこで本講義ではインターネットの仕組みの概要を学ぶ.
予習、復習のポイント：
普段、なにげなく使っているインターネットの基礎知識を学び、具体的利用法と結びつけて整理する。
<第11講> WEBサービス
概要： インターネットを介して行われている商取引やサービスの概要について解説する.
予習、復習のポイント：
ビジネス活動の中でのインターネットの利用法を整理・分類する。
<第12講> データベースの基本概念
概要： データベースの基本概念やデータベース管理の諸機能について学ぶ.
予習、復習のポイント：
インターネット構築以前から存在するデータベースの理論を理解し、それが、インターネット上でどう活用されているのかを整理する。
<第13講> データマイニングの基礎
概要： データベースの応用として，データベースから知識を発見するために重要な役割を果たすデータマイニング手法について学ぶ.
予習、復習のポイント：
データベースを、個人や組織の活動の記録としてとらえ、その行動様式を明らかにするというデータマイニングの特徴を理解し、それがビッグデータの解析技術によってどこまで利用できるのかを知る。
<第14講> 情報システム
概要： 本講義では，企業の活動において情報システムがどのように活用されているかを学ぶ.
予習、復習のポイント：
13講までの内容を概括し、情報システムとビジネスの結びつきを改めて整理しておく。
<第15講> 期末テスト
概要： 講義全体のまとめをし，期末テストを行う.

■教科書

IT TEXT(一般教育シリーズ　)情報とネットワーク社会
駒谷・山川・中西ら著，オーム社

■指定図書

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■参考URL

■評価方法

課題50%，期末テスト50%で評価する.

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名　情報と職業（Information and Profeession）

サブタイトル

担当教員　齋藤　S.裕美

■講義目的

本講義は、情報と職業についての関わり、情報に関係する職業人(情報処理技術者、ネットワーク技術者など)の役割と責任について理解することを目的とする。
現代の社会において、IT(情報技術)は必要不可欠な存在である。情報技術の進展によって生まれた産業の特徴や情報システムが一般社会生活のなかでどのように使われているかなど、情報技術の現状を把握するとともに、私たちの生活や既存の産業が受けた情報化の影響などについても学習する。
また、情報システムを構築し運用する上で、情報処理技術者やネットワーク技術者が果たすべき役割や責任について理解し、情報技術の専門家に求められる勤労観や職業観を身につけることも目的のひとつである。
さらに本講義によって、将来、情報に関係する職業人を目指す高校生に対して、適切な教育指導が出来るようになることを目指す。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成

■到達目標

情報技術が産業社会や人々の生活に対して及ぼした影響を理解し、情報技術の専門家に求められる倫理観や職業観を身につけることをめざす。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　情報社会までの歴史的変遷
情報社会までの歴史的変遷を狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の順に追い、社会構造の転換の契機となった農耕の開始、産業革命の文脈から情報革命の意義を確認する。
また、キャリア科目、教職科目としての「情報と職業」の目標についても確認する。
<予習・復習のポイント>
情報革命がもたらした社会構造の変化とはどのようなものであるか。
<第2講>　戦後の産業構造の変化
日本の戦後の産業構造の変化と情報化について、第一次石油ショックと第三次産業への転換、プラザ合意と国際産業の空洞化を中心に概説する。特に、情報産業が誕生した背景について、産業構造の変化と情報技術の発達の二つの面から考察する。
<予習・復習のポイント>
情報革命がもたらした社会構造の変化とはどのようなものであるか。
<第3講>　情報社会における職業観
戦後から1990年前後までの職場・雇用環境について、主に終身雇用制と年功序列賃金、企業内教育を概観し、さらに1990年代以降の職場・雇用環境・就業形態の変化を第三次産業の特徴と合わせて考察することで、人々の職業生活に対する意識の変化について考える。
<予習・復習のポイント>
職場・雇用環境・就業形態が変化したことで、人々の意識はどのように変わったか。
<第4講>　情報社会と職業教育
社会構造と仕事の関係、知識の習得と伝達方法の違いを概説し、情報社会で学習すべき対象は何かを考える。さらに、キャリア開発と生涯学習、企業内教育の変遷について考え、求められる情報系人材のスキルがどのように変わってきたかを確認する。
<予習・復習のポイント>
これからの社会で求められる職業人としての素養やスキルは何か、なぜそのような素養やスキルが求められるようになったのか。
<第5講>　情報産業における職業教育と資格
情報系人材に求められるスキルと資格の関係について、資格取得の背景とその社会的認知、1990年代以降の社員教育のあり方の変化、資格の機能などの観点から概説する。
<予習・復習のポイント>
人々の資格取得の背景にはどのような心理が働いているのか、また情報系人材と資格との関わりはどのようなものであるか。
<第6講>　情報産業の誕生と発展
1960年代後半の情報処理技術者の誕生から新しい産業としての情報産業に発展するまでの経緯、発展の過程における様々な職種や職制への分化について概説する。
<予習・復習のポイント>
情報産業の発展の経緯と様々な職種との関係はどのようなものか。
<第7講>　情報産業の実像
情報産業の実像について、産業分類や資本系列、業態などから概観し、情報産業の特徴や情報産業に従事する技術者や従業者の仕事について概説し、技術者や従業者の意識についても考察する。
<予習・復習のポイント>
情報産業の特徴とはどのようなものか、そこで働く人々の仕事とそこから生じる職業意識や職業観とはどのようなものか。
<第8講>　企業における情報化
企業における情報化の実態を、情報技術への投資規模や要員規模などから概観し、業種による投資規模の違い、さらに大企業と中小企業との情報技術に対する期待や効果の相違などを考察する。
<予習・復習のポイント>
情報技術への投資規模はどのような要因で決定されるのか、また大企業と中小企業の相違はどのような要因によるものか。
<第9講>　情報技術と犯罪
情報技術に関わる犯罪について、1960年代から2000年代までの各時代における代表的な事例を紹介し、それら犯罪の特徴と法的・技術的対応について概説し、技術者に必要な倫理観とはどのようなものであるか考察する。
<予習・復習のポイント>
情報技術に関わる犯罪とそれに対する対応はどのようなものであるか、技術者に必要な倫理観とはどのようなものであるか。
<第10講>　情報技術とリスクマネジメント
システム障害など情報技術によるリスクとペリル、ハザードとの関係、リスクコントロールとリスクファイナンスについて概説し、事例からリスクマネジメントのあり方を考察する。
<予習・復習のポイント>
リスクマネジメントとはどのようなことであるか。
<第11講>　リスクマネジメントの背景
リスクマネジメントの背景として、企業不祥事を巡る世論形成、情報公開と説明責任の流れ、危機管理の変化、情報の資産価値の変化などを概観し、それらが雇用環境の変化や就業形態の変化とどのような関わりがあるかを確認する。
<予習・復習のポイント>
リスクマネジメントの背景にある社会状況の変化とはどのようなものであるか、またそれらが雇用環境・就業形態とどのような関係にあるか。
<第12講>　リスクマネジメントとCSR
リスクマネジメントとCSRとの関係を確認し、CSRを後押しする法整備の状況などを概説する。
<予習・復習のポイント>
CSRとはどのようなことか、個人情報保護法や不正アクセス禁止法、公益通報者保護法などはどのようなものか。
<第13講>　CSRと企業の取り組み
CSRについて企業の取り組みを紹介し、それぞれの取り組みについて評価できる点と評価できない点を、その企業の商品やサービスを購入する顧客の立場、その企業で働く従業員の立場の両方から考察する。
<予習・復習のポイント>
取り組みを行う契機となったことがらなどはあるか。
<第14講・第15講>　職業人として必要な倫理観
従業者としてのモラルとひとりの人間としてのモラルの対立を内部告発の事例から考察し、職業人として必要な倫理観とはどのようなものであるか、各自がどのような職業観を持って仕事をすべきかを考える。
<予習・復習のポイント>
職業人として必要な倫理観とはどのようなものであるか、個人の倫理的行動を後押しするものとして社会や企業にどのような制度が必要か、制度以外に必要なものは何か。また、職業人としてどのような職業観、心構えを持って働くべきか。

■教科書

授業の際にプリントを配布する。

■指定図書

田中朋弘・加藤尚武・立花隆著　『現代社会の倫理を考える<5> 職業の倫理学』　丸善
小国力著　『情報社会の基盤―基礎技術から職業、倫理まで』　丸善
斉藤武雄・田中喜美・依田有弘・佐々木　英一著　『ノンキャリア教育としての職業指導』　学文社

■参考文献

駒谷昇一・楠本範明・辰己丈夫著　『情報と職業』　オーム社

近藤勲著　『情報と職業』　丸善

■参考URL

■評価方法

期末試験45%、学期中のレポートや課題40%、出席状況15%を基本とし、授業への参加態度などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

絶対評価
レポートや期末試験は、次の4点を中心に評価する。
(1)情報社会に至る産業社会の変遷を理解しているか。
(2)情報社会における人々の勤労観や職業観を理解しているか。
(3)情報産業の特徴や技術動向を理解しているか。
(4)情報産業に関わる職業人としての役割や責任を理解し、必要な倫理観を身につけているか。
A+ ：上記評価方法で評価点95点以上
A ：上記評価方法で評価点80点以上95点未満
B ：上記評価方法で評価点70点以上80点未満
C ：上記評価方法で評価点60点以上70点未満
F ：上記評価方法で評価点60点未満

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。
但し、期末試験を受験していない履修生、出席回数が2分の1以下の履修生に対しては実施しない。

■留意点

特になし。

科目名　情報ネットワーク概論Ⅰ(Introduction to the Information Networking System Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　増田　浩通

■講義目的

コンピュータ，通信技術，通信網の発達とその融合によって，インターネットなどの通信ネットワークが急速に発達してきた．本講義では，情報ネットワークの概念と役割，基礎技術，LAN，インターネットの概要について学ぶ．

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

本講義で説明する情報理論については，ビジネスパスポート等の情報技術者試験の問題を解くことができるレベルに到達することを目標とする．

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

第1回 ガイダンスと課題の提示
事前学習しておくべきポイント：情報ネットワーク
詳細：半期にわたる学習内容の概要とスケジュールの提示
第2回 情報化時代のルールとマナー
事前学習しておくべきポイント：ライフログ、情報セキュリティー
詳細：ソーシャルメディアのリスクと正しいつきあい方について学習する。
第3回 通信ネットワークとは
事前学習しておくべきポイント：アナログ、デジタル、情報格差（デジタルデバイド）
詳細：通信とは時間と距離を超えて、あらゆる情報を管理（収集・伝送・処理・印刷・配布）するのが目的である。ここでは現代社会の通信ネットワークについて学ぶ。
第4回 モバイル通信のネットワーク
事前学習しておくべきポイント：bps、サーバー、クライアント
詳細：もともとは、船舶・車両・航空機・列車など移動する乗物同士および乗物と固定局間の通信を示した移動通信のネットワークが、どのように今日のようなモバイル通信になったかを歴史を踏まえて説明する。
第5回 コンピュータとネットワークの歴史
事前学習しておくべきポイント：フォンノイマン、チューリングマシン
詳細：高度情報化社会はコンピュータの発明によりもたらされてきた。そのコンピュータがネットワーク化されることにより、大きな仕事がなされている。ここでは、ネットワークを学ぶ上で必要なコンピュータの歴史的な基礎知識を学ぶ。
第6回 コンピュータの原理
事前学習しておくべきポイント：2進法の計算、論理演算
詳細：なぜコンピュータに計算できるかを理解するためには、2進法の計算が理解できることが必要である。ここでは、2進法と論理演算の理論と基礎を学ぶ。
第7回 通信技術の概要
事前学習しておくべきポイント：A-D変換、D-A変換、パルス符号変調
詳細：通信ネットワークを理解するための基礎的伝送技術を学ぶ。特に音声をディジタル化するため世界中で使われているパルス符号変調について説明する。
第8回 中間テスト
事前学習しておくべきポイント：なし
詳細：第7回目までの学習内容について中間テストを行う。
第9回 データネットワーク技術
事前学習しておくべきポイント：同期・非同期、伝送制御、プロトコル、ＩＰパケット
詳細：コンピュータを中心とするディジタルデータがネット上に流れるにはさまざまな約束事が必要となる。データの塊の最小単位としてＩＰパケットが存在すること、それを送り出す手順を学ぶ。
第10回 誤り制御
事前学習しておくべきポイント：パリティチェック方式、CRC方式
詳細：データ通信をスムーズに行うためには、正確な伝送が求められるが、さまざまな要因で必ず誤りが生じる。よってその誤りの検出と訂正について概説する。
第11回 ネットワークの接続形態とOSＩ参照モデル
事前学習しておくべきポイント：ノード、リンク、OSＩ参照モデル。
詳細：いかなるネットワークもノードとリンクで結ばれた抽象的な図で表現することができる。このネットワークトポロジーについて説明をする。また通信基本モデルであるOSＩ参照モデルについても学ぶ。
第12回 情報ネットワークの使われ方
事前学習しておくべきポイント：WAN、LAN、ＩＰネットワーク
詳細：ＬANがオフィスにもたらした利点を説明する。またＩＰパケットを扱うネットワークを学び、通信情報ネットワークの現状について学ぶ。
第13回 インターネットの仕組み
事前学習しておくべきポイント：TCP/IP、IPアドレス
詳細：インターネットを一言で表現すると「TCP/IPというプロトコルで相互に接続したネットワークを結ぶネットワーク」のことである。このTCP/IPの概要を学ぶことで技術的な側面からインターネットの成り立ちを把握する。
第14回 ネットワークセキュリティ
事前学習しておくべきポイント：コンピュータウイルス、情報セキュリティー
詳細：ネットワークセキュリティーは、現在の社会を運営する上で大変重要になっている。ここではコンピュータそのものが持つ危険性から、ウイルス対策、暗号化と認証などネットワークセキュリティー全体について説明する。
第15回 期末テスト
事前学習しておくべきポイント：なし
詳細：第9回目から第14回目までの学習内容について期末テストを行う。

■教科書

Textbook はじめての情報ネットワーク
室本弘道著　森北出版
{http://www.amazon.co.jp/%E3%81%AF%E3%81%98%E3%82%81%E3%81%A6%E3%81%AE-%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF-%E4%B8%8A%E7%B4%9A%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%87%A6%E7%90%86%E5%A3%AB%E3%82%92%E3%82%81%E3%81%96%E3%81%99%E4%BA%BA%E3%81%AE%E3%81%9F%E3%82%81%E3%81%AB-%E5%AE%A4%E6%9C%AC-%E5%BC%98%E9%81%93/dp/4627829612/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1360189703&sr=8-1}

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

授業内での評価　30％：積極的に授業に参加しているか否か．
中間テスト　30％：中間テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする．
期末テスト　40％：期末テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする．
就職活動等で中間テスト，期末テストを受けられなくなったときは，①就職活動の証明書類を用意し，②テスト前に増田宛（masuda@tama.ac.jp）に連絡をすること．①，②を満たさない場合は授業評価を不可（F）とする．

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は教科書を中心に行うので，第2回の講義までに教科書を購入しておくこと．

科 目 名　情報ネットワーク概論II（Introduction to the Information Networking System II）

サブタイトル

担当教員　慎　祥揆

■講義目的

本講義は情報ネットワークの本質と全体像がわかるよう，過去から現在までの情報システム技術の発展経緯から今後の展開までを体系的に解説する．

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

情報ネットワークの本質と全体像がわかるようになり，情報処理技術試験に対応できる基礎力を養うことを到達目標とする．

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

第1回ガイダンスと課題の提示
第2回　情報化時代の到来
第3回　通信ネットワークとは
第4回　モバイル通信のネットワーク
第5回　コンピュータの歴史と将来
第6回　コンピュータの機能と装置
第7回　通信技術の概要
第8回　中間テスト
第9回　データネットワーク技術
第10回　ネットワークの接続形態
第11回　情報ネットワークの使われ方
第12回　インターネットの仕組み
第13回　ネットワークセキュリティ
第14回　情報化社会のルールとマナー
第15回　期末テスト

■教科書

はじめての情報ネットワーク
室本弘道著　森北出版
{http://www.amazon.co.jp/%E3%81%AF%E3%81%98%E3%82%81%E3%81%A6%E3%81%AE-%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF-%E4%B8%8A%E7%B4%9A%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%87%A6%E7%90%86%E5%A3%AB%E3%82%92%E3%82%81%E3%81%96%E3%81%99%E4%BA%BA%E3%81%AE%E3%81%9F%E3%82%81%E3%81%AB-%E5%AE%A4%E6%9C%AC-%E5%BC%98%E9%81%93/dp/4627829612/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1360189703&sr=8-1}

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

授業内での評価　30％：積極的に授業に参加しているか否か．
中間テスト　30％：中間テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする．
期末テスト　40％：期末テストを受けていないものは，授業評価を不可（F）とする．
就職活動等で中間テスト，期末テストを受けられなくなったときは，①就職活動の証明書類を用意し，②テスト前に増田宛（masuda@tama.ac.jp）に連絡をすること．
①，②を満たさない場合は授業評価を不可（F）とする．

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は教科書中心で行うので，第2回目までに教科書を購入しておくこと．

科目名　情報法（Information Law）

サブタイトル

担当教員　石岡　克俊

■講義目的

この講義では、「知的財産」に関わる法制度全般を説明していきます。一口に「知的財産」と言っても、しばしば耳にするわりに、それがどんなものであるか案外知られていません。ましてや、何故これらを保護しなければならないのか、また、これらの保護のためにどのような仕組みが用意されているのかに至っては、ほとんど初耳でしょう。この講義では、知的財産に関する法制度の理解を深めていくことを目的としています。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
グローバルビジネス
ビジネスICT

■到達目標

この講義の到達目標としては、しばしば話題にのぼる知的財産の問題について自ら考えていくことができるようになることです。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

知的財産に関する法制度は、非常に多岐にわたります。一つの法制度を解説するだけで、半年や一年は最低でも必要です。でも、ここでは思いっきり欲張って、知的財産制度全体を鳥瞰してみましょう。そして、各法制度の特徴的な部分を大掴みしてみようと思います。

<第1講>
概要：　イントロダクション
詳細：授業の進め方や評価の仕方、勉強に当たっての指針を説明する。
<第2講>
概要：　知的財産（権）とは何？
事前に学習しておく用語：知的財産・知的財産権・知的財産基本法
詳細：知的財産は、非常に多岐にわたる。現行法を前提にどのようなものがあるのかを解説し、知的財産には該当しても、現在わが国において保護されていないものについても説明していく。
<第3講>
概要：　知的財産権の特徴
事前に学習しておく用語：創作法・標識法
詳細：知的財産は、他の財産権と一体何がどのように違っているのか。その特徴について説明をする。
<第4講>
概要：　新たな技術的成果を保護する特許制度
事前に学習しておく用語：発明奨励説・公開奨励説
詳細：特許制度に関する原則と考え方について説明する。
<第5講>
概要：　発明とは何か？
事前に学習しておく用語：発明・自然法則・技術的思想・創作
詳細：特許制度によって保護されるのは発明である。発明とは何か？発見と何が違うのか？発明の定義について説明する。
<第6講>
概要：　特許の出願手続について
事前に学習しておく用語：出願公開・特許査定
詳細：特許発明に該当しても、特許権は付与されない。出願登録手続が必須となる。現在わが国の特許制度はどのような出願登録に係る仕組みを有しているのか。その内容を説明する。
<第7講>
概要：　特許の技術的範囲と特許権の差止請求及び損害賠償
事前に学習しておく用語：請求項（クレーム）・補正・差止請求・損害賠償請求
詳細：特許を始めとする知的財産は、形が見えないものである。したがって、どこまでを特許の範囲とするのか難しい問題がある。これがきちんと確定されなければ、侵害という概念も現れてこない。ここでは、技術範囲を特許権のエンフォースメントと関係付けて説明する。
<第8講>
概要：　発明者にはどのような権利が認められるのか？
事前に学習しておく用語：発明者権
詳細：特許発明をした者には、どのような権利が付与されるか。いわゆる発明者権について説明する。
<第9講>
概要：　実用新案と営業秘密
事前に学習しておく用語：考案・営業秘密・ノウハウ
詳細：特許と関連付けられる実用新案制度についての説明と、ノウハウに代表される技術情報の保護手段について説明する。
<第10講>
概要：　意匠制度はとはどんなもの？
事前に学習しておく用語：工業デザイン
詳細：特許制度の一つの分岐であるデザインの保護の仕組みについて説明する。
<第11講>
概要：　商標制度とはどんなもの？
事前に学習しておく用語：商標・自他商品サービス識別力・顧客吸引力
詳細：産業秩序維持を目指し、いわゆる技術保護とは異なる性質を持つ知的財産権である商標制度について説明する。
<第12講>
概要：　商標権を取得しなくても保護される場合がある。
事前に学習しておく用語：不正競争・不正競争行為
詳細：商標権を取得しなくてもこれを保護する仕組みがある。主に不正競争防止法によるものだが、この保護の特質を整理し、この法律の内容について説明する。
<第13講>
概要：　著作権とはどのような権利か？著作権によって保護される著作物とは？
事前に学習しておく用語：著作物・著作財産権・著作者人格権・著作隣接権
詳細：創作保護法という意味で特許法と同様だが、その目的や保護の態様から全く異なる者として区別される著作権制度についての説明を行う。
<第14講>
概要：　著作者となるのは誰か？著作者にはどのような権利が発生するのか？
事前に学習しておく用語：複製権・公衆送信権・上映権
詳細：英米法と異なり、著作者を中心に据える大陸法系の著作権法の重要概念である著作者についてその享受する権利とともに説明していく。
<第15講>
概要：　著作権が制限される場合。著作権侵害。著作隣接権とはどのような権利か？
事前に学習しておく用語：私的使用としての複製・実演・実演家・放送・放送事業者・レコード・レコード制作者
詳細：著作権の公共性に基づく制約、その侵害、その他講義の意味における著作権について整理し、説明する。

■教科書

特に指定しません。講義においてレジュメを配布します。

■指定図書

特に指定しません。講義においてレジュメを配布します。

■参考文献

講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

■参考URL

■評価方法

学期末試験のみで評価を行います。

■評価基準

相対評価
A+　：
A　：知的財産に関わる具体的な問題に関して解決の方向を自ら考えることができること
B　：知的財産に関わる問題であることを適確に認識できること
C　：知的財産法についての基礎的な知識の習得
F　：

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　初級簿記（Introductory Level Bookkeeping）

サブタイトル

担当教員　清松　敏雄

■講義目的

【簿記入門】

本講義は、産業社会において企業が行うさまざまな取引を会計情報として記録するための技法である「簿記」の基本原理を習得し、日本商工会議所が主催する簿記検定試験の3級(日商簿記3級)に合格できる知識と能力を習得することを目的とする。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業の経済活動を会計情報として記録するための技法である「複式簿記」の仕組みについての基礎的な知識を習得すること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>（ガイダンス）　1.簿記の意味・目的・種類　2.簿記の基礎概念
概要：簿記の基本事項を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：簿記、財務諸表
詳細：複式簿記会計の意義と簿記の基礎概念を理解することが主たる内容である。なお、簿記の学習にあたっては、最初にいくつかの用語を暗記することが必要となる。借方・貸方、資産、負債、純資産、収益および費用といった基礎用語については、次回の授業までに内容を確認し、暗記をしておく必要がある。
<第2講>　3.仕訳のルール
概要：会計記録の仕組みである「仕訳」の仕方を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：貸借対照表、損益計算書、仕訳
詳細：問題文を読んで借方要素と貸方要素に区分できるようになることが主たる点である。会計上、取引は必ず借方と貸方に分けて記録され、片方だけが使用されることはない。資産、負債、純資産、収益および費用について、どのような場合に借方に記録され、どのような場合に貸方に記録されるのかを理解すること。
<第3講>　4.現金預金取引
概要：現金及び預金の受け払いが伴う取引について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：現金、当座預金、小切手
詳細：現金取引、預金取引があった場合の仕訳処理を習得することが主たるテーマである。どのような企業であっても、現金取引、預金取引がないということはないはずである。典型的な例を想定しながら、現金が増加した場合、減少した場合、また、預金が増加した場合、減少した場合のそれぞれについて、会計処理を理解することが重要である。
<第4講>　5.商品売買
概要：販売用の商品の受け払いに伴う取引について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：売掛金、買掛金
詳細：商品を販売したとき、仕入れたときの仕訳処理を習得することが主たるテーマである。商品を販売した場合、現金や金銭債権を入手すると同時に、売上が計上される。現金や金銭債権の増加だけを記録すると、その原因は何なのかがわからなくなってしまうが、同時に売上を計上することによって、現金や金銭債権の増加の原因が販売（売上）であることがデータとして蓄積されていくのである。
<第5講>　5.商品売買（続き）　6.手形取引
概要：商品の戻りなどの特殊な処理と手形取引について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：値引き、返品、手形
詳細：商品の値引、返品があった際の仕訳処理と、手形取引の意義、手形取引があった際の仕訳処理を習得することが主たるテーマである。
<第6講>　7.有価証券
概要：有価証券の受け払いに伴う取引ついて学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：売買目的有価証券
詳細：企業が有価証券を保有する理由はさまざまであるが、そのうち、トレーディング目的で有価証券を購入・売却した場合をとりあげ、売買取引に際しての仕訳処理を習得することが主たるテーマである。
<第7講>　8.固定資産　9.租税公課　10.資本と引出金
概要：固定資産、税金、資本にかかる取引ついて学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：有形固定資産
詳細：有形固定資産の購入、税金の支払い及び資本を引き出した場合の仕訳処理を習得することが主たるテーマである。企業がその活動にあたって取得するモノ、サービスにはさまざまなものがあるが、短期的に消費されるものだけでなく、長期にわたって利用されるものもある。そのようなモノを購入した場合に、どのような会計処理を行うのか、（また、詳しくは後の授業で取り扱うが）そのようなモノを日常的に費用化することが妥当か否かについて検討する。
<第8講>　11.その他の債権・債務
概要：各種の債権・債務の取引について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：未払金、未収金
詳細：各種の債権・債務が発生した場合の仕訳処理を習得することが主たるテーマである。たとえば、仮払金、立替金、前払金、未収金、仮受金、前受金、未払金など、さまざまな債権・債務があるが、これらがすでに学習した売掛金・買掛金とどのように区別されているのかをマスターすること。
<第9講>　12.転記のルール　13.帳　簿
概要：仕訳により会計記録した情報を整理するための転記と帳簿の作成を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：総勘定元帳、普通仕訳帳
詳細：会計情報を整理するための手法である「転記」の仕組みと帳簿の記入について理解する。簿記の仕組みは、もともとはEXCELなどがない時代（手書きの時代）に発達したものである。そのような状況下で、いかにミスを減らすか、効率的に集計するかが工夫され、それはコンピューターが発達した現在でも用いられている。歴史がすすむ中でどのような方法が編み出されていったのか、それはどのような趣旨によるものなのかを理解することが求められる。
<第10講>　14.伝票会計
概要：伝票を使った会計記録の処理を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：伝票
詳細：反復的に発生する取引を合理的に記録するための伝票会計の手法を習得することが主たるテーマである。
<第11講>　15.試算表の作成
概要：全ての勘定記録の一覧表である「試算表」の使い方を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：試算表
詳細：記録された会計情報が間違いなく集計されているのかを確かめるために作成する試算表の意義を理解することが主たるテーマである。また、実際に集計し、その意味を確認することが必要である。
<第12講>　16.決算整理の処理方法
概要：決算整理のための仕訳について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：決算整理
詳細：一会計期間の会計情報をとりまとめるための処理である「決算」について、その手法を習得する。また、減価償却費の計上や前払費用の計上など、会計独特の処理について、なぜそのような処理を行うのかを理解し、実際に会計処理を行うことができるようになることが求められる。
<第13講>　17.精算表の作成
概要：決算整理のワークシートである「精算表」の使い方を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：精算表
詳細：「精算表」の使い方を習得することが主たるテーマである。実際に精算表に記入していくことで、精算表がどのように構成されているのかを理解することが求められる。
<第14講>　18.帳簿の締め切り
概要：決算の確定をするための帳簿の締め切りについて学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：（帳簿の）締切
詳細：一会計期間の会計情報の確定を行う帳簿の締め切り方法を習得することが主たるテーマである。
<第15講>　（総まとめ）
概要：総合問題の演習を行う。
事前学習しておくべき用語やポイント：第14講までの内容を復習しておくこと。
詳細：総合問題である試算表問題、精算表問題の解き方を理解する。

■教科書

[1]滝澤ななみ　『スッキリわかる日商簿記3級』　TAC

■指定図書

[1]福島三千代『サクッとうかる日商3級商業簿記テキスト』　ネットスクール
[2]福島三千代『サクッとうかる日商3級商業簿記トレーニング』　ネットスクール
[3]福島三千代　『すいすい♪簿記マンガみてGO！日商簿記3級』　ネットスクール
[4]桑原知之　『日商簿記3級 とおるテキスト 商業簿記』　ネットスクール
[5]桑原知之　『日商簿記3級 とおるゼミ 商業簿記』　ネットスクール
[6]ネットスクール（編著）　『日商簿記検定　過去問題集3級　出題パターン解き方』　ネットスクール
[7]滝澤ななみ　『プラス8点のための問題演習 日商簿記3級』　TAC出版

■参考文献

堀川洋　『日商簿記受験生のための電卓操作完ぺき自習帳-これで楽勝合格総得点20点アップのトラの巻』　とりい書房

■参考URL

■評価方法

授業内で実施する試験の成績により評価する。なお、授業内での積極的な発言等については加点事由とする。

■評価基準

ミニテストおよび期末試験の成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、ミニテストおよび期末試験の得点順に成績評価する。なお、相対評価である。

■事前履修科目等

この講義の受講に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしないが、講義の受講にあたっては、「ビジネス入門Ⅱ」の科目が履修済みであることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

本講義は、半期（15回の講義）で完結する講義を春学期と秋学期の年2回開講する。内容は全く同じなのでどの学期に受講しても構わないが、この科目の発展科目である「中級簿記」は秋学期にしか開講しないので、連続して受講を希望する場合、「初級簿記」は春学期に履修することが望ましい。

科目名　女性のためのキャリアデザイン（Career Design for Women）

サブタイトル　自分らしい働き方の成功モデルをつくる

担当教員　安藤　美冬

■講義目的

ワーク・ライフバランス、パラレルキャリア、マイクロ起業……。「キャリア」を取り巻く様相は近年めまぐるしく変化しています。デジタルデバイスの発達によって時間や場所の制約を受けない働き方が実現したり、アジアなど海外就職を目指す若者も増えています。結婚、出産、親の介護などライフステージによって働き方に影響を受けやすい女性たち。ライフプランを保ちながら、「やりがい」を追求する幸せな働き方の成功モデルを探って行きます。なお、本講義はゲスト講師を数多く招き、実際の仕事現場の話を伺うことによって、より具体的なキャリアデザインを描けるようにサポートしていきます。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人力育成

■到達目標

・誰かの真似ではない、自分だけのキャリアデザインを描く
・結婚、出産、親の介護など、来るべきライフステージに備える

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： 女性のためのキャリアデザイン概論
事前学習しておくべき用語やポイント[ワーク・ライフバランス　パラレルキャリア　マイクロ起業]
詳細：第一回目の講義として、まずは現代の女性を取り巻く日本の仕事事情を扱います。また、ここ数年で新しい働き方として一般的にも知られるようになった「ワーク?ライフバランス」「パラレルキャリア」などの用語解説を行います。
<第2講>
概要： 女性と仕事とライフステージ
事前学習しておくべき用語やポイント[ライフステージ]
詳細：「イクメン」「主夫」という単語が話題をさらうものの、まだまだ出産を経た育児は女性の手にゆだねられがちです。保育園、ベビーシッターや母親の力を借りながらキャリアを維持するキャリアウーマンの苦労話も絶えません。2回目の講義では、結婚、出産や育児など多くの女性が通る「ライフステージ」と、ステージ別のキャリアパスについて考えていきます。
<第3講>
概要： 働く女性のロールモデルを見つける
事前学習しておくべき用語やポイント[ブランドハプンスタンス理論]
詳細：社会に出てどのように仕事とつきあっていくのか。どんな仕事をするか、いくら稼ぐか、誰と仕事をするか、いつどのように仕事の転機を乗り越えるのか……。こうした疑問を解決する手助けになるのが、「ロールモデル」を見つけることです。実際に社会に出て活躍している女性の事例を上げながら、多様なロールモデルについて学んで行きます。
<第4講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[資格　タイムマネジメント　]
詳細：女性のゲスト講師をお招きして、実体験に基づいた話をしてもらいます。今回の講義では、某女性向けキャリア雑誌の編集長をお招きして、最新の就職、転職、資格取得事情について話を伺います。
<第5講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[キャリアプランニング　]
詳細：女性のゲスト講師をお招きして、実体験に基づいた話をしてもらいます。今回の講義では、某日系企業に就職したOLさんなど数名をお招きして、大学時代にどんなキャリアデザインを行ったのか、なぜ現在の会社を選んだのか、そして現在どのような仕事を手がけているかについて話を聞いていきます。
<第6講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[プロフェッショナル　専門性　]
詳細：女性のゲスト講師をお招きして、実体験に基づいた話をしてもらいます。今回の講義では、大学卒業後に一般企業で働いた後、資格を取得して「手に職」を持ちながら転職を成功させた女性に登壇してもらいます。資格について、仕事と勉強の両立について、専門知識を身につけることについてなど、多様な切り口でお届けしていきます。
<第7講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[起業　セーフティーネット　]
詳細：女性のゲスト講師をお招きして、実体験に基づいた話をしてもらいます。今回の講義では、 大学卒業後に一般企業で働いた後、「自分の得意なこと」を生かして独立を果たした女性に登壇してもらいます。どうやって好きなことや得意なことを見つけたのか、独立の際の苦労話、仕事のやりがいなど様々な観点でお話いただきます。
<第8講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[女性活用　男女雇用機会均等法　賃金格差　]
詳細：今回は「ワークスタイル」「キャリア」について専門的に取材を続けているジャーナリスト（記者）に講義に参加していただき、日本の最新キャリア事情について話をしてもらいます。一向に進まない企業における女性活用や出世?賃金の男女差別、ひとたび専業主婦になることによってキャリアを再スタートさせることの難しさなど、社会問題をひも解きながら解説をしてもらいます。
<第9講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[ハイスキルマザー　生涯賃金　ワーキングプア　]
詳細：女性のゲスト講師をお招きして、実体験に基づいた話をしてもらいます。今回の講義では、大学卒業後にメディア企業にて働いた後、「高学歴、高スキルの専業主婦」を束ねて一度キャリアのレールから外れたママ女性たちのキャリア支援を行う事業を立ち上げた女性に話を聞いていきます。独立の経緯、社会起業家としての仕事のほか、なぜ専業主婦が再度仕事をするのが難しいのか、様々な観点で話を聞いていきます。

<第10講>
概要：ミニレポート
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと　]
詳細：これまでのゲスト講師の話を振り返り、講義内でミニレポートを提出していただきます。

<第11講>
概要： 自分のキャリアデザインを考える①
事前学習しておくべき用語やポイント[whatからhowへと思考を変換させる　]
詳細：ワークシートを元に、グループになって意見を交換し合いながら、自分にとっての理想の働き方の成功モデルをつくっていきます。
<第12講>
概要： 自分のキャリアデザインを考える②
事前学習しておくべき用語やポイント[定年70歳時代をどう乗り切るか　マネープラン]
詳細：前回同様、ワークシートを元に、グループになって意見を交換し合いながら、自分にとっての理想の働き方の成功モデルをつくっていきます。
<第13講>
概要：私の理想のキャリアデザイン プレゼン①
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと　]
詳細：前々回、前回の講義を受けて、個別に「自分の幸せなキャリアデザイン」について発表をしてもらいます。
<第14講>
概要： 私の理想のキャリアデザイン　プレゼン②
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと　]
詳細：前回同様、個別に「自分の幸せなキャリアデザイン」について発表をしてもらいます。
<第15講>
概要： 女性のためのキャリアデザインまとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[2025年の働き方　ライフワーク　]
詳細：第一回目から全15回に渡って講義をしてきた「女性と仕事」について、これまでの重要キーワードやゲスト講師の名言の引用などを行いながら、総まとめをおこないます。

■教科書

『僕たちはこうして仕事を面白くする』安藤美冬ほか（NHK出版）
『ワーク・シフト』リンダ・グラットン

■指定図書

『新しい働き方を考えよう』ちきりん（文芸春秋）

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、出席（50%）、レポート、プレゼンテーション（50%）により行います。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座を受講される学生は、基本的に女性限定といたしますが、やる気のある男性も受講可といたします。

科目名　数字力で語る（How Basic Mathematics apply to the World）

サブタイトル

担当教員　深沢　真太郎

■講義目的

数字で語れないビジネスマンがなぜこうも多いのか。理由はいたってシンプル。ビジネスで使う数的思考が何かを指導する場がないからだ。

「学校数学が苦手だったからから私は数字に弱い」と自動的に認識してしまうビジネスマンが多いことも問題であろう。

この科目は、受験や就活に通るための数学的知識ではなく、社会で生きていくために必要な数的思考とは何かを基礎から学ぶものである。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

（1）四則演算の意味や操作術など根本から理解し、数字=ビジネスでの言語と捉える
（2）良いのか悪いのか、高いのか安いのか、数的根拠をもって評価できる
（3）数字やグラフを用いて、説得力ある説明ができる
（4）就職活動時に受験するＳＰＩ試験対策の基礎を終える

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：レクチャーフェーズ：四則演算、分数、小数の扱い
事前学習しておくべき用語やポイント[四則演算、分数や小数の計算]
詳細：意味を理解せず機械的に四則演算をしていても、学生時代の試験では使えてもいざビジネスの現場では有効に使えない。今さら聞けない「そもそも」の意味からまずは理解する。さらに、苦手意識の高い分数・小数の基礎と計算についても多くの演習を通じてその意味合いと計算方法を理解する。
<第2講>
概要：レクチャーフェーズ：割合を自在に操る
事前学習しておくべき用語やポイント[割合、食塩水の濃度、%]
詳細：ビジネスで最も使う数字は実は割合（%）。しかし、数字に弱いビジネスマンはほぼこの「割合」を武器にできず、ときにミスリードすることも。なぜ「割合」が必要なのか、計算結果は何を意味するのか、ビジネスではどう使われているのかを理解する。
<第3講>
概要： レクチャーフェーズ：お金の計算各種（損益計算、精算問題、分割払い等）
事前学習しておくべき用語やポイント[定価・原価・利益・割引・清算]
詳細：どんな仕事に就こうと、お金の計算は避けて通れないテーマ。恥をかき、損をすることがないよう今から基礎を身に付けておく。特に損益計算は社会で生きていくうえで極めて重要な概念ゆえ、時間を多く割いてレクチャーする。
<第4講>
概要：レクチャーフェーズ：場合の数、順列、組み合わせ
事前学習しておくべき用語やポイント[場合の数、順列、組み合わせ]
詳細：「何通りか」を数え上げる局面は普段の生活においても頻繁にある。しかし、順列や組み合わせの公式を暗記しただけで理屈がわかっていない者は、いざという時にこれを数えることができない。本講座ではまず理屈を理解し、演習問題も多く用意する。また、「場合分け」の重要性についても触れる。
<第5講>
概要： レクチャーフェーズ：３種類の確率、期待値計算
事前学習しておくべき用語やポイント[確率、期待値]
詳細：確率という言葉は我々にとって馴染み深いものであるが、その意味を正確に理解できている社会人は意外に少ない。確率には３種類あるというそもそもの概念を理解したうえで、ビジネスで実際に使える確率についてレクチャー。最終的には期待値計算を実践し、その有効性を理解する。
<第6講>
概要： レクチャーフェーズ：集合、推論
事前学習しておくべき用語やポイント[集合、推論、命題、対偶]
詳細：ＳＰＩ試験でも必出のテーマである「集合」は整理の問題である。「整理上手はビジネス上手」をコンセプトに、小学校~中学校で学んだ解き方以外のアプローチを考える。
また別テーマとして、与えられた条件から推理し、正しいか否かを判断する推論問題も取り上げ、単なる数字の操作だけではなく論理的思考力の養成を図る。
<第7講>
概要： レクチャーフェーズ：単位変換、速さ、仕事算
事前学習しておくべき用語やポイント[速さ、距離、時間、出会い算、流水算、仕事算]
詳細：数字の単位を換える操作はビジネスにおいても極めて有効な数的操作である。そのエッセンスは、実は算数で学ぶ速度算でほとんど得ることができる。算数で登場した速度算や仕事算を通じて、日常やビジネスシーンでは数字の単位を換えることで絡まった糸が解けることがあることを体感する。
<第8講>
概要：レクチャーフェーズ：平均値、その他統計指標の意味
事前学習しておくべき用語やポイント[平均値、移動平均、加重平均、中央値、標準偏差]
詳細：平均値を求めることはできても、「平均とは何か」という問いに対して答えに詰まる学生や社会人はとても多い。本質が理解できていなければ、社会に出てから頻繁に目にするであろう「平均〇〇値」という指標のメッセージも正しくキャッチできない。本講座では平均値とは何かというテーマから入り、統計リテラシーを身に付けるベースを作る。
<第9講>
概要： レクチャーフェーズ：グラフの活用法
事前学習しておくべき用語やポイント[円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ]
詳細：グラフを作るのは「自分」ではなく「表計算ソフト」が実態。これは、人間がグラフの意味やその用途を知らないまま使っていることを意味する。結果、伝わりにくいグラフでプレゼンすることになる。間違ったグラフの使い方などを事例で紹介し、相手に伝えるためには数字とグラフがいかに重要であるかを理解する。
<第10講>
概要：演習フェーズ：数字を情報に変える-1（割合、指数の活用）
事前学習しておくべき用語やポイント[割合、指数]
詳細：指数という考え方を理解する。そのうえで、企業の業績伸び率などから良い・悪いを数字で評価するトレーニングを行う。ビジネスでは学生時代とは異なり、数字（結論）を出して終わりではなく、そこから何が言えるのかを導き出すことが極めて重要であることを理解する。
<第11講>
概要：演習フェーズ：数字を情報に変える-2（単位変換の活用）
事前学習しておくべき用語やポイント[単位変換　〇〇あたり]
詳細：いくつかの大手企業の大まかな数字を素材として用意し、どの企業がどういう点で優れているのか、劣っているのかを数字から見出すトレーニングを行う。〇〇あたり、といった新たな数字を自ら創り出し、評価していく方法を学ぶ。
<第12講>
概要：演習フェーズ：数字を使って捉える（平均値、フェルミ推定の活用）
事前学習しておくべき用語やポイント[平均値、フェルミ推定]
詳細：ビジネスに必要な数的思考の応用編として、フェルミ推定を紹介。いくつかの事例で体感した後、総合演習として市場規模の推定にチャレンジ。捉えどころのない数字をインターネットからの情報や数的操作を用いて概算で捉えていく手法を学ぶ。
<第13講>
概要：演習フェーズ：数字を使って伝える（グラフ、単位変換の活用）
事前学習しておくべき用語やポイント[グラフ　単位変換]
詳細：売上げが減少している企業の数字をどうポジティブに見せるか、誰もが「高い」と思う商品をどうやって「安い」と思わせるか等、難しい局面においても数字を上手に使って伝えるための演習を行う。この体験を通じて、このようなことができるか否かがビジネスの成否を決めるのだと理解する。
<第14講>
概要：演習フェーズ：総合演習
事前学習しておくべき用語やポイント[過去の講義内容]
詳細：本講義の総合演習としてグループワークを実施。テーマを3テーマほど提示し、スライド等でアウトプットを作成。講義中に学生よりプレゼンを行う。
<第15講>
概要： 試験
事前学習しておくべき用語やポイント[過去の講義内容　]
詳細：ＳＰＩ試験対策を兼ねた計算問題と、ビジネスで使う数的思考の確認問題を半々のバランスで実施。60分間~90分間の筆記試験とする。

■教科書

テキストは毎回配布する

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

評価は、最終講義での試験(50%)、レポート(20%)、出席(30%)により行う.

■評価基準

相対評価

A+ ：5%
A ：25%
B ：30%
C ：30%
F ：10%

最終講義での試験は点数のみで評価。
レポートは次の3点から評価する。
(1)数的操作（計算ミスなど）にエラーがないか
(2)主張に対する数的根拠が述べられているか
(3)表や図が適切に使われているか

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

前半はいずれ直面する就職活動での筆記試験対策にもなり、後半での演習フェーズではレポートを提出し評価にも大きく反映させます。毎回出席することが極めて重要である。

科目名 スタディーアブロードⅠ～Ⅷ(Study Abroad Ⅰ～Ⅷ)

サブタイトル 志を持って海外で活動する学生のための単位認定

担当教員 中村　その子

■講義目的

原則として、大学が認定した海外留学に参加した学生が、留学先で取得した単位を多摩大学の正規の単位として読み替えるための科目である。ただし大学が認定した海外での活動で顕著な成果をあげた学生に授与される場合もある。いずれの場合も担当教員との事前面談、審査と学習、事後学習、審査、成果報告が必須である。事前面談、審査、学習、事後学習、審査、報告、については学期開始後にＴ－ｎｅｘｔなどを通して学生に周知される予定である。
また、原則として海外活動、地域関連活動に関連して大学で実施される諸プログラムに参加して教員の認定を受けた学生の単位認定にも用いられる場合がある。

■講義分類

グローバルビジネス
語学・コミュニケーション

■到達目標

(1)　自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、提案できる　＝　発信
(2)　相手からの発信を正確に理解し、状況に応じて的確な処理が行える　＝　受信
(3)自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献など)を検索し、内容を読み取って利用できる＝　情報理解
(4)社会の課題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける
（5）グローバリズムに対する正しい知識と、地球人として自分の志を実現するための社会における人間力を留学を通して身につける。
（6）海外において、多摩大学の学生にふさわしい志を持って何らかの顕著な活動を行い、産業社会の問題解決につながる大きな成果を残す。

■講義形態

その他(　海外への留学またはそれに相当する活動)：学外学習が伴う場合がある。

■講義の概要

※事前学習しておくべきポイント：留学先教育機関の単位認定制度を確認すること。
経営情報学部認定留学プログラム、または（および）グローバルスタディーズ学部認定留学プログラムに参加し、この科目の単位を取得することができる。また、大学が認定した海外ので活動で、顕著な成果をあげた学生、海外活動、地域関連活動に関連して大学で実施される諸プログラムに参加して、教員の認定を受けた学生の単位授与にも用いられる場合がある。
この科目の単位取得に関係するプログラムに参加希望の学生は、Ｔ－ｎｅｘｔ上に掲載される関連情報やお知らせを注意深くチェックし、指示が出たら、担当教員中村そのこ sonoko-n@tama.ac.jpに必ずメールでコンタクトを取ること。出発前教員と充分に相談をし、入念な準備をする必要がある。このコンタクトがない場合はプログラムに参加することはできない。
言い換えると、たとえば夏休みの留学プログラムに参加したい場合、夏休み直前に、急に参加したいと言っても参加することはできない。

■教科書

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

留学先教育機関での単位認定を多摩大学の単位として読み替える。または国内外での活動の内容を審査することにより、それにふさわしい単位数を原則として認定する。

■評価基準

留学先教育機関の単位認定制度に原則として準じる。または、海外での活動内容を担当教員が審査、評価する。多摩大学の学生にふさわしい志をもって産業社会の問題解決が行えたかどうかが重視される。

■事前履修科目等

English Expression
Basic Office English
Practical English Conversation
TOEIC
海外活動英語コミュニケーション
を履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　スポーツⅠ(Sports Ⅰ)

サブタイトル　sports　Ⅰ　/　Ⅱ

担当教員　杉田　文章、梅澤　佳子、境　広志、福角　有紘

■講義目的

目的(1)
　スポーツが普遍的に持つ文化的価値を学び、理解し、この価値を享受する能力を身に着けることによって、生涯にわたり健全で社会と良好な関係性を構築できる人格を育成すること。履修のプロセスにおいてさまざまな対人関係的な諸問題の解決方法を体験するだけでなく、ひいてはこれが社会人としてチームで行動する際の人間力の基礎にもなるものと期待している。
目的(2)
　ビジネスにおけるコミュニケーションの力そのものを醸成すること。スポーツ活動のプロセスでは、個人種目においても集団種目においても、対人、対集団両方の「人に向き合う」能力が必要とされる。履修者にはぜひこの目的についてもよく理解したうえで取り組んでもらいたい。
目的(3)
　スポーツでは自分の身体的側面にも向き合わざるを得ない。　さまざまなコンディション、能力、潜在的な可能性・・自分の「カラダ」に関心を持ち、向き合う態度を養うことによって生涯スポーツへの橋渡しの目的を意識して行う。

■講義分類

顧客理解　ビジネス環境理解　ビジネス創造　ビジネスマネジメント　社会人力育成

■到達目標

① 講義への参加によりスポーツへのより深い理解に到達すること。
② 自らが組織的活動に参画し貢献できる力を身につけること。
③ 集団で共有される「規範」を、自らも尊重し集団・組織と良好な関係を構成することができるようになること。
④ 履修した種目特有の文化に触れ、これを深く理解し、将来にわたってこの種目と接していくための基礎を築くこと。
⑤ 心身ともに健康で安寧な状態を作り、維持する習慣を身につけること。

■講義形態

講義およびその他（実技学習）
学外実習を含むクラスもある。
（詳細については、ガイダンス等を参照されたい）：

■講義の概要

事前に履修するクラスの種目を確認し、以下について調べ、もしくは考察したうえで受講すること。
① 種目の文化的特性、特徴
② 大まかなルール
③ 当該種目を学ぶ意義

① 2014（平成26）年度に　開講する予定の種目は以下の通りである。
　スポーツⅠ　：　テニス／バドミントン／シェイプアップフィットネス／フットサル
　スポーツⅡ　：　テニス／バドミントン／スポーツプレゼンテーション／ゴルフ／フットサル
② それぞれのクラスの概要については、ガイダンス時に詳しく説明を行う。
　クラスの配置、内容、それぞれにおける注意点については、下記サイトに掲載予定。
　https://sites.google.com/a/tama.ac.jp/2014sports/

■教科書

各クラスにて、必要に応じて指示します。

■指定図書

各クラスにて、必要に応じて指示します。

■参考文献

各クラスにて、必要に応じて指示します。

■参考URL

■評価方法

主に次の点で評価を行う
① 出席状況
② 講義の目的を理解し、その達成のために努力した度合い
③ そのた講義内で課された課題の達成度

■評価基準

絶対評価により評価する

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科 目 名　スポーツII（Sports II）

サブタイトル　sports　I　/　II

担当教員　杉田　文章、梅澤　佳子、境　広志、福角　有紘

■講義目的

目的(1)
　スポーツが普遍的に持つ文化的価値を学び、理解し、この価値を享受する能力を身に着けることによって、生涯にわたり健全で社会と良好な関係性を構築できる人格を育成すること。履修のプロセスにおいてさまざまな対人関係的な諸問題の解決方法を体験するだけでなく、ひいてはこれが社会人としてチームで行動する際の人間力の基礎にもなるものと期待している。
目的(2)
　ビジネスにおけるコミュニケーションの力そのものを醸成すること。スポーツ活動のプロセスでは、個人種目においても集団種目においても、対人、対集団両方の「人に向き合う」能力が必要とされる。履修者にはぜひこの目的についてもよく理解したうえで取り組んでもらいたい。
目的(3)
　スポーツでは自分の身体的側面にも向き合わざるを得ない。　さまざまなコンディション、能力、潜在的な可能性・・自分の「カラダ」に関心を持ち、向き合う態度を養うことによって生涯スポーツへの橋渡しの目的を意識して行う。

■講義分類

顧客理解　ビジネス環境理解　ビジネス創造　ビジネスマネジメント　社会人力育成

■到達目標

①　講義への参加によりスポーツへのより深い理解に到達すること。
②　自らが組織的活動に参画し貢献できる力を身につけること。
③　集団で共有される「規範」を、自らも尊重し集団・組織と良好な関係を構成することができるようになること。
④　履修した種目特有の文化に触れ、これを深く理解し、将来にわたってこの種目と接していくための基礎を築くこと。
⑤　心身ともに健康で安寧な状態を作り、維持する習慣を身につけること。

■講義形態

講義およびその他（実技学習）
学外実習を含むクラスもある。
（詳細については、ガイダンス等を参照されたい）：

■講義の概要

事前に履修するクラスの種目を確認し、以下について調べ、もしくは考察したうえで受講すること。
①　種目の文化的特性、特徴
②　大まかなルール
③　当該種目を学ぶ意義

①　2014（平成26）年度に　開講する予定の種目は以下の通りである。
　スポーツⅠ　：　テニス／バドミントン／シェイプアップフィットネス／フットサル
　スポーツⅡ　：　テニス／バドミントン／スポーツプレゼンテーション／ゴルフ／フットサル
②　それぞれのクラスの概要については、ガイダンス時に詳しく説明を行う。
　クラスの配置、内容、それぞれにおける注意点については、下記サイトに掲載予定。
　https://sites.google.com/a/tama.ac.jp/2014sports/

■教科書

各クラスにて、必要に応じて指示します。

■指定図書

各クラスにて、必要に応じて指示します。

■参考文献

各クラスにて、必要に応じて指示します。

■参考URL

■評価方法

主に次の点で評価を行う
①　出席状況
②　講義の目的を理解し、その達成のために努力した度合い
③　そのた講義内で課された課題の達成度

■評価基準

絶対評価により評価する

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 スポーツと健康(Sports and Health)

サブタイトル

担当教員 境　広志

■講義目的

運動やスポーツは、アスリートだけでなく一般の幅広い年齢の人々が参加をし、健康の維持・向上や生活習慣病をはじめとした疾病の予防など、さまざまな目的を持って行われている。運動やスポーツを日常生活に習慣化して健康を維持・向上させていくことは、社会人基礎力を発揮して社会に貢献していくためにも大切であり、自分自身の生活の質の向上や豊かな人生へと導いてくれることへもつながっていく。本講義では、安全にそして効果的に運動やスポーツを実施するために必要な、身体の骨格筋や神経、呼吸・循環器系、ホメオスタシス、栄養・エネルギー、トレーニング、運動医学に裏付けられた運動処方についてなどの知識を学ぶことを目的としている。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

①　筋肉の構造や収縮のしくみ、運動時の筋肉へのエネルギー供給、筋肉の働きを制御している神経の働きなどについて理解する。
②　呼吸器の調節やガス交換などの呼吸の働き、運動強度、酸素摂取量、酸素借、酸素負債について理解する。
③　心臓の構造や循環経路、運動と血圧、血流再配分、末梢循環系などについて理解する。
④　ホメオスタシスに重要な浸透圧、pH、腎臓の機能、体温調節などについて理解する。
⑤　栄養素の働きと運動との関わり、体内のエネルギー代謝について理解する。
⑥　トレーニングの原理・原則、身体機能の適応、安全なトレーニング(ウォームアップとクーリングダウン)などについて理解する。
⑦　生活習慣病に対する運動の効果、運動処方の実際について理解する。

■講義形態

講義のみ
：学外学習無

■講義の概要

<第1講>ガイダンス
授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、評価基準の説明、講義内容に関するミニテストの実施。
事前学習しておくべき用語: 特になし
シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。授業の全体像や進め方、評価基準等について確認すること。
<第2講>運動器のしくみ～骨格筋～
関節のしくみ、筋収縮の様式、筋の構造、筋収縮のメカニズム、筋収縮のエネルギー、筋線維のタイプについて学習する。
事前学習しておくべき用語: 骨格筋、腱、靭帯、屈筋と伸筋、主動筋と拮抗筋、短縮性収縮、等尺性収縮、伸張性収縮、筋線維、筋小胞体、ミトコンドリア、アクチンフィラメント、ミオシンフィラメント、α運動神経、ATP、ATP-CP系、解糖系、有酸素系、ST線維、FT線維
<第3講>運動器のしくみ～神経系～
運動単位、運動のコントロール、小脳による調整、力の種類とトレーニングについて学習する。
事前学習しておくべき用語: 運動単位、神経支配比、サイズの原理、錐体路系、錐体外路系、筋紡錘、ゴルジ腱器官、小脳、筋力、筋パワー、筋持久力、アセチルコリン
<第4講>運動と心肺機能～呼吸器系～
呼吸の調節、ガス交換、酸素借と酸素負債、運動強度と最大酸素摂取量、トレーニングによる呼吸機能の向上について学習する。
事前学習しておくべき用語: 呼吸中枢、呼吸筋、頸動脈小体、1回換気量、毎分換気量、ヘモグロビン、酸素借、酸素負債、最大酸素摂取量
<第5講>運動と心肺機能～循環器系～
心臓の拍動、心拍動の調節、4つのポンプ機能、運動と血圧・血流配分について学習する。
事前学習しておくべき用語: 洞房結節、刺激伝導系、P波、QRS波、T波、交感神経、副交感神経、スポーツ心臓、動脈ポンプ、筋ポンプ、胸郭ポンプ、ミルキングアクション、エコノミークラス症候群、血圧、運動後低血圧
<第6講>運動とホメオスタシス～体液～
身体の内部環境、体液科と組成、水分量の調節と腎臓、運動とホメオスタシス、脱水について学習する。
事前学習しておくべき用語: 細胞外液、ホメオスタシス、浸透圧、pH、不感蒸泄、腎臓、不可避尿、糸球体、血流再配分、抗利尿ホルモン、脱水、自発性脱水
<第7講>運動とホメオスタシス～体温～
体液のpHの調節、体温のホメオスタシス、熱の産生と放散、体温調節、運動と体温調節、熱障害について学習する。
事前学習しておくべき用語: 酸塩基平衡(pH)、化学的緩衝機構、呼吸性緩衝機構、腎性機構、核心温度(深部体温)、外殻温度、熱産生と熱放射、行動性体温調節、自律性体温調節、温熱性発汗、気化熱、熱中症
<第8講>運動と栄養素
食品の栄養素、栄養素の働きと運動、糖質と脂質の利用、グリコーゲンの補給、タンパク質の働きについて学習する。
事前学習しておくべき用語: 糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、必須アミノ酸、グリコーゲン、中性脂肪、GULT4など]
<第9講>トレーニングと栄養
ミネラル・ビタミン・水、食事摂取基準、エネルギー消費量、食事への展開、グリコーゲン・ローディングについて学習する。
事前学習しておくべき用語: 水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、活性酸素、日本人の食事摂取基準(厚生労働省)、基礎代謝、食事誘発性体熱産生、METs、食事バランスガイド(厚生労働省)、グリコーゲン・ローディング
<第10講>トレーニングの理論～全身持久力～
トレーニングとは、トレーニングの原理・原則、全身持久力のトレーニング(カルボーネン法)、高地トレーニングについて学習する。
事前学習しておくべき用語: トレーニングの原理・原則、HRmax法、カルボーネン法、無酸素性作業閾値(AT)、高地トレーニング、世界反ドーピング機関(WADA)
<第11講>トレーニングの理論～筋力トレーニング～
筋力のトレーニング、スキルのトレーニング、ウォームアップとクールダウン、トレーニングと休息について学習する。
事前学習しておくべき用語: 筋力、筋パワー、筋持久力、ウォームアップ、クーリングダウン、超回復の法則、積極的休息、メンタルトレーニング
<第12講>運動と生活習慣病
運動の種類と生理的変化、運動と肥満、運動と糖尿病、運動と脂質代謝、運動と高血圧、運動と骨粗鬆症について学習する。
事前学習しておくべき用語: 生活習慣病、内臓脂肪型肥満、皮下脂肪型肥満、リバウンド、2型糖尿病、インスリン、脂質代謝異常、トリグリセリド(中性脂肪)、HDLコレステロール、LDLコレステロール、高血圧症、骨粗鬆症
<第13講>健康の維持・増進～運動処方～
運動処方とは、トレーニングの原理、メディカルチェック、運動処方の構成要素、運動プログラムの進め方について学習する。
事前学習しておくべき用語: 運動処方、トレーニングの原理、メディカルチェック、運動負荷試験、ST低下(心電図)、不整脈、自覚的運動強度(RPE)、健康づくりのための運動指針(厚生労働省)
<第14講>授業内テスト
第2講から第13講までに学習した内容の理解度を確認する授業内テストを実施する。
事前学習しておくべき用語: 特になし
これまでに学習した内容すべてを把握しておく。
<15講>全体のまとめ
授業内テストの解答と解説を行う。
事前学習しておくべき用語: 特になし

■教科書

特に教科書は使用しない。毎回レジュメを配布する。

■指定図書

講義の中で紹介する。

■参考文献

講義の中で紹介する。

■参考URL

■評価方法

出席状況(態度・取組状況を含む)が20%、第14講で実施する授業内テストが80%を基本としつつ、事前学習への取組状況などの積極性をプラスに評価する。

■評価基準

出席状況: 講義終了時に提出する小レポートによる出席状況および小レポートの記載内容による取組状況の評価が含まれる。
授業内テスト: 毎回のテーマの概略を理解できているか、キーワードを用いて学習内容を論理的に説明できるかが評価の基準となる。
相対評価: 学内の基準に基づいた相対評価方法にて評価する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

本講義での学習においては、運動生理学、運動生化学、トレーニング学、健康教育学、スポーツ医学などで使用する科学的な専門用語がたくさん出てくる。講義内容を理解するためにも、「事前学習しておくべき用語やポイント」で挙げているキーワードを事前にていねいに調べて予習をしておくことを望みたい。

科目名　世界と日本のエネルギー問題Ⅰ(Energy Challenges for the World and Japan Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　十市　勉

■講義目的

東日本大震災と福島第一原発事故を契機に、電力や石油など国民生活、経済活動に不可欠なエネルギー需要と供給のあり方が国民的な課題になっています。本講義では、石油や天然ガス、石炭の化石燃料、原子力発電や再生可能エネルギー、省エネルギーなどの基礎知識を学び、社会人基礎力と問題解決能力を身につけることを目的とします。

■講義分類

ビジネス環境理解　ビジネスマネジメント　社会人力育成　　グローバルビジネス

■到達目標

エネルギー問題の基礎知識を習得し、世界潮流の中で日本のエネルギー問題を理解できるようにする。

■講義形態

講義 + PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講> オリエンテーション
概要：教員自己紹介、講義の進め方、講義全体の要点の説明
事前学習の用語やポイント[日本のエネルギー政策、原子力発電、再生可能エネルギー]
詳細：できるだけ受講生が興味を持つテーマを取り上げるため、講義時間の最後に、各人の関心事項や疑問点などをアンケート用紙に記入してもらい、次回授業の冒頭で答える。
<第2講>大震災・原発事故と日本のエネルギー問題
概要： いま日本が直面しているエネルギー問題の現状と課題
事前学習の用語やポイント[日本のエネルギー政策、原子力発電、再生可能エネルギー]
詳細：大震災・原発事故で電力の供給不安と料金値上げが起きており、日本社会が直面しているエネルギー問題の現状を理解し、その解決にどう取り組むかを考える。
<第3講>エネルギーと産業社会
概要： 経済活動とエネルギーについての基礎
事前学習の用語やポイント[経済成長とエネルギー、暮らしとエネルギー]
詳細：エネルギーの定義、エネルギー需要と経済成長の関係などについて、経済学的な視点から考える。
<第4講>石油資源はいつ枯渇するか
概要： 世界の石油の埋蔵量や生産、貿易、原油価格などの基礎
事前学習の用語やポイント[原油埋蔵量、原油価格、石油危機]
詳細：石油の埋蔵量の定義や国別の生産・消費の特徴、石油と国際政治の関係、原油価格の決定メカニズムなどの基礎を学ぶ。
<第5講>21世紀は天然ガスの黄金時代か
概要：世界の天然ガスの埋蔵量や生産、消費、貿易、ガス価格などの基礎
事前学習の用語やポイント[LNG（液化天然ガス）、パイプライン、シェールガス]
詳細：天然ガスの埋蔵量の定義や国別の生産・消費の特徴、天然ガスと国際政治の関係、天然ガス価格の決定メカニズムなどの基礎を学習する。
<第6講>石炭の役割をどう考えるか
概要：世界の石炭の埋蔵量や生産、貿易、石炭価格などの基礎
事前学習の用語やポイント[石炭火力発電、クリーンコール技術]
詳細：化石エネルギーの中で最も資源的に豊富で安い石炭の長所と短所を明らかにして、環境負荷が小さいクリーンな利用をどう進めるかについて学習する。
<第7講>高まる再生可能エネルギーへの期待と現実
概要： 再生可能エネルギーの長所と短所、普及に向けた政策課題
事前学習の用語やポイント[水力、太陽光、風力、地熱、バイオマス、固定価格買取制度]
詳細：クリーンな分散型エネルギーとして注目されている再生可能エネルギー技術の現状と経済性、固定価格買取制度の課題などを考える。
<第8講> 意見発表会と中間テスト
概要：受講生によるプレゼンテーションと中間テスト
詳細：与えられた課題に対して、複数の受講生がプレゼンテーションし、全員参加による議論を行う。その後、第1-7講の授業での理解度を見るために、小テストを実施する。
<第9講>原子力発電とどうどう向き合うか①
概要： 原子力発電の仕組みと電力供給力としての役割
事前学習の用語やポイント[原子力発電、核燃料サイクル、発電コスト]
詳細：原子力発電の仕組み、核燃料サイクル、発電コスト、電力供給源としての原子力発電の役割などの基礎知識を学習する。
<第10講>原子力発電とどうどう向き合うか②
概要： 原子力発電と安全性、放射線の健康影響
事前学習の用語やポイント[原子力の安全性、放射線の健康影響]
詳細：福島第一原子力発電所の事故原因、安全対策の強化策や新しい規制基準などの現状と課題などを学習する。
<第11講>高まる省エネルギーの役割①
概要： 省エネルギーとは何か、分野別の取り組みの現状
事前学習の用語やポイント[省エネルギー技術、節電対策]
詳細：電力不足が深刻化する中、省エネルギー、省電力の重要性が高まっており、産業や家庭・業務、輸送分野の取り組みの現状を学習する。
<第12講>高まる省エネルギーの役割②
概要： 省エネルギー技術と政策の現状と課題
事前学習しておくべき用語やポイント[省エネルギー法、省電力、スマートメーター]
詳細：省エネルギーや省電力を促進するため、省エネルギー法の強化、スマートメーターの導入などITCを活用した取り組みの現状を学習する。
<第13講> 日本の電力産業のあり方
概要： 日本の電力産業の歴史、現状、展望
事前学習の用語やポイント[電気料金、電力の地域独占、発送電分離]
詳細：福島事故を受けて東京電力の経営体制を含めて、電力システム改革に向けた法改正が進みつつあるが、電力産業のあり方を検討する際の基礎的な問題について学習する。

<第14講>日本のエネルギー戦略を考える
概要： 長期的な日本のエネルギー政策のあり方
事前学習の用語やポイント[エネルギー基本計画、地球温暖化問題]
詳細：福島事故を受けて、2013年末に新しいエネルギー基本計画が策定されたが、今後の長期的な課題と問題点などについて考える。
<第15講>意見発表会と期末テスト
概要：受講生によるプレゼンテーションと小テスト
詳細：与えられた課題に対して、複数の受講生がプレゼンテーションし、全員参加による議論を行う。その後、第1-14講の授業での理解度を見るために、小テストを実施する。

■教科書

特になし

■指定図書

・シェール革命と日本のエネルギー
　著者：十市　勉
　出版社：日本電気協会新聞部、2013年10月
・「図解 エネルギー・経済データの読み方 入門」
　著者：日本エネルギー経済研究所編
　出版社：省エネルギーセンター、2011年10月
・21世紀のエネルギー地政学
　著者：十市　勉
　出版社：産経新聞出版、2007年12月

■参考文献

なし

■参考URL

http://www.enecho.meti.go.jp/topics/hakusho/2013/index.htm

■評価方法

出席+アンケート記入（60%）、中間テスト（20%）、期末定期試験（20%）

■評価基準

絶対評価　出席・期末定期試験の合計点が60点以上を合格とする
　A+ ：講義内容が良く理解出来ており、かつ自ら更に学んでいる
　A ：　〃　ている
　B ：　〃　理解出来ている
　C ：　〃　ものの、不十分な部分もある
　F ：　〃　理解出来ていない

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

遅刻や授業中の私語などは厳禁、違反者には場合によっては単位を付与しない。

科目名 世界と日本のエネルギー問題Ⅱ(Energy Challenges for the World and Japan II)

サブタイトル

担当教員 十市　勉

■講義目的

資源小国の日本は、世界のエネルギー情勢によって非常に大きな影響を受けます。本講義では、石油や天然ガスの化石燃料、原子力発電や再生可能エネルギー、省エネルギーなど最新の国際政治、経済、企業活動、技術の動向などについて、グローバルな視点と過去の歴史を踏まえて、世界および主要国の現状と課題を分析し、今後日本が取り組むべきエネルギー問題の解決策について考えていく。

■講義分類

ビジネス環境理解　ビジネス創造　ビジネスマネジメント　社会人力育成　グローバルビジネス

■到達目標

エネルギー問題を巡る国内外の最新・最先端の動向を習得し、世界潮流の中で日本のエネルギー・温暖化政策のあり方、および企業の課題などを考えられるようにする。

■講義形態

講義 + PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>オリエンテーション
概要：教員自己紹介、講義の進め方、講義全体の要点の説明
事前学習の用語やポイント[日本のエネルギー政策、原子力発電、再生可能エネルギー]
詳細：できるだけ受講生が興味を持つテーマを取り上げるため、講義時間の最後に、各人の関心事項や疑問点などをアンケート記入出してもらい、次回授業の冒頭で答える。
<第2講>日本のエネルギー政策とその課題
概要： いま日本が直面しているエネルギー問題の現状
事前学習の用語やポイント[エネルギー基本計画、原子力政策、固定価格買取制度]
詳細：大震災・原発事故を受けて、日本のエネルギー政策の見直しが行われているが、世界潮流の中で、その課題と問題点を明らかにする。
<第3講>世界のエネルギー需給とその課題
概要： 世界が直面するエネルギー問題の課題と解決策を考える
事前学習の用語やポイント[エネルギー安全保障、経済発展とエネルギー問題]
詳細：中国やインドなど新興国の経済発展と深刻化するエネルギー不足、開発途上国のエネルギー貧困など、世界が直面する課題と日本の役割を考える。
<第4講>石油の政治・経済学
概要：国際石油市場におけるOPECの役割、国際政治と原油価格の関係など
事前学習の用語やポイント[石油危機、OPEC、IEA]
詳細：OPECカルテルの役割、石油を巡る国際政治、日本の資源外交などを検討する。
<第5講>世界と日本の石油産業とその経営戦略
概要：国際石油産業と石油メジャーの経営戦略
事前学習の用語やポイント[石油メジャー、国営石油企業、日本の石油産業]
詳細：かつて世界の石油市場を支配した石油メジャーの歴史的な変遷とその経営戦略を分析し、日本の石油産業のあり方を考える。
<第6講>エネルギーと地球温暖化問題
概要： エネルギー問題と密接不可分な地球温暖化問題の現状と課題
事前学習の用語やポイント[京都議定書、温室効果ガス、低炭素技術]
詳細：今後とも途上国のエネルギー需要が増加する中、世界のCO_2排出量の削減をどう進めるか、そのために日本が果たすべき役割は何かを考える。
<第7講>ドイツの脱原子力政策と日本への教訓
概要：脱原子力政策を進めるドイツのエネルギー政策を検証する
事前学習の用語やポイント[脱原発政策、ドイツのエネルギー転換政策]
詳細：福島事故後、ドイツは脱原発政策に転じたが、その政治的、社会的、歴史的背景と、現在ドイツが直面している諸問題と課題を検討し、日本にとっての教訓を学ぶ。
<第8講> 意見発表会と中間テスト
概要：受講生によるプレゼンテーションと中間テスト
詳細：与えられた課題に対して、複数の受講生がプレゼンテーションし、全員参加による議論を行う。その後、第1-7講の授業での理解度を見るために、小テストを実施する。
<第9講>中国のエネルギー問題
概要：中国が直面するエネルギー問題と国家戦略
事前学習の用語やポイント[東シナ海ガス田開発、石炭消費と大気汚染]
詳細：資源不足に直面する中国は、国を挙げて資源確保に奔走しており、世界のエネルギー情勢に大きな影響を与えており、日本の取り組むべき課題と対応策を考える。
<第10講>インドのエネルギー問題
概要：インドが直面するエネルギー問題と国家戦略
事前学習の用語やポイント[インド大停電、5カ年計画とエネルギー政策]
詳細：深刻な資源不足、電力不足に直面するインドは、5カ年計画に基づきエネルギー政策に取り組んでいる。中国と並んで世界のエネルギー・温暖化問題に大きな影響を与えるインドの現状と将来を展望し、日本との協力の可能性を考える。
<第11講>ロシアのエネルギー戦略
概要：資源大国ロシアのエネルギー戦略と日本の課題
事前学習の用語やポイント[サハリンの資源開発、北極圏の資源開発、北方領土問題]
詳細：資源大国のロシアは、石油や天然ガスの輸出を武器に周辺諸国への政治的影響力を強めている。サハリンや極東ロシアのエネルギー開発と日本の戦略を考える。
<第12講>米国のエネルギー戦略
概要： 超大国である米国の最新のエネルギー情勢と戦略
事前学習の用語やポイント[シェールガス革命、米国の中東戦略]
詳細：シェールガス革命の進展で、天然ガスの自給化を実現し、石油輸入も減少に転ずる米国のエネルギー需給と国際市場、中東政策への影響などを考える。
<第13講>欧州のエネルギー戦略
概要：主要な欧州各国のエネルギー政策と課題を分析
事前学習の用語やポイント[EUのエネルギー・温暖化政策、欧州のエネルギー市場統合]
詳細：ドイツ、フランス、イギリスなど各国で多様なエネルギー政策を進めるEUの現状と課題を分析し、日本が参考とすべき点などについて考える。
<第14講>日本のエネルギー戦略を考える
概要： 長期的な日本のエネルギー・ベストミックスのあり方
事前学習の用語やポイント[エネルギー基本計画、エネルギー安全保障、地球温暖化問題]
詳細：世界の潮流を踏まえて、エネルギーの安全保障、地球温暖化対策、経済成長、安全性確保を実現するために、日本のエネルギー・ベストミックスのあり方を考える。
<第15講>意見発表会と期末テスト
概要：受講生によるプレゼンテーションと期末テスト
詳細：与えられた課題に対して、複数の受講者がプレゼンテーションし、全員参加による議論を行う。その後、第1-14講の授業での理解度を見るために、小テストを実施する。

■教科書

特になし

■指定図書

・シェール革命と日本のエネルギー
　著者：十市　勉
　出版社：日本電気協会新聞部、2013年10月
・図解 エネルギー・経済データの読み方 入門
　著者：日本エネルギー経済研究所編
　出版社：省エネルギーセンター、2011年10月
・21世紀のエネルギー地政学
　著者：十市　勉
　出版社：産経新聞出版、2007年12月

■参考文献

■参考URL

http://www.enecho.meti.go.jp/topics/hakusho/2013/index.htm

■評価方法

出席+アンケート記入（60%）、中間テスト（20%）、期末定期試験（20%）

■評価基準

絶対評価　出席・期末定期試験の合計点が60点以上を合格とする
　A+ ：講義内容が良く理解出来ており、かつ自ら更に学んでいる
　A ：　〃　ている
　B ：　〃　理解出来ている
　C ：　〃　ものの、不十分な部分もある
　F ：　〃　理解出来ていない

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

遅刻や授業中の私語などは厳禁、違反者には場合によっては単位を付与しない。

科 目 名　ソーシャルメディア論（Social Media Theory）

サブタイトル　私たちの生活をどう変えるか

担当教員　安藤　美冬

■講義目的

「Twitter」「フェイスブック」を代表とするソーシャルメディアは、ネット上のコミュニケーションの可能性を大きく広げています。文字や画像のやり取りに加えて、最近は写真投稿サイト「Instagram」やティーンエイジャーから絶大な人気を誇る動画投稿サイト「snapchat」など新しいサービスが台頭しています。本講座ではこうしたソーシャルメディア（=マスメディアに対応してマイクロメディアと呼ぶ）が私たちの生活をどう変えるのか、様々な事例を紹介しながら論じて行きます。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人力育成

■到達目標

・ソーシャルメディア（ツイッター、フェイスブック、ブログなど）の基本を学び、各メディアの特性を知る

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： ソーシャルメディア概論①
事前学習しておくべき用語やポイント[SNS　マスメディア　マイクロメディア]
詳細：第一回目の講義として、日本や世界で台頭しているソーシャルメディアの具体例を挙げながら、それぞれのメディアの特性について説明していきます。
<第2講>
概要： ソーシャルメディア概論②
事前学習しておくべき用語やポイント[150人理論　6次の隔たり]
詳細： ソーシャルメディアの役割や成り立ちをひも解きながら、現代に欠かせないツールとしてのソーシャルメディアについて学んでいきます。
<第3講>
概要： ゲスト講義：「ソーシャルメディアと社会」
事前学習しておくべき用語やポイント[社会関係資本]
詳細：ソーシャルメディアを専門的に学ぶゲストをお招きし、概論①②では触れられなかった内容をより深く学んでいきます。後半は質疑応答の時間を設けて、疑問などをクリアにする機会を取ります。
<第4講>
概要： ゲスト講義：「日本のソーシャルメディア、世界のソーシャルメディア事情」
事前学習しておくべき用語やポイント[ベンチャーキャピタル　ITベンチャー]
詳細：ソーシャルメディア事情に詳しい起業家をお招きし、日本でソーシャルメディア関連事業を手がける内情をフックに、日本と世界のソーシャルメディアの現状についてお話いただきます。後半は質疑応答の時間を設けて、疑問などをクリアにする機会を取ります。
<第5講>
概要： ミニレポート提出
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと]
詳細：これまでの4回の講義を振り返りながら、ソーシャルメディアに関連する重要キーワードなどを復習するためのミニレポートを授業内で行います。
<第6講>
概要： コミュニケーション論
事前学習しておくべき用語やポイント[接触回数と親密性　行動心理学]
詳細：「リアル」と「ヴァーチャル」両面におけるコミュニケーションについて学びます。ソーシャルメディアがいかにリアルなコミュニケーションを補完するのか、その役割と可能性について論じていきます。
<第7講>
概要：「第三の場所」としてのソーシャルメディア
事前学習しておくべき用語やポイント[サードプレイス　地域コミュニティ]
詳細：社会学者レイ?オールデンバーグが指摘した「サードプレイス」。自宅を第一の場所、組織を第二の場所と定義したとき、個人が自由なアイデンティティを発揮するための「第三の場所」の重要性を指摘しました。ソーシャルメディアがその場となりうるのかを具体例を挙げながら考察していきます。
<第8講>
概要： ゲスト講義：「ソーシャルメディアが広告を変える」
事前学習しておくべき用語やポイント[ハブ　インフルエンサー　アーリーアダプター]
詳細：大手広告代理店に勤務する現役広告マンをお招きし、ソーシャルメディアの台頭によって、これまでテレビや雑誌などが支配してきたPR、広告の現場がどう変わってきているのかをお話してもらいます。口コミやインフルエンサーといったキーワードを提示し、ソーシャルメディアをより深く理解していきます。
<第9講>
概要： ゲスト講義：「ソーシャルメディアで自分を発信するということ」
事前学習しておくべき用語やポイント[フォロワー　マネタイズ　アフィリエイト]
詳細：「ブログ」や「YouTube」などのサイトを使って、個人が情報発信をしながらそれ自体をマネタイズさせ、成功させている人たちがいます。いわゆる「ブロガー」、「ユーチューバー」と呼ばれる人たちです。韓国では動画サイトで年間5000万円もの年収を稼ぐ成功者も登場してきました。今回はソーシャルメディアを使って自分を発信している個人を数名招き、どのように使いこなしているのかを伺っていきます。
<第10講>
概要：個人発信のメリット・デメリット
事前学習しておくべき用語やポイント[メディアリテラシー　炎上　プライバシー]
詳細：ソーシャルメディアを取り巻くネットリテラシーを学びます。後を絶たない「炎上」の事例や陥りがちな失敗例を挙げながら、ネットとうまくつきあうために押さえておきたいポイントについて講義をします。
<第11講>
概要： ミニレポート
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと]
詳細：これまでの講義を復習するため、講義内でミニレポートを実施いたします。

<第12講>
概要： ソーシャルメディアと革命
事前学習しておくべき用語やポイント[パノプティコン　アラブの春　ウィキリークス]
詳細：『逆パノプティコン現象』と呼ばれる事例を上げながら、「アラブの春」などに代表される、ソーシャルメディアによって社会に革命が起きた出来事について学んでいきます。日本でもネットでの選挙活動が解禁され、いよいよ政治とソーシャルメディアが相関関係を持ちながらの社会作りがはじまっていきます。
<第13講>
概要： ゲスト講義「ソーシャルメディアと政治」
事前学習しておくべき用語やポイント[ネット選挙]
詳細：ソーシャルメディアを日々使いこなしている政治家や政治関係者をゲストに招き、ここ最近影響力が増大している政治におけるソーシャルメディアの役割などを学んでいきます。質疑応答などを交えながら、積極的な議論を深めていきます。
<第14講>
概要： ソーシャルメディアは私たちの生活をどう変えるか
事前学習しておくべき用語やポイント[個人インフラ　スマホ普及率]
詳細：ビジネス、社会、政治など様々な切り口から論じてきたソーシャルメディアについて、まとめに入ります。もはや携帯電話に次ぐ個人のインフラといっても過言ではないソーシャルメディアについて、私たちのワークスタイルやライフスタイルをどう変えて行くのかを考察します。
<第15講>
概要： ミニレポート提出
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでのキーワードを復習のこと]
詳細：これまで学んできたことをもとに、講義内でレポートを提出していただきます。

■教科書

■指定図書

『レイヤー化する世界―テクノロジーとの共犯関係が始まる』佐々木俊尚（NHK出版新書）
『情報の呼吸法』津田大介（アイデアインク）

■参考文献

■参考URL

http://p.tl/DZ8C

■評価方法

評価は、講義中の演習・最終プレゼンテーション（50%）、出席（30%）、レポート（20%）により行います。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座を受講される学生は、SNSを実際に使っている者に限ります（対象：ツイッター、フェイスブック、ブログ）。まだアカウントを保持していない学生は、第1講が始まる前に必ずいずれかを取得しておいてください。

科目名　多国籍企業Ⅰ(Multinational Corpolations Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　飯田　健雄

■講義目的

国際経営の理解を深めるために、企業が多国籍化する過程を習得していきましょう。企業の国際化が、理解ができれば、次世代経営の兆候は確実に読めていけるでしょう。

多国籍企業の定義、理論、研究開発、財務、マーケティングを理解していきます。講義はきわめて多岐にわたりますが、その本質には「たえず経営とは何か」が横たわっています。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

世界の多国籍企業の事業内容や国際展開を理解する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

2年次で学んだ国際経営の入門を3年および4年次では、世界的に有名な多国籍企業を通して学んでいきます。特に、それら企業のケーススタディを通しながら、その業界内の経営戦略の実態に ふれていきます。

<第1講>　IT産業ーゲーム業界(SCE)
詳細：ここではバリューチェーンを学んでいきます。SCE(ソニー・コンピュータ・エンタテイメント)のテレビゲーム戦略を通じて、なぜプレイステーション(PS)が数年で任天堂王国を破っていったかを探っていきます。
事前学習のポイント
1980年代 1990年代 2000年代の人気があったゲーム機器をネットで調べてみよう。講義後、ゲームソフト業界が日本で飛躍的に伸びた原因をネットで調べてみよう。
<第2講>　IT業界ーシスコ・システムズ
詳細：ここではシスコ・システムズのビジネスモデルを考察しながら、シリコンバレーという事業風土を手がかりに、シスコが合併を繰り返しつつ、グローバル競争優位にたつ事業構造を構築していった課程を説明していきます。
事前学習のポイント
シスコ・システムズの機器がオフィスでどのように利用されているかをネットで調べてみよう。講義後、シスコ・システムズの企業成長を考察してみよう。
<第3講> IT業界ーインテル
詳細：この週では、戦略転換と国際ビジネス環境を考察していきます。ケーススタディとして、インテルを取り上げます。インテルは世界のPCにおけるCPUをほとんど支配しています。どのように、インテルは国際独占を練ったかを考えていきます。
事前学習のポイント
インテル・インサイド・キャンペーンをネットで調べてみよう。講義後、インテルに関する本を読んでみよう。
<第4講> IT業界ーグーグル
詳細：グーグルの設立、そのビジネスモデルをみていきます。そのユニークな企業風土も研究しましょう。
事前学習のポイント
グーグルのサービスをネットで調べてみよう。講義後、グーグルのビジネスモデルをもう一度考え、我々の日常生活や仕事にどのようにインパクトを与えているか考えてみよう。
<第5講> IT業界ーマイクロソフト
詳細： マイクロソフトは、その創業時に企業拡大の構図が隠されています。1980年代から1990年代にどのような戦略をとっていたのでしょうか。
事前学習のポイント
マイクロソフトのサービスをネットで調べてみよう。講義後、ワードやエクセル、パワーポイントが将来も市場に残れるか考察の対象にしてみよう。
<第6講> IT業界ーアップル
詳細：アップルはその創業者のスティーブ・ジョブズの経営戦略からうまれました。その数々の製品の奇跡からアップルの経営戦略をみてりきます。
事前学習のポイント
アップルの歴史をネットで調べてみよう。講義後、アップルとソニーの競争について考察してみよう。
<第7講>　IT業界ーオラクル
詳細：世界のデータ・ベースの大手企業と言われながら、その認知度は意外と低いものがあります。長くCEOを務めているラリー・エリソンに光をあてましょう。
事前学習のポイント
データ・ベースの大手オラクルの事業をネットで調べてみよう。講義後、創業者のラリー・エリソンの人柄をネットで調べてみよう。
<第8講>　IT業界ーデルコンピュータ
詳細：デルコンピュータから文化を超越したマネジメント手法を学びましょう。
事前学習のポイント
デルコンピュータのサイトに入ってみよう。講義後、デルのビジネスモデルとSCMの関係をネットで調べてみよう。
<第9講>　世界のビール業界
詳細：ここでは競争のダイヤモンドを使用して業界分析を行っていきます。取り上げる企業はアサヒビールであり、日本のマーケットで、既存のビール大手企業(キリン、サッポロ、アサヒ、サントリー)、さらに、ウィスキー業界、日本酒業界、焼酎業界、ワイン業界と競合しながら、どのようなポジショニングをとっているか考えていきましょう。
事前学習のポイント
ビールと発砲酒、第三のビールの違いをネットで調べてみよう。また、ギネス、ハイネケン、バドワイザーの生産国も調べてみよう。講義後、若者のビール離れやキリンやサントリーの近未来戦略を考えてみよう。
<第10講>　日本の商社活動
詳細：1970年代に「商社・冬の時代」といわれながら、2000年代に入って日本経済を牽引する企業群に成長しています。商社はどのようなビジネスで利益を伸ばしているのでしょうか。
事前学習のポイント
伊藤忠、丸紅、住友商事、三菱商事等の事業展開をネットで調べてみよう。商社復活の原因を資源開発やインフラ設備の観点で考察してみよう。
<第11講>　世界のアパレル業界
詳細：ファーストリテイリングの製品・販売を学びながら、競争優位に立つためのSCM戦略を学んでいきます。
事前学習のポイント
SPAとは何かネットで調べてみよう。講義後、ナイキやギャップとの競合関係もみてみよう。
<第12講>　世界の小売業界
詳細：ウォルグリーン、ウォルマート、コストコなど世界的に販売拠点をもつ小売業の実態をみていこう。
事前学習のポイント
ウォルマートを検索してみよう。講義後、中国経済とウォルマートというマクロな視点で小売業の世界を考察してみよう。
<第13講>　世界の鉄鋼業界
詳細：ここではアメリカのニューコアの事業戦略をみていきます。「鉄は国家なり」という表現は、産業界において19世紀から20世紀前半までの当然たる事実でした。21世紀になり、製鉄事業もその繁栄を過去のものとしています。オールドビジネスの再生について考えていきましょう。
事前学習のポイント
新日本製鐵を検索してみよう。講義後、製鉄業は日本にとってオールドビジネスかどうか考察の対象にしてみよう。
<第14講>　特別講義
国際的に事業展開している企業の方をお招きして特別講義とします。
事前学習のポイント
事前に配布するプリントをみて講義の方のプロフィールをみておこう。講義後、パワーポイント用の資料をもう一度読んでみよう。
<第15講>　前期のまとめ
事前学習のポイント
試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

適時指示する。

■指定図書

適時指示する。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

相対評価

■評価基準

期末試験(60%)、小テスト(10%)、出席点(30%)
(1)多国籍企業の専門用語を理解したかどうか。
(2)国際経営の戦略を理解したかどうか。
(3)国際経営の成功例と失敗例を理解したかどうか。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　多国籍企業II（Multinational Corpolations II）

サブタイトル

担当教員　飯田　健雄

■講義目的

多国籍企業Iを踏まえて理解を具体的な産業にまで伸ばしていきます。アメリカの先端企業の多国籍化を理解することで、最先端の経営を学ぶことができるでしょう。
　M&A、アメリカ先端産業のビジネスモデル、日本経済と大きな関わりをもつ国際医療・物流・石油産業も講義の中で取上げていきます。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

巨大な多国籍企業の事業・業務部門をそれぞれ理解していく。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　ビバレッジ業界
詳細：ビバレッジ業界の世界的雄、コカコーラとはどのような企業でしょうか。それに対して日本のメーカーはどのようなマーケティング戦略で生き残りをかけているのでしょうか。
事前学習のポイント
コカコーラのHPをみてみよう。講義後に、ミネラル・ウォーターを販売しているダノン・グループをネットで調べてみよう。
<第2講>家電・重電業界
詳細：パナソニックとGEに焦点をあてて講義します。
事前学習のポイント
家電と重電の違いをネットで調べ、それぞれの代表的企業も調べてみよう。講義後に、各製品別にGEと競合する企業を調べてみよう。
<第3講>　石油・化学業界
詳細：BPとデュポンについて述べていきます。これらの企業は世界経済・政治と大きな利害関係をもっています。
事前学習のポイント
石油産業の裾野の広さをネットで調べてみよう。講義後に、他の巨大石油企業の事業展開をみてみよう。
<第4講>　建設業界
詳細：ベクテル、鹿島建設などの海外インフラの事業に参入する大手の建設企業に光をあてていきます。
事前学習のポイント
日本の建設業のグローバルなインフラ作りをネットで調べてみよう。講義後に、日本の建設業とライバル関係にある欧米の建設企業を調べてみよう。
<第5講>　製薬業界
詳細：ファイザー、ノバルティス、メルク、グラクソ・スミスクライン等の海外大手の製薬企業に光をあてていきます。
事前学習のポイント
世界の代表的製薬企業をネットで調べてみよう。講義後に、次世代の薬がどの程度開発されているかネットでみてみよう。
<第6講> 生保・損保業界
詳細：アクサ、アリアンツ等の世界の生保・損保業界に光をあてます。世界の大手生保・損保は日本国内でも、マーケット・シェアを確実に伸ばしています。
事前学習のポイント
世界の代表的生保・損保企業を調べてみよう。講義後に、欧米の生保・損保の商品をネットで調べ、日本の大手生保・損保との違いをネットで調べてみよう。
<第7講> 食品・穀物業界
詳細：ネスレおよびカーギルという企業をみていきます。
事前学習のポイント
ネスレの製品をネットで調べてみよう。講義後に、チョコレート業界で日本市場の外資参入度をネットで調べてみよう。
<第8講>　銀行・証券業界
詳細：リーマン・ブラザーズ破綻以降の欧米の銀行・証券業界のトレンドをみていきましょう。
事前学習のポイント
世界の金融業界の代表的企業をネットで調べてみよう。講義後に、欧米の金融・証券業の日本市場での事業展開をネットで調べてみよう。
<第9講>　海運・航空貨物業界
詳細：FedEx、UPS、DHL,マースク等に企業に焦点を当てます。
事前学習のポイント
海運と航空貨物がどのような空港・港湾ハブで事業活動しているかネットで調べてみよう。講義後に、マースクと日本郵船・商船三井との事業展開の相違をネットで調べてみよう。
<第10講>　航空業界
詳細：アメリカ・ヨーロッパの大手航空企業の競合状態を分析していきます。
事前学習のポイント
アメリカン航空の路線をネットで調べてみよう。講義後に、日本航空の事業再生を考えてみよう。
<第11講>　アミューズメントーディズニーI
詳細：ディズニー創立から1945年までの活動を見ていきます。
事前学習のポイント
ウォルト・ディズニーの生い立ちをネットで調べてみよう。講義後に、ウォルト・ディズニーの起業家としての行動をノートにまとめてみよう。
<第12講>　アミューズメントーディズニーII
詳細：ディズニーランド設立の経過をみていきます。
事前学習のポイント
ディズニーランドにどのようなアミューズメント施設があるのかネットで調べてみよう。講義後に、ディズニーランドと顧客サービスについてノートにまとめてみよう。
<第13講>　アミューズメントーディズニーIII
詳細：ディズニーの多国籍展開をみていきます。
事前学習のポイント
ディズニーの国際事業展開を成功させたマイケル・アイズナーという人物をネットで調べてみよう。講義後に、ディズニー・チャンネルやディズニーの映画を数本みて、その特色を考察しよう。
<第14講>　特別講義
詳細：国際的に事業展開している企業の方をお招きして特別講義とします。
事前学習のポイント
事前に配布されたプリントで講義される方のプロフィールをみておこう。講義後に、パワーポイントでの配布資料をもう一度読んでみよう。
<第15講>　まとめ
事前学習のポイント
試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

適時指示する。

■指定図書

適時指示する。

■参考文献

特になし。

■参考URL

■評価方法

相対評価

■評価基準

期末試験(60%)、小テスト(10%)、出席点(30%)。
(1)国際経営の歴史性を理解したかどうか。
(2)国際経営の多面性(政治・経済・文化)を理解したかどうか。
(3)国際経営の事業展開を理解したかどうか。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

適時、アドバイスする。

科目名　多摩学入門I(Tama Study I)

サブタイトル　歴史的特質を考える

担当教員　大森　映子

■講義目的

地域の特性を把握するには、その歴史的な経緯を知ることが不可欠である。また、歴史を探ることは将来を見通すための鍵になりうるであろう。国際化が重視されている昨今であるが、自らのよりどころを明確にしなければ、国際的な対応はむしろ困難であり、問題発見やその解決の手がかりを得ることはできない。ここでは、まず地域を学ぶことの意味を確認した上で、多摩地域の歴史を辿りながら、地域に根ざした特性を明らかにする。

■講義分類

地域ビジネス　グローバルビジネス

■到達目標

（1）多摩地域に対する理解を深め、地域的特性と密着した産業社会の実情を探る。
（2）現代を考える上で、歴史的考察が重要であることを認識する。

■講義形態

講義：学外学習有

■講義の概要

<第1講>　オリエンテーション
概要：授業の方針、取り扱うテーマなどを紹介する。
事前学習しておくべき用語やポイント　[東京　多摩　武蔵]
　多摩地域に対して関心を向ける。
詳細：「地域」の特性を学ぶことの意味を考えながら、「多摩」の姿を概括的に取り上げ、15回の授業方針と取り上げるテーマの位置づけを明らかにする。
<第2講>　地域の特性（1）
概要：「地域」の特性を考える手がかりとして、身近な食文化を取り上げる。
事前学習しておくべき用語やポイント　[名産　特産品　土産物]
詳細：日常的な食文化に注目しながら、「食」をめぐる文化的差異、地域的差異を具体的に検証し、あわせてその歴史的背景をさぐる。とくに醤油、味噌のような調味料、あるいは伝統料理、特産品や名産品などを通して、そこから見えてくる地域の特性について考える。具体例を通して、文化的な差異を考えるには、空間的な地域差ばかりでなく、時間的な問題から捉えていく必要があることを確認する。
<第3講>　地域の特性（2）
概要：日本諸地域の文化比較を通して、「地域」の特性を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント　[上方　江戸]
詳細：地域を考える手がかりとして、芸能や文化、あるいは年中行事や習慣などの問題を取り上げる。とくに地域の比較を通して、西日本と東日本との相違、あるいは都道府県における差異などを取り上げ、歴史的変遷との関連に注目しながら、諸地域のもつ特質を浮き彫りにすることを試みる。
<第4講>　地形からみた多摩
概要：有史以前から現代にいたる自然環境の変化に注目する。
事前学習しておくべき用語やポイント　[東京湾　貝塚　化石　多摩川]
　日本・関東地方・東京都・多摩地域の地図と地形を確認する。
詳細：関東地域の自然環境は、数万年前はむろんのこと、2000年前くらいでも現在の状況からは想像もつかないほど変化している。気候変動によって地形は大きく変化し、東京湾も陸地化したり、海岸線が山手台地の奥深くにまで入り込んでいたりした。そのような自然環境と地形の変化を確認しながら、歴史の上に与えた影響について考える。
<第5講>　地名が語る歴史
概要：地域特性を考える手がかりとして、地名に注目する。
事前学習しておくべきポイント　[東京都23区　東京都の30市町村]
　前回の復習をしながら、地域的特性を理解しておく。
詳細：地名の由来の中には、歴史に深く関わっているものが少なくない。はじめは多摩地域に限らず、日本諸地域における典型的な地名の具体例をあげ、地名そのものが歴史と深く結びついている事例を紹介する。また現在の多摩地域の行政区域を確認し、それぞれの自治体のシンボルマークについてみていく。なお、多摩地域の地名については、いくつかのグループにわけ、歴史的に注目すべを見ながら、その由来についても言及する。
<第6講>　多摩地域に残る遺跡
概要：遺跡から明らかにしうる多摩地域の特徴について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント　[多摩ニュータウン　縄文文化　五畿七道　武蔵国]
　多摩地域の地図を確認しながら、行政区域を確認する。
詳細：多摩ニュータウンの開発過程で、多数の遺跡が発見され、多摩丘陵が古代の人びとの居住地となっていたことが確認された。また古代になると多摩を含む地域は「武蔵国」として位置づけられ、その中心は現在の府中市に置かれるようになる。ここでは、大陸との関係にも注目しながら、遺跡を通して、縄文時代～古代の多摩の姿を紹介するとともに、「遺跡の保存問題と開発」についても考えてみたい。
<第7講>　中世における「東国」
概要：平安時代から戦国時代における多摩地域の特徴について考える。
事前学習しておくべき用語とポイント　[鎌倉幕府　鎌倉街道　分倍河原　北条氏]
　前回の授業内容を復習・整理しておく。
詳細：7～16世紀頃の関東地方はどのように位置づけられていたのだろうか。中世になるとこの地域は、鎌倉の後背地として、政治的にも軍事的にも重要な位置を占め、しばしば合戦の場ともなった。そのような中で台頭してきた中小規模の武士団は、多摩地域を特色づけるものとなる。中世における陸上交通、海上交通とも関連づけながら、戦国時代までを概観する。
<第8講>　多摩地域における見学施設
概要：東京および近県の博物館や美術館等、見学施設について調査する。
事前学習しておくべき用語とポイント　[美術館　博物館　資料館　記念館]
　前回までの授業内容を復習し、時代的な流れを理解する。
詳細：多摩地域には、地域に密着した博物館や資料館が多数存在し、さまざまな資料を直接見学することが可能である。自治体の博物館や個人の記念館など、その内容や規模は多種多様であるが、具体的にはどのような展示施設があるのだろうか。諸施設を見学するに先立ち、その特徴について調査し、見学のポイントと予定を考える。
<第9講>　政治都市江戸の建設と八王子の位置づけ
概要：戦国末期から江戸初期における多摩地域の位置づけについてみていく。
事前学習しておくべき用語とポイント　[八王子城　千人同心　大久保長安　代官]
　前回までの授業内容を復習し、時代的な流れを理解する。
詳細：戦国時代までの多摩地域の位置づけを振り返りながら、あらためて「江戸」を中心とする政治体制の下で、多摩地域がどのように位置づけられていくことになるのかを検討する。それに先立ち、なぜ「江戸」が政治の中心地として選択されたのか。その歴史的経緯と江戸建設をめぐるエピソードなどを紹介しながら、江戸の町づくりについてみていく。
<第10講>　江戸時代のインフラ整備と現代の「東京」
概要：街道と「水」の問題を考える。
事前学習しておくべき用語とポイント　[五街道　玉川上水]
　江戸時代の政治的な流れを把握しておく。
詳細：江戸の都市計画の中で重要な意味をもつ多摩川上水について紹介し、江戸中心部と多摩地域を結ぶ密接な関係について触れる。街道の整備は、多摩地域と江戸の中心部を結んで人や物、文化を運ぶことを可能とした。さらに多摩地域からは、土地の支配に精通した人材も多数現れ、幕府の政治改革の一翼を担うことにもなった。また、江戸時代の町づくりが、実は現代の東京にさまざまな面で影響を与えていることを確認する。
<第11講>　江戸の地域文化と産業
概要：多摩地域の産業と文化を取り上げる。
事前学習しておくべき用語とポイント　[千人同心　八王子織物　在村文化]
　江戸時代の文化的な特質について概観する。
詳細：多摩地域は、大消費都市である江戸を支える生産地域でもあった。とくに農作物や炭は江戸の町にとっては不可欠なものとなっていた。また、本来は江戸防衛の軍事組織として設定された八王子千人同心であったが、江戸後期になると千人同心の中には文化的な方面で活躍する人びとが多数登場する。多摩地域の豪農層も多彩な文化活動に携わるようになり、江戸後期の文化的発展を支えることになった。
<第12講>　幕末期の多摩
概要：新撰組の問題を含め、多摩地域の動きを概観する。
事前学習しておくべき用語とポイント　[ペリー来航　新撰組　尊皇攘夷運動]
　幕末期の政治情勢を段階的に確認しておく。
詳細：幕末期の政治動向を踏まえながら、多摩地域の動きに注目する。とくにペリー来航時の状況、横浜開港との関係、海防問題と治安対策などについて検討する。また、新撰組局長近藤勇や、土方歳ニなど、隊士の中には多摩地域出身者が少なくない。そのことも含めて、農民や商人、また千人同心らの動きなどを総括的にみていく。
<第13講>　自由民権運動と多摩地域
概要：明治期における自由民権運動と多摩地域の関連をみる。
事前学習しておくべき用語とポイント　[自由民権運動　五日市憲法　豪農]
　行政区域の時代的変遷を確認する。
詳細：多摩地域は自由民権運動とも深い関わりをもつ地域であり、多くの民権家を輩出している。とくに、国会開設に向けての動きのなかでは、全国で憲法草案が作成されるが、そのひとつである「五日市憲法」は特筆すべきものとされている。また、明治期には多摩地域の所管をめぐって、神奈川県と東京との間で紆余曲折の経緯があり、多摩は両者の間で揺れ動くことになる。いわゆる三多摩帰属の経緯を追いながら、その背景を検討する。
<第14講>　近代における多摩
概要：歴史的な経緯をふまえ、近代の状況を概観する。

事前学習をしておくべきポイント[関東大震災　軍需工場　空都]
　戦前の政治史について概観しておく。
詳細：近代以降の問題として、いわゆる関東大震災以降の状況を概観しながら、特に軍事施設や軍需工場の拠点となっていく経緯を辿る。この問題も多摩地域の位置づけに大きく関わると同時に、さまざまな側面でこの時代のあり方が現代の多摩地域を特徴づける要因となっていることを確認する。
<第15講>　まとめ　―戦後の多摩―
概要：15回の授業内容を振り返り、多摩の地域的特質について考える。
事前学習をしておくべきポイント[多摩ニュータウン　公園施設]
詳細：現代は歴史的な蓄積の上に存在しており、一見、無縁なようでも歴史的特質と深く結びついている。現代的課題に立ち向かう時、地域の特質を見極めることの重要性を再認識しながら、授業を振りつつ、多摩地域の「今」を考える。

■教科書

とくに指定せず、必要な資料は適宜配布する。

■指定図書

授業内で、適宜指示する。

■参考文献

『多摩・武蔵野検定　公式テキスト』(ダイヤモンド社)
その他、授業内で適宜指示する

■参考URL

■評価方法

基本は、平常点(出席、および授業内で求める簡単なレポート)60%、中間・最終レポート40%　とする。なお中間レポートは、学外の諸施設見学に関する報告書とする予定である。

■評価基準

相対評価
(1)授業内容を理解できているか。
(2)多摩地域の特性について、認識できるようになったか。
(3)解りやすい発表ができるか。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

初回オリエンテーションは、授業の方針を確認する重要な場であるので、できるだけ出席すること。
なお、受講者数によって順序の変更、あるいは内容の一部入れ替えをすることがある。

科目名　多摩学入門II（Tama Study II）

サブタイトル　～多摩の「力」について考える～

担当教員　奥山　雅之

■講義目的

各地域には、各地域なりの「力」があります。その力の源泉は、地域にいる人々の共通の記憶を継続的に育んでいることです。多摩地域にあるこの大学で、私たちが一緒に学んで共通の体験から何かを得ようとしているのも、場所の「力」によるものと考えても良いのではないでしょうか。

私たちの大学が立地している多摩地域にも、地域なりの「力」があります。その「力」と可能性について考えることが、この地域の活性化と発展につながります。

本講義では、主に多摩地域を様々な産業の面からみていくことで、多摩地域が持つ「力」について考えていきます。講義では豊富な最前線事例を交えながら、それぞれの産業について分けて説明しますが、それを束ねて、多摩の産業社会の全体像を自分なりに構築し、日本から、あるいは世界から見た多摩の位置づけについて考えることをねらいとしています。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

本講義のゴール（目標）は、次の3つとします。

（1）自分なりの「多摩地域」の全体的なイメージを持ち、自分の言葉でその特徴と可能性を説明できること。

（2）他の地域と比べた特徴や優位点を自分なりに見つけ出すこと。

（3）多摩地域を自分なりに説明することにより、プレゼンテーション能力を高めること。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講> オリエンテーション
概要：なぜ「多摩」を学ぶのか？
事前学習しておくべき用語やポイント[多摩という言葉の由来]
詳細：なぜ今、なぜここで「多摩」を学ぶのかについて、自分と地域とのつながりを軸に考え、その意義と目的を明確化します。

<第2講>多摩の鉄道業
概要：多摩の鉄道業から多摩地域の歴史を見る
事前学習しておくべき用語やポイント[玉川上水、甲武鉄道]
詳細： 多摩地域には多くの鉄道が存在し、交通ネットワークを形成しています。多摩の鉄道の歴史をみていくことで、多摩発展の発端を確認するとともに、鉄道業とまちづくりとの関わりについて確認していきます。

<第3講>多摩の織物業
概要：多摩の織物業から、多摩の産業発展の礎を知る
事前学習しておくべき用語やポイント[ジャカード、絹の道]
詳細：多摩の産業を語るとき、織物産業の発展の成熟がきわめて重要な役割を果たしてきました。現在でも、八王子の桑の木の並木道や繊維工業団地など、その歴史を語る風景や地域が存在します。ここでは、多摩の織物業から、多摩における産業発展の歴史をたどります。

<第4講>多摩の機械工業
概要：軍需工場の立地から大規模工場の進出まで
事前学習しておくべき用語やポイント[中島飛行機、日野五社]
詳細：多摩地域において、機械工業などの近代的工業が盛んになるのは昭和の戦前期のことです。その後、幾度かに渡って、大工場が多摩地域に進出し、これが出発点となって、現在の多摩地域は、優れたものづくり企業が集まる地域となっています。多摩地域の機械工業の成り立ちについて確認していきます。

<第5講>産業立地の理論と実際
概要：半導体、電子デバイスなど多くの先端技術に関わる多摩
事前学習しておくべき用語やポイント[輸送費、労務費、産業集積、産業クラスター]
詳細：多摩地域には、なぜ多くの企業が立地しているのでしょうか。一方、最近では、多摩地域から離れる大企業の工場も少なくありませんが、どうして多摩地域から移転しようとするのでしょうか。企業は、何らかの理由で、それぞれの立地場所を決めています。こうした立地のメカニズムについて考えるとともに、企業が一定地域に集まること（集積）の意義について検討します。

<第6講>多摩の先端産業
概要：半導体、電子デバイスなど多くの先端技術に関わる多摩
事前学習しておくべき用語やポイント[製品開発、オンリーワン企業]
詳細：多摩地域は、大企業の研究開発部門に加え、大企業からスピンアウト（独立開業）した中小企業が立地し、大企業の研究開発を支える存在となっています。こうした「先端産業」の現状と可能性についてみていきます。

<第7講>多摩の宅地開発
概要：住宅地としての多摩とその歩み
事前学習しておくべき用語やポイント[団地、ニュータウン、高齢化]
詳細：多摩地域は、1950年代後半から、東久留米市から西東京市にまたがる「ひばりヶ丘団地」など各地域で住宅地が形成されたのをスタートとして宅地化が進みました。しかし、高齢化の進展等により、多摩地域の生活環境や住宅機能は大きな転換期を迎えています。住宅地としての多摩地域の歩みと現状を確認します。

<第8講>多摩の商業
概要：商業集積地としての多摩とその課題
事前学習しておくべき用語やポイント[商店街、大規模小売店]
詳細：多摩地域は、1950年代後半から宅地化が進み、これに伴い商業機能も充実しました。しかし、モータリゼーション、大規模小売店の進出、高齢化の進展等により、多摩地域の商業機能は大きく変わり、地域の商店街は厳しい経営環境が続いています。商業集積地としての多摩地域の現状を把握し、商店街を中心とした地域商業の課題を明らかにします。

<第9講>多摩の金融業
概要：地域金融のあり方を考える
事前学習しておくべき用語やポイント[信用金庫、信用組合]
詳細：地方銀行、信用金庫、信用組合などの、いわゆる「地域金融機関」は、地域産業の発展を支える大きな役割を果たしています。多摩地域における地域金融機関の現状とその役割について考えていきます。

<第10講>多摩の観光
概要：地域独自の観光資源による賑わいの創出
事前学習しておくべき用語やポイント[地域資源、産業観光、ニューツーリズム]
詳細：観光産業は21世紀の成長産業と呼ばれています。多摩地域の活性化のためにも観光振興は重要性を増しています。多摩地域において観光による賑わいを創出するにはどうすればよいか考えていきます。

<第11講>ゲストスピーカーによる講義
概要：多摩地域の活性化に挑む
事前学習しておくべき用語やポイント[地域活性化]
詳細：多摩地域の活性化に挑む方、いわば地域活性化のキーマンともいうべきゲストスピーカーを迎え、その考え方、活動について学びます。
※先方のスケジュールの都合で内容または日程が変更となる場合があります。

<第12講>多摩の農業
概要：都市農業の担い手を考察する
事前学習しておくべき用語やポイント[都市農業、6次産業化]
詳細：多摩地域の農業は、宅地化によって農地面積は減少しているものの、付加価値の高い特産物が意欲ある農業者によって生み出されています。ここでは、こうした農産物について知ると同時に、今後の多摩地域における都市農業のあり方をみていきます。

<第13講>多摩の林業・水産業
概要：豊かな自然が生み出す産業について考える
事前学習しておくべき用語やポイント[多摩産材、アユ・ヤマメ]
詳細：多摩地域は土地利用の4割弱が山林で、森林の多い地域です。また、多くの川が流れ、魚も魅力ある産業資源となっています。ここでは、多摩の豊かな自然が生み出す林業・水産業についてみていきます。

<第14講>多摩のNPO・社会的事業
概要：地域課題を解決するビジネスについて知る
事前学習しておくべき用語やポイント[NPO、ソーシャルビジネス、社会起業家]
詳細：近年、地域の資源を活用したり、地域の課題やニーズにきめ細かく対応したりする地域密着型のビジネスが注目されています。多摩地域におけるこうしたビジネスの事例を紹介します。

<第15講>まとめ、振り返り
概要：一年間の講義を振り返り、「多摩の将来」を構想する
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：一年間の講義を通じて、「多摩地域」に対する見方がどのように変化したか、検証します。あわせて、多摩地域の今後の変化を見据えながら、多摩地域の将来について構想します。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

■教科書

特にありません。レジュメを配布します。必要があれば適宜指示します。

■指定図書

東京経済大学多摩学研究会編『多摩学のすすめⅠ』けやき出版、1991年11月。

■参考文献

社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩『タマケン。 知のミュージアム　多摩・武蔵野検定公式テキスト』ダイヤモンド社、2008年4月。

■参考URL

■評価方法

出席（小レポート含む）40%、課題（レポート等）60%

■評価基準

相対評価
多摩地域の全体像について、どの程度イメージをつかめているか、理解できているかを評価のポイントとします。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・【重要】受講希望者が250名を超える可能性がありますので、履修制限（250名）を設けます。履修するためには、必ず初回の講義に出席し、初回の小レポートを提出する必要があります。受講希望者（初回受講者）が250名を超えた場合には、小レポートによって履修可能者（履修登録をすれば履修できる者）を決定します。
・多摩地域の地理について基礎的な知識を備えるとともに、日頃から、多摩地域における大きなイベントなどについても興味を持ってチェックしてください。

科目名　地域活性化戦略論（Management of Regional Development）

サブタイトル

担当教員　中庭　光彦

■講義目的

ある通学の風景。みなさんは朝起きたらスーパーやコンビニで買った食材を冷蔵庫から取り出し、キッチンで料理し、きれいな部屋で食事し、水洗トイレで用を足し、メールチェックし、家を出ます。自転車を駅に駐車し、電車に乗り、バスを乗り継いで大学に到着。こうした暮らしができるのは、地域を利用するために先人が地域を整えてきたからです。これを開発と呼びます。

ところが、みなさんの両親が若い頃にはうまくいっていた地域が、今どんどん変わってきています。シャッター通りとなった商店街、子どもを生みたくなくなるような都市、まじめに農業をしても収益を得られない農地、大学を卒業しても働き口が無い地域、震災が起きると多数の死傷者が生まれる地域・・・。いま、日本では、地域社会における様々な問題解決が必要になっています。

本講義では、これまでまったく地域について考えたことがなかった1年生を対象に、地域の問題解決の世界に触れてもらいます。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
地域ビジネス

■到達目標

（1）地域を理解するための基本的視点・知識を身につける。
（2）新聞や雑誌記事が解釈できるようになる。
（3）エクセルを利用したレポートを書けるようになる。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> オリエンテーション
概要：本講義の概要について説明を行う。
事前学習しておくべき用語やポイント[地域活性化]
<第2講>地域活性化の主体
概要：地域における企業、自治体、市民、それぞれの活動・関係について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[市場の失敗]
<第3講>地域の特徴をつかむ
概要：指標から地域の特徴をつかむ。
事前学習しておくべき用語やポイント[比較の意味]
<第4講>人口を増やす
概要：人口を増やす政策について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[都市と郊外]
<第5講>仕事を増やす
概要： 地方の仕事の現場を事例に、雇用を増やす政策について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[雇用]
<第6講>中心市街地問題
概要：中心市街地問題の実態について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[中心市街地]
<第7講>共有資源について考える
概要：共有資源管理の考え方を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[共有地の悲劇]
<第8講>産業立地とクラスター戦略
概要：立地論について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[立地]
<第9講> レポートの書き方
概要：データを用いたレポートの書き方を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
<第10講> ヒートアイランド問題と水循環
概要：都市の環境問題について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ヒートアイランド問題]
<第11講>子育て支援
概要：子育て支援政策について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[子育て支援]
<第12講> コミュニティ・ビジネス
概要：コミュニティ・ビジネスについて解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[コミュニティ]
<第13講>企業のCSR活動
概要：企業のCSR活動について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[CSR]
<第14講> 地域マネジメントとビジネスの関係
概要：地域マネジメントの技術を、企業はどのように活かしているか解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[マネジメント]
<第15講>地域マネジメントと行政の関係
概要：行政の役割について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[行政]

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

適宜指示する。

■参考文献

（財）矢野恒太記念会編集・発行『日本国勢図会2012/13』
（財）矢野恒太記念会編集・発行『データでみる県勢2013』
岡田知弘・川瀬光義・鈴木誠・富樫幸一『地域経済学　第3版』有斐閣（2007）
中村剛治郎『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣（2008）

■参考URL

■評価方法

評価は出席（40%）、期末レポート（60%）で行う。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

第1回目のオリエンテーションに出席しない場合は履修できません。第1回目に簡単な受講希望理由を書いてもらいます。希望理由がしっかりと書けている者200名に受講を許可することになります。

科目名　地域観光とビジネス（Tourism management）

サブタイトル

担当教員　松本　祐一

■講義目的

「観光」をただ有名な景色や建物をみたり、食事や買い物をしたりするものとしてとらえるのではなく、「地元の人とよそ者が出会うことで生まれる変化」「地域の魅力を発見してビジネスにすること」「地域の様々な産業の連携」と考えたらどうでしょうか。
本講義では、地元多摩の「観光開発」をテーマに地域の魅力を発見し、それを持続可能なビジネスに結びつける具体的な手法を学びます。今、「観光開発」は、元気を失った地域を立て直すための手段として注目を集めていて、地域社会でも、行政でも、企業でも「観光を通じた地域活性化」をビジネスとして組み立てることができる人材を求めています。本講義ではそのような人材に必要な事業開発力を、「道の駅」という地域連携拠点のビジネスプラン構築を通じて磨いていきます。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

1）「観光による地域活性化事業」とは何かを自分の言葉でまとめることができる。
2）事業開発の手法（シンプルストラテジー）を使って、事業プランを組み立てられる。
3）自分の地域への関わり方についてのヒントを得る。

■講義形態

講義+GD・GW・PR：〔学外学習あり〕

■講義の概要

〈第1講〉イントロダクション概要：講義の目的と内容を共有する。事前学習しておくべき用語やポイント［特になし］
詳細：講義の目的、進め方、アウトプット、評価方法を説明し、事例を紹介する。
〈第2講〉エンカウンター
概要：地域活性化を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント［地域活性化］
詳細：本講義における地域活性化とは何か、ライフスタイルについて考える。道の駅という存在とのエンカウンター（出会い）を行います。
〈第3講〉観光の本質
概要：地域活性化と観光の関係を考える。事前学習しておくべき用語やポイント［観光］
詳細：観光とは何か。そもそも人類はなぜ旅をするのかを歴史から考える。また、観光事業の概要・特徴を学ぶ。
〈第4講〉観光の本質②
概要：地域活性化と観光の関係を考える。事前学習しておくべき用語やポイント［観光事業］
詳細：第3講の続き。
〈第5講〉シンプルストラテジー
概要：事業開発のツールを手に入れる。事前学習しておくべき用語やポイント［戦略］
詳細：ビジネスプランを組み立てるための手法シンプルストラテジーとは何かを解説する。
〈第6講〉道の駅の概要
概要：道の駅の概要を理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント［道の駅］
詳細：構築するビジネスプランの対象である道の駅について、事例から学ぶ。
〈第7講〉どうなるべきか？①概要：事業開発の「環境」について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント［特になし］
詳細：事業開発の「環境」となる社会、時代、市場、地域、顧客について、そのとらえ方を学ぶ。
〈第8講〉どうなるべきか？②
概要：事業開発の「環境」について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント［特になし］
詳細：第7講の続き。
〈第9講〉事業開発力とは
概要：社会に出てからの事業開発力について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント［特になし］
詳細：社会に出てからの事業開発力について、ゲスト講師の講演から考える。
〈第10講〉どうなれるか？
概要：まちの「資源」を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント［資源］
詳細：ビジネスの主体の能力に関わる「資源」のとらえ方を学ぶ。
〈第11講〉どうなれるか？②
概要：競争力を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント［競争力］
詳細：地域資源をビジネスの競争力にまで高めるためにはどうしたらよいかを学ぶ。
〈第12講〉志とコンセプト
概要：志とコンセプトを構想する。
事前学習しておくべき用語やポイント［コンセプト］
詳細：志をどのように組み立てることができるか。検討してきた要素を統合するコンセプトとは何か。コンセプトをつくるためにはどうしたらよいかを考える。
〈第13講〉志とコンセプト②
概要：志とコンセプトを構想する。
事前学習しておくべき用語やポイント［コンセプト］
詳細：第12講の続き
〈第14講〉仕組み
地域観光とビジネス〔Tourism Management〕
観光による地域活性化事業
概要：ビジネスの仕組みを考える。
事前学習しておくべき用語やポイント［流通、利益］
詳細：ビジネスを持続可能にする流通、プロモーション、収支モデルなどの仕組みを考える。
〈第15講〉講義のまとめ
概要：講義を振り返る。
事前学習しておくべき用語やポイント［今までの講義内容］
詳細：講義内容をダイジェストで振り返り、自分のものとする。

■教科書

なし（講義で説明する資料は配布しませんので、しっかり板書してください）

■指定図書

なし

■参考文献

高根正昭　『創造の方法学』　講談社現代新書（1979）
好井裕明　『「あたりまえ」を疑う社会学』　光文社新書（2006）

■参考URL

■評価方法

毎回提出してもらうワークシート（40%）、中間レポートの内容（20%）、最終レポート（40%）を評価する。

■評価基準

相対評価
テーマ設定、ビジネスプラン作成などを自分なりの視点で行えたか。
グループワーク、フィールドワークに自主的・積極的に貢献したか。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義時間外に街をフィールドワークしたり、グループで作業したりする場合があります。
各回の講義内容詳細は、履修者の数によって変更することがあります。

科目名　地域政策マネジメント論（Management of Public Policy for Local Governance）

サブタイトル

担当教員　中庭　光彦

■講義目的

「産業社会の問題解決の最前線に立つ人材（志士）を育てる」のが多摩大学の使命であるが、地域における「問題解決手法」の基礎として、「地域政策マネジメント論」を開講する。本講の目的は、地域政策マネジメントの考え方と基礎的な概念を理解することにある。

現代社会において問題解決とは、企業－行政－NPO等、更には個人とグループ、先輩といった「多元的な人々の連携」の下で進められる。問題特定－政策企画－政策実施－政策評価という一連の過程を、多元的な組織・個人で合意をしながら、円滑に問題解決を進めるための「術（art）の体系」。これが政策マネジメントである。

国が政策を立案し実行すればそれが全国に行き渡り問題が解決されたのが人口増加を前提とした成長経済の時代だった。しかし、これからは人口減少局面を前提にした政策を企画し、マネジメントしなければならない。多様な問題が現場で起こり、地域ごとに異なる解決方法で社会を変える。この考え方と方法実例を教えるのが本講義の狙いである。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
地域ビジネス

■到達目標

（1）基本的用語を理解する。
（2）自らの問題解決提案について、説明できるようにする。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

第1講　オリエンテーション：政策とは何か
　キーワード　政策
第2講　これからどのような問題が発生するか：グローカル化が意味する人口増加と人口減少
　キーワード　人口減少への移行
第3講　人口増加期の地域政策：国土・産業政策・労働・都市・住宅政策
　キーワード　高度成長
第4講　成長管理政策から持続管理政策へ：地域共有資源を守るソーシャルキャピタル育成への転換
　キーワード　ソーシャルキャピタル
第5講　政策をつくる枠組み：PDCAサイクル、費用対効果、因果連鎖と政策企画
　キーワード　PDCA
第6講　よくある政策マネジメントのミス①複数の政策が統合されていない：中心市街地活性化政策
　キーワード　中心市街地活性化
第7講　よくある政策マネジメントのミス②弱者だけを救おうとする：買い物弱者対策
　キーワード　買い物弱者
第8講　よくある政策マネジメントのミス③将来のリスクを予想していない：住宅・都市・災害政策と合意形成
　キーワード　リスク
第9講　よくある政策マネジメントのミス④利益享受者が固定されてしまう：河川政策
　キーワード　ガバナンス
第10講　よくある政策マネジメントのミス⑤短期のニーズに囚われ長期の目的に合っていない：森林政策、教育政策
　キーワード　政策プロセスとマーケティングの違い
第11講　公共政策から地域主体のパートナーシップマネジメントへ
　キーワード　産官学連携
第12講　地域を変える政策企画と政策評価①
　キーワード　コミュニティデザイン
第13講　地域を変える政策企画と政策評価②
　キーワード　コミュニティデザイン
第14講　地域を変える政策企画と政策評価③
　キーワード　流通チャンネル
第15講　地域を変える政策企画と政策評価④
　キーワード　評価基準

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

適宜指示する。

■参考文献

ユージン・バーダック『政策立案の技法』東洋経済新報社（2012）
筧祐介『地域を変えるデザイン』英治出版（2011）
佐藤寛、アジア経済研究所開発スクール編『テキスト社会開発』日本評論社（2007）

■参考URL

■評価方法

出席（40%）、最終レポート（60%）

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科 目 名 地域ビジネス論（Business in the Community）

サブタイトル ～地域活性化の手法を考える～

担当教員 諸橋　正幸、梅澤　佳子、大森　映子、中庭　光彦、奥山　雅之

■講義目的

これからのビジネスも、そして私たちの生き方も、「グローバル」へと視野を広げる一方、足元に市場が広がる「ローカル（地域）」にもしっかりと目を向けることが必要となっています。

ビジネス（NPOなどの非営利組織の活動も含む）においても、地域は競争環境であると同時に土地や人材等といった経営資源でもあります。顧客ニーズが多様化し、きめ細かな製品・サービスの生産、販引活動が要求されるようになり、こうしたニーズの変化への適応が急務となっています。つまり、ビジネスにおいても地域との関係は切っても切り離せない密接なものがあるのです。こうした中、近年、地域の資源を活用したり、地域の課題やニーズにきめ細かく対応したりする地域密着型のビジネス（「地域ビジネス」）が注目されています。

本講義は、このような地域とビジネスの関係や地域活性化手法を学ぶ入門科目であり、様々な地域活性化の手法を豊富な事例を交えながら学んでいきます。また、本講義を通じて、「地域社会」や「ビジネス」に対する多面的な見方を養います。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

本講義のゴール（目標）は、次の2つとします。

（1）　自分の生活にとって地域とは何かということを、現実感を持ってイメージすること。

（2）　地域ビジネスに関する基礎知識、地域活性化の基本的手法を習得し、地域の課題解決に向けた構想力を身に付けること。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講> ガイダンス、地域社会とビジネスの関係（奥山）
概要：「地域社会にとってビジネスとは何か」を考える
事前学習しておくべき用語やポイント：企業の意義、地域における産業の役割、CSR
詳細：地域社会にとっての産業（企業・ビジネス）の意義を、ビジネスと私たちの生活の豊かさとの関係を通じて考えます。また、将来、どのようなビジネスのなかで活躍したいか、考え、グループで話し合います。ビジネスとは、単なる金儲けの手段ではなく、我々の生活を豊かにする「社会のシステムの1つ」であると位置づけます。

<第2講>地域における産業の集積と発展、まとめ（奥山）
概要：地域における産業発展のメカニズムについて考える
事前学習しておくべき用語やポイント：立地選択、産業集積・クラスター
詳細：鉄鋼産業や自動車産業など、それぞれの産業は各地域に平均的に立地しておらず、特定の地域に偏って存在しており、それが各地域の産業の特徴となっています。では、なぜこのように地域ごとに立地する産業が異なるのでしょうか。産業立地、産業集積の理論を学び、地域の産業を特徴付けるメカニズムを考えます。

<第3講>　歴史的に見た地域特性　（大森映子）
概要：江戸時代における地域的特性を歴史的に考える
事前学習しておくべき用語やポイント：城下町、門前町、三都、街道と海路
詳細：全国各地には、歴史的な伝統によって特色づけられてきた地域があります。経済的な結節点として重要視されてきた港湾都市や、学術・芸術・宗教などの拠点として位置づけられてきた文化都市、宗教的施設を中心として発展してきた門前町、政治的拠点として位置づけられた城下町など、諸地域のもつ特性は多種多様です。その具体的な姿を歴史的経緯と関連づけながら紹介します。

<第4講>　消費都市としての江戸　（大森映子）
概要：18世紀には世界でも有数の巨大都市となった「江戸」について考える
事前学習しておくべき用語やポイント：江戸城建設、明暦の大火
詳細：現在の東京の前身である「江戸」は、どのような形で設計され、建設され、発展を遂げてきたのでしょうか。また、江戸の都市機能を支えるために、どのような生活空間が作られていったのでしょうか。巨大都市を支える基本構造を見直しながら、その「江戸」の姿が、現代の東京にどのような影響を与えているのかについて、その特質について検討していきます。

<第5講>　江戸時代のリサイクル　（大森映子）
概要：究極の循環型社会であったと評される社会的特質と産業構造について考える
事前学習しておくべき用語やポイント：リサイクル、リフォーム、行商
詳細：江戸時代は、現代社会と比べればはるかに物資に乏しい社会でした。その中で生活を支えるためのリサイクルやリフォーム、自然エネルギーへの注目は、いわば必然でしたが、その中から生まれた創意工夫は現代社会への提言としても注目すべきものが少なくありません。その具体的な諸相と、リサイクルに組み込まれたさまざまな職業について検討すると同時に、その限界についても考えてみます。

〈第6講〉地産地消（諸橋）
概要：無駄を省く地産池消について考える
事前学習しておくべき用語やポイント：地産池消
詳細：「地産地消」というと、主に農産物を想定した発想に限定される場合が多いですが、根本の考え方は消費地域を限定することで、作りすぎのような無駄を省くことにあります。したがって、スマートグリッドのような電力網においても同様の考え方は適用できます。生産コストを下げるための大量生産と大量消費から脱却する対局の方法として「地産地消」を取り上げます。

〈第7講〉電子機器の延命措置（諸橋）
概要：どのメーカの製品でも修理する地域の特徴あるビジネスについて考える
事前学習しておくべき用語やポイント：サービス
詳細：PCや計測機器のような精密電子機器は開発競争が激しい分、製品のライフサイクルが短く、俗にドッグイヤー（犬は3ヶ月で人の1年分年をとる）と言われるほどである。したがって、メーカは製品の寿命を短く設定し、故障部分を修理して使うという発想はありません。しかしながら、法人利用者は設備投資の一環で同一機器を一括購入するため、新製品への切り替えがスムーズに進むとは限りません。こうした、問題を解決する事業として「京西テクノス」はメーカにこだわらない故障修理を行っています。この事業形態を紹介します。

〈第8講〉顧客行動分析（諸橋）
概要：消費者のニーズ・不満を先取りする顧客行動分析について考える
事前学習しておくべき用語やポイント：顧客行動分析、B-to-Cビジネス
詳細：B-to-Cビジネスの重要な課題の一つに消費者のニーズ獲得がありますが、多くの消費者は「物言わぬ大衆」であり、あえて不満を口にせずに黙って他社の商品に移っていくケースが多いのです。そこで、従来のようなコールセンターで不満に対処する、あるいは、アンケートで不満を聞く、といったB-to-C対策に替わって、消費者の無意識な行動の中に課題を見つけ出す手法が重要になります。こうした手法を駆使する会社として「トランスコスモス・アナリティクス」を紹介します。

<第9講>クリエイティブ都市論－都市と地域を経営する（中庭）
概要：都市・地域が経営の対象であることを紹介する
事前学習しておくべき用語やポイント：都市
詳細：企業と同様、都市・地域も経営の対象となります。いま世界中の都市自治体が都市間競争を繰り広げ、居住者の暮らしやすさ、ビジネスのしやすさなど都市のしくみを日々整備しています。その結果、様々な特色をもった都市が生まれ、ビジネスチャンスが生まれています。本講ではそのような最新事例と、政策デザインとコミュニティ・デザインという都市・地域づくりの方法論を紹介します。

<第10講>これからの観光まちづくり－着地マーケティングの世界（中庭）
概要：地域の魅力を生み出す取り組みを紹介する
事前学習しておくべき用語やポイント：観光まちづくり、着地マーケティング
詳細：旅行代理店や宿泊施設は旅行商品を企画します。では、そもそも旅行の対象となる「観光地の魅力」は誰がどのように生み出すのでしょうか。多くの地域企業・行政等が観光地の魅力を高めるためのマーケティング（着地マーケティング）に取り組んでいます。その現状と考え方を紹介します。

<第11講>沿線開発ビジネス－現代人の生活をデザインした企業家たち（中庭）
概要：今も進化する電鉄グループによる広範なビジネスと生活との関係を知る
事前学習しておくべき用語やポイント：田園都市論、小林一三、主要電鉄会社の歴史
詳細：主要電鉄会社は本業の鉄道事業のみならず、流通、不動産開発・まちづくり、観光、サービス業等広範にわたり、私たちの都市生活をつくったと言っても過言ではありません。本講では東急電鉄等を主要例に、多摩地域や渋谷で繰り広げられた沿線開発ビジネスの歴史と最新事例を紹介します。

<第12講>地域で共に生きる - ノーマライゼーションとビジネス（梅澤）
概要：ノーマライゼーションを目指す地域ビジネスを考える
事前学習しておくべき用語やポイント：ノーマライゼーション、ソーシャルビジネス
詳細：高齢者、障がい者を含むすべての人々が社会の一員として対等に社会参画し、世代を越えて交流する働き方、ビジネスの仕組みについて学びます。先行事例として、「ノーマライゼーションの実現」という高い志をもって新たなビジネスの創造に取り組むソーシャルビジネスを紹介します。地域社会におけるソーシャルビジネスの意義、クオリティ・オブ・ライフとソーシャルビジネスとの関係について考えてみましょう。

<第13講>　地域に根ざした小売店、その復活のデザイン（梅澤）

概要：地域のニーズを反映した顧客満足度の高い小売店の復活モデルを考える
事前学習しておくべき用語やポイント：ボランタリー・チェーン、サスティナビリティ、小売業者のネットワーク化、顧客を巻き込んだ持続可能性を意識したサプライチェーン、製品開発と店頭の連動の仕組みづくり、
詳細：郊外立地の広い商圏を持つ価格訴求型大規模店の誕生により、近隣型小売業は苦戦を強いられてきました。しかし社会持続性を考慮し、地域によって異なる顧客のニーズに応えるためには、今後、近隣型店舗が注目されるでしょう。イタリアに展開するボランタリー・チェーンの仕組みを事例として学び、これからの地域ビジネスについて考えます。
<第14講>　地域から生まれる新しいビジネス（1）（梅澤）
概要：市民が主体となって地域の課題をビジネスという手法で解決し、地域活性化につなげるビジネスについて考える
事前学習しておくべき用語やポイント：コミュニティビジネス、コミュニティ・デザイン
詳細：どの地域もそれぞれの課題を抱えています。その課題をビジネスという手法を用いて解決するコミュニティビジネスが注目されています。また、地域の人々は価値がないと思っていた物や事が、外部の人々にとっては魅力的で価値がある物や事であることに気づき、地域に眠るお宝（物・事）をビジネスにする取り組みも活発になっています。ビジネスという手法を用いて、地域の課題を解決しながら、利益をあげ、地域が元気になっていく欲張りな仕組みを実例から学びます。
<第15講>地域から生まれる新しいビジネス（2）、まとめ（奥山）
概要：地域ビジネスの源泉となる地域資源について考える
事前学習しておくべき用語やポイント：地域資源、六次産業、農商工連携
詳細：地域ビジネスは大きく分けて2つから構想していきます。ひとつは地域に横たわる課題を見つけ出し、それを解決するための製品やサービスを構想していくことです。もうひとつは、地域に存在する特徴ある伝統技術や農林水産物などの地域資源を発掘・再評価し、ビジネスに活かしていくという視点からの構想です。ここでは、後者の地域資源活用型ビジネスの事例を交え、地域ビジネスの構想に向けた地域資源の活用方法を実践的に学びます。また、まとめとして、このカリキュラムを通じて、「地域社会」と「ビジネス」に対する見方がどのように変化したか、検証します。

■教科書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■指定図書

山田浩之編『地域経済学入門』有斐閣コンパクト、2002年（第1講、第2講）
岡田知弘・川瀬光義ほか『国際化時代の地域経済学（改訂版）』有斐閣アルマ、2002年（第1講、第2講）
リチャード フロリダ著、小長谷一之訳『クリエイティブ都市経済論―地域活性化の条件』日本評論社、2010年（第2講、第9講）
エドワード・グレイザー著、山形浩生訳『都市は人類最高の発明である』NTT出版社、2012年（第9講）
稲葉陽二『ソーシャルキャピタル入門』中公新書、2011（第9講）
大社充著『地域プラットフォームによる観光まちづくり』学芸出版社、2013年（第10講）
佐藤信之『鉄道会社の経営』中公新書、2013（第11講）
広井良典『協同で仕事をおこす』コモンズ、2011年（第13講、第14講）
山崎亮『コミュニティ・デザイン - 人がつながるしくみをつくる』学芸出版社、2011年（第14講）
永井一史・山崎亮・中崎隆司編『幸せに向かうデザイン - 共感とつながりで変えていく社会』日経BP、2012年（第14講）
アミタ持続可能経済研究所『地域ビジネス起業の教科書』幻冬舎、2010年（第15講）

■参考文献

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■参考URL

■評価方法

出席60%、レポート40%

■評価基準

相対評価
　課題解決力とともに、自分と地域とのかかわりについて、具体性・現実性をもって理解できているかを評価のポイントとします。

■事前履修科目等

特にありません。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・【重要】受講希望者が250名を超える可能性がありますので、履修制限（250名）を設けます。履修するためには、必ず初回（地域社会ビジネス論AまたはB）の講義に出席し、初回の小レポートを提出する必要があります。受講希望者（初回受講者）が250名を超えた場合には、小レポートによって、地域社会ビジネス論AまたはBの履修可能者（履修登録をすれば履修できる者）を決定します。
・日頃から、新聞の地域産業、地域活性化関連の記事について興味を持ってチェックしてください。

科目名 中級簿記（Intermediate Level Bookkeeping）

サブタイトル

担当教員 清松　敏雄

■講義目的

【株式会社で行われる商業簿記を学ぶ】

本講義は、産業社会を支える最も基本的な情報システムである「簿記」の基本原理についての基礎的な理解を前提に、商業を営む株式会社における簿記についてその仕組みを習得し、商業簿記に関して日本商工会議所が主催する簿記検定試験の2級（日商簿記2級）に合格できる知識と能力を習得することを目的とする。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業の経済活動を会計情報として記録するための技法である「複式簿記」の仕組みについて、株式会社での日常の取引を会計処理できる知識を習得すること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>（ガイダンス）　1.銀行勘定調整表
概要：銀行勘定調整表について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：銀行勘定調整表
詳細：預金取引に関係する修正仕訳の処理を習得する。実務上、預金について、会社の帳簿上の残高と実際の預金残高（銀行の残高証明に記載される残高）が異なることがある。そして、その理由によって、会社側で追加の会計処理が必要か否かが判断される。このプロセスは、銀行勘定調整表を用いて行われるため、銀行勘定調整表の記載事項及び記載の仕方を解説する。
<第2講>　2.手形
概要：特殊な手形取引について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：割引手形、裏書手形、更改、不渡
詳細：特殊な手形取引があった際の仕訳処理を習得する。特に、手形の割引、裏書、更改、不渡などについて紹介する。
<第3講>　3.有価証券
概要：有価証券にかかる会計処理について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：有価証券
詳細：有価証券の売買取引の仕訳処理を習得する。事前履修科目である「初級簿記」において、売買目的有価証券の会計処理は学習済みであるが、会社が保有する有価証券は、売買目的有価証券に限られない。そこで、他の目的で保有される有価証券についても解説する。
<第4講>　4.固定資産
概要：固定資産にかかる会計処理について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：固定資産、購入、除却
詳細：固定資産の取得・売却・除却に際しての仕訳処理を習得する。固定資産（特に有形固定資産）の取得・売却については事前履修科目である「初級簿記」でも取り扱っているが、除却等について、追加的な解説を行う。
<第5講>　5.一般商品売買
概要：仕入割引、売上割引について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：売上割引、仕入割引
詳細：売上割引、仕入割引の仕訳処理を習得する。商品の販売取引・購買取引については、値引き・返品については学習済みであるが、割引は値引き・返品とは異なる取引である。そこで、割引（売上割引・仕入割引）を中心にとりあげる。
<第6講>　6.特殊商品売買
概要：特殊な商品の引渡形態を伴う取引の会計処理を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：未着品、委託販売、割賦販売
詳細：未着品売買、委託販売、受託販売、試用品売買、割賦販売などの特殊な商品売買の仕訳処理を中心に解説する。
<第7講>　7.株式の発行　8.合　併
概要：資金調達のための株式発行と企業合併の会計処理を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：株式の発行
詳細：会社が出資を受け入れた際の仕訳処理と複数の会社が一つの会社になる合併の仕訳処理を中心に解説する。
<第8講>　9.剰余金の配当と処分　10.株式会社の税金
概要：剰余金の処分と税金にかかる会計処理について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：配当、法人税等
詳細：企業が獲得した剰余金の配当と処分の仕訳処理と株式会社の税金の仕訳処理を解説する。純資産の項目については、目に見えないため苦手な学生が多いが、増減の要因が定められていることから、会計処理はシンプルである。増減要因ごとに、個々の会計処理を解説する。
<第9講>　11.社　債
概要：社債の発行に伴う諸取引の会計処理について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：社債
詳細：社債を発行して資金調達を行った場合の仕訳処理を習得する。特に、社債発行差額の処理を中心にとりあげる。
<第10講>　12.引当金
概要：引当金の会計処理について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：引当金
詳細：引当金を計上する場合の仕訳処理を解説する。この際、評価性引当金である貸倒引当金だけでなく、負債性の引当金を多く紹介する。
<第11講>　13.精算表
概要：決算整理の総合問題の解き方を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：精算表
詳細：株式会社に特有な会計処理を含めて、決算整理を行うためのワークシートである「精算表」の使い方を解説する。
<第12講>　14.勘定の締切り（英米式・大陸式）　15.財務諸表の作成
概要：決算の確定方法と会計の報告書である財務諸表について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：（勘定の）締切
詳細：決算処理の最終段階である勘定の締切りの仕方を解説する。また財務諸表の表示項目を、損益計算書、貸借対照表に分けて解説する。
<第13講>　16.本支店会計
概要：本支店会計について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：本支店会計
詳細：支店に帳簿を設置した場合の会計処理を習得する。近年、子会社化が多く行われているものの、依然として支店の設置は多く、支店が拡大すると、本店だけでなく支店でも帳簿を設置することがある。そこで、本支店会計の必要性を解説した上で、具体的な会計処理を解説する。
<第14講>　17.伝票会計
概要：伝票会計について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：伝票会計
詳細：5伝票制の下での会計処理を解説する。
<第15講>　18.帳簿組織
概要：特殊仕訳帳について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：売上帳、仕入帳、補助元帳
詳細：補助記入帳を特殊仕訳帳にした場合の会計処理を解説する。

■教科書

[1]滝澤ななみ　『スッキリわかる日商簿記2級商業簿記』　TAC

■指定図書

[1]福島三千代　『サクッとうかる日商2級商業簿記　テキスト』　ネットスクール
[2]福島三千代　『サクッとうかる日商2級商業簿記　トレーニング』　ネットスクール
[3]福島三千代　『すいすい♪簿記マンガみてGO！日商簿記2級』　ネットスクール
[4]桑原知之　『日商簿記2級 とおるテキスト 商業簿記』　ネットスクール
[5]桑原知之　『日商簿記2級 とおるゼミ 商業簿記』　ネットスクール
[6]ネットスクール（編著）　『日商簿記検定　過去問題集2級　出題パターン解き方』　ネットスクール
[7]滝澤ななみ　『プラス8点のための問題演習 日商簿記2級』　TAC出版

■参考文献

堀川洋　『日商簿記受験生のための電卓操作完ぺき自習帳-これで楽勝合格総得点20点アップのトラの巻』　とりい書房

■参考URL

■評価方法

授業内で実施するミニテスト（30%）および期末試験（70%）の成績により評価する。

■評価基準

期末定期試験の成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、期末定期試験の得点順に成績評価する。
相対評価

■事前履修科目等

この講義の履修登録には、「初級簿記」の単位が取得済みであることが必要である。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名 中国経済論（Chinese Economy）

サブタイトル

担当教員 バートル

■講義目的

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を摘出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。
本講義では、世界経済の牽引役として、また政治や外交面でも国際的プレゼンスの高まりを見せている中国を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎知識の習得と日本をめぐる世界潮流を「読む」力の養成を目指す。
具体的には、最前線事例を取りあげながら産業社会が求める問題発見能力と問題解決能力及び高度なコミュニケーション能力を備えた人材育成を念頭に置いた講義を行う。受講生は、本講義を通じて習得した知識を自分の就職や将来に向けて活用できるようにすることが求められる。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

①中国経済に関する基礎的な知識の習得。
②中国経済の現状と課題を分析し、日本企業の新たな経営戦略・ビジネスモデルの立案のほか、日中間の協力の可能性について考える。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 「中国」とは~ガイダンス
概要： 中国の一般事情
事前学習しておくべき用語やポイント[中華人民共和国に関する情報を図書館・本屋や新聞・ネットで探す]
詳細：中国に関する基礎データ等を用いて、その政治、経済、社会構造など一般概要について解説し、次回の講義を受講する前の基本的な知識を押さえる。
<第2講> 今、なぜ中国なのか？
概要： 「世界の工場」と「世界市場」の両方の視点から「中国像」を提示する。
事前学習しておくべき用語やポイント[日本の貿易構造の変化、CHINA AS No.1]
詳細：具体的データを用いて世界経済に占める中国のプレゼンスの拡大の現状を分析する。とりわけ、日本の貿易構造の変化と日本企業の対中投資の現状を踏まえ、日本にとっての中国の重要性を解説する。
<第3講>計画経済の構築・破綻(1949-1978) と現代中国の再出発-鄧小平の改革・開放(1978-現在)
概要：毛沢東時代の中国の政治、経済、社会体制と鄧小平時代の改革開放政策の成果と課題
事前学習しておくべき用語やポイント[毛沢東・計画経済・鄧小平・改革開放政策]
詳細：1949年の中華人民共和国建国から改革開放政策が実施された1978年に至る中国の歴史を振り返り、毛沢東時代の計画経済の実態と破綻へ向けた過程を解説する。1978年から実施された改革開放政策が中国に何を齎したのか。具体的事象とデータを用いて「成果」と「課題」に分けて解説する。
<第4講>高度成長の「光」と「影」(1)-エネルギー、環境問題を中心に
概要： 中国のエネルギー需給と環境問題の現状及び今後の見通し
事前学習しておくべき用語やポイント[中国のエネルギー構造]
詳細：具体的データを用いて、エネルギーの需給状況とエネルギー資源の確保へ向けて中国の取り組みを解説する。また、中国の各種環境問題の現状を具体的データや事例を用いて解説した上、問題解決のために中国政府が如何なる対策を講じているのか、その全体の状況を把握する。
<第5講>高度成長の「光」と「影」(2)-食料問題を中心に
概要： 中国の食料需給状況と今後の見通し
事前学習しておくべき用語やポイント[三大穀物、食料自給率]
詳細：中国の食料需給の現状を踏まえ、中国人のライフスタイルや食生活の変化に伴い、今後食料需給状況にもたらす影響について解説する。
<第6講>高度成長の「光」と「影」(3)-格差問題を中心に
概要： 中国の格差問題の現状と対策
事前学習しておくべき用語やポイント[中国の格差問題]
詳細：格差問題の内実、問題の背景、中国政府が講じる対策など各種側面から解説する。
<第7講>高度成長の「光」と「影」(4)-人口問題を中心に
概要： 中国の人口構造の現状と今後の見通し
事前学習しておくべき用語やポイント[一人っ子政策、高齢化社会・高齢社会・超高齢社会]
詳細：具体的データを用いて中国の人口構造の現状と今後の見通しを解説する。
<第8講>高度成長の「光」と「影」(5)-「農民工」問題を中心に
概要： 「農民工」の現状と
事前学習しておくべき用語やポイント[新世代農民工・戸籍制度]
詳細：中国の出稼ぎ労働者（「農民工」）の現状と労働市場の阻害要因となる戸籍制度の弊害を解説する。
<第9講>高度成長の「光」と「影」(6)-民族問題を中心に
概要： 民族問題の歴史的背景と現状
事前学習しておくべき用語やポイント[中国の少数民族]
詳細：中国で存在する民族問題の歴史的背景を踏まえた上、具体的事例を挙げてその現状と問題解決のための中国政府の取り組みを解説する。
<第10講>高度成長の「光」と「影」(7) - 中国共産党の一党支配体制を中心に
概要： 中国の政治体制と中国共産党
事前学習しておくべき用語やポイント[中国共産党・政治体制改革]
詳細：中国共産党による一党支配体制の現状分析に加え、中国ビジネスにおける政治の意味について解説する。
第11講>中国の地域開発戦略（1）
概要：「東北振興」戦略
事前学習しておくべき用語やポイント[東北振興・北東アジア経済圏]
詳細：中国の「東北振興」戦略の概要とその成果、課題を解説する。
第12講> 中国の地域開発戦略（2）
概要： 「西部大開発」戦略
事前学習しておくべき用語やポイント[西部大開発]
詳細： 中国の「西部大開発」戦略の概要とその成果、課題を解説する。
<第13講>中国の地域開発戦略（3）
概要：「中部掘起」戦略
事前学習しておくべき用語やポイント[中部掘起]
詳細：「中部掘起」戦略の概要とその成果、課題を解説する。
<第14講>日中経済関係の現状と課題
概要：日中経済関係の最新状況
事前学習しておくべき用語やポイント[日中経済]
詳細：最新のデータ等を用いて日中経済関係の現状と課題について解説する。
<第15講> まとめ概要：春学期の講義内容の総まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[中国経済の最新動向・春学期の総括]
詳細：春学期の講義内容を簡単に振り返ったうえ、受講生全員を対象に本講義に対する感想と最終レポートのテーマについて、意見聴取すると共に、講義の改善点等について意見交換会を行う。

■教科書

なし

■指定図書

関志雄『チャイナ・アズ・ナンバーワン』（東洋経済新聞社、2009年）
寺島実郎『世界を知る力』（PHP新書、2010年）
寺島実郎『世界を知る力　日本創生編』（PHP新書、2011年）
真家陽一『中国経済の実像とゆくえ』（ジェトロ、2012年）
寺島実郎『大中華圏』（NHK出版、2012年）
三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』（共同通信社、2012年）

■参考文献

随時紹介（資料配布）する。

■参考URL

■評価方法

評価は、出席(30%)、毎回提出の講義メモ(30%)、最終レポート(30%)、質問・意見(10%)により行う。

■評価基準

相対評価
出席と毎回提出する講義メモを重視(30%+30%=60%)する。レポート(30%)は、A4用紙3枚以内。質問意見(10%)は、講義への積極的な参加・貢献として評価し、発言回数に基づいて1%～10%の評価を加える。講義メモは、講義内容を理解し、かつ独自の問題意識を持ち、問題解決へ向けての取り組み姿勢が顕著に表れているのかを重視する。
採点後、最後に返却する。
尚、評価点100%(出席30%+講義メモ30%+レポート30%+質問意見10%)のうち60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

『アジア経済論』Ⅰ
『中国経済論』
『韓国経済論』
『特別講座』など、グローバルビジネス関連科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

以下の機関が発表する情報等を常時確認すること。
日本外務省HP：http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html
日本貿易振興機構HP：http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/
日本財務省貿易統計HP：http://www.customs.go.jp/toukei/info/
日本銀行HP：http://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/
（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構http://www.jogmec.go.jp/
（株）三井物産戦略研究所http://mitsui.mgssi.com/
東京財団http://www.tkfd.or.jp/
キャノングローバル戦略研究所http://www.canon-igs.org/

科 目 名　中国語Ⅰ(Chinese Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　バートル、安田　峰俊

■講義目的

日本にとって中国は、最大の貿易相手国であり、歴史的・文化的にも関係の深い隣国である。将来のビジネスシーンでの運用を目標に、中国語の発音、基本文型、基礎的語彙、基本的な挨拶言葉など、中国語の基礎を習得する。具体的には、一人で中国旅行に行ける、中国人店員がいる飲食店で中国語で注文が取れるなど、実用で使える中国語力の養成を目指す。同時に、中国語の学習を通じて、中国の社会・文化・習慣などに対する理解も深める。
本講義は、実践性を重視した中国語力の養成を目指すため、意欲的な授業参加を期待すると共に、中国語圏への留学を強く勧める。

■講義分類

ビジネス環境理解 社会人力育成 グローバルビジネス

■到達目標

①中国で簡単な日常会話ができる。
②1年後に中国語検定試験の4級程度の実力をつけること。

■講義形態

講義のみ
：なし

■講義の概要

<第1講>　オリエンテーション
◆1週目1回目
中国語とは何かを知る。言語の構造、使用されている文化圏、言語の成立過程、「普通話」とは何か、簡体字と繁体字の違い、ピンイン、声調、発音の性質などについて概説する。
また、講師及び、受講者氏名の中国語での読み方、教科書の「課堂用語（授業用語）」を確認する。
◆1週目2回目
講師及び、受講者氏名の中国語での読み方、教科書の「課堂用語（授業用語）」を復習する。
また、最も簡単なあいさつ「こんにちは」「ありがとう」「数字」などを知る。
ほか、四声、ピンインの読み方についてガイダンスをおこなう。
　※週の2回目の講義の宿題…次回の単語の予習。以下同じ
<第2講>教科書：第1課　挨拶する
【発音】母音・子音・声調・軽声
【会話】挨拶・おわび・感謝の言い方
　※週の1回目の講義で概要、2回目の講義で同内容の復習。以下同じ
　※前回の内容について口頭で質問するので、準備しておくこと。以下同じ
<第3講>～<第14講>
教科書に従い、基本文法・発音などを学ぶ。口語での会話力を重視する。
<第15講>春学期のまとめ
期末総合試験（口頭発表を予定）

■教科書

・相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場　簡明版』　朝日出版社
・教科書は必ず購入すること。
・ほか、プリント配布

■指定図書

随時紹介（資料配布）する。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、小テスト（20%）、期末試験（40%）、出席状況（30%）、意欲・予習状況（10%）により評価する。

■評価基準

絶対評価
小テスト（20%）、期末試験（40%）、出席状況（30%）、意欲・予習状況（10%）により評価し、
評価点100%のうち合計60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

週の最初の講義の冒頭で、予習状況（=毎週の宿題）を確認する。これは成績評価に関係する。 発声練習・及び発音記号の読み方の習得は、各自の予習と復習を歓迎する。
日本中国語検定協会HP：http://www.chuken.gr.jp/tcp/test.html
日本ビジネス中国語学会HP：http://www.toho-shoten.co.jp/business/

科目名　中国語II（Chinese II）

サブタイトル

担当教員　バートル、安田　峰俊

■講義目的

日本にとって中国は、最大の貿易相手国であり、歴史的・文化的にも関係の深い隣国である。将来のビジネスシーンでの運用を目標に、中国語の発音、基本文型、基礎的語彙、基本的な挨拶言葉など、中国語の基礎を習得する。具体的には、一人で中国旅行に行ける、中国人店員がいる飲食店で中国語で注文が取れるなど、実用で使える中国語力の養成を目指す。同時に、中国語の学習を通じて、中国の社会・文化・習慣などに対する理解も深める。
本講義は、実践性を重視した中国語力の養成を目指すため、意欲的な授業参加を期待すると共に、中国語圏への留学を強く勧める。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

客観的指標としては、年度末に中国語検定4級程度の実力をつけることを目標とする。

■講義形態

講義のみ：なし

■講義の概要

<第1講>　オリエンテーション&前期の復習
【発音】前期の復習
【文法・会話】受講者のレベルを確認 週の2回目以降は教科書に従い進める。
※講義の宿題…次回の単語の予習。以下同じ
<第2講>～<第14講> 教科書に準拠して講義を進める。前期と同じ方針につき詳細割愛。
<第15講>秋学期のまとめ 期末総合試験（口答試験を予定）

■教科書

・相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場　簡明版』　朝日出版社
・教科書は必ず購入すること。
・ほか、プリント配布

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、小テスト（20%）、期末試験（40%）、出席状況（30%）、意欲・予習状況（10%）により評価する。

■評価基準

絶対評価
小テスト（20%）、期末試験（40%）、出席状況（30%）、意欲・予習状況（10%）により評価し、
評価点100%のうち合計60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

週の最初の講義の冒頭で、予習状況（＝毎週の宿題）を確認する。これは成績評価に関係する。
発声練習・及び発音記号の読み方の習得は、各自の予習と復習を歓迎する。
日本中国語検定協会HP：http://www.chuken.gr.jp/tcp/test.html
日本ビジネス中国語学会HP：http://www.toho-shoten.co.jp/business/

科目名 中国ビジネスコミュニケーションⅠ(Chinese Business Communication Ⅰ)

サブタイトル

担当教員 バートル

■講義目的

この講義は、原則として「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」を履修した学生を対象にして行う。
前半は、短い会話文を使って、ピンインの読み方の復習及び声調の再トレーニングを徹底的に行い、会話を自然な形で表現できるようにするなど、実践性を重視した自己表現力の向上に重点を置く。
後半は、中国語検定試験を受験することを想定して模擬テストを数回行う。同時に、中国の社会、文化、生活などの事柄を理解することとビジネス用語・表現の習得も目指す。
本講義は、実践性を重視した中国語力の養成を目指すため、意欲的な授業参加を期待すると共に、中国語圏への留学を強く勧める。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

中国語検定試験4級以上の合格を目指す。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

第1講> オリエンテーション
概要： 中国語の発音（ピンイン）、基本的な挨拶言葉の復習
事前学習しておくべき用語やポイント[母音・子音・声調・挨拶言葉]
詳細：中国語の発音（ピンイン・声調）と基本的な挨拶言葉や表現を復習すると共に、受講生による中国語での自己紹介を行う。
<第2講>名前を尋ねる、自己介紹
概要：出会いとコミュニケーション
事前学習しておくべき用語やポイント["是"の使い方、人称代名詞]
詳細：簡単な自己紹介の言葉と表現を学習する。
<第3講>疑問詞・指示代名詞
概要：疑問詞を使った疑問文
事前学習しておくべき用語やポイント["誰""?"の使い方]
詳細：簡単な会話形式を用いて疑問詞を使った文と指示代名詞を学習する。
<第4講>復習（小テスト）
概要：挨拶と自己紹介、疑問詞を使った疑問文の復習とテスト
事前学習しておくべき用語やポイント[第1講～第3講までの学習内容の復習]
詳細：これまでの学習内容をまとめた上で、小テストを実施する。
<第5講>数の数え方
概要：数の数え方と量詞
事前学習しておくべき用語やポイント[数量詞]
詳細：数詞・量詞を使ったモノの数え方を学習する。
<第6講> 年月日の言い方
概要：年月日・曜日・時刻
事前学習しておくべき用語やポイント[年月日・曜日・時刻]
詳細：年月日・曜日・時刻の表現方法を学習する。又、中国の祝祭日を把握する。
<第7講> 学校・家庭について
概要： 所有を表す表現
事前学習しておくべき用語やポイント["有""几"の使い方]
詳細：所有を表す表現"有""几"の使い方を学校や家庭についての会話を通じて学習する。
<第8講>復習（小テスト）
概要： これまでの学習内容を復習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[第5講～第7講までの学習内容の復習]
詳細：数の数え方、月日の言い方、所有と存在を表す表現を復習した上で、小テストを実施する。
<第9講> 存在を表す表現
概要：存在を表す表現
事前学習しておくべき用語やポイント["有""在"の使い方]
詳細：存在を表す"有""在"の使い方を具体的会話で学習する。
<第10講>場所・道・住所を尋ねる
概要：場所・道・住所を尋ねる表現
事前学習しておくべき用語やポイント[介詞]
詳細：場所・道・住所を尋ねる表現を具体的会話で学習し、「介詞」の使い方を習得する。
<第11講>招待・訪問
概要：招待・訪問の際の表現
事前学習しておくべき用語やポイント[招待・訪問に関連する用語]
詳細：招待・訪問の表現方法を具体的会話形式で学習する。
<第12講>)"補語"の総合的学習
概要： 各種補語の表現方法の習得
事前学習しておくべき用語やポイント[副詞]
詳細：様態補語、方向補語、可能補語、可能補語を表す表現を会話形式で学習する。
<第13講>"能願動詞"と"連動文"
概要： 能願動詞と連動文の使い方
事前学習しておくべき用語やポイント["会""能""可以" "要""想"の使い方]
詳細：能願動詞"会""能""可以" "要""想"と連動文の使い方を具体的会話形式で学習する。
<第14講>復習（小テスト）
概要： これまでの学習内容の復習
事前学習しておくべき用語やポイント[第9講～第13講までの学習内容の復習]
詳細：補語の使い方や能願動詞と連動文の使い方を復習した上で、小テストを実施する。
<第15講>まとめ
概要：春学期の総まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[秋学期の学習内容の復習]
詳細：春学期で学習した内容を基に総合試験を実施する。

■教科書

(1) 中国語の学習用プリントを配布する。
(2) ビジネス用語や中国語検定試験関連資料を配布する。

■指定図書

随時紹介（資料配布）する。

■参考文献

相原茂他編『日中いぶこみ広場』、朝日出版
陸偉榮『中国語 リスニング&スピーキング』（国際語学社、2012年）
（株）光生館『中検準4級問題集』『中検4級問題集』『中検3級問題集』（2013年版）

■参考URL

■評価方法

評価は、小テスト（30%）と期末総合試験（50%）、出席状況（20%）で評価する。

■評価基準

相対評価
小テストは、次の3点から評価する。
(1) 発音の正確さ。
(2) 文章(文法)の正確さ。
(3) 対話の力。
期末総合試験は、総得点数により評価する。
尚、評価点100%（小テスト30%＋期末総合試験50%＋出席20%)のうち60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

中国語Ⅰ、中国語Ⅱ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習、復習をしっかりやること。
中国語検定試験の受験を前提とした対策を行うこと。
■参考URL
日本中国語検定協会HP：http://www.chuken.gr.jp/tcp/test.html
日本ビジネス中国語学会HP：http://www.toho-shoten.co.jp/business/

科目名　中国ビジネスコミュニケーションII（Chinese Business Communication II）

サブタイトル

担当教員　バートル

■講義目的

この講義は、原則として「中国語I」と「中国語II」を履修した学生を対象にして行う。
前半は、短い会話文を使って、ピンインの読み方の復習及び声調の再トレーニングを徹底的に行い、会話を自然な形で表現できるようにするなど、実践性を重視した自己表現力の向上に重点を置く。
後半は、中国語検定試験を受験することを想定して模擬テストを数回行う。同時に、中国の社会、文化、生活などの事柄を理解することとビジネス用語・表現の習得も目指す。
本講義は、実践性を重視した中国語力の養成を目指すため、意欲的な授業参加を期待すると共に、中国語圏への留学を強く勧める。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

中国語検定試験4級以上の合格を目指す。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 訪問
概要：訪問する際の表現
事前学習しておくべき用語やポイント[訪問に関連する挨拶言葉]
詳細：訪問に関する基本的な表現方法を具体的会話形式で学習する。
<第2講>買い物
概要：買い物する際の表現
事前学習しておくべき用語やポイント[品物・金額に関する用語]
詳細：買い物する際の表現方法を具体的会話形式で学習する。
<第3講>乗車、乗り換え
概要：乗車、乗り換えの際の表現
事前学習しておくべき用語やポイント[交通機関に関連する用語　]
詳細：乗車、乗り換えの際の表現方法を会話形式で学習する。
<第4講>趣味・興味
概要：趣味や興味についての表現
事前学習しておくべき用語やポイント[趣味・興味に関連する用語]
詳細：趣味や興味についての表現方法を会話形式で学習する。
<第5講>復習（小テスト）
概要：これまでの学習内容の復習
事前学習しておくべき用語やポイント[第1講～第4講までの学習内容の復習]
詳細：これまでの学習内容を復習した上で、小テストを実施する。
<第6講>天気、季節
概要：天気、季節に関する表現
事前学習しておくべき用語やポイント[天気や季節関連用語]
詳細：天気、季節に関する表現方法を会話形式で学習する。
<第7講>電話をする
概要：電話をする際の表現
事前学習しておくべき用語やポイント[電話内容を想定した用語]
詳細：電話をする際の表現方法を会話形式で学習する。
<第8講>食事する
概要：食事する際の表現
事前学習しておくべき用語やポイント[食に関する用語]
詳細：食事する際の表現方法を会話形式で学習する。
<第9講>病気、医者の診察を受ける
概要：病気、医者の診察を受ける際の表現
事前学習しておくべき用語やポイント[医療関連用語]
詳細：病気、医者の診察を受ける際の表現方法を会話形式で学習する。
<第10講>復習（小テスト）
概要：これまでの学習内容の復習
事前学習しておくべき用語やポイント[第6講～第9講までの学習内容の復習]
詳細：これまでの学習内容を復習した上で、小テストを実施する。
<第11講>比較文
概要：比較文の応用的学習
事前学習しておくべき用語やポイント["比""一様"]
詳細：比較を表す"比""一様"の応用的学習を行う。
<第12講> 進行相、完了相
概要：進行相、完了相の表現
事前学習しておくべき用語やポイント["在～?""了"]
詳細：進行相、完了相"在～?""了"の表現を会話形式で学習する。
<第13講> 形容詞
概要：形容詞を使った表現
事前学習しておくべき用語やポイント[形容詞]
詳細：形容詞を使った表現を会話形式で学習する。
<第14講>復習（小テスト）
概要： これまでの学習内容の復習
事前学習しておくべき用語やポイント[第11講～第13講までの学習内容の復習]
詳細：これまでの学習内容を復習した上で、小テストを実施する。
<第15講>まとめ（期末試験）
概要：秋学期の総まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[秋学期の学習内容の復習　]
詳細：秋学期で学習した内容を基に総合試験を実施する。

■教科書

（1）中国語の学習用プリントを配布する。
（2）ビジネス用語や中国語検定試験関連資料を配布する。

■指定図書

随時紹介（資料配布）する。

■参考文献

相原茂他編『日中いぶこみ広場』、朝日出版
陸偉榮『中国語　リスニング&スピーキング』（国際語学社、2012年）
（株）光生館『中検準4級問題集』『中検4級問題集』『中検3級問題集』（2013年版）

■参考URL

■評価方法

評価は、小テスト（30%）と期末総合試験（50%）、出席状況（20%）により評価する。

■評価基準

相対評価
小テストは、次の3点から評価する。
（1）発音の正確さ。
（2）文章(文法)の正確さ。
（3）対話の力。
期末総合試験は、総得点数で評価する。
尚、評価点100%（小テスト30%+期末総合試験50%+出席20%)のうち60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

中国語Ⅰ、中国語Ⅱ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習、復習、特に復習をしっかりやること。
中国語検定試験の受験を前提とした対策を行うこと。
■参考URL
日本中国語検定協会HP：http://www.chuken.gr.jp/tcp/test.html
日本ビジネス中国語学会HP：http://www.toho-shoten.co.jp/business/

科目名 中小企業論（Small and Medium-Sized Enterprise Theory）

サブタイトル ～小さくても光る中小企業の姿～

担当教員 奥山　雅之

■講義目的

中小企業は、企業数の99%、就業者数の約70%を占め、地域経済を支えるとともに、「社会をこうしたい」という志を持った多くの中小企業（=志企業）が新しい製品やサービスを創るなど、「イノベーション」の担い手としても重要な役割を果たしています。

私たちは、よくテレビCMを実施しているような大企業の名前と事業内容はよく耳にしますが、中小企業がどのような企業活動を行っているか、知りうる手段が十分に整っているとはいえません。

しかし、地域の中をよく見ると、規模は小さいけれど独自の技術を持って特定の製品で大きな市場シェア（占有率）を持つものづくりの中小企業や、行列のできる小さな店などを見つけることができます。中小企業は、1つのイメージでは語りつくせない、極めて多様性のある存在なのです。

中小企業は、当然のことではありますが、大企業と比べて経営の基盤が弱い部分があり、また経営上の課題を抱える企業も多く存在します。こうした中小企業の問題性についてもしっかり目を向けていくことも必要ですが、中小企業を決してネガティブのみには捉えずに、豊富な事例を交えながら、その強みや魅力、今後の発展にも迫り、社会に出てからも役に立つ実践的知識獲得を目指します。

受講すれば、「中小企業」に対するイメージも一新されるはずです。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

本講義のゴール（目標）は、次の2つとします。

（1）　生活と中小企業とのつながりについて、現実感を持ってイメージすること。

（2）　社会における中小企業の存在意義と今後の展望について、各自が各自なりの意見と考え方を持つこと。自分なりの「中小企業観」を持つことは、自分なりの「企業観」、ひいては「組織観」を持つことにつながります。

■講義形態

講義のみ（一部にGDあり）：学外学習無

■講義の概要

<第1講> ガイダンス
概要：この講義で学ぶこと
事前学習しておくべき用語やポイント[企業は何のためにあるのか]
詳細：この講義の意義、講義の進め方、目指すべき目標などについて確認していきます。
<第2講>中小企業とは何か
概要：中小企業の意義、特徴について
事前学習しておくべき用語やポイント[中小企業、中小企業基本法]
詳細：「中小企業」とひとことで言っても、いろいろな企業があり、多様です。そうした多様な存在でもある中小企業に共通した特徴についてみていきます。
<第3講>中小企業で働くこと
概要：中小企業で「働く」ことの特徴
事前学習しておくべき用語やポイント[職場、キャリア]
詳細：我が国の雇用の場の約70%は中小企業によって生み出されています。雇用の場として重要な役割を果たす中小企業において「働く」ことの特徴について、大企業で働くこととの比較を交えて分析します。
<第4講>業を起こすこと（起業）について
概要：起業の意義、「志」について
事前学習しておくべき用語やポイント[起業家、企業家精神]
詳細：中小企業だけでなく、大企業もはじめは業を起こすことから出発しています。起業の事例を交えながら、「業を起こす」ということについて一緒に考えます。
<第5講>大企業と中小企業（1）
概要：大企業との関係がもたらす中小企業問題とは何か
事前学習しておくべき用語やポイント[規模の経済、取引、二重構造]
詳細：中小企業は発展の可能性と不安定さといった問題性を同時に抱える存在でもあります。大企業と中小企業との取引関係や競争関係の歴史的推移や現状を確認しながら、主に戦後期および高度成長期の中小企業問題について考えます。
<第6講>大企業と中小企業（2）
概要：大企業との関係がもたらす中小企業問題とは何か
事前学習しておくべき用語やポイント[規模の経済、取引、二重構造]
詳細：中小企業は発展の可能性と不安定さといった問題性を同時に抱える存在でもあります。大企業と中小企業との取引関係や競争関係の歴史的推移や現状を確認しながら、主に1970年代以降の中小企業問題について考えます。
<第7講>中小企業の発展（1）
概要：時代の変遷と中小企業の発展（「量産型中小企業」など）
事前学習しておくべき用語やポイント[環境適応、新事業展開、ネットワーク]
詳細：中小企業は時代とともに変化し、発展し、我が国の経済に大きな役割を果たしてきました。こうした中小企業の発展を時代とともに追っていき、今後の展望を検討します。この回では、主に「企業家的中小企業」「輸出軽機械工業」「量産型中小企業」「中堅企業」などについて考察します。
<第8講>中小企業の発展（2）
概要：時代の変遷と中小企業の発展（「製品開発型中小企業」など）
事前学習しておくべき用語やポイント[環境適応、ベンチャー、下請企業、製品開発型企業]
詳細：前回に引き続き、中小企業の発展を類型別にみていきます。この回では、主に「ベンチャー企業」や、ものづくり中小企業を中心とした「（高度な）サポーティング・インダストリー」「製品開発型中小企業」などについて紹介します。あわせて、中小企業の下請企業からの自立のプロセスについても考えていきます。
<第9講>中小企業の発展（3）
概要：時代の変遷と中小企業の発展（「老舗」）
事前学習しておくべき用語やポイント[環境適応、二重構造]
詳細：この回では、中小企業の発展形態の一つとして「老舗」を考察していきます。いくつかの「老舗」の事例を検討し、激しい時代変化にも耐えて持続的に経営してきた老舗から学ぶことは何か？考えてみましょう。
<第10講>中小商業と流通
概要：商店と商店街の現状
事前学習しておくべき用語やポイント[大型店、チェーンストア、商店街]
詳細：私たちの生活の場には、大規模店舗やチェーン店だけでなく、小さなお店もたくさん存在しています。私たちの生活に身近な商店街など、中小商業の現状と課題について考えます。
<第11講>中小企業経営の実際
概要：ゲストスピーカー（中小企業経営者等）による講演
事前学習しておくべき用語やポイント[品揃え、マーケティング]
詳細：中小企業経営者など中小企業の現場に携わる方からの「生の声」によって、中小企業が、激しい環境変化の中でどのように存続・発展してきたのか学びます。

※ゲストスピーカーの招聘を予定していますが、先方のスケジュールの都合で内容または日程が変更となる場合があります。

<第12講>中小企業の競争戦略
概要：中小企業が大企業に勝つために必要なこと
事前学習しておくべき用語やポイント[競争戦略、ランチェスター戦略、ブルーオーシャン戦略]
詳細：小さい企業は大きい企業に勝てないのか？・・・いや、決してそうではありません。中小企業ならではの強みを活かし、大企業の戦略とは一線を画した自社ならの「立ち位置」を確立していけば道は開けます。中小企業が大企業に勝つために必要な戦略について考えていきます。
<第13講>中小企業の金融
概要：中小企業の金融の現状と金融機関の役割
事前学習しておくべき用語やポイント[資金繰り、融資、保証]
詳細：企業は資金で工場や店舗を建て、材料や商品を仕入れ、人材を雇用し、ビジネスを実践します。企業活動を支える資金について、その役割と流れを考えていきます。
<第14講>中小企業のグローバル化
概要：中小企業の輸出・海外進出の現状と課題
事前学習しておくべき用語やポイント[貿易、現地生産、知的財産]
詳細：グローバリゼーションの一層の進展の中で、大企業だけでなく、中小企業の中にも日本にとどまらず海外に営業所や工場を設けて進出する企業が多くあります。しかし、そこには多くの困難が待っているケースも少なくありません。こうした中小企業のグローバル化の現状と課題についてみていきます。
<第15講>まとめ、振り返り
概要：中小企業の問題性と発展性をまとめる
事前学習しておくべき用語やポイント[中小企業の強み、弱み]
詳細：講義の全体を振り返り、中小企業のイメージがどのように変わったか、また、中小企業の強みと弱み、問題性と発展性についてまとめていきます。

■教科書

特にありません。レジュメを配布します。また、必要があれば適宜指示します。

■指定図書

渡辺 幸男、黒瀬 直宏、小川 正博、向山 雅夫著『21世紀中小企業論―多様性と可能性を探る（第3版）』有斐閣アルマ、2013年9月。
加藤 秀雄『日本産業と中小企業―海外生産と国内生産の行方』新評論、2011年8月。

■参考文献

中小企業庁『中小企業白書（各年版）』
奥山雅之「東京のものづくり産業集積の今後―中小製造業を中心として―」中小企業家同友会全国協議会企業環境研究センター『企業環境研究年報　第16号』2011年12月。

■参考URL

■評価方法

出席（小レポートを含む）40%、定期試験（中間試験を行う場合はそれを含む）60%

■評価基準

相対評価
中小企業の強み・弱み、発展性と問題性について理解できているかを評価のポイントとします。

■事前履修科目等

特にありません。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・【重要】受講希望者が250名を超える可能性がありますので、履修制限（250名）を設けます。履修するためには、必ず初回の講義に出席し、初回の小レポートを提出する必要があります。受講希望者（初回受講者）が250名を超えた場合には、小レポートによって履修可能者（履修登録をすれば履修できる者）を決定します。
・日頃から、新聞の産業、企業関連の記事（特に中小企業・ベンチャー企業関連の記事）について興味を持ってチェックしてください。

科 目 名　データ解析（Introduction to Data Analysis）

サブタイトル

担当教員　久保田　貴文

■講義目的

さまざまな分野での多様な問題に取り組むため、データ収集し、データを分析することはますます重要になってきています。この講義の目的は、データを分析することにより、データの中から情報を取り出すということの重要性を理解し、意思決定や問題解決のための資料の提供という観点から，データ解析という客観的な手順にしたがって取り出した情報の意味をどのように把握するのか、ということを理解することです。

■講義分類

顧客理解
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

データ分析に必要な統計学の考え方を理解します。データから情報を取り出すための方法、特に実際のデータ解析で必要な2つ以上の変数の関係を扱う諸手法（相関、回帰、クロス表、クラスター分析）を理解することです。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：　半年間の講義の目的と授業の予定を述べます。
事前学習しておくべき用語やポイント[データから情報を取り出すことの意味]
詳細：データから情報を取り出すために、データをどのように要約するのか、その目的と意義について，問題解決や意思決定にどのように役立てるのかを説明し、今後の講義の内容の概要を説明し、授業と試験の日程をお知らせします。レポートでは、適当な統計ソフトを用いて、データ分析の応用を通じた問題解決や意思決定などを扱います。
<第2講>
概要：　データから情報を取り出すこととデータ分析の関係を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[統計分析の役割、問題解決]
詳細：基礎的なデータ分析により、データからはどのような情報が得られるのかということを述べます．また、データ分析は，問題解決に対してどのように役立てられるのか，どのようにしたら有効に役立てられるのか，データ分析の結果の解釈と利用という観点から説明する予定です。
<第3講>
概要：多量のデータに潜む情報の記述をわかりやすく表現する方法を考え、表やグラフなどの使い方を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[データの記述と情報]
詳細：多量のデータに含まれている情報をどのようにして分かりやすく記述するのかということを述べます．さまざまな種類の表やグラフなどを、データに含まれている情報の記述という意味合いからどのように用いるのかを説明し、それらをどのようにして求めればよいのかを述べます。
<第4講>
概要：データの記述としての基礎的な統計の指標の算出を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[データに含まれている情報、分布の記述]
詳細：データに含まれている情報を表現する最も基本的な考えかたとして，分布を記述するということを取り上げます．分布を記述するという意味を述べ、平均値や分散などの基本的な統計量をどのように用いるのかについて述べます。それらの基本的な統計量と分布との関係を考えます。
<第5講>
概要：多変量データのもつ意味を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[多変量データ]
詳細：変数が複数ある多変量データのもつ意味を考え，多変量データの統計分析における扱い方を考えます。多変量データを分析する統計分析であるさまざまな多変量解析の概要を説明します．データの分布と変数の関連について、また、多変量データをどのように記述するのかについて概要を述べます。
<第6講>
概要：多変量データと多変量解析の対応を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[多変量データの情報と扱い方]
詳細：多変量データ分析で用いられるいくつかの代表的な多変量解析の方法の概要を述べ、それらを利用する目的という観点から、どのように分類するのかについて述べます。多変量データから情報を取り出すために使われるいくつかの統計分析の関係を理解し，方法の違いと取り出す情報を考えます。
<第7講>
概要：多変量データにおいて、変数の間の関連をどのように記述するかを扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[変数間の関連の記述、クロス表]
詳細：多変量データにおいて、それぞれの変数についての記述だけではなく，複数の変数の間の関係を記述することにより，有益な情報が得られることを説明します．そのために用いられる，さまざまな考え方や方法，例えば，相関係数の算出と評価を理解し、相関係数の問題点、クロス表の意味を理解します。
<第8講>
概要：回帰分析の意味、回帰分析で得られる結果の読み取り方を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[回帰，相関と回帰の違い]
詳細：回帰分析の概念を説明し，その必要性を述べます。ある変数から別の変数を予測するという観点から，回帰分析を考えます．相関分析と回帰分析の共通点と異なるについて述べ、データ分析という意味から、回帰分析によりどのような情報が得られるのか，ということを説明します。
<第9講>
概要：データの記述について理解を深めます。
事前学習しておくべき用語やポイント[分布の記述、変数間の関連]
詳細：第1回の試験を行う予定です。筆記試験を行います。筆記試験の範囲は，第1講から第8講で扱い，授業中に随時に演習で扱った内容について行う予定です。データの中に含まれている情報を統計分析によって取り出すために，これまでに扱ってきた様々な考え方や分析方法を自分自身で確認するための機会とします。
<第10講>
概要：筆記試験の問題の解説を行います。
事前学習しておくべき用語やポイント[データ分析と問題解決，分布の記述]
詳細：筆記試験の問題の解説を行います。筆記試験で解いた問題を各自で考察し、理解が不十分な点や不完全な点を補います。データからデータ分析により情報を取り出して、それらを問題解決に用いるということの意味を考えます。そのための具体的な方法の理解を深めます。
<第11講>
概要：分類について，また，クラスター分析法の考え方を扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[分類，クラスター分析法]
詳細：分類がデータ分析あるいは意思決定において果たしている役割の重要性について述べます．動物や植物あるいは，図書の分類でとられている考え方について述べ，クラスター分析法における分類は，これら従来の分類とどのように違うのか，どのように進歩したのを述べます．
<第12講>
概要：：階層クラスター分析法の考え方、非階層クラスター分析法との違いを扱います。
事前学習しておくべき用語やポイント[階層構造、階層クラスター分析法]
詳細：階層構造について、その意味を考えます．階層構造に基づいたクラスター分析法である階層クラスター分析法を紹介し，階層構造を用いないクラスター分析法である非階層クラスター分析法との違いを理解します．階層クラスター分析法の考え方とクラスター構成の原理を理解します。代表的な階層クラスター分析法である、最大法、最小法を理解します。
<第13講>
概要：　線形計画法についての演習
事前学習しておくべき用語やポイント[ウォード法、クラスターによる分類]
詳細：階層クラスター分析法の代表的な方法の1つであるウォード法を説明します．ウォード法の考え方，クラスター構成の手順を理解します．階層クラスター分析の結果に基づいて分類を行い，それによってデータから情報を取り出すことの意味を理解します。ウォード法など階層クラスター分析のさまざまな方法の違いを理解し、その長所と短所を理解します。レポートを提出して貰います。
<第14講>
概要：クラスター分析法，特に階層クラスター分析法の概念、手順、クラスター分析法に基づく分類について理解を深めます。
事前学習しておくべき用語やポイント[階層クラスター分析法、分類]
詳細：第2回の試験を行う予定です。筆記試験を行います．試験の範囲は，第11講から第13講で扱い，授業中に随時に演習で扱った内容について行う予定です。データの中に含まれている情報を統計分析によって取り出すために，これまでに扱ってきた様々な考え方や分析方法を自分自身で確認するための機会とします。
<第15講>
概要：筆記試験の問題の解説を行います。
事前学習しておくべき用語やポイント[分類と情報、階層クラスター分析法、意思決定]
詳細：筆記試験で解いた問題を各自で考察し、理解が不十分な点や不完全な点を補いま

す。クラスター分析法が問題解決に用いられる背景を理解し、分類するということが、データの中から情報を取り出すという点において果たしている役割を考えます．一部のレポートについて，発表して貰います。

■教科書

岡太彬訓・中井美樹・元治恵子　「データ分析入門―基礎統計―」　共立出版(2012)

■指定図書

岡太彬訓・都築誉史・山口和範　「データ分析のための統計入門」　共立出版(1995)

■参考文献

岡太彬訓・守口剛　「マーケティングのデータ分析」　朝倉書店(2010)

■参考URL

■評価方法

講義への出席状況（10％）、講義中におけるあるいは質問用紙への質問の良さ（10％）、2回の試験（各30％）とレポート（20％）を総合して評価します。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習と復習を必ず行うこと.

科 目 名　データベース（DataBase System）

サブタイトル

担当教員　深沢　弘美

■講義目的

産業社会における問題解決において，データは重要な役割を果たす．そのため，コンピュータ上で正しくデータを管理するための技術を身につけることはあらゆる業種，分野において大変重要となる．そこで本講義ではコンピュータでの情報管理の実践的知識を獲得するために，リレーショナルモデルを中心としたデータベースの基礎概念（データベースマネージメントシステム：DBMS)について学習する．リレーショナルデータベースの基礎概念をもとにデータ管理の仕組みを理解し，アプリケーションを構築することができるようになることが本講義の目標である．講義は演習と課題制作を含み，最終課題では各自テーマを設定してデータベース・アプリケーションを設計・開発する．

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネスマネージメント
ビジネスICT

■到達目標

①リレーショナルデータベースの基本概念を理解し，正しいデータベースを設計できるようになること（ER図，正規化などの理解）
②リレーショナルモデルによるデータベース・アプリケーションを構築することができるようになること（MicroSoftAccessの基本操作）

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：コンピュータ上でのデータ管理の基礎を学ぶ．
事前学習しておくべき用語やポイント：[データベースの可能性や有用性，関係データベース]
詳細：リレーショナルモデルを中心にコンピュータ上で情報を管理するために基礎的な概念を学ぶ．リレーショナルモデルとは，表でデータを捉え管理する仕組みであり，リレーショナルデータベースの技術を活用することで効率的に正しいデータ管理が行えることを学ぶ．データを表でとらえるリレーショナルデータベースの基礎的な考え方や用語，表計算ソフトとの違いについて理解する．
<第2講>
概要：住所録，名簿など，1つの表から成るもっともシンプルなデータベースを作成する演習を行う．
事前学習しておくべき用語やポイント[表を構成する要素の名称，リレーショナルデータベース，DBMS]
詳細：第1講のデータベースの最も基本的な形式として，1つの表からなるデータベースの作成を通して基礎概念を習得する．MicrosoftAccessの基本操作を通して，データベースのもととなる表を実際に作成し，リレーショナルデータベース技術によるデータ管理の基礎を学ぶ．
<第3講>
概要： データベース開発の手順を学ぶ．
事前学習しておくべき用語やポイント[Accessの起動方法，終了方法，表の作成などの基本的な操作方法の復習，標準化]
詳細：データベースは，複数のユーザーや組織がデータ共有を実現するための技術である．複数のユーザーが安心して安全にデータを活用するためには，正しいデータベースの設計が重要である．データを正しく入力するためにも，「データの標準化」を行うことも大変重要であり，安全なデータ入力の仕組みを設計する際に重要となる．テーブルの設計，フィールドの定義，プロパティの設定，データ入力用画面の設計など開発手順を理解し，データベースシステム構築技法を習得する．
<第4講>
概要： データの抽出と並べ替えについて学ぶ．
事前学習しておくべき用語やポイント[Accessの復習，クエリの予習，選択，射影]
詳細：表形式にまとめられた情報を活用する手法を学ぶ．クエリの概念を習得し，必要なデータを抽出したり，並べ替えたりすることにより情報を整理する方法を学ぶ．データの抽出には，比較演算子や論理演算子を科すようして条件式を指定する．いくつかの例題をもとに適切にデータを抽出（選択・射影）することができるようになる．
クエリ（Query）とは，問い合わせを意味し，データベースの分野では重要なキーワードである．
<第5講>
概要： リレーショナルデータベースの基礎を学ぶ．
事前学習しておくべき用語やポイント[表の作成，フィールドの定義，リレーションシップ，クエリ，選択，射影，結合]
詳細：2つ以上の表から成るデータベースを作成し，リレーショナルデータベースの基礎を学ぶ．リレーションシップの設定により，2つの表がつながり，データの重複入力や不整合をなくすことができることを理解する．また，クエリについてもさらに理解を深め，複数の表をまたがって，必要なデータを抽出する手法を習得する．クエリを基に，より使いやすいデータ入力用の画面(フォーム)の設計についても学ぶ．
<第6講>
概要： リレーショナルデータベースの設計(1)
事前学習しておくべき用語やポイント[ER図，正規化]
詳細：リレーショナルデータベースにおけるE-Rモデルと正規化の基本について学ぶ．データベースを設計する際に活用されるツールとして，E-Rモデルによる設計図（E-R図）を用いて，管理すべきデータの構造を考える． E-Rモデルでは，「顧客」「商品」といったデータを管理したい実体と実体の関係を図（E-R図）でとらえ，データベースの設計に活用する．授業では最大をもとに作成したE－R図をAccessのデータベースとして具体化する方法も習得する．
<第7講>
概要： リレーショナルデータベースの設計(2)
事前学習しておくべき用語やポイント[ER図，正規化，第1正規形，第2正規形]
詳細：第1正規形から第2正規形について学び，リレーショナルデータベースの基礎を理解する．第1正規形は1件のデータを1行にまとめること表を作ることが要件となる．また，第2正規形では完全従属が要件となる．これらの要件を理解して正しいデータ構造を設計する方法を学ぶ．
<第8講>
概要： リレーショナルデータベースの設計(3)
事前学習しておくべき用語やポイント[正規化，第3正規形，第4正規形，従属関係，完全従属]
詳細：第3正規形およびリレーショナルデータベースの演算理論を学ぶ．第3正規形の要件は，推移従属していないことである．さらに多値従属など特殊な場合についても学び，正規化された表の作成方法を習得する．また，表同士の和，積，差などの演算方法についても学ぶ．
<第9~10講>
概要：正規化に着目したデータベースの設計
事前学習しておくべき用語やポイント[E-R図，正規化，リレーションシップ]
詳細：正規化の理論をもとに，各自データベースを設計する．テーマは各自設定し，開発目的，メリットなどを明確にしたうえで具体的なデータベース構造を設計する．設計のツールとしては，E-R図等を用いて視覚的に表現し，グループ内での発表やディスカッションなどに活用する．
<第11講>
概要： フォーム・レポートの利用
事前学習しておくべき用語やポイント[Access基本操作の復習，表の設計]
詳細：入力画面(フォーム)や出力形式(レポート)を活用して，使いやすく実用的なデータベースシステム作成する方法を学ぶ．データはコンピュータ内に管理するだけではなく，有効に活用することが重要であり，見やすく整理したり，目的に合わせて集計試み，適切なデータベースが構築できているかを検証する．
<第12講>
概要： クエリの利用
事前学習しておくべき用語やポイント[クエリ]
詳細：複数のテーブルからひとつの表を作成するなど，クエリの機能を活用し情報を整理する方法を学ぶ．クエリを基にしたフォーム，レポートの作成方法も習得し，実用的なデータベース管理システムの構築を目指す．
<第13~14講>
概要：課題制作
事前学習しておくべき用語やポイント[リレーショナルデータベース，Accessの操作，クエリ，フォーム，レポート]
詳細：これまで習得した基礎知識をもとに，実際に関係データベースシステムを構築する．データベースの設計，データの収集などデータベース開発の実際を，課題制作を通して学ぶ．課題制作の過程では，各自の設計したデータベースの内容を発表する場を設け，互いに議論すること，チームで作業することも体験する．
<第15講>
概要： まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[リレーショナルデータベース，オブジェクト指向データベース，MySql，Posgre，Oracle]

詳細：リレーショナルデータベースの知識をもとに，オブジェクト指向データベースや演繹データベース，マルチメディアデータベース，ネットワークにおける分散データベース等のデータベースシステムの動向，最前線事例，Webデータベースへの応用などについて学び，まとめる．

■教科書

資料を配布します．

■指定図書

■参考文献

[1]弓場秀樹，武田喜美子「図解 そこが知りたい!よくわかる実践データベース―基礎知識からインテグレーション業務に直結した応用知識まで」
[2]谷尻かをり「これだけはおさえたい データベース基礎の基礎
[3]実教出版編修部「30時間でマスター Access2010―Windows7対応」実教出版
[4]牧村あきこ「Accessはじめてのデータベース」技術評論社
[5]高橋麻奈 「ここからはじめるデータベース」日本実教出版

■参考URL

■評価方法

評価は，期末試験(50%)，最終レポート(30%)，出席・授業内課題等平常点(20%)により行う．

■評価基準

相対評価
期末試験および最終レポートは，以下の点を中心に相対的に評価する．
・データベースに関する基本的な概念を理解しているか．
・リレーショナルデータベースの概念を理解し，正規化されたデータベースを設計できるか．
・MicroSoftAccessの基本操作を理解しているか．

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

演習形式で学習を積み上げていくので，欠席をしないこと．欠席した場合は，授業内容を確認し各自事前学習を行うこと．
「Webプログラミング」では，本講義の知識，能力を必要とするため，履修を希望する場合は本科目を履修すること．

科 目 名　統計(Statistics)

サブタイトル

担当教員　今泉　忠

■講義目的

高度情報化により、問題解決のためにはデータを収集して、それをもとに考えることが多い。これに伴い、これをどのような目的なために編集した情報して、活用するかが重要となってきている。この講義ではデータを活用するための基本力の習得を目指し、統計的データ分析の入門を取り扱う。具体的には、データの要約と因果関係の検証のためのデータ分析を内容とする。このようなスキルは、共通のスキルであるので、受講しておくことをすすめる。なお、講義では実際に検討し、理解を深める事が重要であるので、コンピュータソフトを用いてデータ分析の基礎をも習得する。適宜，グループレポートなどを作成する.

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

（1）データについて視覚化できる
（2）データの主要な傾向とバラツキを測る事ができる
（3）2つのグループの違いを調べられる
(4)結果を他者に分かり易く伝えられる

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　イントロダクション　データ分析概要
事前学習の用語とポイント：データとは
統計で扱うデータとヒストグラムについて説明する
<第2講>　データ分析(1):集計データからわかる特徴
事前学習の用語とポイント：EXCELを活用できること
EXCELなどの表計算ソフトを用いて作成したヒストグラムからの特徴に講義する。
<第3講>　データ分析(2):集計データからわかる特徴2
事前学習の用語とポイント：集計しヒストグラムを作成していること
ヒストグラムからの特徴から読み取り，2つのヒストグラムを視覚的に比較することについて学ぶ
<第4講>　データ分析(3):集計データからわかる特徴の図示
実際のデータからヒストグラム作成についてＰＤＣＡサイクルでの演習を行う
<第5講>　データを集計・要約する 集計前データの記述統計
事前学習の用語とポイント：中央値、平均、最頻値
記述統計としての要約値，特に，代表値について講義する
<第6講>　データのばらつき・ 集計前データの記述統計
事前学習の用語とポイント：中央値、平均値、最頻値
データのばらつきとしての四分位範囲や標準偏差について講義する。
その特徴を理解するために表計算ソフトなどを活用する
<第7講>　要約値の表現
事前学習の用語とポイント：箱ひげ図、ダイヤモンド図
要約値を用いた図示化について講義する。2つの群からのデータの比較についても講義する
<第8講>　データの要約　演習
事前学習の用語とポイント：ヒストグラム、ダイヤモンド図、箱ひげ図
データについて要約する事について演習を行う。実際のデータを表計算ソフトなどを用いて集計して，比較する。
<第9講>　データの要約　演習II
事前学習の用語とポイント：第8講での演習を整理しておくこと
データについて要約し，まとめることを行う
<第10講>　誤差:平均値の変化
事前学習の用語とポイント：誤差
データの平均値は変わることを理解する。
表計算ソフトなどを用いてシミュレーションなどを行う。
<第11講>　特性要因図
事前学習の用語とポイント：誤差の理解，原因と結果の表現
比較のための基本的な表現としての特性要因図について講義する。
<第12講>　平均値の比較
事前学習の用語とポイント：ダイヤモンド図
平均値で比較する場合の方法について講義する
<第13講>　散布図
事前学習の用語とポイント：変数と変量の違い、相関関係
２変量の関係を探るための散布図について講義する。
EXCELなどの表計算ソフトを用いて散布図を作成し，さまざまな関係について理解する。
<第14講> 相関　2変量の線形関係の度合いを示す指標である相関係数について講義する
事前学習の用語とポイント：線形関係

<第15講> 単回帰分析
事前学習の用語とポイント：原因と結果の表現,特性要因図
因果に関してのもっとも単純な線形モデルである単回帰について講義する。

■教科書

統計学基礎　東京図書

■指定図書

日本統計学会編　「データの分析」　東京図書
小島 寛之 「完全独習 統計学入門 」　ダイヤモンド社
西内　啓「統計学は最強の学問である」ダイヤモンド社

■参考文献

適宜、講義資料を配布する。

■参考URL

http://stat.tama.ac.jp

■評価方法

統計的なデータ分析が理解して行えるかについて評価する。
レポート30%、定期レポート30%、最終レポート40%

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

EXCELやWORDなども使用するので、利用できるようになっていることが求められる。

科目名　統計学Ⅰ(Statistics Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　今泉　忠

■講義目的

高度情報化により、情報が数量として扱われるデータを扱う必要性はますます高まっている。本講義では、データに基づく課題解決や問題解決に必須の統計学に関して、その基礎概念の理論的な理解を深め、社会現象を確率モデル・統計モデルとして扱うために必要な統計的方法を利活用できることを目標としている。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

（1）基礎的な確率分布について理解し、適用できる
（2）標本抽出について理解できる
（3）平均の推定問題が理解でき、適用できる
（4）検定問題が理解でき、適用できる

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

データをどのようにとらえ、そして扱うかに関して統計学の基礎的な概念を把握した上で、1次元のデータからデータの処理方法について、客観的な判断基準ということから理論的側面を数理的に扱う。次に、確率の概念を理解し、確率変数、確率分布に関する理解を深め、標本分布について理解する。特に正規分布に関しては十分な理解ができるよう講義を行う。また標本分布の理解から推定・検定に関して概念の理解と方法論の理解の両面を充実させる。最後に回帰分析に関して回帰分析だけでなく、回帰診断も含め解説を行う。
データ分析を行いながらの講義であるので，PCやタブレット端末やスマートフォンなどでの統計分析環境を用意すること。
<第1講>　統計学の基礎
事前学習のポイントと用語：母集団と標本とデータ
統計での知識をもとにデータの統計的扱いについて講義する。
<第2講>　データの整理：平均と標準偏差
事前学習のポイントと用語：代表値
平均と標準偏差の意味について講義する
<第3講>　平均のバラツキ
事前学習のポイントと用語：標準誤差
平均を確率変数と考えた場合の標本平均のバラツキについて講義する
<第4講>　確率分布の期待値
事前学習のポイントと用語：離散分布
確率分布での平均値と分散の定義について講義する
<第5講>　離散確率分布について
事前学習のポイントと用語：分布での平均
二項分布などの基礎的な離散確率分布について講義する
<第6講>　正規分布
事前学習のポイントと用語：確率密度関数
もっとも使用される正規分布について講義する
<第7講>　2つの確率変数の和と差
事前学習のポイントと用語：正規分布
和の分布と差の分布は，実際の事象を表現するのに重要である.
正規分布をしている2つの確率変数について、その和と差について講義する
<第8講>　母集団の平均値と分散の推定
事前学習のポイントと用語：大数の法則
母集団の平均と分散の推定について講義する。また、変数の標準化についても講義する
中心極限定理とその応用についても講義する
<第9講>　平均値の区間推定と仮説検定
事前学習のポイントと用語：標準正規分布
平均値を区間推定する場合と仮説を設けて検定する場合について講義する。
<第10講>　平均値の差の検定
事前学習のポイントと用語：分散分析、t検定
2つの母集団からの平均の差について検定する場合について講義する
<第11講>　因果分析のための単回帰モデル
事前学習のポイントと用語：応答変数と説明変数
単回帰モデルについて説明する
<第12講>　単回帰分析での決定係数
事前学習のポイントと用語：分散分析
決定係数や誤差が正規である場合のF比などについて講義する
<第13講>　単回帰での係数の検定予備
学習のポイント：単回帰モデル、正規分布
単回帰モデルでの係数の仮説検定について講義する
<第14講>　残差分析
事前学習のポイントと用語：誤差の等分散性と正規性
単回帰分析での残差の分析について講義する
<第15講>　まとめ
事前学習のポイントと用語：平均値の区間推定、単回帰モデル
因果関係としての平均値の差や単回帰モデルについて説明する。

■教科書

日本統計学会編　統計学基礎　東京図書

■指定図書

[1]田畑吉雄　『やさしい統計学』　現代数学社
[2]西内　啓「統計学は最強の学問である」ダイヤモンド社
[3]藁谷千凰彦　『統計学入門』　東京図書

■参考文献

[1] 小島 寛之「完全独習 統計学入門 」 ダイヤモンド社
[2]中村美枝子、綿谷　『統計学へのステップ』　共立出版株式会社
[3]永田靖　『入門統計解析法』　日科技連
[4]永田靖　『統計的方法のしくみ』　日科技連

■参考URL

http://stat.tama.ac.jp

■評価方法

講義中の小テスト(50%)、期末試験(50%)により行う。統計的な基本概念が理解できたかについて評価する。授業ごとに出題する課題を理解できているかが評価のポイントとなる。統計的なものの考え方・データの処理の仕方ができているかどうかを評価する

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

本講義は、毎回の講義の内容を前提として講義を行うため、1回目の講義から欠席せずに受講すること。
本講義は，「経営情報数学Ⅰ・Ⅱ」、「統計」、等の授業と深く関連している。
特に「統計」は事前履修していること
また、「統計学Ⅱ」、「経営科学Ⅰ」、「経営と意思決定」、「データ解析」の履修には本講義を履修しておくことが望ましい。

科 目 名　統計学II(Statistics II)

サブタイトル

担当教員　今泉　忠

■講義目的

高度情報化により、問題解決のためにはデータを収集して、それをもとに考えることが多い。これに伴い、これをどのような目的なために編集した情報して、活用するかが重要となってきている。この講義ではデータを活用するための基本力の習得を目指し、統計的データ分析の入門を取り扱う。具体的には、データの要約と因果関係の検証のためのデータ分析を内容とする。このようなスキルは、共通のスキルであるので、受講しておくことをすすめる。なお、講義では実際に検討し、理解を深める事が重要であるので、コンピュータソフトを用いてデータ分析の基礎をも習得する。適宜，グループレポートなどを作成する.

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

（1）　基礎的な離散分布と連続分布について理解し，統計的思考をもとに実際の場面で活用できる。
（2）　平均の区間推定や仮説が行える。実際の問題解決問題を，統計的な枠組みで表現し分析できる。
（3）　分散分析や重回帰モデルを適切に活用できる。因果関係について推測できる。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　二項分布再入門
事前学習の用語とポイント：ベルヌーイ試行
離散型でもっとも基本的な二項分布に関して講義する。
<第2講>　幾何分布とポアソン分布
事前学習の用語とポイント：二項分布
この２つの分布についてその特徴を学習する。
二項分布，幾何分布およびポアソン分布についてシミュレーションを行うので，EXCELなどの表計算ソフトを利用する。
<第3講>　正規分布再入門
事前学習の用語とポイント：平均と分散、ベル型
連続型分布で、かつ、もっとも用いられる正規分布について講義する。
実際のデータに関して平均などの性質を調べ，統計的問題解決を行うのでPCなどを利用する。
<第4講>　χ2分布とF分布
事前学習の用語とポイント：正規分布
正規分布と関係している２つの分布について講義する 。
クロス表などの集計を行うのでPCなどを利用する。
特に有名なシンプソンのパラドックスなどの例についても説明する。
<第5講>　一元配置分散分析　I
事前学習の用語とポイント：正規分布
複数の母集団からの平均値に差を調べるための一元配置分散分析について講義する。
特に一般化線型モデルの枠組みについても講義する。
<第6講>　一元配置分散分析　II
事前学習の用語とポイント：自由度
変動の分解とその自由度について講義する。
<第7講>　分散分析モデル　演習
事前学習の用語とポイント：一元配置分散分析
実際の問題解決での分散分析の利活用に関しての演習を行う。PCなどを用意すること。
<第8講>　重回帰モデル
事前学習の用語とポイント：分散分析表
科学的分析でもっとも用いられることが多い説明変数が2個以上の場合の重回帰モデルについて講義する。
特性要因図の作成についても復習を行う。
<第9講>　重回帰モデルでのパラメータの推定
事前学習の用語とポイント：行列表記、誤差の分布、t検定
重回帰モデルでのパラメータの推定と検定について講義する。
<第10講>　重回帰分析　モデルの選択
事前学習の用語とポイント：決定係数、F比
重回帰分析でのモデルの選択について講義する。
<第11講>　重回帰分析　残差の評価
事前学習の用語とポイント：正規分布、散布図
重回帰分析モデルでの残差の評価について講義する
<第12講>　重回帰モデル　演習
事前学習の用語とポイント：重回帰分析
重回帰分析に関する演習を行う
<第13講>　二元配置分散分析
事前学習の用語とポイント：一元配置分散分析
要因が２つの場合の二元配置分散分析（主効果モデル）について講義する
<第9講>　二元配置分散分析 演習　二元配置分散分析に関する演習を行う
事前学習の用語とポイント：二元配置分散分析
<第15講>　まとめ
事前学習の用語とポイント：分散分析モデルと重回帰モデル
線形モデルについて講義する

■教科書

日本統計学会編　統計学基礎　東京図書

■指定図書

[1]田畑吉雄　『やさしい統計学』　現代数学社
[2]藁谷千凰彦　『統計学入門』　東京図書

■参考文献

[1]岩崎学　『統計的データ解析のレシピ』　日本評論社
[2]中村美枝子、綿谷　『統計学へのステップ』　共立出版株式会社
[3]永田靖　『入門統計解析法』　日科技連
[4]永田靖　『統計的方法のしくみ』　日科技連

■参考URL

http://stat.tama.ac.jp

■評価方法

相対評価
　課題提出　30％
講義中の小テスト(20%)、期末試験(50%)により行う。

■評価基準

統計的な基本概念、特に測定誤差を含む因果関係を扱う場合が理解できたかについて評価する。授業ごとに出題する課題を理解できているかが評価のポイントとなる。統計的なものの考え方・データの処理の仕方ができているかどうかを評価する

■事前履修科目等

本講義は「経営情報数学I・II」、「統計」、[統計I]、「データ解析」等の授業と深く関連している。事前に「統計学I」の履修を前提とする.
　また、「経営科学I」、「経営と意思決定」の履修には本講義を履修しておくことが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は、毎回の講義の内容を前提として講義を行うため、1回目の講義から欠席せずに受講すること。あど
PCなどを利用するので、その準備をすること

科目名 TOEICI(TOEIC I)

サブタイトル

担当教員 中村　その子、石川　晴子

■講義目的

English Expressionと並行してまたはその後、英語力を継続的に高め、TOEICの点数アップをめざす学生のための授業である。英語の総合的な力が上がればTOEICの点数も、もちろん上がって行くはずであるが、特徴のある能力資格試験なので、どのような傾向の問題がどんな形で出題されるのか、といった予備知識や技術的な訓練、慣れも大切な要素となる。

この講義ではTOEICの得点を少なくとも現在の自分の点数から100点は上げることをめざし、リスニングリーディング両セクションで確実に点数を取ることに加えて、語彙、文法、読解力の増強をはかる。ただ、TOEICの点数を上げるだけが英語を学ぶ目的ではないので、単なるノウハウに終わらせることなく、最後には、TOEICの勉強をしたことが一人一人の英語コミュニケーション能力を総合的に高める結果につなげたい。

■講義分類

英語検定試験準備
自己表現・英語コミュニケーション

■到達目標

授業履修前のTOEIC得点より100点アップした実力をつける。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

以下の項目を基礎力を中心に講義する。
<第1講>
TOEICの概要と構成
TOEICの概要と構成について説明し、全体をしっかり把握する。
<第2講>
TOEICの出題傾向
TOEICにはどのような問題が出題されるのか--傾向と対策
リスニング問題およびリーディング問題がどのようなものかをパート別に説明する。
<第3講>
TOEICの点数を効率よくアップさせるには。
TOEICの点数を効率的に上げるために、まず、特に押さえておく語彙や慣用表現は何か、について解説する。また頻出問題を観察分析することにより、それらの語彙や表現が実際の試験にどのように出てくるかを確認する。
<第4講>
リスニング問題で心がけること。
リスニング問題は問題文が印刷されているわけではない=音として流れて来るものをその場で聞き取って理解しなければならず、一瞬の勝負となる=ので、問題形式や流れに慣れて聞き取る力をつける。仮にすべてが聞き取れなくても、どこの部分に特に注意を向けて聞いたらよいか、というリスニング問題に答えるためのコツをつかむ。

<第5講>
英語の音のクセをつかむ。リズム、イントネーション、連結、同化、短縮、破裂、脱落など。
英語の音のつらなりは、日本語とはまったく異質のものであり、日本語には起こらないような音の連結や同化、短縮、脱落などが起こる。日本語音に慣れている「日本語耳」はそれらの現象をとらえにくいので、ただ、英語を聞き続けているだけではなかなか得点アップに結び付かない。上記の現象を説明して英語の聞き取りのポイントを押さえ、「英語耳」を養うことを心がける。
<第6講>
TOEICは授業以外の家での自習が大きな要素-効果的な自習とは。
TOEICの得点アップには、教室でのいろいろな活動に加えて、教室外での心構えと学習態度、自習が大きな意味を持つ。一人でTOEICの学習に取り組むときに大切なことを講義する。

<第7講>
TOEICの勉強をすることによって自分を光らせるような英語センスを磨く。
TOEICの勉強の目標は、TOEICの点数を上げることだけではなく、それによって英語コミュニケーション力を上げることである。TOEIC600点を持っていて、ネイティブと円滑にコミュニケーションできないのでは意味がない。この授業でのこれまでの学習項目を実際のコミュニケーションにどのように生かすかについて講義する。一例としてはTOEICによく出題される英語の会話表現を実際に用いて、教室で疑似オフィスミーティングなどを行う。

<第8講>
聞き取ると同時に自分の発音もよりよいものに。
第7講と同じように、TOEICのリスニング力を高めるためにこの授業で行ってきたトレーニングに併せて、発音練習も行い、スピーキングテストに対する準備をする。
<第9講>
ここであらためて、よく出題される語彙、文法問題を押さえて、模擬試験に挑戦する。
TOEICには頻繁に出題される特定のビジネスの場面があるので、そのような場面で頻出する語彙、文法問題を中心に扱う。
<第10講>
reading問題の特徴を知り読解力を高める。
TOEICのリーディング問題には、問題文で用いられた語彙や表現が、質問文ではパラフレーズされる（英語の別の表現に言い換えられる）という特徴がある。TOEICでは、英文和訳は出題されないので、リーディング問題の攻略にはこのパラフレーズを理解し、見破れるかが大きな要素となる。リーディング問題の傾向と特徴を解説するとともに、TOEICのパラフレーズについて説明する。
<第11講>
読解の時に必要な文法事項を復習する。（現在分詞、過去分詞、関係代名詞を中心に）
reading partの点数を上げるためにどんなものを日ごろ読んだらよいかを講義する。特に最近はお金を出して本を買わなくてもインターネット上に多くの題材が無料で提供されているのでそれらの題材の利用法についても取り上げる。教員が紹介するインターネットサイトにアクセスし、そのサイトの教材を実際に読んでみる。
<第12講>
最近のTOEICの出題傾向を把握する。
最近のTOEICでは、あたりまえのことかもしれないが、IT関係のトピックに関する問題が多く出題される。その傾向について講義する。
<第13講>
英語の定番表現、決まり文句を今一度TOEICの視点から見直して復習する。
<第14講>
速読の技法を身に付ける。
TOEIC受験はある意味時間との勝負である。できぱきと問題を片づけるコツを身につける。また模擬試験を受け、2時間というテスト時間の中でのペース配分を身につける。
<第15講>
期末試験および総括

■教科書

プリントを配布

■指定図書

■参考文献

■参考URL

http://blog.goo.ne.jp/sonobuta66

■評価方法

評価は、期末テスト、授業内課題や活動、小テスト、宿題の提出を等分の割合で評価する。

■評価基準

期末テスト、授業内課題、教室活動、小テスト、宿題が一定の基準に達しているかを判定する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

この科目は原則30人の人数制限がある。履修希望者が30人を上回った場合は、初回の授業に出席した学生を優先し、加えて初回の授業で選抜に関する説明や授業の進め方に関して重要な指示を出すので、初回の授業に必ず出席すること。上記理由で初回の授業に欠席した場合履修できないことがある。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科 目 名　TOEICII（TOEIC II）

サブタイトル

担当教員　中村　その子、石川　晴子

■講義目的

English Expressionと並行してまたはその後、英語力を継続的に高め、TOEICの点数アップをめざす学生のための授業である。英語の総合的な力が上がればTOEICの点数も、もちろん上がって行くはずであるが、特徴のある能力資格試験なので、どのような傾向の問題がどんな形で出題されるのか、といった予備知識や技術的な訓練、慣れも大切な要素となる。

この講義ではTOEICの得点を少なくとも現在の自分の点数から100点は上げることをめざし、リスニングリーディング両セクションで確実に点数を取ることに加えて、語彙、文法、読解力の増強をはかる。ただ、TOEICの点数を上げるだけが英語を学ぶ目的ではないので、単なるノウハウに終わらせることなく、最後には、TOEICの勉強をしたことが一人一人の英語コミュニケーション能力を総合的に高める結果につなげたい。

■講義分類

英語検定試験準備
自己表現・英語コミュニケーション

■到達目標

授業履修前のTOEIC得点より100点アップした実力をつける。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

以下の項目を応用力、難易度の高い問題を中心に講義する。
<第1講>
TOEICの概要と構成
TOEICの概要と構成について説明し、全体をしっかり把握する。
<第2講>
TOEICの出題傾向
TOEICにはどのような問題が出題されるのか--傾向と対策
リスニング問題およびリーディング問題がどのようなものかをパート別に説明する。
<第3講>
TOEICの点数を効率よくアップさせるには。
TOEICの点数を効率的に上げるために、まず、特に押さえておく語彙や慣用表現は何か、について解説する。また頻出問題を観察分析することにより、それらの語彙や表現が実際の試験にどのように出てくるかを確認する。
<第4講>
リスニング問題で心がけること。
リスニング問題は問題文が印刷されているわけではない=音として流れて来るものをその場で聞き取って理解しなければならず、一瞬の勝負となる=ので、問題形式や流れに慣れて聞き取る力をつける。仮にすべてが聞き取れなくても、どこの部分に特に注意を向けて聞いたらよいか、というリスニング問題に答えるためのコツをつかむ。
<第5講>
英語の音のクセをつかむ。リズム、イントネーション、連結、同化、短縮、破裂、脱落など。
英語の音のつらなりは、日本語とはまったく異質のものであり、日本語には起こらないような音の連結や同化、短縮、脱落などが起こる。日本語音に慣れている「日本語耳」はそれらの現象をとらえにくいので、ただ、英語を聞き続けているだけではなかなか得点アップに結び付かない。上記の現象を説明して英語の聞き取りのポイントを押さえ、「英語耳」を養うことを心がける。
<第6講>
TOEICは授業以外の家での自習が大きな要素-効果的な自習とは。
TOEICの得点アップには、教室でのいろいろな活動に加えて、教室外での心構えと学習態度、自習が大きな意味を持つ。一人でTOEICの学習に取り組むときに大切なことを講義する。
<第7講>
TOEICの勉強をすることによって自分を光らせるような英語センスを磨く。
TOEICの勉強の目標は、TOEICの点数を上げることだけではなく、それによって英語コミュニケーション力を上げることである。TOEIC600点を持っていて、ネイティブと円滑にコミュニケーションできないのでは意味がない。この授業でのこれまでの学習項目を実際のコミュニケーションにどのように生かすかについて講義する。一例としてはTOEICによく出題される英語の会話表現を実際に用いて、教室で疑似オフィスミーティングなどを行う。
<第8講>
聞き取ると同時に自分の発音もよりよいものに。
第7講と同じように、TOEICのリスニング力を高めるためにこの授業で行ってきたトレーニングに併せて、発音練習も行い、スピーキングテストに対する準備をする。
<第9講>
ここであらためて、よく出題される語彙、文法問題を押さえて、模擬試験に挑戦する。
TOEICには頻繁に出題される特定のビジネスの場面があるので、そのような場面で頻出する語彙、文法問題を中心に扱う。
<第10講>
reading問題の特徴を知り読解力を高める。
TOEICのリーディング問題には、問題文で用いられた語彙や表現が、質問文ではパラフレーズされる（英語の別の表現に言い換えられる）という特徴がある。TOEICでは、英文和訳は出題されないので、リーディング問題の攻略にはこのパラフレーズを理解し、見破れるかが大きな要素となる。リーディング問題の傾向と特徴を解説するとともに、TOEICのパラフレーズについて説明する。
<第11講>
読解の時に必要な文法事項を復習する。（現在分詞、過去分詞、関係代名詞を中心に）
reading partの点数を上げるためにどんなものを日ごろ読んだらよいかを講義する。特に最近はお金を出して本を買わなくてもインターネット上に多くの題材が無料で提供されているのでそれらの題材の利用法についても取り上げる。教員が紹介するインターネットサイトにアクセスし、そのサイトの教材を実際に読んでみる。
<第12講>
最近のTOEICの出題傾向を把握する。
最近のTOEICでは、あたりまえのことかもしれないが、IT関係のトピックに関する問題が多く出題される。その傾向について講義する。

<第13講>
英語の定番表現、決まり文句を今一度TOEICの視点から見直して復習する。
<第14講>
速読の技法を身に付ける。
TOEIC受験はある意味時間との勝負である。できぱきと問題を片づけるコツを身につける。また模擬試験を受け、2時間というテスト時間の中でのペース配分を身につける。
<第15講>
期末試験および総括

■教科書

プリントを配布

■指定図書

■参考文献

■参考URL

http://blog.goo.ne.jp/sonobuta66

■評価方法

評価は、期末テスト、授業内課題や活動、小テスト、宿題の提出を等分の割合で評価する。

■評価基準

期末テスト、授業内課題、教室活動、小テスト、宿題が一定の基準に達しているかを判定する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

この科目は原則30人の人数制限がある。履修希望者が30人を上回った場合は、初回の授業に出席した学生を優先し、加えて初回の授業で選抜に関する説明や授業の進め方に関して重要な指示を出すので、初回の授業に必ず出席すること。上記理由で初回の授業に欠席した場合履修できないことがある。

科目名　特別講座Ⅰ(Consideration revolution Ⅰ)

サブタイトル　寺島実郎学長監修リレー講座

担当教員　寺島　実郎、久恒　啓一、諸橋　正幸、金　美徳、バートル、中庭　光彦、志賀　敏宏、小林　英夫、奥山　雅之、増田　浩通、久保田　貴文、安藤　美冬

■講義目的

寺島実郎学長が提唱してきた「世界潮流と日本の進路」を軸に、国際情勢、経済、国内行政、IT、歴史等各分野における精鋭の専門家を講師として招き、通年の体系的なプログラムを開催する。

現代世界は、単なる同時不況、経済危機を超え、本質的な意味での構造転換に直面している。「外は広く、内は深い」このことを知るだけで人間の重心は下がる。鈴木大拙の言葉のごとく、より広い視野で世界を見渡し、より深く自らの立脚点を見つめる視座が求められている。

この連続講義では、我々が生きている時代を的確に把握し認識するために、世界から見た日本、また日本国内の諸問題について複数回にわたり多面的に取り上げることで、問題意識の提起と深化を目指す。時代に発信する識者の生の声を聞いて現代世界を生きるヒントを得てもらいたい。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

自分自身が生きている時代を把握し認識するために、連続講座を通じて提起される数々の問題解決について自身なりの問題意識を持つ。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

別途、パンフレットを配布する。

■教科書

①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)
②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)
③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013年)

■指定図書

①『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007)
②『脳力のレッスンⅠ-正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004)
③『脳力のレッスンⅡ-脱9.11への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007)
④『脳力のレッスンⅢ-問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010)
⑤『脳力のレッスンⅣ-リベラル再生の基軸-』(寺島実郎、岩波書店、2014)
⑥『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010)
⑦『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010)
⑧『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)
⑨『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013)

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

①学生自身がどれだけ真剣に取り組み、連続講座で提起された諸問題から各自のテーマを発掘し、問
題意識の進化を図ることができたかを講義メモ、中間レポート、最終レポートにて確認する。
②講義メモは、必ず講義を通して気づいたことを記入すること。5点満点で採点する。尚、講義に出席を
しても12回の講義メモの累積評価が低い場合、減点されることがある。
③中間レポート(前半3講義)と最終レポート(後半3講義)は、主に気づき点を評価する。
レポートは、寺島学長が採点する。

■評価基準

①相対評価。
②評価は、出席70%(講義メモ含む)、中間および最終レポート30%の割合で行う。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①第1回目のガイダンスに出席しない場合は、履修できない。尚、履修希望者が多い場合(座席数が限られている為)、志望動機書を基準にして履修者を決定する。春学期に履修できなかった場合は、秋学期に履修すること。
②地域住民をはじめとする一般参加者300名(有料)と一緒に外部講師の講演を聴講するため、受講ルールを厳守すること。(携帯電話・パソコン使用や私語・帽子着用・飲食の禁止、遅刻および途中退室の厳禁など)
③001教室の座席は、事前に指定された席に着席すること。受講態度は、座席番号でチェックする。
④自分自身の生きている時代と社会を見つめ、自分はどう生きるべきかを思索し、発見するための講義としたい。講義で学んだ内容は、就職活動や社会生活などで自信を持って話せるようにしてもらいたい。情熱を持って参加して欲しい。

科目名 特別講座Ⅱ(Consideration revolution Ⅱ)

サブタイトル 寺島実郎学長監修リレー講座

担当教員 寺島　実郎、久恒　啓一、諸橋　正幸、金　美徳、パートル、中庭　光彦、志賀　敏宏、小林　英夫、奥山　雅之、増田　浩通、久保田　貴文、安藤　美冬

■講義目的

寺島実郎学長が提唱してきた「世界潮流と日本の進路」を軸に、国際情勢、経済、国内行政、IT、歴史等各分野における精鋭の専門家を講師として招き、通年の体系的なプログラムを開催する。

現代世界は、単なる同時不況、経済危機を超え、本質的な意味での構造転換に直面している。「外は広く、内は深い」このことを知るだけで人間の重心は下がる。鈴木大拙の言葉のごとく、より広い視野で世界を見渡し、より深く自らの立脚点を見つめる視座が求められている。

この連続講義では、我々が生きている時代を的確に把握し認識するために、世界から見た日本、また日本国内の諸問題について複数回にわたり多面的に取り上げることで、問題意識の提起と深化を目指す。時代に発信する識者の生の声を聞いて現代世界を生きるヒントを得てもらいたい。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

自分自身が生きている時代を把握し認識するために、連続講座を通じて提起される数々の問題解決について自身なりの問題意識を持つ。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

別途、パンフレットを配布する。

■教科書

①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)
②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)
③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013年)

■指定図書

①『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007)
②『脳力のレッスンⅠ-正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004)
③『脳力のレッスンⅡ-脱9.11への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007)
④『脳力のレッスンⅢ-問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010)
⑤『脳力のレッスンⅣ-リベラル再生の基軸-』(寺島実郎、岩波書店、2014)
⑥『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010)
⑦『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010)
⑧『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)
⑨『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013)

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

①学生自身がどれだけ真剣に取り組み、連続講座で提起された諸問題から各自のテーマを発掘し、問
題意識の進化を図ることができたかを講義メモ、中間レポート、最終レポートにて確認する。
②講義メモは、必ず講義を通して気づいたことを記入すること。5点満点で採点する。尚、講義に出席を
してもは12回の講義メモの累積評価が低い場合、減点されることがある。
③中間レポート(前半3講義)と最終レポート(後半3講義)は、主に気づき点を評価する。
レポートは、寺島学長が採点する。

■評価基準

①相対評価。
②評価は、出席70%(講義メモ含む)、中間および最終レポート30%の割合で行う。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①第1回目のガイダンスに出席しない場合は、履修できない。尚、履修希望者が多い場合(座席数が限られている為)、志望動機書を基準にして履修者を決定する。春学期に履修できなかった場合は、秋学期に履修すること。
②地域住民をはじめとする一般参加者300名(有料)と一緒に外部講師の講演を聴講するため、受講ルールを厳守すること。(携帯電話・パソコン使用や私語・帽子着用・飲食の禁止、遅刻および途中退室の厳禁など)
③001教室の座席は、事前に指定された席に着席すること。受講態度は、座席番号でチェックする。
④自分自身の生きている時代と社会を見つめ、自分はどう生きるべきかを思索し、発見するための講義としたい。講義で学んだ内容は、就職活動や社会生活などで自信を持って話せるようにしてもらいたい。情熱を持って参加して欲しい。

科目名　日本経営史I(Business History of Japan I)

サブタイトル

担当教員　常見　耕平

■講義目的

近代日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

近代日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

明治から昭和前期までの近代日本の企業経営について学ぶ。理解の必要上、江戸期の経営についてもふれる。

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は37.6%（93名中35名）である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

事前に学習しておくべきポイントとして、全世界を獲得するための意思と知識を備える準備を進めることを求める。

<第1講>近代経営史を学ぶ
概要：経営史（ひいては歴史）を学ぶ意味を考える。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第2講>江戸期の経営（その1）
概要：江戸期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第3講>江戸期の経営（その2）
概要：江戸期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第4講>明治期の経営（その1）
概要：明治期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第5講>明治期の経営（その2）
概要：明治期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第6講>明治期の経営（その3）
概要：明治期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第7講>明治期の経営（その4）
概要：明治期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第8講>大正期の経営（その1）
概要：大正期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第9講>大正期の経営（その2）
概要：大正期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第10講>昭和前期の経営（その1）
概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第11講>昭和前期の経営（その2）
概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第12講>昭和前期の経営（その3）
概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第13講>昭和前期の経営（その4）
概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第14講>講義の振り返り
概要：これまでの講義の振り返りを行う。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第15講>最終試験
概要：講義内容に基づく試験を実施する。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

相対評価
評価方法
　合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。
　講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。
　試験は、2014年7月17日(木)第2時限に実施する予定である。
　但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。
講義を通して日本経営史の基本的な知識を習得できているか。
試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

秋学期開講科目「日本経営史Ⅱ」との連続を前提に講義を進める。

科目名 日本経営史Ⅱ(Business History of Japan II)

サブタイトル

担当教員 常見　耕平

■講義目的

現代日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

現代日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

昭和後期から平成までの現代日本の企業経営について学ぶ。理解の必要上、明治以降、昭和前期の企業経営についてもふれる。

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は48.4%（62名中30名）である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

事前に学習しておくべきポイントとして、全世界を獲得するための意思と知識を備える準備を進めることを求める。

<第1講>昭和前期の経営（その1）
概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第2講>昭和前期の経営（その2）
概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第3講>昭和前期の経営（その3）
概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第4講>昭和後期の経営（その1）
概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第5講>昭和後期の経営（その2）
概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第6講>昭和後期の経営（その3）
概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第7講>昭和後期の経営（その4）
概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第8講>昭和後期の経営（その5）
概要：大正期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第9講>昭和後期の経営（その6）
概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第10講>昭和後期の経営（その7）
概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第11講>平成期の経営（その1）
概要：平成期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第12講>平成期の経営（その2）
概要：平成期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第13講>平成期の経営（その3）
概要：平成期の企業経営について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第14講>講義の振り返り
概要：試験結果に基づき、講義の振り返りを行う。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第15講>最終試験
概要：講義内容に基づく試験を実施する。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

相対評価
評価方法
合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。
講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。
試験は、2015年1月15日(木)第2時限に実施する予定である。
但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。
講義を通して日本経営史の基本的な知識を習得できているか。
試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

春学期開講科目「日本経営史Ⅰ」との連続を前提に講義を進める。
但し、日本経営史Ⅰの単位取得を、受講登録の条件とはしない。

科目名　日本経済史Ⅰ(Economic History of Japan Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　常見　耕平

■講義目的

近代日本の経済の歴史を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

近代の日本経済史について理解する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

明治から昭和前期までの近代日本の経済について学ぶ。理解の必要上江戸期の経済についてもふれる。

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は27.3%（44名中12名）である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

事前に学習しておくべきポイントとして、全世界を獲得するための意思と知識を備える準備を進めることを求める。

<第1講>経済史（歴史）を学ぶ
概要：経済史（ひいては歴史を学ぶ意味を考える。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第2講>江戸期の経済（その1）
概要：江戸期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第3講>江戸期の経済（その2）
概要：江戸期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第4講>明治期の経済（その1）
概要：明治期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第5講>明治期の経済（その2）
概要：明治期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第6講>明治期の経済（その3）
概要：明治期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第7講>明治期の経済（その4）
概要：明治期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第8講>大正期の経済（その1）
概要：大正期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第9講>大正期の経済（その2）
概要：大正期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第10講>昭和前期の経済（その1）
概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第11講>昭和前期の経済（その2）
概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第12講>昭和前期の経済（その3）
概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第13講>昭和前期の経済（その4）
概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第14講>講義の振り返り
概要：これまでの講義の振り返りを行う。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第15講>最終試験
概要：講義内容に基づく試験を実施する。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

相対評価
評価方法
　合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。
　講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。
　試験は、2014年7月17日(木)第4時限に実施する。
　但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。
講義を通して日本経済史の基本的な知識を習得できているか。
試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

秋学期開講科目「日本経済史Ⅱ」との連続を前提に講義を進める。

科目名　日本経済史Ⅱ(Economic History of Japan II)

サブタイトル

担当教員　常見　耕平

■講義目的

現代日本の経済の歴史を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

現代日本の経済の歴史を理解する。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

昭和後期から平成までの現代日本の経済について学ぶ。理解の必要上、明治以降の近代経済についても ふれる。

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は37.1%（62名中23名）である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

事前に学習しておくべきポイントとして、全世界を獲得するための意思と知識を備える準備を進めることを求める。

<第1講>昭和前期の経済（その1）
概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第2講>昭和前期の経済（その2）
概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第3講>昭和前期の経済（その3）
概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第4講>昭和後期の経済（その1）
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第5講>昭和後期の経済（その2）
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第6講>昭和後期の経済（その3）
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第7講>昭和後期の経済（その4）
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第8講>昭和後期の経済（その5）
概要：大正期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第9講>昭和後期の経済（その6）
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第10講>昭和後期の経済（その7）
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第11講>平成期の経済（その1）
概要：平成期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第12講>平成期の経済（その2）
概要：平成期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第13講>平成期の経済（その3）
概要：平成期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第14講>講義の振り返り
概要：試験結果に基づき、講義の振り返りを行う。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。
<第15講>最終試験
概要：講義内容に基づく試験を実施する。
事前学習しておくべき用語　特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■参考文献

■参考URL

■評価方法

相対評価
合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。
講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。
試験は、2015年1月15日(木)第4時限に実施する予定である。
但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。
講義を通して日本経済史の基本的な知識を習得できているか。
試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

春学期開講科目「日本経済史Ⅰ」との連続を前提に講義を進める。
但し、日本経済史Ⅰの単位取得を、受講登録の条件とはしない。

科目名　日本経済論（Japanese Economy）

サブタイトル

担当教員　椎木　哲太郎

■講義目的

日本経済を分析対象とし、経済学的視点、歴史的視点、社会経済システム論的視点からアプローチする。さらに産業、貿易、労働、金融、財政、社会保障といった各分野毎の切り口からも接近を試みる。それによって、日本経済の現状と課題をトータルに把握したい。その上で、経済政策の果たした役割についても具体的事例に即して検討し、日本経済を取り巻く大きな環境変化に対応して、国民生活の質を高めていくための「問題解決策」として、制度改革も含めた経済政策のあり方を考える。グループワークによる調査・報告（プレゼンテーション）と討論（ディスカッション）を中心に進めていく予定である。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

経済学の理論を援用して日本経済の現状・因果連関を分析し、環境変化に伴って解決すべき課題を明らかにする中で、企業活動と市民生活に不可欠な日本経済に関するトータルな認識を深め、「問題解決」に通じる望ましい経済政策を考えることができる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>日本経済論の課題
概要：日本経済が直面する諸課題と、本講座全体を貫く問題意識を明確にする。
事前学習しておくべき用語やポイント[日本経済をめぐる諸問題]
詳細：日本経済の諸課題を概観し、それらの相互関連性について仮説を立ててみる。本学第二代学長中村秀一郎先生の提起された「中堅企業」・「ベンチャービジネス」概念を例に、社会研究（科学）において新概念を構築することの意義を考える。最後に第4週以降の発表希望週を書いてもらい、翌週、報告担当者案を提示する。
<第2講>日本経済へのアプローチ
概要：日本経済にアプローチするための三つの視点を提起する。
事前学習しておくべき用語やポイント[経済システム，制度，ISバランス，経済成長，マクロ経済学；産業社会論入門（経済）の後半部分を復習しておくこと]
詳細：経済システム、経済制度の果たす役割は何か？マクロ経済を「ISバランス」の視点から見るとはどういうことか。「需要サイドから見る」、「供給サイドから見る」とは？急速な人口減少や高齢化の進展は、日本経済にどのような影響を及ぼすのか。
<第3講>世界経済の中の日本経済
概要：第二次世界大戦後の世界経済の展開の中における日本経済の史的分析を試みる。
事前学習しておくべき用語やポイント[ブレトン・ウッズ体制，流動性のディレンマ，石油危機，変動相場制，スタグフレーション，プラザ合意，グローバル市場経済化，WTO，アジア通貨危機，リーマンショック，欧州債務危機，バーゼルⅢ]
詳細：第二次世界大戦後の日・米・欧を中心とした西側諸国の経済成長は、何によってもたらされたのか。経済の安定成長を阻害した諸要因とはどのようなものであったか。日本経済はいかなる形で世界経済の影響を受け、また他方でどのようにして世界経済に影響を及ぼしたのか。新興国の台頭で世界経済と日本経済はどう変化したのか。
<第4講>日本型経済システムの起源と展開
概要：日本型経済システムの遠くない起源とその後の展開過程、課題を明らかにする。
事前学習しておくべき用語やポイント[近代経済成長，日本型経済システム，歴史的径路依存性，制度補完性，1940年体制論，日本的経営]
詳細：協調的官民関係や長期雇用慣行、企業統治や企業間関係等に特徴づけられる日本型経済システムは、いつ、どのような歴史的背景の中で形成されたのか。第二次世界大戦は、その形成にどう影響を及ぼしたのか。「1940年体制論」は正しいか。戦前と戦後では何が異なるのか。近代経済成長の実現に経済システムはどのように貢献したのか。
<第5講>高度経済成長とその終焉
概要：1955年から1973年にかけての非西欧諸国で最初の高度経済成長とその終焉の過程・要因について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[高度経済成長，産業政策，貿易・為替自由化，特定産業振興法案，オイルショック，スタグフレーション，減量経営，行政改革，臨調路線]
詳細：高度経済成長の要因は何か。高度成長は日本経済にどのような構造変化や新たな課題をもたらしたのか。高度成長終焉の要因は何か。G5諸国の中で、日本はなぜ逸早くスタグフレーションから脱却できたのか。
<第6講>バブル経済とその崩壊
概要：「バブル経済」の発生と崩壊の原因、その影響を中心に1980年代以降の日本経済を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[貿易摩擦，バブル経済，（逆）資産効果，総量規制，住専処理，不良債権]
詳細：「バブル経済」の発生・崩壊の原因は何か。バブルの時代とはどのような時代であったのか。1980年代以降の経済政策はどのようなものであったのか。どこに問題があったのか。バブル崩壊前後数年間の経済政策を検証し、金融政策のあり方に焦点を当てて考える。
<第7講> 長期デフレ不況といわゆる「構造改革」
概要：1990年代以降の長期デフレ不況の原因と、いわゆる「構造改革」の成果について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[デフレ不況，構造改革，信用収縮，ブルーデンス政策，量的緩和政策，インフレ・ターゲティング政策，リフレ派]
詳細：「失われた10(15？20？)年」と呼ばれた長期デフレ不況の実態を明らかにする。1990年代以降の経済政策を検証する。グローバル市場経済化、情報化という環境変化の中で、日本経済に求められた改革の方向性はどのようなものであったのか。小泉内閣の「構造改革」とは？いかなる影響を及ぼしたのか。大胆な金融緩和政策を出発点とした安倍内閣の経済政策は経済成長へとつながっていくのか。
<第8講>日本の貿易と直接投資
概要：日本の貿易収支・貿易構造、対内・対外直接投資について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[貿易・サービス収支，所得収支，比較優位，貿易依存度，非関税障壁，FTA，TPP,直接投資]
詳細：日本の貿易収支、貿易構造・相手国・貿易依存度等はどのように変化してきたのか。FTA競争とも言える状況の中で、日本の通商政策はどうあるべきか。直接投資の水準・内容・対象国はどう変化してきたのか。他の先進諸国と対比して、対内直接投資に対する政策はどうあるべきか。
<第9講>日本の産業構造
概要：日本の産業構造といわゆる「リーディング産業論」、産業政策について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[産業構造，リーディング産業，産業政策，ターゲティング政策，産業集積，規制緩和，特区,構造調整政策]
詳細：日本の産業構造はどのように変化してきたのか。成熟社会の産業構造とは？自動車・電機産業は、今後もリーディング産業であり続けるのだろうか。先進国型サービス産業とは？産業政策は有効か？衰退産業に対する構造調整政策のあり方は？規制の多い医療や農業分野の改革のあり方は？
<第10講>日本の労働市場
概要：日本の労働市場の特質・問題点を明らかにし、改革の方向性を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[内部労働市場，長期雇用慣行，年功賃金，ワークライフバランス，非正規雇用，ワーキングプア]
詳細：男性正社員の長期雇用・年功賃金・長時間労働といった雇用慣行を基軸に成立してきた日本の労働市場は、非正規労働者の増加、生産年齢人口の減少に伴って多くの課題に直面している。若い世代の就業問題はどう解決すべきか。女性の働きやすい労働市場のあり方とは？外国人労働者問題をどう考えるか。多様な働き方が尊重される労働市場改革の方途を探る。
<第11講>日本の金融
概要：日本の金融システムの現状と課題について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[直接金融，間接金融，日本版金融ビッグバン，システミック・リスク，コミットメント，マイクロ・ファイナンス，ベンチャーキャピタル]
詳細：高度成長期に確立された日本型金融システムの特徴は何か。なぜ、どのようにして金融自由化、金融制度改革が進められたのか。「市場型金融システム」が円滑に機能するためには、どのような点が重要となるのか。日本の金融産業をどう評価すべきか。リスク・マネーの供給はどうなっているのか。「育てる金融」の役割と新たな試みとは？
<第12講>日本の財政
概要：日本の財政の現状と課題について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[プライマリー・バランス，中立命題，国民負担率，課税自主権]
詳細：財政の役割とは何か？日本の財政は持続可能か。持続可能な財政構造を維持するためには、何が必要とされるのか。財政規模は小さいほどよいのか。「小さ過ぎる政府」に問題はないのか。国と地方の財政のあり方は？小泉内閣の「三位一体改革」とは？
<第13講>日本の税制
概要： 日本の税制の現状と制度改革の方向性を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[シャウプ税制，租税負担率，直接税と間接税，世代間公平，水平の公平，納税者番号制度，課税ベース，所得控除と税額控除，累進税率，

資産課税，消費税，所得税，法人税，地方税，環境税，相続税制，寄付税制]
詳細：日本の税は誰が負担しているのか。少子・高齢社会、さらにグローバル化やストック経済化の進展に相応しい税制のあり方とは？国際公共財の財源としての課税の必要性について。
<第14講>日本の社会保障と経済
概要： 日本の社会保障制度の概要を知り、経済との関係を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[社会支出,年金制度，積立方式，賦課方式，医療制度，診療報酬、介護保険,税と社会保障の一体改革]
詳細：社会保障と経済成長の関係は？日本の社会保障の特徴は？所得再分配効果が低いのはなぜか。年金・医療・介護（福祉）制度のあり方は？税制改革や労働政策と一体となった所得再分配政策の改革の必要性を考える。政府と民間の役割分担のあり方？福祉・医療サービス産業の現状と課題を明らかにする。
<第15講>日本経済の全体像
概要： 歴史的分析と各論からのアプローチを踏まえて日本経済の全体像を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[講義・報告全体のまとめ]
詳細：世界的な環境・構造変化の中で、どのような社会をめざすべきか。そのためにはいかなる制度改革・経済政策が必要か。

■教科書

使用しない（資料を配布する）。

■指定図書

今年度：なし

■参考文献

[1]浅子和美・篠原総一編(2011) 『入門日本経済』(第4版) 有斐閣
[2]小峰隆夫・村田啓子(2012) 『最新日本経済入門』(第4版) 日本評論社
[3]中村隆英(1990) 『日本経済』(第3版) 東京大学出版会
[4]正村公宏(1990) 『戦後史』(上・下) ちくま文庫[原書:1985]
[5]香西泰(1981) 『高度成長の時代』 日本評論社 (日経ビジネス人文庫)
[6]岡崎哲二(1997) 『工業化の軌跡(20世紀の日本(5))』 読売新聞社
[7]吉川洋(1997) 『高度成長(20世紀の日本(6))』 読売新聞社 (中公文庫)
[8]猪木武徳(2009) 『戦後世界経済史 自由と平等の視点から』 中公新書
[9]大来洋一(2010) 『戦後日本経済論 成長経済から成熟経済への転換』 東洋経済新報社
[10]橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齋藤直(2011) 『現代日本経済』(第3版) 有斐閣アルマ
[11]橋本寿朗(2000) 『現代日本経済史』 岩波テキストブックス
[12]橘木俊昭編(2003) 『戦後日本経済を検証する』 東京大学出版会
[13]宮本又郎(1999) 『企業家たちの挑戦(日本の近代11)』 中央公論新社
[14]小宮隆太郎(1988) 『現代日本経済 マクロ的展開と国際経済関係』 東京大学出版会
[15]企業行動研究グループ編(1995) 『日本企業の適応力』 日本経済新聞社
[16]村松岐夫・奥野正寛編(2002) 『平成バブルの研究』(上・下) 東洋経済新報社
[17]奥村洋彦(1999) 『現代日本経済論』 東洋経済新報社
[18]田中隆之(2002) 『現代日本経済--バブルとポスト・バブルの軌跡』 日本評論社
[19]岩田規久男・宮川努編(2003) 『失われた10年の真因は何か』 東洋経済新報社
[20]浜田宏一・堀内昭義・内閣府経済社会総合研究所編(2004) 『論争日本の経済危機』 日本経済新聞社
[21]小川一夫(2009) 『「失われた10年」の真実』 東洋経済新報社
[22]小峰隆夫(2006) 『日本経済の構造変動』 岩波書店
[23]深尾京司 (2012) 『「失われた20年」と日本経済 構造的原因と再生への原動力の解明』日本経済新聞出版社
[24]鶴光太郎(2006) 『日本の経済システム改革 「失われた15年」を超えて』 日本経済新聞社
[25]浦田秀次郎・財務省財務総合政策研究所編(2009) 『グローバル化と日本経済』 勁草書房
[26]鹿野嘉昭(2006) 『日本の金融制度』 東洋経済新報社
[27]白川方明(2008) 『現代の金融政策:理論と実際』 日本経済新聞出版社
[28]植田和男(2005) 『ゼロ金利との闘い:日銀の金融政策を総括する』 日本経済新聞出版社
[29]田中隆之(2008) 『「失われた15年」と金融政策 日銀は何を行い何を行わなかったか』 日本経済新聞出版社
[30]池尾和人(2006) 『開発主義の暴走と保身：金融システムと平成経済』 NTT出版
[31]森信茂樹(2010) 『日本の税制 何が問題か』 岩波書店
[32]林文夫編(2007) 『経済制度の実証分析と設計 第1巻 経済停滞の原因と制度』 勁草書房
[33]林文夫編(2007) 『経済制度の実証分析と設計 第2巻 金融の機能不全』 勁草書房
[34]林文夫編(2007) 『経済制度の実証分析と設計 第3巻 経済制度設計』 勁草書房
[35]内閣府経済社会総合研究所企画・監修（深尾京司編）(2009) 『バブル/デフレ期の日本経済と経済政策1 マクロ経済と産業構造』 慶応義塾大学出版会
[36]内閣府経済社会総合研究所企画・監修（吉川洋編）(2009) 『バブル/デフレ期の日本経済と経済政策2 デフレ経済と金融政策』 慶応義塾大学出版会
[37]内閣府経済社会総合研究所企画・監修（伊藤元重編）(2009) 『バブル/デフレ期の日本経済と経済政策3 国際環境の変化と日本経済』 慶応義塾大学出版会
[38]内閣府経済社会総合研究所企画・監修（池尾和人編）(2009) 『バブル/デフレ期の日本経済と経済政策4 不良債権と金融危機』 慶応義塾大学出版会
[39]内閣府経済社会総合研究所企画・監修（井堀利宏編）(2010) 『バブル/デフレ期の日本経済と経済政策5 財政政策と社会保障』 慶応義塾大学出版会
[40]内閣府経済社会総合研究所企画・監修（樋口義雄編）(2010) 『バブル/デフレ期の日本経済と経済政策6 労働市場と所得分配』 慶応義塾大学出版会
[41]内閣府経済社会総合研究所企画・監修（寺西重郎編）(2010) 『バブル/デフレ期の日本経済と経済政策7 構造問題と規制緩和』 慶応義塾大学出版会

■参考URL

■評価方法

評価は、最終レポートの結果(70%)、報告・小レポート・出席(30%)により行う.

■評価基準

講義中の報告は、次の3点を中心に評価する。
(1)テーマに関して適切な問題提起ができているか。
(2)文献・資料やデータが十分参照されているか。
(3)分かりやすい説明ができたか。
最終レポートは次の3点から評価する。
(1)日本経済の課題解決につながる内容となっているか。
(2)文献・資料やデータが十分参照されているか。
(3)報告の際の質疑内容が反映されているか。
相対評価

■事前履修科目等

2011年度入学生は「産業社会論入門（経済学入門）」 2010年度以前入学生は「経済学基礎」

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

報告に際しては、何冊かの指定図書・参考文献を読んで戴く。第1～3回の講義で分担を決定するので、必ず出席すること。この間の講義に出席しなかった（分担決定に参加しなかった）諸君は、履修を許可しない。
レポート作成にあたっては、MS Office、Excelを使いこなすことを目標とする。最終レポートには必ずExcelで作成したデータを挿入すること。

科目名　日本語講座（初級）（Japanese Language Beginners　Course）

サブタイトル

担当教員　TIJ東京日本語研修所

■講義目的

留学生が日本で生活するための日常会話、友達と交流するための会話、また大学の職員、教師とコミュニケーションするための会話、社会から情報を得るための会話能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

（1）日常生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
（2）日常生活や大学生活の中で自分が言いたいことを大体伝えることができる。
（3）自分の経験や夢、希望などをスピーチ形式で発表できる。

■講義形態

GD・GW・PR
その他(ペアワーク・スピーチ・ドリル)：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 4月9日（水）
概要： プレースメントテスト
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：現在の日本語力をテストする
<第2講> 4月11日(金)
概要： 家族構成、家族の住んでいるところ、仕事について話す。
事前学習しておくべき用語やポイント[～ています（て形）]
詳細：教科書9課1，2
「家族はどこに住んでいますか。」「何か仕事をしていますか。」などの表現
<第3講>4月16日（水）
概要： 日本でしたいこと、将来したいことを話す。
事前学習しておくべき用語やポイント[～たい]
詳細：教科書9課3，4
「行きたいところがたくさんあります。」「将来どんなことをしたいですか。」などの表現
<第4講>4月18日(金)
概要： タクシーの運転手に道を指示する。友達に許可を求める。
事前学習しておくべき用語やポイント[～てください。～てもいいですか。]
詳細：教科書8課1，2
「小岩まで行ってください。」「CDを聞いてもいいですか。」などの表現
<第5講>4月23日（水）
概要： パーティーの準備の指示を求める。何をしている人か言う。
事前学習しておくべき用語やポイント[～ましょうか。～ています。]
詳細：教科書8課3，4
「何を手伝いましょうか。」「ワインを飲んでいる人です。」などの表現
<第6講>4月25日（金）
概要： 写真やポスターを見てそれがどこか考える。旅行について相談する。
事前学習しておくべき用語やポイント[～と思います、普通形]
詳細：教科書10課1，2
「あれは日光だと思います。」「紅葉は10月下旬がきれいだと思います。」などの表現
<第7講>4月30日（水）
概要： 旅行の詳しい計画について話す。旅館に電話して、その結果を友だちに伝える。
事前学習しておくべき用語やポイント[普通形、～そうです]
詳細：教科書10課3，4
「ビールは何本ぐらい飲むでしょうか。」「おふろがついているそうです。」などの表現
<第8講>5月2日（金）
概要： 統計を調べて比較する。日本の生活や物が自分の国と比べてどうか言う。
事前学習しておくべき用語やポイント[～より～のほうが～、～は～より～]
詳細：教科書11課1，2
「どっちのほうが多いですか。」「私の国よりたいへんです。」などの表現
<第9講>5月7日（水）
概要： 世界一、日本一はどこかクイズに答える。世界一のものについてどうしてか理由を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[～で一番～、～から]
詳細：教科書11課3，4
「世界で一番小さい国はどこでしょうか。」「世界で一番平均寿命が長いそうです。」などの表現
<第10講>5月9日（金）
概要： 体の調子、けがについて話す。調子の悪い友だちにアドバイスをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[～んです、～ほうがいいです]
詳細：教科書12課1，2
「頭が痛いんです。」「早く帰ったほうがいいですよ。」などの表現
<第11講>5月14日（水）
概要： 学校・職場の人に事情を話して早退する。いい病院をきく。医者に気をつけることをきく。
事前学習しておくべき用語やポイント[～んですが、～てもよろしいでしょうか。～ないでください。]
詳細：教科書12課3，4
「頭が痛いんですが、早く帰ってもよろしいでしょうか。」「おふろに入らないでください。」などの表現
<第12講>5月16日（金）
概要： 目上の人や初めて会った人に自己紹介をする。趣味をきく。
事前学習しておくべき用語やポイント[敬語、お～になる]
詳細：教科書13課1，2
「いつ日本へいらっしゃいましたか。」「よく映画をごらんになりますか。」などの表現
<第13講> 5月21日（水）
概要： 電話をかける。目上の人の訪問を受け、もてなしをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[敬語、お～になってください]
詳細：教科書13課3，4
「田中先生、いらっしゃいますか。」「どうぞお入りになってください。」などの表現
<第14講> 5月23日（金）
概要： アルバイトの面接の時間や場所について指示を受ける。自分ができることを言う。
事前学習しておくべき用語やポイント[可能形、～なら]
詳細：教科書14課1，2
「あした、来られますか。」「簡単なことなら理解できます。」などの表現
<第15講>5月28日（水）
概要： 日本語で何をするのが難しいか話す。日本語が上手になるための方法を話し合う。
事前学習しておくべき用語やポイント[～のは～、～といいです]
詳細：教科書14課3，4
「日本人の話を聞き取るのは難しいです。」「アニメを見るといいですよ。」などの表現
<第16講> 5月30日（金）
概要： おいしいものを食べた経験を話す。食べ方を言う。
事前学習しておくべき用語やポイント[～たことがある、～たり～たり]
詳細：教科書15課1，2
「食べたことがありますか。」「にたり焼いたりして食べます。」
<第17講> 6月4日(水)
概要： 簡単な料理の作り方を言う。健康・美容のために気をつけていることを話す。
事前学習しておくべき用語やポイント[～て～て、～ようにしている]
詳細：教科書15課3，4
「さとうを入れてまぜます。」「やさいを食べるようにしています。」などの表現
<第18講>6月6日（金）
概要： 今度の休みにすることを話す。準備としてする必要のあることを言う。
事前学習しておくべき用語やポイント[～うと思っている、意志形、～なくちゃいけない]
詳細：教科書16課1，2
「富士山へ行こうと思っています。」「チケットを買わなくちゃいけません。」などの表現
<第19講>6月11日(水)
概要： 持っていくべきもの、するべきことをアドバイスする。友だちを強く誘う。
事前学習しておくべき用語やポイント[～ば、ば形、親しい友だちとの話し方]
詳細：教科書16課3，4
「うきわがあれば、遠くまで行けます。」「いっしょに行こうよ。」などの表現
<第20講>6月13日（金）
概要： 友だちに贈り物をする。心に残る贈り物について話す。
事前学習しておくべき用語やポイント[～をあげる、～をもらう]
詳細：教科書17課1，2
「恋人にチョコレートをあげます。」「母にもらったんです。」などの表現

<第21講>6月18日（水）
概要： 出身国のおいわいの習慣を紹介する。行事などでタブーになっていることを言う。
事前学習しておくべき用語やポイント[～と、～。～てはいけないことになっている。]
詳細：教科書17課3，4
「3さいになるとおいわいをするんです。」「きくの花をあげてはいけないことになっています。」などの表現
<第22講>6月20日（金）
概要： 人のためにしてあげること、人がしてくれたことを話す。自分でできないことを人に頼む。
事前学習しておくべき用語やポイント[～てあげる、～てもらう、～ていただく]
詳細：教科書18課1，2
「しょうかいしてあげるよ。」「手伝ってもらえませんか。」などの表現
<第23講>6月25日（水）
概要： 部屋や建物の様子を言う。準備すること、準備ができていることについて話す。
事前学習しておくべき用語やポイント[自動詞、～ている、～ておく、～ある]
詳細：教科書18課3，4
「あの電気がついている部屋です。」「飲み物を買っておきます。」などの表現
<第24講>6月27日（金）
概要： 知人のさそいに対して、先約があることを説明し、どんな場合に行けるか言う。知人のうちを訪問するとき、手みやげに何を持っていくか、友だちと何時に待ち合わせるか話し合う。
事前学習しておくべき用語やポイント[～ことになっている、～かどうか、～たら、～ていく]
詳細：教科書19課1，2
「日が変えられたら、行きます。」「ワインを買っていこうと思っています。」などの表現
<第25講>7月2日（水）
概要： 待ち合わせの時間に遅れたとき、謝って理由を言う。道をきく。道を教える。
事前学習しておくべき用語やポイント[～てくる、～てしまう、～と]
詳細：教科書19課3，4
「時間がかかってしまったんです。」「まっすぐ行くと左側にあります。」などの表現
<第26講>7月4日（金）
概要： お客様にていねいに話す。どうしてほしいか指示を出す。
事前学習しておくべき用語やポイント[謙譲語、お～する、～たら、～ておく]
詳細：教科書20課1，2
「お席にご案内します。」「つくえの上においておいてください。」などの表現
<第27講>7月9日（水）
概要： 時間がないときは、どんな工夫をしているか話す。日本に来てから生活がどう変わったか話す。
事前学習しておくべき用語やポイント[～ながら、～ようになる、～なくなる]
詳細：教科書20課3，4
「CDをききながらご飯を食べます。」「自分で料理を作るようになりました。」などの表現
<第28講> 7月11日（金）
概要： スピーチの原稿を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[どんなことについてスピーチしたいか考えておく]
詳細：7月26日にするスピーチの原稿を書く。
<第29講> 7月16日（水）
概要： 期末テスト。スピーチの練習。
事前学習しておくべき用語やポイント[今学期勉強したことを復習しておく]
詳細：ペーパーテスト、聴解テスト、7月26日にするスピーチの練習をする。
<第30講>7月18日（金）
概要： 今学期のまとめとして、スピーチをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[スピーチの練習をしておく]
詳細：修了スピーチをする。

■教科書

はじめよう日本語初級2メインテキスト
同　　ドリルと文法
（スリーエーネットワーク・TIJ東京日本語研修所）
コピー教材

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、出席（30%），授業中の活動（30%），期末テスト（40%）により行います。

■評価基準

絶対評価
A+ ：95%～
A ：85%～
B ：70%～
C ：60%～
F ：60%未満
※期末テストはペーパーテスト（文法、語彙、表現）、聴解テスト、スピーチを行います。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。
水曜日第3時限と金曜日第3時限の両方合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

科 目 名　日本語講座（中級Ⅰ）（Japanese Language (Intermediate Course I)）

サブタイトル

担当教員　TIJ東京日本語研修所

■講義目的

留学生が日本で生活するための日常会話だけでなく、大学の授業を聞くため、また授業に積極的に参加するため、及び社会から情報を得るため、また社会に参加し問題解決するための日本語会話能力、聴解能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

（1）社会生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
（2）社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをほぼ伝えることができる。
（3）社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。

■講義形態

GD・GW・PR
その他(ディベート・スピーチ)：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 4月9日（水）
概要： プレースメントテスト
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：現在の日本語力をテストする
<第2講>4月11日(金)
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第3講>4月16日（水）
概要： 今住んでいるところについて話しましょう。
事前学習しておくべき用語やポイント[～たら、～つもり]
詳細：教科書1課1「いいアパートが見つかったら、引っ越すつもりです。」などの表現
<第4講>4月18日(金)
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第5講>4月23日（水）
概要： 日本や母国の人の考え方や物事のやり方について話す。
事前学習しておくべき用語やポイント[少しぐらい～ても、～しか、～も]
詳細：教科書1課2「少しぐらい狭くても通学に便利なところがいいです」「通学に5分しかかかりません」「通学に1時間半もかかるんです」などの表現
<第6講>4月25日（金）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第7講>4月30日（水）
概要： 引っ越し先を決めるときに心配なことを相談する。
事前学習しておくべき用語やポイント[～たらどうですか]
詳細：教科書1課3「台所が使いにくそうだったり、まわりが夜うるさそうだったりして、気に入らないんです」、「もう少し範囲を広げて探してみたらどうですか」などの表現
<第8講>5月2日（金）
概要：住まいについてスピーチする。
事前学習しておくべき用語やポイント[～にとって、～たらいいなと思います]
詳細：教科書1課4「初めて一人暮らしをしたアパートは私にとってお城でした」「将来、できれば庭のある一戸建てに住めたらいいなと思います」などの表現
<第9講>5月7日（水）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第10講>5月9日（金）
概要：よく利用している乗り物について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[交通関係の語彙、～し～し、何より～ところがいいです]
詳細：教科書2課1「地下鉄は本数が多いし、乗り換えも便利だし、何より時刻表通りに走るところがいいです」などの表現
<第11講>5月14日（水）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第12講>5月16日（金）
概要：旅行で利用した乗り物について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[～しようか～しようか迷っている、～れる（尊敬）]
詳細：教科書2課2「飛行機で行こうか、寝台特急にしようか迷っています」「～さんはどうされましたか」などの表現
<第13講> 5月21日（水）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第14講> 5月23日（金）
概要：交通標語や道路標識の意味について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[～しろ、～するな、～っていう意味です]
詳細：教科書2課3「この標識はここで止まれっていう意味です」などの表現
<第15講>5月28日（水）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第16講> 5月30日（金）
概要：交通事情についてスピーチする
事前学習しておくべき用語やポイント[～ために、～べきだ]
詳細：教科書2課4「危険な事故をなくすために、飲酒運転を絶対に許してはいけないという意識を持つことが大切だと思います」などの表現
<第17講> 6月4日（水）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第18講>6月6日（金）
概要：自分のしたい仕事について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[職業に関する語彙、～のは、～ば]
詳細：教科書3課1「ファッション関係の仕事につきたいと思っています」「看護婦になれば、人の役に立てると思います」などの表現
<第19講>6月11日(水)
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第20講>6月13日（金）
概要：面接試験を受ける
事前学習しておくべき用語やポイント[～たり～たりする仕事、～ないと困る]
詳細：教科書3課2「お客さんの注文を聞いたり、それを調理場に伝えたりする仕事です」「日本語のメニューが読めないと困るんですが、大丈夫ですか」などの表現
<第21講>6月18日（水）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事

<第22講>6月20日（金）
概要：仕事の経験について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[～んじゃないかと思っていた、～のに]
詳細：教科書3課3「日本語で話すチャンスが多いんじゃないかと思っていたんですが、そうでもないんです」「長い間働いているのに、時給がぜんぜん上がらないのは納得できません」などの表現
<第23講>6月25日（水）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第24講>6月27日（金）
概要：仕事を選ぶ時大切だと思うことについてスピーチする
事前学習しておくべき用語やポイント[～かどうかということを考えます、～ても]
詳細：教科書3課4「仕事を決めるとき一番大切なのは、世の中の役に立つかどうかだと思います」「自分の好きなことができても、世の中の役に立たない仕事では、やりがいがないと思います」などの表現
<第25講>7月2日（水）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第26講>7月4日（金）
概要：教科書を復習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[教科書全体を復習しておく]
詳細：教科書全体の復習
<第27講>7月9日（水）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第28講> 7月11日（金）
概要：修了スピーチの原稿を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[何についてスピーチするか考えておく]
詳細：7月26日にするスピーチの原稿を書く。
<第29講> 7月16日（水）
概要： 期末テスト、スピーチの練習。
事前学習しておくべき用語やポイント[今学期勉強したことを復習しておく]
詳細：ペーパーテスト、聴解テスト、7月26日にするスピーチの練習をする。
<第30講>7月18日（金）
概要： 今学期のまとめとして、スピーチをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[スピーチの練習をしておく]
詳細：修了スピーチをする。

■教科書

はじめよう日本語中級（ＴＩＪ東京日本語研修所）
コピー教材

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、出席（30%），授業中の活動（30%），期末テスト（40%）により行います。

■評価基準

絶対評価
A+ ：95%～
A ：85%～
B ：70%～
C ：60%～
F ：60%未満
※期末テストはペーパーテスト（文法、語彙、表現）、聴解テスト、スピーチを行います。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。
水曜日第4時限と金曜日第4時限の両方合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

科目名 日本語講座(中級II)(Japanese Language (Intermediate Course II))

サブタイトル

担当教員 TIJ東京日本語研修所

■講義目的

留学生が日本で生活するための日常会話だけでなく、大学の授業を聞くため、また授業に積極的に参加するため、及び社会から情報を得るため、また社会に参加し問題解決するための日本語会話能力、聴解能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

(1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをほぼ伝えることができる。
(3) 社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。

■講義形態

GD・GW・PR
その他(ディベート・スピーチ):学外学習無

■講義の概要

<第1講> 9月19日(金)
概要: プレースメントテスト
事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細:現在の日本語力をテストする
<第2講> 9月24日(水)
概要: 社会で起きている変化について話す。
事前学習しておくべき用語やポイント[~てくる、~ていく]
詳細:教科書4課1「結婚しない人が増えてきました」などの表現
<第3講>9月26日(金)
概要: 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細:ニュース、新聞記事
<第4講>10月1日(水)
概要: 日本や母国の人の考え方や物事のやり方について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[~べきだ、~べきではない]
詳細:教科書4課2 「親は子どもにもっと厳しくするべきだと思います」などの表現
<第5講>10月3日(金)
概要: 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細:ニュース、新聞記事
<第6講>10月8日(水)
概要: 科学技術の発達で以前と変わったことを言う。
事前学習しておくべき用語やポイント[~なくても、~といい]
詳細:教科書4課3「将来は掃除をしなくてもロボットがしてくれるようになるでしょう」、「家事をしなくてもよくなるといいと思います」などの表現
<第7講>10月10日(金)
概要: 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細:ニュース、新聞記事
<第8講>10月15日(水)
概要:科学技術が発達したために起こってきた問題についてスピーチする。
事前学習しておくべき用語やポイント[~てから、~ために]
詳細:教科書4課4「だれでもパソコンを使うようになってから、人々の生活は便利になりました」「店や銀行へ行かなくてもよくなったために、人と顔を合わせてコミュニケーションすることが減ってきたと思います」などの表現
<第9講>10月17日(金)
概要:災害とその対策について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[災害関係の語彙、~たびに、~たり~たりします]
詳細:教科書5課1「洪水が起きるたびに、建物が押し流されたり、農作物に被害が出たりします」などの表現
<第10講>10月22日(水)
概要: 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細:ニュース、新聞記事
<第11講>10月24日(金)
概要:災害のときに大切なことについて話す
事前学習しておくべき用語やポイント[~するのが一番です、]
詳細:教科書5課2「大地震が起きたら、まず何かを頭にかぶってゆれが収まるのを待つのが一番です」などの表現
<第12講>10月29日(水)
概要: 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細:ニュース、新聞記事
<第13講> 10月31日(金)
概要:災害のための対策について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[~には~が載っています、~ておくといいと書いてあります]
詳細:教科書5課3「支援が来るまで自力で生活できるように、水や食料を買っておくといいと書いてあります」などの表現
<第14講> 11月5日(水)
概要: 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細:ニュース、新聞記事
<第15講>11月7日(金)
概要:災害が起きたときの対策についてスピーチする
事前学習しておくべき用語やポイント[~ば~ほど、]
詳細:教科書5課4「災害が大きければ大きいほど救助はなかなか来ません」「水や食料があれば助けを待っていられますが、何もなかったら困ってしまいます」などの表現
<第16講>11月12日(水)
概要: 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細:ニュース、新聞記事
<第17講> 11月19日(水)
概要:環境問題について考える
事前学習しておくべき用語やポイント[環境問題に関する語彙、~のために、]
詳細:教科書6課1「車の排ガスや工場の排煙のために、空気が汚れているんです」「車に乗らないようにしようと呼びかけています」などの表現
<第18講>11月21日(金)
概要: 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細:ニュース、新聞記事
<第19講>11月26日(水)
概要:日本や自分の町や近くの町で起こっている問題について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[~ようです、~ても、~限り]
詳細:教科書6課2「あいかわらずゴミが増えていることが問題になっています」「自治体がいろいろ対策を立てても、市民一人ひとりがゴミを減らさない限り、この問題はなくならないと思います」などの表現
<第20講>11月28日(金)
概要: 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細:ニュース、新聞記事
<第21講>12月3日(水)
概要:最近の犯罪や事件について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[~という~、~しかない]
詳細:教科書6課3「通り魔事件は、だれでもいいから殺したかったというところが普通の犯罪と違ってこわいです」「犯罪を減らすためには、一人ひとりを大切にする社会を作

るしかないんじゃないですか」などの表現
<第22講>12月5日（金）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第23講>12月10日（水）
概要：世界のあちこちで起こっている問題についてスピーチする
事前学習しておくべき用語やポイント[～ては～できない、]
詳細：教科書6課4「それぞれが自分の国の利益だけを考えていては、環境問題は解決できません」「地球環境をどうやって守っていくかが、今、人類全体の課題です」などの表現
<第24講>12月12日（金）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第25講>12月17日（水）
概要：教科書を復習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[教科書全体を復習しておく]
詳細：教科書全体の復習
<第26講>12月19日（金）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第27講>1月7日（水）
概要：修了スピーチの原稿を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[何についてスピーチするか考えておく]
詳細：1月24日にするスピーチの原稿を書く。

<第28講> 1月9日（金）
概要： 短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：ニュース、新聞記事
<第29講> 1月14日（水）
概要： 期末テスト、スピーチの練習。
事前学習しておくべき用語やポイント[今学期勉強したことを復習しておく]
詳細：ペーパーテスト、聴解テスト、1月24日にするスピーチの練習をする。
<第30講>1月21日（金）
概要： 今学期のまとめとして、スピーチをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[スピーチの練習をしておく]
詳細：修了スピーチをする。

■教科書

はじめよう日本語中級（ＴＩＪ東京日本語研修所）
コピー教材

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、出席（30%），授業中の活動（30%），期末テスト（40%）により行います。

■評価基準

絶対評価
A+ ：95%～
A ：85%～
B ：70%～
C ：60%～
F ：60%未満
※期末テストはペーパーテスト（文法、語彙、表現）、聴解テスト、スピーチを行います。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。
水曜日第3時限と金曜日第3時限の両方合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

科目名 日本語講座（上級）（Japanese Language An Upper Course）

サブタイトル

担当教員 TIJ東京日本語研修所

■講義目的

留学生が日本で生活するための日常会話だけでなく、大学の授業を聞くため、また授業に積極的に参加するため、及び社会から情報を得るため、また社会に参加し問題解決するための日本語会話能力、聴解能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

（1）社会生活や大学生活の中で話されている会話が理解できる。
（2）社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを伝えることができる。
（3）社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。
（4）調べたこと、研究したことなどをプレゼンテーションできる。

■講義形態

GD・GW・PR
その他(ディベート・スピーチ)：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 9月19日（金）
概要： プレースメントテスト
事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細：現在の日本語力をテストする
<第2講> 9月24日(水)
概要： 自己紹介をする。ニュースを聞いて、討論する。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：初めて会った人とどのように挨拶し、自己紹介をしたらよいか、実際にやってみる。時事ニュース
<第3講>9月26日（金）
概要： 新聞を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：新聞記事
<第4講>10月1日(水)
概要： ニュースを聞いて、討論する。アンケート調査の結果を読む。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：時事ニュース、アンケート調査結果を材料に、ディベート・プレゼン時のデータや調査結果に関する表現を学ぶ。
<第5講>10月3日（金）
概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：新聞記事
<第6講>10月8日（水）
概要： ニュースを聞いて、討論する。次回のディベートのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[ネット恋愛について調べておく]
詳細：ディベート準備「ネット恋愛に賛成？反対？」、時事ニュース
<第7講>10月10日（金）
概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：新聞記事
<第8講>10月15日（水）
概要：ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[ディベートの練習をしておく]
詳細：ディベート「ネット恋愛に賛成？反対？」、時事ニュース
<第9講>10月17日（金）
概要：ニュースを聞いて、討論する。次回のディベートのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[原子力発電について調べておく]
詳細：ディベート準備「原子力発電に賛成？反対？」、時事ニュース
<第10講>10月22日（水）
概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：新聞記事
<第11講>10月24日（金）
概要：ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[ディベートの練習をしておく]
詳細：ディベート「原子力発電に賛成？反対？」、時事ニュース
<第12講>10月29日（水）
概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：新聞記事
<第13講> 10月31日（金）
概要：ニュースを聞いて、討論する。次回のディベートのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[代理母出産について調べておく]
詳細：ディベート準備「代理母出産に賛成？反対？」、時事ニュース
<第14講> 11月5日（水）
概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：新聞記事
<第15講>11月7日（金）
概要：ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[ディベートの練習をしておく]
詳細：ディベート「代理母出産に賛成？反対？」、時事ニュース
<第16講>11月12日（水）
概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：新聞記事
<第17講> 11月19日(水)
概要：ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[能力別授業について調べておく]
詳細：ディベート「能力別授業に賛成？反対？」、時事ニュース
<第18講>11月21日（金）
概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：新聞記事
<第19講>11月26日(水)
概要：次回のプレゼンテーションのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[住宅事情について調べておく]
詳細：プレゼンテーション準備「住宅事情」、
<第20講>11月28日（金）
概要：プレゼンテーションをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]
詳細： プレゼンテーション「住宅事情」
<第21講>12月3日（水）
概要：次回のプレゼンテーションのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[結婚事情について調べておく]
詳細：プレゼンテーション準備「結婚と女性の社会進出」
<第22講>12月5日（金）
概要：プレゼンテーションをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]
詳細： プレゼンテーション「結婚と女性の社会進出」
<第23講>12月10日（水）
概要：次回のプレゼンテーションのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[高齢化社会について調べておく]
詳細：プレゼンテーション準備「高齢化社会」
<第24講>12月12日（金）
概要：プレゼンテーションをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]
詳細： プレゼンテーション「高齢化社会」
<第25講>12月17日（水）
概要：次回のプレゼンテーションのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[教育事情について調べておく]
詳細：プレゼンテーション準備「教育」
<第26講>12月19日（金）
概要：プレゼンテーションをする。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]
詳細： プレゼンテーション「教育」
<第27講>1月7日（水）
概要：プレゼンテーションの原稿を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[何についてプレゼンテーションするか考えておく]
詳細：1月24日にするプレゼンテーションの原稿を書く。
<第28講> 1月9日（金）
概要： プレゼンテーションの原稿を完成する。
事前学習しておくべき用語やポイント[原稿を推敲しておく]
詳細：1月24日にするプレゼンテーションの原稿を推敲して書きなおす。
<第29講> 1月14日（水）
概要： プレゼンテーションの練習。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]
詳細：プレゼンテーションの練習をする。
<第30講>1月21日（水）
概要： 今学期のまとめとして、プレゼンテーションをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]
詳細：まとめの発表をする。

■教科書

コピー教材

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、出席（30%），授業中の活動（40%），宿題の提出（30%）により行います。

■評価基準

絶対評価
A+ ：95%~
A ：85%~
B ：70%~
C ：60%~
F ：60%未満
※期末テストはプレゼンテーションを行います。

■事前履修科目等

日本語講座（中級）

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。
水曜日第4時限と金曜日第4時限の両方合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。
日本語講座上級を履修するためには、それ以前に日本語講座中級を履修していることが前提条件となる。

科目名　日本語表現法Ⅰ(Japaese for Students Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　樋口　裕一、樋口総合文化研究所

■講義目的

産業社会で活躍し、問題発見、問題解決に不可欠な文章力を養成する。現代の志塾として、将来のビジネスに直結する文章力養成する。そのために、論理的文章、エッセイ、企画書など様々なタイプの文章を書き、豊かに表現することができるようになることをめざす。また、口頭による意見発表、質問などの仕方についても学ぶ。こうすることによって、社会や人間に対する関心も高め、社会人基礎力を高め、自らの志を明確にすることにもなる。

■講義分類

社会人力育成、ビジネスICT

■到達目標

600字から800字程度の論理的な文章や楽しい文章、生き生きした文章を書く練習をし、同時に、日本語の語彙やさまざまの表現を身につける。そして、志望理由書、自己PR書などを自在に書ける力を養う。

■講義形態

その他(講義+文章作成+PR)：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：　オリエンテーション　第1回課題答案作成
事前学習しておくべき用語やポイント[初回につき、時になし]
詳細：方針・授業ルール説明。文章の書き方の基本の説明。
<第2講>
概要：　課題復習
事前学習しておくべき用語やポイント[小論文の「型」について復習]
詳細：前回書いた文章を添削して返却。よい文章、悪い文章について解説。前回の文章を書きなおす。
<第3講>
概要：　部分練習
事前学習しておくべき用語やポイント[前回返却答案を見直す]
詳細：問題提起の作り方、第2段落の書き方。
<第4講>
概要：　第2回課題答案作成
事前学習しておくべき用語やポイント[第二回課題について資料を集める]
詳細：実際に600字程度の論理的な文章（第2回課題）を書く。

<第5講>
概要：　第2回課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[第2回課題について資料を整理]
詳細：前回書いた課題の解説。文章を書くためのトレーニングをする。裏づけの仕方について。
<第6講>
概要：　エッセイの書き方
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読んでおく]
詳細：エッセイの書き方の説明。表現力アップのためのトレーニング。

<第7講>
概要：　第3回課題（エッセイ）を書く
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：実際にエッセイ（第3回課題）を書く。
<第8講>
概要：　課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：前回書いた文章を添削して返却。課題解説。文章テクニック、リアリティの作り方、相手を説得する技術、表現力アップのためのトレーニング。
<第9講>
概要：　トレーニング
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：文章テクニック、リアリティの作り方、相手を説得する技術、表現力アップのためのトレーニング。
<第10講>
概要：第3回課題（エッセイ）を書く
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：文章テクニック、リアリティの作り方、相手を説得する技術、表現力アップのためのトレーニング。
<第11講>
概要：　メールの書き方
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：文章テクニック、リアリティの作り方、相手を説得する技術、表現力アップのためのトレーニング。
<第12講>
概要：　その他の文章の書き方
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：志望理由書・自己PR書・レポートの書き方。その練習。
<第13講>
概要：　第5回課題作成
事前学習しておくべき用語やポイント[志望企業について調べておく]
詳細：実際に志望理由書・自己PR書（第5回課題）を書く
<第14講>
概要：　第5回課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[志望企業について調べておく]
詳細：　就活に必要な文章力・表現力。
<第15講>
概要：　これからの勉強法
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでの自分の作成した答案を見直す]
詳細：　新聞活用法。本の読み方。総復習。

■教科書

なし

■指定図書

『ホンモノの文章力』　集英社新書
『大人のための文章道場』　角川文庫

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

出席が3分の2に満たないものは不合格にする。授業中に合計5～6回、小論文を書いてもらい、1点～5点で採点して返却する。平均2点を超すものについては原則として合格とみなす。なお、書き直して提出した場合、必ず加点する。授業中の発言についても加点する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業中の私語禁止。そのほか、飲食（ただし飲みものの摂取は許す）・ガム・帽子着用・寝る姿勢を整えての居眠り・無断退出・イヤホンの着用・教員に対する暴言など、授業を害する行為についても禁止する。目に余るものは退出させ、欠席とみなす。語彙を増やし、表現技術を身につけても日本語の表現力はつかない。発信したい内容を持つことによって表現力も増す。それゆえ、多くの時間を、単に表現法ではなく、思考法、社会的知識を身につけることに費やす。

科目名 日本語表現法Ⅱ（Japaese for Students Ⅱ）

サブタイトル

担当教員 樋口　裕一、樋口総合文化研究所

■講義目的

産業社会で活躍し、問題発見、問題解決に不可欠な文章力を養成する。現代の志塾として、将来のビジネスに直結する文章力養成する。そのために、論理的文章、エッセイ、企画書など様々なタイプの文章を書き、豊かに表現することができるようになることをめざす。また、口頭による意見発表、質問などの仕方についても学ぶ。こうすることによって、社会や人間に対する関心も高め、社会人基礎力を高め、自らの志を明確にすることにもなる。

■講義分類

社会人力育成、ビジネスICT

■到達目標

600字から800字程度の論理的な文章や楽しい文章、生き生きした文章を書く練習をし、同時に、日本語の語彙やさまざまの表現を身につける。そして、志望理由書、自己PR書などを自在に書ける力を養う。

■講義形態

その他(講義+文章作成+PR)：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：　オリエンテーション　第1回課題答案作成
事前学習しておくべき用語やポイント[初回につき、時になし]
詳細：方針・授業ルール説明。文章の書き方の基本の説明。
<第2講>
概要：課題復習
事前学習しておくべき用語やポイント[小論文の「型」について復習]
詳細：前回書いた文章を添削して返却。よい文章、悪い文章について解説。前回の文章を書きなおす。
<第3講>
概要：部分練習
事前学習しておくべき用語やポイント[前回返却答案を見直す]
詳細：問題提起の作り方、第2段落の書き方。
<第4講>
概要：第2回課題答案作成
事前学習しておくべき用語やポイント[第二回課題について資料を集める]
詳細：実際に600字程度の論理的な文章（第2回課題）を書く。

<第5講>
概要：第2回課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[第2回課題について資料を整理]
詳細：前回書いた課題の解説。文章を書くためのトレーニングをする。裏づけの仕方について。
<第6講>
概要：エッセイの書き方
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読んでおく]
詳細：エッセイの書き方の説明。表現力アップのためのトレーニング。

<第7講>
概要：第3回課題（エッセイ）を書く
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：実際にエッセイ（第3回課題）を書く。
<第8講>
概要：課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：前回書いた文章を添削して返却。課題解説。文章テクニック、リアリティの作り方、相手を説得する技術、表現力アップのためのトレーニング。
<第9講>
概要：トレーニング
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：文章テクニック、リアリティの作り方、相手を説得する技術、表現力アップのためのトレーニング。
<第10講>
概要：第3回課題（エッセイ）を書く
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：文章テクニック、リアリティの作り方、相手を説得する技術、表現力アップのためのトレーニング。
<第11講>
概要：メールの書き方
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：文章テクニック、リアリティの作り方、相手を説得する技術、表現力アップのためのトレーニング。
<第12講>
概要：その他の文章の書き方
事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]
詳細：志望理由書・自己PR書・レポートの書き方。その練習。
<第13講>
概要：第5回課題作成
事前学習しておくべき用語やポイント[志望企業について調べておく]
詳細：実際に志望理由書・自己PR書（第5回課題）を書く
<第14講>
概要：第5回課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[志望企業について調べておく]
詳細：　就活に必要な文章力・表現力。
<第15講>
概要：これからの勉強法
事前学習しておくべき用語やポイント[これまでの自分の作成した答案を見直す]
詳細：　新聞活用法。本の読み方。総復習。

■教科書

なし

■指定図書

『ホンモノの文章力』　集英社新書
『大人のための文章道場』　角川文庫

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

出席が3分の2に満たないものは不合格にする。授業中に合計5～6回、小論文を書いてもらい、1点～5点で採点して返却する。平均2点を超すものについては原則として合格とみなす。なお、書き直して提出した場合、必ず加点する。授業中の発言についても加点する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業中の私語禁止。そのほか、飲食（ただし飲みものの摂取は許す）・ガム・帽子着用・寝る姿勢を整えての居眠り・無断退出・イヤホンの着用・教員に対する暴言など、授業を害する行為についても禁止する。目に余るものは退出させ、欠席とみなす。語彙を増やし、表現技術を身につけても日本語の表現力はつかない。発信したい内容を持つことによって表現力も増す。それゆえ、多くの時間を、単に表現法ではなく、思考法、社会的知識を身につけることに費やす。

科目名　日本政治史（Political history of Japan）

サブタイトル　前近代の国際関係

担当教員　大森　映子

■講義目的

対外政策を軸としながら、日本の政治史を概観する。古代から近代までを視野に入れながら進めるが、主に江戸時代の問題を扱う。前近代の対外関係を考える時、中国や朝鮮半島をはじめ、アジア諸地域との結びつきを無視することはできない。この点は現代社会にも通じるところであり、アジアの中の日本という立場からの歴史認識は、政治的・経済的・国際的な諸問題を解決に導く糸口となるものであろう。このような側面に注目しながら、前近代における日本の対外政策および海外認識について検討する。

■講義分類

地域ビジネス　グローバルビジネス　社会人力育成

■到達目標

(1)日本の対外認識について理解する。
(2)江戸時代および明治期における外交政策が、現代日本に及ぼした影響について考える。
(3)現代社会を考える上で、歴史的認識が大切であることを認識する。

■講義形態

講義：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　オリエンテーション
概要：授業の方針、取り扱うテーマの紹介。
事前ds学習しておくべきポイント
　高校の日本史の教科書、あるいはそれに類した日本史の文献を確認する。
詳細：15回の授業の中で取り扱うテーマの基本的な位置づけを示す。とくに周辺諸地域との結びつきに注目しながら、アジアの中における日本の立ち位置を歴史的に考える場であることを確認する。その導入として、考古学的な成果をもとに、日本と大陸との関係について触れる。
<第2講>　古代における国際関係
概要：考古学的成果からみた大陸との交流
事前学習しておくべき用語とポイント　[弥生時代　邪馬台国論争　遣隋使]
詳細：中国文献、考古学的遺物を手がかりとして、「倭」と称されていた日本と大陸との交流について概観する。人的交流や物流が予想以上にあったこと、また九州や近畿地方ばかりでなく、そのほかの地域においても大陸との関係を窺わせる考古学的資料があることなどを指摘する。また、歴史上よく知られている遣隋使については、中国側と日本側の史料を比較し、その違いについて検討する。
<第3講>　大仏建立の背景と国際環境の変化
概要：東大寺の大仏建立の問題とその後の国際環境の変化について
事前学習しておくべきポイント　[大仏建立　聖武天皇　遣唐使　渤海]
詳細：8世紀の半ば、奈良の東大寺で巨大大仏の建立が試みられる。いわゆる奈良の大仏として現在でも親しまれているが、これは単なる文化事業ではなく、当時の国際関係、国際戦略とも深く結びついたものであったことを検証する。また、9世紀には遣唐使の派遣が中止されることになるが、これは大陸との関係の断絶を意味するわけではなく、むしろ複合的な交流ルートが成立していたことを確認する。
<第4講>　中世社会の諸相　―対外政策を中心に―
概要：武家政権の対外政策
事前学習しておくべきポイント　[日宋貿易　鎌倉幕府]
詳細：日本と中国（宋）との間には、国家間の公的な交流はなかったが、活発な民間貿易が展開しており、大量の日常物資が輸出入される体制ができあがっていた。あらたに台頭してきた元は、周辺諸地域への侵略を繰り返すようになるが、日本史の中で「元寇」として取り上げられるこの問題は、世界史の中に位置づけることが大切である。とくに朝鮮半島への侵攻や東南アジアへの遠征との関連づけながら、元寇の問題をあらためて検討する。また、元の文化的特質とその影響についても言及してみたい。
<第5講>　中世の交易ルート
概要：明の成立とアジア世界における国際秩序
事前学習しておくべき用語とポイント　[朝貢貿易　海禁政策　日明貿易　琉球]
詳細：14世紀に中国を統一した明を中心に、東アジア世界の国際秩序が確立し、日本もその傘下に入ることになった。その下で展開されたのが、日明貿易（勘合貿易）である。当時の諸地域の結びつきを、世界的な観点から見通しつつ、海で結ばれたアジア世界の状況を確認する。また、貿易立国としての琉球の位置づけについて触れながら、繁栄の背景をさぐる。
<第6講>　ヨーロッパ勢力と東アジア世界
概要：ポルトガル勢力のアジア進出
事前学習しておくべき用語とポイント　[南蛮貿易　キリスト教　鉄砲　銀山]
詳細：ポルトガルの日本来航の問題を、当時のヨーロッパ史と関連づけながら検討する。とくにヨーロッパの中におけるスペイン・ポルトガル勢力の動きを確認した上で、日本との関係を考える。ポルトガル人にとって注目すべきは日本の銀であり、当時、世界有数の銀産出国として日本が認識されていたことを指摘する。また、当時製作された世界地図に描かれた日本の状況から、日本がどのように認識されていたのかを検証する。
<第7講>　豊臣秀吉の朝鮮侵略
概要：秀吉の侵略戦争の実態
事前学習しておくべき用語とポイント　[文禄・慶長の役]
詳細：全国統一を果たした豊臣秀吉は、対外的にも積極策をうちだし、日本人の海外渡航を積極的に援助する一方、中国征服を試み、朝鮮半島に軍勢を送った。二度にわたる朝鮮への出兵は、朝鮮国土を荒廃させ、朝鮮民衆に大きな犠牲を強いることになった。ここでは朝鮮侵略の実態と、その後の対外関係の課題について考える。
<第8講>　古代～中世の国際関係
概要：16世紀までの国際関係のまとめ
事前学習しておくべき用語とポイント
　1～7講までの復習
詳細：16世紀までの対外政策における大きな流れを把握し、アジアの中における日本の立ち位置を確認しながら、まとめを試みる。
<第9講>　江戸時代初期の対外関係
概要：徳川政権の権力確立過程と徳川家康の外交方針
事前学習しておくべき用語とポイント　[江戸幕府　朱印船貿易　日本町　糸割符制度]
詳細：徳川家康も対外政策においては積極策をとっていた。海外に赴く商人たちには朱印状を賦与し、その活動を援助した。かれらは東南アジア諸地域へ進出し、日本町を形成するまでに至っている。また来日外国人も、ポルトガルだけでなく、オランダ、イギリス、スペインも参画してくるようになった。また悪化した朝鮮との関係修復にも積極的であった。このような状況から、なぜ「鎖国」といわれるような方向に向かうことになったのか、「鎖国」とはどのような体制であったのかを考える。
<第10講>　江戸幕府の外交政策（1）
概要：いわゆる「鎖国」体制に至る経緯を確認する。
事前学習しておくべき用語とポイント　[鎖国　キリスト教　東インド会社　島原の乱]
詳細：江戸時代の対外政策は、一般に「鎖国」と呼ばれているが、実際にはどのような体制であったのかを検討する。たしかにヨーロッパとの関係については、オランダに限定されていくことになるが、アジアとの関係はどうだったのであろうか。とくに貿易と宗教との両面から検討を試みる。また、江戸時代までは、琉球（沖縄）と蝦夷（北海道）は日本の国外として扱われていたことも確認する。
<第11講>　江戸幕府の外交政策（2）
概要：いわゆる「4つの口」について。
事前学習しておくべき用語とポイント　[4つの口　通信の国　通商の国]
詳細：江戸時代の対外的な窓口は4ヶ所であるという認識に基づき、それぞれの地域における対外的な関係を明らかにする。4ヶ所のうち、長崎以外の3ヶ所、対馬・薩摩・松前の諸地域は、それぞれの地域権力（大名）が対外関係を担っていたことを前提に、江戸時代の対外関係を総体として見なおすことを試みる。またオランダとポルトガルの対立を視野に入れながら、オランダ側の戦略という観点から検討する。
<第12講>　参府する外国人と国際認識
概要：江戸時代における外国使節の実態。
事前学習しておくべき用語とポイント　[朝鮮通信使　琉球使節　参府]
詳細：江戸時代、朝鮮からの使節、琉球からの使節、また長崎に滞在していた東インド会社のオランダ商館長は、何度も江戸将軍の下を訪れている。それぞれの使節の立場を明らかにするとともに、異国風の大規模な行列の存在を目の当たりにした江戸庶民の意識を検討する。庶民にとって、「閉ざされた国」であるという意識はあったのだろうか。
<第13>　江戸時代の海外情報と日本の技術
概要：江戸幕府による海外認識
事前学習しておくべき用語とポイント　[オランダ風説書　産業革命　蘭学]
詳細：江戸時代には、どこまで西洋文化に触れる機会があったのだろうか。また、海外情報をどこまで知ることができたのだろうか。「情報」の扱いを考えながら、日本の技術や文化について検討する。また特有な発展をとげた日本文化に注目しながら、その背景として日本の文化のあり方の特色について検討する。
<第14講>　近代日本の問題点
概要：開国以来、急速な欧米化を目指した日本の問題点を明らかにする。
事前学習しておくべき用語とポイント　[文明開化　殖産興業　廃仏毀釈]
詳細：明治以降の日本は、急速な欧米化を目指すことになる。そのことは日本社会の飛躍的な経済的発展を促すことになるが、急ぎすぎた近代化はさまざまな形で問題点を残すことになる。また欧米文化との出会いは、従来の日本文化を軽視する傾向が現れることになった。いくつかの事例を取り上げながら、明治期における「近代化」の負の部分を取り上

げる。
<第15講>　周辺諸地域と日本
概要：最終的なまとめを兼ねて、周辺諸地域に対する近代日本の政策を検討する。
事前学習しておくべき用語とポイント　[征韓論　琉球処分　韓国併合　満州国]
概要：急速な近代化を目指す日本は、周辺諸地域に対してどのような方針をとったのであろうか。江戸時代においては、日本の外とみなしていた蝦夷地については北海道として囲い込み、琉球についても強引に琉球藩として取り込みを図り、最終的には沖縄県として位置づけることになる。さらに朝鮮半島、大陸への進出・侵略を繰り返すことになった経緯を概観し、戦前の日本のあり方、戦後におけるアジア諸国との関係について考える。

■教科書

とくに指定しないが、下記の指定図書は入手することが望ましい。

■指定図書

五味文彦・鳥海靖編『もう一度読む　山川日本史』(山川出版社)
その他の図書については、授業内で適宜指示する。

■参考文献

授業内で適宜指示する。

■参考URL

■評価方法

平常点(出席、および授業内で求める簡単なレポート)50%、中間・最終レポート50%を原則とする。ただし受講者数によっては、2回のレポートのうち1回を授業内試験とする場合がある。

■評価基準

相対評価
(1)授業内容を理解できているか。
(2)日本対外関係について、自分なりの意見がもてるようになったか。
(3)歴史分析の手法を理解できたか。

■事前履修科目等

「歴史と文化」および「比較文化論」を履修していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

初回オリエンテーションは、授業の方向性を確認する重要な場であるので、できるだけ参加すること。
なお、受講者数によって一部内容の変更をすることがあるので、注意すること。

科目名　認知心理（Cognitive Psyc h ology）

サブタイトル

担当教員　大森　拓哉

■講義目的

認知心理学は、人間の心のしくみを学ぶ心理学の一分野である。人間が外部の環境や刺激をどう感じ、どう理解しているのかといったしくみを様々な角度から考察する。講義中に自分自身についても当てはめ、実験演習も行う。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

この授業で学んだことを日常世界の中においても理解・応用できるか、経済・経営活動においてこの知識を応用・適用きるか。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：概論
事前学習しておくべき用語やポイント[認知、認知心理学]
詳細：心理学における認知心理学の立場、心理学とは何か、認知とは何か、日常生活と認知心理学のかかわり等を包括的に学ぶ。
<第2講>
概要：記憶と忘却
事前学習しておくべき用語やポイント[記憶、短期記憶・長期記憶]
詳細：記憶の仕組み、符号化、貯蔵、検索、記憶の区分、感覚記憶、短期記憶のメカニズム、長期記憶のメカニズム、記憶術、想起、忘却、顕在記憶と潜在記憶、等を学ぶ。
<第3講>
概要：知覚と認識
事前学習しておくべき用語やポイント[錯覚]
詳細：図と地の分化、主観的輪郭、錯視、運動の知覚、知覚の情報処理、パターン認知、文脈効果、注意、カクテルパーティ効果、両耳分離聴実験、等を学ぶ。
<第4講>
概要：顔表情の認識と感情表出
事前学習しておくべき用語やポイント[顔の表情の認知]
詳細：顔の認識、顔の表情、相貌失認、感情表出と表情、6つの基本的感情、表情の生得性、表情の文化差、等を学ぶ。
<第5講>
概要：概念と言語
事前学習しておくべき用語やポイント[概念]
詳細：概念と言葉、概念とは?、概念の構造、概念の構造の3つの理論、定義的特性理論、プロトタイプ理論、理論ベースの概念理論、概念の獲得、語の認知過程、言語の獲得、動物の言語、言語の脳部位の測定、言語をつかさどる部位、脳の機能、大脳皮質の役割、等を学ぶ。
<第6講>
概要：知識と表象
事前学習しておくべき用語やポイント[表象]
詳細：知識としての記憶、意味記憶とは、意味の表象、文章の真偽判断課題、階層的ネットワークモデル、特性比較モデル、活性化拡散モデル、プライミング効果、より高次な表象、手続きの知識、プロダクションシステム、等を学ぶ。
<第7講>
概要： イメージと空間の情報処理
事前学習しておくべき用語やポイント[空間認知]
詳細：画像的記憶、二重符合仮説、空間の認知、認知地図、認知地図の歪み、認知地図の異方性、整列効果、等を学ぶ。
<第8講>
概要：認知の制御過程
事前学習しておくべき用語やポイント[認知の制御]
詳細：注意、焦点的注意、注意の分割、理の自動性、アクションスリップ、バグ、メタ認知、メタ認知の種類、等を学ぶ。
<第9講>
概要：文章理解
事前学習しておくべき用語やポイント[文章理解]
詳細：統語論的処理、意味論的処理、格文法と選択制限、語用論的処理、会話の公理、等を学ぶ。
<第10講>
概要：推論
事前学習しておくべき用語やポイント[推論]
詳細：推論の種類、帰納的推論、概念形成における帰納的推論、帰納的推論における誤り、数学的帰納法、演繹的推論、演繹推論における誤り、主題性効果と思考の領域固有性、演繹推論と条件文解釈、確率判断、等を学ぶ。
<第11講>
概要：問題解決
事前学習しておくべき用語やポイント[方略]
詳細：問題空間、方略、方略の手続きによる分類、GPS(General Problem Solver)、プロダクションシステム、プロトコル分析、創造性の育成法、類推による問題解決、等を学ぶ。
<第12講>
概要：意思決定
事前学習しておくべき用語やポイント[意思決定、効用、主観確率]
詳細：意思決定とは何か、規範的理論と記述的理論、効用、多属性効用理論、現実の意思決定、緊急時の意思決定、不確実な状況での意思決定、主観的確率の誤り、プロスペクト理論、等を学ぶ。
<第13講>
概要：日常世界と認知心理学(1)
事前学習しておくべき用語やポイント[進化心理学]
詳細：認知進化心理学、心理療法・カウンセリング、人工知能、確率推論・ベイジアンネットワーク、等を学ぶ。
<第14講>
概要：日常世界と認知心理学(2)
事前学習しておくべき用語やポイント[リスク認知]
詳細：環境リスク認知、犯罪場面における認知、認知的不協和理論、等を学ぶ。
<第15講>
概要： まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[経営と心理学]
詳細：この講義での知識が日常世界や経営の場面で有効に活用することができるかどうかを考える。

■教科書

森敏昭・井上毅・松井孝雄著　『グラフィック認知心理学』　サイエンス社(1995)

■指定図書

道又爾他　『認知心理学』　有斐閣アルマ
繁桝算男・丹野義彦編著　『心理学の謎を解く』　医学出版
下條信輔　『サブリミナル・マインド』　中公新書
下條信輔　『サブリミナル・インパクト』　ちくま新書
下條信輔　『<意識>とはなんだろうか』　講談社現代新書
戸田正直他編　『認知科学選書』全24巻　東京大学出版会
乾敏郎他編　『認知心理学』全5巻　東京大学出版会
広田すみれ他著　『心理学が描くリスクの世界』　慶應義塾大学出版会

■参考文献

講義中に紹介する。

■参考URL

■評価方法

出席を前提とし、期末定期試験（100%）により評価する。

■評価基準

相対評価
認知心理学の基本概念が理解できたかについて評価する。自分自身の思考や経験と照らし合わせて、自分なりの考察ができたかどうかを重視する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は、幅広い心理学のうちの一分野である。「消費心理」、「社会心理」などの他の心理学の講義も聴講するとよりいっそう理解が深まる。また、「経営と意思決定」の講義にも関連がある。

講義途中で心理実験やそのレポート提出を求めることがあるので、毎回の出席は必須である。

私語、飲食、授業と関係のないPC操作、携帯電話操作、帽子・サングラス着用等禁止する。

科目名　比較文化論I（Comparative Culture I）

サブタイトル　中国文化を理解する / Understanding Chinese Culture

担当教員　濱田　英作

■講義目的

21世紀の世界潮流の中では、アジアが国際的な産業社会の上で最も成長して重要な地位を占めることは疑いない。特に東アジアの隣国である中国は、世界の覇者であった米国と、あらゆる意味で拮抗する勢力になりつつある。そしてその中国と日本は歴史的に深い関係を持ってきたが、それは2014年初頭現在、政治経済面においてまったく予断を許さない危機的状況に陥っているようにも見える。

本講義では、そうした危機を克服するための一助としても、中国の文化的特質について、その歴史的形成を辿りつつ、世界から見た中国の姿すなわちその位置づけを知り、他方では中国から見た世界像を考えることによって、中国をどう理解していくかについて考察することを目的としたい。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

世界の中での中国の文化形成と、世界潮流中の位置づけについて一定の知識と概念とを得ること。異文化理解と交流について積極性を持つに至ること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：科目オリエンテーション
用語：ノート整理法
詳細：この講義の概要、その目的とするところ、授業の方針と進め方、講義中に参考にする図書および資料、試験の内容、実施方法、採点と評価の基準などについて、具体的に例を挙げながら説明し、履修登録に当たっての指針を学生に与える。
到達目標：クラスとしての授業方針、受講方針について共通理解を得る。
<第2講>
概要：文化の定義
用語：文化、Culture、文明
詳細：文化ということばは、英語Cultureの訳語である。ここでは、そのことばの原義にさかのぼって考え、このクラスにおける「文化」という概念を定義する。
到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。
<第3講>
概要：文化・民族・言語の定義と関係性
用語：文化、民族、言語、われわれ、エスニシティ
詳細：共通の言語によって文化を共有しているという自覚を持つ社会的集団が、民族である。ここでは、文化・民族・言語の関係について触れ、また国家との関係についても考える。
到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。
<第4講>
概要：歴史という概念を考える
用語：歴史、History、物語、先史、時間、鏡
詳細：「歴史」「History」ということばの双方の原義にさかのぼって考えると、歴史もまた、人類の文化のひとつの現われであることがわかる。他方、歴史をどのように使い、歴史から何を学ぶかということも問題である。
到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。ものごとを時間軸で鳥瞰する観点を身につける。
<第5講>
概要：麦作混合農業の生活相
用語：ユーラシア、三大文明、穀物、麦作
詳細：麦作混合農業は、ユーラシア三大文明を生み出した。それはシルクロードを通じて、中国文明を生み出した。ここでは、その成立、生活相、そしてその伝播と変容について考える。
到達目標：麦作混合農業と、その生み出す文明について知識と理解を得る。
<第6講>
概要：シルクロード・オアシスの道
用語：シルクロード、オアシス
詳細：氷河を頂く高山からの雪解け水を水源として形成されたオアシスを人間が開発し、隊商組織による交易を基盤として経済的に発展した。ここでは、オアシスの道を、中国地域の形成と関連付けて考える。
到達目標：オアシスの成立過程について知識と理解を得る。
<第7講>
概要：四川省・横断山脈の道
用語：四川省、西北シルクロード、西南シルクロード、チベット族、チャン族
詳細：ここでは、中国と他のユーラシア世界とを結ぶ、西北シルクロードと西南シルクロードについて検討する。また、この両者を結び、中国地域形成に重大な役割を果たした、四川省・横断山脈の道について触れる。
到達目標：横断山脈の道についての概念を得る。
<第8講>
概要：中国文明の形成とシルクロード
用語：黄河文明、長江文明、西北シルクロード、西南シルクロード
詳細：中国文明は、北方の黄河文明と南方の長江文明が融合して成立した。これが現在でも、北中国と南中国の特徴を形作っている。ここでは、両者の形成とシルクロードとの関わりについて考える。
到達目標：中国地域形成とシルクロードの関わりについて理解を得る。
<第9講>
概要：絹と中国
用語：絹、シルク、玉、月氏、ソグド人
詳細：シルクロードの名の起こりともなった「絹」。この名称について検討することは、中国とユーラシアの比較文化論の上で興味深い。ここではそのことを、中国文化の形成とも関わらせて検討する。
到達目標：シルクロードとユーラシアの文明論について関心を持つ。
<第10講>
概要：中国文化生成論1（中国の地理条件）
用語：黄河、長江、麦、雑穀、稲、気候、亜湿潤アジア、乾燥アジア、湿潤アジア
詳細：中国の地理を概観する。ここでは、黄河と長江という二大河川、西高東低の地形、生産基盤となる穀物、生活文化などに着目し、中華世界観の成立について考える。
到達目標：中国地域の形成条件について知識と理解を得る。
<第11講>
概要：中国文化生成論2(中国文化の源流)
用語：黄河、長江、麦、雑穀、稲、民族、クレオール
詳細：ここでは、中国文化の起源を、黄河と長江という二大河、そして麦作と稲作と雑穀作の三つの文化、そして多民族の混合に求めて考える。
到達目標：中国地域と民族の形成について知識と理解を得る。
<第12講>
概要：中国文化論3(中華意識の形成)
用語：夏、夷、蛮、狄、戎、中華
詳細：中国中原に文明を築いた人々は、しだいにみずからを優れた「夏華」、そして周辺地域の人々を野蛮な「夷」として区別して認識するようになった。ここでは、この「夏夷世界秩序」観の成立について考える。
到達目標：中華意識の萌芽について理解を深める。
<第13講>
概要：中国文化論4(世界国家と中華国家)
用語：五胡十六国、仏教、ヘレニズム、セリンディア
詳細：この夏夷世界観を新たに変容させたのが、ヘレニズム世界宗教である仏教だった。ここでは、東アジアへの仏教伝来について考え、日本への影響についても考える。
到達目標：仏教伝来の意義について理解と識見を深める。
<第14講>
概要：中国文化論5(中華国家観の成立)
用語：中華、漢民族
詳細：唐代以後の中国は、宋～元～明～清という流れの中で、「中華国家」と「世界国家」の姿を交互に取っていく。ここでは、その中で、現代につながる「中国民族文化」が確立されていった経緯を振り返る。
到達目標：中華意識の確立とその世界性について識見を深める。
<第15講>
概要：まとめと復習
用語：ノート整理、復習、質問
概要：この時間には、授業全体の復習をする。要点をまとめ、質問に答え、話し足りなかった部分、あるいは授業の中で新たに触れた部分などを補足し、学生諸君のノート整理と

試験準備の便とする。
到達目標：試験に対する十分な準備を整える。

■教科書

濱田英作　『中国漢代人物伝』　成文堂

■指定図書

[1]長澤和俊　『シルクロード』　講談社学術文庫
[2]松田寿男　『砂漠の文化』　岩波同時代ライブラリー
[3]『講談社　新シルクロードの旅　1・2・3』　講談社
[4]長澤和俊編　『シルクロードを知る事典』　東京堂出版
[5]三浦信行編　『21世紀アジア学』　成文堂
[6]和辻哲郎　『風土』　岩波文庫(青144-2)
[7]ヘーゲル　『歴史哲学講義 上下』長谷川宏訳　岩波文庫
[8]A.J.トインビー　『現代が受けている挑戦』吉田健一訳　新潮文庫
[9]梅棹 忠夫　『文明の生態史観』　中公文庫
[10]梅棹 忠夫　『狩猟と遊牧の世界　自然社会の進化』　講談社学術文庫

■参考文献

折に触れ紹介する。また授業中に資料(プリント)を配布する。

■参考URL

http://www.aurora-net.or.jp/doshin/silkroad; http://news.searchina.ne.jp/topic/277.html

■評価方法

評価は、期末試験(100点満点)および出席調査(持ち点)を合計する。ただし双方の合計点の最高は100点までとする。

■評価基準

相対評価
試験答案については:
1.世界と中国について知識と理解を得たか。
2.文化論と異文化理解について識見を得たか。
3.十分な表現力と説明能力を得たか。
以上の三点を中心に評価する。

■事前履修科目等

在学中に「現代中国入門」「中国経済論」「近現代史：世界と日本」「歴史と文化」等を併せて履修すると参考になると思います。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

学生としてのマナー(遅刻をしない、私語をしない、飲食をしない、携帯・スマートフォンを使わない)を実行しているか否かを平常点として見る。なお本講義では「板書を手で書きとめつつ、同時に聴いたことをまとめる」ことがプレゼンテーション能力にも関わる重要な知的トレーニングであると考えるので、たとえ検索目的であれ、授業中のパソコン使用は認めない。

科目名　比較文化論II（Comparative Culture II）

サブタイトル　日本と中国 / Japan and China

担当教員　濱田　英作

■講義目的

21世紀の世界潮流の中では、アジアが国際政治と産業社会の上で最も成長し、最も重要な地位を占めることは疑いない。特に東アジアの隣国である中国は、世界の覇者であった米国と、あらゆる意味で拮抗する勢力になりつつあって、その動静は2014年初頭現在、とくに日本との政治経済的関係上、まったく予断を許さない状況に入っている。そしてその中国と日本は、文化的・歴史的に、長期間の深い関係を保ってきたことも事実である。

本講義では、日本の文化的特質について、その歴史的形成の軌跡を、特に中国を中心とする東アジア世界と関連付けて辿りつつ比較し、世界から見た日本の姿すなわちその位置づけと、日本から見た世界像、とくに日本文化の揺籃としての中国をどう理解するかについて考察することを目的とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

日本の文化形成とその特質に関して、中国地域との関わりの中で理解し、今後の世界潮流中の位置づけについて、一定の知識と見識とを得ること。地域文化に理解と関心を持つに至ること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：科目オリエンテーション
用語：ノート整理法
詳細：この講義の概要、その目的とするところ、授業の方針と進め方、講義中に参考にする図書および資料、試験の内容、実施方法、採点と評価の基準などについて、具体的に例を挙げながら説明し、履修登録に当たっての指針を学生に与える。
到達目標：クラスとしての授業方針、受講方針について共通理解を得る。

<第2講>
概要：文化の定義
用語：文化、Culture、文明
詳細：文化ということばは、英語Cultureの訳語である。ここでは、そのことばの原義にさかのぼって考え、このクラスにおける「文化」という概念を定義する。
到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。

<第3講>
概要：文化・民族・言語の定義と関係性
用語：文化、民族、言語、われわれ、エスニシティ
詳細：共通の言語によって文化を共有しているという自覚を持つ社会的集団が、民族である。ここでは、文化・民族・言語の関係について触れ、また国家との関係についても考える。
到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。

<第4講>
概要：歴史という概念を考える
用語：歴史、History、物語、先史、時間、鏡
詳細：「歴史」「History」ということばの双方の原義にさかのぼって考えると、歴史もまた、人類の文化のひとつの現われであることがわかる。他方、歴史をどのように使い、歴史から何を学ぶかということも問題である。
到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。ものごとを時間軸で鳥瞰する観点を身につける。

<第5講>
概要：日本文化生成論1(日本文化の源流)
用語：縄文時代、弥生時代、考古学、環境生態学
詳細：日本列島の文化は、きわめて多様で豊富な文化の流入と、混合と、変容の末に形成されたものである。ここでは、縄文時代から弥生時代への移行を、南北中国地域との関連を見ながら概観する。
到達目標：日本列島における縄文時代、弥生時代の概念を理解し身につける。

<第6講>
概要：日本文化生成論2(政治体制の成立)
用語：古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、五胡十六国、北方文化
詳細：中国の五胡十六国時代から隋唐帝国成立に対応して、日本列島もまた古墳時代から奈良時代へと政治体制を整える。ここでは、倭国から最初期日本国における政治体制の成立について概観する。
到達目標：ユーラシア北方文化と日本列島との関わりについて知識を得る。

<第7講>
概要：日本文化生成論3（日本文化とシルクロード・仏教伝来の道）
用語：奈良時代、シルクロード、北伝仏教、神仏混淆
詳細：日本列島への道は、シルクロードの東端の接続路のひとつである。ここでは、日本文化と精神性の源流の一つであり、その形成にとって極めて重大な役割を果たした「北伝仏教」とその伝来の経緯について触れる。
到達目標：日本における仏教と神道の成立について基本的な知識を得る。

<第8講>
概要：日本文化生成論4(日本文化の成立)
用語：平安時代、鎌倉時代、国風文化、仮名文学、鎌倉新仏教
詳細：公家文化の国風化の後、武家が公家文化と新来の禅宗の影響のもとに武家文化を成立させる。ここでは、日本民族文化の萌芽的成立の経緯について、当時のアジア世界との関連も見ながら考察する。
到達目標：東アジア世界の変化と文化の国風化との関わりについて知識と理解を深める。

<第9講>
概要：日本文化生成論5（日本文化の確立・付：沖縄と北海道）
用語：戦国時代、安土桃山時代、江戸時代、町衆、蝦夷、アイヌ、沖縄、琉球、歴史の地平線
詳細：戦国から江戸時代にかけて町衆が登場して経済力を握り、消費文化が発達する。ここでは、日本民族文化の確立が江戸時代であることを、当時のユーラシア世界との関わりの中で論証してみる。
到達目標：ユーラシアを横断的に見ることで、世界の変動を理解する。

<第10講>
概要：日本文化生成論6（日本国民文化の胎動）
用語：江戸時代、豪農、豪商、朱子学、平田国学、農本思想、幕末、廃仏毀釈
詳細：農業・産業の発展とともに豪農・豪商が登場し、地域経済・地域振興に携わる中で地域・民族に根付いた理念としての国学を生み出す。ここでは幕末を準備した民族文化の胎動を見てみる。
到達目標：民族国家確立への胎動期としての江戸時代について目を開く。

<第11講>
概要：日本文化生成論7（幕末から明治へ）
用語：明治維新、自由民権運動、国権論
詳細：国学は明治維新を生んだが、それは同時に、中央集権に反対し地域発展を求める自由民権と、国民国家の発展を求める国権論・国家主義への流れを、同時に含むものとなった。なぜそうなったのか、当時の世界潮流の中に位置づけつつ、その二つを概観する。
到達目標：明治近代化について知識と理解とを得る。

<第12講>
概要：日本文化生成論8（津々浦々の文化）
用語：津々浦々、麦、河岸、廻船網、河川流通、地域共存
詳細：日本文化は重層的なものであり、以前の文化は住み分け、互いに影響しあいながら存在し、それらは廻船網と河川交通網によって全国「津々浦々」に広まった。ここでは、そうした日本文化のダイナミズムを見る。
到達目標：日本文化形成のダイナミズムについて目を開く。地域振興やマネジメントの新たなヒントを得る。

<第13講>
概要：日本文化生成論9（日本の原風景）
用語：里山、奥山、棚田、谷地、谷戸、谷津田、武蔵野、宮澤賢治、国木田独歩
詳細：日本人は、風土の中で、いかに生活を育んできたか、ここでは、里山、棚田などの地形、谷地、谷戸、谷津田などの地名、そして宮澤賢治や国木田独歩の美しい文章に親しみながら、その手がかりを摑んでみる。
到達目標：日本の風土に対する感性を磨く契機を摑む。

<第14講>
概要：日本文化生成論10（多摩の歴史）
用語：多摩、きぬのみち、自由民権運動、新選組、北村透谷
詳細：多摩大学があるこの多摩の地域は、南北には相模～武蔵～上野～下野を結び、東西には甲斐から武蔵から下総を結ぶ、いわば関東の交通の要衝に当たり、古代より高い文化を誇った場所である。また多数の河川を利用して、江戸時代からは流通経済、新田開発そして養蚕業が盛んになり、関東の「絹の道」沿いに豪農・豪商が栄えた。それは廻船ネットワークで日本全国とつながることによって国学などの新思想を広め、明治維新を準備し、自由民権の思想をも生む揺りかごとなった。新選組もまたこの地から京都へ赴いた。

まさに多摩の地が、日本の歴史を動かした時期があったのである。地域振興と地方分権、そして地域マネジメント技術の必要性が叫ばれる現在、多摩大学と地域とが共生するためにも、こうした多摩の歴史や地域的「コンテクスト」を、あらためて振り返ってみたい。これは多摩学とも関連する講義となる。
到達目標：多摩に関する知識と理解とを深め、愛着を持つ。
<第15講>
概要：まとめと復習
用語：ノート整理、復習、質問
概要：この時間には、授業全体の復習をする。要点をまとめ、質問に答え、話し足りなかった部分、あるいは授業の中で新たに触れた部分などを補足し、学生諸君のノート整理と試験準備の便とする。
到達目標：試験に対する十分な準備を整える。

■教科書

濱田英作　『中国漢代人物伝』　成文堂

■指定図書

[1]　三浦信行編　『21世紀アジア学』　成文堂
[2]　和辻哲郎　『風土』　岩波文庫(青144-2)
[3]　鈴木理生　『江戸の川・東京の川』井上書院
[4]　松岡正剛　『日本という方法　おもかげ・うつろいの文化』　NHKブックス
[5]　松岡正剛　『17歳のための　世界と日本の見方』　春秋社
[6]　国木田独歩『武蔵野』　新潮文庫
[7]　色川大吉　『新編・明治精神史』　筑摩書房
[8]　鈴木理生　『江戸の川・東京の川』井上書院
[9]　松浦　玲　『新選組』　岩波新書855
[10]　宮澤賢治　『宮澤賢治全集』　筑摩書房
[11]　島崎藤村　『夜明け前』　新潮文庫

■参考文献

中島利一郎　『武蔵野の地名』　新人物往来社
その他、折に触れ紹介する。また授業中に資料(プリント)を配布する。

■参考URL

http://news.searchina.ne.jp/topic/277.html

■評価方法

評価は、期末試験(100点満点)および出席調査(持ち点)を合計する。ただし双方の合計点の最高は100点までとする。

■評価基準

相対評価
試験答案については:
1.日本文化生成について知識と理解を得たか。
2.文化論について識見を得たか。
3.十分な表現力と説明能力を得たか。
以上の三点を中心に評価する。

■事前履修科目等

在学中に「中国経済論」「近現代史：世界と日本」「歴史と文化」「多摩学入門Ⅰ」「多摩学入門Ⅱ」等を併せて履修すると参考になると思います。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

学生としてのマナー(遅刻をしない、私語をしない、飲食をしない、携帯・スマートフォンを使わない)を実行しているか否かを平常点として見る。なお本講義では「板書を手で書きとめつつ、同時に聴いたことをまとめる」ことがプレゼンテーション能力にも関わる重要な知的トレーニングであると考えるので、たとえ検索目的であれ、授業中のパソコン使用は認めない。

科目名　ビジネスコミュニケーション入門I（Introduction to Business Communication I）

サブタイトル

担当教員　出原　至道、中村　有一、島田　由美子

■講義目的

本講義は、さまざまなデータや情報、意見を正確に読み取る能力を身につけることを目的とする。その過程で、社会で必須となるネットワークサービスについて、その利用スキルを学ぶとともに、ネットワークサービスのリテラシーを身につけることも目的とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

・インターネット、新聞、図書、論文などの特徴を理解し、使い分けられる。
・他者の意見を正確に読み取ることができる。
・データを加工して必要な情報が取り出せる。
・基本的なネットワークサービスの仕組みと利用方法・利用上の注意点を理解し、使いこなせる。
・既存ネットワークサービスを利用した効率的なグループ作業の手法を理解し、実践できる。
・既存ネットワークサービスを利用した意見集約の手法を理解し、実践できる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無（予定）

■講義の概要

<第1講>
概要：ネットワークサービス利用の基礎
事前学習しておくべき用語やポイント[無線LAN]
詳細：ネットワークサービス利用の基礎を学ぶ。大学アカウントを配布する。無線LAN接続を行う。
<第2講>
概要：電子メール
事前学習しておくべき用語やポイント[電子メール、添付、CC,BCC]
詳細：電子メールの送受信を行う。
<第3講>
概要： ドキュメント共有・カレンダー管理
事前学習しておくべき用語やポイント[Google Drive]
詳細：ネットワーク上でのドキュメントの共有を行う。また、カレンダー管理を体験する。
<第4講>
概要： 検索
事前学習しておくべき用語やポイント[インターネット検索、情報の信頼性]
詳細：インターネット上で情報検索を行う。また、情報の信頼性について理解する。
<第5講>
概要： 図書検索
事前学習しておくべき用語やポイント[OPAC、NDC]
詳細：インターネット上で図書検索を行い、興味のある図書を借り出す。
<第6講>
概要：中間試験
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：
<第7講>
概要： データベース検索
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：さまざまなオンラインデータベースの検索を行う。新聞記事検索を行い、要約を行う。
<第8～9講>
概要：論説文の読解
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：新聞の社説を題材に、論拠の正確な読み取りを反復して行う。
<第10～12講>
概要：データ処理による情報抽出
事前学習しておくべき用語やポイント[表計算]
詳細：単にデータを眺めているだけでは得られない情報を、簡単なデータ処理によって抽出する。それを論拠として、レポートを組み立てる練習を行う。
<第13～15講>
概要：レポート作成
事前学習しておくべき用語やポイント[レポート作成、Google Drive]
詳細：大学で必要になるレポート作法について、実際にレポートを作成して学ぶ。また、Google Drive を利用した共同作業を行い、共同レポートを作成する。

■教科書

■指定図書

■参考文献

■参考URL

http://discovery.tama.ac.jp/

■評価方法

原則として80%以上の出席を前提として、平常点（40%）、中間テスト（20%）、最終レポート（40%）により評価する。ただし、平常点が著しく低いものは、最終レポートの成績によらず、不可とする。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義で手を動かすことが重要な科目であり、欠席については本人の責の有無を問わない。すべて出席することが前提であり、不測の事態を迎えてもなお欠席を20%以下にすることを求める。
図書検索とデータベース検索については、メディア＆インフォメーションセンターとの調整により、実施日程が変更になる可能性がある。

科 目 名　ビジネスコミュニケーション入門II（Introduction to Business Communication II）

サブタイトル

担当教員　今泉　忠、彩藤　ひろみ、豊田　裕貴、樋口　裕一、久恒　啓一

■講義目的

ビジネスでは考えを相手に上手く伝えなければならないことが多い。本講義では、「伝達力」に特化し、スキルアップを目的とする。

具体的には、「文章コミュニケーション力」「図解コミュニケーション力」「データ活用コミュニケーション」「シナリオ作成力」「ビジネスストーリー構築力」を、講義と演習を通じて学習する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

本講義では、伝達力に関する講義に加え、演習を積極的に取り入れ、単なる座学ではない学びを行う。今の段階での伝達力と伸ばすべきスキルの確認を行う。

その上で、最低限、自分の意見を伝達できるようになることが到達目標となる。

■講義形態

講義＋講義内演習：学外学習無

■講義の概要

<第1講> オリエンテーション：ビジネスコミュニーケーション（伝達力）の全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション

※以下、第2講から第14講に共通する〈予習、復習のポイント〉

本講義の最も重要なポイントは、解説されるスキルや演習を通じて、各自が伝達力を高めることにある。したがって、予習よりはむしろ復習が重要であり、知識の応用の仕方を考えることに力点が置かれる。

<第2、3講>ビジネスストーリー入門（豊田）

<第4、5講>シナリオ入門（彩藤）

<第6、7講>文章コミュニケーション入門（樋口）

<第8、9講>図解コミュニケーション入門（久恒）

<第10、11講>データー活用ミュニケーション入門（今泉）

<第12−14講>ビジネスコミュニケーション実践

<第15講>全体のまとめ

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

「講義への出席（前提条件）」とし、「講義内課題および期末課題」により評価する（合否は、出席と課題の提出状況で、評価は課題の取り組みで評価する）。

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・受講希望者は、第一回目の講義に出席し、オリエンテーションを受けることを強く推奨する。

・全回出席を前提とする（何回まで休んでも良いかというような愚問をしないこと）。

・伝達力ということで、実際に課題に取り組むことが多く、途中からの出席では理解できなかったり、演習に参加できないということがあるため、遅刻をしないこと。

科目名　ビジネス数学基礎（Practical Mathematics）

サブタイトル

担当教員　大森　拓哉、山本　義郎、甫喜本　司、村上　敏也、数学検定協会

■講義目的

経営情報学部においては、複合領域での知識や技術の修得が必要となる。このような複合領域を対象とする分野で必要になるデータを扱う数学的手法の基礎について、演習と講義により身につけることが本講義の目的である。この講義は必修科目である。演習の積み重ねを通して技術が身に付く構成になっているので、欠席しないこと。
本講義では、課題を解決するためにどのようなデータの取り扱いをするとよいか、中学から高校1年程度の数学を基点として、問題解決方法の理解とそれを応用した問題解決演習を行い、産業社会において必要な数理技能の基礎を完全習得する。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、ビジネスICT

■到達目標

経営情報学部で学ぶ上での最低限の数学の能力が身についているか。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習なし

■講義の概要

<第1講>
概要：「把握力」
事前学習しておくべき用語やポイント[表、グラフ、相関関係]
詳細：物事の状況、相関関係を見抜く力を養う。表やグラフから得られるデータから必要な情報を見抜き、把握できれば、状況分析や戦略見直しを高い精度で行うことができる。実社会における問題演習を通して理解を深める。
<第2講>
概要：「分析力」
事前学習しておくべき用語やポイント[データの加工、データの表現]
詳細：情報の規則性、特徴、変化を見抜く力を養う。データは加工しなければただの数字の羅列にすぎない。さまざまな手法を駆使してデータに的確な加工を施すことで、初めて有益な情報を得ることができるものである。実社会における問題演習を通して理解を深める。
<第3講>
概要：「選択力」
事前学習しておくべき用語やポイント[意思決定、選択]
詳細：いくつかの事象から最適な1つを選択する力を養う。選択をする上での基準を的確に設定し、複数の選択肢を根拠に基づいて比較することで、最適な選択肢を選び取ることができる。実社会における問題演習を通して理解を深める。
<第4講>
概要：「予測力」
事前学習しておくべき用語やポイント[データによる予測、売り上げ予測、将来計画]
詳細：さまざまなデータを基に変化を予測する力を養う。
未来の予測を立てることで、より確実性の高いビジネスを行うことができる。予測どおりに行えなかった場合のことも想定できていれば、損害を最小限に抑えることも可能となる。実社会における問題演習を通して理解を深める。
<第5講>
概要：「表現力」
事前学習しておくべき用語やポイント[グラフや表による表現]
詳細：情報を分かりやすく正確に伝える力を養う。いかに優れたデータを得ても、それを他人に伝えることができなければ意味はない。情報を正確な図やグラフで表すことで、プレゼンテーションの説得力も飛躍的に向上する。実社会における問題演習を通して理解を深める。
<第6講>
概要：まとめ1
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：これまで学習した5つの力について様々な問題演習を通じて理解を促す。
<第7講>
概要：まとめ2
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：これまで学習した5つの力について様々な問題演習を通じて理解を促す。
<第8講>
概要：中間テスト
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：これまでの学習内容についての確認テストを行う。70点以上が合格基準である。日本数学検定協会ビジネス数学検定に準拠する。
<第9講>
概要：「把握力」を養うグループワークとプレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：「把握力」について、グループワークによる実習とプレゼンテーションにより理解を深める。
<第10講>
概要：「分析力」を養うグループワークとプレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：「分析力」について、グループワークによる実習とプレゼンテーションにより理解を深める。
<第11講>
概要：「選択力」を養うグループワークとプレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：「選択力」について、グループワークによる実習とプレゼンテーションにより理解を深める。
<第12講>
概要：「予測力」を養うグループワークとプレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：「予測力」について、グループワークによる実習とプレゼンテーションにより理解を深める。
<第13講>
概要：「表現力」を養うグループワークとプレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：「表現力」について、グループワークによる実習とプレゼンテーションにより理解を深める。
<第14講>
概要：総合課題1
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：これまで学習した5つの力をもとに、総合的な課題についてグループワークを行い、プレゼンテーションを行う。
<第15講>
概要：総合課題2
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：これまで学習した5つの力をもとに、総合的な課題についてグループワークを行い、プレゼンテーションを行う。

■教科書

講義においてプリントを配布する。

■指定図書

中学・高校の数学の教科書
『社会科学系の数学入門』若尾良男、水谷昌義共著　ムイスリ出版
『高校数学がまるごとわかる』　間地秀三著　ベレ出版
『文系数学超入門』　大川隆夫他著　学術図書出版社
『経済学と数学がイッキにわかる』　石川秀樹著　学習研究社
『計算力が身に付く数学基礎』　佐野公朗著　学術図書出版社
『まんがDE入門経済数学』　西村和雄著　日本評論社

■参考文献

■参考URL

■評価方法

成績評価は、80%以上の出席を単位取得の条件とし、その上で試験（90%）、平常点（10%）により評価する。
注)遅刻・早退は欠席扱いとする。電車の遅延や病欠などの際には、遅延証明書・診断書を提出すること。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

クラスは自分が割り当てられたクラスを確認の上、そのクラスで履修すること。学期途中でクラス替えがあるので注意すること。

科目名 ビジネススキル基礎Ⅰ(Business Skills Basic Ⅰ)

サブタイトル 交渉術

担当教員 井上　良弘

■講義目的

国際的に通用する真の意味での「交渉力」強化の必要性が増大しています。にもかかわらず、日本ではこの研究が遅れています。実利より精神の高尚さを重んじる「武士は食わねど高楊枝」的な風土や、土農工商以来の「商売」に対する蔑視感情があるのかもしれません。経済のグローバル化に伴ってその必要性が高まっています。また、日常を楽しく生きるうえでも、問題解決力や課題達成力としての交渉術は必要なのです。

（授業内容）

（1）VTRを見たり、学生同士で実際に交渉したりしながら学習します。

（2）交渉のプロセスを8つの要素に分解して理解します。

1)ゴール設定、2)ニーズ創出、3)価値ポジショニング、4)期待値調整、5)駆け引き、6)合意形成、7)自己演出、8)人脈形成。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネスマネジメント、社会人力育成、グローバルビジネス

■到達目標

「相手を出し抜く技としての交渉術」というネガティブなものではなく、自分方と相手方の双方が満足できる着地点を見出し、問題を解決する力としての交渉ができるようになる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習なし

■講義の概要

<第1講>
概要： オリエンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[交渉]
詳細：授業の進め方や評価の仕方、ボイスの状況について解説する。
<第2講>
概要： 社会人にとって必要なスキルの全体像について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[　社会人基礎力]
詳細：社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」について理解する。
<第3講>
概要：交渉力について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[交渉　ニーズ]
詳細：「交渉力の必要性」と「交渉の基本概念」について理解する。
<第4講>
概要：ケース研究　Ⅰ　「モスキート」交渉の実践。
事前学習しておくべき用語やポイント[シナリオ　ゴール]
詳細：ケース研究（1）「モスキートの販売」の交渉を実践して、交渉力の8つの構成要素の「①1ゴール設定」「②ニーズ創出」について理解する。
<第5講>
概要：質問話法。
事前学習しておくべき用語やポイント[質問]
詳細：状況質問・問題質問・解決質問を、限定質問と拡大質問で作成できるようになる。
<第6講>
概要： ケース研究　Ⅱの(1)ショッピングモールの状況把握。
事前学習しておくべき用語やポイント[状況把握]
詳細：ケース研究Ⅱの(1)「ショッピングモール」の交渉を通して、状況質問・問題質問によって得られた現状を整理することができるようになる。
<第7講>
概要： ケース研究　Ⅱの(2)「ショッピングモールのニーズ把握。
事前学習しておくべき用語やポイント[潜在ニーズ　顕在ニーズ]
詳細：ケース研究Ⅱの(2)「ショッピングモール」の交渉を通して、問題質問・解決質問によって得られた潜在ニーズと顕在ニーズを整理することができるようになる。
<第8講>
概要：ケース研究　Ⅱの(3)「ショッピングモールへの提案。
事前学習しておくべき用語やポイント[提案書]
詳細：ケース研究Ⅱの(3)「ショッピングモールへの提案」を通して、ニーズに対応した提案書の書き方の基本を理解する
<第9講>
概要：交渉力の8つの構成要素。
事前学習しておくべき用語やポイント[合意形成]
詳細：交渉力の8つの構成要素の「①1ゴール設定」「②ニーズ創出」「③価値ポジショニング」「④期待値調整」「⑤駆け引き」「⑥合意形成」について理解する。
<第10講>
概要：ケース研究　Ⅲの(1)「マンション最後の1戸」の現状把握。
事前学習しておくべき用語やポイント[状況質問　問題質問]
詳細：ケース研究Ⅲの(1)の交渉を通して得られた情報を提案書に整理できるようになる。
<第11講>
概要：ケース研究　Ⅲの(2)「マンション最後の1戸」のニーズ把握。
事前学習しておくべき用語やポイント[潜在ニーズ　顕在ニーズ]
詳細：ケース研究Ⅲの(2)を通して、問題質問・解決質問によって得られたニーズを提案書に整理できるようになる。
<第12講>
概要： ケース研究　Ⅲの(3)「マンション最後の1戸」の提案。
事前学習しておくべき用語やポイント[提案書の3要素]
詳細：ケース研究Ⅲの(3)を通して、交渉力の8つの構成要素の「①ゴール設定」「②ニーズ創出」「③価値ポジショニング」「④期待値調整」「⑤駆け引き」「⑥合意形成」「⑦)自己演出」「⑧人脈形成」について理解する。
<第13講>
概要：「交渉の体験」の作成。
事前学習しておくべき用語やポイント[交渉8つの要素]
詳細：授業で理解した交渉と今までの交渉体験を照らし合わせて、交渉における留意点を再整理する。
<第14講>
概要：「交渉の体験」の発表会・提出。
事前学習しておくべき用語やポイント[ニーズ　Win.Win]
詳細：自分の発表や他人の発表を聞き、交渉を味わう。
交渉のイメージや8つの要素、状況質問・問題質問、限定質問・拡大質問などを復習する。
<第15講>
概要： 試験。
事前学習しておくべき用語やポイント[交渉　質問　ニーズ　提案]
詳細：交渉のイメージや8つの要素、状況質問・問題質問、限定質問・拡大質問などをおさらいし、今後の「交渉」に備える。

■教科書

テキストを配布する。

■指定図書

なし。

■参考文献

ロジャー・フィッシャー　ウィリアム・ユーリー　『ハーバード流　交渉術』
三笠書房・知的生きかた文庫

■参考URL

■評価方法

(1)作成物の品質（40%）　(2)出席（30%）　(3)テスト（30%）

■評価基準

相対評価
　評価基準を踏まえて総合的に相対評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

(1)積極的参加　(2)配布する「名札」を机の上に置く。

科目名　ビジネススキル基礎II（Business Skills Basic II）

サブタイトル　問題解決の思考技術

担当教員　井上　良弘

■講義目的

私たちはいろいろな問題に直面し、それを解決しながら生きている。問題を認識し、原因を見つけ、対策案を考える。いくつかある案の中から1つを選ぶ意思決定をする。それを何気なくやっている。失敗することも多い。それを合理的にやる方法はないのだろうか。失敗をできるだけ防ぐ方法はないのだろうか。実は、ある。それをマスターして、快適な人生にしよう。
VTRを見たり、モデル事例を解いたりしながら学習します。
（例）
1)「今、私がやらなければならないことは何だろうか」
2)「マイカーを購入しようとしている。最適な車種は何だろうか」
3)「同じような生活をしているのにA君は、いつもいい成績をとる。どうしてだろうか」
4)「就職するにあたって、私はどういう会社を選択したらいいのだろうか」
5)「好きな人を射とめたい。どうしたらいいだろうか」

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネスマネジメント、社会人力育成、グローバルビジネス

■到達目標

自分の問題の状況分析や問題分析、決定分析、リスク分析が、ワークシートを活用して効率的にできるようになる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習なし

■講義の概要

<第1講>
概要：オリエンテーション。問題解決と意思決定。
事前学習しておくべき用語やポイント[問題、課題]
詳細：授業の進め方や評価の仕方、ポイスの状況について解説する。
<第2講>
概要： 社会人にとって必要なスキルの全体像について解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[　社会人基礎力]
詳細：社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」について理解する。
<第3講>
概要：決定分析の解説。
事前学習しておくべき用語やポイント[決定基準]
詳細：ビデオの事例を見ながら決定分析のワークシートの作成の仕方を覚える。
<第4講>
概要：決定分析の研究。
事前学習しておくべき用語やポイント[Must Want]
詳細：ケーススタディ「志望校の決定」の自分の作成物とサンプルを味わいながら、決定分析ができるようになる。
<第5講>
概要：状況分析の解説。
事前学習しておくべき用語やポイント[問題　課題]
詳細：ビデオの事例を見ながら状況分析のワークシートの作成の仕方を覚える。
<第6講>
概要：状況分析の研究。
事前学習しておくべき用語やポイント[関心事　事実の列挙　課題]
詳細：ケーススタディ「学生生活の重要課題」の自分の作成物とサンプルを味わいながら、状況分析ができるようになる。
<第7講>
概要：問題分析の解説。
事前学習しておくべき用語やポイント[原因　恒久対策]
詳細：ビデオの事例を見ながら問題分析のワークシートの作成の仕方を覚える。。
<第8講>
概要：問題分析の研究。
事前学習しておくべき用語やポイント[IS ISNOT 区別点]
詳細： ケーススタディ「白い航跡」の自分の作成物とサンプルを味わいながら、問題分析ができるようになる。
<第9講>
概要：リスク分析の解説。
事前学習しておくべき用語やポイント[予防対策]
詳細：事例「富士山登山」や「ビジネスコンテスト」を見ながらリスク分析のワークシートの作成の仕方を覚える。。
<第10講>
概要：リスク分析の研究。
事前学習しておくべき用語やポイント[リスク　発生時用対策]
詳細：「海外旅行」や「企業訪問」をするときのリスク分析を自分でやってみて、できるようになる。
<第11講>
概要：状況分析・総合研究。
事前学習しておくべき用語やポイント[分析課題　行動課題]
詳細：ケーススタディ「樹庵の重要課題」の自分の作成物とサンプルを味わいながら、状況分析ができるようになる。状況分析と他の3つの分析の関連を理解する。
<第12講>
概要：そのほかの問題解決法。
事前学習しておくべき用語やポイント[機会　脅威]
詳細：SWOT分析やロジックツリーなどのやり方を理解し、授業で取り上げた状況分析・問題分析・決定分析・リスク分析を補完する。
<第13講>
概要：実務適用。
事前学習しておくべき用語やポイント[テーマ　関心事　分離　ステートメント]
詳細：「学生生活を有意義に過ごすための重要課題は何か」をテーマに、学生本人の立場で状況分析をする。
<第14講>
概要：実務適用で作成した「学生生活を有意義に過ごすための重要課題は何か」の発表。
事前学習しておくべき用語やポイント[改善型問題　設定型問題　ステートメントの書き方]
詳細を発表を通して他の学生の事例も味わう。状況分析・問題分析・決定分析・リスク分析の総復習。
<第15講>
概要： 試験。
事前学習しておくべき用語やポイント[今まで学習したこと]
詳細：試験を振り返り、4つの分析のプロセスとワークシートの作成方法をおさらいし、今後の「問解決」に備える。

■教科書

テキストを配布する。

■指定図書

『問題解決思考』　今井繁之著　あさ出版

■参考文献

■参考URL

■評価方法

(1)作成物の品質（40%）　(2)出席（30%）　(3)テスト（30%）

■評価基準

相対評価
　評価基準を踏まえて総合的に相対評価する。

■事前履修科目等

なし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

(1)積極的参加　(2)配布する「名札」を机の上に置く。

科 目 名　ビジネス戦略入門（Business Strategy Principle）

サブタイトル

担当教員　志賀　敏宏

■講義目的

産業社会におけるビジネス創造、ビジネス活動の実際を、身近なものとしてイメージできるようになること。合わせて、ビジネス創造の基本である、需要、競争、収益の意義とその方法論の原則・基礎を学ぶ。

ビジネス創造の背景にある企業家の「志」を知り、ビジネス創造を興味深く感じるようになること。

社会人基礎力のさらに基礎ともなる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

①ビジネスにおけるバリューチェーン（活動の価値連鎖）を理解し、提示されたビジネスに関してバリューチェーンの概要を描けるようになる。
②ビジネス創造の三つの条件が(i)需要確保、(ii)競争優位、(iii)収益確保であることを理解し、その意義とビジネスにおける実態を理解する。
③需要確保に関する、パラダイム（土俵）転換・創造と顧客満足（顧客第一主義）及び顧客創造の実態を理解し、その具体的方法論について思考体験を持つ。
④収益確保に関する、損益分岐点、生産性、ビジネスモデル（仕組・方法）の実態を理解し、その具体的方法論について思考体験を持つ。

なお、競争優位については、主としてビジネス戦略Ⅰの課題とする。

■講義形態

・講義 ＋ GD・GW・PR
・その他(レポート作成)：学外学習無

■講義の概要

※以下、演習と記すのは、その回の講義全体が演習であることでなく、直前の部分が演習、受講生の能動的活動であることを示す。

<第1講>
概要：ビジネス活動の概要を知る－イントロダクション
事前学習しておくべき用語やポイント[バリューチェーン]
詳細：産業社会におけるビジネス活動を記述・分析するための、バリューチェーン=ビジネス活動の価値連鎖の考え方を説明する。続いて製造業（自動車、エレクトロニクス等）、小売業（スーパー、コンビニエンスストア、ショッピングモール等）、サービス業（旅客輸送、宅配便、警備保障等）に関して、受講生がバリューチェーンを描く演習（個人/GW・PR）を行う。

<第2講>
概要：ビジネス創造の三条件－需要、競争、収益を考える
事前学習しておくべき用語やポイント[損益分岐点、ビジネスモデル]
詳細：ドラッカーは「企業の目的は顧客の創造である」1) とした。すなわち、需要確保（創造が理想）がビジネスの究極要件である。加えて、(ii)競争優位、(iii)収益確保がビジネス創造の三条件であることを理解する。逆にそれらが成立しなければ、ビジネスはどうなるかを考える（演習）。続いて、需要確保のための論点－パラダイム転換・創造と顧客満足・顧客創造、及び収益確保のための論点－損益分岐点、生産性、ビジネスモデルを学ぶ。さらに先回バリューチェーンを描いたビジネスの需要と収益を考える（演習）。

<第3講>
概要：ヤマト運輸の宅急便事例を学ぶ（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[宅急便 業務概要、小倉昌男『経営学』2)の指定箇所]
詳細：ヤマト運輸の宅急便におけるビジネス創造の経緯を学ぶ。宅急便開始前の状況、ビジネス創造にあたっての小倉の「志」、宅急便開発の実務、宅急便の展開ビジネス（サービス多様化・進化）を時系列に把握する。合わせて、ビジネス創造の三条件に関する論点抽出とその内容検討を行う（演習）。

<第4講>
概要：ヤマト運輸の宅急便事例を学ぶ（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[ハプアンドスポーク、同前2)の指定箇所]
詳細：第3講の続き。

<第5講>、
概要：ビジネス創造の三条件を考える－宅急便事例検討（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客満足（顧客第一主義）、全員経営]
詳細：宅急便における、継続的に三条件を成立せしめる工夫とビジネス創造全体における成功要因のポイント、そこから得られるビジネス創造の要点についてグループワークを行う（演習）。

<第6講>
概要：ビジネス創造の三条件を考える－宅急便事例検討（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[サービス多様化、事業進化・深化]
詳細：第5講の続き。

<第7講>
概要：ビジネス創造の三条件の検討結果発表（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの方法論]
詳細：5, 6講のグループワークの結果のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションのために、要点の抽出、要点の順序づけ、読み上げでない発表方法、想定される質疑への対応準備等を身につけることも学ぶ。

<第8講>
概要：ビジネス創造の三条件の検討結果発表（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの聞き方の方法論]
詳細：5, 6講のグループワークの結果のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションを有効に聞くために、問題意識の持ち方、因果の理解、意義の理解、質問方法、表現方法から教訓を得ることも学ぶ。

<第9講>
概要：セコムのセキュリティ事業を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[事業環境、飯田亮『世界の･･･』3)の指定箇所]
詳細：セコムにおけるセキュリティ事業におけるビジネス創造の経緯を学ぶ。ビジネス創造にあたっての飯田の「志」、キュセキュリティ事業企図の経緯、セキュリティ事業開始、セキュリティ事業の展開を時系列に把握する。合わせて、ビジネス創造の三条件に関する論点抽出とその内容検討を行う（演習）。

<第10講>
概要：ビジネス創造の三条件を考える－セキュリティ事業の事例検討
事前学習しておくべき用語やポイント[機械警備]
詳細：セキュリティ事業における、三条件を成立せしめる工夫とビジネス創造全体での成功要因とその継続的成長・展開のポイント、そこから得られるビジネス創造の要点について検討と発表を行う（演習）。

<第11講>
概要：徳島県 上勝町のいろどり（葉っぱ）ビジネスを学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[事業機会]
詳細：徳島県 上勝町におけるいろどりビジネス開発の経緯を学ぶ。ビジネス創造にあたってのリーダー横石の「志」、いろどりビジネス企図の経緯、ビジネス開始、ビジネス展開を時系列に把握する。合わせて、ビジネス創造の三条件に関する論点抽出とその内容検討を行う（演習）。

<第12講>
概要： ビジネス創造の三条件を考える－いろどりビジネスの事例検討
事前学習しておくべき用語やポイント[POS: Point of Sales]
詳細：いろどり事業における、三条件を成立せしめる工夫と事業開発全体の成功要因とその継続的成長・展開のポイント、そこから得られるビジネス創造の要点について検討と発表を行う（演習）。

<第13講>
概要：AppleのiPod事業開発を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[ユーザーエクスペリエンス]
詳細：AppleにおけるiPod開発の経緯を学ぶ。iPod企図の経緯、ハードウエア製品化、iTunes Music Storeの展開等を時系列に把握する。合わせて、ビジネス創造の三条件に関する論点抽出とその内容検討を行う（演習）。

<第14講>
概要：ビジネス創造の三条件を考える－iPodの事例検討
事前学習しておくべき用語やポイント[ネットワーク外部性]
詳細：iPod事業における、三条件を成立せしめる工夫と事業開発全体の成功要因とその継続的成長・展開のポイント、そこから得られるビジネス創造の要点について検討と発表を行う（演習）。

<第15講>
概要： まとめと今後の学びの羅針盤
事前学習しておくべき用語やポイント
[本講義全体から理解しにくかった点、深掘りしたい点を抽出しておく]
詳細：本講全体の要点とその関係のまとめを講義する。また、残った疑問に関する質疑を行い、受講生の疑問を解消する。合わせて、本講義での学びを深めるための関連科目や参考書を紹介する。

さらに、ビジネス戦略論Ⅰ、Ⅱの概要を説明し、今後の学びへの誘いとする。

■教科書

2)小倉昌男（1999）『経営学』, 日経BP社
3)飯田亮（2007）『世界のどこにもない会社を創る』, 草思社
※教科書を利用せずに事前学習はできませんので、必ず教科書を利用可能として受講すること。

■指定図書

1)P･F･ドラッカー（2008）『マネジメント 上/中/下』, ダイヤモンド社
横石知二（2007）『そうだ、葉っぱを売ろう！』, ソフトバンク クリエイティブ

■参考文献

高杉 良（2000）『挑戦つきることなし 小説ヤマト運輸』, 講談社文庫
小倉 昌男（2007）『［新装版］「なんでだろう」から仕事は始まる!』, PHP研究所
スティーブン・レヴィ(2007)『iPodは何を変えたのか?』, ソフトバンク クリエイティブ

■参考URL

http://www.kuronekoyamato.co.jp/company/30th/index.html

■評価方法

通常点（授業中の積極的発言、演習への参画と結果発表等）:40点
+期末試験:60点=計100点。詳細は第一、二回目講義にて説明。
［通常点、期末試験の評価基準は次項参照のこと］
①受講者数等諸状況によっては、期末試験を期末レポートまたは複数回のミニレポートにて代替する可能性あり。その場合は、学期半ばまでにそれを授業中に伝達する。
②〆切を過ぎたレポート未提出者に対して、督促せず得点を0とすることがあるので、十分留意すること。期末レポートの〆切を守れない場合は、極力事前にメールにて連絡すること。
③他の受講生の多大な迷惑になると担当教員が判断した場合は、それのみの理由で、以降の受講を禁止し、単位不可とすることがあります。第一、二回目講義で説明する「受講に際しての約束」よく聞いて、それを守る意思のある者のみ受講してください。

■評価基準

絶対評価
　評価A+:90点以上、評価A:80点以上、評価B:70点以上、評価C:60点以上、評価F：60点未満
【通常点の評価基準】
①積極的発言
授業内容に関する不明点の質問等、特段に高度な内容に限らず評価します。ただし、自分なりの回答を全く考えようとしていない場合は評価できません。もちろん、ユニークなアイデア、自らの情報収集に基づく授業内容を補足する有効な情報提供や意見、他の受講生に対するアドバイス等を高く評価します。
②演習への参画と発表
目的意識を持って取り組んでいること。演習がGWの場合は、適宜リーダーシップを持ってグループワークに参加していること。演習結果の発表において、目的意識や検討結果を積極的に発表すること。
【期末テスト、期末レポートの評価基準】
①期末試験
講義内容の基本的知識や理論を理解していること。さらにそれを応用できることを評価します。知識や理論がどんな事例のどういう経緯・判断と結びついているか等の思考を特に重視します。
②レポート
期末試験の評価基準に加え、自主的な情報収集・学習状況、日本語の文章力（語彙の選択、分かり易い構文、全体の論理構成、項番・見出・段落分け等読みやすさへの配慮他）を評価します。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

欠席した場合には、友人から必要な情報・資料収集を行うこと。どうしてもそれが困難で必要と判断した場合のみ担当教員に相談のこと（原則メールにて）。
※教科書を利用せずに事前学習はできませんので、必ず教科書を利用可能として受講すること（再掲）。

科 目 名　ビジネス戦略Ⅰ(Business Strategy Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　志賀　敏宏

■講義目的

産業社会におけるビジネス戦略の実際を知り、それを経営戦略理論及びマネジメント理論で分析・理解し、将来直面するビジネス課題につき、上記理論に基づき解決できる人材となる道を歩み出すこと。

社会に出て5年後くらいには、事業・企業を成立させるために、企業の内外部環境に対していかに行動すべきかの作戦計画が立てられるようになることを目指す。すなわち、受講生のキャリア開発に直結する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

産業社会における実際のビジネス、最前線事例を観察して、そこに存する経営戦略、マネジメント上の課題を抽出し、妥当な選択肢の候補を複数提案し、その提案理由を理論に基づき説明できること。

実際のビジネスにおける企業行動につき、その経営戦略、マネジメント上の判断につき、理論的に妥当性を評価し、その理由を述べることができるようになるための、（自己）学習を本格化できること。

加えて、ビジネス戦略、ビジネス創造の背景にある企業家の「志」に敏感になること。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

第1～11講は、主に経営戦略理論、第12、13講は、主にマネジメント理論に関わる内容を取り扱う。

※以下、演習と記すのは、その回の講義全体が演習であることでなく、直前の部分が演習、受講生の能動的活動であることを示す。

<第1講>
概要：需要創造（基礎）
事前学習しておくべき用語やポイント[「ビジネス戦略入門」での検討事例ごとの“需要”の内容と“確保方法”の復習]
詳細：事業成立の根本要件は需要の確保である。そのために、顧客のニーズを捉える、あるいは、需要を創造するための基本的な理論を学ぶ。ニーズは複数要素の束であること、誰が顧客であるかの認識が重要であること等、理論の出発点を学ぶ。
ニーズが束であることを説明しうる事例、需要を、顕在するニーズを超えた高次の機能で理解することに意味がある事例等を受講生自ら発見することを求める（演習）。

<第2講>
概要：需要創造（応用）
事前学習しておくべき用語やポイント[ターゲットのセグメンテーション。以下、原則として各回とも教科書1）の予習箇所を指示する]
詳細：顧客ニーズは、顧客ごとに多様であり、経時的に大きく変化しうること、それに対する対応の選択肢は複数あること、その選択が戦略意図、経営判断となること等を学ぶ。これら顧客ニーズの特徴を具備する事例を受講生自ら発見することを求める（演習）。

<第3講>
概要：需要創造（発展と脳路）
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客ニーズを読み誤った事例探し]
詳細：前二講をまとめて、顧客ニーズの捉え方、需要創造に関する方法論を学び、市場の不確実性に応じて選択可能な方法論を考える。関連事例を探る（演習）。合わせて、顧客・市場のニーズの見誤りの類型とその結果、それを避けるための留意点を学ぶ。現存する製品・サービス・事業について、顕在前にいかにしてその需要の存在を洞察したのかを想像、推測する（演習）。

<第4講>
概要：競争優位（基礎）
事前学習しておくべき用語やポイント[競争優位、差別化]
詳細：競争優位を考える出発点として、競争相手が誰かを考える必要があることから知る。競争相手には、顕在する相手、潜在する相手、また、企業家が選択する側面があることも理解する。関連知識として、ポーターのファイブフォース・モデルも紹介する。身近な商品、現存する商品について、多面的に競争相手を想像、想定する（演習）。

<第5講>
概要：競争優位（応用）
事前学習しておくべき用語やポイント[四つの差別化]
詳細：差別化の方法とその武器を学ぶ。製品、価格、サービス、ブランド差別化とその方法、武器、優劣について学ぶ。また、そのサイクル等時系列においていかに考えるべきかを検討する。差別化のための武器、資源投入についての知見も修得する。身近な商品、現存する商品について、差別化の方法・武器を想像、想定する（演習）。

<第6講>
概要：競争優位（発展と脳路）
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスシステム]
詳細：ビジネスシステムによる差別化の実現を学ぶ。加えて、差別化に対する競争相手の反撃に対する対応策について考える。ビジネス戦略入門で検討した宅急便等について、そのビジネスシステム構築の意義を考える（演習）。さらに、競争に加重に傾倒することに内在する危険－顧客満足軽視や短期収益の過剰評価についても触れる。

<第7講>収益確保（基礎）
概要：収益確保を考える際の基本となる損益分岐点分析と学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[損益分岐点]
詳細：収益確保に関し、極めて基本的な概念である損益分岐点、固定費、変動費について、他者に説明できるレベルまで理解・納得し、実践でそれを応用できるよう修得する。事業事例を想定し、損益分岐点を求め、その分岐点に達する方法を検討する（演習）。なお、様々な投入に関する生産性概念についても理解を醸成する。

<第8講>収益確保（応用）
概要：収益確保と並行して検討すべきビジネスシステムについて学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスシステム]
詳細：企業の内部活動の流れと外部との価値交換の仕組み、すなわち、ビジネスシステムについて、その考え方を修得する。ビジネスに関する役割分担、自ら何をなすべきかの線引きが大切であることを学ぶ。一見、同じ製品・サービスを事業化しているように見えてもビジネスシステムと収益源が全く異なることがあることも学ぶ。ビジネスシステムの図式化を行う（演習）。

<第9講>収益確保（発展と脳路）
概要：ビジネスシステムとの意義
事前学習しておくべき用語やポイント[学習、資源の多重利用可能性]
詳細：ビジネスシステムを明確にすることにより、従業員・経営者の学習内容が定まり、資源の多重利用可能性等が確立されうることを学ぶ。加えて、過去のビジネスモデルへの拘泥が、企業の衰退の要因となり、あるいは再生の足かせとなることを学ぶ。現存するビジネスシステムが規定する学習、資源の多重利用性、生じる可能性のある弊害について想像する（演習）。

<第10講>
概要：　戦略立案に資する手法の学び
事前学習しておくべき用語やポイント[SWOT分析、PPM分析]
詳細：外部環境、内部資源の長短を分析するSWOT(Strength, Weakness, Opportunities, Threats)分析、製品の誕生から衰退に応じた対応を考える製品のライフサイクル戦略、多角化事業に対し妥当な収益期待と投資戦略を立案するPPM(Product Portfolio Management)について学ぶ。身近な製品、例えば、スマートフォンにおいて成長期と成熟期の戦略について検討する（演習）。

<第11講>
概要：戦略立案に資する近時の重要概念
事前学習しておくべき用語やポイント[ネットワーク外部性、製品アーキテクチャー]
詳細：戦略立案のために、特に現在の製品・市場・競争環境において理解し活用することが重要となっている概念として、ネットワーク外部性、標準化、知的財産論、及び製品アーキテクチャーを学ぶ。消費者としての受講生の商品選択等に直結していることを理解し、受講生自身による事例分析を行う（演習）。

<第12講>
概要：　動機づけについて学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[内発的動機づけ]
詳細：組織が機能するための必須の条件である動機づけについて学ぶ。内発的動機づけの理論、動機づけ－衛生理論等を学び、その実態・原因とあるべき姿を考える。加えて、ソニーの土井忠利や東芝の森健一の事例から動機づけの実際を学ぶ。

<第13講>
概要：リーダーシップ について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[リーダーシップ]
詳細：はじめに、リーダーシップの資質、リーダーとしての行動論、メンバーに働きかける行動論、リーダーによる仕組みつくり（管理構造）の理論について理解する。続いて、本田宗一郎、アンドリューグローブ等のリーダーとしての発言・行動を学ぶ。

<第14講>
概要：いくつかの戦略論の特徴、位置づけを学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[可能なら、2）指定図書の第Ⅰ部を予習のこと。図7－5を概ね理解できることを目指す]
詳細：経営戦略論の5類型：戦略計画学派、創発戦略学派、ポジショニング・ビュー、リ

ソース・ベースト・ビュー、ゲーム論的アプローチを学ぶ。ビジネス戦略論の歴史性や多様性を知り、実践をベースとしつつビジネス戦略の理論を学ぶ楽しさや意義を体感できるであろう。
<第15講>
概要：まとめと今後の学びの羅針盤
事前学習しておくべき用語やポイント[本講義全体から理解しにくかった点、深掘りしたい点を抽出]
詳細：本講全体の要点とその関係のまとめを講義する。また、残った疑問に関する質疑を行い、受講生の疑問を解消する。合わせて、ビジネス戦略論入門との繋がりを確認し、本講義での学びを深めるための関連科目や参考書を紹介する。さらに、ビジネス戦略Ⅱの概要を説明し、今後の学びへの誘いとする。

■教科書

1）伊丹 敬之（2012）『経営戦略の論理 第4版』，日本経済新聞出版社
伊丹 敬之他（2012）『ケースブック 経営戦略の論理　全面改訂版』，日本経済新聞出版社
※教科書を利用せずに事前学習はできませんので、必ず教科書を利用可能として受講すること。

■指定図書

2）沼上 幹(2009)『経営戦略の考え方』，日本経済新聞出版社

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

通常点（授業中の積極的発言、演習への参画と結果発表等）:40点
+期末試験:60点=計100点。詳細は第一、二回目講義にて説明。
［通常点、期末試験の評価基準は次項参照のこと］
①受講者数等諸状況によっては、期末試験を期末レポートまたは複数回のミニレポートにて代替する可能性あり。その場合は、学期半ばまでにそれを授業中に伝達する。
②〆切を過ぎたレポート未提出者に対して、督促せず得点を0とすることがあるので、十分留意すること。期末レポートの〆切を守れない場合は、極力事前にメールにて連絡すること。
③他の受講生の多大な迷惑になると担当教員が判断した場合は、それのみの理由で、以降の受講を禁止し、単位不可とすることがあります。第一、二回目講義で説明する「受講に際しての約束」よく聞いて、それを守る意思のある者のみ受講してください。

■評価基準

絶対評価
評価A+:90点以上、評価A:80点以上、評価B:70点以上、評価C:60点以上、評価F：60点未満
【通常点の評価基準】
①積極的発言
授業内容に関する不明点の質問等、特段に高度な内容に限らず評価します。ただし、自分なりの回答を全く考えようとしていない場合は評価できません。もちろん、ユニークなアイデア、自らの情報収集に基づく授業内容を補足する有効な情報提供や意見、他の受講生に対するアドバイス等を高く評価します。
②演習への参画と発表
目的意識を持って取り組んでいること。演習がGWの場合は、適宜リーダーシップを持ってグループワークに参加していること。演習結果の発表において、目的意識や検討結果を積極的に発表すること。
【期末テスト、期末レポートの評価基準】
①期末試験
講義内容の基本的知識や理論を理解していること。さらにそれを応用できることを評価します。知識や理論がどんな事例のどういう経緯・判断と結びついているか等の思考を特に重視します。
②レポート
期末試験の評価基準に加え、自主的な情報収集・学習状況、日本語の文章力（語彙の選択、分かり易い構文、全体の論理構成、項番・見出・段落分け等読みやすさへの配慮他）を評価します。

■事前履修科目等

ビジネス戦略入門（絶対条件ではない、履修していることが望ましい）

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

欠席した場合には、友人から必要な情報・資料収集を行うこと。どうしてもそれが困難で必要と判断した場合のみ担当教員に相談のこと（原則メールにて）。
※教科書を利用せずに事前学習はできませんので、必ず教科書を利用可能として受講すること（再掲）。

科 目 名　ビジネス戦略II（Business Strategy II）

サブタイトル

担当教員　志賀　敏宏

■講義目的

産業社会におけるビジネス戦略に関し、ビジネス戦略Ｉでの個別ビジネス創造に加える議論として、全社における事業構造転換、イノベーション、事業のグローバル展開について、その実態の概要を知り、関連理論の要点を学ぶ

将来、企業・社会における中堅層以上となった場合に、企業・社会の継続発展、存続のために、変化を利用する、変化を起こすことができる人材となるために重要な科目である。すなわち、受講生の中長期的なキャリア開発のために必須の内容となる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

全社の事業構造転換の必要性と実現のための課題、及びその克服の実態を知る。環境変化に適応、あるいは、環境創造に資する製品や事業構造のイノベーションの実態と理論を知る。日本企業のグローバル展開に関する近時の動向の一端を知る。

加えて、事業構造転換、イノベーション、グローバル展開等の困難な変化を主導するリーダーの「志」の気高さを理解すること。

これらについて、事実を引用しながら、自らの言葉で大学入学者に語れるレベルを目指す。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

第1～3講は事業構造転換、第4～8講はポスト産業資本主義とイノベーションの理論と実践、第9～12講は日本における大型イノベーション事例、第13、14講は日本企業のグローバル展開に関わる内容を取り扱う。

※以下、演習と記すのは、その回の講義全体が演習であることでなく、直前の部分が演習、受講生の能動的活動であることを示す。

<第1講>
概要： 事業構造の検討（理論）
事前学習しておくべき用語やポイント[多角化]
詳細：企業が全体として環境変化に適応・超越して生き残り、成長するために必要となる事業構造の構築・転換に関する理論を学ぶ。範囲の経済、リスク分散、選択と集中、PPM、「企業の境界書き換え」等の理論とその意義を理解する。

受講生自ら、多角化、事業構造転換の成功/失敗事例を見い出すことを求める（演習）。

<第2講>
概要：事業構造の検討（事例研究1）
事前学習しておくべき用語やポイント[GE、ジャック・ウェルチ]
詳細：事業構造転換の典型事例として、日本の電機企業（日立、ソニー等）、GE、インテルの多角化や事業構造転換の経緯と意思決定、構造転換に伴う障害とその克服の実態を知る。また、日本における業界を超えた事業構造転換事例として、富士フィルムの事例を学ぶ。

いずれについても、経緯を知り、意思決定とその結果を知るだけでなく、企業家の認識、意思決定、行動等から受講生各々が教訓を得ることを重視する（演習）。

<第3講>
概要：事業構造の検討（事例研究2）
事前学習しておくべき用語やポイント[インテル、戦略転換]
詳細： 第2講の継続。

<第4講>
概要： ポスト産業資本主義を学ぶ（理論）
事前学習しておくべき用語やポイント[（ビジネス・経営における）差異化]
詳細：1960年以降の日本の経済成長と停滞を振り返り、日本が産業資本主義時代からポスト産業資本主義時代に移行していることを知る。加えて、ポスト産業資本主義時代のビジネス活動に求められる活動の原則－差異化のあり方を学ぶ。

なお、産業資本主義国とポスト産業資本主義国おいて、経済、社会に存在する違いを受講生自身が見い出すことを求める（演習）。

<第5講>
概要：ポスト産業資本主義時代に適応した企業を知る
事前学習しておくべき用語やポイント[シリコンバレー]
詳細：グーグル、アップル、その他シリコンバレーにある企業、韓国企業、中国企業、日本企業を比較することにより、ポスト産業資本主義にある環境に適応、環境を創造する企業とそうでない企業の違いを学ぶ。

受講生自身に、「日本企業がポスト産業資本主義に適応するためには、どうした変化が必要か」を発想することを求める（演習）。

<第6講>
概要：イノベーションとは何か（理論とモデル）
事前学習しておくべき用語やポイント[不確実性]
詳細：教科書1）に基づき、イノベーションの意義及びその中核をなすのはいかなるプロセスかを学ぶ。ここでは、担当教員の考え方である二元論に基づくイノベーションモデルを説明する。また、このモデルにおけるプロセスの実行の際に直面する不確実性とその超克について理解を進める。

受講生による興味深いイノベーション事例の抽出及び抽出理由の説明を求める（演習）。

<第7講>
概要： イノベーション事例研究（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[ペニシリン、トランジスタ]
詳細：同前1）に基づき、ペニシリン、電導性ポリマー、トランジスタ、高分子質量測定のイノベーション事例を検討する。第6講で示したイノベーションモデルでの理解・説明の意義を示す。

受講生によるイノベーション事例の本モデル（イノベーションダイヤグラム）を用いた記述を求める（演習）。

<第8講>
概要： イノベーション事例研究（2）とマネジメントへの示唆
事前学習しておくべき用語やポイント[ウォークマン、ポストイット]
詳細：第7講と同様に、ウォークマン、ポストイット、インテルのMPU企業化、CD-R、東芝フラッシュメモリの事例を検討する。

加えて、事例研究から帰納できるマネジメントへの示唆を検討する。

受業生によるイノベーション事例の本モデル（イノベーションダイヤグラム）による記述を求める（演習）。

<第9講>～<第12講>
概要：日本における大型イノベーションから学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[下記事例の概要を把握しておくこと]
詳細：東海道新幹線、VHS-VTR、アリセプト、iモード、アイボ、LINE(開発企業はNHN Japan)等の事例から、ノベーションのプロセス、障害・抵抗やその克服、実行資源調達、成功/失敗要因、成功確率、リーダーシップ、組織マネジメント、経済・社会的意義等を学ぶ。

受講生自ら教訓を抽出し、他者に自分の言葉で、事例も合わせて説明できるようになることを求める（演習）

<第13講>
概要：日本企業におけるグローバル展開（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[海外直接投資]
詳細：グローバル展開の動機、ビジネス要素の国際移動、国のポートフォリオ選択、経営資源の移転と空洞化・摩擦、経営の政治化と為替変動への対応等の論点の存在とその意味を知る。

受講生自ら、論点とその概要を列挙できるようになることを求める（演習）。

<第14講>
概要：日本企業におけるグローバル展開（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[ブラザー工業、コマツ、ダイキン工業]
詳細：トヨタ自動車、ブラザー工業、コマツ、ダイキン工業、セブンイレブン・ジャパン、ヤマト運輸等のグローバル展開を知る。それらの経緯や第13講で学んだ論点での分析行う。

受講生自ら、各論点で分析、説明を試みることを求める（演習）。

<第15講>
概要：まとめと今後の学びの羅針盤
事前学習しておくべき用語やポイント
[本講義全体から理解しにくかった点、深掘りしたい点を抽出しておく]
詳細：本講全体の要点とその関係のまとめを講義する。また、残った疑問に関する質疑を行い、受講生の疑問を解消する。合わせて、ビジネス戦略論入門、ビジネス戦略論Ｉを含めた本講義の体系全体の要点をレビューする。

さらに、大学における今後の学び、加えて、社会で活躍するために必要となる本講義の延長線上にある課題や学びのガイドラインを述べる。

■教科書

なし

■指定図書

1）志賀敏宏（2012）『イノベーションの創発プロセス研究』，文眞堂

岩井克人（2009）『会社はこれからどうなるのか』，平凡社
アンドリュー・S・グローブ（1997）『インテル戦略転換』，七賢出版
伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール 経営学入門 第3版』，日本経済新聞社
※指定図書に関するレポートを単位取得の条件とする可能性あり。

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

通常点（授業中の積極的発言、演習への参画と結果発表等）:40点
＋期末試験:60点=計100点。詳細は第一、二回目講義にて説明。
［通常点、期末試験の評価基準は次項参照のこと］
①受講者数等諸状況によっては、期末試験を期末レポートまたは複数回のミニレポートにて代替する可能性あり。その場合は、学期半ばまでにそれを授業中に伝達する。
②〆切を過ぎたレポート未提出者に対して、督促せず得点を0とすることがあるので、十分留意すること。期末レポートの〆切を守れない場合は、極力事前にメールにて連絡すること。
③他の受講生の多大な迷惑になると担当教員が判断した場合は、それのみの理由で、以降の受講を禁止し、単位不可とすることがあります。第一、二回目講義で説明する「受講に際しての約束」よく聞いて、それを守る意思のある者のみ受講してください。

■評価基準

絶対評価
評価A+:90点以上、評価A:80点以上、評価B:70点以上、評価C:60点以上、評価F：60点未満
【通常点の評価基準】
①積極的発言
授業内容に関する不明点の質問等、特段に高度な内容に限らず評価します。ただし、自分なりの回答を全く考えようとしていない場合は評価できません。もちろん、ユニークなアイデア、自らの情報収集に基づく授業内容を補足する有効な情報提供や意見、他の受講生に対するアドバイス等を高く評価します。
②演習への参画と発表
目的意識を持って取り組んでいること。演習がGWの場合は、適宜リーダーシップを持ってグループワークに参加していること。演習結果の発表において、目的意識や検討結果を積極的に発表すること。
【期末テスト、期末レポートの評価基準】
①期末試験
講義内容の基本的知識や理論を理解していること。さらにそれを応用できることを評価します。知識や理論がどんな事例のどういう経緯・判断と結びついているか等の思考を特に重視します。
②レポート
期末試験の評価基準に加え、自主的な情報収集・学習状況、日本語の文章力（語彙の選択、分かり易い構文、全体の論理構成、項番・見出・段落分け等読みやすさへの配慮他）を評価します。

■事前履修科目等

ビジネス戦略入門、ビジネス戦略Ⅰ（絶対条件ではない、履修していることが望ましい）

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

欠席した場合には、友人から必要な情報・資料収集を行うこと。どうしてもそれが困難で必要と判断した場合のみ担当教員に相談のこと（原則メールにて）。

科目名 ビジネスソフトウェア活用（Business Software）

サブタイトル

担当教員 トランスコスモス

■講義目的

現代社会においてはビジネス・日常の場を問わず、Excel(表計算ソフトウェア)の利用シーンが増加しており、社会人としていまや必要不可欠な知識・スキルとなりつつある。
本科目では、実務に即したデータを使用し、テキストに沿って操作演習を行いながら、Excel2010の操作スキルを習得する。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

1）企業での業務において、実践的に活用できるExcel2010の操作スキルを身につける
（2）MOS（Microsoft Office Specialist） Excel2010スペシャリスト(一般)レベル※ に相当するExcel2010の操作スキルを身につける
※Excel 2010 スペシャリスト（一般）レベル：数式や基本的な関数の作成、セルの書式設定、グラフ作成など、Excelの基本的な操作を理解している

■講義形態

講義+演習：学外学習無

■講義の概要

<第1講>Excel環境の管理
概要：ワークシート内を移動する/ワークシートやブックを印刷する/Backstageを使用して環境をカスタマイズする
事前学習しておくべき用語：名前ボックス、クイックアクセスツールバー、リボン、インポート・エクスポート
詳細：名前やショートカットキーでのワークシート内の移動、部分印刷などのワークシートやブックの印刷、バックステージビューを使ってのコマンド登録やデータのインポート・エクスポート、ブックのプロパティ設定など、Excel環境の管理について学習する
<第2講>セルデータの作成
概要：セルのデータを作成する/オートフィルを適用する/ハイパーリンクを適用する、操作する
事前学習しておくべき用語：貼り付けのオプション、形式を選択して貼り付け、オートフィル、ハイパーリンク
詳細：形式を選択して貼り付けやオートフィルを使ったセルデータのコピー、ハイパーリンクの設定など、セルデータの作成について学習する
<第3講> セルやワークシートの書式設定①
概要：セルの書式を適用する、変更する/セルを結合する、解除する/列や行の見出しを作成する
事前学習しておくべき用語：セルの表示形式、セルの結合・結合解除、ヘッダー・フッター
詳細：セル内のデータの配置やセル結合、セルの表示形式、行列番号やヘッダー・フッターなどのページ設定について学習する
<第4講>セルやワークシートの書式設定②
概要：列や行を表示する、非表示にする/ページ設定のオプションを操作する/セルのスタイルを作成する、適用する
事前学習しておくべき用語：ページ設定、セルのスタイル
詳細：列や行の表示・非表示、セルのスタイルの適用などについて学習する
<第5講> ワークシートやブックの管理
概要：ワークシートを作成する、書式設定する/ウィンドウの表示を操作する/ブックの表示を操作する
事前学習しておくべき用語：作業グループ、シート見出し、ブックの整列、表示モード、ユーザー設定のビュー
詳細：ワークシート名の変更、ワークシートの移動やコピー、作業グループ、ワークシートの分割、ブックの整列や表示モードの切り替えなど、ワークシートやブックの管理について学習する
<第6講>数式や関数の適用①
概要：数式を作成する/優先順位を正しく理解する/数式にセル参照を適用する
事前学習しておくべき用語：演算記号、計算の優先順位、相対参照と絶対参照
詳細：優先順位を理解した数式の作成・修正、数式の相対参照や絶対参照について学習する
<第7講>数式や関数の適用②
概要：数式に条件付き論理を適用する/数式に名前付き範囲を適用する/数式にセル範囲を適用する
事前学習しておくべき用語：関数、名前の定義
詳細：基本的な関数や条件付き論理の適用、名前付き範囲の適用について学習する
<第8講>視覚的なデータの表示①
概要：ワークシートのデータを使用してグラフを作成する
事前学習しておくべき用語：グラフの種類、グラフの要素
詳細：グラフの作成、修正について学習する
<第9講>視覚的なデータの表示②
概要：図を適用する、操作する/画像編集機能を使用して画像を作成する、修正する/スパークラインを適用する
事前学習しておくべき用語：SmartArt、スクリーンショット、スパークライン
詳細：クリップアートやSmartArtグラフィックの挿入・変更、画像の編集、スパークラインの適用などについて学習する
<第10講> ワークシートのデータの共有　データの分析と整理①
概要：Backstage を使用してブックを共有する/コメントを管理する/データを抽出する
事前学習しておくべき用語：SkyDrive、コメント、データベース機能、フィルター
詳細：電子メールやSkyDriveを使ったブックの送信、異なるバージョンのブックの保存、PDFファイル・XPSファイルの保存、コメントの挿入・編集・削除などワークシートのデータ共有について学習する
また、データの抽出や並べ替えについて学習する
<第11講>データの分析と整理②
概要：データを並べ替える/条件付き書式を適用する
事前学習しておくべき用語：並べ替え、条件付き書式、データバー、カラースケール、アイコンセット
詳細：データの並べ替え、条件付き書式の適用など、データの分析と整理について学習する
<第12講> 総合演習①
模擬試験プログラムを利用して、習熟度の把握ならびに理解定着を図る
<第13講>総合演習②
模擬試験プログラムを利用して、習熟度の把握ならびに理解定着を図る
<第14講>総合演習③
模擬試験プログラムを利用して、習熟度の把握ならびに理解定着を図る
<第15講>期末定期試験

■教科書

『Microsoft Office Specialist Microsoft Excel2010 対策テキスト&問題集』
富士通エフ・オー・エム株式会社著　FOM出版

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

評価は、出席率70%以上の者に対し、期末定期試験（100%）により行う
注）遅刻・早退は欠席扱いとする。電車遅延の際は遅延証明書を提出すること

■評価基準

絶対評価
期末定期試験100点満点中40点以上を合格とする絶対評価とする
A+ ： 95点以上
A ： 90点以上
B ： 70点以上
C ： 40点以上
F ： 40点未満

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

私語、飲食、授業と関係のないPC操作、携帯電話操作、帽子・サングラス着用、その他履修態度としてふさわしくない行為を禁止する。また著しく履修態度の悪い者にはその後の出席ならびに期末試験の受験資格を認めないことがある。

科目名　ビジネス特講Ⅰ(Special Lecture on Business Ⅰ)

サブタイトル　円滑なコミュニケーションによる人間関係

担当教員　杉田　修一

■講義目的

コミュニケーションを通してより良い人間関係を考える
1　人と人との関係は話すことから始まる。正しい言葉使いをしてお互いが気持ちよく話し、意思の疎通をかわすようにすること。
2　社会（ビジネス）言葉と生活（日常）言葉の違いを考えてみる。
3　今に至るまでに使ってきた言葉を考え、これからを考えてみる。
4　人に自分の気持ちをしっかり伝える言葉を考えてみる。
5　世の中で活躍できる人になる言葉使いを考える。

■講義分類

顧客理解、社会人力育成

■到達目標

講義内容は前半で講義を行い、それをもとにしてロールプレイをする。相手の気持ちを考えて話すことを学び、どのような場面でも、自分の意見を述べ、相手に理解をしてもらうことが最終目標である。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：　コミュニケーションを学習する意義
事前学習しておくべき用語やポイント[人との共通話題]
詳細：コミュニケーションという言葉はさまざまな場面で持ち出され、明確に定義することが難しくなってきている。コミュニケーションに関する心理テストをした後、今回学習内容の定義づけをおこなう。
<第2講>
概要：　コミュニケーションをうまく使うこと
事前学習しておくべき用語やポイント[言葉を選ぶ]
詳細：普段口にする言葉は、相手とコミュニケーションを図るために発せられている。事例を交えながら相手の気持ちに配慮したコミュニケーションのとり方について考えてみる。
<第3講>
概要：　プラスアドバイスとマイナスアドバイス
事前学習しておくべき用語やポイント[誤解]
詳細：発言する言葉は、相手自身の性格や立場、相手がそのときに置かれている状況によって受け取られ方が変わってくる。講義とグループワークを通して、自分が発言した言葉が相手にどう取られるかを検証してみる。
<第4講>
概要：「褒められること」と「叱られること」
事前学習しておくべき用語やポイント[相手の希望と自分の回答]
詳細：行動の違いが結果、大きな違いを生む。相手の希望通りにできる場合は問題ないが、相手とのコミュニケーションの結果、最終的に相手の希望通りに回答できないことを気付いた時にできることを考える。
<第5講>
概要：　携帯電話とコミュニケーション
事前学習しておくべき用語やポイント[対面]
詳細：パソコンや携帯端末を利用したコミュニケーションは大変便利である一方で、利用法によっては想定と異なる結果を生むことがある。対面でのコミュニケーションとの違いを議論する。
<第6講>
概要：世代にあったコミュニケーション
事前学習しておくべき用語やポイント[プロとのコミュニケーション、プライド]
詳細：少年少女時代の習い事の師はすべてプロの人で、プロに学ぶことは多くある。プロから何かを学ぶとき私たちは受動的になりがちである。就職活動中や就職した後に出会う人々は、職業を持つプロである。世代も違うプロの心を動かすには何が必要かを考える。
<第7講>
概要：親とのコミュニケーション
事前学習しておくべき用語やポイント[いいたいことの伝え方]
詳細：親に対しては思ったことを、言葉をあまり選ばずに何でも言うことができる。しかし、他人に同じことをしてしまうと、時にはトラブルの原因となってしまう。気軽に話せることは是か非かを考える。
<第8講>
概要：スポーツ、趣味、学習とコミュニケーション
事前学習しておくべき用語やポイント[不得意分野でのコミュニケーション]
詳細：自分自身が好きなことに関しては積極的なコミュニケーションをとりやすい。苦手な分野でも可能な限り積極的なコミュニケーションをとるには、どのような表現を用いたらよいかを議論する。
<第9講>
概要：　現在の学生と昔の学生，コミュニケーションの変化
事前学習しておくべき用語やポイント[話ことばと書きことば]
詳細：話し言葉が年々変化してきている。お互いが置かれている状況や立場によって、理解可能か理解不能かが分かれてくる。言葉使いを例記しながら違いを考える。
<第10講>
概要：学生の意識とコミュニケーション
事前学習しておくべき用語やポイント[将来求めているもの]
詳細：何か叶えたい願いがあるとき、理想と実態を考え、先を見たコミュニケーションをとる必要がある。高校生から大学生になる意識の変化をみる。
<第11講>
概要：　活力のないコミュニケーション
事前学習しておくべき用語やポイント[目標、なぜ]
詳細：目標を持たずに行動すると、自分自身の中で何を伝えたいかが曖昧になってしまい、相手に何も伝わらない。何無主義という言葉が生まれた背景を振り返り、現在の自分と照らし合わせてみる。
<第12講>
概要：　偽りの個性（作られるコミュニケーション）
事前学習しておくべき用語やポイント[あるべき姿とありたい姿]
詳細：ある1つの面での「ありたい姿」を勝ち取るために、受け入れなければいけない「あるべき姿」がある。その功罪を、事例を通して考える。
<第13講>
概要：　年齢の違う人とのコミュニケーション
事前学習しておくべき用語やポイント[怒る人、身近な人]
詳細：年上の人と話すこと、年下の人と話すことはどちらも重要である。年齢が違えば考え方などが全く違う。多様な価値観を受け入れることで得られる成長について考える。
<第14講>
概要：　セールスマンのコミュニケーション
事前学習しておくべき用語やポイント[敵を作ることのリスク]
詳細：相手に嫌われることが損失に影響する「営業」という職業について考える。人に嫌われることで受けるデメリットの影響と、人に好かれることで得られるメリットの影響を比較してみる。
<第15講>
概要：入社試験を受ける
事前学習しておくべき用語やポイント[面接官、学生、入社試験]
詳細：面接官と試験を受ける学生に分かれてロールプレイを行い、コミュニケーションについて再考する。

■教科書

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

15回の講義のうち12回以上出席することを前提として、下記の割合で評価を行う。
出席40%、レポート30%、定期テスト30%

■評価基準

絶対評価
A+　：出席を前提とし、85%以上
A　：出席を前提とし、70%以上
B　：出席を前提とし、60%以上
C　：出席を前提とし、50%以上

F ：上記に満たない者

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　ビジネス入門I(Business Principle I)

サブタイトル

担当教員　小林　英夫

■講義目的

本講義は、多摩大学経営情報学部におけるキャリア形成科目の一つに位置付けられている。その目的は「職業観の醸成」である。

職業観がどのように醸成されるのかはケースバイケースであり、また、それは就学期全体を通して、また就業後も継続して形成されていくものであると考える。

本講義は、職業観が醸成される過程における主要な要素を、①「知識」 ②「能力」③「意思=志」の3点としてとらえ、これらの要素の基礎を学生諸君に伝えることを目的とする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

・ビジネスとは何かを理解すること
・社会人としての基本的なビジネスの知識と能力を、学生生活を通じて身に付けていくための土台を築くこと
・自らが持つ職業観を理解し、学生生活での学習の方向性に対する指針を得ること

■講義形態

・講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> イントロダクション
概要：　働くことの意味と学生時代の意義
事前学習しておくべき用語やポイント [自分が学生生活で身に付けたいこと]
詳細：　職業の意味とその必要性について学ぶとともに、学生時代が持つ意義について考える。また、ビジネス社会で活躍するために必要となる能力とはどのようなものであるのかについて学び、本講義の狙いを理解する。
<第2講> ビジネス知識1
概要：　会社とは何か
事前学習しておくべき用語やポイント[自分の知人が勤める会社]
詳細：　ビジネスを遂行する基本的主体である会社の定義、種類、経営の仕組み、組織の仕組みなどを学ぶ。また会社を経営するということはどういうことであるかを学び、経営学が対象とするものについて考える。
<第3講> ビジネス知識2
概要：　仕事にはどのようなものがあるか
事前学習しておくべき用語やポイント[自分の知人の仕事内容]
詳細：　職業の種類やその内容にはどんなものがあるか、会社組織における部門や仕事、役職などによる業務の違いについて学ぶ。
<第4講> ビジネス知識3
概要：　労働とはどのようなものであるか
事前学習しておくべき用語やポイント[雇用、給料]
詳細：　会社に雇われて働くということはどのようなことか、会社に雇われる労働者である従業員の種類やその違いにはどのようなものがあるか、日本における雇用慣行にはどのようなものがあり、どのように変わってきているのかについて学ぶ。
<第5講> ビジネス知識4
概要：　企業活動とはどのようなものか
事前学習しておくべき用語やポイント[売上、費用、利益]
詳細：　会社はどのように利益をあげているのか、会社を創るためにはどのようなことが必要かについて学ぶ。
<第6講> 意思=志1
概要：　企画職の職業意識を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[映画プロデューサー]
詳細：　企画職を取り上げた職業意識に関する番組を視聴し、職業人としての姿勢や意思を学ぶ。
<第7講> 意思=志2
概要：　芸術専門職の職業意識を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[漫画家]
詳細：　芸術専門職を取り上げた職業意識に関する番組を視聴し、職業人としての姿勢や意思を学ぶ。
<第8講> 意思=志3
概要：　医療関係者の職業意識を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[専門看護師]
詳細：　医療関係者を取り上げた職業意識に関する番組を視聴し、職業人としての姿勢や意思を学ぶ。
<第9講> 意思=志4
概要：　企業経営者の職業意識を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[企業家]
詳細：　企業経営者を取り上げた職業意識に関する番組を視聴し、職業人としての姿勢や意思を学ぶ。
<第10講> 意思=志5
概要：　技能職人の職業意識を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[すし職人]
詳細：　技能職人を取り上げた職業意識に関する番組を視聴し、職業人としての姿勢や意思を学ぶ。
<第11講> 意思=志6
概要：　公共職従事者の職業意識を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[海上保安官]
詳細：　公共職を取り上げた職業意識に関する番組を視聴し、職業人としての姿勢や意思を学ぶ。
<第12講> ビジネス能力1
概要：　社会人基礎力とモチベーション
事前学習しておくべき用語やポイント[やる気スイッチ]
詳細：　社会人基礎力とはどのようなものであるかを学ぶ。また、モチベーションとは何か、その源泉はどこにあるのかを知り、自己の動機づけについて学ぶ。
<第13講> ビジネス能力2
概要：　ネットワークとソーシャルキャピタル
事前学習しておくべき用語やポイント[ソーシャル]
詳細：　人と人とのネットワークに関する考え方と、それが生み出す社会的価値としてのソーシャルキャピタルについて学び、ビジネスにおいて人のつながりを保つことがどのような意義を持つのかについて考える。
<第14講> ビジネス能力3
概要：　ソーシャルメディア
事前学習しておくべき用語やポイント[SNS、炎上]
詳細：　高度に情報通信技術が発達した現代はネット社会とも呼ばれる。少し前までは考えられなかったソーシャルネットワークが育ちビジネスが生まれる一方で、個人情報の漏洩や不用意な情報発信といった社会問題も発生している。これらについて学ぶ。
<第15講> ビジネス能力4
概要：　ビジネス社会における常識
事前学習しておくべき用語やポイント[学生と社会人は何が違うか]
詳細：　ビジネス社会においては「ビジネスマナー」と呼ばれる一般常識が存在する。その意味や具体的内容を学ぶことを通じて、自分が接する相手に対する思いやりの心を身に付ける。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■参考URL

■評価方法

授業貢献点（59%）、期末試験（41%）
単位取得には60%以上の得点が必要であり、授業に殆ど出席しない場合や、期末試験を受験しない場合は、単位取得は認められない。

■評価基準

相対評価
毎回の授業においてコメントシートまたはミニレポートの提出を求め、その内容をA（授業を聴き良い気づきがあった）、B（授業を聴いていた）、C（授業を聴いていたとは思われない）の3段階評価し、授業貢献点とする。Aは加点対象（2点）、Bが標準（1点）、Cは減点（−1点）、欠席は0点とする。従って、授業に出席していても、受講態度が悪い場合は欠席以下の評価となる。
期末試験では、ビジネスに関する知識、能力の習得度とともに、ビジネス社会で活動し

ていくことに対する意思が築かれつつあるかを評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　ビジネス入門Ⅱ(Business Principle Ⅱ)

サブタイトル　儲けるを科学する「企業会計」を学ぶ

担当教員　金子　邦博

■講義目的

本講義は、企業の会計の仕組みを初めて学ぶ人を対象に、企業活動の成果としての「儲け（利益）」を計算する「企業会計」の仕組みを学ぶことで、産業社会の実践の場において企業の儲けに結びつく行動を考えられるようになる実践的知識の獲得を目的としている。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業活動を描き出す会計情報の意義とその活用法についての基礎的な知識の習得すること。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　会計入門（1）
概要：利益を獲得するための企業活動の本質を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）企業活動の本質である取引の意義を理解する。
<第2講>　会計入門（2）
概要：企業活動の成果である利益獲得の仕組みを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）利益獲得のための羅針盤としての会計情報の必要性を理解する。
<第3講>　Ⅰ　会計の機能と制度
概要：会計の枠組みを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）会計の定義、会計の種類などの諸概念を理解する
<第4講>　Ⅱ　利益計算の仕組み
概要：企業会計のシステムを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）発生主義会計における利益計算の考え方を理解する。
<第5講>　Ⅲ　企業の営業循環
概要：企業の営業循環について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）企業が儲けを獲得するために行う営業循環の仕組みを理解する。
<第6講>　Ⅳ　資産と損益計算
概要：資産に関する会計処理を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）棚卸資産と固定資産の会計処理を理解する。
<第7講>　Ⅴ　資産運用と資金調達
概要：余剰資金の運用の会計処理と資金調達について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）金融資産の会計処理とキャッシュ・フロー計算書、企業の資金調達方法を理解する。
<第8講>　Ⅵ　決算と税金
概要：会計情報を確定させる決算と企業が負担する税金について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）決算の仕組みと剰余金の配当、企業が負担する税金を理解する。
<第9講>　Ⅶ　企業活動と財務諸表（1）
概要：貸借対照表の構造を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）貸借対照表の基本構造と表示ルールを理解する。
<第10講>　Ⅶ　企業活動と財務諸表（2）
概要：損益計算書の構造を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）損益計算書の基本構造と段階別の利益計算構造を理解する。

<第11講>　Ⅷ　企業経営と会計情報
概要：企業経営における会計情報の利用を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）業務上の意思決定や設備投資計画における会計情報の利用を理解する。
<第12講>　Ⅸ　財務諸表の体系と公開
概要：企業会計のディスクロージャー制度を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）会計情報の開示制度を理解する。
<第13講>　Ⅹ　会計情報の分析（1）
概要：収益性分析を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）財務分析の体系、収益性の分析指標の使い方を理解する。
<第14講>　Ⅹ　会計情報の分析（2）、ⅩⅠ　外貨建取引
概要：安全性分析を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）安全性の分析指標の使い方と外貨換算の仕組みを理解する。
<第15講>　総まとめ
概要：問題演習を通じてこの講義の総復習をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[なし]
詳細：（復習のポイント）計算問題の解き方理論問題に対する答案のつくりかたを理解する。

■教科書

矢島雅己　『決算書はここだけ読もう』　弘文堂

■指定図書

[1]谷武幸・桜井久勝　『1からの会計』　碩学舎・中央経済社
[2]桜井久勝・須田一幸　『財務会計・入門』　有斐閣
[3]上野清貴　『財務会計の基礎』　中央経済社
[4]稲盛和夫　『稲盛和夫の実学－経営と会計』　日本経済新聞社
[5]辛坊正記　『知識ゼロからの会計入門』　幻冬舎
[6]大阪商工会議所　『ビジネス会計検定　公式テキスト3級』　中央経済社

■参考文献

[1]後　正武　『あまりにやさしい会計の本』　ダイヤモンド社
[2]山田英夫・山根節　『なぜ、あの会社は儲かるのか？』　日本経済新聞出版社
[3]山田英夫・山根節　『なぜ、あの会社は儲かるのか？　ビジネスモデル編』　日本経済新聞出版社
[4]金子智朗　『同じモノを売っているのに、儲かっている会社、儲かっていない会社』　クロスメディア・パブリッシング

■参考URL

http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/

■評価方法

期末定期試験の成績により評価する（100%）。ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、期末定期試験の成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

期末定期試験の成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、期末定期試験の得点順に成績評価する。　相対評価

■事前履修科目等

この講義の受講に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

この科目は、2013年度以降の入学生に対する新設科目のため、2012年度以前の入学生は履修登録することができない。

科目名 Practical English ConversationI（Practical English Conversation I）

サブタイトル

担当教員 チェン　リサ　ウェイイン

■講義目的

Using English in daily situations
日常生活に英語を使って
Topics covered:
introduction
jobs
shopping
family
exercise
hobbies
トピック:
自己紹介
仕事
買い物
家族
運動
趣味

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

students will be able to role-play various practical situations in English
学生が英語で各種実用的な状況をロールプレイすることができます

■講義形態

interactive, partner, group discussion
対話
パートナー
グループディスカッション：学外学習none

■講義の概要

以下、TopicおよびContents & terms to preview (予習をしておくべき用語)
1.Orientation
Understanding the class; Icebreaking
2.Introducing yourself and others
Form filling; Introduction
3.Going through customs
Exchanging contact details; Asking for clarification
4.Favorite things;
Jobs
Personal details; Greetings and introductions
5.Favorite things;
Jobs
Personal details; Greetings and introductions
6.Family; Lifestyle
Advice and warnings
7.Differences between men and women; Likes and dislikes
Expressing opinions
8.Email to a new friend
Texting a message
9.Daily routine;
Going out
At the weekend /on the weekdays;
Ordering and paying
10.Habits and frequency;
Special days
Asking about opening and closing times
11.Water sports; Holidays
Talking about the weather
12.Feelings; Experiences
Complaints and suggestions
13.Final Listening Test;
Preparation for Presentation
Taking the final listening test;
Preparing for presentation
14.Final Presentation
Final presentation
15. Final Written Test
Taking the final written test

■教科書

1. Student book　"Interchange 1 fourth edition" by Jack C. Richards
2. Work book　"Interchange 1 fourth edition" by Jack C. Richards

■指定図書

Student book　"Interchange fourth edition" by Jack C. Richards

■参考文献

none

■参考URL

■評価方法

attendance 出席 20%
homework 宿題 20%
chapter testチャプターテスト 20%
attitude態度 10%
speech 演説 10%
final test 最終試験 20%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、
60点~69点　C
70点~79点　B
80点~89点　A
90点~100点　A+

■事前履修科目等

basic english knowledge
基本的な英語の知識

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

科目名 Practical English ConversationII（Practical Conversation II）

サブタイトル

担当教員 チェン　リサ　ウェイイン

■講義目的

Using English in daily situations
日常生活に英語を使って
topics:
people
past experiences
places
health
ordering at restaurants
countries
トピック:
人
過去の経験
場所
健康
レストランでの注文
国

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

students will be able to role-play various practical situations in English
学生が英語で各種実用的な状況をロールプレイすることができます

■講義形態

interactive
partner
group discussion
対話
パートナー
グループディスカッション
：学外学習none

■講義の概要

以下、TopicおよびContents & terms to preview（予習をしておくべき用語）
1.Orientation
Understanding the class; Icebreaking
2.Introducing yourself and others
Form filling; Introduction
3.Going through customs
Exchanging contact details; Asking for clarification
4.Favorite things;
Jobs
Personal details; Greetings and introductions
5.Favorite things;
Jobs
Personal details; Greetings and introductions
6.Family; Lifestyle
Advice and warnings
7.Differences between men and women; Likes and dislikes
Expressing opinions
8.Email to a new friend
Texting a message
9.Daily routine;
Going out
At the weekend /on the weekdays;
Ordering and paying
10.Habits and frequency;
Special days
Asking about opening and closing times
11.Water sports; Holidays
Talking about the weather
12.Feelings; Experiences
Complaints and suggestions
13.Final Listening Test;
Preparation for Presentation
Taking the final listening test;
Preparing for presentation
14.Final Presentation
Final presentation
15. Final Written Test
Taking the final written test

■教科書

1. Student book　"Interchange 1 fourth edition" by Jack C. Richards
2. Work book　"Interchange 1 fourth edition" by Jack C. Richards

■指定図書

Student book　"Interchange fourth edition" by Jack C. Richards

■参考文献

■参考URL

■評価方法

attendance 出席 20%
homework 宿題 20%
chapter testチャプターテスト 20%
attitude態度 10%
speech 演説 10%
final test 最終試験 20%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、
60点~69点　C
70点~79点　B
80点~89点　A
90点~100点　A+

■事前履修科目等

basic english knowledge
基本的な英語の知識

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

科目名　プログラミング言語入門I（Introduction to Programming Language I）

サブタイトル　表計算ソフト【Excel】とプログラミング言語【C#】

担当教員　田中　雄

■講義目的

この講義は、プログラミング言語初心者を対象に、コンピュータを使えるビジネスパーソンになるための第一歩として、表計算ソフト【Excel】とプログラミング言語【C#】の使い方を学ぶ。本講義を通して、新しいものを修得する方法を身につけて欲しい。

■講義分類

社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

・コンピュータ言語修得用教材を使い、基本的な考え方を学ぶ。
・ExcelのMOS試験等の取得を目指す。
・プログラミング言語C#の基礎を知る。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

〈第1講〉
(1)概要
・本講義の説明と、利用するツールの起動方法、Excelの説明
(2)事前に学習しておくべき用語
・Excel、プログラミング、Visual C#、Mono
(3)詳細
・本講義の流れを説明する。コンピュータ言語の単語数は多くない。その構成が大切。生活すべて、ビジネスすべてにコンピュータが関わってくる。プログラミングできる、ビジネスパーソンを目指してもらいたい。積み重ねを大切にすること。
・ExcelとVisual C#の起動ができるか、バージョンが合っているかを確認する。
・Excelの画面と基本操作を説明する。
(4)到達目標
・本講義の方針や内容を理解する。
・Excelの起動とVisual C#の起動を確認する。
・Excelの基本事項を理解する。
〈第2講〉
(1)概要
・Excelのデータの入力と編集
(2)事前に学習しておくべき用語
・Excel、ワークシート、セル、オートフィル
(3)詳細
・Excelにデータを入力する方法や、簡単な四則演算の入力方法、オートフィルを学ぶ。
(4)到達目標
・Excelを起動して、提示された表を作成する。
・Excelで簡単な計算ができる。
〈第3講〉
(1)概要
・レポートの作り方
(2)事前に学習しておくべき用語
・Gmail、Word、OPAC
(3)詳細
・インターネットの理解を深める。メールによる書類添付の方法を習得する。
・Word書類のpdf化、暗号化等を理解する。
・正しいレポートの書き方について学ぶ。
・図書館検索を学び、必要な本を借りる練習をする。
・情報検索を行い、必要なデータをExcel等で整理する方法を学ぶ。
(4)到達目標
・メールにデータを添付して送信することができる。
・Wordでレポートを書くことができる。
・図書館検索をして、必要な本を借りることができる。
・調査内容をExcelにまとめることができる。
〈第4,5講〉
(1)概要
・Excelの表の作成
(2)事前に学習しておくべき用語
・オートSUM、罫線、条件付き書式
(3)詳細
・合計、平均の求め方を学ぶ。
・罫線、塗りつぶしなどの装飾方法を学ぶ。
・表示形式を学ぶ。
・条件付き書式を学ぶ。
・行や列の追加、削除を学ぶ。
(4)到達目標
・課題を完成させる。
〈第6講〉
(1)概要
・Excelの印刷方法を学ぶ
(2)事前に学習しておくべき用語
・印刷、ページレイアウト
(3)詳細
・ページレイアウトを設定して、表を綺麗に印刷する方法を学ぶ。
・大きい表や、複数ページにまたがる表の印刷方法を学ぶ。
(4)到達目標
・表を綺麗に印刷することができる。
〈第7講〉
(1)概要
・相対参照と絶対参照、様々な関数の利用
(2)事前に学習しておくべき用語
・相対参照、絶対参照、オートSUM
(3)詳細
・Excelの難関の一つ、相対参照と絶対参照について学ぶ。
・オートSUMのその他の関数の使い方を知り、いくつかの関数を利用する。
(4)到達目標
・相対参照と絶対参照の違いを理解する。
・Excelで関数を利用する方法を学ぶ。
〈第8講〉
(1)概要
・Excelによるグラフ作成の意味を理解する。
(2)事前に学習しておくべき用語
・棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ
(3)詳細
・データによって、どのようなグラフを使えばよいのかを学ぶ。
・グラフの作成方法を学ぶ。
・グラフの読み方を学ぶ。
(4)到達目標
・与えられたデータについて、適切なグラフを選ぶことができる。
・思い通りにグラフを作ることができる。
・作成したグラフについての考察を述べることができる。
〈第9講〉
(1)概要
・Excelによるデータベースの利用
(2)事前に学習しておくべき用語
・ソート(並び替え)、昇順、降順、フィルタ(抽出)
(3)詳細
・入力されているデータを並び替える方法を学ぶ。
・条件に合ったデータのみを表示する方法を学ぶ。
・データベースから情報を読み取る方法を学ぶ。
(4)到達目標
・指示された通りに並び替えや抽出ができる。
・データを調査して、意見を述べることができる。
〈第10講〉
・中間考査
〈第11講〉
(1)概要
・Visual C#の導入
(2)事前に学習しておくべき用語
・C#、ビルド、変数
(3)詳細
・Visual C#を起動して、プロジェクトを作成する。
・コンポーネントを知る。

・ボタンの配置と基本的なプログラミング。
(4)到達目標
・Visual C#を起動して、プロジェクトを作成し、ラベルやボタンなどを配置することができる。
〈第12講〉
(1)概要
・Visual C#による計算
(2)事前に学習しておくべき用語
・+、−、*、／、%
(3)詳細
・Visual C#で計算する方法を学ぶ。
(4)到達目標
・簡単な計算アプリを作成する。
〈第13講〉
(1)概要
・ifによる分岐処理
(2)事前に学習しておくべき用語
・if、分岐処理、==、!=、>、>=、<、<=、&&、||
(3)詳細
・プログラミングの重要構文ifについて学ぶ。
(4)到達目標
・ifの文法を理解する。
・複数の条件判断の書き方を理解する。
〈第14講〉
(1)概要
・跳ね回るラベルの開発
(2)事前に学習しておくべき用語
・timer、乱数
(3)詳細
・一定時間ごとに呼び出されるtimerと、乱数を学ぶ。
・コンポーネントの座標を、計算で動かすことができることを学ぶ。
・if文を使った座標の判定を行う。
(4)到達目標
・フォーム内をラベルが跳ね回るプログラムを開発する。
〈第15講〉
・最終考査

■教科書

授業時間内に指定する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

授業内で必要に応じて指示する。

■参考URL

■評価方法

原則として80%以上の出席を前提として、授業で出される課題（20%）、レポート（20%）、授業内試験（2回予定）（60%）により評価する。欠席状況に応じて減点する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

配布されたノートパソコンと電源コードを毎回必ず持ってくること。
再履修者は、事前に本講義で利用するバージョンのOfficeとVisual Studioをインストールしておくこと。

科目名　プログラミング言語入門II（Introduction to Programming Language II）

サブタイトル　【C#】プログラミング

担当教員　田中　雄

■講義目的

この講義は、プログラミング言語初心者を対象に、コンピュータプログラミングにおけるアルゴリズムの基礎の学習を目的とする。

■講義分類

社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

各自の発想を、プログラミング言語を用いて表現し、自他のアイディアについて、客観的・論理的に討議できる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR：学外学習なし

■講義の概要

〈第1講〉
概要：開発環境の整備と復習
事前学習しておくべき用語やポイント［Visual C# の起動・プロジェクトの作成］
詳細：開発環境の整備を行い、基本的な入出力の確認を行う。指示に従って、数当てゲームを作成する。
〈第2講〉～〈第4講〉
概要：占いプログラムの設計と実装
事前学習しておくべき用語やポイント［　］
詳細：サンプルプログラムを元に、独自の占いプログラムの基本設計を行い実装する。データの入力～処理～出力の流れをつかむ。
〈第5講〉
概要：占いプログラムの相互評価・改良
事前学習しておくべき用語やポイント［試作品完成］
詳細：占いプログラムを相互評価し、その評価に基づき改良を加える。
〈第6講〉
概要：占いプログラムプレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント［占いプログラムを完成させておく］
詳細：改良された占いプログラムについて、プレゼンテーションを行い、相互に評価する。
〈第7講〉～〈第8講〉
概要：アドベンチャーゲームの設計と実装
事前学習しておくべき用語やポイント［状態遷移］
詳細：サンプルプログラムを元に、独自のアドベンチャーゲームの設計を行い、実装する。状態遷移の考え方を身につける。
〈第9講〉
概要：アドベンチャーゲームの相互評価・改良
事前学習しておくべき用語やポイント［試作品完成］
詳細：プログラムを相互に評価し、その評価に基づき改良を加える。
〈第10講〉
概要：ネット評価システムの開発
事前学習しておくべき用語やポイント［クライアント・サーバ、http］
詳細：指示に従って、アドベンチャーゲームの評価をネットで行うためのクライアントプログラムを開発する。
〈第11講〉～〈第12講〉
概要：アドベンチャーゲームプレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント［アドベンチャーゲームを完成させておく］
詳細：アドベンチャーゲームのプレゼンテーションを行い、相互評価する。
〈第13講〉～〈第14講〉
概要：リバーシアルゴリズムの設計と実装
事前学習しておくべき用語やポイント［　］
詳細：サンプルプログラムを元に、独自のリバーシアルゴリズムを設計・実装する。ネットワーク上での対戦を通じて、改良を加える。
〈第15講〉
概要：リバーシ大会
事前学習しておくべき用語やポイント［独自のリバーシアルゴリズムを完成させておく］
詳細：ネットワーク上でリバーシプログラムを利用した大会を開催する。

■教科書

講義で指示する。

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

原則として80%以上の出席を前提として、プレゼンテーションなどの平常点（40%）、レポート3回（60%）により評価する。
欠席状況に応じて減点する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義で手を動かすことが重要な科目であり、欠席については本人の責の有無を問わない。すべて出席することが前提であり、不測の事態を迎えてもなお欠席を20%以下にすることを求める。

科目名　プログラミング言語Ⅰ(Programming Language Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　中村　有一

■講義目的

本講義は、Java言語によるプログラミングの入門コースである。将来SEなどを目指し、職業的なプログラミング技術を身につけたい学生には、この科目を受講することを強く勧める。Java言語は、最近広く普及しているプログラミング言語であり、この言語を一通り習得していると、さまざまな場面で役に立つ。また「情報処理技術者試験」などの資格試験を受ける場合にも有効である。

授業は、基礎的なプログラミングの構造の説明と、その演習の繰り返しで行っていく。単元ごとにレポートの提出を求めるため、各自、空き時間にはしっかりと復習をすることが必要である。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

Java言語を一通り使いこなせるようになることが最終目標である。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　Java言語入門
概要：プログラム・プログラミング・プログラミング言語についての基礎知識を得る。
詳細：プログラムとは何か、なぜ必要かなど、プログラミングの基本となる考え方について説明する。プログラムを記述するための手段であるプログラミング言語について、一般的な知識を与える。また、プログラミング言語の1つであるJava言語について、その歴史的な発展の経過や、ほかの言語と比較した場合の特徴などについて論ずる。
予習用語：プログラム、プログラミング、コンパイル、コンパイラ、デバッグ、エラー、ウォーニング

<第2講>　開発環境の整備
概要：Javaの開発環境を整備し、使い方を学ぶ。
詳細：Javaの開発環境として、コンソールベースのものと、統合開発環境について、基礎的な知識を得る。コンパイル、中間言語などの概念についても理解する。各自のパソコンに環境を整備し、簡単なプログラムを作って、動かしてみる。
予習用語：開発環境、コンパイル、コンパイラ、インタープリタ、エディタ、中間言語

<第3講>　入出力と変数
概要：入力と出力について取り上げる。また変数の概念、変数名のつけ方、変数の型について理解する。
詳細：プログラムを作る上で最も基本的な概念である入力と出力について、いくつかの例題を通して説明していく。変数とは何か、その使い方について説明する。この週以降は、演習として、実際にプログラムを書き、実行してもらうことを随時行う。
予習用語：入力、出力、標準入出力、変数、型、宣言、変数名

<第4講>　四則演算と代入
概要：足し算、引き算、掛け算、割り算のいわゆる四則演算の仕方を学ぶ。また計算式の書き方、代入のしかたも取り上げる。
詳細：数学的な問題を解くために必要な四則演算と代入の機能について解説する。Java言語では、これらはすべて演算子であり、通常の数式を書くように記述することができる。ここでは演算子の種類と使い方、変数の型と範囲などについて学ぶ。
予習用語：四則演算、代入文、剰余演算子、実行時のエラー、自動型変換、演算子の優先順位

<第5講>　枝分かれ
概要：枝分かれの仕組みと、その使い方を学ぶ。if文とswitch文の違いについても理解する。
詳細：枝分かれ文とは、指定した論理式が正しいかどうかによって、処理を制御する構文の一つである。論理式には、式の大小を判断させる関係演算子が使われるが、これらについても解説する。このほか、演算子の優先順位、流れ図(フローチャート)の書き方についても講義の進捗にあわせて説明を行う。
予習用語：枝分かれ、if文、switch文、入れ子構造、ネスト、関係演算子、論理演算子

<第6講>　for文による繰り返し
概要：for文によって、回数が決まっているような規則的な繰り返しを行う方法を示す。漸化式の扱いにも慣れておく必要がある。
詳細：for文は、規則的な繰り返し処理を記述する構文である。特に、ある範囲の中で変数の値を1つずつ増やしながら、同じ処理を繰り返して実行するような例について学習する。さらに、for文の基礎を理解した上で、複利計算などの応用問題を取り上げる。
予習用語：for文、インクリメント、デクリメント、漸化式

<第7講>　while文、do while文による繰り返し
概要：while文、do while文の使い方を学ぶ。これらは条件が成り立っているあいだ繰り返しを行う構文である。
詳細：繰り返しには、ある条件が成り立っている間繰り返しを行うもの、ある条件が成り立つまで繰り返すものなどがある。繰り返しの条件判断が、繰り返しの前に置かれるか後に置かれるかで動作が異なる場合があり、その使い分けを学ぶ。
予習用語：while文、do while文、無限ループ

<第8講>　配列
概要：配列は、規則的に並んだデータを扱う場合に使われるデータ構造である。この使い方を習得する。
詳細：配列とは、同じ型の変数が規則的に並んだもので、全体として1つの名前を持ち、その要素は添字と呼ばれる番号で識別される。配列は表の形をしたデータ処理には不可欠なものである。このほか数学的な応用としては、ベクトル、行列の処理に使われる。ここでは、例題として、与えられたいくつかのデータの合計、平均などの統計的データの算出や、大きい順に並び替えるソートの問題を扱う。
予習用語：配列、添字、最大値、最小値、横棒グラフ、頻度分布、スタック、スタックポインタ、プッシュ、ポップ、ソート、単純選択法

<第9講>　関数
概要：関数はひとまとまりの処理に名前を付けて、部品として呼び出せるようにしたものである。
詳細：関数の呼び出し方、定義の仕方、数学関数の使い方などを学ぶ。再帰的定義についても理解する。この応用としてクイックソートのアルゴリズムを取り上げる。
予習用語：関数、関数宣言、関数定義、再帰的定義、クイックソート

<第10講>　GUIの利用
概要：GUI(Graphical User Interface)の機能を使ったプログラミング手法を取り上げる。
詳細：GUIのための部品であるボタン、テキストボックス、ラベルなどを使って、初心者にも使いやすいプログラムを作るための手法を身に着ける。画面設計についても取り上げる。
予習用語：GUI, ボタン、テキストボックス、ラベル、画面設計

<第11講>　グラフィクス
概要：Javaにおけるグラフィクスの機能を取り上げる。
詳細：グラフィクスは、画面上に長方形や円を座標を指定して描く機能である。この機能を利用することでより魅力的なプログラムの作成が可能となる。
予習用語：グラフィクス

<第12講>　イベント処理
概要：Javaにおけるイベント処理の機能を取り上げる。
詳細：イベント処理を使うと、マウスの動きやキーボードの動作を感知して、プログラムの動作に反映させることができる。この機能を利用することでより魅力的なプログラムの作成が可能となる。
予習用語：イベント、イベント処理

<第13講>　レポート作成
概要：今までの知識を総動員して、ある程度の大きさの実用的なプログラムを作成する。
詳細：目標を決めてプログラミングを行う練習として、各自テーマを決めて、プログラミングを行う。結果は最終レポートの形にまとめる。
予習用語：なし

<第14講>　レポート作成
第13講と同じ

<第15講>　期末テスト
概要：全体を通して期末テストを行う。
詳細：資料などをもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。例題はすべて自分で打ち込んで、動作を確認しておくこと。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。
試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてみること。わからない点があれば質問して解決しておくこと。
予習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

授業の中で適宜紹介する。

■参考URL

http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture

■評価方法

学期末試験50%　レポートなど平常点50%

■評価基準

相対評価
プログラミング言語の学習においては、演習が重要な位置を占める。演習を通じて実際に動くプログラムを作り、動作を見ながらプログラミング言語の理解を深めることが重要である。このような観点から、演習を中心とし、学期末試験の結果も踏まえて評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

2012年度までは、「プログラミング言語」という科目があり、C言語を使ってプログラミングの基礎を学習するものであった。2013年度からは、使用する言語がJavaに変わり、「プログラミング言語Ⅰ」となった。またJavaの応用編である「プログラミング言語Ⅱ」という科目が追加された。

「プログラミング言語Ⅱ」を履修するためには、「プログラミング言語Ⅰ」の単位を取っていることが望ましいい。（ただし必須条件ではない。）

プログラミング言語の学習においては、面倒がらずに自分でプログラムを打ち、実行して確認していくことが重要である。いろいろなエラーを経験すること、つまり失敗することが、成功すること以上に意味を持っている。わからないことは、できるだけ授業中に質問して解決するように心がけよう。

授業には、毎回各自のノートPCを必ず持ってくること。

科目名　プログラミング言語II（Programming Language II）

サブタイトル　JAVAで学ぶアルゴリズム

担当教員　田中　雄

■講義目的

オブジェクト指向のプログラミング言語【JAVA】は、サーバ制御、Androidなどの携帯端末、さらには組み込み系など、様々な場面で活躍しているプログラミング言語である。開発効率が高く、フリーの優秀なフレームワークや開発環境が揃っているため、採用している企業も多い。将来SEなどを目指し、職業的なプログラミング技術を身につけたい学生には、この科目を受講することを強く勧める。

本講義の前半では、プログラミング言語Iで学習した順次処理、分岐処理、繰り返し処理を復習して、JAVAのコーディングスキルを確かなものにする。後半では、データの作成や集計、並び替えのプログラミングを実践して、データを処理するアルゴリズムの基礎について理解を深める。

本講義では、教員が先立って答えを提示することはない。指名された受講者が教卓のPCにプログラムを入力していって、課題を完成させていく。自分の頭で考えて、アイディアを表現する力を身につけてもらいたい。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

JAVAのプログラミングと、情報処理技術者試験に出題されるアルゴリズムの基礎を身につけることを目指す。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：開発環境の確認と入出力
事前学習しておくべき用語やポイント：プログラミング言語Iの復習
詳細：JAVAの開発環境の使い方を再確認して、簡単なプログラムを動かす。
到達目標：課題のプログラムを作成する。

<第2講>
概要：Google Driveのセットアップと復習
事前学習しておくべき用語やポイント：プログラミング言語Iの復習、Google Drive
詳細：本講義の課題は、Google Driveで提出する。第2講では、Google Driveの接続方法を学び、課題提出用のドキュメントを作成して、教員との共有を設定する。設定ができたら、分岐処理の復習を行い、でき上がったものをGoogle Driveで提出する。
到達目標：Google Driveで講義用のドキュメントを作成して、教員と共有する。if構文を復習する。

<第3講>
概要：四則演算と余りの復習
事前学習しておくべき用語やポイント：+、-、*、/、%
詳細：JAVAにおける四則演算の方法を復習して、課題の計算を行うプログラムを開発する。
到達目標：四則演算と余りのプログラムをJAVAで開発する。

<第4,5講>
概要：if文の復習と計算機の開発
事前学習しておくべき用語やポイント：if、==、!=、>=、>、<=、<
詳細：入力、四則演算、余りを組み合わせて、ユーザーの入力に応じた計算結果を出力する計算機プログラムを開発する。
到達目標：対話型のJAVAプログラムを完成させる。

<第6,7講>
概要：リュカ数列を求めるプログラムの開発
事前学習しておくべき用語やポイント：数列、リュカ数列
詳細：知らないことでも、解き方を調べることでプログラムを開発することができる。リュカ数列の求め方をインターネットで調べて、プログラムを開発する。併せて、コンピュータが扱える数の範囲についても学ぶ。
到達目標：自分が知らないことについて調査して、調査結果に基づいたプログラムを開発する。変数のオーバーフローについて理解する。

<第8,9講>
概要：乱数の生成と繰り返しと配列を復習して、検索アルゴリズムを学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント：乱数、Random、繰り返し、for、配列、検索
詳細：乱数を生成する方法と、配列の扱い方を復習して、100個の乱数を生成する。その中から、ユーザーが指定した数値を探すプログラムを開発する。
到達目標：乱数と繰り返しと配列を、JAVAで扱うことができる。検索プログラムを完成させる。

<第10,11講>
概要：ファイルの入出力と合計、平均を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント：ファイル入出力、File、コンマ区切りテキスト(CSV)、平均
詳細：生成した100個の乱数をコンマ区切りのテキストファイルで入出力する方法を学ぶ。その後、ファイルから入力した数値の合計と平均を出力するプログラムを開発する。
到達目標：CSVについて理解する。CSVの入出力を行い、合計と平均を求めるプログラムを開発する。

<第12講>
概要：最小値、最大値を探すプログラムの開発
事前学習しておくべき用語やポイント：繰り返し、if
詳細：100個の乱数を並べたCSVを読み込み、繰り返しを使って最小値と最大値を求めるプログラムを開発する。
到達目標：ループの作り方と、最小値と最大値の求め方を理解する。

<第13,14講>
概要：並び替えプログラムの開発
事前学習しておくべき用語やポイント：並び替え、ソート、バブルソート
詳細：100個の乱数を並べたCSVを読み込み、大きい順、小さい順にそれぞれ並び変えてファイルに保存するプログラムを開発する。
到達目標：並び替えをプログラムでどのように実現するかを知る。

<第15講>
概要：学期末試験
事前学習しておくべき用語やポイント：これまでの課題をよく復習する。
詳細：詳細については別途連絡する。
到達目標：一定以上、得点すること。

■教科書

別途指定する。

■指定図書

紀平拓男・春日伸弥　『プログラミングの宝箱　アルゴリズムとデータ構造』　ソフトバンクパブリッシング
中山 清喬・国本 大悟　『スッキリわかるJava入門』　インプレスジャパン

■参考文献

なし。

■参考URL

http://edu.amdv.net/java14/

■評価方法

評価は、80%以上の出席を前提とし、学期末試験50%　ミニテスト・レポートなど50%　により行う。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

プログラミング言語I

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・プログラミング言語Iの内容を理解していることを前提とする。
・講義と日常の課題を通して、JAVAを身につける努力をしたかを学期末試験で問う。出席や日常課題だけでは単位は取れない。
・一度身につければ、プログラミングの世界ではとても役に立つ内容である。頭が柔らかく、ガッツがあるうちに、頑張って身につけよう。

科目名　文章伝達入門(Introduction to Communication in Writing)

サブタイトル

担当教員　樋口　裕一、樋口総合文化研究所

■講義目的

産業社会で活躍し、問題発見、問題解決に不可欠な文章力を養成する。現代の志塾として、将来のビジネスに直結する文章力養成する。同時にそれは、分析的に思考し、的確に判断する力を養うことにもなる。また、社会や人間に対する関心も高め、社会人基礎力を高め、自らの志を明確にすることにもなる。

■講義分類

顧客理解、社会人力育成、ビジネスICT

■到達目標

社会についての関心を高め、社会問題について600字から800字程度の論理的な文章を、自在に書ける力を養う。

■講義形態

その他(講義+文章作成+PR)
：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：　オリエンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：方針・授業ルール説明。文章の書き方の基本の説明。第1回課題答案作成（200字程度の文章）
<第2講>
概要：課題復習
事前学習しておくべき用語やポイント[小論文の「型」について復習]
詳細：前回書いた文章を添削して返却。よい文章、悪い文章について解説。前回の文章を書きなおす。
<第3講>
概要：部分練習
事前学習しておくべき用語やポイント[前回返却答案を見直す]
詳細：問題提起の作り方、第2段落の書き方。
<第4講>
概要：第2回課題答案作成
事前学習しておくべき用語やポイント[第二回課題について資料を集める]
詳細：実際に300字程度の論理的な文章（第2回課題）を書く。
<第5講>
概要：第二回課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[第二回課題について資料を整理]
詳細：前回書いた課題の解説。文章を書くためのトレーニングをする。裏づけの仕方について。
<第6講>
概要：部分練習
事前学習しておくべき用語やポイント[前回返却答案を見直す]
詳細：問題提起の作り方、第2段落の書き方。
<第7講>
概要：部分練習
事前学習しておくべき用語やポイント[前回返却答案を見直す]
詳細：問題提起の作り方、第2段落の書き方。
<第8講>
概要：第3回課題（600字程度の文章）
事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]
詳細：実際に論理的文章（第3回課題）を書く。
<第9講>
概要：第3回課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]
詳細：第3回課題解説。その後、読みとり練習。
<第10講>
概要：文章を読んで論じる
事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]
詳細：文章の読み取り。読みとった上での問題提起の仕方。論じ方。
<第11講>
概要：第4回課題答案作成
事前学習しておくべき用語やポイント[第4回課題について調査]
詳細：第4回課題を書く
<第12講>
概要：第4回課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]
詳細：第4回課題解説を行い、不足分を練習する。
<第13講>
概要：トレーニング
事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]
詳細：　グラフ・表の読みとり練習。
<第14講>
概要：第5回課題答案作成
事前学習しておくべき用語やポイント[課題内容について資料を集める]
詳細：第5回課題（グラフ・表を読みとって論じる問題）を書く
<第15講>
概要：第5回課題解説
事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]
詳細：第5回課題解説後、今後の勉強法など。

■教科書

「多摩大学　文章伝達入門テキスト」

■指定図書

『ホンモノの文章力』　集英社新書

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

出席が3分の2に満たないものは不合格にする。授業中に合計5～6回、小論文を書いてもらい、1点～5点で採点して返却する。平均2点を超すものについては原則として合格とみなす。なお、書き直して提出した場合、必ず加点する。授業中の発言についても加点する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業中の私語禁止。そのほか、飲食（ただし飲みものの摂取は許す）・ガム・帽子着用・寝る姿勢を整えての居眠り・無断退出・イヤホンの着用・教員に対する暴言など、授業を害する行為についても禁止する。目に余るものは退出させ、欠席とみなす。文章力だけを身につけても説得できる文章を書くことはできない。発信したい内容を持つことによって表現力も増す。それゆえ、多くの時間を、単に表現法ではなく、思考法、社会的知識を身につけることに費やす。

科目名 Basic Office EnglishI（Basic Office English Ⅰ）

サブタイトル

担当教員 ガイ　ローズ

■講義目的

The aim of this course is to familiarize you with Basic Office English in common business situations and environments as well as improve overall communication skills in said circumstances.

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人育成
グローバルビジネス

■到達目標

1 Read and discuss news about current business practices, entrepreneurs and situations
2 Learn how to express yourself in English to resolve issues and solve problems
3 Learn: Self-Introductions, Introducing others, Talking about companies, Meeting etiquette, At the office situations, Interviews and Socializing.
4 Live Conference Calls throughout the semester with foreigners
5 Group work and in class presentations.
6 Keywords/Things to know: Scheduling: (Ordinal Numbers, Days of the week, Months of
the year, Time), Companies (Nationalities, Countries), Introductions (“I’m…” “I work for…”) Requests (“Could I/you..”) Interruptions (“Excuse me”, “Pardon me”)

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
挨拶、自己、他人紹介
<第2講>
携帯電話のマナー、オフィスでの日常会話
<第3講>
ビジネス通信、ビジネスでの外食
<第4講>
ミーティング・会議での英語表現
<第5講>
人とモノの売り込み、オファーと交渉
<第6講>
企業モラル、出張
<第7講>
電話表現
<第8講>
Midterm Exam
<第9講>
ビジネストレンド

<第10講>
インターネット、ＩＴ関連表現
<第11講>
就職活動を見据えた英語トレーニング
<第12講>
これまで学んだことの総復習
<第13講>
Performance Skits (video-taped)
<第14講>
Final Speech Test
<第15講>
Final Exam

■教科書

授業内で指示

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

出席	20%	授業内小テスト	20%
宿題	20%	中間テストおよび期末テスト	40%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、
60点～69点　C
70点～79点　B
80点～89点　A
90点～100点　A+
とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

English Expression を履修していなくても当科目を履修できます。
詳細は第一回目の授業でお知らせします。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名 Basic Office EnglishII（Basic Office English ＩＩ）

サブタイトル

担当教員 ガイ　ローズ

■講義目的

The aim of this course is to familiarize you with Basic Office English in common business situations and environments as well as improve overall communication skills in said circumstances.

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

1 Read and discuss news about current business practices, entrepreneurs and situations
2 Learn how to express yourself in English to resolve issues and solve problems (
3 Review/Learn: Self-Introductions, Introducing others, Talking about companies, Meeting etiquette, At the office situations, Interviews and Socializing.
4 Live Conference Calls throughout the semester with foreigners
5 Group work and in class presentations.
6 Keywords/Things to know: Scheduling: (Ordinal Numbers, Days of the week, Months of
the year, Time), Companies (Nationalities, Countries), Introductions (“I'm…” “I work for…”) Requests (“Could I/you..”) Interruptions (“Excuse me”, “Pardon me”)

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
ビジネスコミュニケーションの重要性
<第2講>
キャリアを積む
<第3講>
ＩＴ情報のやりとり
<第4講>
資格を身に付ける
<第5講>
個人やチームによるビジネスプロジェクトの流れ
<第6講>
販売促進に関係する活動
<第7講>
販売促進に関係する活動
<第8講> Midterm Exam
<第9講>
新ビジネスを立ち上げるリスクへの対処、ビジネスとお金の流れ、
<第10講>
ビジネス成功例とブランド、マーケティングとＡＩDMAの英語表現
<第11講>
クレーム処理、ビジネスマナー
<第12講>
企業研究、企業分析
<第13講>
就職活動を見据えた英語表現
<第14講>
これまでの総復習
<第15講>
Final Speech Test
<第16講>
Final Exam

■教科書

授業内で指示

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

出席	20%	授業内小テスト	20%
宿題	20%	中間テストおよび期末テスト	40%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、
60点~69点　C
70点~79点　B
80点~89点　A
90点~100点　A+
とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

English Expression を履修していなくても当科目を履修できます。
詳細は第一回目の授業でお知らせします。

科目名　法学（憲法）（Jurisprudence（including Constitution Law））

サブタイトル

担当教員　石岡　克俊

■講義目的

本講義は、法ないし法的な考え方のエッセンスをできるだけわかりやすく解説していく。最近では、法科大学院(ロー・スクール)をはじめとする専門職大学院の設置に世間の耳目が集まり、わが国でも専門家教育のためのカリキュラムが整いつつある。しかし、いうまでもないことだが、法は弁護士など一部専門家のものではなく、われわれ社会を構成する市民一人ひとりのものである。

われわれが、身近なトラブルに見舞われたとき、その解決に法的素養は不可欠である(トラブルの解決を担う公的な機関は、法をよりどころに判断し、その役割を果たしているからである)。また、昨今制度化され、実施に移された裁判員制度は、一定の法的判断を司法が行う場合に、一般市民がその判断に義務として関与する仕組みである。社会を構成するわれわれは、社会の問題を他人事としてではなく、わが事として考え、その判断や決定に参加することが期待されるが、このような公共的性質を有する判断や決定の際にも、法的素養を欠くことはできない(法は社会を成り立たせている基本的なルールであり、偏見や思い込みを伴った判断や決定は他者を説得する力を欠くからである)。

このように、法は自分自身の利益ないし必要と、他者や社会全体の利益・必要とを折り合わせるための拠り所であり、法を学ぶことは、自らの自由を享受しつつ、他者を意識した適切・妥当な判断ないし決定を促すことであり、また、公共的な判断や決定に参画するための作法を身につけることである。

ここに、専門家教育のための法学とは異なる、いわゆる「教養としての法学」の必要性が存在する。本講義では、「教養としての法学」の意義を踏まえ、法律家(法律学者や裁判官、弁護士などの法曹)と呼ばれる人々の基本的な思考や発想を理解することを目的とする。そして、いくつかの具体的な事例を参照しつつ、さまざまな問題に対しどのような考え方や方法で解決を導いているのか(導いてきたのか)見ていくことにしたい。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成

■到達目標

法や法律に関する基本的な知識や国や行政の仕組みに関する基本的な知識を身につけ、これらの背後にある基本的な発想ないしは思想を適確に理解すること、その上で、法律家と呼ばれる人々の思考や発想の端緒に気づくことを目的とする。

■講義形態

講義のみ　：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： イントロダクション
事前に学習しておく用語：法学
詳細：講義の進め方や評価の方法など、この授業を聞くにあたっての基本的事項についての説明を行う。

<第2講>
概要：法／法律のイメージについて
事前に学習しておく用語：法・自然法・法律・制定法
詳細：まず、法と法律とを有意に区別するところから出発し、法／法律にはどんなものがあり、何を要素とし本質としているか？について説明する。

<第3講>
概要：法学のイメージについて
事前に学習しておく用語：法学・法哲学・法理学
詳細：法学とは何をする学問分野なのか？その役割や対象について説明する。

<第4講>
概要：法律家・弁護士のイメージについて
事前に学習しておく用語：法曹・裁判官・検察官・弁護士・企業内法律家
詳細：専門職としての法律家とはどんな人々で、何をしているのか？について説明する。

<第5講>
概要：法の思考とは何か？（1）：法学を学ぶ意味、法的思考の特徴
事前に学習しておく用語：法的思考・リーガルマインド・リーガルシンキング
詳細：法律家が考えるように考える、つまり法的思考とは何か。どんな点に特徴があり、なぜそういった作法が生まれたのかについて説明する。

<第6講>
概要：法的思考とは何か？（2）：法の解釈（法意思説／立法者意思説）、利益衡量論
事前に学習しておく用語：法解釈・立法者意思・法意思・利益衡量
詳細：解釈学としての法律学について考えてみる。まずは、テキストの解釈として考えられる二つの考え方、すなわち法意思説と立法者意思説、その内容と限界、そして、利益衡量という考え方について説明する。

<第7講>
概要：法に期待される役割と背景にある思想（1）：民事法の役割
事前に学習しておく用語：民法・商法・会社法・私的自治
詳細：近代市民法の典型例である、民事法、殊に民法と商法を中心にその機能や背景に控えている思想について説明する。

<第8講>
概要：法に期待される役割と背景にある思想（2）：刑事法の役割
事前に学習しておく用語：刑法・刑事訴訟法・罪刑法定主義・構成要件
詳細：多くの人々によって法律の典型例とみなされる刑事法。その固有の思想や考え方について説明する。

<第9講>
概要：法に期待される役割と背景にある思想（3）：社会法・経済法の役割
事前に学習しておく用語：労働法・社会保障法・経済法・独占禁止法
詳細：資本主義の発達にしたがって、私法や公法から分化する形で現れてきた社会法。社会法が何を目的としてどういった理念のもと考えられてきたかについて説明する。

<第10講>
概要：法に期待される役割と背景にある思想（4）：憲法・行政法の役割
事前に学習しておく用語：公法・法治国家・法の支配・法律による留保
詳細：国家を形作る憲法及び行政法に見られる固有の原理および考え方について説明していく。

<第11講>
概要：憲法の基本概念を学ぶ
事前に学習しておく用語：憲法・固有の意味の憲法・実質的意味の憲法・立憲主義
詳細：憲法を学ぶ上で重要ないくつかの概念について整理検討する。

<第12講>
概要：自由(人権)と国家
事前に学習しておく用語：人権・消極的自由・積極的自由
詳細：わが国を含め、多くの国々の憲法では、基本的人権の尊重という大原則の下、さまざまな権利や自由というものを保障している。これは、リベラリズムの考え方を基本に据えた近代立憲主義思想の産物である。よく「権利」とか「自由」という言葉をさまざまな生活の場面で使うが、憲法の枠組みにおいてこうした権利とか自由とはいったいどのような意味か。権利・自由の考え方が、現代においてどのように展開してきたのかを見ていく。

<第13講>
概要：「自由」と「秩序」
事前に学習しておく用語：法秩序・人為的秩序・自生的秩序
詳細：個人が自由を享受するには、秩序が不可欠であり、その秩序は法によって形成され、あるいは、一定の秩序というものが法を形成することとなる。この法と秩序の相互関係について説明をしていく。

<第14講>
概要： 法による支配
事前に学習しておく用語：法の支配
詳細：近代市民社会において、いかにして個人の自由を維持・確保して行くか、又はそうしてきたかについて、考えてきた。個人が自由を享受することができるということは、秩序があるからであり、その秩序は法によって形成され、あるいは、一定の秩序というものが法を形成することとなります。近代あるいは現代の国家において、法の形成と執行は、政府の主要な役割となっている。個人の自由を維持・確保するために、これらの政府の役割がどのような形で具体化しているのかをその淵源から眺めていく。

<第15講>
概要：自由を守るための制度：権力分立
事前に学習しておく用語：権力分立・抑制と均衡
詳細：単に権力分立ないしは三権分立といっても、多くの皆さんが感じているよりもずっと複雑なかたちでそれぞれの機関が関連しあい存在していることに気付くことと思います。また、わたしたちは、これまで学んだ制度が現代のさまざまな問題を解決するために十分に機能を果たしているか、また、果たし得るかについても考えていかねばなりません。

■教科書

中山竜一『ヒューマニティーズ法学』（岩波書店・2009年）

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

学期末に行われる試験にて評価を行う（100%）

■評価基準

相対評価

A+ ：
A ：法律家と呼ばれる人々の思考や発想の端緒への気づき
B ：法や法律の背後にある基本的な発想ないし思想の理解
C ：法や法律に関する基礎的な知識等の習得
F ：

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　マーケティングデータ分析I(Marketing Data Analysis I)

サブタイトル

担当教員　酒井　麻衣子

■講義目的

IT化が進んだ現在、企業活動の現場には多くのデータが溢れている。これからの企業人には、そのデータから価値ある情報を読み取り、活用する能力が必須となる。
本講義では、データの入力・加工方法、集計やグラフ化による基本的なデータの特徴の捉え方、データ間の関連性を統計的に明らかにする方法を学ぶ。同時に、企業で広く導入されている専門的な統計解析ソフトIBM SPSS Statistics（旧 SPSS for Windows）の操作方法を身につける。
企業のマーケティング活動においてはさまざまなデータが取得され、活用されるようになっている。みずからデータを取り扱い、データに基づいた判断ができるようになることは、企業人として大きな武器となるだろう。
講義とIBM SPSS Statistics による演習を中心に、以下のような内容について学ぶ。演習は可能な限り他の受講者とのディスカッションや共同作業によって行う。

■講義分類

顧客理解
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

データの入力・加工方法、集計やグラフ化による基本的なデータの特徴の捉え方、データ間の関連性を統計的に明らかにする方法を習得する。同時に、企業で広く導入されている専門的な統計解析ソフトIBM SPSS Statistics（旧 SPSS for Windows）の操作方法を身につける。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1・2・3講>
概要：正しいデータの作り方
事前学習しておくべき用語やポイント[参考図書『SPSS完全活用法　データの入力と加工(第3版)』該当章の予習・復習を勧める]
詳細：
データにはどのような種類があり、どのように取り扱わなければならないのかを、実際にSPSSにデータを入力しながら理解する。
<第4・5・6・7講>
概要：データの要約と視覚化
事前学習しておくべき用語やポイント[参考図書『SPSS完全活用法　データの視覚化とレポートの作成』該当章の予習・復習を勧める]
詳細：
データの表す特徴を捉える方法は、データの種類によって異なる。
顧客リストの男性と女性の人数を比較する場合に適したグラフと、日々の売上高の推移を表す場合に適したグラフは、それぞれどんなグラフだろうか？
データの種類に適した集計方法や見るべき基礎統計量、グラフの描き方などを理解し、そこからどのように特徴を読み取るかを学ぶ。
<第8・9講>
概要：仮説検定の考え方
事前学習しておくべき用語やポイント[「仮説検定」「母集団と標本」「帰無仮説と対立仮説」「有意水準と有意確率」]
詳細：
講義の後半ではデータ間の関係を捉え、統計的にその関係性を明らかにする方法を学ぶ。その基礎となる仮説検定の考え方について理解する。
<第10・11・12・13・14講>
概要：変数間の関係を捉える
事前学習しておくべき用語やポイント[「相関係数」「偏相関係数」「カイ2乗検定」「t検定」「分散分析」]
詳細：
講義前半では単独の変数の特徴を捉える方法を学んだ。後半では、変数間の関係を捉える方法を学ぶ。
関係を見るデータの種類の組み合わせによって、その関係性を捉える方法は異なる。
「顧客の年代によって購入金額は異なるだろうか?」
「商品Aの売上推移と商品Bの売上推移には関連性があるだろうか?」
この2つの疑問を明らかにするには、それぞれどんな要約や視覚化を行い、どんな統計的手法を行えばよいだろうか？
さまざまなデータの組み合わせのパターンごとに、適した集計方法やグラフの描き方、さらにデータ間の関連性を明らかにする統計的手法を学ぶ。
<第15講>
概要：総合演習
事前学習しておくべき用語やポイント[上記]
詳細：本講義の重要ポイントについて総括、復習する。

■教科書

講義時に資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書とするので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

酒井麻衣子　(2011)　『SPSS完全活用法　データの入力と加工(第3版)』　東京図書
酒井麻衣子　(2004)　『SPSS完全活用法　データの視覚化とレポートの作成』　東京図書
石村貞夫　　(2004)　『SPSSによる統計処理の手順　第4版』　東京図書

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

http://faculty.tama.ac.jp/maiko/index.html

■評価方法

期末試験により評価する。
なお、講義期間中に数回のレポート提出の機会を設ける。レポート内容に関連する講義について一定の出席回数を満たす受講者に限りレポートの提出を認め、採点のうえ返却する。ただし出席とレポート提出有無は評価に加味しない。

■評価基準

相対評価
・正しくデータの種類を見極められるか
・データの種類に適した要約と視覚化を行い、特徴を把握できるか
・仮説検定の考え方を理解し、適切な統計手法を選択し、分析結果を読み取れるか
・統計解析ソフトIBM SPSS Statisticsの基本的操作法を身に付けているか等
・なお評価は期末試験受験者の相対評価により行う

■事前履修科目等

・「マーケティング・データ分析II」を履修する場合は、本講義の単位取得を前提とする。
・基本として統計の知識は前提としないが、情報サービスⅡ(シミュレーション)「統計」「リサーチ入門」等で学習した基礎統計量についてあらかじめ復習しておくことを勧める。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・本講義は統計処理ソフトを用いてデータを分析するという専門性を身に付けるものである。毎回の演習の積み重ねで習得していくので、主体的な受講態度を重視する。関心と意欲をもって取り組める学生を対象とする。
・本講義は、社会調査士取得のための認定科目(C)に該当する。

科 目 名　マーケティングデータ分析II（Marketing Data Analysis II）

サブタイトル

担当教員　酒井　麻衣子

■講義目的

「多変量解析」というと、何かとても難解なもののように聞こえてしまうかもしれない。しかし、読んで字のごとく「複数の(多)データ(変量)を扱う分析(解析)」であり、扱う変数が多い場合に行うデータ分析と考えればよい。
扱う変数が多くなればなるほど、そこに含まれる関係性を明らかにするには複雑な数学的処理が必要となる。しかし、分析手法の基本的な仕組みを理解し、必ず確認しなくてはならないポイントと、気を付けなければいけないポイントをわかっていれば、正しく分析を行い、結果を解釈することが可能になる。
本講義では、多変量解析の中でも代表的な分析手法に焦点を当て、その理論的基礎を理解するとともに、実際のデータに対して目的に即した分析を実施し、正しくその結果を読み取れるようになることを目的とする。データが溢れる現代において、企業のマーケティング活動においてもさまざまなデータが取得され、活用されるようになっている。膨大なデータの後ろに秘められた関係性を明らかにする多変量解析は、強力な武器となってさまざまな意思決定に役立つことになるだろう。
講義とIBM SPSS Statistics（旧 SPSS for Windows） による演習を中心に、以下のような内容について学ぶ。演習は可能な限り他の受講者とのディスカッションや共同作業によって行う。
いずれもマーケティング・データ分析Ⅰで学んだ「変数間の関係性の捉え方」および「仮説検定の考え方」を理解していることが前提となるので、しっかり復習した上で講義に臨むこと。また、各講の予習・復習に際しては、以下に記したキーワードを参考にすること。

■講義分類

顧客理解
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

多変量解析の中でも代表的な3つの分析手法（回帰分析・クラスター分析・因子分析）について、その理論的基礎を理解するとともに、実際のデータに対して目的に即した分析を実施し、正しくその結果を読み取れるようになる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1・2・3・4講>
概要：クラスター分析
事前学習しておくべき用語やポイント：「階層モデルと非階層モデル」「デンドログラム」「値の標準化」「距離の測定方法」「クラスタ化の方法」
詳細：
さまざまな商品の購買傾向から、顧客を「デザイン重視」「機能重視」といったいくつかのグループに分類できるのではないか？
クラスター分析は、「似たもの同士をグルーピングする」ことができる分析手法である。ただしクラスター分析に「正解」はない。分析の結果得られたグループを、分析者がみずから特徴づけなくてはならない。多くの多変量解析の手法において、得られた結果をどのように解釈し活用するかは、分析者のセンスにかかっている。そこがデータ分析の醍醐味でもある。
実際のデータに対して正しく分析を実施し、自分なりの解釈を行う一連の流れを、講義と演習により学ぶ。
<第5・6・7・8・9講>
概要：回帰分析、判別分析
事前学習しておくべき用語やポイント：「従属変数と独立変数」「決定係数・寄与率・R2乗値」「偏回帰変数と標準化偏回帰係数」「ダミー変数」「ステップワイズ法」「多重共線性」「実測値と予測値」
詳細：
「売上高の変動にはどんな要因がどれくらい影響を与えているのだろうか？」
「商品Aを買うか買わないかはどんな要因の組み合わせで予測できるだろうか？」
回帰分析や判別分析は、こういった「要因探索」や「予測」を行うことができる代表的な分析手法である。扱えるデータの種類や分析上の注意点を理解し、実際のデータに対して分析から結果の解釈までを正しく行えるよう講義と演習を行う。
※判別分析については、講義の進度によっては割愛する場合がある。
<第10・11・12・13・14講>
概要：因子分析、主成分分析
事前学習しておくべき用語やポイント：「因子抽出法（代表例：主因子法・最尤法）」「因子回転法（代表例：バリマックス回転・プロマックス回転）」「固有値」「累積寄与率」「スクリープロット」「因子の命名」「因子負荷量」「信頼性係数（α係数）」「因子得点」
詳細：
因子分析は、多数のデータの背後にはいくつかの少数の要因があるのではないかと仮定し、その要因を抽出する分析手法である。
例えば、顧客アンケートで店員に関する多くの評価項目に得点を付けてもらったデータからは、「礼儀」「対応能力」「信頼性」という3つの評価軸があることが分かるといったものである。一方、主成分分析は、多数のデータをまとめ、少数の総合指標として表す分析手法である。例えば、企業に関するさまざまな財務データから、財務総合力を表すような指標を作るといったものである。
さまざまな分野でよく使用される手法なので、講義と演習により基本をしっかり理解する。これらの手法を使用することを前提として、適切なデータを取得する方法についても学ぶ。
※主成分分析については、講義の進度によっては割愛する場合がある。
<第15講>
概要：総合演習
事前学習しておくべき用語やポイント：上記
詳細：本講義の重要ポイントについて総括、復習する。

■教科書

講義時に資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書とするので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

朝野熙彦　(2000)　『入門　多変量解析の実際　第2版』　講談社サイエンティフィク
石村貞夫　(2011)　『SPSSによる多変量データ解析の手順　第4版』　東京図書

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

http://faculty.tama.ac.jp/maiko/index.html

■評価方法

期末試験により評価する。
なお、講義期間中に数回のレポート提出の機会を設ける。レポート内容に関連する講義について一定の出席回数を満たす受講者に限りレポートの提出を認め、採点のうえ返却する。ただし出席とレポート提出有無は評価に加味しない。

■評価基準

相対評価
・各分析手法の基本的な仕組みが理解できているか
・各分析手法を実施する上での重要ポイントや留意点をしっかり把握しているか
・実際のデータに対し分析を正しく実施し、結果をレポートとして適切に表現することができるか 等
・なお評価は期末試験受験者の相対評価により行う

■事前履修科目等

・本講義を履修する場合は、「マーケティング・データ分析Ⅰ」（07年度までの名称は「データ分析Ⅰ」）の単位取得を前提とする。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・本講義は統計処理ソフトを用いてデータを分析するという専門性を身に付けるものである。毎回の演習の積み重ねで習得していくので、主体的な受講態度を重視する。関心と意欲をもって取り組める学生を対象とする。
・本講義は、社会調査士取得のための認定科目(E)に該当する。

科目名 マーケティングリサーチ（Marketing Reserch）

サブタイトル

担当教員 豊田　裕貴

■講義目的

様々なマーケティングの課題の検討では、データ(定量・定性)に基づいた判断が必要とされることが少なくない。「マーケティング課題に対してデータを用いた知見を提供すること」がマーケティング・リサーチの目的である。この点から、本講義では、マーケティングに関わるいくつかのリサーチテーマ（2013年度はとくにブランドポジショニング）を元に、「調査設計」、「調査実施方法」ならびに「調査データの整理・分析の仕方」を中心に解説する。

なお、マーケティング・リサーチは、単なるリサーチではなく、マーケティングというきわめて実践的な分野を前提とした科目である。したがって、単に手法を勉強すればマスターできるものではない。そこで講義では、適宜演習や個々人が考える課題を取り入れ、実践的な形式の講義を採用する。

■講義分類

顧客理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

マーケティング・リサーチの習得は、単にスキルの習得でもなく、知識の暗記でもない。新しく学習する各種知識を、現実のマーケティングと対応づけられる力が必要である。したがって、本講義では、学習内容をそれぞれの関心に従い、マーケティングへ応用できることを目標とする。

■講義形態

その他(講義 +レポート)：学外学習無

■講義の概要

（注：講義の進捗などによって変更する場合がある。HPにて変更点などを確認すること）。

<第1講> イントロダクション：マーケティングとリサーチ
　概要：マーケティング・リサーチの全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション
　事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細：マーケティング・リサーチが、単にリサーチスキルの習得ではないことを理解することが目標。そのために、予習では、各自が「マーケティング・リサーチとは何か」を自分なりに考えておくこと。復習では「どんなマーケティング課題が、リサーチ視点からアプローチしうるか」について考えておくことが、この回のポイントである。
<第2講> なぜ人はそれを選ぶのか:ニーズの把握と手段目的連鎖モデル
　概要：ニーズの構造的理解を手段目的連鎖モデルから考える。
　事前学習しておくべき用語やポイント[手段目的連鎖モデル]
詳細：予習では、「手段目的連鎖モデルとは何か」を調べておくとよい。復習では、手段目的連鎖モデルを、自分の興味がある分野（製品やサービス）に応用し、ニーズを階層的に理解することをおすすめする。
<第3講> ヒアリング調査演習:ラダリングによるニーズの把握する
　概要：手段目的連鎖モデルの応用としてラダリングというヒアリング手法を学習する。
　事前学習しておくべき用語やポイント[ラダリング]
詳細：予習では、「ラダリングとは何か」を調べておくとよい。復習では、誰かに協力してもらい、ラダリングを実践してみることをおすすめする。
<第4講> 潜在ニーズリサーチ:満足度とニーズの充足度
　概要：顧客満足度調査ならびに潜在ニーズのリサーチについて学習する。
　事前学習しておくべき用語やポイント[潜在ニーズ]
詳細：予習では、「潜在ニーズとは何か」を調べておくとよい。復習では、興味のある分野について、未だ充足されていないニーズを検討することをおすすめする。
<第5講> ニーズと商品評価、そして競合関係を検討する：ポジショニングマッピング(1)
<第6講> ニーズと商品評価、そして競合関係を検討する：ポジショニングマッピング(2)
<第7講> セグメントごとのブランド評価を検討する：ポジショニングマッピング(3)
　概要：ブランドポジショニングマップの作り方ならびに応用の仕方について学習する。
　事前学習しておくべき用語やポイント[ポジショニングマップ]
詳細：5-7講では、EXCELなどを用いたデータ分析についても解説する。この期間は、予習よりむしろ復習に重きを置き、実際に各自がEXCELなどで分析を行うことを強くおすすめする。なお、予復習用のデータについては、WEBを通じて配布する予定である。
<第8講> ブランドを理解するための調査と質問紙法
<第9講> 実験調査(実査そして解釈)
<第10講>実験調査(分析)
　概要：実際の調査のかけ方を中心に解説、演習を行う。
　事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細：8-10講では、実際に各自が調査設計をする演習を予定している。事前に指定されるテーマについて、十分な準備をして講義にのぞむ必要がある。予復習によって行った作業を、講義内課題として提出することで、通常点として評価する予定である。
<第11講> 店舗内行動をリサーチする:POSデータの利用、観察法の利用
<第12講> 値頃感にアプローチする:価格に関するリサーチ
概要：店舗内行動ならびに価格に関するマーケティング・リサーチを学習する。　事前学習しておくべき用語やポイント[価格、店舗内行動]
詳細：11-12講は、店舗内行動や価格付けといった具体的なテーマを用いた解説になる。予習よりは、復習に力点を置き、各自が講義で学んだ知見が実際の店舗ではどう応用されているかを確認し、さらに問題点がどこにあるかを考えることをおすすめする。
<第13講> マーケティング・リサーチ事例紹介(1)
<第14講> マーケティング・リサーチ事例紹介(2)
概要：事例による学習事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細：13-14講は、実際の事例を元に、マーケティングとマーケティング・リサーチとの関係をより具体的にイメージできることを目指す。したがって、ここまでの12回で何を学んできたかを一通り復習の上、講義にのぞむことを期待する。
<第15講> まとめ（受講人数によっては、期末試験）

■教科書

・豊田裕貴『ブランドポジショニングの理論と実践』講談社サイエンティフィック（2013）

■指定図書

(随時、紹介するが、まずは以下の七冊を指定図書とする)
・朝野熙彦(1996)『入門多変量解析の実際』講談社
・朝野熙彦(2000) 『マーケティング・リサーチ工学』朝倉書店
・朝野熙彦(2000) 『魅力工学の実践』海文堂
・上田太一郎（2002）『データマイニングの極意書』共立出版
・上田拓治（1999）『マーケティングリサーチの論理と技法』日本評論社
・片平秀貴(1987)『マーケティング・サイエンス』東京大学出版会
・鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(1998)『質問紙法』北大路書房

■参考文献

■参考URL

■評価方法

通常点（レポートおよび講義内課題:40点）＋期末試験:60点＝計100点(その他、授業内外での取り組みに対する加点有り)。詳細は第一回目講義にて説明。

■評価基準

絶対評価
・本講義は、絶対評価により成績評価を行う。
・評価基準は、単なる知識を暗記したか否かではなく、各種知識について自分なりの解釈・意見を持ち、表現（レポートや期末試験の論述問題）できるかを重視する。
・したがって、単に試験前に他者のプリントやノートを見ればどうにかなる科目ではなく、受講しながら考える姿勢を評価の基本にする。

■事前履修科目等

マーケティングモデリングを履修しておくことを強く推奨する

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する（ただし履修状況や期末試験などの成績による）

■留意点

・もちろん出席は前提であるが、全回出席をとることはしない（出席をとった場合は、上記「授業内外の取り組み加点」として加味する）。
・なお、基本的に出席は取らないが、教科書を指定していないため、講義に出ずに自習のみで単位を取ることは難しい。
・通常点は、レポート一回というものではなく、講義内での課題を含む。そのため、出席

は取らないが、休んだ回に講義内課題が出た場合には、その分の点数が得られないことになることを留意しておくこと。
・平等に評価するため、特定個人から依頼によって試験終了後に救済処置としての追加レポートなどは実施していない。4年生は特に注意の上、履修すること。

科目名　マーケティング入門(Marketing Principle)

サブタイトル

担当教員　村山　貞幸

■講義目的

マーケティングの仕事を学び、その面白さを知ることで、志の視野を広げる。
企業のマーケティングに関する問題解決に必要な基本的な概念を、さまざまな企業の最前線事例を通じて学び、マーケティング思考力、問題解決力を鍛えることで、実践的知識・能力を獲得することを目指す。
講義では、インタラクションを重視し、ディスカッションやプレゼンテーションを組み込んで学んでいく。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

（1）　マーケティングの仕事を知り、将来のキャリアについて考えるベースをつくる。
（2）　マーケティングの基本的な概念を理解する。
（3）　その概念を、将来ビジネスの現場で使いこなし、さまざまな問題解決につなげるような実践的知識・能力を獲得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講> プロフェッショナル・マーケターとは
概要：講義の概要、受講姿勢、評価方針、その他注意点などを確認する。
事前学習用語：プロフェッショナル
詳細：受講生に目指してほしいプロフェッショナル・マーケターの定義、その意義、そしてそのようなビジネスパーソンになるための方法案を説明する。目標設定の回。プロフェッショナル・マーケターを目指すか？目指すならば、そのために何をするか？　今後の学生生活の再設計にチャレンジしよう！
到達目標：プロフェッショナル・マーケターになる意味と意義を理解する。

<第2講> マーケティングと社会
概要： マーケティングの実社会に対する影響の強さを知り、その面白さを確認する。
事前学習しておくべき用語やポイント[プロフェッショナル・マーケター]
詳細：日々あふれるように浴びせかけられる情報を精査、その中からマーケティング情報を選り分け、その影響度を探る。マーケティングがいかに一般消費者に影響を与えているかを確認する。情報を手の上で転がしながら、プロレベルの生活を送ろう！
到達目標：マーケティングにおける情報マネジメントの概要を理解する。
<第3講>　プロフェッショナル・マーケターのこだわり
概要：マーケターのこだわりをＰＶの中で確認し、マーケティングの面白さを知る。
事前学習しておくべき用語やポイント[プロモーション、マーケティング・コミュニケーション　]
詳細：マツダのプロモーションビデオを鑑賞し、それがどのような意図で、どのように創られたかを考察。優れたＰＶ制作に不可欠な要素を解説し、マーケティング活動の難しさと魅力を確認する
到達目標：マーケターのこだわりの実態を知る。
<第4講>　マーケティングの本質
概要：マーケティングとは何か、その本質を確認する。
事前学習しておくべき用語やポイント[]身の回りの面白いマーケティング事例を確認し、マーケティングの影響を分析してみよう。
詳細：六本木における新規開店戦略を作成することを通じ、マーケティングの重要性を確認する。そして、マーケティング活動におけるニーズマネジメントの重要性を理解する。関心のある商品、サービスを選択し、それがどのようなニーズをとらえているかを考察する。
到達目標：マーケティングの本質を理解する。
<第5講>　市場分析1
概要：顧客ニーズには構造があることを理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ニーズ] 普段から、何で自分はこの商品を買うのだろう？何でこのお店、映画、小説に引き付けられるのだろう？と考える癖をつけよう！
詳細：ユニークな経営で市場に参入したきりしまフラワーの事例を分析する。同ビジネスが、誰の、どのようなニーズを、どのようにとらえているかを理解することで、ニーズの構造を把握することの重要性を再確認する。
到達目標：ニーズの構造を理解する。
<第6講>　市場分析2
概要： 潜在ニーズを理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ニーズの構造] 世の中で充足されていないニーズを探し出す。それを充たす商品やサービスを創れないか？考えてみよう！
詳細：　吉本興業、ジャニーズ事務所のケースを分析することで、ニーズには、顕在しているニーズだけでなく、潜在しているニーズがあることを確認する。
到達目標：潜在ニーズについて理解する。
<第7講>　市場分析3
概要： ニーズが顧客により違う場合と同じ場合があることを確認する
事前学習しておくべき用語やポイント[ニーズ] ユニークニーズをとらえた商品、サービスの具体例をさがしてみよう！
詳細：カフェのケースを分析することで、ニーズは人により同じ場合と異なる場合があることを確認。セグメンテーション、ターゲッティングの方法を解説する。
到達目標：セグメンテーション、ターゲッティングを理解する。
<第8講>　競合分析1
概要：
事前学習しておくべき用語やポイント[競争] さまざまな商品・サービスの競争相手を検討する。その商品、サービスの競争力を評価しよう！
詳細：携帯電話などの分析を通じてポジショニングの基本を理解する。さらに、トヨタ、アサヒビール、スターバックスなどのポジショニングを通じて、優れたポジショニングの考え方を学ぶ。
到達目標：ポジショニングを理解する。
<第9講>　競合分析2
概要： セグメンテーション→ターゲッティング→ポジショニングの流れを確認する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ポジショニング] 優れたポジショニングの事例を探す。ポジショニングの失敗例を挙げ、リポジショニングによる改善を検討する。自分を売り込む際にも、自分のポジショニングを考えることは有効だ。やってみよう！
詳細：青山フラワーマーケットを分析することで、セグメンテーション→ターゲッティング→ポジショニングの流れを確認する。
競争の範囲、持続性、相対性など、競争戦略の重要なポイントを理解する。
到達目標：競争戦略の概要を理解する。

<第10講>　競争分析3
概要：競争力の違いによる戦い方について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[競争戦略] 関心のある商品、サービスがどのように競合と戦っているか探ってみよう。アイディアを駆使して面白い戦い方をしている商品がたくさんあるはずだ！
詳細：商社の成長戦略を、これまで確認してきた市場分析、競合分析を駆使しながら検討、競争地位に応じた戦略定石を学ぶ。
特定の業界内のプレーヤーを分析、それぞれの競争地位を確定後、定石をベースに戦略を評価する。応用力を鍛えるためにも、まずは定石をしっかり頭に叩き込もう！
到達目標：競争地位ごとの戦略の定石を理解する。
<第11講>　マーケティング戦略立案1
概要： マーケティング戦略の立て方を学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略] 特定の商品・サービスをブランドレベルで選択、そのマーケティング戦略を戦略立案プロセスに沿って考察する。これまで学んできた全ての概念が、戦略立案プロセスのどこに位置づけられるかを確認する。いよいよまとめの段階に入ってきた。わからない場合は、過去の講義に立ち戻り、基本を復習しよう。
詳細：ソニーの事例を通じてマーケティング戦略立案の全体像を把握。
到達目標：マーケティング戦略立案のプロセスを理解する。
<第12講>　マーケティング戦略立案2
概要： マーケティング戦略立案プロセスの理解を深める。
事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略]　最終レポートに向けて、与えられた課題の環境分析を行う。その際、すべてに裏付けデータを添えることを心がける。必要に応じて調査をかける。レポートを作成することにより、これまでの講義が理解できていたかが確認できる。このプロセスは手を抜かず、しっかり挑戦していこう！
詳細：危機に陥った医療法人等の立て直しを検討することで、マーケティング戦略立案プロセスを理解する。中でも環境分析に力を入れ、市場、競合、自社分析の理解を深める。

到達目標：マーケティング戦略立案を通じて、環境分析の理解を深める。
<第13講> マーケティング戦略立案3
概要：マーケティング戦略を立案する。
事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略]レポートの作成。環境分析に基づき、競争優位性のある戦略を立案しよう！マーケティングの醍醐味が感じられる大切なフェーズだ！
詳細：ホンダのケースを検討することで、マーケティング戦略立案プロセスを再確認。戦略立案において環境整合性のみならず、戦略間整合性の重要性を理解する。
到達目標：マーケティング戦略立案を通じて、マーケティング戦略概念の理解を深める。
<第14講>マーケティング戦略立案4
概要：マーケティング戦略において、顧客の不満にも配慮する必要性を理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略] レポートの作成。マーケティング戦略部分を、環境との整合性、戦略間整合性に充分配慮しながら仕上げる。説得力のある企画書になるよう、内容のみならず、表現にもこだわろう！
詳細：日本航空の航空機内対応を評価することで、顧客満足だけでなく顧客不満足にも視野を広げ、対応することの重要性を理解する。
到達目標：マーケティング戦略立案を通じて、顧客満足、不満足についての理解を深める。
<第15講> まとめ
概要：講義のまとめと質疑応答。
事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略]レポートの仕上げ。読み手（顧客と同じ）の立場になり、その内容、表現に魅了されるか（ニーズを充足）、最終チェックを行う。自分たちが読んで魅力的だと思わないものが、他人の心を動かすことはない！の視点で厳しくチェックしよう！
詳細：講義をまとめると同時に、他のマーケティング、戦略関連科目との関連を解説、
今後の履修への流れをつくる。
講義全体を振り返り、自分なりのプロフェッショナル・マーケター像を創り、それを目指す計画を考える。
到達目標：マーケティングの基本概念をすべて理解する。

■教科書

■指定図書

■参考文献

グロービス・マネジメント・インスティテュート『改訂3版グロービスMBAマーケティング』
（『新版MBAマーケティング』も可） ダイヤモンド社

■参考URL

■評価方法

レポート100%

■評価基準

マーケティングの基本的な概念が適切に利用さているか。
-必要な情報が網羅的に把握されているか。
-環境分析から適切な市場機会・課題を抽出しているか。
-市場機会・課題に整合的な戦略が提示されているか。
相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修人数などにより講義の構成は変わる可能性がある。

科目名　マーケティングマネジメント論（Marketing Management）

サブタイトル

担当教員　趙　佑鎮

■講義目的

マーケティングとは「売れる仕組みづくり」である。そして、マーケティングマネジメント論とは、マーケティングをマネジメントの観点から捉える「システム的」、「全体最適」思考からの論である。そして、問題解決における手段と思考の多くが、マーケティングに通じるものである。この講義では、マーケティングマネジメントを行う人にとって必要な知識、概念、理論、手法、発想、技術、思考などの「基礎」を学ぶことで、その実行と問題解決の手がかりを得ることを目的とする。実際のマーケティングにおける企業を中心とした最前線事例をできるだけとりあげて、現実のマネジメントに適用可能になるよう説明する。担当教員としてメリハリがあり、分かり易い講義を常に心がけたい。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
グローバルビジネス

■到達目標

マーケティング・マネジメント・プロセスの基本を理解し、マーケティング企画・マーケティングマネジメントを行う際の重要概念の修得をめざす。中小企業診断士試験レベルの問題解読を目指す。

■講義形態

講義のみ
その他(マーケティングの事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　オリエンテーション
概要：マーケティングマネジメントの概要
事前学習しておくべき用語：マーケティングコンセプト
詳細：マーケティングをマネジメントの観点から捉えること、マーケティング・コンセプトを理解する
<第2講>　戦略計画
概要：戦略とは？　戦略の構想、ビジョン策定
事前学習しておくべき用語：選択と集中
詳細：マーケティング・マネジメント・プロセスと戦略計画の関係を理解する
<第3講>　マーケティング環境分析(1)
概要：マーケティング環境の性格
事前学習しておくべき用語：マクロ環境、ミクロ環境
詳細：マーケティング・マネジャーの洞察力を理解する
<第4講>　マーケティング環境分析(2)
概要：SWOT分析
事前学習しておくべき用語：マイクロトレンド
詳細：市場機会/課題抽出を理解する
<第5講>　ＳＴＰ(1)
概要：市場細分化するための基準
事前学習しておくべき用語：セグメンテーション、ターゲッティング
詳細：ターゲット・マーケティングのメリットを理解する
<第6講>　ＳＴＰ(2)
概要：ポジショニング成功の鍵
事前学習しておくべき用語：ポジショニング、ティッピングポイント
詳細：製品差別化とポジショニングの関係及びポジショニングのガイドラインを理解する
<第7講>　コンセプト・メイキング
概要：コンセプトとブランド・マネジメントの関係
事前学習しておくべき用語：物語マーケティング
詳細：新製品開発プロセス、ブランドとは何かを理解する
<第8講>　製品
概要：サービス（プロダクト）
事前学習しておくべき用語：経験マーケティング
詳細：製品のレベルと分類、サービスの特徴を理解する
<第9講>　価格（プライシング）
概要：価格と価値
事前学習しておくべき用語：スキミングプライシング、ペネトレーションプライシング
詳細：価格設定の手順や新製品価格設定を理解する
<第10講>　チャネル（流通経路）
概要：大規模小売商業（流通小売企業）
事前学習しておくべき用語：チャネルパワー基盤論
詳細：チャネルの長さ・管理形態・幅の設定をいかに行うかを理解する
<第11講>　コミュニケーション（プロモーション）
概要：広告、販売促進、人的販売
事前学習しておくべき用語：パブリシティー
詳細：コミュニケーション手段のメリットとデメリットを考慮した上でのマネジメントを理解する
<第12講>　マーケティングマネジメントの実際
概要：日本企業のマーケティング
事前学習しておくべき用語：破壊的イノベーション、マーケティング志向的組織
詳細：実際の日本企業の最前線事例を通してマーケティングマネジメントを行う際の問題解決を理解する
<第13講>　マーケティングマネジメントに必要な発想法と思考法の諸々
概要：マーケティング・パラダイムの変遷
事前学習しておくべき用語：リレーションシップマーケティング
詳細：マーケティング行動モードの認識モデルを理解する
<第14講>　実社会のブランドマーケティングの専門家、またはマーケティングマネジャーのゲスト講義
概要：マーケティング企画の実際
事前学習しておくべき用語：グローバルマーケティング、ブランドマーケティング
詳細：職業としてのマーケティングマネジャーを実感すると共に企画の実際をより理解する
<第15講>　総括
概要・詳細：これまでの配布資料に基づいたおさらいと総括
※　講義の順序は、学生の理解度と進捗度によって前後、変更する場合があることを留意されたい

■教科書

随時、プリント資料を配布

■指定図書

・フィリップ・コトラー『コトラーのマーケティング・マネジメント－ミレニアム版』ピアソン・エデュケーション社
・趙佑鎮編著『奇跡を呼びこむ、人－イノベーションの起点、韓国と日本と松下イズム』悠雲舎

■参考文献

授業ごとに提示

■参考URL

■評価方法

・期末試験（筆記試験・100%）+出席（加算点としての+α）+授業態度（加算点としての+α）
・詳細はオリエンテーション時に提示

■評価基準

相対評価
・上記の総合評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・授業態度における私語、携帯電話（をいじること）、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、熾烈に厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なもの（教員個人的には極めて不本意）であるが、このような注意と授業態度を静粛に保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は絶対的に勧められない。この点は、何度も強調したいものであり、講義のスタートから徹底することを約束する。

科 目 名　マーケティングモデリング（Marketing Modeling）

サブタイトル

担当教員　豊田　裕貴

■講義目的

ビジネスを考える上では、売上げやシェア、認知率、利益など各種の目標を設定し、いかにその目標を達成するかという思考が必須である。そのためには、原因と結果の構造をモデル化できる力は非常に有効である。本講義は、これらの視点からマーケティングテーマをモデル視点から検討し、各自がモデルを作れる力を習得することを目指す。

なお、モデリングといっても数式を中心にするのではなく、図解によるモデリング等を合わせて解説する。また、Excelなどのソフトを使う演習を取り入れ、使える知識としての学習を目指す。

■講義分類

顧客理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

マーケティング・モデリングは、単にスキルの習得でもなく、知識の暗記でもない。新しく学習する各種知識を、現実のマーケティングと対応づけられる力が必要である。したがって、本講義では、学習内容をそれぞれの関心に従い、マーケティングへ応用できることを目標とする。

■講義形態

その他(講義 +レポート)：学外学習無

■講義の概要

（注：講義の進捗などによって変更する場合がある。HPにて変更点などを確認すること。）
<第1講> イントロダクション：マーケティングならびにモデリングの基礎
概要：モデリングの全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[ ]
詳細：まずはマーケティングをモデリングの視点から解説し、全体像の把握を目指す。とくに、予習は必要ないが、マーケティングとは何かについて、各自が意見を持って受講することが望ましい。
※以下、第2講から第14講に共通する〈予習、復習のポイント〉
本講義の最も重要なポイントは、モデリングのフレームで、現実のマーケティングの問題を整理し、どのように応用するかを考えることにある。したがって、予習よりはむしろ復習が重要であり、知識の適応の仕方を考えることに力点が置かれる。
各回の内容を講義で用いたものとは異なる事例によって、各自が説明できるようになることが、復習の目安である。
<第2講>視覚化によるモデリング(1):コンセプトモデルの考え方
<第3講>視覚化によるモデリング(2):コンセプトモデルの作成・演習
概要：視覚化によるモデリングの基礎を学び、それぞれの興味関心にモデリングを応用する方法を学習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[各自の興味関心ある領域を事前に考えてくる]
詳細：各自の興味関心あるテーマについて実際にモデリング演習をし、モデリングの全体像を理解する。
<第4講>ゴールセッティングとモデリング（1）
<第5講>ゴールセッティングとモデリング（2）
概要：モデリングのy（結果系）に何を設定すべきかについてビジネス事例を元に学習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[会計学で学ぶ利益の定義式を調べてくる]
詳細：ゴールをサブゴールに分解する方法について学習する。

<第6講>価格決定とモデリング（1）
<第7講>価格決定とモデリング（2）
概要：モデリングの解析方法として、回帰分析を使い、またその応用方法について学習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[回帰分析]
詳細：EXCELによる演習を行うため、PCの用意が必要である。
<第8講>モデリングとシミュレーション（1）
<第9講>モデリングとシミュレーション（2）
<第10講>モデリングとシミュレーション（3）
概要：モデリングの応用として、シミュレーションを学習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[シミュレーション、分布]
詳細：EXCELによる演習を行うため、PCの用意が必要である。
<第11講> 人の好みを測定する(1)：コンジョイント分析の基礎
<第12講> 人の好みを測定する(2)：コンジョイント分析の実践
概要：モデリングの応用として、シミュレーションを学習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[シミュレーション、分布]
詳細：EXCELによる演習を行うため、PCの用意が必要である。

<第13講> セグメントごとのブランドの好みをモデル化する
概要：モデリングの応用として、対象の分類を学習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[セグメンテーション、クラスタリング、多母集団]
詳細：EXCELによる演習を行うため、PCの用意が必要である。
<第14講> シチュエーションの違いで広告効果の変化を分析する:交差項の活用
概要：モデリングの応用として、条件によるモデルの変化について学習する。
事前学習しておくべき用語やポイント[交互作用、交差項]
詳細： ビジネスでモデルを用いる際に重要となる条件によるモデルの変化について事例と演習を元に学習する。
<第15講> まとめ

■教科書

特になし

■指定図書

(随時、紹介するが、まずは以下の五冊を指定図書とする)
・朝野熙彦　『入門多変量解析の実際　第二版』　講談社(2000)
・片平秀貴　『マーケティング・サイエンス』　東京大学出版会(1987)
・木戸茂　『広告マネジメント』　朝倉書店(2004)
・古川一郎、守口剛、阿部誠　『マーケティングサイエンス入門』　有斐閣アルマ(2003)
・守口剛　『プロモーション効果分析』　朝倉書店(2002)

■参考文献

講義時に随時紹介する

■参考URL

■評価方法

通常点（レポートおよび講義内課題:40点）＋期末試験:60点=計100点(その他、授業内外での取り組みに対する加点有り)。詳細は第一回目講義にて説明。

■評価基準

絶対評価
・本講義は、絶対評価により成績評価を行う。
・評価基準は、単なる知識を暗記したか否かではなく、各種知識について自分なりの解釈・意見を持ち、表現（レポートや期末試験の論述問題）できるかを重視する。
・とくに、自身でモデルを考えられるようになることが必要である（なお、ここでいうモデルを考えられる力とは、数学的にモデルを表記することではなく、原因と結果との関係を構造化できる力をさす）。
・したがって、単に試験前に他者のプリントやノートを見ればどうにかなる科目ではなく、受講しながら考える姿勢を評価の基本にする。

■事前履修科目等

特に指定なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する（ただし履修状況や期末試験などの成績による）

■留意点

・もちろん出席は前提であるが、全回出席をとることはしない（出席をとった場合は、上記「授業内外の取り組み加点」として加味する。
・なお、基本的に出席は取らないが、教科書を指定していないため、講義に出ずに自習のみで単位を取ることは難しい。出席を前提にしない場合を履修しないこと。
・通常点は、レポート一回というものではなく、講義内での課題を含む。そのため、出席は取らないが、休んだ回に講義内課題が出た場合には、その分の点数が得られないことになることを留意しておくこと。
・平等に評価するため、特定個人から依頼によって試験終了後に救済処置としての追加レポートなどは実施していない。4年生は特に注意の上、履修すること。

科目名 マクロ経済学（Macroeconomics）

サブタイトル

担当教員 椎木　哲太郎

■講義目的

「産業社会」のメカニズムを解明するために不可欠なマクロ経済学の原理を学び、実態経済への適用を志向する。マクロ経済の動向が我々の生活と深い結びつきを持っていることを理解し、その健全な運営に努める「問題解決の学」としての活用方法を身に付ける。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

マクロ経済学の理論を学び、企業活動の前提となるマクロ経済、諸変数の動向と因果関係に関する理解を深め、生活者・市民として望ましいマクロ経済政策を構想することができる。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>マクロ経済学を学ぶ
概要：経済問題の解決を志向する「経世済民」の学としてのマクロ経済学の特質を明らかにし、よりよい社会の構築に向けた「志」の必要性を説く。
事前学習しておくべき用語やポイント[マクロ経済学，産業社会論入門（経済学入門）の後半部分,失業率,インフレ率,為替レート,経済成長率,オークンの法則,フィリップス曲線]
詳細：マクロ経済学の特質、経済安定化の社会的意義について理解する。マクロ経済学を学ぶことは、どう「役に立つ」か。マクロ経済を「需要サイドから見る」、「供給サイドから見る」とはどういうことか。抽象的概念である生産物市場、金融市場、労働市場、経済成長等のイメージを持つ。
<第2講>経済体制
概要：マクロ経済の土台とも言える経済体制・経済制度とその変化について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[経済体制，NPO，サード・セクター，重商主義，アダム・スミス，自由放任型資本主義，ケインズ革命，福祉国家，管理通貨制度]
詳細：経済体制・経済制度とは何か。交換・強制・贈与の原理について理解する。アダム・スミス以降の時代の古典的資本主義が、1929年に始まった世界恐慌を経てどのように変貌したのかを明らかにする。
<第3講>「資本主義」の変貌とマクロ経済学の進化
概要：第二次世界大戦後の「混合経済」とケインズ派マクロ経済学が、1980年代以降のグローバル市場経済化、情報化の進展によってどのように変化を遂げたのかを考える。「資本主義」の変貌とマクロ経済学の変遷について大まかなイメージを持つ。
事前学習しておくべき用語やポイント[混合経済，新古典派経済学，ケインズ経済学，スタグフレーション，合理的期待形成理論，金融自由化，新自由主義，収穫逓増]
詳細：「資本主義」に対するケインズ、シュンペーター、ハイエクの見方の違いを知る。1980年代以降の「資本主義」の変貌と、フリードマン以降のマクロ経済学の発展過程の概略を理解する。
<第4講>SNA/GDP/国際収支/国力・豊かさ・幸福度
概要：一国のマクロ経済のパフォーマンスを体系的に測る統計上の指標SNAについて、GDPを中心に説明する。GDPの意義、豊かさや幸福についても考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[SNA，フローとストック，GDP，GNI，総固定資本形成，投資，GDPデフレーター，名目と実質，国際収支，経常収支,産業社会論入門（経済学入門）の後半部分]
詳細：GDPを中心とした諸概念とそれらの相互関係について理解する。三面等価、総固定資本形成、投資と消費、GDPデフレーター、名目値と実質値等について理解する。国際収支表の見方と日本の国際収支の変化について考察する。GNIの意義に加え、幸福度指標や反成長論について検討する。
<第5講>物価指数と有効需要の原理、ISバランス
概要：物価指数の概念と有効需要の原理、ISバランスの考え方等について理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[CPI，総供給，総需要，有効需要の原理，セイの法則，事前と事後,ISバランス]
詳細：GDPデフレーターと消費者物価指数の概念を検討する。マクロ経済の総供給と総需要が等しいという需給均衡条件は、貯蓄と投資が等しいということを意味している。マクロ経済にISバランスからアプローチする見方、経済理論上の短期と長期の区別について理解する。マクロ経済学全体の理論構造、今後の講義の展開過程を頭に入れる。

<第6講>消費関数と投資関数
概要：消費や投資の水準の決定要因について考える。貯蓄率の動向を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[消費関数，ケインズ型消費関数，可処分所得,限界消費性向，恒常所得仮説，ライフサイクル仮説，投資関数，資本の限界生産性，資本の使用者費用]
詳細：ライフサイクル仮説、恒常所得仮説について理解する。日本の貯蓄率の動向を分析する。投資関数について検討する。
<第7講> 国民所得の決定
概要： 総需要の構成要因の変化が、マクロ経済全体として国民所得（GDP）にどのような影響を与えるのかを考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[乗数理論，投資乗数，完全雇用GDP，デフレギャップ，インフレギャップ，「産業社会論入門（経済学入門）」後半部分の復習]
詳細：国民所得決定理論、45度線分析について理解する。「インフレギャップ」、「デフレギャップ」の概念を理解する。
<第8講>貨幣市場の均衡
概要： 現金通貨と預金通貨を合わせた通貨（貨幣）の需要と供給について理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ワルラス法則，マネーストック，信用創造，貨幣需要関数，取引需要，資産需要，流動性選好，貨幣数量説，ケンブリッジ方程式，マーシャルのK]
詳細：通貨に対する需要は何に影響されるのか。貨幣市場と財・サービス市場の関係は？
<第9講>金融政策
概要： 金融政策の役割、目標、手段、波及経路等について理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[ハイパワード・マネー，通貨乗数，政策金利，コールレート，短期金融市場，公開市場操作,テイラー・ルール，資産効果，フィッシャー方程式，実質利子率]
詳細：金融政策の意義、中央銀行の役割、新しい金融政策について理解する。中央銀行はマネーストックをどこまでコントロールできるのか。金融政策の限界は？
<第10講>IS-LM分析
概要： IS-LM分析を通じて財政金融政策の理論的フレームワークを理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[IS曲線，LM曲線，クラウディングアウト，投資の利子率非弾力性，流動性の罠，マンデル=フレミングモデル]
詳細：IS-LM分析の意義と限界、マンデル=フレミングモデルについて考える。不況期のマクロ経済政策はどうあるべきか。
<第11講>財政政策
概要： 安定化政策としての財政政策について考える。財政赤字と累積債務の問題を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[ビルトイン・スタビライザー，政府支出乗数，租税乗数，均衡予算乗数，国債の中立命題，非ケインズ効果]
詳細：裁量政策の問題点、国債の中立命題、非ケインズ効果等について考える。なぜ日本の国債価格は暴落しないのか。
<第12講>AD-AS分析とインフレ・デフレ
概要： AD-AS分析とインフレ・デフレについて考察する。
事前学習しておくべき用語やポイント[労働供給曲線，労働需要曲線，AD曲線，AS曲線，インフレーション，デフレーション]
詳細：AD-AS分析とは何か。インフレーションやデフレーションはどのような原因で生じるのか。どのような弊害をもたらすのか。
<第13講>労働市場
概要：労働市場と失業について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[自発的失業，摩擦的失業，非自発的失業，（フィリップス曲線），自然失業率仮説，貨幣錯覚，ベバリッジ曲線，（オークンの法則）]
詳細：失業はなぜ生じるのか。インフレと失業の関係は？日本の失業率はなぜ低かったのか。なぜ1990年代半ば以降急上昇したのか。
<第14講>経済成長理論入門
概要： 経済成長とその理論について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[成長会計，TFP，新古典派成長理論，定常状態,内生的成長理論,スピルオーバー]
詳細：経済成長の源泉は何か。経済成長理論はどのように発展してきたのか。新古典派成長理論と内生的成長理論の違いは何か。世界各国の経済成長に関するデータを分析し、経済成長について考える。
<第15講>マクロ経済学の有効性
概要： マクロ経済学は現代の経済現象を分析するのにどこまで有効かを考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[ルーカス批判，]
詳細：恐慌、バブル経済、インフレーション、デフレーション、若年者失業、債務危機等のマクロ経済現象は、マクロ経済学によってどこまで分析できているのか。
＊履修者少数の場合は、授業時間内試験を行う。

■教科書

一応なし（ただし、下記から少なくとも1冊を選び、読破して頂きたい。講義の予習・復習に欠かせない。）

■指定図書

[1]福田慎一・照山博司（2011）『マクロ経済学・入門』（第4版）有斐閣アルマ
[2]ヨラム・バウマン[山形洪生訳]（2012）『この世で一番おもしろいマクロ経済学』ダイヤモンド社

■参考文献

[1]福田慎一・照山博司（2009）『演習式マクロ経済学・入門』有斐閣
[2]吉川洋（2009）『マクロ経済学』(第3版)岩波書店
[3]伊藤元重(2012)『マクロ経済学』(第2版)日本評論社
[4]飯田泰之・中里透（2008）『コンパクト マクロ経済学』新世社
[5]脇田成(2012)『マクロ経済学のナビゲーター』（第3版）日本評論社
[6]中谷巌(2007)『入門マクロ経済学』（第5版）日本評論社
[7]N・グレゴリー・マンキュー（2011）［足立英之・地主敏樹・柳川隆訳］『マンキューマクロ経済学Ⅰ 入門篇』(第3版)東洋経済新報社
[8]N・グレゴリー・マンキュー（2012）［足立英之・地主敏樹・中谷武・柳川隆訳］『マンキューマクロ経済学Ⅱ 応用篇』（第3版）東洋経済新報社
[9]齋藤誠・岩本泰志・太田総一・柴田章久(2010)『マクロ経済学』有斐閣

■参考URL

■評価方法

評価は、期末試験[持込み不可]の結果(70%)、小テスト・レポート・出席(30%)により行う.

■評価基準

試験範囲が十分学習され、理解できているか。答案に学習の形跡が十分認められるか。私が講義の中で特に力点を置いて詳説した（4から5点の）内容が、十分に説明できるか。マクロ経済学の基礎理論について理解できているか。それに基づいて経済現象を説明することができるか。

相対評価

■事前履修科目等

「産業社会論入門（経済学入門）」［2010年度以前入学者は「経済学基礎」］の単位取得者に限り履修することができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目の特徴として、一度欠席すると講義についていけなくなる危険性が高い。毎回の講義の理解、復習、積み重ねが不可欠な科目であることを十分心得おかれたい。教科書（指定図書・参考文献の中のもの少なくとも1冊）や配布資料に対する理解は欠かせない。従って、一度も出席せずして、（あるいは教科書を購入せずして）単位を取得することは不可能であろう。

講義の中で最新の経済ニュースを取り上げ、分析して頂くので、新聞やネットで日々チェックしておくことが必要とされる。

講義の中で求める「課題レポート」の作成にあたっては、MS Office、Excelを使いこなすことを目標とする。

科目名　マネジメントデザイン論Ⅰ(Management Design Theory Ⅰ)

サブタイトル　図解表現

担当教員　久恒　啓一

■講義目的

どのような経営体にも経営資源がある、それはヒト、モノ、カネ、時間、情報、システム、技術、人脈、ブランド、理念、歴史などである。ビジネスにおいてはこれらの経営資源をコミュニケーション活動によって活性化させ商品やサービスをつくりだし、それを外部に販売する。そして売った商品に対して、CS(顧客満足)活動によって苦情や意見を消費者から受け取り、再び経営資源を活性化させ、商品を改良し、新商品につなげていく。ビジネスとはこういったコミュニケーション活動の一連の流れのことである。
この講義では、上述の観点からビジネスにおけるコミュニケーションと情報に焦点をあて、今までの文章と箇条書きを中心とした情報処理の欠陥を克服するため、図を用いたコミュニケーションの理論と技術を学ぶ。毎回、産業社会の現場の最前線のテーマを題材に実習を行い「図解コミュニケーション」という新しい問題解決の武器を身につけてもらう。

■講義分類

ビジネスマネジメント
グローバルビジネス

■到達目標

・新聞社説等による個人ワーク、グループでのプレゼンテーションやディスカッションをふまえ、「日本の論点」（文春）の中の一流論者の時事論文をパワーポイントを用いて一枚の図に要約する技術を身につける。
・自身で作成した図解を用いて大人数を対象に自信を持ってプレゼンテーションができるようになる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：講義「マネジメントと図解コミュニケーション」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：オリエンテーション・マネジメントの本質はコミュニケーション活動・インフラと情報・図解コミュニケーション
<第2講>
概要：講義「ビジネスと経営」・実習
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：オリエンテーション・図解解説（図で考える人は仕事ができる・箇条書きから図解へ。寺島実郎の２１世紀世界潮流）・・自己紹介図の実習・プレゼン実習
<第3講>
概要：>講義「コミュニケーションと情報」・実習
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の寺島学長講義の図解解説・図解の基本技術の説明・「私の大学生活-この一年」を図解・話し合い
<第4講>
概要：講義と実習「ビジネスに関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の講義の図解解説・図解の基本技術の説明・新聞社説を図解する
<第5講>
概要：講義と実習「ビジネスに関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の図解解説・新聞社説を図解する・グループでのプレゼンとディスカッション
<第6講>
概要：講義と実習「マネジメントに関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の講義の図解解説・新聞社説を図解する・グループでのプレゼンとディスカッション
<第7講>
概要：講義と実習「コミュニケーションに関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の図解解説・図解文章法の解説・図解文章法の実際
<第8講>
概要：講義と実習「コミュニケーションに関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：ビデオ「企画とプレゼンのための図解の技術」鑑賞
<第9講>
概要：講義と実習「コミュニケーションに関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の講義の図解解説・多摩の志企業の社長挨拶を図解実習・グループでのプレゼンと全体プレゼン
<第10講>
概要：講義と実習「経営情報に関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の講義の図解解説・図解広告の実習・グループでのプレゼンと全体プレゼン
<第11講>
概要：講義と実習「経営情報に関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：トレーニング本から図解・寺島学長講演の図解解説・社説比較図解実習・・グループでのプレゼンとディスカッション
<第12講>
概要：講義と実習「商品に関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の講義の図解解説・トレーニング本から図解解説・商品説明の図解とグループプレゼンと全体プレゼン
<第13講>
概要：講義と実習「時事に関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の講義の図解解説・「日本の論点」の論文を図解①
<第14講>
概要：講義と実習「時事に関するトピックス」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の講義の図解解説・「日本の論点」の論文を図解②・グループディスカッション
<第15講>
概要：講義「経営情報とマネジメントデザイン」
事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]
詳細：リレー講座の講義の図解解説・「日本の論点」の論文を図解③・まとめ

■教科書

「図で考える技術が身につくトレーニング30」（PHP研究所・久恒啓一）

■指定図書

「図解の極意」（アスキー出版・久恒啓一）
「図解で身につく！　ドラッカーの理論」（中経の文庫・久恒啓一）
「図で考えれば文章がうまくなる」（PHP文・久恒啓一）

■参考文献

「日本の論点2014」（文芸春秋社）

■参考URL

http://www.hisatune.net/

■評価方法

1.出席　　50点
2.提出する図　　25点

3.毎回の授業に関するレポートの内容　25点

■評価基準

相対評価
出席を重視した評価を行う
提出図とレポートは、提出枚数とレベルを勘案し評価する

■事前履修科目等

文章伝達入門（樋口先生）を履修するのが望ましい

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

毎回実習（作図・プレゼン・ディスカッション）を行うことで力をつけていくので、毎回出席することが望ましい。

科目名　マネジメントデザイン論II（Management Design Theory II）

サブタイトル

担当教員　小林　英夫

■講義目的

ビジネスはコミュニケーション活動によって成り立っており、その活動を担うのは人である。経営資源を束ねる人的資源の重要性はますます高まっている。今後はキャリア形成を含むライフマネジメントの視点から人的資源の活性化を考えながら、組織や経営やビジネスについて考察することが求められる。

本講義では、組織のマネジメントとそれを支える行動規範としてのアントレプレナーシップについて包括的に学ぶとともに、現在活躍中の企業家や事業家の生き方を知ることを通じて、自らのライフマネジメントについて考える。

■講義分類

ビジネス創造／ビジネスマネジメント／グローバルビジネス

■到達目標

・マネジメントは何か、企業家という存在とは何かを理解することを通して、自らのキャリアデザインを考えられるようになる。
・事業の立ち上げや発展に必要な知識を習得し、事業創業や急成長時に特有の課題や戦略を理解する。

■講義形態

・講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> イントロダクション
概要：　起業活動の意義
事前学習しておくべき用語やポイント[起業]
詳細：　マネジメントというものをどのように捉えるか、その中で本講座が狙うものは何かについて知る。その上で起業活動の意義について学び、本講座における学習の基礎とする。

<第2講> 企業家精神1
概要：　ベンチャーと企業家精神
事前学習しておくべき用語やポイント[ベンチャー、アントレプレナーシップ]
詳細：　経済を活性化して成長を導くためにベンチャーの果たす役割は大きい。ベンチャーの定義と意義や現状、その活動を支える企業家精神の考え方を学ぶ。

<第3講> 起業活動1
概要：　起業プロセス
事前学習しておくべき用語やポイント[楽天、三木谷浩史]
詳細：　起業を決意し、事業を構想し、メンバーを集めて創業した事例として、楽天の創業プロセスを取り上げる。起業のプロセスについて知るとともに、創業者三木谷浩史の生い立ちや企業家としての行動から、その志を学ぶ。

<第4講> 企業家精神2
概要：　女性起業家
事前学習しておくべき用語やポイント[テンプスタッフ、DeNA]
詳細：　社会発展の担い手としての女性起業家に注目する。女性起業家の事例として、篠原欣子、南場智子らを取り上げ、創業経緯や企業家としての行動から、その志を学ぶ。その上で女性による起業の課題について考える。

<第5講> 企業家精神3
概要：　学生起業
事前学習しておくべき用語やポイント[KLab、リブセンス]
詳細：　就職することなく学生時代にあるいは卒業してすぐに創業した起業家に注目する。学生起業家の事例として、真田哲弥、村上太一らを取り上げ、創業経緯や企業家としての行動から、その志を学ぶ。その上で学生起業の考慮点について考える。

<第6講> 企業家精神4
概要：　就業後起業
事前学習しておくべき用語やポイント[リクルート、千本倖生]
詳細：　企業勤めをした後に創業した起業家とそのような人材を多く輩出する企業に注目し、そのような起業家の事例として、千本倖生、飯塚哲哉らを、また起業家輩出起業としてリクルートを取り上げる。その上で、学生起業と就業後起業の長所短所を考える。

<第7講> 企業家精神5
概要：　米国の起業家
事前学習しておくべき用語やポイント[Apple、Google、Facebook]
詳細：　米国の代表的企業家として、スティーブ・ジョブズやマーク・ザッカーバーグらを取り上げる。彼らの生い立ちや起業経緯を知ることを通じて、日本と米国の起業環境の違いや起業者を輩出するシリコンバレーモデルについて学ぶ。

<第8講> 企業家精神6
概要：　カリスマ的起業家
事前学習しておくべき用語やポイント[Virgin　Group、Softbank]
詳細：　飽くなき執念で事業を追求するカリスマ的な起業家として、リチャード・ブランソンと孫正義を取り上げる。カリスマ性の由来や人間性の考察を通じて、ベンチャーを大成功に導くために必要とされる要素について考える。

<第9講> 起業活動2
概要：　事業計画の立案
事前学習しておくべき用語やポイント[事業計画書]
詳細：　起業プロセスにおいては、アイディアだけでなく、事業機会、動機、ビジョン、戦略、マーケティング、財務、人材など、多くの要素が絡み合う。これらを統合し、起業の基本となる事業計画書の内容について学ぶ。

<第10講> 起業活動3
概要：　チーム形成とインキュベーション
事前学習しておくべき用語やポイント[創業チーム]
詳細：　創業者はどのように経営チームメンバーを集めているのか、その際にどのようなことに注意するべきかについて、事例も踏まえて学ぶ。また、外部から創業を支援するインキュベーションの活動についても学ぶ。

<第11講> 起業活動4
概要：　資金調達
事前学習しておくべき用語やポイント[出資、融資]
詳細：　ビジネスには資本が欠かせず、起業にあたってはどのような資本戦略を採るかが重要である。資金調達の方法や資金の出し手としてのベンチャーキャピタルの活動について学ぶ。

<第12講> 起業活動5
概要：　財務計画
事前学習しておくべき用語やポイント[損益計算書]
詳細：　事業計画の基本要素である財務計画の作成について学ぶ。また、財務計画をもとに出資交渉を行う際に必要となる企業価値をキャッシュフローと割引現在価値を用いて評価する手法について学ぶ。

<第13講> 起業活動6
概要：　プロダクト開発とリーンスタートアップ
事前学習しておくべき用語やポイント[GREE、田中良和]
詳細：　起業における商品の創り方と、最近の手法であるリーンスタートアップについて学ぶ。日本におけるリーンスタートアップの事例としてGREEの田中良和を取り上げて、その起業活動とその後の経緯について知り、課題について考える。

<第14講> 企業家精神7
概要：　中小企業からベンチャーへの転換
事前学習しておくべき用語やポイント[ユニクロ、柳井正]
詳細：　親から受け継いだ中小企業をベンチャーへと転換し大きく成長させた企業家として、ファーストリテイリングの柳井正を取り上げる。その生い立ちや経営者としての行動を知り、その志を学ぶ。

<第15講> ラップアップ
概要：　企業家精神の展望
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：　本講義内容を再整理し、これからの社会における企業家精神の抱き方や事業構想に対する取り組み方を展望する。その上で、本講義での学びが実践的にどのように役立つのかを考え、今後の学習深耕を導く。

■教科書

特になし。講義用資料を適宜配布または紹介する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■参考URL

■評価方法

授業貢献点（59%）、期末試験（41%）
単位取得には60%以上の得点が必要であり、授業に殆ど出席しない場合や、期末試験を受験しない場合は、単位取得は認められない。

■評価基準

相対評価

毎回の授業においてコメントシートまたはミニレポートの提出を求め、その内容をA（授業を聴き良い気づきがあった）、B（授業を聴いていた）、C（授業を聴いていたとは思われない）の3段階評価し、授業貢献点とする。Aは加点対象（2点）、Bが標準（1点）、Cは減点（−1点）、欠席は0点とする。従って、授業に出席していても、受講態度が悪い場合は欠席以下の評価となる。

期末試験では、企業家精神に関する知識の習得度とともに、事業構想活動を通じたライフマネジメントのイメージが描けるようになっているかを評価する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科 目 名　マルチメディア実践（Multi-media Design）

サブタイトル

担当教員　彩藤　ひろみ

■講義目的

自己表現をする手段として、PCを自由に使いこなすことを目標とする。特にビジュアル表現をPCを使ってどうすればよいのかを重点に学ぶ。ベクトルデータによるイラスト作成、3DCGソフトウェア入門、（グループによる）実写ムービーの編集を体験することが目的である。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

ベクトルデータを利用したイラスト作成。基本の理解と作品完成。
Excelを利用したビジュアルなグラフ作成。
キャラクター調べと創造。3DCGソフトウェア入門。
実写編集の基本。作品完成。

■講義形態

講義 ＋ GW・PR：学外学習無

■講義の概要

1－1．講義の流れの説明
この講義には、3つの大きな課題がある。
　一つ目は、パソコンによる画像作成。まず、題材について調べ、手描きレポートを提出する。Excel
を使ってビジュアルなグラフを描くことも範疇にいれる。これらの作品を大学内ホームページにアップする方法も学ぶ。
　二つ目は、パソコンによる3DCGキャラクターの作成。Doga{http://doga.jp/}という3DCGを簡単に作れるソフトウェアまたは、SculptrisというPC上で粘土のように操作するソフトウェアを利用し、3次元キャラクターを作る。
　三つ目は、グループで組んだ、実写映像の作成である。シナリオの作成、絵コンテの作成、ビデオ撮影、パソコンによる映像編集、できあがったムービーのDVD書き出しまでが求められる。
　毎年テーマが変わるが、今年度は「出身県の特産物」をテーマにする。
1－2．ソフトウェアの利用
　「Inkscape」ソフトを利用して、マウスあるいはタッチパッドを使ってどれぐらいの絵が描けるか練習してみる。ほかのフリーウェアやシェアウェアのソフトを使ってもよい。ダウンロードからインストールまで理解し、実際におこなってみる。

〈予習、復習のポイント〉
　予習：パソコンに入っている「ペイント」というソフトウェアで遊んでみる。
　復習：イラスト系ソフトウェアの練習。説明を受けたテーマに従って、手描きレポートの準備。
<第2講>
2－1．オフィス系ソフトウェアの利用
　Excel,Word,Powerpointを利用してビジュアルな資料をつくる
2－2．ソフトウェアの使い方
　ペイント系ソフトのいくつかを選び、使い方を説明する。ツールとしては、ブラシ、消しゴム、グラデーションなどをメインに練習する。概念としては色、レイヤー、データ形式などを中心に伝える。
　先に作成したポスターをペイントソフトで再現してみる。
〈予習、復習のポイント〉
　予習：Excelグラフの作り方
　復習：ペイントソフトの習熟。レポートの提出準備。
<第3講>
3－1．グラフィカルデザイン
　直線、円、四角、多角形などの基本図形や、パターン、スタンプなどのブラシを利用して、自由な発想で絵を組み立ててみる。テーマにした県の特徴、特産物などを表現してみよう。
3－2．ソフトウェアの使い方
　基本図形の使い方とブラシやスタンプなどの使い方を伝える。先に表現した絵をパソコンを使って再現してみる。
　第2講で作成した図とあわせて新しいイメージが表出できないか試してみる。
　レイヤーの重ね合わせとモードについて練習する。
〈予習、復習のポイント〉
予習：イラスト系ソフトウェアの使い方
復習：パソコンで絵を描く練習。
<第4講>
　レポート1の提出。
4－1．デジタル作品を提出するまで
　ネットワーク接続概念。大学内ファイルサーバー概念の理解。接続とアップロードの方法。データ形式の理解。提出練習。
　詳細は、{http://pub.edu.tama.ac.jp/hiro/}
にある、授業用ホームページを利用して伝える。（学内のみから閲覧可能）
〈予習、復習のポイント〉
　予習（レポート課題1）：テーマは授業中に発表する
　復習：データ提出方法
<第5講>
　モチーフを形にするまで。
　デザイン練習。
〈予習、復習のポイント〉
　予習：ポストカード、ポスターなどをたくさん見て、自分が面白いと思うもの、心惹かれるデザインについて心に留めておく。
　復習：第1デジタル作品作成（ポストカードかポスター）
<第6講>
第1デジタル作品提出日
確実に提出できたかどうかの確認。
ヘアクセス。
〈予習、復習のポイント〉
　作品を完成させること。提出を自分で確認すること。
<第7講>
7－1．第2課題の説明
　3DCGソフトウェアの利用。テーマは授業中に発表する。
7－2．Doga-L3またはsculptrisのインストールと利用
　{http://doga.jp/　より、Doga-L3}というソフトウェアをダウンロード、インストールする。3Dシーンの使い方をサンプルキャラクターを使って説明する。
〈予習、復習のポイント〉
　ソフトウェアのホームページ参照。
<第8講>
8－1．絵コンテの描き方
　実際のアニメの絵コンテを参考に、絵コンテに書き込む内容を伝える。必ずしもマスターする必要はないが、自分が作ろうとしている作品を表現してみよう。
8－2．Doga-L3またはsculptrisでキャラクターを作る

〈予習、復習のポイント〉
　第2レポートの作成。
<第9講>
　第2レポート提出。
〈予習、復習のポイント〉
　作品作成に時間をかける。
<第10講>
第2デジタル作品完成と提出に向けての作業。
余裕がある人はアニメーションを作成する。
〈予習、復習のポイント〉
　作品作成。
<第11講>
　第2デジタル作品の提出。
〈予習、復習のポイント〉
　作品作成と提出の確認。
<第12講>
第3課題の説明
グループミーティング。
ビデオカメラの扱い方。
編集方法。
〈予習、復習のポイント〉
　テーマについての予備知識整理。
<第12講>
グループミーティング。シナリオ作成。
〈予習、復習のポイント〉
　役割分担と作品作成に向けての作業。

<第13講>
絵コンテ提出と仮発表。
〈予習、復習のポイント〉
　作品作成に向けての作業。
<第14講>
ムービー編集。
〈予習、復習のポイント〉
　作品完成。
<第15講>
実写ビデオ作品発表。できあがったムービーを教室のスクリーンに映写して、見どころ、工夫した点などを発表する。
〈予習、復習のポイント〉
　ムービーの編集方法。ムービーの書き出し方法。DVD-RまたはCD-Rへのデータ焼きこみ方法。美しいレポート作成。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

3つの作品における、技術点、芸術点評価。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

初回からパソコンと電源を持参すること。マウス、ペンタブレットなどを使ってもよい。

科目名　ミクロ経済学(Microeconomics)

サブタイトル

担当教員　下井　直毅

■講義目的

この講義ではミクロ経済学について学ぶ。ミクロ経済学は、産業社会の中で資源配分がどのように行われているのか、あるいはいないのかといった、メカニズムを明らかにすることを主たる目的にしている。限られた生産資源である労働や資本などをいかに効率的に生産にまわすのか(配分するのか)という問題を扱う。また、企業や産業を取り巻く社会問題についても経済学の発想で分析し、問題把握を行う。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

できるだけ現実の産業社会における経済現象に関心を持ち、それを分析するための枠組みとしての経済学を学び、その基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講> 需要と供給
概要：需要と供給の関係について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[需要曲線、供給曲線、均衡、均衡価格、超過供給、超過需要、完全競争]
詳細：需要曲線とは何か。供給曲線とは何か。完全競争市場とはどういう世界かを学ぶ
<第2講> 需要曲線の構造と消費者の行動
概要：需要曲線と消費者の行動について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[需要曲線、需要の価格弾力性、需要曲線のシフト、外生変数、内生変数、消費者余剰、二部料金制]
詳細：需要曲線はどういう場合にシフトするのか。消費者余剰とはどういう概念なのかを学ぶ
<第3講> 費用曲線と企業の行動
概要：費用曲線と企業の行動について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[供給曲線、供給の価格弾力性、供給曲線のシフト]
詳細：供給曲線はどういう場合にシフトするのかを学ぶ
<第4講> 企業の利潤最大化行動と供給曲線
概要：企業の最適行動について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[総費用、固定費用、可変費用、平均費用、限界費用、利潤最大化行動、生産者余剰]
詳細：どのような費用が存在するのか。生産者余剰とはどういう概念なのかを学ぶ
<第5講> 消費者行動の理論
概要：消費者行動について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[効用、無差別曲線、効用最大化仮説、効用関数、限界代替率、予算制約]
詳細：効用とは何か、無差別曲線とは何か、消費者の行動原理は何かを学ぶ
<第6講> 消費者行動理論の展開
概要：様々な財について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[エンゲル係数、上級財(正常財)、下級財(劣等財)、需要の所得弾力性]
詳細：上級財や下級財と呼ばれる財にはどのようなものがあるのかを学ぶ
<第7講> 企業の生産関数と費用最小化行動
概要：様々な生産関数を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[規模に関して収穫一定・収穫逓増・収穫逓減、費用最小化行動、等量曲線]
詳細：企業の行動原理は何かを学ぶ
<第8講> 一般均衡と資源配分
概要：一般均衡の概念を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[交換の利益、一物一価の法則、パレート最適、ボックス・ダイアグラム、資源配分の効率性]
詳細：効率的な資源配分とはどのようなものかを学ぶ
<第9講> 独占の理論
概要：独占とは何かを理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[平均収入曲線、総収入曲線、限界収入曲線、独占利潤]
詳細：独占市場における価格や生産量はどのように決まるのかを学ぶ
<第10講> 独占的競争の理論
概要：独占的競争とは何かを理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[製品の差別化、独占的競争、製品の多様化]
詳細：独占的競争市場とはどのような市場なのかを学ぶ
<第11講> ゲームの理論
概要：戦略的思考について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[囚人のジレンマ、繰り返しゲーム、空脅し]
詳細：囚人のジレンマというのはどういうゲームなのか。繰り返しゲームになると何が違うのかを学ぶ
<第12講> 市場の失敗I
概要：市場の失敗の事例を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[外部効果、私的限界費用、社会的限界費用、ピグー税、正の外部効果、負の外部効果]
詳細：市場が失敗するとはどういうことかを学ぶ
<第13講> 市場の失敗II
概要：市場の失敗の身近な事例について理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[費用逓減産業、限界費用価格形成原理、ネットワークの外部性、公共財、フリーライダー]
詳細：市場の失敗にはどのようなものがあるのかを学ぶ
<第14講> 不確実性と経済現象
概要：不確実性とは何かを理解する
事前学習しておくべき用語やポイント
[モラルハザード、期待効用最大化仮説、セントペテルスブルクの仮説、危険回避行動]
詳細：リスクと不確実性の違いは何か。モラルハザードとはどういう現象なのかを学ぶ
<第15講> まとめ
概要：これまでの内容を復習する
事前学習しておくべき用語やポイント
[需要と供給、完全競争、不完全競争、ゲーム理論、一般均衡、市場の失敗]
詳細：講義では何を扱ってきたのかを振り返る

■教科書

伊藤元重『入門経済学』(第3版)　日本評論社(2009)

■指定図書

特になし

■参考文献

伊藤元重　『ミクロ経済学』(第2版)　日本評論社(2003)
西村和雄　『ミクロ経済学入門』(第2版)　岩波書店(1995)
倉澤資成　『入門 価格理論』(第2版)　日本評論社(1988)

■参考URL

■評価方法

期末テスト(70%)・出席および小テスト(ないしは課題)(30%)

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

2010年度以前の入学生は、「経済学基礎」の単位修得者に限り、また2011年度以降の入学生は、「産業社会論入門（経済）」の単位修得者に限り、履修登録ができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名　問題解決学総論（Introduction to Complex Problem Solving）

サブタイトル

担当教員　彩藤　ひろみ、下井　直毅、今泉　忠、出原　至道

■講義目的

実学志向の多摩大学経営情報学部では、産業社会の問題解決の最前線に立つ力の育成を重視している。そのためには、各種講義や演習で学ぶ知識を組み合わせ、様々な問題にどう挑み、解決するかを修得する必要がある。

この目的から、この科目では毎回異なる教員が様々な分野のテーマを取り上げ、そのテーマに関して「問題はどこにあるか（解くべき問題は何か）」「なぜ問題となっているか」「その問題をどのように解決するか」などを、事例や方法論の立場から解説する。

※担当者：A：彩藤、下井、B：今泉、出原の4教員をコーディネーターとし、毎回異なる教員が講義を行うオムニバス形式を採用する。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

様々なテーマの問題解決事例を学び、①それぞれのテーマに自分ならばどのようなアプローチをするか。また、②その事例の問題解決に用いられた方法が、自分の興味がある問題にいかに応用出来るかを考えられることを目標とする。

■講義形態

講義 +レポート：学外学習無

■講義の概要

<第1講>オリエンテーションおよび問題解決学基礎
概要：問題解決学総論の受講の仕方の説明ならびに問題解決学とは何かについて解説する
事前学習しておくべき用語やポイント[問題発見、問題解決]
詳細：2回目以降の受講ルールなどを説明するため、必ず出席すること。
<第2講から第14講>問題解決ケーススタディ：事例と視点
概要：毎回異なる教員がそれぞれのテーマを元に、問題解決事例を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[該当回の前の回に事前に連絡する]
詳細：各回のテーマのスケジュール一覧については、第一回目の講義で配布する。
<第15講>まとめ
概要：まとめ

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

出席および毎回講義の最後に提出するレポート（講義レポート）と期末レポートによる。

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・全回出席を前提とする（何回まで休んでも良いかというような愚問をしないこと）。
・ケースの解説とそれらについてのレポート作成を行うため講義スタイルのため、途中入場では内容が理解できない。遅刻をしないこと。遅刻は減点対象とし、10分以上の遅刻入室も認めない（10分後施錠します）。

科目名　余暇マネジメントⅠ(Management of Leisure Life & Leisure Society Ⅰ)

サブタイトル

担当教員　杉田　文章

■講義目的

(1) 以下三点について知り、自分なりの知見を有することに資する
　① 「余暇」の概念、歴史、現状、意義
　② 「余暇市場」の構造、現状、背景
　③ 「余暇製品」産業の使命、マーケティング方法の中核
(2) 「余暇をマネジメントする」概念を理解することによって、問題発見・解決の切り口を与えること。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

本講義における「余暇」「レジャー」の概念と意義について十分理解し、たとえばあるレジャー製品（財もしくはサービス）について、そのマーケティングの在り方について論じることができるようになること。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　「余暇」とは何か
　「余暇」とは、通常「レジャー」の訳語として理解されている。が、他の多くの言葉と同様に、非常にあいまいに使用されることが多い言葉であるし、また使用する人にとって都合よく意味付けられることの多い言葉でもある。
　この「レジャー」「余暇」とはそもそも何なのか。その本質はどこにあるのか。本講座の第一回目に、まずこのことについてはっきりしておきたい。
　レジャーの定義/レジャーの語源/レジャーの質量
〈予習、復習のポイント〉
講義概要をよく読み、講義の方向性や扱うテーマ、論点となる社会の情勢について、把握しておくこと。
高度経済成長からこんにちまでの、社会・経済的な推移についても大まかに理解しておくことが望ましい。
<第2講>　余暇と社会
　余暇のありかたは、その時代、その社会の経済的特徴、社会的特徴、価値観と密接にかかわっていることがよくわかる。ここでは、ダニエル・ベルやヨゼフ・ピーパーなどの考察をもとに、余暇のありかたについて社会の諸側面との関連から考察し、今日および将来の余暇のありかたについて考えてみることにする。
〈予習、復習のポイント〉
ダニエル・ベル「脱工業社会の到来」、ヨゼフ・ピーパー「余暇と祝祭」などの著述の概要について把握しておくこと。講義後は、その指摘するところの意味について、さらに理解を深めることを求めたい。
<第3講>　「あそび」とは何か
　余暇のありかたを考える上で欠くべからざる対象として、「遊び」という現象があるであろう。「遊び」ということば自体、「自由であること」「強制されていないこと」「無駄であること」あるいは「ゆとり」「ゆるみ」といった意味合いが込められている。ここではヨハン・ホイジンガやロジェ・カイヨワなどの遊戯社会理論、プレイ論等を通じて、我々が労働や勉学の合間に「遊ぶ」ことのきわめて積極的な意義について考える。
〈予習、復習のポイント〉
ロジェ・カイヨワ「遊びと人間」やヨハン・ホイジンガ「ホモ・ルーデンス」などの、遊びや余暇に関する著作の概要と、その社会的意義について、あらかじめ概要を把握するようつとめること。
<第4講>　スポーツ現象に見る、「遊び」の制度化と商品化
　レジャー産業、余暇産業とは、まさに人々の「遊び」をマーケティングの対象とした経済行為であるということが言える。ここでは、「スポーツ」を「遊び」文化の一例として用い、社会変動とのかかわりの中でスポーツがどのように制度化し、また、経済活動の中に取り込まれてきたか、について論じ、その功罪について考えてみる。
〈予習、復習のポイント〉
①「スポーツ」と呼ばれるものが包含していると思われるあらゆる「価値」を、すべて書き出してみること。
②その中で、各時代において、どのような価値が優位性を持っていたのかについて考察しておくこと。
<第5講>　プロスポーツの現状と課題
　スポーツ文化の経済へのとりこみの一つの結果が、プロスポーツの出現であるといってよいであろう。しかし今日、スポーツの商品化による市場の発展はもはや直線的なものではなく、むしろ大幅に針路変更を余儀なくされている。ここでは、スポーツのプロ化とは何を意味していたか、どこに問題点があるのか、今後、社会のあり方とのかかわりから見てどのような発展を目指すべきか、などについて、いろいろなスポーツイベントや、プロスポーツ興行、行政のコミュニティづくり政策などを参考にしながら考える。
〈予習、復習のポイント〉
こんにちのスポーツをめぐる問題点を、各自ブレーンストーミングの手法を用いて、列挙してみること。新聞記事などを用いてもよい。それらを、自分なりにカテゴライズし、どのような問題なのかを表す名称を与えてみること。 さらに、それらの「問題」は、どのような背景をもとに生じた問題であるのかを浮分析すること。
<第6講>　レジャー産業の市場構造
　「レジャー産業」を定義するとともに、ケイヴス、宮澤らの産業組織論の枠組みを参考に、レジャー産業の市場構造について見ていく。
〈予習、復習のポイント〉
「産業」「市場」の概念について、今一度経済学、経営学的な概念定義について確認しておくこと。
市場経済についての限界論についての概要を、把握しておくこと。
<第7講>　産業政策から見たレジャー産業の市場構造
　わが国を例にとり、産業経済の発展がもたらした自由裁量所得、自由裁量時間の増大とそれにともなってクローズアップされたレジャー市場の背景を探る。また、通産省(当時)の「生活重視」産業モデルとしてのレジャー産業政策について紹介する。
〈予習、復習のポイント〉
戦後の我が国における国民所得の増大、GDPの推移について、概要を把握しておくこと
<第8講>　産業政策から見たレジャー産業の市場構造
　第7講と同じ
<第9講>　レジャー産業の業域と市場構造
　レジャー産業概念を、レジャー製品(leisure time goods)、レジャーサービス(leisure time services)、レジャースペース(leisure time spaces)の3つの視点から、また業域からとらえたスポーツ産業、ホビー産業、娯楽ゲーム産業、観光文化産業の4つの視点から検討する。
〈予習、復習のポイント〉
「レジャー白書2009」（財団法人日本生産性本部）
http://activity.jpc-net.jp/detail/yoka/activity000929.html　などから、レジャー市場の概要について全体を把握しておくこと。
<第10講>　社会変動からみたレジャー産業市場構造
　総理府の、「国民生活に関する世論調査」によれば、わが国の国民の志向性は(1)「物の豊かさ」重視・追及から「心の豊かさ」重視・追求へと移行し、また(2)生活の第一の力点が、「労働生活」から「レジャー・余暇生活」へと移行したことについて、リースマン、ベル、フロムなどの理論を交えながら、解説する。
〈予習、復習のポイント〉
デビッド・リースマン「孤独な群衆」、エーリッヒ・フロム「生きるということ」などの著作についての概要を把握し、こんにちの労働と余暇の関係性の視点からその意義について考察しておくこと。
<第11講>　社会変動からみたレジャー産業市場構造
　第10講と同じ
<第12講>　社会変動からみたレジャー産業市場構造
　第10講と同じ
<第13講>
　まとめ
これまでの講義から、今後社会においてどのような問題解決に取り組むべきかについての知見を抽出することを試みる。

<第14講>
　まとめ
第13講に同様とする。
<第15講>
講義全体の理解を確認するためのディスカッション、質疑応答を実施する予定。

■教科書

特に指定しない

■指定図書

「スポーツ産業論」松田義幸
レジャー白書2013　社会経済生産性本部　刊

■参考文献

講義内で指示する。

■参考URL

■評価方法

講義への参加度（単なる「出席」ではないことに注意）と、期末テストの結果によって合否および合格の場合の成績評価を決定する。　上記「参加度」を見るために、T-NEXTやその他のサイトを積極的に使用することになるので、パソコンを持参しないと、評価が下がる恐れがあることにも注意されたい。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名　余暇マネジメントII（Management of Leisure Life & Leisure Society II）

サブタイトル

担当教員　杉田　文章

■講義目的

（1）以下三点について知り、自分なりの知見を有することに資する
　①「余暇」の概念、歴史、現状、意義
　②「余暇市場」の構造、現状、背景
　③「余暇製品」産業の使命、マーケティング方法の中核
（2）「余暇をマネジメントする」概念を理解することによって、問題発見・解決の切り口を与えること。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

本講義における「余暇」「レジャー」の概念と意義について十分理解し、たとえばあるレジャー製品（財もしくはサービス）について、そのマーケティングの在り方について論じることができるようになること。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　ガイダンス
「現代社会におけるレジャーを巡る課題とは何か？」
必需品市場製品が、「生きるため」の課題に対応する製品であるとすれば、レジャー市場製品は、「よりよく生きる」課題に対応しているということができる。
一般的に経済的な豊かさが国民の幸福観に貢献するのはある水準までであり、その水準を超えて経済的に豊かになっても、必ずしも幸福度は上昇しないことが指摘されている。この講座においてレジャーを考察するにあたり、こういった課題点に対して余暇をマネジメントする視点からどうアプローチするのか、という問題提起を行う。
（予習・復習のポイント）
「幸福」に関する知見を、ある程度自分なりに抑え、意見をまとめておくことが望ましい。

<第2講>
「レジャー産業と「公益」」（1）
我が国バブル期におけるレジャー産業、なかでも、ゴルフ会員権市場ビジネスを例に、我が国レジャー関連企業の立ち位置について考察する。
（予習・復習のポイント）
バブル経済の概要について調べ、把握・理解しておくことが望ましい。

<第3講>
「レジャー産業と「公益」」（2）
前回の講義を踏まえて、レジャー企業が担う二つの目的について考察し、PR（パブリックリレーション）やCIについて考え、企業によるレジャーやスポーツ文化支援の実態とあるべき姿についても考える。
（予習・復習のポイント）
前講に同じ。くわえて、プロ野球や、プロサッカーの成り立ちなどについても調べ、見解をまとめておくことがのぞましい。

<第4講>
「余暇の価値」
レジャー政策およびレジャー産業企業が担うべき「レジャーの価値」とは、いかなるものか。ここでは、レジャーが、市場拡大の標的としてレジャーが位置づけられ、結果としてレジャーの価値そのものの「陳腐化」「コモディティ化」現象が起こっているとの見方から市場を観察し、課題の所在について考察する。

<第5講>
「レジャー製品のマーケティング上の力点」
レジャー製品市場が、プライマリーデマンドの開発に力点をおくべき性質を持っているという点に焦点をあてた上で、ジョン・ラスキン、池上淳の文化経済学の枠組みを紹介し、文化の持つ有効価値を具現化する方法について考察していく。また、須賀由紀子氏によるレジャー文化価値享受能力開発モデルについて学び、スポーツをはじめとするいろいろな分野の価値を十全に受け止めることができる社会づくりについて、その具体的方法を考察する。

<第6講>
「レジャーにおける製品政策」
レジャー製品に対するニーズの多様性、曖昧性を踏まえ、製品政策のポイントについて考察する。フィリップ・コトラーの製品三次元の考え方などに従って、製品あるいは、一連のレジャー製品群の価値の構造について考察する。これにより、スポーツや個別のレジャー分野の市場成長に結びつく製品企画の基礎概念について学ぶ。
（予習・復習のポイント）
これまであなたが学んだマーケティングの知識などをもとに、　どのようなものでもよいのである製品購買事例を挙げ、「消費者は何の問題解決を第一優先に、その製品を採用したか」について考え、また他の学生とディスカッションてもらいたい。

<第7講>
「「遊び」の中心価値」（1）
前回の講義を踏まえ、「遊び」の価値構造について考える。その際、春学期にも触れたロジェ・カイヨワやヨハン・ホイジンガの理論を踏まえて、「遊び」製品の価値構造について考察する。また、あらたな遊び開発などの基礎アイデアを考える。

<第8講>
「「遊び」の中心価値」（2）
レジャー4分野のさまざまなレジャー行動の中にどのような価値とその充足が見られるかについて、具体的に検討する。製品政策として企業が設定している価値と、消費者の充足状況とが見合ったものになっているかどうか、ミスマッチがあれば、それは何に起因して起こっているか、などについてレジャー製品の具体例を挙げて検討する。

<第9講>
「「スポーツ」の価値構造の可視化によるマーケティング事例の検討」
スポーツ市場において、後発でありながら世界の大手企業に成長したナイキ社をテキストに、新たなスポーツの価値を構築しマーケティングに成功した事例を検討する。
（予習・復習のポイント）
松田義幸著「スポーツブランド」（大修館）などにより、あらかじめナイキについて調べておくこと。

<第10講>
「レジャー分野のブランド政策」
一般的なブランド戦略の概要について確認したうえで、レジャーブランドの実際について考察する。企業や製品の銘柄としてのブランドに加え、観光地全体も一つのブランドとして考えることができるし、また、スポーツ種目などもその普及の視点から見れば、ブランドと考えることに有効性があると考えることができる。これらをどのようにプロモートすればよいのか、実際にはどのように扱われてきているか、問題はどこにあるのか、について考察していく。

<第11講>
「レジャー産業の価格政策」
不況時代に入って、レジャー市場は価格競争の波に飲み込まれた。
マーケティングの一般理論にたがわず、いかに価値づけして価格についての合理性を作り、維持するか、という視点から、これまでのレジャー市場における価格政策について振り返り、今後のレジャー産業経営の在り方について考えていく。
（予習・復習のポイント）
価格の一般理論についても触れるが、あらかじめ価格政策に関して概観しておくことが望ましい。

<第12講><第13講>
「政府によるレジャー政策、リゾート政策について考える」
ここでは、まず我が国が法的環境も整備しながら、レジャー分野の拡充を図ってきた経緯について振り返る。結果からいえば、「失われた20年」と連動してレジャー政策も行きづまることになる。ここに、これまで学んできた余暇のマネジメントの視点から、この一

連のプロセスを検証し、今後の観光立国などの政策方針の在り方について議論していきたい。

<第14講>
「レジャー産業のミッション」
本講座の 「まとめ①」 として、レジャー企業の公益性の立場から、レジャー産業企業のミッションについて考察する。我が国の経済状況だけでなく、文化やスポーツの状況をとらえ、そのうえで、レジャー産業がどのように貢献しうるのかについて考える。

<第15講>
「総まとめ」
これまで考察してきたことを総括し、かつ、余暇のマネジメントを学んだことは、いろいろな分野でどのように生かせるのかについて考えてみたい。

■教科書

特に指定しない

■指定図書

「スポーツ産業論」松田義幸
「レジャー白書2013」 社会経済生産性本部 刊

■参考文献

講義内で指示する。

■参考URL

■評価方法

講義への参加度（単なる「出席」ではないことに注意）と、期末テストの結果によって合否および合格の場合の成績評価を決定する。 上記「参加度」を見るために、T-NEXTやその他のサイトを積極的に使用することになるので、パソコンを持参しないと、評価が下がる恐れがあることにも注意されたい。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

パソコンを持参すること
パソコンを講義以外の目的で使用しないこと（そのような学生は、当然評価の対象とはしません）
積極的に学び、意見形成に努めること。

科目名　ライフデザイン入門(Introduction to Life Design)

サブタイトル

担当教員　梅澤　佳子

■講義目的

現在、日本人の平均寿命は概ね80歳と考えられています。世界的にも恵まれた長寿社会の一方で、少子化も進んでおり、人口減少と高齢化は、私たちに「新たなライフデザインの創造」という課題をつきつけています。

講義ではライフデザインの潮流について学びます。

■講義分類

社会人力育成、地域ビジネス

■到達目標

1. ライフ、デザインなど言葉本来の意味を自ら調べ正しく理解することの面白さに気づき、重要性を理解する。
2. ライフデザインの潮流について理解する。
3. 自らの暮らし、地域、コミュニティに興味と関心を向けることができるようになる。

■講義形態

講義+グループディスカッション、グループワーク、：フィールドワーク

■講義の概要

第 1 回 講義の概要、履修上の注意等に関する説明
講義の目的、概要、講義方法、評価方法、履修上の注意事項について説明を行う。
第 2 回 今、なぜ、ライフデザインが必要なのか①
急激に変化する人口構造とライフスタイルの変化をさまざまなデータ、資料を参考に客観的に理解する。社会の変化とハビタス・メンタリスの変遷について学ぶ。
事前学習しておくべき用語：人口減少、高齢化、少子化、日本人の価値意識、生活価値、ハビタス・メンタリス、ワークライフバランス
第 3 回 今、なぜ、ライフデザインが必要なのか②
ライフ、デザインが本来持つ意味、現在、ライフデザインという言葉がどのように使われてるのかについて理解し、自分を活かすライフデザインについて考える。
事前学習しておくべき用語：ライフ、デザイン、オスカー・ワイルド、J．S．ミル、ウイリアム・モリス、奥山清行、
第 4 回私たちを支えるライフデザイン- 問題解決のデザイン最前線①
暮らしの中にある問題を身近なところから解決するデザイナーたちの活動から学ぶ：国内編
事前学習しておくべき用語：中心市街地の過疎化、限界集落、イノベーション、自助・共助・公助の考え方
第 5 回 私たちを支えるライフデザイン - 問題解決のデザイン最前線②
暮らしの中にある問題を身近なところから解決するデザイナーたちの活動から学ぶ：海外編
事前学習しておくべき用語：南北問題、環境の持続可能性、経済の持続可能性
第 6 回 まとめ　-　ソーシャルデザイン、コミュニティデザインの潮流
事前学習しておくべき用語：市民社会、志
第 7 回 試験

■教科書

なし

■指定図書

①NPO法人ー新塾編『「根っこ力」が社会を変える - 志と共に市民の時代を生きる』ぎょうせい．2011.
②永井一史・山崎亮・中嶋隆司編『幸せに向かうデザイン - 共感とつながりで変えていく社会』日経BP社．2012.
③ミヒャエル・エンデ『モモ』岩波書店．1976.
④小林司『「生きがい」とは何か - 自己実現への道』NHKブックス．1989.
⑤藻谷浩介・山崎亮『藻谷浩介さん、経済成長がなければ僕たちは幸せになれないのでしょうか？』
学芸出版社．2012.
⑥エレン・ラプトン他『WHY DESIGN NOW? - なぜデザインが必要なのか、世界を変えるイノベーションの最前線』英治出版．2012.
⑦飽戸弘・松田義幸編『「ゆとり」時代のライフスタイル - 7タイプにみる生活意識と行動』
日経マーケディア．1989.
⑧筧裕介『ソーシャルデザイン実践ガイド』英治出版．2013.
⑨阿部真大『地方にこもる若者たち-都市と田舎の間に出現した新しい社会』朝日新書．2013.
⑩シンシア・スミス『世界を変えるデザイン-ものづくりには夢がある』英治出版．2009.
⑪グリーンズ『ソーシャルデザイン-社会をつくるグッドアイデア集』朝日出版社．2012.
⑫グリーンズ『日本をソーシャルデザインする-ほしい未来は自分たちでつくる』朝日出版社．2013.

■参考文献

講義の進捗状況にあわせて紹介します。

■参考URL

■評価方法

出席、提出物、最終試験で総合的に判断します。
出席は評価のための前提条件です。

■評価基準

提出物（30%）、最終テスト（70%）
相対評価（多摩大学の評価基準）に基づいて評価します。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しません。

■留意点

科 目 名　ライフデザイン（Life Design）

サブタイトル

担当教員　梅澤　佳子

■講義目的

現在、日本人の平均寿命は概ね80歳と考えられています。世界的にも恵まれた長寿社会の一方で、少子化も進んでおり、人口減少と高齢化は、私たちに「新たなライフデザインの創造」という課題をつきつけています。

21世紀において中心的役割を果たす学生の皆さんと共に、これからの暮らし、地域、コミュニティのかたし、その根底を流れるものの見方・考え方・心の習慣について考えることを目的としています。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

1. 暮らしについて多角的なものの見方・考え方が出来るようになる。
2. 暮らし、地域、コミュニティの現状を理解する。
3. 暮らし、地域、コミュニティの課題をみつけ解決のためのデザインを考える。
4. 自分自身のライフデザインを考える。

■講義形態

講義+グループディスカッション：フィールドワーク

■講義の概要

第 1 回 講義の概要、履修上の注意等に関する説明
講義の目的、概要、講義方法、評価方法、履修上の注意事項についての説明。
第 2 回 市民として生きることを考える
急激に変化する人口構造とライフスタイルの変化をさまざまなデータ、資料を参考に客観的に認識する。社会の変化とハビタス・メンタリスの変遷について理解する。
事前学習しておくべき用語：
第 3 回 伝統的な暮らしとコミュニティ①
農業を中心とした日本人の伝統的な暮らしと地域社会のかたち、生き方について学びます。
事前学習しておくべき用語：自然崇拝、ムラ社会、日本人の死生観、
第 4 回 伝統的な暮らしとコミュニティ②
コミュニティを支えてきた地域の祭り、年中行事について学びます。
事前学習しておくべき用語：祭り、ハレ・ケ・ケガレ、日常 - 非日常
第 5 回 第二次大戦後の暮らしの変化とコミュニティ
急速に進む暮らしの変化とコミュニティの変容、そのことにより生じた課題と解決への取り組みについて学びます。
事前学習しておくべき用語：高度経済成長、都市化、クオリティ・オブ・ライフ、レジャー、学習社会
第 6 回 まとめ　-　共に考えるこれからのライフデザイン
事前学習しておくべき用語：BOPビジネス、コミュニティビジネス、協同、オープンデザイン、NPO
第 7 回 試験

■教科書

なし

■指定図書

①国連開発計画『世界とつながるビジネス-BOP市場を開拓する5つの方法』英治出版. 2010.
②永井一史・山崎亮・中嶋隆司編『幸せに向かうデザイン - 共感とつながりで変えていく社会』日経BP
社. 2012.
③ジェイン・ジェイコブズ『発展する地域衰退する地域-地域が自立するための経済学』ちくま学芸文庫.　2012.
④エレン・ラプトン他『WHY DESIGN NOW? - なぜデザインが必要なのか、世界を変えるイノベーション
の最前線』英治出版. 2012.
⑤飽戸弘・松田義幸編『「ゆとり」時代のライフスタイル - 7タイプにみる生活意識と行動』
日経マーケティア. 1989.
⑥内山節『共同体の基礎理論 - 自然と人間の基層から』農文協. 2010.
⑦結城登美雄『地元学からの出発 - この土地を生きた人々の声に耳を傾ける』農文協. 2009.
⑧内山節『ローカリズム原論-新しい共同体をデザインする』農文協. 2012.
⑨植木力・川本卓史『小さな企業のソーシャルビジネス - 京都発ソーシャル行き』文理閣. 2011.
⑩バス・ヴァン・アベル『オープンデザイン-参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」』
オライリー・ジャパン. 2013.
⑪宮本常一『山と日本人』八坂書房. 2013.
⑫伊藤幹治『宴と日本人-比較民俗学的アプローチ』中央公論新書
⑬リンダ・グラットン『ワーク・シフト』プレジデント社. 2012.

■参考文献

上記の指定図書に加え、講義の進捗状況にあわせ適宜紹介します。

■参考URL

■評価方法

出席、提出物、最終試験により総合的に判断します。
出席は評価のための前提条件です。

■評価基準

提出物（30%）、最終試験（70%）
相対評価方法（多摩大学の評価基準）に基づいて評価します。

■事前履修科目等

出来れば「ライフデザイン入門」を履修していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しません。

■留意点

科目名 リサーチ入門(Introduction to research)

サブタイトル

担当教員 豊田　裕貴

■講義目的

大学での勉強・研究は、単に知識の暗記やまとめ方ではなく、自分自身が「知りたい」と思うことを見つけ出し、その「知りたいこと」にアプローチし、知見を導き出すというものである。「リサーチ」とは調査、研究などと訳されることが多いが、まさにこの過程がリサーチである。ただし、リサーチ対象となるテーマは多岐にわたるため、単に講義を聴いたり本を読んだりして、何か手法を覚えればそれで身に付くというものではない。さまざまなリサーチ事例に触れ、かつ、参加することでしかリサーチのセンスは身に付かない。
本講義で考える必要なリサーチセンスは、次の4つである。
1)何を調べると意味のあるリサーチになるかといったテーマ設定のセンス
2)テーマについて適切な仮説設定を行えるセンス
3)考えた仮説やアイディアを主張するために必要なリサーチ結果にたどり着くセンス
4)得られた結果を提案という形に結びつけるセンス
これらの4つのセンスを習得するために、可能な限り受講者自身がリサーチについて「考える」きっかけを提供し、かつ、演習する機会を確保する。ただし、講義時間が90分という制約から、講義時間内のみで、全ての演習や考えをまとめることは難しい。講義時間外にも各自がそれぞれの興味関心に応じて振り返り、実践することを必要とすることを理解の上、履修すること。

■講義分類

顧客理解
ビジネス創造
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

リサーチ力の習得は、単にスキルの習得でもなく、知識の暗記でもない。新しく学習する各種知識を、現実の問題と対応づけられる力が必要である。したがって、本講義では、学習内容をそれぞれの関心に従い、応用できることを目標とする。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

（注：講義の進捗などによって変更する場合がある。HPにて変更点などを確認すること）。
※本講義は、演習や事例を考えることを通じ、リサーチの考え方を習得することを目指す。したがって、予習よりは、復習に力点が置かれる。したがって、以下の各講義の<予習・復習のポイント>は、①講義で学んだ知識を、自分の関心領域に置き換えて再考すること、②それを他者に説明し、相手が理解できる説明ができるか否かによって、自身の理解度をかくにんすること、がポイントである。

<第1講> イントロダクション:事例からみるリサーチの全体像
　概要：リサーチの全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション
　事前学習しておくべき用語やポイント[リサーチとは何かについて調べてみる]
　詳細：事例を元にリサーチを理解する。

<第2講> ライブに顧客を集めるためのリサーチ:問題発見と問題解決
　概要：事例による問題発見と問題解決例を学習する
　事前学習しておくべき用語やポイント[問題発見、問題解決]
　詳細：事例を元に問題の発見方法と解決方法について学習する。
<第3講> 顧客満足度をリサーチする:データの要約と変数の組み合わせ
　概要：アンケート調査を利用した顧客満足度リサーチについて
　事前学習しておくべき用語やポイント[顧客満足、アンケート]
　詳細：アンケートによる現状把握とそのデータの分析方法について学習する。

※補足
第1講から第3講は、リサーチ的な思考の基礎を中心に解説する。この段階では、予習よりも復習が中心になる。復習は、講義で学んだ視点で、自分の興味があるテーマに応用してみることを試みて欲しい。

<第4講> 自分のアイディアの妥当性をリサーチする(1):仮説と検証
<第5講> 自分のアイディアの妥当性をリサーチする(2):仮説の検証とデータ分析1
<第6講> 自分のアイディアの妥当性をリサーチする(3):仮説の検証とデータ分析2
　概要：第4講から第6講は、ビジネスで必須となる仮説思考を中心に取り扱う。
　事前学習しておくべき用語やポイント[仮説構築、仮説検証、仮説検定]
　詳細：仮説の立て方からその検証の方法までを図解とデータ分析とから学習する。

<第7講> リサーチ事例紹介(1)
<第8講> なぜそれを選ぶのか(1):ニーズの構造と製品アイディアの立案
<第9講> ニーズ視点でビジネスの工夫をチェックする(手段目的連鎖の視点)
<第10講> 消費者を理解するための基礎リサーチ:既存資料(二次データ)を利用する
概要：第7講から第10講は、消費者行動をテーマに、他のマーケティング系の専門科目にもつながるようなリサーチ視点を学ぶ。
　事前学習しておくべき用語やポイント[ニーズ、手段目的連鎖モデル、レビュー]
詳細：消費者理解のためのリサーチの考え方は非常に重要なポイントであるため、講義内課題を含め、演習を取り入れながら学習する。

<第11講> リサーチとプレゼンテーション、レポート (1)
<第12講> リサーチとプレゼンテーション、レポート (2)
概要：第11講から第12講は、リサーチ入門のまとめとして、プレゼンテーションやレポートの仕方などを解説
　事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーション、レポート]
詳細：ストーリー展開やプレゼンの構成について事例と演習を元に学習する。
<第13講> リサーチ事例紹介(2)
<第14講> 優秀レポートのプレゼン
<第15講> まとめ
概要：第13講から第15講は、リサーチ入門のまとめとして、プレゼンテーションの実践（優秀レポート提出者のプレゼンとそのプレゼンに対する評価演習）やまとめを行う。
　事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：全体の総復習にあたる。

■教科書

特になし

■指定図書

(参考としてまずは以下の二冊を指定図書とする)
・谷岡一郎　『「社会調査」のウソ－リサーチ・リテラシーのすすめ』　文春新書(2000)
・石川淳志、佐藤健二、山田一成　『見えないものを見る力』　八千代出版(1998)

■参考文献

■参考URL

■評価方法

1)通常点（レポートおよび講義内課題など:40点）＋期末試験:60点＝計100点(その他、授業内外での取り組みに対する加点有り)。詳細は第一回目講義にて説明。
2)上記基準で総合的に判断する。
3）レポートはT-NETX上で提出・管理を行うので、随時T-NEXTを確認すること。

■評価基準

・内容理解、リサーチ視点の修得、各種課題への取り組み、積極的な参加姿勢を評価基準とする。
・評価基準は、単なる知識を暗記したか否かではなく、各種知識について自分なりの解釈・意見を持ち、表現（レポートや期末試験の論述問題）できるかを重視する。
・絶対評価

■事前履修科目等

特に指定なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・入門科目と言うことで試験1回での評価ではなく、普段の取り組みも重視して評価する。
・特に一年生、まずは第一回目の講義（詳細なオリエンテーション）に出席し、履修するか否かを判断することを強くおすすめする。

科目名　立志論Ⅰ（Aspiration Theory Ⅰ）

サブタイトル　働く意味を考え、志を確立する

担当教員　金子　邦博、杉田　文章

■講義目的

「立志論Ⅰ～Ⅴ」の講義は、大学での学びとその延長線上にある実社会での活躍を展望し、自らの可能性と向き合って、「志」を確立し、大人になった将来の自分をどう創り上げていくのかを考えることを目標としている。

実社会で活躍する大人たちは、様々な経験を積み重ねて、自らを成長させ、社会において必要な存在になることで、安定した生活を確保している。大学での4年間は、大人となって実社会に飛び立つための滑走路であり、この4年間に、まず卒業後の進路を見いだし、それにむかって加速をして、社会人として飛び立っていかなければならない。

大学に入学したばかりで、自由をエンジョイしたいと思うかもしれないが、飛び立つまでも3年しかないという時間の制限を考えると、無駄に立ち止まることは、社会人としての成長を遅らせてしまい、大人になった将来の自分にリスクを押しつけることになる。この4年間を有意義に使い切ることが皆さんの未来を切り開くことにつながることを自覚し、「今日」から、理想とする将来の自分を創っていくことを歩み出さなければならない。

ただ、大学入学したものの、自らの将来像を見通せず、モヤモヤした閉塞感を感じている人も多いはずである。それは、高校までの教育は、大学に進学するのに必要な知識を得ることを目標に全員が同じ方向に向かって学ぶことを重視していることから、将来の可能性を考えるきっかけとなる「出会い」のチャンスが少なかったから、将来の希望が見いだしきれなかった結果なのです。

大学に入った皆さん方は、これからは自らの可能性を考えるために、様々な出会いをして「世界観」を広げるとともに、「成長する自分」を創り上げるために自分の「人格」を子どもモードから大人モードに切り替えることが必要です。

この「立志論Ⅰ」の講義では、皆さんの将来の活躍を考えてもうため、まず、「働く意味」を理解してもらうことを目指していきます。講義では、実際に社会で働いている人たちが努力している姿の映像を見ていくことを中心に、自分の「人格」を子どもモードから大人モードに切り替えるために必要な取り組みについて勉強していきます。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成

■到達目標

講義で学習したことを踏まえて、「働く意味」を理解し、社会人としての将来の活躍をイメージして、これから進むべき道を具体に設定することを目標とします。

■講義形態

講義のみ：学外学習なし

■講義の概要

<第1講>　1　自分の可能性と向き合う
概要：大学での学びを通じて視野を広げ、自らの可能性に向き合い、成長することの重要性を説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）自分の短所と長所を考え、それを今後人生でどう活かしていくのか考える。

<第2講>　2　働くことを楽しむ
概要：仕事を楽しく思えたら人生はめちゃめちゃ楽しいことを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第3講>　3　自らが働いている姿を想像する
概要：一つのことにトコトン向き合うことから得られるものを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第4講>　4　働き方を考える
概要：働くこととは生きること、人生における労働をどう位置づけるか、働くという経験が人生の可能性を広げるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第5講>　5　物の見方を変える（インサイド・アウト）
概要：まず前に進むことの重要性を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第6講>　6　第1の習慣（主体性を発揮する）
概要：何のために働くのかを考え、多様な生き方があるなかで、どの様な生き方を主体的に選択していくのか考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第7講>　7　第2の習慣（目的を持って始める）
概要：出会いを求め頑張ることの重要性を説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第8講>　8　第3の習慣（重要事項を優先する）
概要：できない自分から逃げないことの大切さを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第9講>　9　第4の習慣（Ｗｉｎ・Ｗｉｎを考える）
概要：顧客の利益を図る努力が、結果として後に利益になって返ってくることを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第10講>　10　第5の習慣（理解してから理解される）
概要：支えてくれる人の存在に気づくこと、そして感謝することの大切さを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第11講>　11　第6の習慣（相乗効果を発揮する）
概要：働くというのは、チームワークだということを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第12講>　12　第7の習慣（刀を研ぐ）
概要：真面目に取り組んでいけば、必ず何かを伝えることができることを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第13講>　13　第8の習慣（ボイスを発見する）
概要：好きなことを仕事にすることで成長が加速度的に進むことを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第14講>　14　仕事の仕方
概要：人とのつながりのなかで、自らの役割を理解してチームプレイに徹底せよ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第15講>　15　可能性に向き合う
概要：人に喜ばれるものを作る、サービスをすることの喜びを知る。

事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

■教科書

別冊宝島1805号『まんがと図解でわかる7つの習慣』宝島社

■指定図書

[1] フランクリン・コヴィー・ジャパン（監修）『まんがでわかる7つの習慣』　宝島社
[2] ショーン・コヴィー『7つの習慣　ティーンズ』　キングベアー出版
[3] ショーン・コヴィー『7つの習慣　ティーンズ2』　キングベアー出版
[4] スティーブン・R・コヴィー『完訳7つの習慣』　キングベアー出版
[5] 稲盛和夫『生き方』　サンマーク出版
[6] 秋元康・鈴木おさむ『天職』　朝日新聞出版
[7] 坪田信貴『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』　KADOKAWA/アスキー・メディアワークス

■参考文献

適宜、講義のなかで指定する。

■参考URL

http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/

■評価方法

毎回の講義のなかで作成させる課題レポート（評価割合70%）と期末定期試験（評価割合30%）の成績により評価する。
ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

課題レポートと期末定期試験の評価合計が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、評価合計の得点順に成績評価する。
相対評価

■事前履修科目等

な　し

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

この講義は、毎回行う課題の提出がないと単位取得に必要な点数を獲得することができないので、できる限り講義には出席し、課題を提出すること。

科目名　立志論II（Aspiration Theory II）

サブタイトル　海外で活躍する可能性を考える

担当教員　金子　邦博

■講義目的

「立志論Ⅰ～Ⅴ」の講義は、大学での学びとその延長線上にある実社会での活躍を展望し、自らの可能性と向き合って、「志」を確立し、大人になった将来の自分をどう創り上げていくのかを考えることを目標としている。

実社会で活躍する大人たちは、様々な経験を積み重ねて、自らを成長させ、社会において必要な存在になることで、安定した生活を確保している。大学での4年間は、大人となって実社会に飛び立つための滑走路であり、この4年間に、まず卒業後の進路を見いだし、それにむかって加速をして、社会人として飛び立っていかなければならない。

大学に入学したばかりで、自由をエンジョイしたいと思うかもしれないが、飛び立つまでも3年しかないという時間の制限を考えると、無駄に立ち止まることは、社会人としての成長を遅らせてしまい、大人になった将来の自分にリスクを押しつけることになる。この4年間を有意義に使い切ることが皆さんの未来を切り開くことにつながることを自覚し、「今日」から、理想とする将来の自分を創っていくことを歩み出さなければならない。

ただ、大学入学したものの、自らの将来像を見通せず、モヤモヤした閉塞感を感じている人も多いはずである。それは、高校までの教育は、大学に進学するのに必要な知識を得ることを目標に全員が同じ方向に向かって学ぶことを重視していることから、将来の可能性を考えるきっかけとなる「出会い」のチャンスが少なかったから、将来の希望が見いだしきれなかった結果なのです。

大学に入った皆さん方は、これからは自らの可能性を考えるために、様々な出会いをして「世界観」を広げるとともに、「成長する自分」を創り上げるために自分の「人格」を子どもモードから大人モードに切り替えることが必要です。

この「立志論Ⅱ」の講義では、皆さんの将来の活躍の可能性を広げるため、世界の国々はどのようなところなのか知ってもらって、まずは海外での生活を経験するため、実際に海外へ出かけるきっかけをつくることを目的に講義を進めていきます。そのため、講義では、各国の入国に必要な準備とその国の現状を調べてもらった上で、その国の現状を紹介するビデオを見てもらい、その国の理解を深めていきます。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成

■到達目標

講義で紹介した各国への渡航するための準備、およびその国の治安状況、生活スタイル、移動手段、宿泊施設や食事についての理解を深め、安全にその国へ出かけられるようになる技術を習得することと、講義で紹介した国への旅行計画を企画できるようになることを目指します。

■講義形態

講義のみ：学外学習なし

■講義の概要

<第1講>　1　海外に行ってみよう
概要：海外に出て活躍することにより自らの可能性を広げること、海外での経験が自らを成長させることを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）海外に出かけるためにはどの様な準備が必要か調べる。

<第2講>　2　テーマを持って旅に出る
概要：海外での実体験から得られるものの大きさと、それを知って海外を目指す人たちの動機付けを理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第3講>　3　ハワイ
概要：日本人の最も行きたいと思っているハワイとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第4講>　4　アメリカ
概要：広大な国土と様々な人種が集まるアメリカとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第5講>　5　南米（アルゼンチン）
概要：南米という地域の特性を説明した上で、その代表としてアルゼンチンについてどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第6講>　6　フランス（パリ）
概要：花の都と呼ばれ、多くの海外旅行者が集う街パリを中心にフランスとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第7講>　7　イタリア
概要：長靴の形をした国土を持つイタリアとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第8講>　8　スイス
概要：ヨーロッパの中心にある永世中立国スイスとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第9講>　9　ドイツ　10　オランダ
概要：ヨーロッパの経済の中心地であるドイツとオランダとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第10講>　11　ロシア　12　UAE
概要：広大な国土を持つロシアとアラブの中止にあり発展著しいUAEとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第11講>　13　アフリカ
概要：企業の進出先として今注目されるアフリカについて日本企業はどの様な形で進出しようとしているのかを説明する。また、アフリカで今注目されているルワンダという国を取り上げアフリカとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第12講>　14　香港・台湾
概要：すぐいける海外である香港と台湾とはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

<第13講>　15　ベトナム
概要：やっと成長軌道が見え始め東南アジアの中心となりつつあるベトナムとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこ

と。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第14講>　16　インドネシア　17　フィリピン
概要：経済成長が著しい、今注目のインドネシアとフィリピンとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第15講>　15　オーストラリア
概要：広大な大地と豊富な鉱物資源を持つオーストラリアとはどの様な場所なのか、そこではどの様な経験ができるのかを説明する。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

■教科書

なし

■指定図書

[1]　ちきりん『社会派ちきりんの世界を歩いて考えよう！』　大和書房
[2]　田村耕太郎『君は、こんなワクワクする世界を見ずに死ねるか!?』マガジンハウス
[3]　吉越浩一郎『日本人は日本を出ると最強になる』幻冬舎

■参考文献

適宜、講義のなかで指定する。

■参考URL

http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/

■評価方法

毎回の講義のなかで作成させる課題レポート（評価割合70%）と期末定期試験（評価割合30%）の成績により評価する。
ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

課題レポートと期末定期試験の評価合計が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、評価合計の得点順に成績評価する。
相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

この講義は、毎回行う課題の提出がないと単位取得に必要な点数を獲得することができないので、できる限り講義には出席し、課題を提出すること。

科目名　立志論III（Aspiration Theory III）

サブタイトル　アントレプレナーシップ論

担当教員　趙　佑鎭

■講義目的

規模が小さくても良いサービスと製品を世の中に提供することでイノベーションを起こし、成長速度が早い企業のことをベンチャー企業という。この「ベンチャー」という言葉を最初に日本で広めたのは多摩大学２代目学長である中村秀一郎教授であり、彼はアントレプレナーシップのことを「単なる営利欲ではなく、それを突き抜けた達成動機と人間の気概」といっている。要は、ベンチャーの経営者は単なる金儲けだけではなく、アントレプレナーシップを以って社会に貢献し、歴史を前進させる役目があるということを強調しているのである。起業家とベンチャーの経営者は、ほぼ同義語だと理解してよかろう。
この「立志論Ⅲ」では将来、ビジネスを起こしたいと考えている学生、大企業や中小企業の中でコーポレート・ベンチャーを手掛けたいと思う学生、金融機関などで支援側に立ちたいと思う学生等がその実践に生かせる手がかりを学ぶことを科目の目的とする。この場合の「手がかり」とは、起業家に必要な最低限の「知識」すなわち、ビジネス・プラン、戦略、組織、ファイナンス、マーケティング等のことであり、さらにはビジネスを立ち上げようという「志」、「やる気、思い」である。
この授業では、理論を中心とした部分と共に志・実践に役立つ部分を強化している。趙が講義した内容と対応するかたちで、非常勤講師として本学に招いたベンチャー業界の実務家（産業社会で活躍し名声を得ている起業家、インキュベートマネジャー、メンター）は、起業経営の現実と最前線事例のダイナミックさを学生諸君に感じさせるであろう。将来何をしたいのか漠然としている学生にとっても実務家の体験談を交えた講義は志・キャリア設計の参考のうえで有意義であると思われる。趙は非常勤講師の講義にコーディネーターとして毎回参加し、司会、質疑応答の進行をつとめる。また、総括の講義は、これまで日本の数多くの起業家を支援してきた野田一夫多摩大学初代学長（現名誉学長）が行う予定である。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

・ビジネスの立ち上げとビジネスプラン作成に必要な知識習得
・起業経営特有の戦略、組織、ファイナンス、マーケティングを理解する
・自分にとって経営(学)を勉強する意味を含む志・人生設計及び問題解決を考えさせるきっかけづくり

■講義形態

講義のみ
その他(ベンチャー企業の事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)
：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　なぜ起業家・ベンチャーか
概要：ベンチャー企業とは何か、アントレプレーナシップとは何か
事前学習しておくべき用語：アントレプレナーシップ
詳細・到達目標：日本における起業家・ベンチャー企業の意義を掴む
<第2講>　個人事業と会社設立における手順とルール
概要：会社設立のメリット
事前学習しておくべき用語：定款
詳細・到達目標：会社設立の手続きを理解する
<第3講>　起業家としての志と勇気ある生き方（外部講師講演）
概要・詳細：　ベンチャー起業家のメンターとして活躍している外部講師の講義予定
事前学習しておくべき用語：メンター、実存主義哲学
<第4講>　地域イノベーションシステム（ＲＩＳ）
概要：世界各地域の地域振興の事例とイノベーションの関係
事前学習しておくべき用語：ベンチャー生態系
詳細・到達目標：地域イノベーションシステムに関連する理論及びベンチャー生態系を理解する
<第5講>　ベンチャー企業経営論のフレームワーク
概要：ベンチャー企業特有の戦略論
事前学習しておくべき用語：破壊的イノベーション
詳細・到達目標：ベンチャー企業の成功失敗事例から導き出された経営モデルを理解する
<第6講>　インキュベート事業経験からみた成功する起業家、失敗する起業家（外部講師講演）
概要・詳細：　インキュベートマネジャーを長らく歴任した外部講師の講演予定
事前学習しておくべき用語：インキュベート
　第7講>　事業計画とビジネスプラン
概要：事業機会の発見・評価とビジネスモデル構築
事前学習しておくべき用語：ビジネスモデル
詳細・到達目標：ビジネスプランの作成と評価ポイントについて理解する
<第8講>　ベンチャー企業の組織のマネジメント
概要：ピラミッド集権型組織ＶＳネットワーク分散型・インフラ型組織
事前学習しておくべき用語：マネジメント、マックス・ウェバー、リーダーシップ
詳細・到達目標：組織と個人の関係の理解、ベンチャー企業特有の組織論とリーダーシップについて理解する
<第9講>　ベンチャー企業の新価値創出と組織のあり方（外部講師講演）
概要・詳細：上場企業のベンチャー起業家の講演予定－非常識な組織づくりが会社を強くする！
事前学習しておくべき用語：リスクテイキング、フラットな組織
<第10講>　提携戦略
概要：限りある自社資源の限界を超えるための他社の経営資源活用
事前学習しておくべき用語：アウトソーシング
詳細・到達目標：ベンチャー企業のパートナリング・ネットワーキングのメリットを理解する
<第11講>　21世紀の起業家・ベンチャー育成の世界的潮流
概要：ベンチャー企業のグローバル化の意義
事前学習しておくべき用語：サイエンスパーク
詳細・到達目標：ベンチャー企業のグローバル化戦略とベンチャー育成の世界的潮流を理解する
<第12講>　ベンチャー・ファイナンス
概要：日本の銀行とベンチャーキャピタル、公的資金活用
事前学習しておくべき用語：ベンチャー・キャピタル
詳細・到達目標：起業における資金調達と株式公開について理解する
<第13講>　起業家・ベンチャー企業のマーケティング
概要：マーケティングの神話とイノベーションの関係、ブルーオーシャン戦略
事前学習しておくべき用語：ブルーオーシャン戦略
詳細・到達目標：ベンチャー企業特有のマーケティングをマーケティング・パラダイムの変遷の脈略から理解する
<第14講>　日本の起業家・ベンチャー企業の変遷と志ある経営（外部講師講演）
概要・詳細：数多くの起業家を支援してきた多摩大学野田一夫名誉学長の特別講演予定
事前学習しておくべき用語：本田宗一郎、松下幸之助
<第15講>　総括
概要・詳細：これまでの趙の講義配布資料に基づいたおさらいと総括
※　講義の順序は、学生の理解度と進捗度によって前後、変更する場合があることを留意されたい。また、外部講師の講義日もスケジュール状況によって変更になることがあり得る。

■教科書

資料配布

■指定図書

趙佑鎭編著『奇跡を呼びこむ、人－イノベーションの起点、韓国と日本と松下イズム』悠雲舎

■参考文献

講義中に随時紹介

■参考URL

■評価方法

・期末試験（ペーパーテスト70%）＋レポート（3本・30%）＋出席（加算点としての＋α）＋授業態度（加算点としての＋α）
・期末試験は趙の講義内容、レポート3本は外部講師の内容を中心に行う

・レポート3本は、MS Office を用いた課題作成提出であり、パワーポイントと表計算ソフトのExcellを用いる工夫も好ましい
・詳細はオリエンテーション時に提示

■評価基準

相対評価
・上記の総合評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・授業態度における私語、携帯電話（をいじること）、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は不可であり、厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なもの（教員個人としては不本意）であるが、このような注意と授業態度を静粛に保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は絶対的に勧められない。

科目名　立志論IV（Aspiration Theory IV）

サブタイトル　立志人物論

担当教員　久恒　啓一

■講義目的

ビジネスはコミュニケーション活動によって成り立っており、その活動を担うのは人である。経営資源を束ねる人的資源の重要性はますます高まっている。今後はキャリア形成を含むライフマネジメントの視点から人的資源の活性化を考えながら、組織や経営やビジネスについて考察することが求められる。
この講義においては、近代日本をつくった明治期を中心とするわが国の志を実現した偉人の生涯(経営者・政治家・芸術家・作家・ジャーナリスト、)を題材に、いくつかの切り口----仰ぎ見る師匠の存在、敵との切磋・友との琢磨、持続する志、怒涛の仕事量、修養・鍛錬・研鑽、飛翔する構想力、日本への回帰----を用いて今日の産業社会で生きるための問題解決の知恵について学び、自らの志とライフマネジメントについて深く考えてもらう。

■講義分類

ビジネスマネジメント
グローバルビジネス

■到達目標

自身のロールモデルを発見し、最終レポートとしてパワーポイントを用いて「私のロールモデル○○○○の人生鳥瞰図」を作成し、ワードを用いて「私のロールモデル○○○○から学んだこと」をレポートできる力を身につける。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：講義「近代日本のわが国の偉人たちのライフマネジメント」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：立志人物論の位置づけ・「本物の条件」の7つの共通項を紹介・エニアグラム
<第2講>
概要：講義「仰ぎ見る師匠の存在Ⅰ」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：阿久悠の映像・エニアグラム9つのタイプ
<第3講>
概要：講義「仰ぎ見る師匠の存在Ⅱ」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：横山大観・白洲正子・渡辺崋山・昭和天皇・高杉晋作・渋沢栄一・森鷗外
<第4講>
概要：講義「敵との切磋、友との琢磨」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：岡本太郎・正岡子規・夏目漱石・秋山真之・司馬遼太郎
<第5講>
概要：講義「持続する志」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：正岡子規・武者小路実篤・三木武夫・北大路魯山人
<第6講>
概要：講義「怒涛の仕事量Ⅰ」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：太宰治・寺山修司・松本清張・樋口一葉・与謝野晶子
<第7講>
概要：講義「怒涛の仕事量Ⅱ」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：手塚治虫・石ノ森章太郎・藤子不二夫F・藤子不二夫A・赤塚不二夫
<第8講>
概要：講義「修養・鍛錬・研鑽」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：安岡正篤・新渡戸稲造・二宮尊徳・野口英世・小泉信三・サトウハチロー・佐野常民・星野富弘・朝倉文夫・本田静六
<第9講>
概要：講義「飛翔する構想力」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：後藤新平・松下幸之助・宮崎駿・辻村寿三郎・水戸光圀・棟方志功・福沢諭吉・宮脇俊三・横山大観・高田屋嘉兵衛・手塚治虫・石ノ森章太郎
<第10講>
概要：講義「日本への回帰」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：司馬遼太郎・柳田國男・梅棹忠夫・岡倉天心・東山魁夷・小野道風・古賀政男・柳宗悦・村野四郎・加茂真淵
<第11講>
概要：講義「事業家・経営者の記念館」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：鈴木常司・小林一三・原三渓富太郎・岩崎弥之助・根津嘉一郎・亀井文蔵・菊池寛実・安宅英一・粉川忠・山本為三郎・住友吉左衛門・大倉喜八郎・喜七郎
<第12講>
概要：講義「一徹の人びと・多摩の人物記念館」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：岡田紅陽・小池邦夫・北原照久・武者小路実篤・水木しげる・中里介山・土方歳三

<第13講>
概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成Ⅰ」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：ロールモデルの事例図の紹介・人生鳥瞰図作成実習
<第14講>
概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成Ⅱ」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：ロールモデルの人生鳥瞰図作成実習
<第15講>
概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成Ⅲ」
事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]
詳細：：ロールモデルの人生鳥瞰図作成実習
・講義で興味を持った人物の自伝や伝記を読んでほしい。

■教科書

■指定図書

「遅咲き偉人伝ー人生後半に輝いた日本人」（PHP・久恒啓一）

■参考文献

取り上げた偉人の自伝、伝記など。

■参考URL

http://www.hisatune.net/

■評価方法

1.出席　　50点
2.毎回の提出アンケート　　25点
3.最終レポート　　25点

■評価基準

相対評価
出席を重視した評価を行う。
提出アンケートと最終レポートは、提出枚数とレベルを勘案し評価する。

■事前履修科目等

立志系科目を履修するのが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

次回に取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。
講義で興味を持った人物の自伝や伝記を読んでほしい。

科 目 名	立志論Ⅴ（Aspiration Theory Ⅴ）
サブタイトル	志の高いビジネスの取り組みを知り、自らの志を確立する
担当教員	金子　邦博、清松　敏雄

■講義目的

「立志論Ⅰ～Ⅴ」の講義は、大学での学びとその延長線上にある実社会での活躍を展望し、自らの可能性と向き合って、「志」を確立し、大人になった将来の自分をどう創り上げていくのかを考えることを目標としている。

実社会で活躍する大人たちは、様々な経験を積み重ねて、自らを成長させ、社会において必要な存在になることで、安定した生活を確保している。大学での4年間は、大人となって実社会に飛び立つための滑走路であり、この4年間に、まず卒業後の進路を見いだし、それにむかって加速をして、社会人として飛び立っていかなければならない。

大学に入学したばかりで、自由をエンジョイしたいと思うかもしれないが、飛び立つまでも3４年しかないという時間の制限を考えると、無駄に立ち止まることは、社会人としての成長を遅らせてしまい、大人になった将来の自分にリスクを押しつけることになる。この4年間を有意義に使い切ることが皆さんの未来を切り開くことにつながることを自覚し、「今日」から、理想とする将来の自分を創っていくことを歩み出さなければならない。

ただ、大学入学したものの、自らの将来像を見通せず、モヤモヤした閉塞感を感じている人も多いはずである。それは、高校までの教育は、大学に進学するのに必要な知識を得ることを目標に全員が同じ方向に向かって学ぶことを重視していることから、将来の可能性を考えるきっかけとなる「出会い」のチャンスが少なかったから、将来の希望が見いだしきれなかった結果なのです。

大学に入った皆さん方は、これからは自らの可能性を考えるために、様々な出会いをして「世界観」を広げるとともに、「成長する自分」を創り上げるために自分の「人格」を子どもモードから大人モードに切り替えることが必要です。

この「立志論Ⅴ」の講義では、皆さんの就職、働き方を具体的に考えてもうため、今ビジネスの世界で成功している志の高いビジネスの取り組みを知ることを通じて、皆さん方が今後、社会に出て活躍する際、どのような志を持つべきなのかを理解してもらうことを目指していきます。講義では、今注目されているビジネスの取り組みの映像を見て、そこからの学びを基礎に、自分の可能性と向き合い、将来どの様な働き方をするのか、どう成長していくのかを考えてもらいます。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成

■到達目標

志の高いビジネスの取り組みを知ることを通じて、満足感の高い「生き方」を実現するためには、自分は将来どの様な働き方をする必要があるのか、どのように成長していけばいいのかを考え、自らの進路を決定できるようになることを目指す。

■講義形態

講義のみ：学外学習なし

■講義の概要

<第1講>　1　ものづくりを支える町工場
概要：経営不振に陥る工場が相次いでいる。そんな中、長年培った技術を生かしてオリジナルの製品を開発し、ヒットを飛ばす工場が出始めた。そのような町工場の取り組みを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第2講>　2　国産にこだわる
概要：値下げも大量生産もしない！国産にこだわる下町の大人気カバンメーカーの取り組みから「国産」という選択肢の可能性を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第3講>　3　ライフスタイルを変える
概要：ネット通販の可能性を広げ、世界中のライフスタイルを変えたアマゾンの取り組みを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第4講>　4　安さと高機能の両立
概要：今は当たり前になった紳士服の量販店について、そのビジネスの仕組みを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第5講>　5　変革力とぶれない信念
概要：時代を捉える変革力とぶれない信念だけが勝利を生むことを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第6講>　6　スポーツで日本を元気に
概要：スポーツを支えるスポーツ用品のビジネスの現状を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第7講>　7　魚離れに勝つ
概要：街のなかの魚屋さんの閉店が相次ぐなか、魚離れに勝って年商を拡大する巨大鮮魚専門店の取り組みを学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第8講>　8　巨大ホームセンター
概要：日曜大工の工具からガーデニングやペット用品、さらには生活雑貨から食品に至るまで何でもそろうホームセンターの、生き残りを賭けた商品戦略を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第9講>　9　六次産業
概要：今、「農業を儲かる産業にしたい！」と意気込む農家が次々に生まれている。彼らは、ただ農作物を作るだけはなく、自らの生産物に付加価値をつけるための努力をしている。彼らの取り組みから、これからの日本の農業を考える。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第10講>　10　日本食
概要：
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第11講>　11　日本再発見
概要：今、世界では日本食が大ブームになっている。その陰に、ハイテクな日本製食品ロボットの存在がある。世界での日本食ブームを見て、今後の日本食の海外進出について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第12講>　12　おもてなし
概要：日本流のおもてなしの最前線として、日本式のスーパー銭湯や割安と快適を両立させたビジネスホテルを題材に、日本流のおもてなしの今後の可能性を探る。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第13講>　13　発展を続けるコンビニ
概要：日本にコンビニが来て４０年。「いつでも、どこでも・・・」の便利さで、私たちの生活に欠かせないものとなった。食品・飲料・日用品に銀行ATM、更に海外進出と進化を続けるコンビニの現状を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビ

ジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第14講>　14　そば打ち職人
概要：修行を重ねてその技を高めていく職人の世界を知り、職人として働くことのすばらしさを知る。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。
<第15講>　15　クリーニング師
概要：他人ができないようなことをやってのける技術が生みだす付加価値を知り、ビジネスの可能性を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント：課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。
詳細：（復習のポイント）講義で紹介した取組から学んだことを整理し、自らの将来のビジネスへの取り組みで実践できるように理解を深めること。

■教科書

なし

■指定図書

[1]村上龍『カンブリア宮殿　村上龍×経済人　変化はチャンス』　日本経済新聞出版社
[2]クリス・アンダーソン『ロングテール（アップデート版）』　早川書房
[3]五十嵐剛史『競争をやめれば会社は強くなる』　徳間書店

■参考文献

適宜、講義のなかで指定する。

■参考URL

http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/

■評価方法

毎回の講義のなかで作成させる課題レポート（評価割合70%）と期末定期試験（評価割合30%）の成績により評価する。
ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

課題レポートと期末定期試験の評価合計が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、評価合計の得点順に成績評価する。
相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

（1）　この講義は、毎回行う課題の提出がないと単位取得に必要な点数を獲得することができないので、できる限り講義には出席し、課題を提出すること。
（2）　受講希望者が教室の定員を超えた場合、履修登録できる者を選抜しますので、履修希望者は必ず第1回目の講義に出席してください。第1回目の講義に出席しない者の履修は原則認めないので注意すること。

科目名　流通論（Study of Distribution System）

サブタイトル

担当教員　中庭　光彦

■講義目的

人口が減少する中、生産者と消費者を結ぶ「流通の世界」が大きく変化しつつある。現実のビジネスは単なる市場取引ではなく、様々な流通のしくみが機能している。それらしくみは、時々の問題解決の結果として生まれてきたものでもある。

本講義では、生の流通の現場で起こる問題解決を念頭に置き、その解決のしくみがどのように進化してきたのか辿ることにする。主に2年生を対象とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

（1）流通論の基本的な考え方を理解する。
（2）日経流通新聞や経済雑誌の流通系記事を正確に理解できるようにする。

■講義形態

講義のみ：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：オリエンテーション：流通の世界
詳細：講義概要を説明する。
事前に学習しておくべきポイント：流通の意味
<第2講> 流通の主体、流通業界
概要： 多様な流通業界を説明する。
事前に学習しておくべきポイント：流通経路
<第3講>１９世紀の商業
概要： 前近代の商業スタイルを理解する。
事前に学習しておくべきポイント：江戸時代の商業
<第4講>大量生産品をいかに多くの人に届けるか①
概要： 車、家電、衣料品などを例に、生販分離や小売チェーン展開などを解説する。
事前に学習しておくべきポイント：流通革命
<第5講>大量生産品をいかに多くの人に届けるか②
概要： 百貨店、スーパーマーケットの進化について解説する。
事前に学習しておくべきポイント：チェーンストア
<第6講>社会の成熟期にいかに多様な商品を届けるか①
概要：コンビニエンスストアとPOSシステムについて解説する。
事前に学習しておくべきポイント：在庫
<第7講>社会の成熟期にいかに多様な商品を届けるか②
概要： ネット販売、流通における情報化の影響について解説する。
事前に学習しておくべきポイント：ネット流通
<第8講>食品流通について　大手食品メーカーよりゲスト講師予定
概要：食品卸売り、小売や外食チェーンについて解説する。
事前に学習しておくべきポイント：食品流通
<第9講>立地論について
概要：商店街とロードサイドショップの対比を通じて立地論の概要を学ぶ。
事前に学習しておくべきポイント：立地
<第10講>インストア・マーチャンダイジング
概要： 店舗内部のつくりかたについて理解する。
事前に学習しておくべきポイント：動線
<第11講>サプライチェーンについて考える
概要： 物流とサプライチェーンについて解説する。
事前に学習しておくべきポイント：物流業の実態
<第12講>問屋は生き残るか？
概要： 仲介業の重要性について考える。
事前に学習しておくべきポイント：仲介のメリット
<第13講>小売国際化
概要：小売国際化の動向について解説する。
事前に学習しておくべきポイント：小売店の海外出店の実態
<第14講>生販一体化に向けた新たな動き
概要：需要縮小に向けた流通の新たな動きについて解説する。
事前に学習しておくべきポイント：SPA
<第15講>流通とまちづくり
概要：流通振興とまちづくりの関係について解説する。
事前に学習しておくべきポイント：中心市街地活性化

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

適宜指示する。

■参考文献

原田英生・向山雅夫・渡辺達朗『ベーシック流通と商業　新版』有斐閣、2002
流通科学研究会『流通の世界』千倉書房、2011
笠井清志『ビジュアル図解コンビニのしくみ』同文舘出版、2007

■参考URL

■評価方法

出席（40%）、期末レポート（60%）

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

第１回目のオリエンテーションに出席しない場合は履修できません。第１回目に簡単な受講希望理由を書いてもらいます。希望理由がしっかりと書けている者２００名に受講を許可することになります。

科目名　歴史と文化(History and Culture)

サブタイトル

担当教員　大森　映子

■講義目的

歴史を学ぶことは、過去の事実を明らかにするだけなく、現代社会を客観化することでもある。ここでは、過去の日本社会の特質を振り返りながら、歴史的なものの見方を学ぶ中から現代社会がかかえている矛盾点を明らかにし、問題解決の方法を探る糸口を考える。今年度は主に次の2点に注目する。ひとつは、先端技術に支えられた文化の復元である。近年はCG技術の応用などにより、これまで漠然と「思い込み」で理解されてきた日本文化の実像が明らかにされてきている。その具体例を紹介しながら、文化的特質を再検討する。また二つめは、自然への対応のあり方を歴史的に辿ることである。自然災害に対して、過去の日本はどう向き合ってきたのか。日本社会のあり方を歴史的に再認識することによって、現代の価値観を問い直してみたい。

■講義分類

社会人力育成　グローバルビジネス　地域ビジネス　多摩学

■到達目標

(1)過去の事実を知ることの重要性を理解する。
(2)歴史認識は、現代社会の矛盾点を浮き彫りにするものであることを理解する。
(3)歴史を踏まえて、自分なりの意見をもてるようにする。

■講義形態

講義+GD
：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　オリエンテーション
概要：授業の方針、取り扱うテーマなどを紹介
事前学習しておくべき用語とポイント
　日本の歴史および文化に対して関心をもつ。
詳細：「日本的」という表現はしばしば耳にするところであるが、果たしてその認識は正しいのであろうか。日本文化や伝統に対するイメージ、あるいは文化的特質については、実は「思い込み」による部分も少なくないのが実情である。第1回目には、原点に立ち返ることを基本としながら、授業方針と取り上げるテーマの位置づけについて示す。
<第2講>　古代の都　―発掘調査とCGによる復元の試み―
概要：飛鳥京の発掘とCG技術
事前学習しておくべき用語とポイント　[飛鳥地方　考古学]
　日本の古代史を復習し、7世紀頃の時代像を明らかにしておく。
詳細：奈良県飛鳥地方の発掘は、昭和30年代から行われていたが、1990年代以降の本格的な発掘調査の成果によって、その都のイメージは一変した。調査結果に基づき、CG技術を駆使して復元された飛鳥の都は、高度な土木技術に裏付けられ、中国や朝鮮半島の都とは異なる特徴をもち、すぐれた都市機能に支えられていたことが確認された。自然との調和を目指した古代の都の発想は、現代でも学ぶべき点が少なくないことを明らかにする。
<第3講>　CG技術による絵画の復元　―源氏物語絵巻と屏風絵―
概要：源氏物語絵巻の復元事例などを紹介しながら、復元の意義を考える。
事前学習しておくべき用語とポイント　[源氏物語　絵巻物　屏風]
　平安時代の政治史的な流れを把握する。
詳細：現在、我々が目にすることができる芸術作品は、歳月の経過によって、退色・剥落・変形など、さまざまに変化している。そのこと自体はいわば造形物の宿命であり、歳月を経たとはいっても「本物」であることは紛れもない事実である。しかし、その変化によって作者の意図が誤解されている可能性はないだろうか。絵画資料の修復、あるいはその他の文化財の復元事例を通して、製作当初の原状を確認し、あらためてその時代的特質を考えてみたい。また日本における事例ばかりでなく、海外における事例についても触れながら、「思い込み」の危うさを指摘する。
<第4講>　寺院の修復と復元　―平安時代の寺院のイメージ―
概要：平等院鳳凰堂の修復と再現された色彩から平安時代の特質を考える。
事前学習しておくべき用語とポイント　[浄土思想　平等院鳳凰堂]
　平安時代の歴史を学び、時代像を確認しておく。
詳細：「原状」確認の重要性を、建造物について検討する。取り上げる事例は、平等院鳳凰堂。創建以来すでに1000年近い年月を経た堂宇は、創建当初はどのような姿だったのだろうか。何度かの修復と調査の結果に基づく創建当初の状況が、CGによって視覚化された。現在の状況からは想像もできなかったような「原状」を紹介するとともに、日本文化、寺院建築のイメージを再検討する。また再現された建造物から、その時代背景を読み取ることを試みる。
<第5講>　沈没船の調査　―水中考古学の世界―
概要：朝鮮半島沖で引き上げられた沈没船の積み荷を通して、当時の物流を考える。
事前学習しておくべき用語とポイント　[鎌倉幕府　日宋関係　宋銭]
　鎌倉時代の歴史を学び、当時のアジア社会との関係を概観しておく。
詳細：近年、技術の進歩によって沈没船の引き上げなどが可能となり、当時の物流の実態が明らかにされた。取り上げるのは、鎌倉時代の末に朝鮮半島の沖で沈没した船の調査記録である。引き上げられた船の積み荷は、物流のあり方を物語るばかりでなく、人的な交流、国際的な結びつきなどを如実に示すものであった。これらをもとに、当時の日本社会とアジア世界との密接な関連性について、あらためて検討する。
<第6講>　消滅した城の復元(1)　―信長の居城―
概要：安土城の発掘を紹介し、復元をめぐる論争を取り上げる。
事前学習しておくべき用語とポイント　[安土城　織田信長　楽市楽座]
　戦国時代の時代的特徴を学ぶ。
詳細：安土城は織田信長の居城として有名であるが、城は築城から3年後に焼失した。この城をめぐっては、発掘調査や関連史料などから復元が試みられているが、その実態は必ずしも明らかではない。ここでは、CGによる文化財の復元問題を取り上げると同時に、その問題点について指摘する。CGによる復元は、イメージを具体化する上では有効であるが、あくまでも「可能性」にとどまることも認識しておくべきであろう。しかし、発掘調査の結果は、やはり信長の時代が日本の歴史の上で大きな転換点であったことを示している、といえるだろう。
<第7講>　消滅した城の復元(2)　―朝鮮侵略の前線基地―
概要：豊臣秀吉が朝鮮侵略のために築城した肥前名護屋城（佐賀県）について紹介する。
事前学習しておくべき用語とポイント　[文禄・慶長の役　肥前名護屋城]
　15世紀後半の歴史的な流れを把握する。
詳細：全国統一を果たした豊臣秀吉は、大陸侵略構想の第一歩として朝鮮への派兵を試みる。その前線基地として築かれたのが肥前名護屋城である。現在も調査が進められているが、当時の名護屋城は大坂城にも匹敵するような巨大な城であったという。なぜそのような城が必要だったのか。名護屋城の規模や特質を明らかにすることは、当時の対外関係、あるいは秀吉と諸大名との関係を考える上でも見逃せない材料である。
<第8講>　CG技術の限界
概要：前半の授業のまとめを行う。
事前学習しておくべきポイント　　第1～7講までの授業内容を整理しておく。
詳細：前半の授業のまとめを兼ねて、授業内で簡単な小テストを実施する。これまで紹介してきたように、CGの技術は、考古学の成果や文献史料などをもとにイメージを具体化するという点では大きな成果をあげているが、どのような点に注意しなければならないのか、あるいは復元の上で重視すべき点はどこにあるのかを考える。
<第9講>　日本の世界遺産
概要：世界遺産に指定された日本の遺産について検討する。
事前学習しておくべき用語とポイント　[世界遺産　国際協力の発端]
　現在、世界遺産に登録されている物件を把握する。
詳細：「世界遺産とは何か」を明らかにした上で、日本国内の登録遺産について概観する。それぞれの物件について、どのような点が評価されたのかを確認しながら、日本文化の特質をさぐる。日本における文化遺産の特徴のひとつは、「木造」である点であろう。世界遺産の基準を変えたとされる日本諸遺産の特質について触れながら、我々自身も見逃してしまいがちな日本文化の特質について検討する。
<第10講>　世界遺産　―負の遺産をめぐって―
概要：世界遺産登録は、観光目的でないことを確認し、負の遺産について考える。
事前学習しておくべき用語とポイント　[負の遺産　戦争遺産]
詳細：近年、「世界遺産」への申請・登録が話題となっているが、世界遺産とは何なのかという点を確認しながら、とくに「負の遺産」として位置づけられている諸遺産について考えながら、世界遺産の本質について言及する。
<第11講>　世界遺産と自然災害　―台風・水害―
概要：文化財と台風被害との関係について、厳島神社（広島県）を素材に検討する。
事前学習しておくべき用語とポイント　[厳島神社　平清盛　合掌造り]
詳細：台風被害は、その通り道となっている日本列島では避けることのできない問題である。しかし大きな被害を繰り返し受けながら、厳島神社と台風災害との間には、興味深い関係があることが明らかとなった。2004年の台風による被害状況をレポートした映像を紹介しながら、日本建築の基礎となっている発想について考える。また経験的に蓄積された手法は、現代の建造物にも応用されおり、自然とのつきあい方においては、歴史的に学ぶところが少なくないといえるだろう。
<第12講>　世界遺産と自然災害　―地震―
概要：文化財と自然災害との関係について、五重塔を例に考える。
事前学習しておくべき用語とポイント　[地震災害の歴史　五重塔]
　前回の授業を復習し、自然への対応のあり方を確認する。
詳細：文化財と地震の問題を考える。日本は大きな地震を何度も経験しているが、その中で、地震によって倒壊したという記録がないのが五重塔である。一見不安定な構造物に見

えるが、なぜ地震によって倒れたことがないのか、実験などを通して明らかになった点を紹介する。現代の科学ではなお解明できない点を残しながらも、このような五重塔の耐震構造は、現代の高層ビルなどにも取り入れられている。その意味では、過去の経験的手法の重要性はあらためて見なおす必要がある。
<第13講>　木造建造物の修復事例
概要：日本の木造建造物の維持方法について、日光東照宮（栃木県）を例に考える。
事前学習しておくべき用語とポイント　[日光東照宮　姫路城　名古屋城]
詳細：木造建築を維持するには修復が不可欠であり、数十年に一度大規模な修復を行わなければならない。日光東照宮は1999年に世界遺産登録されたが、その登録の根拠となったのは、単に勝れた建造物であるという側面ばかりではなかった。「修復」とは、単に失われた色を補ったり、壊れた部分を直したりするだけのものではなく、常に「原状」に戻すことが意識されていたのである。そのためには何が必要なのか。日光東照宮を例として、修復の模様を紹介しながら、復元の技術と情報について紹介する。また、近世城郭の修復事例についても検討する。
<第14講>　自然災害と日本列島
概要：火山噴火と大地震について、江戸時代の事例を紹介する。
事前学習しておくべき用語とポイント　[富士山　浅間山　大地震]
詳細：火山国日本の宿命の一つが、火山噴火による被害である。ここでは江戸時代の記録をもとに、18世紀の富士山の噴火と浅間山の噴火、元禄大地震、安政大地震などを取り上げ、具体的な状況を紹介する。あわせて自然災害による社会的・経済的影響に注目し、当時の政府の対応のあり方、民衆の受け止め方について検討しながら、自然に対する日本社会の向かい方を考える。
　また最終回のディスカッションに向けて、準備すべきポイントを指示する。
<第15講>　まとめ
概要：15回の講義内容のまとめ
事前に学習しておくべきポイント
　1～15回までの講義内容を把握し、まとめておく。
詳細：授業内容を通して、認識が変わった点を具体的に確認しながら、ディスカッションを行う。

■教科書

とくに指定せず、必要な資料は適宜配布する。

■指定図書

授業内で適宜指示する。

■参考文献

『もういちど読む　山川日本歴史』　山川出版社
『よみがえる源氏物語』　NHK出版
そのほかの文献については、授業内で適宜指示する。

■参考URL

■評価方法

基本は、平常点(出席、および授業内で求める簡単なレポート)50%、および最終回のディスカッションへの参加10%、中間小テスト20%、最終レポート20%、を原則とする。

■評価基準

相対評価
(1)授業内容を理解できているか。
(2)日本社会や日本文化について、自分なりの意見がもてるようになったか。
(3)歴史分析の手法を理解できたか。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

　画像資料、映像資料を多用する関係から、初回オリエンテーションには必ず参加すること。 なお、受講者数によって一部順序の入れ替え、内容の変更などを行うことがある。

科目名	プレゼミナールⅠ(Pre-seminar Ⅰ)
担当教員	奥山、中庭、増田、大森(映)、中村(有)、浜田(正)、出原、下井、諸橋、今泉、齋藤　S.、豊田、彩藤、酒井、村山、安藤、飯田、志賀、小林、常見、久保田、大森(拓)、金、中村(そ)、椎木、バートル、久恒、石川、趙、樋口

■講義目的

① 大学におけるキャリア形成を踏まえた、自己認識の端緒とすること。
② 大学へのソフトランディング
③ ディスカッションやゼミナール活動を通じた主体的学びの態度を習得すること。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

上記「講義目的」に照らし、学生の側から見れば、
① 就業意識に基づいた4年間の学修イメージが確立されること
② 自分が中心的に学ぶテーマが発見されること
③ ②の学びの成果に対する現実的期待を抱くことができるようになること
が、本講義の目標となる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

多摩大学では、大学に入学した時点での学生諸君は、「大学一年生」ではなく、「社会人マイナス四年生」である。それは、諸君が4年後に、社会人になることを前提としているからである。したがって、社会から要求されるものを身につけることが、大学4年間の、諸君のミッション（使命）である。

では、「社会から求められるもの」とは何か。

多摩大学は、これを総称して「問題解決力」と定義する。つまり、社会とは「問題」の塊そのものであって、社会で役割を担うこと（つまり就職ということ）は、「問題を解決する」ことだ、と考えている。多摩大学のすべての授業は、諸君の「社会における問題解決力」を伸ばすことのためにある、と言っても過言ではない。

問題解決力養成は、講義だけで達成することはできない。そこで用いられるのが、「ゼミ形式による学び」である。この「ゼミ」という学びのスタイルには、いくつかの核心的な意味が隠されている。

1）具体的な問題を認識し、問題構造を明確にし、解決方法を模索し、実行する、という実際の問題解決に挑む活動のプロセスによってこそ、有効な学びがある、ということ。
2）同じ問題に、自分だけではなく複数の人間（仲間）で取り組むことによって、問題発見−解決プロセスの糸が、より網の目のように重なることを体験し、互いに知恵を出し合い、協業して問題解決に当たる基本的能力が身に付く、ということ。
3）解決に役立つ情報は、この世界のいたるところに転がっている。したがって、無数の無駄な情報の中から、必要・有効なものを見つけ出し、とり出し、加工したり組み合わせたりすることによって、新たな知を作り出していくということこそが、諸君が身につけなければならないのだ、ということ。この、「有用な情報」を手に入れるという教科書のない作業こそが、諸君にとって必要である、ということ。

こういった考え方から、本学は「ゼミ中心大学」を標榜し、さまざまな取り組みを行っている。したがって、まずは諸君自身がこういった大学の考え方を理解し、取り組んでもらうことが重要である。これは、大きな教室で講義を聴くことによってだけではなく、諸君自身が活発に積極的に、能動的に考え、話し、そして行動する、ということを意味している。先生の言うことをよくきき、ノートをしっかりとり、暗記し、答案を書くという営みは、諸君にとって重要ではあるが、十分とは言えない。そのもう一歩先の、「みずから学びをつかみ取る」姿勢こそ、最も大切なものであるということを、われわれはまず伝えたい。

この「プレゼミナールⅠ」は、諸君のこうした今までにあまりなかったであろう「学び」の「学び方を学ぶ」ためにある。

この授業で諸君に求められることは、
1）緊張感のある主体的意識、当事者意識を持って参加すること
2）教員や仲間に対し、可能な限り積極的に「情報発信」をすること
3）考えることと物事を進めることを、同時に行うのを厭わないこと
これらを通じて、
4）経営情報学を学び、問題解決能力を身につける4年間の道筋の全体像を把握することである。

<第1講>～<第15講>
概要：各回の講義では、上記の内容を順次深めていく。
事前に学習しておくべき用語：講義のなかで、次回までに学習しておくべきことを適宜指示する。
詳細：（復習のポイント）　各回の講義内容について確実に復習を行うこと。

■教科書

講義のなかで適宜配付ないし指示する。

■指定図書

な し

■参考文献

講義のなかで適宜指示する。

■参考URL

■評価方法

1）まず、下記の条件を満たすことが、単位取得のために必要である。
①すべてに出席することがこの科目単位取得の前提である。
理由の如何にかかわらず、3分の2以上の出席ができない場合は、単位を取ることはできない。
また、定刻に遅れた場合は、欠席となる可能性がある。
②積極的に参加する受講態度。（これが、一定水準以下と判断された場合、それだけで不合格となることがあるので注意されたい）
③最終レポートの提出。（これが未提出であると、それだけで不合格となるので注意されたい。）
2）そのうえで、上記①②③の総合評価によって、成績評価を決定する。

■評価基準

絶対評価
P：上記到達目標に達した。
F：出席が不十分ないしレポート未提出、または到達目標に達していない場合。

■事前履修科目等

な し

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

1）特段の理由がない欠席はあり得ないものとする。すべての回に必ず出席すること。
2）かならず配布されたパソコンを持参すること。それ以外の持参物や、予習等については、各担当教員の指示に従うこと。

科 目 名　プレゼミナールII(Pre-seminar II)

担当教員　奥山、中庭、増田、大森(映)、中村(有)、浜田(正)、出原、下井、諸橋、今泉、齋藤　S.、豊田、彩藤、酒井、村山、安藤、飯田、志賀、小林、常見、久保田、大森(拓)、金、中村(そ)、椎木、バートル、久恒、石川、趙、樋口

■講義目的

① 2年次から卒業まで所属することになるホームゼミを選ぶために、各先生のホームゼミナールの内容を理解すること。
② 先輩たちの学習や研究成果を知り、自らの目標設定に活かしていくこと。
③ 担当教員からの指導を受けながら、大学での学びの目標を設定し、修学意欲を高めていく。

■講義分類

顧客理解　ビジネス環境理解　ビジネス創造　ビジネスマネジメント 社会人力育成 グローバルビジネス ビジネスICT　地域ビジネス

■到達目標

2年次から継続して履修するホームゼミナールでの学びにおいて、ゼミ選択のミスマッチを最小化するため、所属することとなるホームゼミナールの内容を十分に理解するとともに、今後の学びの方向性を明確化する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：原則、学外学習は行わない。

■講義の概要

<第1講>
概要：このゼミナールの進め方の理解を深める。
事前学習しておくべき用語やポイント：なし
詳細：（復習のポイント）講義で指示された内容についての理解を深め、今後のゼミ学習にミスを生じないように十分な準備を行う。
<第2講>～<第15講>
概要：
1）各ゼミナールについて各担当教員から説明されるゼミ説明会へ参加する。聴講した複数のゼミナールについてまとめて提出する。レポートはMSOfficeを用いて作成する。
2）ゼミナール教育の体験をして、ゼミナールでの学びに対する理解を深める。
3）決定したゼミナールでのオリエンテーションに参加するとともに、指定されたレポートの提出を行う。
4）学園祭、SRC、地域プロジェクト発表祭などへの参加して、先輩たちの学習成果に触れることで、自らの学びに対する意欲を深めていく。
5）このほか、適宜課されるレポートの提出を行う。
事前学習しておくべき用語やポイント：講義のなかで指示された次回までの準備を確実に行うこと。
詳細：（復習のポイント）講義のなかでの経験を振り返り、所属するホームゼミナールに対する理解を深めること。

■教科書

講義のなかで適宜指示する。

■指定図書

な し

■参考文献

講義のなかで適宜指示する。

■参考URL

■評価方法

1）まず、下記の条件を満たすことが、単位取得のために必要である。
①すべてに出席することがこの科目単位取得の前提である。
理由の如何にかかわらず、3分の2以上の出席ができない場合は、単位を取ることはできない。
また、定刻に遅れた場合は、欠席となる可能性がある。
②指示されたレポートの提出。
2）そのうえで、講義の到達目標に対する達成度を勘案し、出席とレポートを含めて総合評価によって、成績評価を決定する。

■評価基準

絶対評価
P：　到達目標に達した。
F：　出席が不十分ないしレポートが未提出の場合、または到達目標に達していないと判断されたとき。

■事前履修科目等

プレゼミナールIを履修済みのこと。
プレゼミナールIの単位が取得できていない場合は、この科目をプレゼミナールIとして履修登録して履修して単位取得して、来学期にプレゼミナールIをプレゼミナールIIとして履修登録して履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

1）特段の理由がない欠席はあり得ないものとする。すべての回に必ず出席すること。
2）各担当教員の指示に従うこと。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル　【立志セミナー】「志」を確立し、「働くこと」と真剣に向き合う

担当教員　金子　邦博、梅澤　佳子、清松　敏雄、杉田　文章

■講義目的

本ゼミナールは、各専任教員が開講しているホームゼミナールⅠ～Ⅵに所属していない学生を対象に、まず、将来、どの様に活躍し行くのかを考え、「志」を確立することを目指して指導を行っていく。そして、その「志」を実現するためのキャリア形成を考え、大学卒業後の「働き方」を具体化していく。

志を見つけていくためには、世界観を広げ、自らの可能性と向き合うことが重要である。そのため、この演習では、「立志論Ⅰ～Ⅴ」などの講義との連携を図り、講義で学んだことを題材に、演習を行っていく。その演習の過程で、社会で活躍していくために必要な基本的な思考方式と、説得的な表現が行える論理力を身につけることも目指し、産業社会での社会人基礎力を高め、卒業後の就業力を培っていく。

各年次別の具体的な目標としては、2年次には、志を見つけていくために世界観を広げていき、自らの可能性に対する考えをまとめ、「志」を確立することを目指していく。

3年次には、確立した「志」を実現して社会で活躍するためには、大学時代にどの様な経験を積み重ねて成長すべきか（キャリア形成すべきか）考え、それを実践するとともに、就職するために必要なスキルを高めていく。

4年次には、就職活動を通じて、「就職するというものすごい苦労（大きな課題）を自分自身の努力で対処したという経験」することで、「人間的成長」を獲得して「大人」となって、社会人としての第一歩を踏み出す準備が整えていく。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造　ビジネスマネジメント 社会人力育成

■到達目標

（ホームゼミナールⅠ～Ⅱ）　自らの可能性と向き合って、「志」を確立する。
（ホームゼミナールⅢ～Ⅳ）　「志」を実現するために必要な経験を積み重ねて成長し、「志」の実現可能性を高めていく。
（ホームゼミナールⅤ～Ⅵ）　就職活動を通じて、人間的な成長を図り、就職の内定を獲得して、社会人として活躍していくための準備を整える。

■講義形態

講義+GD・GW・PR
：学外学習有

■講義の概要

（ホームゼミナールⅠ：2年春学期）
＜第1講＞　～　＜第15講＞　　立志論Ⅰの講義を題材に演習を行う　＜予習、復習のポイント＞　立志論Ⅰの講義に参加し講義内容を十分に理解しておく　＜事前学習しておくべき用語＞　立志論Ⅰのテキストに記載された用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。

（ホームゼミナールⅡ：2年秋学期）
＜第1講＞　～　＜第15講＞　　立志論Ⅱの講義を題材に演習を行う　＜予習、復習のポイント＞　立志論Ⅱの講義に参加し講義内容を十分に理解しておく　＜事前学習しておくべき用語＞　立志論Ⅱのテキストに記載された用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。
（ホームゼミナールⅢ：3年春学期）
＜第1講＞　～　＜第15講＞　　確立した「志」を実現するために必要な能力を身につけるための「経験」を積み重ね、自らの成長を促し、どの様に成長できたのか毎週報告するともに、就職活動に必要なスキルを身につけるため学内で実施する「キャリア支援講座」に参加する。＜予習、復習のポイント＞　一週間の活動内容をレポートとしてとりまとめ報告する。　＜事前学習しておくべき用語＞　適宜指示する用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。
（ホームゼミナールⅣ：3年秋学期）
＜第1講＞　～　＜第15講＞　　確立した「志」を実現するために必要な能力を身につけるための「経験」を積み重ね、自らの成長を促し、どの様に成長できたのか毎週報告するともに、就職活動に必要なスキルを身につけるため学内で実施する「キャリア支援講座」に参加する。＜予習、復習のポイント＞　一週間の活動内容をレポートとしてとりまとめ報告する。　＜事前学習しておくべき用語＞　適宜指示する用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。
（ホームゼミナールⅤ：4年春学期）
＜第1講＞　～　＜第15講＞　　就職活動を通じて、企業で働くことの意義を見いだして、企業に自らの可能性を売り込むことの能力を高めていく。毎週、ゼミに参加し、就職活動の進行状況を報告する。就職活動を終了したものは、「志」の実現のための能力をさらに高めるための「経験」を積み重ね、その状況を毎週報告していく。　＜予習、復習のポイント＞　一週間の活動内容をレポートとしてとりまとめ報告する。　＜事前学習しておくべき用語＞　適宜指示する用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。
（ホームゼミナールⅥ：4年秋学期）
＜第1講＞　～　＜第15講＞　　就職活動が終了していないものは、引き続き春学期とおなじ内容でゼミを行っていく。就職が内定した者は、大学生活の集大成として、この大学で学んだことを自らの成長記録してまとめ、卒業レポートをとりまとめる。＜予習、復習のポイント＞　自らの経験を人に伝えるために文章にまとめことを通じて、第三者によりよく伝えることが出来る報告技術（コミュニケーション能力）を習得すること。
＜事前学習しておくべき用語＞　適宜指示する用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。

■教科書

[1]　坪田信貴『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』　KADOKAWA/アスキー・メディアワークス
[2]　スティーブン・R・コヴィー（監修）　『まんがと図解で分かる7つの習慣』　宝島社
その他、演習の各段階で指示する。

■指定図書

[1]　リンダ・グラットン　『ワーク・シフト』　プレジデント社
[2]　ジュェレミー・ドノバン　『TEDトーク　世界最高のプレゼン術』　新潮社
[3]　稲盛和夫『働き方』　三笠書房

■参考文献

演習の各段階で指示する。

■参考URL

■評価方法

出席、報告書ないしレポートの提出、ゼミでの発言・発表などにより総合的に評価する。

■評価基準

ゼミへの出席状況を基本に、提出された報告書・レポートの内容、ゼミでの発言・発表内容を加味して評価を行う。
絶対評価　　P　：ゼミ活動の到達目標に概ね達している。　　F　：ゼミ活動への参加が不十分でゼミ活動の到達目標に達していない。

■事前履修科目等

ゼミの参加に際して、「立志論Ⅰ」及び「立志論Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。ゼミと並行して履修する形でもよい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(1)　正当な理由なしにゼミ活動を欠席する者には単位を付与しない。
(2)　正常なゼミ活動を実施するために行う教員の指示に従わない者には単位を付与しない。
(3)　このゼミに参加を希望する者は、各学期の最初の講義に参加して履修許可を得ること。初回の講義に参加できなかったことに正当な理由があると担当教員が認めた者以外は追加で履修許可はしないので、注意すること。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル　大学生のハローワーク

担当教員　安藤　美冬

■講義目的

「大学生のハローワーク」をコンセプトに、様々な職業や企業を研究していきます。大企業、中小企業の就業実態から、公務員、資格を持った専門職、独立など通常の授業では学べないところまで踏み込んでいく予定です。また、企業で働くビジネスパーソンはもちろん、企画やクリエイティブ職、メディアなど人気職業に務める人の話を聞いたり、職人や弁護士などその道のプロフェッショナルな方々の心構えなど、様々な観点から「仕事」について分析、研究をしていきます。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人力育成、地域ビジネス

■到達目標

・世の中の仕事を学び、職業意識を理解する

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： ホームゼミナール概論
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：第一回目の講義として、まずは今回のホームゼミナールのオリエンテーションを行います。講義内で使用する課題図書の指定の他、各自が自己紹介をしながらアイスブレイクを行います。
<第2講>
概要： 現代日本の就職事情
事前学習しておくべき用語やポイント[ワーキングプア　移民　コモディティ]
詳細：働いても働いても暮らし向きが良くならない「ワーキングプア」にはじまり、大企業の倒産やリストラ、年金問題など、若者を取り巻く労働環境は厳しくなる一方です。年収300万円以下と言われる時代に、私たちはどのように仕事と向き合えばいいのか。現代の就職事情を振り返りながら考察していきます。
<第3講>
概要： 就職ランキングに見える日本の仕事
事前学習しておくべき用語やポイント[リクルート　就職ランキング　]
詳細：毎年大学生を中心に賑わせている「就職ランキング」。この順位の変動から見える日本の姿があります。20年前、10年前、現在を比べてみると、10年前には不動の人気だった企業が現在ではかげりがあるなど、永続的に安泰な企業などないことが一目瞭然です。就職ランキングから様々な事象を取り上げ、ディスカッションをしていきます。
<第4講>
概要： ブラック企業とホワイト企業
事前学習しておくべき用語やポイント[ブラック企業　ホワイト企業　]
詳細：最近巷で聞かれるようになった「ホワイト企業」というのをご存知でしょうか。長時間労働などを見直し、労働者に優しい企業をこう呼ぶようになりました。これは裏を返せば、長時間労働が状態化し、もはや世界で通じる単語となった「過労死」が日本の深刻な問題となっていることを差します。今回は「ブラック企業」「ホワイト企業」というキーワードを取り上げ、日本の労働環境の現状と、理想の働き方について考えていきます。
<第5講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[キャリアデザイン]
詳細：今回はゲスト講師を招聘し、キャリアデザインについて考えていきます。現段階では、日本企業に勤める サラリーマン数名にお越しいただく予定です。大学生の時に何を考え、何を準備していたのか。実際に日本の企業で働くということはどういうことなのか。ざっくばらんに質疑応答を交えながら展開していきます。
<第6講>
概要： 地方の就職
事前学習しておくべき用語やポイント[二拠点生活　Iターン　Uターン]
詳細：当然ながら、働くのは都市に限りません。最近は家賃や生活コストの高い都市部を離れ、地元で就職をしたり、縁のなかった地方に移り住んで仕事をはじめる若者が登場しています。農業、起業、地元就職。こうした現状を取り上げながら、地方で働くという選択肢についても考えていきます。
<第7講>
概要： キャリアアップと転職
事前学習しておくべき用語やポイント[人材派遣　キャリアアップ　転職]
詳細：一生涯ひとつの会社やひとつの仕事に従事する時代は過去の話。多くの人は、一生涯のうちに転職や職業変更を経験しています。ここ20年ほどで当たり前になったヘッドハンティングなど事例を挙げながら、キャリアアップと転職ということについても考察をしていきます。
<第8講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[デュアルライフ]
詳細： 過去2回の講義を振り返りながら、地方就職や二拠点目として地方で仕事をつくった人をゲストとしてお招きします。東京と地方のデュアルライフを送りながら仕事をしている人、親の仕事を二代目として継いだ人、移住をして就職をした人など、複数名をお呼びしてディスカッションを行いながら授業を進めていきます。
<第9講>
概要： インターネットと仕事
事前学習しておくべき用語やポイント[ソーシャルメディア　自己発信]
詳細：企業エントリーが紙からネットに移行し、就職情報のほとんどは今やネット経由です。また、企業人事によると、就職希望者のFacebookなどソーシャルメディア情報を見て参考にする意見も少なくありません。今や仕事に欠かせないツールとなったインターネット、ソーシャルメディアをキーワードに取り上げながら、インターネットと仕事について議論を深めていきます。
<第10講>
概要：今後食べられる仕事、食べられない仕事
事前学習しておくべき用語やポイント[ブルーオーシャン]
詳細：より労働コストの安い移民や発展途上の人たちとの競争はもちろん、日本同士でも競争はなくなることはありません。その中でも常に仕事を取り巻く現状は移り変わり、食べられる仕事、食べられなくなる仕事などが変化しています。今回はテキストを用いながら、できるだけ競争の少ない「ブルーオーシャン」はどこにあるのかを探っていきます。
<第11講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[スペシャリスト　ジェネラリスト]
詳細：今回は人事スペシャリストにゲスト登壇してもらいます。ヘッドハンティングや人事コンサルティングを行う当事者たちが、一体就職希望者の何を見るのか。一体どんな人材が今後求められていくのか。様々な疑問点をぶつけていきます。
<第12講>
概要： 海外就職
事前学習しておくべき用語やポイント[海外就職　]
詳細：就職は日本国内だけの話ではありません。最近では、インドネシアやシンガポールなどアジアを筆頭に、海外で就職する事例も増えてきています。「海外就職」を専門に取材を続ける人の記事をもとに、海外就職の現状や問題点について分析を行います。
<第13講>
概要： ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[日本人としての強み]
詳細：海外就職を行った日本人に登壇してもらい、なぜ海外に出たのか、海外では何を求められるのか、帰国後の日本での就職はどうかなど、様々な疑問をぶつけていきます。また質疑応答やディスカッションを交えながら、普通の就職情報ではなかなか得られないような最新の事情について探って行きます。
<第14講>
概要： 起業、マイクロ起業という選択
事前学習しておくべき用語やポイント[日本の起業率　マイクロ起業　週末起業　]
詳細：先進国の中でも起業率が最も低いとされている日本。失敗した時のリスクの大きさや、起業家へのリスペクトが少ないなど、様々な要因があるとされています。ここではサラリーマンを経て起業をする選択について検討をする他、リスクがほぼゼロの「副業」「週末起業」などについても事例を取り上げながら説明をしていきます。
<第15講>
概要：ゲスト講義
事前学習しておくべき用語やポイント[チームワーク　上場]
詳細：講義の最後としてこれまでを振り返りながら、最後はゲスト講義で締めくくります。 今回は学生起業、脱サラ起業など様々な起業を経験している複数名のゲストに登壇してもらい、単なる就職では経験できない仕事の面白さや苦労など、様々な観点からお話をいただきます。

■教科書

『僕たちはこうして仕事を面白くする』安藤美冬ほか（NHK出版）
『ワーク・シフト』リンダ・グラットン
『10年後食える仕事、食えない仕事』渡辺友裕

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価は、出席（50%）、レポート（50%）により行います。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科 目 名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　飯田　健雄

■講義目的

コミュニケーション能力を鍛錬するために、コーチングを学んでいく。1年、2年生は、コーチングの原理を理解できる段階まで達するようにする。3年生は、コーチングに認知療法や交渉の方法、意思決定の原理をとりいれたアプローチを学ぶ。4年生は卒論のために各自が独自のロール・プレイのためのスクリプトを作成していく。

■講義分類

■到達目標

全員が効果的なリーダシップ・テクニックやコミュニケーション・テクニックを学び、就職できるようにする。企業が学生の就職活動の際、彼らに求める最大の要件は「コミュニケーション能力」である。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
：学外学習有　ゼミでは近隣の小学校や中学校と連携して『親と子のコーチング』を開催し、雲雀祭でその成果を発表する。

■講義の概要

コミュニケーション能力を鍛錬するために、コーチングを学んでいく。1年、2年生は、コーチングの原理を理解できる段階まで達するようにする。3年生は、コーチングに認知療法や交渉の方法、意思決定の原理をとりいれたアプローチを学ぶ。4年生は卒論のために各自が独自のロール・プレイのためのスクリプトを作成していく。
※事前に学習しておくべきポイント：コーチングはディベートやコミュニケーション論とは違って、人間関係の構築を目標としている。本学図書館にはコーチングに関する書籍が少なくとも100冊近くある。興味がある本があれば、積極的に読んでみよう。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

授業への参加及び作成物により評価する

■評価基準

絶対評価　　P ：　　F ：

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

授業に参加すること

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 石川　晴子

■講義目的

石川ゼミは、「英語」、「社会活動・ボランティア活動」をキーワードにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力（文章作成、口頭発表、ディスカッション、ディベート）、情報収集・整理能力、論理的思考の向上を図ります。また、他者と協力して課題に取り組む体験を通して、客観的な物の捉え方、適応力、物事の本質について考える力を育てます。具体的なテーマや活動の詳細は、参加する学生がそれぞれ考え、話し合いののち決定します。人生の楽しみである「学び」や「新しい発見」を自主的に探し、共有できる仲間を育てるゼミにしたいと考えています。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

ゼミ内で行う様々な活動を通して、社会人に必要なリサーチスキル、論理的思考能力、コミュニケーション能力の基礎およびマナーを身につけます。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習有

■講義の概要

第1講>
概要：オリエンテーション
詳細：目標の確認と共有。
事前学習しておくべき用語やポイント：社会の中での現在の自分の立ち位置を意識する。目標をできるだけ具体的にあげ、それをどのように達成するか、他者へ向けて話せるようにする。
<第2講～第14講>
概要：下記①～⑤の内容を順次取り扱う予定
（取り扱うテーマにより順番・内容が変更する場合がある。）
詳細：
①リサーチのやり方について
②効果的な口頭発表の方法
③発表資料の種類と作り方
④文章作成のポイント、レポートの書き方
⑤ディスカッションのやり方
⑥英語力の強化
事前学習しておくべき用語やポイント：
①インターネットや図書館など、必要な資料の検索方法について確認しておく。
②良いプレゼンテーション、悪いプレゼンテーションの例を挙げ、その理由について考える。
③パワーポイントの基本的な操作を身に着けておく。
④ワードの基本的な操作を身に着けておく。句読点を含む基本的な文章作成のルールを確認しておく。
⑤様々なテーマについて、自分の考えをまとめ、発信することに慣れておく。様々な観点から物事を考える習慣をつける。
⑥辞書の使い方、基本的な英文のルールなどについて確認しておく。
<第15講>
概要：まとめ
詳細：下記の内容について、各自発表する。
事前学習しておくべき用語やポイント：学期中に取り組んだ活動について、ふりかえる。第1講で挙げた目標をどれだけ達成できたか確認する。

■教科書

授業内で指示

■指定図書

必要に応じて指示

■参考文献

必要に応じて指示

■参考URL

■評価方法

出席および課題への取り組み（リサーチ、グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど）、提出物（レポートや発表資料など）を評価の対象とします。

■評価基準

絶対評価
　　P　：
　　F　：
上記の「評価方法」の内容を総合的に評価
積極的、自発的な活動を高く評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

毎回の出席を原則とします。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 出原　至道

■講義目的

このゼミナールは、社会に出て通用するシステム構築能力を身につけることを目的とする。ゼミナール開始時のスキルは特に必要としないが、未知の領域に対する旺盛な好奇心、自発的学習能力、平均的な社会性・コミュニケーション能力については既に身につけていることを求める。　2年次では、まず、手法を指定して機能を実現する練習を行い、その後、オリジナルなアイディアを自力で組み上げる段階に進む。その後3年次で、各自が選択した社会的な意義をもつテーマについて、データ解析手法の理論を学んだ上で、プログラミングによって実際にシステムを構築する。次に、このシステムの改良・運用を通して得られる知見について、4年次に各自が論文としてまとめる。　講義時間は週1回であるが、この時間は基本的に、それまでに行った研究の発表の場である。作業時間は各自が別に確保すること。発表の場では、成果を全体で共有し、次回までの目標を明確にすることが求められている。作業はそれ以外の時間に各自行うことになる。　基本的に、研究テーマについては個人の希望する方向性を尊重しつつ、実現可能性・社会的意義などを検討して決定していく。　積極的に外部に成果を応募・発表することを奨励する。目標とする代表的な場として、IVRC（日本）、Laval Virtual（フランス）、SIGGRAPH（アメリカ）、SIGGRAPH ASIA（日中韓など）がある。

■講義分類

顧客理解　ビジネス環境理解 ビジネス創造　ビジネスマネジメント　社会人力育成
グローバルビジネス　ビジネスICT 地域ビジネス

■到達目標

プロジェクトベースでシステム開発能力を持つ社会人として、社会性・人間性を含めて評価される。「大学で何を勉強したか」ではなく「大学で何を生み出したか」を語ることができる。単に「コンピュータが使える」だけの人材とはどこが違うか自分で説明できる。共通の目的を持つ他国の学生との交流を通じて、単なる言語や文化的興味にとどまらない、高いレベルの国際意識を身につける。　このうち、ホームゼミ1では、大学において実現する目標の計画を立て、必要なスキルを明確化する。特に、ホームゼミ選抜において研究計画を提出することなくゼミに割り当てられた学生は、ホームゼミ1終了時点で、単位の合否とは別に継続の可否について審査する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
：学外学習有

■講義の概要

■教科書

■指定図書

■参考文献

[1] R.E.Crandall 『サイエンス・プログラミング』 シュプリンガー・フェアラーク東京(1998)
[2] J.Antonakos/K.Mansfield 『C/C++ アルゴリズム入門』 ピアソンエデュケーション(2000)

■参考URL

http://iis.edu.tama.ac.jp/

■評価方法

平常点(60%)・期末レポート(40%)（絶対基準）。
ただし、期末レポートへの取り組みに応じて、期末レポートの評価の一部を平常点によって評価することがある。

■評価基準

絶対評価
P　：F以外
F　：無断欠席。自主的な取り組みが見られない場合。その他信義に反する場合。

平常点については、以下の点を中心に評価する。
・明確な課題意識を持っているか。
・定期的な発表で基礎を固めているか。
期末レポートについては、以下の点を中心に評価する。
・明確な課題意識を持っているか。
・既存研究の中での位置づけがはっきりしているか。
・独創的な視点を持っているか。
・課題に対して成果をあげているか。

■事前履修科目等

特になし。（選択言語でプログラミングを履修している必要はない）

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

3年次生以降は、年2回のStudent Research Conference(SRC)で研究成果を一般に公開する。特段の事情がある場合を除き、2回連続してSRCの発表を回避するか、発表を許可されなかった場合、単位を認めない。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　今泉　忠

■講義目的

近年、ビジネスでは，定量的な問題解決は必須になってきている。また，当然、コンピュータを利用する場面が多くなってきている。それに伴い、情報処理に関する能力が必要とされてきている。本演習では、これを、「データ(もの)」という観点から見た場合のデータ分析法やモデル構成法について学ぶ。定量的データ処理能力および統計的分析手法を習得することを目標とする。 主に行動科学における統計的データ解析やデータマイニングや意思決定問題について学ぶ。最終的には卒論の提出を行う。基礎知識の習得については履修者全員に必須とする。

■講義分類

■到達目標

卒業時には、以下の手法について理解し、説明でき、活用できるようになることを目標とする。
・統計的データ解析　　主として、多変量解析の分野での手法を学ぶ。回帰分析、主成分分析、判別分析について習得する。
・データマイニング　　大量のデータから、ある目的に応じた結果をえることは容易であるが、それを外部からの評価にも耐えられるようにすることは困難である。このような分析手法について実際のデータを用いながら学ぶ。
・意思決定問題　　ベイズ統計の観点から意思決定の数理的側面について学ぶ。

■講義形態

：

■講義の概要

以下の順序に演習を行う予定である。
1)基礎知識の習得・学習するのに必要と考えられる基礎を学習する。2)各人の専攻したい分野について、おおまかに決定する。その後、その分野について各自が作成した資料をもとに説明することを行いながら、その分野での基礎的な事柄の習得を図る。この時、説明用資料を必ず用意することにする。
2)教材については、各人の専攻したい分野(ただし統計、データ解析の分野またはその関連分野)をもとに決める予定である。
3)卒論を書くテーマに関して、卒論計画書を作成し、必要と考えられる文献などをもとに演習を行う。
4)卒論の作成　統計、データ解析の分野またはその関連分野でのテーマについて卒論を作成する。
【2年生ゼミ】基本的な事項について学習するデータ分析基礎　PDCAで分析を行う過程について修得する。数学素養　数学について、実際に使える事を目的に復習を行う統計基礎　　統計データ分析の基礎について学ぶSRC冬では、グループ別に発表を行う
事前学習：このゼミナールでは、実際のビジネスデータをもとに、分析のストリーを作成する。その場合にはTableuaやRStudioなどを活用する。
各回のゼミナール前にWebサイトから必要なファイルをダウンロードし、実際に実行して整理しておくこと。
また、チームでの課題解決の場合には、PDCAサイクルをもとにチームの分析方針について話し合っておくこと。
【3年生ゼミ】統計的な問題解決力を育成する定量分析　データを定量的に分析するための手法に学ぶことを通じて、問題解決力を修得する統計学基礎　講義での復習を兼ねて、実際のデータに適用するデータ解析　統計的な問題解決のために、統計的データ解析について学ぶ。統計分析手法について学習するSRC夏では、グループ別に発表を行うSRC冬では、個人別に発表を行う
事前学習：Rを用いて分析した場合に、結果の読み解くことが難しい場合が多い。例題などを事前に理解して、自分の分析に役立てられるようにしておくこと。
【4年生ゼミ】ビジネス上の問題について、統計的データ分析を用いて解決するための方法を修得する。各人が、自己のテーマ毎に発展させる。統計的データ分析の手法に修得レポート・論文として書く事により、問題分析と解決案の提案を行うSRC夏では、個人別に発表を行うSRC冬では、個人別に発表を行う
事前学習：各人の課題についてPDCAをもとに分析し、結果をもとに提案できるようになることが重要である。そのために、各回では事前に、分析して、その結果を端的に伝達できるようにしておくこと

■教科書

統計学基礎　日本統計学会編　東京図書
Head First データ解析　オラリィー
統計学は最強の学問である　西内　啓, ダイヤモンド社よくわかる
最新ベイズ統計の基本と仕組み　松原望　秀和システム
An Introduction to Statistical Learning, G., James, D., Witten, T., Hastie, R., Tibshirani, Springer

■指定図書

■参考文献

『理系のための作文技術』　中公新書

■参考URL

■評価方法

演習時間中の発表(40%)　ゼミ外での発表(20%)　学習(40%)　時間外活動(10%)

■評価基準

演習時間中の発表では、適当な演習課題への取り組みとその成果発表を評価する。ゼミ外での発表ではSRCなどでの発表を評価する。学習では、関連した分野を含めた学習に関して評価する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

科 目 名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　梅澤　佳子

■講義目的

新しい社会的価値を創造するための新しい生き方や仕組みづくり…ライフデザイン、ソーシャルデザイン、コミュニティデザイン、ソーシャルイノベーション、コミュニティイノベーションの考え方を学び、同時に、今日の私たちの暮しの中にある課題を発見し、解決のための方法を見出し、実践することを目的としています。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人力育成、地域ビジネス

■到達目標

ゼミ活動の主軸となる地域プロジェクトを通じて企画構想力、交渉力、実践力を身につけます。ホームゼミナールⅠ・Ⅱでは、①文章力、グループワーク、プレゼンテーションなどの基礎的能力を身につけること、②地域プロジェクト活動を行いながら、身近な地域社会を客観的に分析する視点を持てるようになること、③連絡・報告・相談の仕方、チームで活動するための作法を身につけること目標とします。Ⅲ・Ⅳでは、地域プロジェクトの中心的な役割を担い、責任をもって自ら企画立案した地域プロジェクトを実施することを目標とし、ⅣではSRC、地域プロジェクト発表祭、学外発表等を行います。Ⅴでは、卒業研究に向けて各自の研究テーマにいて研究を進めます。Ⅵでは、SRCでの発表を含め卒業研究の完成を目指します。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
その他(プロジェクト型学習)：学外学習有

■講義の概要

地域プロジェクトの今年度計画を作成し、プロジェクト毎に連携する団体との打ち合わせを行いながら、目標に向けてPJチームで共同作業を行う。尚、各々のプロジェクトの進捗状況にあわせて必要となる知識習得のための講義を行う。
事前に学習しておくべきポイント： 多摩ニュータウン、日本における地域共同体、ライフデザイン、少子高齢化などのキーワードについて事前に学習しておくこと。また、ゼミの進捗状況にあわせて事前学習の内容を提示します。

■関連する講義科目
余暇マネジメントⅠ・Ⅱ、地域ビジネス系講義
■外部連携
社会福祉法人時の会、多摩市諏訪名店街、多摩市永山公民館、関戸公民館、多摩市グリーンライブセンター、多摩グリーンボランティア森木会、一本杉みどりの会、一本杉炭焼き倶楽部、多摩市諏訪小学校、聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会

■教科書

筧裕介『ソーシャルデザイン実践ガイド - 地域の課題を解決する7つのステップ』英治出版（2013）

■指定図書

菊田道夫『コミュニティ・イノベーション - 魅力と活力のある地域をデザインする』NTT出版（2003）
中瀬勲・林まゆみ『みどりのコミュニティデザイン』学芸出版社（2002）
越川秀治『コミュニティガーデン - 市民が進めるみどりのまちづくり』学芸出版社（2002）
長坂寿久『NGO発、「市民社会力」 - 新しい世界モデルへ』明石書店（2007）
長坂寿久『企業とNGOの新しい協働関係』明石書店（2008）
寺島実郎『何のために働くのか - 自分を創る生き方』文芸春秋（2013）
アーネ・リンドクウィスト、ヤン・ウェステル『あなた自身の社会』新評論（1997）
河合隼雄『神話の心理学 - 現代人の生き方のヒント』大和書房（2006）
小林　司『「生きがい」とは何か - 自己実現への道』NHKブックス（1989）
多摩大学総合研究所・大和ハウス工業生活研究所編『レジャー産業を考える』実教出版（1993）
リンダ・グラットン『ワーク・シフト』プレジデント社（2012）
バス・ヴァン・アベル編『オープンデザイン - 参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」』オライリー・ジャパン（2013）
シンシア・スミス『世界を変えるデザイン - ものづくりには夢がある』英治出版（2009）
国連開発計画編『世界とつながるビジネス - BOP市場を開拓する5つの方法』英治出版（2010）

■参考文献

サミュエル・スマイルズ『自助論』三笠書房（1998）
その他、ゼミ活動の進捗状況にあわせて随時紹介します。

■参考URL

■評価方法

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、地域プロジェクト活動、学内・学外の活動を通じてゼミへの参加貢献度（発言が有益であり議論の助けになっている、積極的に地域プロジェクトを運営していく活動意欲など）、提出物で評価します。
SRCで、2・3年次はグループ発表すること、4年次は各自の卒業論文について発表する
ことと、卒業論文の作成は単位取得のための条件となっております。

■評価基準

絶対評価
地域プロジェクト等のゼミ活動への参加態度、貢献度（70%）、提出物（30%）
出席は、評価のための前提条件とします。

■事前履修科目等

「ライフデザイン入門」「ライフデザイン」

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

（1）ゼミ、ゼミの地域プロジェクトに参加すること
（2）「余暇マネジメントⅠ・Ⅱ」の単位を取得すること。
（3）「ライフデザイン入門」「ライフデザイン」の単位を取得すること。
（4）SRCでは、2・3年次はグループ発表すること。4年次は各自の卒業研究について発表すること。
（5）目指す卒業後の進路に向かって努力すること。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　大森　映子

■講義目的

歴史を学ぶということは、ただ過去の事象を明らかにするだけではなく、現代社会を相対化・客観化してとらえる視点を養うことでもある。一見、全く無縁と思われるような歴史的事象も、考え方によっては現代社会と深く結びついていることが少なくない。素朴な疑問や関心、興味を出発点として、過去の歴史事象を吟味・分析し、さまざまな可能性を考えながら、理論化を試み、その上で現代社会の本質に迫ってみたい。このような能力を養うことにより、社会に出てからも物事を表面的に捉えるのではなく、その本質を見極める力をつけることを目指す。

また、毎回「ゼミ参加記録」の記載を義務づける。ゼミへの参加を通して、その都度、何が問題とされたのか、あるいは自分の疑問がどの時点で解決されたのか、などをできるだけ具体的な記録として残していく習慣を身につける。

内容の詳細については、授業開始後に参加者と相談しながら決定するが、当面は次のようなテーマについて話題を提供する。

・歴史的に見た自然災害への対応
・観光資源としての文化財とその継承
・資源リサイクルに対する江戸時代の意識

ゼミの進め方については、次の3つを併用する。

(1)テキストを決め、輪読と討論を行う。(テキストは授業開始後に決定)
(2)各自が興味あるテーマを設定し、それぞれのテーマに基づく調査・分析・報告を軸としながら理解を深める。
(3)時事問題について、関心ある記事を示しながら問題提起し、討論を行う。

なお、ホームゼミナールⅥにおいては、ゼミの集大成として卒業論文を作成する。そのため、ⅤおよびⅥについては、変則的な進め方となる。

■講義分類

社会人力育成、地域ビジネス、グローバルビジネス

■到達目標

(1)現代社会を考えるにあたって、歴史的分析の重要性を認識できるようにする。
(2)現代の諸問題を客観的に捉えられる視点を養う。
(3)ディスカッションの中で、自分の意見をまとめ、全体を統括することができる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　オリエンテーション
概要：ゼミの方針を確認し、読み合わせのためのテキストを決定する。
事前に学習すべき用語やポイント
　テキストに関する事前調査を行う。
<第2講>　個別報告について
概要：報告テーマについて、具体的な見通しを報告する。
事前に学習しておくべき用語やポイント
　自分の関心のあるテーマについて簡単な発表ができるように準備する。
詳細：テキストについて、報告分担を定め、報告日程、報告の準備（レジュメの作成）の仕方について具体的に検討する。
<第3講>～<第6講>　<第10講>～<第11講>　テキストの輪読
概要：報告者による発表と質疑応答
事前に学習しておくべき語やポイント
　報告者は、分担部分について規定時間にみあったレジュメ、またはスライドを準備する。
　報告者以外は、輪読部分を事前に読み込み、疑問点や問題点を抽出する。
詳細：報告者による発表を受けて、ディスカッションを行う。
<第7～9講>　時事問題の検討
概要：新聞記事などをもちより、論評する。
事前に学習しておくべきポイント
　事前に関心をもった新聞記事などをコピーする。
　新聞などに目を通す習慣をつける。
詳細：担当者をさだめ、記事のコピーを配布して読み合わせる。担当者からのコメントを受けて、ディスカッションを行う。
<第12講>～<第14講>　個別報告
概要：それぞれが設定したテーマに基づき、報告を行う。
事前に学習しておくべき用語やポイント
　報告者は、事前に発表の補助となるレジュメやスライドを準備する。
詳細：報告者による発表を受けて、ディスカッションを行う。
<第15講>　半期の成果のまとめ
概要：半期のゼミについて総括する。
事前に学習しておくべき用語やポイント
　各自それぞれに半期の内容を振り返り、まとめておく。
　報告の発表とディスカッションを経て、最終レポートをまとめる。
詳細：半期の成果について、ディスカッションを行い、今後の課題を確認する。

■教科書

授業開始後に決定する。

■指定図書

必要に応じて適宜指示する。

■参考文献

必要に応じて適宜指示する。

■参考URL

■評価方法

ゼミへの参加(60%)。授業時の報告やレポート（40%）

■評価基準

(1)積極的、意欲的な参加姿勢を高く評価する。
(2)レポートに対する真摯な取組と成果を評価する。

■事前履修科目等

ゼミの履修と並行して「日本政治史」「歴史と文化」を履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

(1)　学生の主体性を重視する。またこの授業を通して「文献」の重要性も学んで欲しい。
(2)　見学旅行なども実施する予定であるので、積極的な参加を期待する。
なお、出席者の興味・関心などによって内容を変更することがある。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科 目 名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　大森　拓哉

■講義目的

生活する社会の中で、情報を的確に収集・分析することは必要不可欠である。本講義では人間行動の調査の方法の習得・データの収集・分析といった一連の流れを経験し、体得することを目的とする。同時に、人間行動のシミュレーションを各自がプログラムを作成することによって行う。最終的には、心理学、統計学、プログラミングの知識と技法を体得し、人間行動の理解とモデリング全般が行えることを目標とする。

■講義分類

"顧客理解　ビジネス環境理解　ジネス創造　ビジネスマネジメント
社会人力育成　ビジネスICT　"

■到達目標

人間行動全般の理解と、情報の処理方法、および物事の客観的な判断・意思決定ができること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
：学外学習有

■講義の概要

概要： 心理学・データ分析関連の話題を題材とし、実験演習を通して人間行動の理解を深める。 事前学習しておくべき用語やポイント[心理学] 詳細：各学期ごとに大きなテーマを決め、そのテーマに関連する事柄について、 グループワークを中心に、実験・調査演習を行う。扱うテーマは心理学関連である。データを収集し、分析を行うことにより、客観的な論理の展開を行う能力を身につける。各学期末にはSRCにて成果を発表する。4年時には一人一テーマの卒業論文を執筆する。

■教科書

特に指定なし。講義ごとに紹介する。

■指定図書

長谷川勝也 『ゼロから始めてよくわかる多変量解析』 技術評論社
谷岡一郎『「社会調査」のウソ』 文春新書
鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房
堀洋道監修 『心理測定尺度集』 サイエンス社
心理学実験指導研究会編 『実験とテスト=心理学の基礎』 実習編・解説編 培風館

■参考文献

特に指定なし。講義ごとに紹介する。

■参考URL

■評価方法

出席50%、課題50%

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

情報系科目全般

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は各回が連続しており、欠席すると次回講義ではフォローできないため、毎回の出席が必須である。無断欠席は即退ゼミとなる。また、正規の時間外にもゼミの活動を行うので、留意すること。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル　～地域活性化、地域ビジネスの起業～

担当教員　奥山　雅之

■講義目的

地域系ゼミのなかでも、産業、企業、地域ビジネスを専門としたゼミです。地域産業の活性化、地域ビジネスの起業について学びます。
産業は、私たちに必要な商品やサービスを生み出すという役割だけでなく、雇用を生み出す役割、行政サービスの財源となる税を生み出す役割、仕事を通じて人材を育成する役割など、様々な効果を地域社会に生み出す存在です。
私たちの大学が立地する「多摩」を舞台として、より良い産業が地域に根付くにはどうしたらよいか、地域の課題をビジネスや政策実行のチャンスと捉え、あるべき姿とそれに向かうための方法を共に考えることで、「地域」「ビジネス」「課題解決」を学びます。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

ゼミで「○○を勉強した」ということではなく、ゼミで「○○をつくった、チャレンジした」といえるような3年間にすることが目標です。
（1）「発見力」を高めます
　皆さんは普段の生活から、何か疑問を感じたことはありますか。新しいビジネスの種や仕事上の課題を発見することが上手い人の共通点は、「発見力（アンテナ）」が高いということです。何気ない日常生活からも、「ここはちょっとおかしいのではないか」といった「疑問」や、「こうなればいいのに」という「あるべき姿」を発見することができるようにします。
（2）「創造性」を高めます
　なかなか解決できそうにない課題に直面しても、物事を様々な角度から見ていくことで、皆さんの中にある「創造性（クリエイティビティ）」が発揮され、課題解決の糸口がつかめるようにします。
（3）「チームワーク」を高めます
　言うまでもなく、ゼミは教師一人が創るものでなく、学生一人が創るものでもありません。教師と学生がチームとなってつくる上げるものです。ゼミの運営の中で、「チームワーク」を高めていきます。

■講義形態

GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

☆奥山ゼミは、下記の具体的なプロジェクトを実施していきます。
・特定の地域にどっぷり浸かって、産業振興プロジェクトに参画（日の出町、多摩市など）
・ビジネスプラン作成とコンテストへのエントリー
・中小企業の社史製作プロジェクト、志企業の会社案内プロジェクト（学生自らが地域の中小企業に訪問し、経営者等にヒアリングを行い、中小企業の社史や会社案内等を作成する）
☆概要
オリエンテーション
概要：ゼミの概要・進め方についての説明、自己紹介
事前学習しておくべき用語[地域の課題、地域活性化、地域ビジネス]
詳細：ゼミ運営の準備として、ゼミの概要・進め方についての説明、自己紹介を行います
基礎学習、発表
概要：企業のビジネスモデル分析、地域活性化モデル分析など
事前学習しておくべき用語やポイント[企業、ビジネスモデル、戦略、地域産業]
詳細：ゼミの役割、当面のテーマ・スケジュールについて決めていきます。
情報収集
概要：プロジェクトテーマについての情報収集
事前学習しておくべき用語やポイント[企業、ビジネスモデル、戦略、地域産業]
詳細：プロジェクトやビジネス構想に際して、その基礎となる資料を収集していきます。
新しいビジネスの構想
概要：新しいビジネスを構想する
事前学習しておくべき用語やポイント[企業、ビジネスモデル、戦略、地域産業]
詳細：基礎学習に基づいて、グループに分かれて新しいビジネスを構想します。
報告書等作成
概要：研究テーマについての報告書等作成
事前学習しておくべき用語やポイント[企業、ビジネスモデル、戦略、地域産業]
詳細：プロジェクトやビジネス構想に際して、外部に提出するプレゼン資料や報告書、ビジネスプランなどを作成します。
現場見学
概要：現場見学（地域のビジネス現場の見学）
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：地域のビジネス現場に実際に出向いて、その状況を目で見て学びます。
現場見学についての討論
概要：討論（多摩地域のターミナル駅前の賑わい（予定））
事前学習しておくべき用語やポイント[現場見学で感じたことをまとめておく]
詳細：現場見学で得られた情報、知見を基に議論します。
企業ヒアリング
概要：地域の企業経営者へヒアリングを行う
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：地域のビジネス現場に実際に出向いて、企業経営者等にヒアリングを行います。
企業ヒアリングについての討論
概要：討論（多摩地域のターミナル駅前の賑わい（予定））
事前学習しておくべき用語やポイント[企業ヒアリング結果をまとめておく]
詳細：企業ヒアリングで得られた情報、知見を基に議論します。
会議出席
概要：社会人中心の実際の会議への出席およびプレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：社会人中心の実際の会議（検討会議等）に出席し、プレゼンテーションを行います。

研究テーマ設定（3年生）
概要：研究テーマをみつけだす
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]
詳細：卒業論文を見据えた研究テーマを見つけ出し、決定していきます。
その他
・学園祭への参加
・合宿への参加
・地域プロジェクト発表祭への参加
・他大学との交流
　など、アクティブに活動していきます。

■教科書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■指定図書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■参考文献

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■参考URL

■評価方法

出席(50%)、積極的な発言を含めたゼミ活動への貢献度(50%)

■評価基準

相対評価
ゼミ活動内の発言や行動について、「発見力」「創造性」「チームワーク」をどれだけ発揮できたかによって評価します。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・個別の学習意欲にも対応します（経営戦略、地域活性化、起業、簿記、中小企業診断士試験、公務員試験など）。
・ホームゼミは教師と学生が力を合わせて運営します。「他人ごと」ではなく、「自分ごと」として、主体性をもってゼミに参加することを望みます。
・ゼミの仲間は「一生モノ」です。仲間を自分の力としてください。自分も仲間の力となってください。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル 「儲ける」ことを科学する会計を学ぶ

担当教員 金子　邦博

■講義目的

本ゼミナールは、ビジネスにおける意思決定に際して、会計情報を活用することができる人材の育成を目的に、会計学を中心に「儲ける」というビジネスの基本を如何に実現していくのかを学んでいく。

そのため、本ゼミナールでは、将来のビジネスシーンで直面する解決策が明確でない諸課題に対して、会計情報を活用して適切な判断、指示が行えるようなるために必要な、財務会計、管理会計、経営学の基本的な思考方式と、説得的な表現が行える論理力を身につけることを目指して計画的に演習により学習し、産業社会での社会人基礎力を高め、卒業後の就業力を培っていく。

具体的には、2年次には会計学の基礎知識を固めることを目指し、3年次にはそれを発展させて企業や事業手法の現状を分析する学習を行い「いい企業」とはどのような経営を行っている会社なのかを検討し、4年次にはそれまでに身に付けた知識、能力を社会の実践のなかで活かせるようにOUTPUTの能力を高めることを意図して、情報収集能力と自らが収集した情報を利用した問題解決能力の向上を図るためのフィールドワークや論文作成を指導していくことを予定している。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造　ビジネスマネジメント 社会人力育成

■到達目標

（ホームゼミナールⅠ：2年春）日本商工会議所の簿記検定3級に合格すること。
（ホームゼミナールⅡ：2年秋）株式会社の会計（日商簿記2級程度）を理解すること。
（ホームゼミナールⅢ：3年春）財務会計の分析手法を理解すること。
（ホームゼミナールⅣ：3年秋）プレゼンテーション能力とチーム作業に対する対応能力を高めること。
（ホームゼミナールⅤ：4年春）卒業レポートとしてまとめる「課題」についての理解を深めること。
（ホームゼミナールⅥ：4年秋）卒業レポート作成のための考察を通じて問題解決力を高め、レポートにまとめることを通じて文章伝達力を高めコミュニケーション能力の向上を図る。

■講義形態

GD・GW・PR
：学外学習有

■講義の概要

（ホームゼミナールⅠ：2年春学期）＜第1講＞ ～ ＜第15講＞　ビジネスの最前線事例を学ぶ、及び日商簿記検定3級（商業簿記）の問題演習　＜予習、復習のポイント＞　ビジネスの最前線事例から学んだこと発表できるようにとりまとめること　＜事前学習しておくべき用語＞　指定した図書に記載された用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。
（ホームゼミナールⅡ：2年秋学期）＜第1講＞ ～ ＜第15講＞　ビジネスの最前線事例を学ぶ、及び日商簿記検定2級（商業簿記・工業簿記）の問題演習　＜予習、復習のポイント＞　講義時間内で演習した問題について類似問題を解けるようになること　＜事前学習しておくべき用語＞　指定した図書に記載された用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。
（ホームゼミナールⅢ：3年春学期）＜第1講＞ ～ ＜第15講＞　財務諸表分析の基本書を輪読する。担当者は、事前に指定された箇所を勉強し、レジュメをまとめゼミ員の前で発表を行い、そこで勉強した論点について全員でディスカッションを行う。＜予習、復習のポイント＞　財務会計の理論を理解すると共に、財務分析の考え方とその手法を理解すること。　＜事前学習しておくべき用語＞　指定した図書に記載された用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。
（ホームゼミナールⅣ：3年秋学期）＜第1講＞ ～ ＜第15講＞　企業が公表している財務情報等に基づき企業間比較を行い、分析したデータをプレゼンテーションし、「いい企業」とはどのような経営がされている企業なのかディスカッションを行う。この分析を、4週間を1サイクルにして、4回程度行う。＜予習、復習のポイント＞　財務分析の結果を吟味し、相対的な比較からいい企業を選び出せるようになること。　＜事前学習しておくべき用語＞　指定した図書に記載された用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。
（ホームゼミナールⅤ：4年春学期）＜第1講＞ ～ ＜第15講＞　3年生までに学んだ会計理論、財務分析手法を前提に、各自がより深めて学びたいと思って選んだ課題について、調査・研究を行い。その中で発見したことを順次、ゼミ員の前でプレゼンテーションし、それに対する質疑を通じて、さらに研究を深めていく。＜予習、復習のポイント＞　自らが選んだ課題についての理解を深めること。　＜事前学習しておくべき用語＞　指定した図書に記載された用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。
（ホームゼミナールⅥ：4年秋学期）＜第1講＞ ～ ＜第15講＞　春学期の調査・研究で得られた成果をレポートとしてまとめる。研究の成果については、順次、中間報告（プレゼンテーション）を行い、報告に対するディスカッションで得た意見を踏まえ、最終的に提出する卒業レポートをまとめる。＜予習、復習のポイント＞　調査・研究で得られた知見を文章にまとめることを通じて問題解決力を高め、さらに第三者によりよく伝えることが出来る報告技術（コミュニケーション能力）を習得すること。　＜事前学習しておくべき用語＞　指定した図書に記載された用語の意味を関係図書を参考に説明できるようにしておくこと。

■教科書

[1]　桜井久勝　『財務諸表分析』　中央経済社
[2]　桜井久勝　『財務会計講義』　中央経済社
その他、演習の各段階で指示する。

■指定図書

[1]　兼重日奈子　『幸せな売場のつくり方』　商業界
[2]　ディビッド・メッキン　『財務マネジメントの基本と原則』　東洋経済新報社
[3]　クリス・アンダーセン　『ロングテール［アップデート版］』　早川書房
[4]　丹道夫　『商いのコツは「儲」という字に隠れている』　インフォレスト
[5]　シーナ・アイエンガー　『選択の科学』　文藝春秋

■参考文献

演習の各段階で指示する。

■参考URL

http://www.asb.or.jp/

■評価方法

出席、課題、グループワーク、発表、研究報告書、ゼミ運営の貢献などにより総合的に評価する。

■評価基準

出席については、ゼミに参加し積極的に発言しているか。課題ないし発表、研究報告書については、問題内容を正しく理解して論理的な論証が出来ているか。また、グループワークないしゼミ運営については、チーム員との協働の状況と、その成果である報告内容等を基準に評価する。

絶対評価　　P　：ゼミ活動の到達目標に概ね達している。　　F　：ゼミ活動への参加が不十分でゼミ活動の到達目標に達していない。

■事前履修科目等

ゼミの参加に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしないが、「ビジネス入門Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(1) 正当な理由なしにゼミ活動を欠席する者には単位を付与しない。
(2) 本ゼミナール参加者は、原則として財務・会計領域の全ての科目を履修すること。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル 企業・業界・市場情報

担当教員 金　美徳

■講義目的

21世紀は、アジア・ユーラシアダイナミズム時代である。アジア経済は、巨大な市場規模や豊富な天然資源など潜在性が高いことから、世界経済を牽引する。世界経済に占めるアジア経済の割合は、現在の27%から2030年代には50%を超えると予測されている。まさしく「アジア経済=世界経済」の時代となるであろう。

日本は、すでに世界貿易に占めるアジア貿易の割合が50%、ユーラシア(アジア+欧州)貿易が70%を超えており、最早、「日本経済=アジア経済」の時代と言っても過言でない。

したがって今後、日本の企業やビジネスパーソンにとって、アジアの経済やビジネスの情報・知識・理論が必要不可欠となる。

当ゼミでは、日本の企業やビジネスパーソンが最も必要としているアジアの企業・産業・市場の収集・分析・発信力を身に付ける。また、日本企業のニーズ・戦略・ビジネスモデルを徹底して調べ上げることにより、求められている人材像をあぶり出し、就活力を磨く。さらに、生き甲斐がある仕事、自らの力を発揮できること、幸せな人生とは何かを共に議論し、考える。

運営方法は、主にゼミ報告+ディスカッションであるが、学生のアイデアを積極的に取り入れる。また、ビジネスパーソンや外国人研究者との交流、セミナー参加、企業・工場見学、海外視察などのフィールド調査を行う。過去の実績は、以下の通り。寺島文庫塾アジア・ユーラシア研究会に2カ月に1回参加し、ビジネスパーソン・外国人研究者とネットワーク化を図った。国際学生セミナーへの参加(20大学・54名が集い東アジアについて1泊2日で議論)、ゼミ合宿(三浦半島で1泊2日)。海外視察は、2013年香港視察(香港三井物産、ディズニーランド、香港中文大学)と韓国済州島視察(国際会議)、2012年台湾視察(台湾三井物産、新竹サイエンスパーク、中華大学)、2011年韓国視察(国会議事堂、韓国三井物産、朝鮮半島38度線)。

進路指導は、2年生から4年生までの3年間、常に就活や卒業後の働く姿を意識して学習指導や個別指導を行う。大学院への進学指導も行っており、実績がある。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

①2年時は、アジアや日本の企業・業界・市場情報の収集・分析・発信力を身に付ける。
②3年時は、希望する就職先の企業・業界や将来の夢にそって卒業論文テーマを決定する。
③4年時は、卒業論文を完成する。

■講義形態

GD・GW・PR
：学外学習有

■講義の概要

①2年時は、アジアニュース分析やアジア政治経済概況の作成と発信・報告。2年時後半には、卒業論文のテーマを決定し、関連する資料を収集する。
②3年時は、卒業論文の作成進捗状況を報告する。また、就活や大学院進学などの進路指導を行う。
事前に学習しておくべき用語/予習・復習のポイント：
<第1～7講>アジア（48カ国から選択）の政治・経済・文化概要
<第8～12講>日本企業のアジア戦略（アジアの企業・観光誘致を含む）
<第13・14講>アジアユーラシアダイナミズム（EU28カ国+アジア48カ国）のトレンド
<第15講>その他の新興国市場（中南米、アフリカなど）のトレンド

■教科書

①『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美徳、PHP新書、2012年)
②『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美徳、中経出版、2012年)
③『韓国企業だけが知っている日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美徳、中経出版、2013年)

■指定図書

①『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013年)
②『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)
③『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)
④『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007年)
⑤『脳力のレッスンⅠ-正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004年)
⑥『脳力のレッスンⅡ-脱9.11への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007)
⑦『脳力のレッスンⅢ-問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010年)
⑧『脳力のレッスンⅣ-リベラル再生の基軸-』(寺島実郎、岩波書店、2014年)
⑨『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010年)
⑩『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010年)
⑪『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)
⑫『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013年)

■参考文献

随時、関連資料を配布する。

■参考URL

■評価方法

評価は、出席(35%)、報告およびディスカッション(35%)、卒業論文の進捗度(30%)の割合で行う。

■評価基準

2年時は、アジアニュース分析とアジア政治経済概況の報告。
3年時は、卒業論文の進捗状況。
4年時は、卒業論文の完成。

■事前履修科目等

グローバルビジネス系科目を積極的に履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 清松　敏雄

■講義目的

本ゼミナールは、会計を中心とした知識をもとに、応用的課題に対して深い思考を巡らせることができる高い思考能力を身につけるとともに、自らの問題意識をもとに課題とその解決策を見出していく能力を育むことをその目的とするものである。

会計学の領域は多岐に渡り、財務会計・管理会計の領域だけでもさまざまな伝統的論点および現代的諸課題が存在している。また、ファイナンス理論・ミクロ経済学・組織論等とも接している。

本ゼミナールでは、伝統的な論点を習得していく中で、必要に応じて近接する領域の論点も織り交ぜ、表面的理解だけでなく本質的理解を得ることを目指していく。また、将来的に会計専門家等として就職していくことを考慮し、身につけた知識や理解した内容をアウトプットする能力を高めるべく、演習を行っていくことを予定している。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

さまざまな取引等について、会計的にどのように考え、そしてどのように処理するかを習得する。また、日商簿記検定3級および2級等の資格取得もひとつの目標とする。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

第1講～第15講すべてについて、ゼミ生との対話の中で内容を修正していくが、少なくとも、日商簿記検定の取得のための学習指導は行う。
ホームゼミナールを通じ、特に重点的に行う活動は以下のとおりである。

1．簿記検定
ホームゼミナールの中で、日本商工会議所による簿記検定の取得のための講義・演習を行う。会計関係のゼミに所属する以上、会計理論および簿記に関する知識は、他の学生よりもはるかに高いレベルまで到達することが求められる。特に、簿記検定については、将来における就職活動等も考慮し、「継続的に努力する能力」を高めていくためにも、ゼミ生全員について受験を必須とし、合格のために必要な指導を行う。

2．会計理論
1．でも述べたように、会計関係のゼミに所属する以上、会計理論についても知識・思考能力を高めることが求められる。特に、実際の財務諸表を用いながら、会計情報と企業活動がどのように関連しているのかについてディスカッションができるレベルまで指導を行う。

3．実践
ホームゼミナールの活動の一環として、学園祭等での実際の出店を行う。むろん、実際の出店にあたっては、さまざまな努力が必要ではあるが、重視しているのは、会計情報を活用して、どのように価格を決定するのか、どのように採算を管理するのか等を経験することである。実際の企業における活動は、学園祭における活動に比べてはるかに複雑であるが、大学生のうちに少しでもきっかけを掴むべく、学園祭を活用していく予定である。

4．ゼミ合宿
本ホームゼミナールで重視していることの一つは、各自継続的な努力をする能力を身につけることであるが、実際の企業活動は広い視野のもと、異なる考えを持つメンバーと協働できることも重要である。特に、近年では企業活動が国際化していることに鑑み、ゼミ合宿では国内だけでなく海外への視察等も積極的に行う予定である。

※事前学習しておくべき用語：利益、キャッシュ・フロー、変動費、固定費、損益分岐点

■教科書

必要に応じて指示する。

■指定図書

必要に応じて指示する。

■参考文献

必要に応じて指示する。

■参考URL

■評価方法

■評価基準

絶対評価

出席については、ゼミに参加し積極的に発言しているか、課題ないし発表については、問題内容を正しく理解して論理的な論証が出来ているか、また、グループワークないしゼミ運営については、チーム員との協働の状況と、その成果である報告内容等を基準に評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

なし

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　小林　英夫

■講義目的

本ゼミの目的は、ゼミ活動を通じゼミ生のキャリアの礎を築いていくことである。
本ゼミは「組織マネジメント」を対象領域とする。その中で、「組織行動」と「企業家精神」の2つの分野を基本の研究対象としているが、人が社会で生きていく限り様々な組織との繋がりは欠かせないものであり、何らかの創造的活動を行っている。従って研究テーマはゼミ生の関心に応じて幅広く設定することを可能とするが、設定したテーマに対しては真剣に取り組むことを要求する。
また、大学時代は人格形成においても人間関係形成においても非常に重要な時期である。ゼミはコミュニティとしての役割を果たすものであり、社会活動を学ぶ場としても位置付けられる。
大学生活、ゼミ活動、設定したテーマに対する取り組みを通じて、良き人生を送るための土台を築くことを本ゼミの狙いとする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

・社会人としての仕事をしていく際に大切な常識と物事に対する真摯な取り組み姿勢を身に付ける。
・社会人として、課題を発見し問題解決を行っていくための方法、理論、科学を身に付ける。
・キャリア選択の判断基準ともなり、その選択肢を広げることにも役立つ知識を身に付ける。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

はじめにゼミ生の希望と教員の助言により、各自のゼミでの活動の目標と計画を立案する。以降はその目標に向けての知識の習得や実践的活動を行い、ゼミはその活動の実施と相互支援の場とする。
「組織行動」分野は、組織や社会の中で個人や集団がどのように行動するかを研究する。会社の立場から社員にどのように働いてもらい成果を上げてもらうか、個人がどうやって生きていくかを対象とする。前者は「リーダーシップ」と「モチベーション」が、後者では「キャリア・マネジメント」をキーワードとする。
「企業家精神」分野は、自ら会社を興すことやベンチャー企業に参画して急成長の担い手となることについて研究が中心であるが、それだけでなく、どのような組織におけるものであるかを問わず創造的なことを実現する行動について研究する。
ゼミ活動においては、机上の空論や狭い世界での視野にとどまることの無いように、ビジネスの現場に触れることや学外での活動を行う機会を積極的に取り入れる。
事前学習しておくべき用語やポイント：
ゼミでの活動の目標と計画の立案のためには、自らが何らかの問題意識を抱くことが重要である。問題意識は、組織マネジメント領域にこだわる必要は無くどのようなものでも構わないが、事前に自らが何に興味があるかを考えどういったことを探求していきたいかを見つめていることが望ましい。ゼミではその問題意識を、組織行動や企業家精神といった領域の知見を用いて解き明かすことを進める。用語としては「リーダーシップ」「モチベーション」「キャリア・マネジメント」「アントレプレナーシップ」がキーワードとなる。

■教科書

特になし。講義内で適宜指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■参考URL

■評価方法

出席（30%）、ゼミ活動への貢献（40%）、ゼミ発表（30%）

■評価基準

絶対評価

上記配点により、ゼミへの出席、ゼミ活動への積極的な取り組み姿勢と建設的な意見や質問によるゼミの品質向上への貢献、ゼミにおける発表内容の質を評価する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科 目 名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　齋藤　S.裕美

■講義目的

現代社会において、情報倫理にかかわる問題の解決は急務の課題となっている。 企業の保有する様々なコンテンツや顧客データ、営業秘密など重要な情報を保護するために、かつてはウィルス対策や不正アクセス対策などIT部門によって技術的な対策がとられてきた。しかし、近年ではシステム障害や情報漏えいなどが企業活動の継続に大きな妨げとなる事件などが相次ぎ、企業が保有する様々な情報の保護は事業継続管理や内部統制など経営上の課題と捉えられるようになってきたといえる。さらに、情報公開の仕方や不祥事の際のメディア対応などによって企業イメージが大きく左右されることなどもある。 このゼミでは、情報モラルやセキュリティ、メディアについて、知識の修得、問題意識の醸成と問題の発見・分析、問題解決方法の考察を行うことを通じて、各個人の知的な判断に基づいて内的規制・自己統制が行なえるようにすること、すなわち知的論理に基づく判断能力を習得できること、情報社会で必要な倫理的態度とは何かを理解することを目標とする。 また、ゼミを進めていく際に用いるグループディスカッションやブレーンストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、レポート作成などを通じて、社会に出て必要となる基礎的理論や考える手法、文章力を身につけることも目標のひとつである。 具体的には、1)著作権、2)プライバシー権、3)個人情報保護、4)情報モラル、5)メディアリテラシーなどの範囲を扱う。

■講義分類

ビジネス環境理解　社会人力育成　ビジネスICT

■到達目標

① 情報倫理の分野に関する知識の習得
② 情報倫理の分野に関する問題意識の醸成、問題発見・分析、問題解決方法の考察
③ グループディスカッション、ディベート、ブレーンストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、論理的文章の論述ができる

■講義形態

その他(ゼミ形式)
：学外学習有

■講義の概要

<第1講>　ゼミの概要説明
ゼミで扱う分野や到達目標などゼミで学ぶことは何かを確認する。またゼミ生相互のコミュニケーションを図る。
<予習・復習のポイント>
テキスト（福井健策著『著作権とは何か ―文化と創造のゆくえ』集英社刊／変更の可能性あり）の「はじめに」を読んでくる。
<第2講>～<第9講>　著作権とは何か
前半：テキストの各章を2に分割し、それぞれに報告者を割り当て、各講2名ずつ報告を行う（テキスト輪読）。 後半：各章の要約文作成と添削。論述文の書き方について理解する。
<予習・復習のポイント>
次回報告分の章を読んでくる。報告者はレジュメ作成。講義内で添削された要約文の手直しをし、完成させる
<第10講>～<第15講>　著作権に関する意識調査
著作権に関する意識をテーマに、グループで調査を行うための準備を行う。質問紙の作り方として、質問文の作成、回答の方法とそれぞれの相違点、選択式の場合の選択肢の配列とそれぞれの相違点などを理解する。また、データ分析として、表の種類とグラフの種類、それらの使い方などを理解する。
<予習・復習のポイント>
前期中にアンケート調査を終えるよう質問紙の準備を行う。アンケート収集。表やグラフの作成。
<夏季合宿>　調査結果の中間報告

■教科書

授業内で指示する。

■指定図書

和田英夫・他著　『情報の法と倫理』、北樹出版
佐伯胖・他編 『岩波講座 現代の教育8 情報とメディア』、岩波書店
山下栄・他著　『新版　情報化社会と人権』、明石書店
松浦康彦著　『デジタル世紀のプライバシー・著作権』、日本評論社
サラ・バーズ著　『IT社会の法と倫理 第2版』、ピアソン・エデュケーショ
越智貢・水谷雅彦・土屋俊著　『情報倫理学-電子ネットワーク社会のエチカ』、ナカニシヤ出版

■参考文献

辰巳丈夫著　『情報がひらく新しい世界3　情報化社会と情報倫理』、共立出版
情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ編　『インターネットの光と影』、北大路書房

■参考URL

■評価方法

期末レポート40%、期中のゼミ活動の状況、レポートや課題、発表など60%に出席状況などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

絶対評価
・演習に積極的に参加し、意欲的に学んでいるか
・課題、レポートの内容および記述方法
　P：上記評価方法で評価点60点以上
　F：上記評価方法で評価点60点未満

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

特になし。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　彩藤　ひろみ

■講義目的

マルチメディアのコンテンツクリエイターとして、PCを利用した様々なコンテンツを作りつつ、それを地域に還元するための方策を考え実施する。主に3DCG（3次元コンピュータグラフィックス）を中心にスキルを身につける。その上で、コミックやムービー、イラスト、WEB、ゲームアプリへの応用も見据える。

フランスの3DCG専門大学ESCINにて学ぶチャンスがあるので、英語および3DCGを徹底的に身につけてほしい。

卒業後のイメージは、イベント企画者、プロジェクト管理者、ゲームクリエイタ、イラストレーター、アニメーター、システムエンジニア、ネットワーク管理者、プログラマー、Webデザイナー等である。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

社会人としてのマナーと礼儀の習得。
3DCG技術の習得とその応用としての地域活性化への適用が企画できること。
世界を相手に勝負しているという気概をもって活動すること。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

Blender,Unity3Dの利用と応用。地域プロジェクト応用への企画。
事前に学習しておくべきポイント：Blenderの練習、デッサン、アイディアをまとめる訓練

■教科書

必要に応じて指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

必要に応じて指示する。

■参考URL

http://cat.tama.ac.jp/

■評価方法

学期ごとに2回の発表会があり、そこでの作品発表を重視する。
普段からのゼミ参加は必須で、無断欠席は許可しない。
ホームゼミナールⅥについては卒業論文または卒業設計を提出しないものは不可とする。

■評価基準

絶対評価
　P：目標に沿って、よく努力したかどうか
　F：

■事前履修科目等

マルチメディア実践　の履修が望ましい（条件ではない）。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・履修希望人数が多い場合には面接の上、適当な評価基準を設けて選抜することもある。
・普段から積極的にパソコンに親しみ、表現することが好きな人。使う楽しみを知っている人を求める。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 酒井　麻衣子

■講義目的

本ゼミナールは、マーケティング・データ分析（リサーチ、データマイニング、統計）および知的プロフェッショナルスキル（ロジカルシンキング、コミュニケーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション）を身につけ、ビジネスの現場でデータに基づいた判断・企画・実践ができる人材を育てることを目的とする。

IT(情報技術)の発展により、大量のデータを蓄積し分析できるようになったため、企業活動の現場には多くのデータが溢れている。これからの企業人には、そのデータから価値ある情報を読み取り、活用する能力が必須となる。特に企業のマーケティング活動においてはさまざまなデータが取得され、活用されるようになっている。みずから正しくデータを取り扱い、膨大なデータの背後に秘められた関係性を明らかにし、データに基づいた意思決定ができるようになることは、企業人として大きな武器となるだろう。

本ゼミナールにおける3年間で、データ・ハンドリング能力と基本的なビジネス・スキルを有した、社会に出て即戦力となる人材を目指してもらいたい。

本ゼミナールでは年に1つないし2つ、企業との共同研究プロジェクトを立ち上げる。グループワークにより、その企業の持つ実際の課題解決に取り組むことを基本とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

マーケティング・データ分析（リサーチ、データマイニング、統計）および知的プロフェッショナルスキル（ロジカルシンキング、コミュニケーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション）を身に付け、ビジネスの現場でデータに基づいた判断・企画・実践ができる人材を目指す。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
：学外学習有

■講義の概要

3年間を通して、以下のような内容を予定している。

・基礎知識の習得 …統計、多変量解析、リサーチ、データマイニング、マーケティングの基礎を、関連講義と連携しながら学ぶ。

・基本的なビジネス・スキルの習得 …ゼミ活動において、頻繁にディスカッション、ドキュメント作成、プレゼンテーション等を行い、日常的な指導を通して、社会人としての基本的なマナーやビジネス・スキル（知的プロフェッショナル・スキル）を身につける。

・ビジネスの理解(企業活動におけるマーケティング・データ分析活用の実際について理解を深める) …企業との共同研究、社会人向けセミナーやビジネスインターンシップへの参加など。

・マーケティング・データ分析の実践(統計解析ツール・データマイニングツールの操作方法を習得し、実際の企業の課題解決を目的として実践する) …統計解析ツール・データマイニングツール(IBM SPSS Statistics、IBM SPSS Modelerなど)の習得。データ分析・リサーチの実習、企業との共同研究による実践など。

各年次での中心内容と目標は以下のとおりである。適宜グループワークを想定している。

・2年次:基礎知識の習得を中心に行う。

<到達目標>基礎的なデータ分析を確実に行えるようになる。 リサーチの一連の流れを身につける。 ビジネスにおけるマーケティング・データ分析の実際について自分なりのイメージをつかめるようになる。

<事前に学習しておくべき用語>経営・マーケティング・リサーチ・データ分析に関わる基礎的な用語全般

・3年次:ビジネスの理解を深め、より高度なマーケティング・データ分析の実践経験を積む。

<到達目標>ビジネスにおけるマーケティング・データ分析の応用について、より具体的な発想をもてるようになる。 2年次に習得した基礎知識を背景に、より実践的なリサーチ・データ分析を行えるようになる。

<事前に学習しておくべき用語>プロジェクトで関わるビジネス分野に関する基礎的な用語全般

・4年次:下級生の指導を通し、2年間で学んだ知識・経験をより確実に定着させる。

<到達目標>あらゆる課題・データに対して、ビジネスでの活用を視野に入れた創造的なマーケティング・データ分析を実践できるようになる。また卒業論文の執筆を通じて、一つのテーマを深く考え抜く力、論理的にものごとを文章で表現する力を身に着ける。

<事前に学習しておくべき用語>卒業論文で扱いたいテーマに関する基礎的な用語全般

■教科書

ゼミナール中に適宜指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

http://faculty.tama.ac.jp/maiko/index.html

■評価方法

出席50%、課題や発表50%程度の割合で、総合的に評価する。

■評価基準

・ゼミ活動に積極的・自主的に参加し、意欲的な態度で臨んでいるか
・各年次に定めた目標水準に達しているか
・創意工夫を試み、創造的な発想ができるか
・社会人として必要なマナーなど基本的なビジネス・スキルを身に付けているか　など

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

・次の関連講義を必ず受講すること。

「統計」「リサーチ入門」「マーケティング・データ分析Ⅰ・Ⅱ」「マーケティング・リサーチ」「マーケティング・モデリング」「文章伝達入門」「日本語表現法Ⅰ・Ⅱ」、合同ゼミ「アンケート調査実践」「データマイニング実践」を必ず受講すること。

・プロジェクトゼミナール「実践 知的プロフェッショナルゼミナール」は3年生時までの受講を強く推奨する。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　椎木　哲太郎

■講義目的

経済的豊かさを実現した日本では、「(環境・福祉・教育を重要な要素とする)社会」や「文化」の重要性が高まっている。本演習では、社会経済政策、近現代史の視点から現代の経済・社会を分析し、直面する諸課題の解決に向けての方途を模索する。日本経済(社会)、社会経済政策、政治、社会経済システム、歴史、社会経済思想、国際関係、市民活動NPO等を主たる分析対象とし、各自その範囲内でテーマを設定して卒業論文の作成に取り組む。方法論としてはテキストの輪読、報告・討論の形式を中心とするが、できれば学外調査も行いたい。「文献とフィールドワーク」（寺島学長）であり、まず沢山の本を読み込んで頂く。進展とともに卒論に向けた報告を織り交ぜ、各自の構想を肉付けして「作品」へと高めていく。毎週のゼミでは、経済、産業・企業分析、時事・政治問題を中心として、プレゼンテーションと討論を通じたコミュニケーション能力の向上に主眼を置き、小レポートの添削により文章表現力強化を図る。ゼミ生の数が増えれば、年度末に議論・調査の成果を小論文集にまとめて発刊したい。以上を通じて、経営にとっての外部環境たる社会経済変動に対する洞察力と、問題解決のための提言能力を養う。学生と教員の対話を重視し、(就職面接でも物怖じしないだけの)社会人と十分議論できるコミュニケーション能力、さらに実社会を生き抜くための知的構想力・行動力・市民的公共意識を磨きたい。

■講義分類

ビジネス環境理解　社会人育成　グローバルビジネス

■到達目標

社会的企業やNGO・NPO、行政機関への就職、政治家等の進路を視野に、社会経済政策、近現代史に精通し、経済学をはじめとした社会研究のための諸学を用いて現代社会・経済を根源的に分析し、よりよい未来の創造に向けた総体的な政策提言を行うことのできるソシオ・エコノミストの眼を身に付ける。

■講義形態

講義+GD・GW・PR
：学外学習無

■講義の概要

<第1講>年間計画を立てる　社会研究の方法論について　「実際性」の真の意味を理解する
事前学習しておくべき用語やポイント[社会研究，社会科学，価値判断，理論・歴史・政策、ソシオ・エコノミスト]
<第2講>現代の社会経済問題を掬い上げる
事前学習しておくべき用語やポイント[社会問題，経済問題，問題解決，社会経済政策]
<第3講>近現代史と現代社会概説
事前学習しておくべき用語やポイント[近代，現代，産業化，民主化，国民国家，ナショナリズム，大衆民主主義，情報社会，歴史観]

<第4講>経済学理論の復習と隣接諸学の概説
事前学習しておくべき用語やポイント[ミクロ経済学，マクロ経済学，制度，規制，資源配分，所得分配，政治学，社会学，国際関係論]

<第5講>現代の社会経済問題（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[地球環境問題，グローバル・コモンズ，グローバル化と格差，国際公共財，グローバルタックス]

<第6講>調査・文献利用の方法論の習得
事前学習しておくべき用語やポイント[実地調査や文献利用の方法を習得する]

<第7講>現代の社会経済問題（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[生活の質，経済成長，高齢社会，社会保障，社会的包摂]

<第8講>現代の社会経済問題（3）
事前学習しておくべき用語やポイント[少子化，教育の役割，生涯学習社会，持続可能性]

<第9講>構想の発表と討論
事前学習しておくべき用語やポイント[報告のエッセンスをまとめる方法を習得する]

<第10講>報告に向けた調査（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[図書館とインターネットを最大限活用した文献調査の方法を習得する]

<第11講>報告に向けた調査（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[「現場」に足を運ぶ実地調査の方法を習得する]
<第12講>プレゼンテーションと討論（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションに向けた準備の仕方を習得する]

<第13講>プレゼンテーションと討論（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションと討論の方法を習得する]
<第14講>論文・レポート指導（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[論文・レポートの書き方を習得する]

<第15講>論文・レポート指導（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[学術論文の書き方を習得する]

尚、ゼミ生自らの設定した研究テーマに沿った展開となることが想定される。2014年度は日本近現代史、社会経済政策、日本経済論、スポーツと社会、情報社会論、多摩地域研究等を検討している。

■教科書

開講時に紹介する。

■指定図書

演習単独では特に挙げないが、私の担当科目の指定図書・推薦図書は読んでほしい。

■参考文献

演習の中で随時紹介する。

■参考URL

■評価方法

平常点を中心に総合的に評価する。報告の内容、討論への参加に加えて、4年生は卒業論文、2・3年生には進級レポートの作成に取り組んで戴き、その結果を反映する。まずは楽しく出席することが重要である。
・絶対評価
平常点（70%）+レポート・論文（30%）

■評価基準

(1)積極的に演習に参加し、発言を行い、協力して共同作業や学外調査（グループワーク）に取り組んだか。　(2)報告に際して十分に準備し、自分の言葉で説得力ある問題提起を行い、議論を深めることができたか。　(3)文献を十分に読み込み、理解し、そこから有益な論点を導き出すことができたか。　(4)学生生活の結晶とも言える「作品」としての進級レポート、卒業論文の制作に取り組んだか。

■事前履修科目等

参加希望者は、1年春学期に「産業社会論入門（経済学入門）」の単位を取得済みで、合計20単位を取得していること。また、2年秋学期に「近現代史：世界と日本」を履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 志賀　敏宏

■講義目的

志を実現し、幸せに生きる人間となる。意欲、知識、能力、体験のバランスに基づいて、志を実現する人間となる。21世紀半ばにそれを可能とするキャリアを築くため、「イノベーション-価値ある革新」を理解し、それに参画する素養、意欲を身につける。社会に必要とされつつも、社会に飲み込まれない「志」の高い人間となろう。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

産業社会を深く理解し、環境とその変化を機会と捉え、イノベーションを通じて社会の幸福を増す人材となる準備をする。あらためて、自分、社会、幸福とは何かを考えることが必要となる。その上で、環境を含め、幸福を創造しうる人材となる。粘り強く考える、工夫する人材、活動的な人材となることである。

■講義形態

・講義 ＋ GD・GW・PR　・その他(ゲストスピーカーの講演)
：学外学習有

■講義の概要

Ⅰ～Ⅵ（2～4年次）を通じて、ゼミ活動の柱は3本です。 ①学び：今という時代（産業社会）、イノベーションに関する学び ②能力育成：問題発見力、問題解決力、コミュニケーション力等の強化 ③実践：最前線事例の現場での行動体験（フィールドワーク）による教訓の獲得 これらは、当然に社会人基礎力の中核ともなり、皆さんのキャリア開発に繋がります。 以下に①～③に関し、各年次での実施予定を記します。

【2年次（Ⅰ.Ⅱ）】 ①学び：産業社会及びポスト産業資本主義の理解、典型的なイノベーション事例、イノベーション入門に関する図書の輪読。 ②能力育成：オフィシャルなメール、議事録、レポート作成等の実践。問題発見、問題解決のための時系列/因果思考、図解思考、ロジカルシンキング、ディベイト（討論）等。 ③実践：サービス・商業、食（農業含）、工業・研究開発等に関する最前線事例の見学と最前線事例での本格実践（3年次以降）のテーマ探索・決定。

【3年次（Ⅲ.Ⅳ）】 ①学び：イノベーション理論、複雑なイノベーション事例等に関する図書の輪読。 ②能力育成：論文作成、ロールプレイング、就活文書作成・面談能力育成等。 ③実践：企画、実働支援、マーケティング・プロモーション等に関する最前線事例での本格実践活動開始・遂行。 ※秋学期後半から就活が並行することを前提に、極力春学期～夏休みに高密度に活動。

【4年次（Ⅴ.Ⅵ）】 ①学び：以上の学びを踏まえた、各自の産業社会と時代環境に関する認識、及びイノベーション論の構築。 ②能力育成：問題解決のための理解力、思考力、表現力の集大成、プレゼンテーション。 ③実践：最前線事例での本格実践の継続、その集大成としての活動記録作成（方法は、HP/blog/SNSのページ/プロモーション資料/パンフレット冊子/卒論等から選択）。

【事前に学習しておくべきポイント】
1．次のキーワードに関する理解・考察：①ポスト産業資本主義社会、差異化、イノベーション、技術革新、価値創造、②問題定義、聴解力、仮説構築、仮説検証、構造（ツリー）分析、時系列分析、因果関係分析
2．前回の議事録に基づいて、事前検討及び計画案を作成すること。

■教科書

①学びに関して　志賀敏宏（2001）『イノベーションの創発マネジメント研究』，文眞堂 ②能力育成に関して　久恒啓一（2012）『図で考える技術が身につくトレーニング30』，U-CAN ③実践に関して　特になし

■指定図書

①学びに関して　岩井克人（2009）『会社はこれからどうなるのか』，平凡社、一橋大学イノベーション研究センター（2001）『イノベーションマネジメント入門』，日本経済新聞社　、P.F.ドラッカー（2007）『イノベーションと企業家精神』，ダイヤモンド社　②能力育成に関して　上大岡トメ・池谷裕二（2008）『のうだまーやる気の秘密』，幻冬舎、　メルヴィ　バレ他（2007）『フィンランド国語教科書　小学5年生』，経済界　③実践に関して なし

■参考文献

なし

■参考URL

■評価方法

出席（概ね40 %）：無断欠席複数回（事後連絡もなし）、あるいは出席率8割以下（就活による欠席［連絡必須］を除く）の場合は、出席点は0となる可能性があります。 参画態度（概ね60%）：常に目的意識、問題意識を持っていること、あるいは持とうと模索すること。結果につながらない場合でも工夫・努力、試行錯誤すること。 具体的には、輪読及びその準備、グループワーク・グループディスカッション・フィールドワークへの参画（参加ではない）、レポート・議事録の作成等に関する状況を評価します。 さらに、下記留意点(iii)に示す、リーダーシップを発揮することも必要です。なお、学外のアイデアコンテストに参加する等、学外への積極的活動も高く評価します。 心配は無用、ひたむきさと工夫は必要。

■評価基準

絶対評価　　P：上記の出席と参画態度が十分である　　F：上記の出席と参画態度が不十分である（この可能性がある場合は、学期半ばに　本人メールアドレス宛に連絡します。単位取得を望む場合には、対応のこと）　※「十分」とは、卒業時に到達目標に達するように工夫・努力・成長していること。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(i) フィールドワーク等のため、講義時間以外にも活動時間が必要となります。 (ii) ①～③とも、指示、与えられたことを“こなす”ゼミではありません。何をするかを決める、それはなぜか（目的）をはっきりさせる、そこにもゼミの重要な意義があります。そのために志賀を活用する、という考え方でいて下さい。活用の価値がなければ私はクビです。
(iii) グループ、チームでの活動の仕方を身につけることも重要な狙いです。気は使っても、遠慮することなく、意見を出し合って、ものごとを決めて下さい。そのために、交代で司会を務める等、お互いにリーダーシップを発揮することを強く求めます。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　下井　直毅

■講義目的

この講義では、産業社会における基礎的な政治経済について学ぶ。その際、時事的な経済問題を取りあげ、経済学的に捉えて理解することをめざす。この演習を通じて、経済の表面的な動きに惑わされることなく、変化の本質を見る目が育ち、物事を考える力がついて問題解決ができるようになることをめざす。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

経済学的なものの考え方の修得をめざす。
word、excel（マクロ関数を含めて）等のソフトを活用できるようになることをめざす。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
GD:グループディスカッション
GW：グループワーク
PR：プレゼンテーション：学外学習有

■講義の概要

・この演習を通じて、経済の表面的な動きに惑わされることなく、変化の本質を見る目が育ち、物事を考える力がついて問題解決ができるようになることをめざす。　・取り上げるテーマ ①日本経済 ②世界経済　<第1講>　概要：日本経済の歩み(I) <第2講>　概要：日本経済の歩み(II) <第3講> 概要：日本経済の成長(I) <第4講> 概要：日本経済の成長(II) <第5講> 概要：日本の経済政策(I) <第6講> 概要：日本の経済政策(II) <第7講> 概要：世界経済の歩み(I) <第8講> 概要：世界経済の歩み(II) <第9講> 概要：世界経済の成長(I) <第10講> 概要：世界経済の成長(II) <第11講> 概要：演習（「考える力」をつける）(I) <第12講> 概要：演習（「考える力」をつける）(II) <第13講>　概要：演習（発表）(I) <第14講> 概要：演習（発表）(II) <第15講> 概要：総括
・学生の就職を踏まえ、新聞やテレビなどのメディアで取り上げられている経済に関する記事が理解でき、自分なりの考え方を身につけることができるようにすることを到達目標としている。
※事前学習しておくべき用語：相関関係、因果関係、GDP、経済成長率、インフレ率、失業率、成長戦略

■教科書

講義中に紹介する

■指定図書

講義中に紹介する

■参考文献

講義中に紹介する

■参考URL

■評価方法

ゼミへの出席

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 杉田　文章

■講義目的

目的①
　レジャー社会、スポーツ社会を知る。
　歴史学、人類学、社会学、医科学・・・さまざまな分野の研究対象となっているレジャーやスポーツであるので、まずは、レジャーとはどういうものであるのか、スポーツとは何なのかについて明確な認識をもつことを、このゼミにおける目的とする。
目的②
　①を前提に、問題の発見と解決課題の構造化を行うことを第二の目的とする。
しかしながら、真の目的は、ゼミ生がゼミ活動を通じ、社会人として生き抜くのに必要な力をつけることに他ならない。

■講義分類

顧客理解　ビジネス環境理解　ビジネス創造　　社会人力育成

■到達目標

ビジネスに従事する人として社会に対する行為的な態度と理解を持ち、社会に貢献する意欲や能力を持って社会に出ることが、最終的な到達目標である。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
：学外学習有

■講義の概要

(1)Ⅰ・Ⅱ(2年春・秋学期)　(1)(スキルトレーニング)　情報収集とその整理、問題点の抽出と、これらをプレゼンテーションする能力の開発のための練習を行う。(2)(啓発、問題意識の醸成)　「余暇マネジメントⅠ・Ⅱ」の内容をふまえ、さらに特化した事例を研究することによって、余暇社会およびレジャー産業の問題点、課題、解決の方向性について、考察していく。
(2)Ⅲ・Ⅳ(3年春・秋学期)　(1)(レジャー体験と考察)　文献の検索等だけでなく、できるだけレジャーの世界を実体験するようにつとめる。　(2)(自分のテーマの探究)　体験と学習にもとづいて、各人が、この演習における自分のテーマと、その追求方法を確定し、課題を発見する。
(3)Ⅴ・Ⅵ(論文へのまとめ)　ここまで蓄積したものをまとめ、また、調査の技法や研究方法を学び、自分の思考と問題意識を構造化し、論文作成へとつなげていく。その過程で、先人の論文にもあたり、参考とする。　(最終発表)　プレゼンテーションによって、自分自身の研究を完結する。
(4)ⅠからⅥを通じて　ⅠからⅥを通じて、通常の演習の時間のほかに、合宿などの機会を設け、中間および最終の発表を行う。(年2回。全員必須。)この発表には、すべてに優先して参加してもらう。

■教科書

■指定図書

■参考文献

■参考URL

http://faculty.tama.ac.jp/sugita/index.html

■評価方法

授業・合宿への参加、中間・最終発表により総合的に評価する。

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(1)ホームゼミナールⅠからⅥを通じ、一貫してゼミに参加すること。　(2)「余暇マネジメントⅠ」、「余暇マネジメントⅡ」の単位を3年次秋までに取得すること。　この演習においては、学生諸君に対して、学習教材としての文献等の指示や、あるいはプレゼンテーションの指導等はするが、自主研究テーマについては、あくまでも自分で発見し、かつ追求してもらうことになる。「与えられるのを待つ」のではなく、「自ら求める」姿勢で取り組むことが要求されるので、銘記されたい。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 趙　佑鎮

■講義目的

中国古典の戦国策に「智者は未萌にみる」という言葉がある。知恵（先見力）のある者は、ものごとが形になる前に（まだ芽が出ないとき）、その兆しを察して有効な手を打つという意味である。このことは経営/経営者にとっても大事であり、若き日の孫正義（ソフトバンク会長）等が代表的ケースともいえよう。経営者は、「マーケティング」や「経営戦略」的な発想を土台にして、常に変化している「環境」から、未来にとって意味のあるメッセージを読み取って「実践」していかなければならない。
本演習では「マーケティング」、「経営組織論」、「ベンチャー企業経営」を中心テーマとして「環境と戦略」の具体的なケースを扱いながら企業経営の現実を理解することを目的とする。最前線事例としての具体的なケースをもとにグループディスカッション及び問題解決に関連するプレゼンテーションを通じて、経営における「智者は未萌にみる」とは何かを互いに意識できること（学生も教員に気づきを与える）を期待するものである。
本ゼミナールを履修するにあたって、経営基礎、マーケティング入門、特別講座（リレー講座）の単位取得が好ましい。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

・「環境と経営」の総合的理解
・「マーケティング」・「ベンチャー企業経営」・「経営組織論」の3つのテーマにおける基礎知識の理解
・学生と教員、ゲスト講演者（経営者等）との活発な発言、ディスカッションを通じてのコミュニケーション力の向上

■講義形態

講義のみ
講義 ＋ GD・GW・PR
その他(マーケティングの事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)：学外学習有

■講義の概要

本演習の方法は大きく4つに大別できる。 ①具体的なケースを扱った教材を読み込んだ後、それをどう分析し対処していくのかをディスカッションする。 ②具体的現実を理解するために必要な「マーケティング」、「経営組織論」、「ベンチャー経営」、「イノベーション」、「流通論」に関連するいくつかの基本的知識は講義を通じて習得する。 ③具体的現実を理解するうえで参考になる経営者を招待して講義とディスカッションを行う
④指定図書の輪読と発表を行う。
<第1講>～<第10講>
概要：オリエンテーション、ケーススタディーのやり方習得、身近で分かりやすいケーススタディー1本と、組織人事・経営戦略に関係するケーススタディーを学習
詳細：ケース・スタディーの予習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
ケーススタディー・ディベートとは（第1講）、 キャリアとは（第2講）、やる気が出ることとは・動機付け・官僚制（第3講）、マーケティングマネジメントプロセスのおさらい（第4講）、戦略とは・選択と集中（第5講）、コネクト型企業（第6講）、個人の自己実現とプロジェクトドライブ制度（第7講）、ドラッカーの経営論（第8講）、松下幸之助と松下イズム（第9講）、人材育成とイノベーション（第10講）
<第11講>～<第20講>
概要：流通論に関係するケーススタディーとこれに関連する教員講義、ゲスト講師講義
詳細：ケース・スタディーの予習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
商業者の存在意義と売買集中（第11講）、流通における機能分担・取引コストとは（第12講）、チャネルの組織化とパワー関係（第13講）、製販提携と延期型流通（第14講）、サプライチェーンマネジメント（第15講）、小売業態の開発と競争（第16講）、ショッピングセンター（第17講）、コンビニエンスストアとスーパーの経営（第18講）、流通再編成で存在意義を問われる卸売業（第19講）、流通と公共政策（第20講）
<第21講>～<第30講>
概要：マーケティング・ベンチャー経営に関係するケーススタディーとこれに関連する教員講義
詳細：ケース・スタディーの予習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備
<事前学習しておくべき用語／予習、復習のポイント>
クリエイティビティを阻むものは何か（第21講）、 マーケティングコンセプトの実践（第22講）、複雑系経営とは（第23講）、メーカーと小売業の製品開発と共同開発（第24講）、マーケティング組織論（第25講）、サービスドミナントロジックとは（第26講）、破壊的イノベーションとクリステンセンの経営論（第27講）、中小小売商業問題（第28講）、街づくりマーケティング（第29講）、論文の書き方・演繹法・帰納法

■教科書

オリエンテーションの際に提示

■指定図書

オリエンテーションの際に提示

■参考文献

■参考URL

■評価方法

出席（60%）+授業態度（20%）（グループディスカッションとプレゼンテーション）+小テスト（10%）+レポート（10%）

■評価基準

絶対評価
・上記の総合評価

■事前履修科目等

本ゼミナールを履修するにあたって、経営基礎、マーケティングマネジメント論、特別講座（リレー講座）の単位取得が好ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

特に出席が重要であり無断欠席は絶対に許さない

科 目 名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　常見　耕平

■講義目的

学習の根本は、自ら学ぶことである。　自分自身で問題を発見し、その答えを探索する力を身につけることである。　したがって、学習を避けるべき苦行ととらえるのではなく、日々の習慣とすることを演習の目的とする。　自ら学ぶこと、つまり演習(学習)の基本として「大量に本を読む」ことを要求する。「大量」の目安として、1週間に平均して2冊、年間平均100冊をひとつの指標と考える。これは上限ではなく、最低限、これくらいの冊数の本を読むことを目標に取り組むことである。　最終的には、日常的に本を読むことを習慣化すること。さらに学習することを習慣化することを目指す。このため毎回のゼミナールでは、その週に読んだ本の内容等を報告することを求める。　常に世界に好奇心を持ち、読み続ける。これによって最終的には、日常的に本を読むことを習慣化すること。学習することを習慣化することを目指す。　ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

世界を理解する手がかりを得る。

■講義形態

講義のみ
：学外学習有

■講義の概要

講義開始後、受講生と相談して決める。
※事前学習として、全世界を獲得するための意思を知識を備える準備を進めることを求める。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

金谷治訳注『論語』岩波文庫

■参考文献

■参考URL

■評価方法

評価方法　生み出された研究成果に基づいて決定する。

■評価基準

評価基準　　受講姿勢に基づき判断する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

ホームゼミナールとは、自らが選んだテーマについて、自らが学習し、研究する活動である。3年間の演習を通して自らが選んだテーマに関する論文を完成させることを最終到達点とする。大学で受講する他の講義はもとより、不断の・日常の自学自習が高い成果を生むと考える。したがって、演習として大学の時間割に配置された90分間は「あってないもの」と考える。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 豊田　裕貴

■講義目的

豊田ゼミは、マーケティングとマーケティング・リサーチをテーマする。2から4年次の三年間を通じて、マーケティングセンスの獲得と、リサーチセンスの獲得(視点・仮説・調査・分析・解釈といった調査を用いた論展開が出来るようになる)を目指す。特に3年次には一年間を通じて、「グループでの共通テーマを設定し、各テーマについて必ず調査(質的・量的共に必須)を行った上での研究発表並びにグループとしての報告書の作成」を演習として取り組む。なお、これらの成果については、他者からの評価も重要と考え、インターカレッジによる論文大会への参加を義務づけ、質の高い調査を目指せるようにしている。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

マーケティング視点からビジネスを考えられる力の習得を目指し、5年後、10年後に活躍できる基礎を固めることを目標とする。また、学外での論文大会（関東10ゼミマーケティング討論会）への出場や企業からの課題への取り組みなどを通じて、学外での成果の発表とそれに対するフィードバックに向き合うことで、実践力を身につけることを目指す。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
その他(講義 +レポート)
：学外学習有

■講義の概要

（演習科目のため、毎回の課題を事前に学習し、準備の上、ゼミに臨むこと。なおホームゼミは履修者の興味、その時々の研究テーマに応じて内容が変わるため、15回の詳細については随時指示する。）

■教科書

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

演習なので、普段の取り組みから評価を行う。ゼミといえども(ゼミだからこそ)原則、全回出席を必須として、参加率が悪ければ、F評価を行う。

■評価基準

・やる気とゼミへの参加姿勢を評価の大前提とする。
・面白い発想や独自の視点を高く評価する。
・ゼミ外での発表(SRCや学外での発表など)も高く評価する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

・ゼミでは対外活動も多く講義以外の時間にも多くの時間が必要となることを承知の上、受講すること。
・春期休暇中、夏期休暇期間中には合宿を行う(参加必須）。
・参加の可否については、選考テスト、または、面接を行うことがある。
・3年次に「マーケティング・リサーチ」「マーケティング・モデリング」を受講すること。
・「自分たちのゼミは自分たちで作る」という意欲のある学生の受講を強く期待したい。

科 目 名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　中庭　光彦

■講義目的

本ゼミナールは観光まちづくりを中心とした地域政策分析・立案を専門とするゼミです。今後、人口減少する社会で、地域の魅力を生み出す企画方法を身につけるために、基本的な文献を読み、現場を調査し、分析力を身につけ、討議を行い、論文を書き、提案力を身につけます。

今年度は、以下の活動を予定しています。

<2年生・3年生>観光まちづくり企画

特定の土地を集中的に調べ、その観光まちづくり提案をつくり、外部に向けた提案報告書をつくってもらいます。また、その過程で観光ガイドブックや情報誌をつくる場合もあります。

また、条件が合えば、「観光まちづくり大学コンテスト」（9月）に参加し、企画提案をしてもらいます。

<4年生>卒業論文、卒業企画指導

各自のテーマに基づいた論文・企画の指導を行います。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

本ゼミでは、観光を中心としたまちづくりプランナーを専門的に養成します。必要な力は以下の通りです。

(1)読書力。
(2)分析力。
(3)文章力とプレンテーション力。
(4)社会人とのコミュニケーション力。
(5)雑学×想像力=企画力
(6)チームの一員として周囲に目配りしながら動く力。
(7)逃げない力。（これが最重要！）

この能力を養うために、他大学・他機関との交流には積極的に参加してもらいます。

■講義形態

GD・GW・PR
学外学習 / Off-Campus Learning：学外学習有

■講義の概要

<2・3年>

第1回：ゼミの進め方について
事前に学習しておくべきポイント：PCの使い方
第2回−第4回：地域研究についての基本講義。
事前に学習しておくべきポイント：まちづくりとは何か、観光とは何か、コモンズ、ソーシャルキャピタル
第5回−第6回：企業分析の方法について学び、分析の実習。
事前に学習しておくべきポイント：決算書の読み方
第7回−第8回：観光まちづくりの手法について文献等調査、論文の書き方、調査の進め方。
事前に学習しておくべきポイント：社会調査法
第9回−第10回：フィールドワーク。
事前に学習しておくべきポイント：フィールドワークの方法
第11回−第15回：企画提案制作、発表
事前に学習しておくべきポイント：企画立案の方法

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

適宜指示する。

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

https://sites.google.com/a/tama.ac.jp/nakaniwasemi/

■評価方法

出席（50%）、ゼミ活動への貢献度（50%）

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科 目 名	ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)
サブタイトル	企業PR活動とマーケティングコミュニケーション
担当教員	中村　その子

■講義目的

中村そのこゼミナールは「世の中ＰＲできないものはない」を合言葉に、
映像・ラジオCM,制作
マスコットキャラクターデザイン、ポスター、看板やロゴ制作
お店の販売促進やキャンペーン提案、広告宣伝制作、
ラジオ番組の出演とプロデュース、
イベント・展示会企画・参加、
キャッチコピーやネーミング研究、など
社会で自分の製品やサービス、アイデアを効果的にPRし社会に感動を与える方法を学ぶゼミです。
同時に、人々の心を動かす説得力のある話し方や問題解決に結びつく考え方も学んで行きます。
<そのこゼミナールでの活動>
ラジオコマーシャル研究・制作
映像・静止画コマーシャル研究・制作
ポスター、ビラやポップなどの広告印刷物研究・制作
ネーミングとキャッチコピーの手法を学ぶ
マスコットキャラクターやアニメキャラクターによるセールスプロモーション活動　イベント活動と企業ＰＲの関係を探る
上記に関連する懸賞やコンテストへの応募
コミュニティラジオ局やケーブルテレビ局など、広告に関連の深い企業の見学やインターンシップ　その他企業や製品、サービスにかんするＰＲ活動全般に目を向ける
そのこゼミナールで。。。。 社会に影響を与えることば力の世界を探検し、 辞書に残るネーミング　歴史に残るキャッチコピー 記憶に残るコマーシャルメッセージ　を創造してみませんか。　中村そのこゼミナールは、「社会を動かすことば力」をテーマに、コマーシャル作り、キャッチコピー作成、 ネーミングテクニックなど、社会で自分の製品やアイデアを広告、ＰＲする方法を学ぶゼミです。同時に、人々の心を動かす説得力のある話し方や問題解決に結びつく考え方も学んで行きます。　将来、広告製作やＰＲ活動に関係した分野で志を実現する力を付けることももちろんですが、どんな分野で仕事、社会活動をする場合でも、自分のアイデア、製品のＰＲ，会社業務、活動のＰＲ，など、説得力のあるメッセージを、社会に向けて力強く発信する(訴える)必要があります。このゼミでは（中心は広告になりますが）社会に向けて情報を発信していく「発信力」をどんな分野でも発揮できるような力を付けることをゴールとしています。グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を重視し、産業社会の最前線事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れます。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会人力育成

■到達目標

1　コマーシャル関連

テレビ・ラジオコマーシャル、町の看板やポスター、新聞雑誌広告、商品キャンペーンやイベント企画など、ＰＲ活動全般について研究し、何かを広告、ＰＲする場合にどのようにしたら効果的かを探ります。たとえば。。。。　新製品や新マスコットキャラクターなどを開発・想定し、それらにネーミング、併せてキャッチコピーを作成し、プロモーション活動を企画して、動画・静止画コマーシャルやポスターなどを制作します。次にグループや個人でアイデアを交換してディスカッション後プレゼンテーション。成果をキャッチコピーコンテストやラジオコマーシャルコンテストに応募して力試しします。　実際に自分たちの作った広告ポスターを貼り出したり、ラジオ・テレビコマーシャルを放送、放映してもらうなどして外部発信。コミュニティラジオ局、ケーブルテレビ局の見学やインターンシップ活動、イベント関連会社の見学なども行って、メディアや企業の情報発信の形も体験していきます。
2　ネーミングとキャッチコピー
　私たちのまわりには数えきれない商品があふれていますが、名前のないものはない、と言ってもいいでしょう。名前の付け方で商品の消費者に対する訴求力が変わってきますし、商品名を変えただけで売れ行きが爆発的にアップなどということもあります。実際にネーミングに携わっている人たちがどのようなプロセスでネーミングをしているのかを学び、「成功した商品名」にはどんな秘密があるのかを探ります。ネーミングとともに、その魅力を短い文で消費者に訴えるキャッチコピーにも注目。多くの人の心に残る魅力的なキャッチコピーの特徴を研究し、優れたコピーを作るためのテクニックを身につけ、コピーライティングに必要な直感と感性を磨きます。
3 私たちをとりまくことばたち
何かをコマーシャルしたりＰＲしたりするときに、「ことば」をまったく使わない、ということはあまりありませんね。そのこゼミでは、有名起業家、アーティスト、スポーツ選手、ドラマやアニメの名句、名文、新語・流行語のメカニズムと特徴、を探り、その分析を行うことによって、社会で人を動かす説得力あることばはどのように生み出されるのかを考え、自分自身もそのような話し方ができるようにトレーニングします。もちろん、それをしっかりと支える問題解決力も身につけて行きます。英語学習全般のサポートや広告での英語表現法なども、ゼミ生の要望があれば喜んで対応します！

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR その他(ゼミナールとしての能動的諸活動)
：学外学習有

■講義の概要

"1　コマーシャル関連　　テレビ・ラジオコマーシャル、町の看板やポスター、新聞雑誌広告、商品キャンペーンやイベント企画など、ＰＲ活動全般について研究し、何かを広告、ＰＲする場合にどのようにしたら効果的かを探ります。実際にラジオコマーシャルやポスター、新聞雑誌広告、マスコットキャラクターなどを作ってプレゼンテーション。コンテストに応募したりします。
2　キャッチコピー　　短い一言で消費者に製品を印象づけるキャッチコピー。これまでの名作、やその作成技法などを学び、「コマーシャルコピーの言語感覚」を磨きます。
3　ネーミング　　私たちのまわりには数えきれない商品があふれていますが、名前のないものはない、と言ってもいいでしょう。名前の付け方で商品の消費者に対する訴求力が変わってくることもよくあります。実際にネーミングに携わっている人たちがどのようなプロセスでネーミングをしているのかを学び、　何気なく付いているかに見える「商品名」の隠れた秘密を探ります。
4　何かをコマーシャルしたりＰＲしたりするときに、「ことば」をまったく使わない、ということはあまりありませんね。そのこゼミでは、有名起業家、アーティスト、スポーツ選手、ドラマやアニメの名句、名文、新語・流行語のメカニズムと特徴、を探り、その分析を行うことによって、社会で人を動かす説得力あることばはどのように生み出されるのかを考え、自分自身もそのような話し方ができるようにトレーニングします。もちろん、それをしっかりと支える問題解決力も身につけて行きます。
5　また英語学習全般のサポートや広告での英語表現法なども、ゼミ生の要望があれば喜んで対応します！　ゼミ活動は、通常、上記1，2，3，4（5）を先生が説明=>　個人やグループでの制作活動=>　その成果の発表とプレゼンテーション=>　ゼミ内でそれを評価してディスカッション、という形で進みます。　そのこゼミナールは、ゼミ生の自主性と創造性、やる気とまごころで作られます。 なので、ゼミではゼミ生のやりたいことを尊重し、方向性を決めて行きます。 なら、多摩大学で画期的なゼミを一つぐらい作り上げてみよう、 そんなゼミの一員としてちょっと活動してみようかな！と思うみなさんにお会いするのを楽しみにしています！！
そのこゼミは、経済活動とことばの関係も考えるゼミです。ことばが経済活動にどんな影響を与え、またどんな役割を果たしているのかをいろいろな角度から考えていきます。
ネーミング、キャッチコピー、会社名とコーポレートスローガン、その他の種々のコマーシャルメッセージを集めて、それらがどのように作られるのか、そこにはどんな工夫やアイデア、理論が隠されているのか、またどのようなメッセージがより効果的かを学び、いろいろなリサーチをします。
なぜインスタント焼そばの名前がＵＦＯなのか。なぜマクドナルドのキャッチコピーが通常では考えられないloveの進行形I'm lovin' it.なのか、なぜスナック甘栗の名前が「甘栗むいちゃいました」なのか、などをコピーライター目線で観察していきます。　仮想の新製品やアーティスト、マスコットキャラクターなどを想定し、コンセプト分析に基づいてそれらにネーミング、併せてキャッチコピーを作成し、文章によるプロモーション活動や文字コマーシャルなども作り、グループや個人でアイデアを交換したりプレゼンテーションしたりします。その成果を、キャッチコピーやラジオコマーシャル公募（コンテスト）にオリジナル作品を送って力試し。また、そんな活動のヒントを得るために、実際に街をフィールドワークして、いつもはなんとなく眺めているネーミング（例えば看板に書かれた店名）を違った角度から眺め、本や資料だけでなく、自分の五感をフル活用した「ネーミング勘」を養って行きたいと思っています。
そんなネーミングにはかならず「ことば」が使われます。そのこゼミでは人々が「ぐっと」来て印象に残る ことばにはどんな特徴があるのかも追及します。以下に挙げるような、わたしたちの心や社会を動かすこと ばにはどんな要素があるのかを探り、それを自ら使って「人を動かす」ことば力=自分の考えを効果的に表 現する力を養っていきます。　・

お笑いに隠されたコトバ力の秘密～～おもしろさのからくり ・　　有名人、アーティスト、スポーツ選手、ドラマやアニメの名セリフ 、古くからあるジョークに隠されたテクニックの数々や流行語の特徴　以下のセリフや名言の魅力を生み出す要素、あなたにはわかりますか。　☆またつまらぬものを切ってしまった。。。。。　ルパン三世　石川五ェ門 ☆約束は守られたものが約束なのです。　コフィー・アッタ・アナン前国連事務総長 ☆妥協をたくさんしてきたし、自分に負けたこともいっぱいあります。ただ、野球に関してはそれがないというだけで。。。。　イチロー　授業では、このようなセリフや名言が、人々の印象に強く残るメカニズムについても探っていきますが、
最後に小ネタをちょっとこちらで披露しておきます。　「ブタもおだてりゃ木に登る」は昔からあることわざのように思われていますが、実は1970年代にテレビ放映されていたアニメ「ヤッターマン」のセリフです。　Googleはあまりにも有名なオンライン検索システム。その有名さゆえに、すでにgoogleはGoogleで検索する、サーチエンジンで検索するという動詞として使われ始めています。Why don't you google it? =「Googleで検索してみればいいのに。」
　「キャプテン翼」は世界でも有名な日本のアニメーション。プロサッカーリーグで活躍する世界的に有名な選手の中にも、子供のころに翼くんにあこがれてサッカーを始めたという人がけっこういます。なんとスペイン語では動作が遅いことを　Es mas lento que el remote de Oliver y Benji と言います。Oliver y Benji は「キャプテン翼」のスペイン語の題名。キャプテン翼より動作が遅い、という意味なのですが、翼くんの動作が遅くてダメな選手ということではありません。これは、アニメの中でストーリーを効果的にするために翼くんのシュートシーン（シュートを打つまで）が10分間ぐらいに引き伸ばされて、実際のサッカーのゲームでは絶対あり得ない長さで描かれるところから来たものなのです。
事前に学習しておくべき用語
番号が授業の回と連動します。
1　マーケティングコミュニケーション、キャッチフレーズ
2　パブリシティ効果、ロゴマーク、タグライン
3　コマーシャルの手法とタブー、
4　セールスプロモーション、ブランドネーム、ブルーオーシャン戦略
5　行動経済学、保有効果
6　プロダクトプレイスメント、マトリックス
7　ティーザー、ピークエンド効果
8　ブランディング、イノベーター理論
9　モラルライシング、囚人のジレンマ
10　ネーミングの手法、ランチェスターの法則
11　パッケージデザインとネーミングの関係
12　プロスペクト理論、ヒューリスティックバイアス
13　フレーミング理論
14　サンクコスト効果とコンコルド
15　アンカリング効果、オムニチャネル

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

ゼミナールでのすべての活動に、積極的に参加し、十分満足の行く結果を出すこと

■評価基準

上記が満たされた場合にP それ以外はF

■事前履修科目等

リサーチ、マーケティング関連科目、メゾ経済学関連科目、地域活性化、社会企業家[起業家]関連科目

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

出席は最重要視される。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　中村　有一

■講義目的

情報系のゼミで、主に、コンピュータ、ネットワーク、情報社会、数理モデルなどの分野で研究を進めている。内容的には理科系・工学系であるが、それほど前提となる知識は必要としない。情報系の分野において各自テーマを決め、研究を通して実際的な知識を身に付けることを目的とする。また最終的には卒業論文または卒業製作の形に成果をまとめる。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

自分で研究テーマを決め、研究していく能力を身につける。プログラミングや電子工作などにより、自分のアイデアを実現していくこと。成果を論文や研究発表の形で表現する能力を習得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
：学外学習無

■講義の概要

研究テーマの例をいくつかあげておく。過去の研究テーマについては以下のURLを参照すること。 『Yusemi Wiki』 http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/
（1）コンピュータ　プログラミング・・・プログラミング言語、ソフト作成、地理情報の処理　ハードウェア・・・電子工作、組み込みプログラミング、PC自作　（2）ネットワーク　サーバ構築・管理・・・インターネットのサービス提供、OSの利用法　ネットワークプログラミング・・・ネット上の新しいサービス開発　情報セキュリティ・・・暗号・認証・信頼性　（3）情報社会　情報社会の問題点の考察　知的財産権・・・著作権、特許権　未来予測　（4）数理モデル　社会現象の数学的モデル化　最適化計画　詳しい計画は、それぞれの学期の初めに提示する。　予習のポイント：予習すべき点は、そのつど提示する。　復習のポイント：復習すべき点についても、そのつど提示する。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

特になし。

■参考URL

http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/

■評価方法

評価は、出席点・平常点70%、レポート・発表30%　により行う.

■評価基準

絶対評価　やる気をもって積極的に参加することが重要である。自分でテーマを探し、自分で研究を進めていくという自己解決能力を養うことが目標である。絶対評価である。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

「コンピュータ概論」、「情報概論」、「プログラミング言語」、「コンピュータネットワーク活用」、「システムデザイン」などの情報系科目を履修していること、あるいはゼミと並行して履修することが望ましい。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 バートル

■講義目的

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を摘出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。
本ゼミでは、世界経済の牽引役として、また政治や外交面でも国際的プレゼンスの高まりを見せている中国を中心としながら、中国を含めた大中華圏を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎的な知識の習得と産業社会が求める問題発見・解決能力に優れ、かつ高度なコミュニケーション能力を備えた「グローバル人材」を念頭に置きながら各種調査活動やプレゼンテーション及びディスカッションを積極的行い、以下三つの点を目的とする。
1. 企業が求める「グローバル人材」の育成である。近年、日本とアジア・大洋州地域の経済関係の緊密化に伴い、日本企業は「アジア重視」へ舵を切り始め、人材戦略の面では「グローバル人材」の育成に注力している。こうした日本企業（外資系企業も含む）の動向を踏まえ、学生諸君の卒業後の就職活動や大学院への進学の一助となることを念頭に置きながら企業が求めるグローバル人材（主体性、外国語によるコミュニケーション能力、協調性、異文化に対する興味・関心・適応力、多角的・複合的な手法でグローバルな問題に取り組む能力、既成概念に捉われず、チャレンジ精神を持つなど）の育成を最大の目的とする。
2. 中国を中心とした大中華圏への理解を深めることである。中国を中心とした大中華圏（香港・台湾・シンガポールを含む）の経済、政治、外交関係に関するテーマを取り上げ、全員参加型の議論を重ね、中国及び大中華圏のビジネスに関わる基本的な知識やノウハウを身につけることである。
3. 日本企業の新たな経営戦略・ビジネスモデルの立案のほか、日中間の協力の可能性について考えることである。

本ゼミの運営方法としては、「学生による文献調査＋レポート作成＋ゼミ報告＋ディスカッション」の形式を採用する。具体的には、ゼミ生は日本を始め、中国と大中華圏に関する時事問題からトピックスを選んだうえ、関連文献やデータの収集、調査を行うと共に、レポートを作成し、プレゼンテーションを行う。それに基づいて、ゼミ生全員で議論し、問題の所在と問題解決のための方法論を検討する。
又、アジア主要国地域の政治経済概況に関する情報やデータの収集と定期的な更新作業を行い、報告する。更には、学外学習の一環として、フィールド調査・人的ネットワーク形成の観点から各種セミナーへの参加、留学生や企業関係者との交流活動も行うほか、海外視察（海外の大学や企業、工場など）にも積極的に参加することを求める。なお、ゼミの運営方法に関しては、学生の意見やアイデアを積極的に取り入れる。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

①2年次は、アジアデイリーニュース(毎週、全員)やアジア政治経済概況(四半期・通年ベース、全員)の作成と発信・報告を行う。2年次後半には、各自の研究テーマを決定し、一定期間において関連する文献や情報の収集、調査を行い、ゼミやSRCで報告する。
②3年次は、アジアデイリーニュースに加え、卒業論文のテーマ設定、関連文献や情報の収集、調査、作成進捗状況を報告する。また、就職などの進路指導も行う。
③4年次は、卒業論文（就職希望先に関連する産業・企業の調査を中心）を推敲し、完成させる。また、就職や大学院進学などの進路指導も行う。

■講義形態

GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

【概要】（2年次）：2年次前半は、アジアデイリーニュース（毎週、全員）とアジア政治経済概況(四半期・通年ベース、全員)の作成と発信・報告を行う。2年次後半には、各自の研究テーマを決定し、一定期間において関連する文献や情報の収集、調査を行い、ゼミやSRCで報告する。
【事前に学習していくべきポイント】自分自身が関心のある国際国内の政治経済情勢、産業、企業、業種の最新動向についての情報収集を行い、分析し報告できるように準備する
【概要】（3年次）：アジアデイリーニュースに加え、卒業論文のテーマ設定、関連文献や情報の収集、調査、作成進捗状況を報告する。また、就職などの進路指導も行う。
【事前に学習していくべきポイント】自分自身が関心のある国際国内の政治経済情勢、産業、企業、業種の最新動向についての情報収集を行い、分析し報告できるように準備する。
【概要】（4年次）：卒業論文（就職希望先に関連する産業・企業の調査を中心）を推敲し、完成させる。また、就職や大学院進学などの進路指導も行う。
【事前に学習していくべきポイント】自分自身が関心のある国際国内の政治経済情勢、産業、企業、業種の最新動向についての情報収集を行い、分析し報告できるように準備する。

■教科書

■指定図書

関志雄『チャイナ・アズ・ナンバーワン』（東洋経済新聞社、2009年）
寺島実郎『世界を知る力』(PHP新書、2010年)
寺島実郎『世界を知る力 日本創生編』(PHP新書、2011年)
真家陽一『中国経済の実像とゆくえ』（ジェトロ、2012年）
寺島実郎『第中華圏』（NHK出版、2012年）
三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』（共同通信社、2012年）

■参考文献

随時紹介する。

■参考URL

■評価方法

評価は、出席(35%)、報告およびディスカッション(35%)、学年毎のレポート(30%)により行う。

■評価基準

相対評価
出席と報告およびディスカッションを重視(35%+35%=70%)する。
レポート(30%)は、2年時はアジアデイリーニュースとアジア政治経済概況、3年時は卒業論文の作成、4年時は卒業論文の完成。卒業論文は、中国やアジア戦略をテーマに設定し、作成する。なお、レポートは、独自の視点や問題意識を持ち、問題解決へ向けての積極的な取り組み姿勢を重視する。

■事前履修科目等

『グローバルビジネス入門』
『中国経済論』
『アジア経済論』Ⅰ・Ⅱ
『特別講座』など、グローバルビジネス関連科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

■参考URL
日本外務省HP：http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html
日本貿易振興機構HP：http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/
日本財務省貿易統計HP：http://www.customs.go.jp/toukei/info/
日本銀行HP：http://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/
（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構http://www.jogmec.go.jp/
（株）三井物産戦略研究所http://mitsui.mgssi.com/
東京財団http://www.tkfd.or.jp/
キャノングローバル戦略研究所http://www.canon-igs.org/
中国・新華通信HP：http://www.xinhua.jp
共同通信HP：http://www.kyodo.co.jp
環日本海経済研究所HP：http://www.erina.or.jp/index.html.ja
在日本中国大使館HP：http://www.china-embassy.or.jp/jpn/
☆ゼミのルール（出欠管理・課題提出期限など）を厳格に順守すること。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル　組織マネジメント

担当教員　浜田　正幸

■講義目的

本ホームゼミナールでは、全学年を合わせて一つの会社組織としてマネジメントしていく。組織経営のためには、さまざまな資源のマネジメント手法やその哲学を先人から学び、自らのものへと昇華し、創りだしていかなければならない。そのためには実際に起こっているFact を正しく把握する技術が必要であり、そのFactをふまえた上で、問題解決していく技術が必要である。そのような実社会で必要とされるものの考え方や技術・知識を、実践的に学んでいくのが、本ゼミナールの目的である。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会人力育成 グローバルビジネス　ビジネスICT　地域ビジネス

■到達目標

本ゼミナール終了時には、社会人3年目程度の知識・技術・作法・人間性を獲得している事を目標としている。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
その他(調査・問題解決技法、調査データ集計エクセル、ppt資料作成、プレゼンテーション、合宿)
：学外学習有

■講義の概要

フィールドワーク、参与観察法、インタビュー技法、質問紙法、統計学、報告書の書き方、プロジェクトマネジメント、会議の進め方、問題解決技法などを実際の社会でのテーマで取り組み、使いこなせるまでトレーニングする。
事前に学習しておくべき用語：
チームビルディング　リーダーシップ　企画立案　問題解決技法　組織論　チームワーキング　フィールドワーク　科学的分析方法　統計学　質問紙法　観察法　面接法　アクションリサーチ　組織マネジメント　ヒューマンリソースマネジメント

■教科書

特になし

■指定図書

西江雅之『食べる』青土社
西江雅之『「ことば」の課外授業』白水社
佐藤郁哉『実践フィールドワーク入門』有斐閣
酒井隆『アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター
鎌原雅彦他『心理学マニュアル 質問紙法』北大路書房

■参考文献

講義内に適宜紹介する

■参考URL

■評価方法

演習課題の提出と、ゼミ内外の活動を総合的に評価する

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

1年時秋に実施される採用試験に合格し、内定を得ているものに限る。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 樋口　裕一

■講義目的

クラシック音楽を多摩地区のひとびと、とりわけ若者に広めるための活動を行う。ゼミ生が、一流演奏家に出演交渉をし、会場を探し、プログラム、ポスター作りなどをして、ゼミ生主催の本格的コンサートを開く。また、日本のクラシックな芸能である落語についても、多くの人に聞いてもらうための活動を行う。このような活動によって、産業社会で活躍し、問題発見、解決に不可欠な企画力、行動力を養成する。また、就職のために必要なコミュニケーション力も養う。

■講義分類

顧客理解、ビジネスマネジメント、社会人力育成、ビジネスICT、地域ビジネス

■到達目標

一つのグループで、クラシック音楽コンサート企画し、出演者・会場などとの交渉、当日のコンサートの運営など、すべてを行えるようにする。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講>
概要： オリエンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：企画書の書き方　会議の仕方　メールの書き方など基本的なマナーについて。
<第2講>
概要： ゼミをうまく進めるために
事前学習しておくべき用語やポイント[企画の立て方+クラシック音楽に使われる楽器の種類、楽曲のジャンル]
詳細：企画書の書き方　会議の仕方　メールの書き方の実際
<第3講>
概要： 企画+音楽教養講座1
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+クラシック楽曲の歴史]
詳細：バロック音楽①
<第4講>
概要：企画+音楽教養講座2
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+バロック音楽の名曲を調べる]
詳細：バロック音楽②　古典落語①
<第5講>
概要：企画+音楽教養講座3
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+古典派の名曲について調べる]
詳細：古典派の音楽①
<第6講>
概要：企画+音楽教養講座4
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+古典派の名曲について調べる]
詳細：古典派の音楽②　古典落語②
<第7講>
概要：企画+音楽教養講座5
事前学習しておくべき用語やポイント [企画+古典派の名曲について調べる]
詳細：古典派の音楽③
<第8講>
概要：企画+音楽教養講座6
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+ロマン派の名曲について調べる]
詳細：ロマン派前期の音楽①　古典落語③
<第9講>
概要：企画+音楽教養講座7
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+ロマン派の名曲について調べる]
詳細：ロマン派前期の音楽②
<第10講>
概要：企画+音楽教養講座8
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+ロマン派の名曲について調べる]
詳細：ロマン派後期の音楽①　新作落語①
<第11講>
概要：企画+音楽教養講座9
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+ロマン派の名曲について調べる]
詳細：ロマン派後期の音楽②
<第12講>
概要：企画+音楽教養講座10
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+ロマン派の名曲について調べる]
詳細：ロマン派後期の音楽③　新作落語②
<第13講>
概要：企画+音楽教養講座11
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+国民学派の名曲について調べる]
詳細：国民楽派の音楽
<第14講>
概要：企画+音楽教養講座12
事前学習しておくべき用語やポイント[企画+２０世紀音楽の名曲について調べる]
詳細：20世紀の音楽　新作落語③
<第15講>
概要：企画+音楽教養講座13
事前学習しておくべき用語やポイント[これまで実行したコンサートの資料を準備]
詳細：学外コンサートについての反省会

■教科書

『知識ゼロからのクラシック音楽鑑賞術入門』　幻冬舎

■指定図書

なし

■参考文献

「知識ゼロからのクラシック音楽鑑賞術」（幻冬舎）

■参考URL

■評価方法

出席・活動記録・発表・レポートによって評価する。（出席50%、活動記録・発表・レポート50%）
（クラシック音楽のコンサートを企画するには最低限の知識が不可欠なので、きわめて簡単な小テストを行う。不合格を続けるものは、コンサート企画への参加を認めない。よって必然的に不合格となる）

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

複数のグループに分かれて活動する。グループ外のメンバーも、本番のコンサートでは全面的に参加するが、基本的に小グループごとに、コンサートを企画、実現する。通常のゼミの時間は、前半の約４５分間、音楽についての講義（ＣＤやＤＶＤの観賞を中心とする）を行い、残りの時間をグループごとに企画などの活動にあてる。ただし、本番のコンサートが近づいているときなどは、音楽についての講義を行わないこともある。いずれにせよ、まず自分がクラシック音楽を愛するところから始める必要がある。できるだけたくさんの曲を聴き、教養を身につけ、自分が得た感動を他者に伝えるように努めてほしい。

科目名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル　図解ゼミ

担当教員　久恒　啓一

■講義目的

行政、ビジネス、教育などあらゆる分野でのコミュニケーションの手段は、文章と箇条書きが中心である。文章最大の特徴はごまかしができることである。また箇条書きはそれぞれの項目の大小、重なり、関係を示すことができない。関係を意識する図解コミュニケーション力を鍛えるもっとも大きなメリットは、「考える力」を身につけることができる点である。ゼミ生は実戦経験を重ね、卒業までに考えるための強力な武器となる「図解思考」を自分のものにすることができる。問題解決の武器としての「図解思考」を身につけ、産業社会を形成する企業・地域・行政などの最前線の問題解決プロジェクトに挑戦する中で産業社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てる志を持った実学ゼミとする方針である。

◎プロジェクトのテーマ
- 東京ヴェルディ応援プロジェクト
- 多摩の手土産プロジェクト
- スポーツゴミ拾いプロジェクト
- 多摩エクセレントカンパニープロジェクト

■講義分類

ビジネスマネジメント
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

問題解決の武器としての「図解思考」と「図解の技術」を身につける。
パワーポイントを用いて図を描く能力を身につける。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講>
概要： オリエンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：ゼミの説明・進め方
　　図解実習
<第2講>
概要： グループ分け
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　プロジェクトの説明と参加プロジェクトの選択
<第3講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　プロジェクトチームの形成（自己紹介・リーダー選出）
<第4講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　プロジェクトの方向を議論
<第5講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　プロジェクトの今年度テーマを決定
<第6講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　情報収集
<第7講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　情報収集
<第8講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　フィールドワーク
<第9講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　フィールドワーク
<第10講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　フィールドワーク
<第11講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　フィールドワーク
<第12講>
概要： グループワーク
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：図解実習
　　発表準備
<第13講>
概要： グループ発表
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：プロジェクト毎に発表
<第14講>
概要： グループ発表
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：プロジェクト毎に発表・二回目
<第15講>
概要： 全体発表
事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]
詳細：ゼミ全体で発表

■教科書

「図で考える技術が身につくトレーニング30」（久恒啓一）[自由国民社]

■指定図書

「図で考える技術が身につくトレーニング30」（久恒啓一）[自由国民社]

■参考文献

ゼミ中に随時指示する。

■参考URL

■評価方法

1.出席 90点
2.ゼミの成果への貢献　10点

■評価基準

ゼミへの出席を前提として、ゼミの成果への貢献の度合いを評価する。
絶対評価
　P　：図解思考と顧客満足の視点を身に付けた。出席率と貢献度が高い。
　F　：図解思考と顧客満足の視点への理解が不足している。出席率と貢献度が低い。

■事前履修科目等

「問題解決学」分野の科目を多数履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

■参考URL

http://www.hisatune.net/
http://www.hisatune.net/html/01-kyouiku/tamadai/home-seminar/index.htm

科 目 名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　増田　浩通

■講義目的

ホームゼミナールを通じて，文献を正しく読め，レポート等を書く力を養う．また，情報化社会の基礎教養として，プログラミングの経験をする．

■講義分類

社会人力育成 ビジネスICT

■到達目標

与えられた課題に対し，自分から積極的に調べ，レポートやパワーポイント資料にまとめられる能力の向上を目標とする．

■講義形態

グループディスカッション グループワーク プレゼンテーション
：学外学習有

■講義の概要

<第1講> ガイダンス
<第2講> から<第5講>　概要：購読書を基に，各自が読み込んで調べたことを．パワーポイントにして発表する
<第6講>から<第10講>　概要： 英語の勉強の仕方を，音読等を通じて学ぶ．
<第11講>から<第15講>　概要： 社会シミュレーションの一種であるエージェントベースシミュレーションのプログラミングの基礎を学ぶ．
※事前に学習するポイント　プログラミングの基礎

■教科書

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

出席や課題を考慮して評価する

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科 目 名　ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員　村山　貞幸

■講義目的

プロフェッショナル ビジネスパーソンに必要なマインドとスキルを獲得することで、ビジネスの高度な問題解決を行う能力を養う。 それは、就職力向上にもつながり、厳しい就職活動に打ち勝つ能力を獲得することになる。 本ゼミでは、プロフェッショナルビジネスパーソンを、「社会性を重視し、組織目標を圧倒的に優れた能力により達成する人」とする。 そのために必要な能力は、以下と考える。 -社会性 -行動力 -創造力 -人脈構築力 -コミュニケーション力 -論理的思考力

■講義分類

"顧客理解　ビジネス環境理解　ビジネス創造　ビジネスマネジメント　社会人力育成 "

■到達目標

（1）プロフェッショナル マインドを高いレベルで獲得する。 （2）プロフェッショナル スキルを高いレベルで獲得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
：学外学習有

■講義の概要

<活動> 目的達成のための活動は、教員の提案に基づき、ゼミ生とともに検討する。 概要は以下の通り。 -2年生 ビジネスプラニング フェーズ 主課題: 論理的思考力、創造力 -3年生 プラン実行フェーズ 主課題: 行動力 表現力 人脈構築力 -4年生 コーチング フェーズ 主課題: 能力確認 別に、3年生後半から4年生にかけ、就職活動を意識したメニューを多彩に用意している。 <基本方針> 大学にとどまらず、社会人や他大学生、その他の組織の方々とともに、活動する。 企画にとどまらず、企画実行することを通じて学びを高める。 ゼミ活動にとどまらず、プライベートを含め、あらゆる活動をプロフェッショナル能力の獲得につなげる。

■教科書

グロービス・マネジメント・インスティテュート『改訂3版グロービスMBAマーケティング』（『新版MBAマーケティング』も可） ダイヤモンド社

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

ゼミ活動に対する貢献度。 提出物は、MS Ｏｆｆｉｃｅのエクセル、ワード、パワーポイントにより作成。

■評価基準

各活動の量と質により総合的に評価。

■事前履修科目等

マーケティング入門

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ(Seminars Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル

担当教員 諸橋　正幸

■講義目的

コンピュータを使いこなす技術がIT（情報技術）からICT（情報と通信技術）へとその呼び名を変えている現在、インターネットを核とするネットワーク上での情報の扱いが最重要の課題となっている。また、扱う対象が数値データから言語データへと広がりを見せていることも最近のICT技術の特徴である。そうした最新の技術を用いて、我々は何ができるのか、社会にどのようなインパクトを与えうるのかを探るのが本ゼミナールの中心課題である。

予習、復習のポイント：

到達目標に述べるように、ゼミ生は各自の達成目標を自分なりに定義することになるが、その目標達成のためには、自身で必要な技術について習得する必要がある。それに役立つ文献や演習問題については、研究進度にあわせ、適宜紹介する。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げ、また、事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解する。さらに、顧客側の視点から最も望ましいサービスを提供する目的で企業間連携が行われている現状を知る。

現状を理解したうえで、その基礎となる技術を用いたシステムを自作する。あるいは、現状を反映するデータを分析することで理解度を深める。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：場合により有

■講義の概要

研究テーマはゼミ生各自で決め、進捗状況にあわせて助言を行う。

■教科書

■指定図書

■参考文献

テーマごとに適宜紹介する。

■参考URL

■評価方法

3年次からは、各自テーマを決め、SRCでの発表とその時点での提出論文の完成度を評価する。年次が上がるに従って、完成度の評価には、そのテーマに関連した世の中の研究の動きをどの程度把握したか、自分がやっていることがその中でどういう位置付けにあるのか、自分の研究内容の独自性は何かなどに重点が移る。各自の研究進度に応じて適宜コメント・指導を行う。

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

ＩＣＴ科目一般が望ましいが、研究テーマにより各自にガイドする。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 インターゼミナールⅠ～Ⅵ(Inter-seminar Ⅰ～Ⅵ)

サブタイトル 寺島学長ゼミ

担当教員 寺島 実郎、久恒 啓一、金 美徳、諸橋 正幸、中庭 光彦、パートル、奥山 雅之、小林 英夫、出原 至道、久保田 貴文、木村 知義、荻野 博司、(SGS:安田 震一)、(SGS:中澤 弥)

■講義目的

現代社会の抱える課題について、学部・大学院・学年などをまたいで塾形式で切磋琢磨しながら、多様な要素や手法を組み合わせた柔らかい発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付ける。

学生自身による問題発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へいたるプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の賢人による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

選択したテーマについて、文献調査・フィールドワーク・考察・執筆を行わせ、1年後に論文をまとめさせる。産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文内容へと指導する。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

下記から事前に希望する分野を調べた上で、授業に参加すること
①多摩学
②サービス・エンターテーメント
③アジアダイナミズム
④地域研究
⑤エネルギー・環境
<第1講>オリエンテーションと学長講話
<第2講>学長講話と自己紹介
<第3講>グループ分け作業
昨年のテーマおよびグループ
①多摩学
②サービス・エンターテーメント
③アジアダイナミズム
④地域研究
⑤エネルギー・環境
<第4講>グループの決定と詳細テーマの検討
<第5講>学長講話と各グループの担当教員と学生からの進捗報告
<第6講>学長講話とグループワーク
<第7講>教員講話とグループワーク
<第8講>グループワークおよびフィールドワーク
<第9講>グループワークおよびフィールドワーク
<第10講>学長講話と各グループの進捗状況報告
<第11講>研究計画の発表と学長のアドバイス
<第12講>学長講話と学長のグループ別指導
<第13講>学長講話と学長のグループ別指導

<第14講>学長講話グループワーク
<第15講>夏季合宿（8月中旬、1泊2日）での中間発表

■教科書

①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)
②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)
③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013年)

■指定図書

①『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007)
②『脳力のレッスンⅠ-正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004)
③『脳力のレッスンⅡ-脱9.11への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007)
④『脳力のレッスンⅢ-問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010)
⑤『脳力のレッスンⅣ-リベラル再生の基軸-』(寺島実郎、岩波書店、2014)
⑥『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010)
⑦『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010)
⑧『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)
⑨『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013)

■参考文献

■参考URL

http://www.tama.ac.jp/terashima/

■評価方法

①絶対評価。
②評価は、出席25%、グループワーク貢献度25%、中間および最終発表50%の割合で行う。

■評価基準

①出席率を重視する。
②問題意識の尖鋭化、テーマ設定、文献調査、フィールドワークなどグループワークへの貢献度。
③1年間にかけて共同で論文を完成させること。

■事前履修科目等

無

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①毎回出席すること。欠席時は、必ず連絡すること。
②夏季合宿に参加すること。
③寺島学長の講演会やセミナーなどに積極的に参加すること。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル　ビジネスの現場を見て自分で考える

担当教員　伊藤　暢人

■講義目的

実際に社会はどのように動いているのか。これを知ることは、卒業後の進路を考える上でも重要である。また、企業の側でも大学生の新鮮な考え方に触れたいというニーズを持っている。

そこで、実際の企業の事業活動の最前線事例について、フィールドワーク的に調査し、企業が抱えている課題発見に挑み、自分たちなりに問題解決の方法を見出し提案していこうというのがこの講義の狙いである。企業が置かれた状況を冷静に理解し、顧客理解を進め、自分たちの手でフレッシュなアイデアを磨き上げていってほしい。

調査能力、プレゼンテーション能力、チームワークなど企業活動で必要な社会人基礎力を実践的に学んでいく。こうした能力はビジネス創造やビジネスマネジメントの向上につながる。

■講義分類

顧客理解　ビジネス環境理解　ビジネス創造　ビジネスマネジメント　社会人力育成　グローバルビジネス　ビジネスＩＣＴ　地域ビジネス

■到達目標

（1）グループ単位で、対象となる企業が置かれている状況・課題を理解できているか。
（2）グループごとにその企業の課題についての解決策を独創的に考察できているか。
（3）グループごとに解決策を発表する。課題を認識し、独創性のある提案をわかりやすくプレゼンテーションできるか。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
その他(フィールドワーク)
：学外学習有

■講義の概要

「クロスカンパニー（アース　ミュージック　アンド　エコロジーなど）」「ホッピービバレッジ」の2社を対象に、実際に拠点を訪問して、自らの目で両社のビジネスについて考える（企業は変更になることもある）。企業訪問のタイミングによってスケジュールが変更になることもある。
※事前学習しておくべきポイント：今回対象となる2社についてインターネット、店頭、テレビ、雑誌などでできる限り情報をそれぞれ集めておき、自分なりに「この会社の製品を大学生にもっと知ってもらい、購入してもらうにはどうすればいいか」というアイデアをまとめておく。ちなみに、春学期前半まではホッピービバレッジ、春学期後半ではクロスカンパニーを取り上げる予定です。

■教科書

なし

■指定図書

・『アース　ミュージック　アンド　エコロジーの経営学』（日経BP社刊　日経トップリーダー編）
・『ホッピーの教科書』（日経BP社刊　石渡美奈著）

■参考文献

なし

■参考URL

http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20120502/231664/?leaf_kbn

■評価方法

評価は講義中の最終プレゼンテーション（3回分を予定）の内容（70%）、出席(30%)により行う。

■評価基準

講義中のプレゼンテーションは次の4点を中心に評価する。
(1)　対象の企業の状況・課題を十分に理解しているか。
(2)　その解題に対する独創的な解決策を用意できているか。
(3)　分かりやすく制限時間内にプレゼンテーションできているか。
(4)　チームワークがとれているか。
絶対評価
評価A＋　上記(1)～（4）が非常に高いレベルで達成されている。
評価A　上記(1)～(4) が高いレベルで達成されている。
評価B　上記(1)～(4)が標準的な水準で達成されている。
評価C　上記(1)～(4) のうち達成されていない項目がいくつかある。
評価F　上記(1)～(4)で十分に達成されている項目がない

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

学期中2回程度、企業訪問を予定している。この講義は、2コマ分の時間を要する見込み。ここで追加になる分については通常の授業時間を振り替える形とし、その分はどこかを休講にする。また、対象企業が変更になることや、企業の訪問日程やテーマによりスケジュールが変更になることがある。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ(Project Seminars Ⅰ～XⅡ)

サブタイトル　横浜FCイベント企画

担当教員　江頭　満正

■講義目的

■講義分類

顧客理解　ビジネスマネジメント　社会人力育成　地域ビジネス

■到達目標

実際にイベントを実施するための計画、準備、実施を経験すること　コミュニケーション能力、リスクヘッジ、自己客観化し結果を評価する能力をつけること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

横浜FC及び、J LEAGUEクラブチーム、プロ野球、メジャーリーグ、マイナーリーグなどのスタジアム演出に関する映像資料、現地調査をもとに調査を実施。横浜FCが抱えている問題を解決するための方法を論理的に導き出し、数人のグループワークにより横浜FCで実施するイベントの企画を立案。ゼミ内選考を経て、学内及び横浜FCへプレゼンテーションを行う。

<第1講>　概要：プロスポーツビジネスの特徴とリスク
事前学習しておくべき用語やポイント[リスクマネジメント]
詳細：一般的な産業とプロスポーツビジネスとのモデルの違いを理解する。
<第2講>　概要：スタジアム演出の実際(講義)2013年に実施したイベント概要
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値]
詳細：2013年度当該講座で実施したイベントの詳細とその評価
<第3講>　概要：ニッパツニツ沢球技場調査実施（5月12愛媛FC戦を予定）
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客満足度、消費者行動]
詳細：試合以外に顧客に提供されている財を調査
<第4講>　概要：ニッパツニツ沢球技場調査実施（5月12愛媛FC戦を予定）
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客満足度、消費者行動]
詳細：試合以外に顧客に提供されている財を調査
<第5講>　概要：スタジアムイベント調査報告　(グループワーク)
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値]
詳細：4−5講で行った現地調査の報告をPowerPointを使いグループごとに行う
<第6講>　概要：スタジアムイベント調査　(グループワーク)
事前学習しておくべき用語やポイント[スポーツ・イベント・マネジメント]
詳細：履修学生の観戦経験から「良いイベント」を考える
<第7講>　概要：国内スタジアムイベント調査　(グループワーク)
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客満足度]
詳細：Jリーグ・プロ野球などが行なっているスタジアムイベントをWEB等で調査し報告
<第8講>　概要：ニッパツニツ沢球技場　プレイベント参加（6月22日カターレ富山戦を予定）
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値]
詳細：スタジアムでフェイスシール・チアバルーンなどの来場者サービスを体験
<第9講>　概要：ニッパツニツ沢球技場　プレイベント参加（6月22日カターレ富山戦を予定）
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値]
詳細：スタジアムでフェイスシール・チアバルーンなどの来場者サービスを体験
<第10講>　概要：横浜FCイベント企画・立案
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値、再来場動機]
詳細：学生が実施する企画を、様々な要素から考える
<第11講>　概要：横浜FCイベント企画・立案
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値、再来場動機]
詳細：学生が実施する企画を、様々な要素から考える
<第12講>　概要：横浜FCイベント学内プレゼン
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値、再来場動機]
詳細：本番のプレゼン前に学内で実施し、完成度を高めるために議論する
<第13講>　概要：横浜FCイベント　プレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値、再来場動機]
詳細：横浜FCの担当者に来校いただいて、企画の合否を掛けたプレゼンを実施
<第14講>　概要：企画修正
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値、再来場動機]
詳細：前回のプレゼンでの意見を踏まえて修正・補足を行う
<第15講>　概要：横浜FC　最終プレゼン
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客価値、再来場動機]
詳細：イベントの実現性、予算、人員、スケジュールなど実施計画を含めてイベント詳細を横浜FC担当者にプレゼン

■教科書

なし

■指定図書

世界一やさしい問題解決の授業　渡辺 健介（著）
「イベント実務」がよくわかる本　平野 暁臣（著）
イベント学のすすめ　イベント学会 会長 堺屋太一（編集）

■参考文献

ゼミ内で随時通知

■参考URL

■評価方法

講座の性格上、無断欠席と遅刻は厳禁。グループワークが中心であり、横浜FCという校外関係者に対して責任ある行動が出来ない履修者は、成果に関わらず不合格とする。　校外活動は講義時間外に実施するが、参加を必須とする。　出席40点、参加態度30点、プレゼンテーション30点

■評価基準

絶対評価
P　：積極的な講座への参加姿勢が見られる、プレゼン企画内容に新規性があり、実現可能性も 検討されている
F　：無断欠席・遅刻がある、学外活動を欠席、横浜FCへのプレゼンを欠席。プレゼンテーションされた企画内容に新規性が無い。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

横浜FCという、プロスポーツチームのイベントを学生が実施するものであり、イベント当日の来場者は「学生のイベント」だからといって内容が不十分でも許してくれることは無い。　来場者は入場料金の一部として「学生のイベント」を評価する。従って、この講座では「社会人」としての行動規範や、価値観を優先し厳しい態度で望む。　春学期からの通年履修とする。秋学期からの履修は受け付けない。

　※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル　横浜FCイベント企画

担当教員　江頭　満正

■講義目的

■講義分類

顧客理解　ビジネスマネジメント　社会人力育成　地域ビジネス

■到達目標

実際にイベントを実施するための計画、準備、実施を経験すること　コミュニケーション能力、リスクヘッジ、自己客観化し結果を評価する能力をつけること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

横浜FC公式戦においてゼミ学生が企画したイベントの実施計画を作成し、運営計画を立て実施する。イベント実施班以外に、該当試合での多摩大学の活動と、スタジアムへの動員増加を目標として「広報」活動「記録」活動を実施。イベント終了後には、学生、観客、チーム関係者の3者からと、イベント実施本人の評価を加え、報告書を作成。このゼミを通して学んだことを整理する。

<第1講>　概要：イベント実施内容確認
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客満足度]
詳細：10月に実施するイベント内容を、実施計画、スケジュール、人員計画、予算の面で進捗状況を確認する
<第2講>　概要：ベント実施計画作成1
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客満足度]
詳細：実施予算と制作物スケジュールを確定させる
<第3講>　概要：ベント実施計画作成2
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客満足度]
詳細：人員計画、当日のスケジュールを確定させる
<第4講>　概要：ベント実施計画作成3
事前学習しておくべき用語やポイント[リスクマネジメント]
詳細：イベント実施上での危機を想定し、対処方法をマニュアルにまとめる
<第5講>　概要：ベント実施計画作成4
事前学習しておくべき用語やポイント[プロジェクト・、マネジメント]
詳細：当日の進行台本を完成させる
<第6講>　概要：横浜FC最終確認
事前学習しておくべき用語やポイント[]
詳細：横浜FCの担当者に来校していただき、イベント実施の為の詳細を全て確認する
<第7講>　概要：ニッパツ三ツ沢競技場　イベント実施
事前学習しておくべき用語やポイント[プロジェクト・マネジメント、おもてなし]
詳細：10月27日ジェフ千葉戦（予定）においてイベントを実施する
<第8講>　概要：ニッパツ三ツ沢競技場　イベント実施
事前学習しておくべき用語やポイント[プロジェクト・マネジメント、おもてなし]
詳細：10月27日ジェフ千葉戦（予定）においてイベントを実施する
<第9講>　概要：ニッパツ三ツ沢競技場　イベント実施
事前学習しておくべき用語やポイント[プロジェクト・マネジメント、おもてなし]
詳細：10月27日ジェフ千葉戦（予定）においてイベントを実施する
<第10講>　概要：ニッパツ三ツ沢競技場　イベント実施
事前学習しておくべき用語やポイント[プロジェクト・マネジメント、おもてなし]
詳細：10月27日ジェフ千葉戦（予定）においてイベントを実施する
<第11講>　概要：イベント実施報告会
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：実施体験直後の記憶が鮮明な時に自己評価を行う
<第12講>　概要：イベント報告書作成1
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：来場者評価、横浜FC関係者評価、履修生評価、イベント実施概要などを記載した報告書を作成する
<第13講>　概要：イベント報告書作成2
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：来場者評価、横浜FC関係者評価、履修生評価、イベント実施概要などを記載した報告書を作成する
<第14講>　概要：イベント報告書作成3
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：来場者評価、横浜FC関係者評価、履修生評価、イベント実施概要などを記載した報告書を作成する
<第15講>　概要：まとめ
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：報告書をもとに、参加した履修生の評価を共有する

■教科書

なし

■指定図書

世界一やさしい問題解決の授業　渡辺 健介 (著)
「イベント実務」がよくわかる本　平野 暁臣 (著)
イベント学のすすめ　イベント学会 会長 堺屋太一 (編集)

■参考文献

ゼミ内で随時通知

■参考URL

■評価方法

講座の性格上、無断欠席と遅刻は厳禁。グループワークが中心であり、横浜FCという校外関係者に対して責任ある行動が出来ない履修者は、成果に関わらず不合格とする。　校外活動は講義時間外に実施するが、参加を必須とする。　出席40点、参加態度30点、プレゼンテーション30点。

■評価基準

絶対評価
P　：積極的な講座への参加姿勢が見られる、プレゼン企画内容に新規性があり、実現可能性も 検討されている。
F　：無断欠席・遅刻がある、学外活動を欠席、横浜FCへのプレゼンを欠席。プレゼンテーションされた企画内容に新規性が無い。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

横浜FCという、プロスポーツチームのイベントを学生が実施するものであり、イベント当日の来場者は「学生のイベント」だからといって内容が不十分でも許してくれることは無い。　来場者は入場料金の一部として「学生のイベント」を評価する。従って、この講座では「社会人」としての行動規範や、価値観を優先し厳しい態度で望む。春学期からの通年履修とする。秋学期からの履修は受け付けない。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル　食品メーカーにおける新製品開発の実際

担当教員　大風　薫

■講義目的

コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどの各種流通チャネルで売られている食品は、一体どのように作られているのでしょうか。食品メーカーでは、マーケッターと呼ばれる人たちが、日々、消費者のニーズを探索し、消費者の心をつかめるような製品を開発するべく努力しています。そして、開発した製品を市場にデビューさせ、持続的な売り上げや利益を獲得できるようなマーケティング活動をしています。

本ゼミナールでは、さまざまな食品および食品メーカーの事例を、さまざまな角度から研究し、新製品の企画およびマーケティング戦略を作成します。食品分野はもちろんのこと、メーカーの仕事に興味・関心のある学生の参加を期待します。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント

■到達目標

1.メーカーで行われているマーケティングや新製品開発の実際が理解できる
2.メーカーのマーケティングや新製品開発事例をとりあげ、そのような活動が行われている理由や目的を、分析的に推測できる。また、そのような事例に対して、生活者(消費者)の視点で問題点を探り、改善策が提案できる
3.新製品やマーケティング戦略の立案ができる

■講義形態

講義+GD・GW・PR
履修者の状況によって店頭調査などの活動を入れる場合がある。：履修者の状況によって、店頭調査などの活動を入れる場合がある

■講義の概要

Ⅰ．概要
第1回　オリエンテーションと食品マーカーの新製品開発・マーケティング戦略の講義
第2回～第7回<第1ステップ：調査・研究、発表>
ー以下のテーマに沿ってグループごとに調査・研究を実施し、その結果を逐次発表し、ゼミナール内で
知見を共有する。
第2回～第4回：食品メーカー・新製品の調査・研究・発表
第5回～第7回：食品が売られている流通チャネルの調査・研究・発表
第8回～第12回<マーケティング・リサーチの企画・実施>
ー新製品開発でよく実施されるマーケティング・リサーチ手法を研究し、消費者ニーズを探索するための
定性リサーチを企画・実施する
第8回～第9回：リサーチ手法の研究・発表
第10回～第12回：リサーチの企画・実施・発表
第13回～第15回<新製品の企画・マーケティング戦略の作成>
ー第1・2ステップをもとに新製品の企画・マーケティング戦略を立案し、発表する
Ⅱ．事前学習しておくべき内容・用語
①指定図書を読み、以下の内容について事前学習をしておくこと。
・マーケティング戦略とマーケティング・ミックス
・新製品の開発プロセス
・定量調査と定性調査：違いは何か
・消費者インサイト
②食品の流通チャンネルを観察しておくこと。
・店頭（スーパーマーケット、ドラッグストア、コンビニエンスストア、販売店など）
・インターネットチャネル
③定期的に新聞、関連する雑誌や書籍などを読み、食品メーカー、食品メーカーの経営環境、食品の製品に関する情報を収集しておくこと。

■教科書

なし

■指定図書

①マーケティング関連：小川孔輔著(2009)『マーケティング入門』日経新聞社.
②マーケティング・リサーチ関連：田中洋編著(2010)『マーケティング・リサーチ入門』ダイヤモンド社.

■参考文献

なし（適宜、ゼミナール内で案内する）

■参考URL

■評価方法

出席（50%）、調査・研究への参加（30%）、プレゼンテーション（20%）

■評価基準

評価P：12回以上出席し、調査・研究に誠実に取り組み、最終プレゼンテーションを実施
評価F：出席不足や調査・研究への取り組み不足、最終プレゼンテーションへの不参加

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

・積極的・主体的な受講態度を前提としたゼミナールのため、特段の理由がない限り、欠席は認めない。
・単に出席だけして、ゼミナール中の調査・研究・発表に取り組まない場合は、途中で履修を辞退してもらうことがある。
・第1回目のゼミナールに出席しないものの履修は認めない。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル

担当教員　荻野　博司

■講義目的

米国で広がる格差社会への異議申立て、不安定さが残る欧州通貨ユーロ、中国のめざましい台頭、韓国との熾烈なライバル関係。世界でこれまでの秩序や常識を覆す事態が進んでいる。その根底にあるもの、これからの方向について、新聞やウェブなどのメディアも活用しながら探っていく。毎回、ゼミ生の発表をもとに授業を進める。それにより情報を主体的に取り込む姿勢を習得することも目指す。

企業訪問の直前になって新聞を読みだす「にわか勉強」では得られない内容の濃いものとし、それぞれの問題解決力を高める。グローバル化に伴って日本政府や企業が解決を迫られる問題を想定し、どのように取り組んだらいいのかをチーム単位で考える機会を設ける。また、小論文の書き方も指導したい。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、グローバルビジネス、ビジネスICT

■到達目標

1.欧米やアジアの変容について、歴史的な視点で考える。
2.メディアの情報を鵜呑みにするのでなく、その背景も考えて批判的に吸収するメディアリテラシーを得る。
3.自らの体験を世界の変化と連動させてとらえ直し、産業社会の将来像を考える。
4.最終的には、自らの考えを積極的に伝える姿勢を確立し、企業社会での活動に役立てる。
5.自らの視点を盛り込んだ小論文を書く能力を得る。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有（東京証券取引所への訪問を予定している）

■講義の概要

<第1講>
概要：情報の取り込み方
事前学習しておくべき用語やポイント：[新聞の読み方、テレビの見方]
詳細：情報の取り込み方を学ぶ。資料として新聞記事やテレビを使い、ニュースが報じられる仕組みを理解する。
<第2講>
概要：日本経済の現況1＝アベノミクス前夜
事前学習しておくべき用語やポイント[アベノミクス、デフレ、バブル]
詳細：世界の問題を考えるにあたり、まず足元がどうなっているかを考える。90年代初めのバブルの崩壊とともに、日本は長いトンネルに入ってしまった。デフレ経済が根を張り、就職難に若者はおののく。アベノミクスが登場した背景を知る。
<第3講>
概要：日本経済の現況2＝アベノミクス登場
事前学習しておくべき用語やポイント[金融、財政、成長戦略、消費税]
詳細：金融、財政、成長戦略の三本の矢を掲げたアベノミクスの内容を学んだのち、消費税引き上げの影響を点検するとともに、10％への再引き上げの可能性を考える。
<第4講>
概要：日本経済の現況3＝悪魔のシナリオ
事前学習しておくべき用語やポイント[財政赤字、デフォルト]
詳細：アベノミクスが失敗に終わる危険はないのか。1000兆円を超えた財政赤字が将来の日本に及ぼす悪影響は計り知れない。あえて、破綻という最悪シナリオについても考える。
<第5講>
概要：TPPと日本1
事前学習しておくべき用語やポイント[TPP、自由貿易]
詳細：太平洋に面する国々が互いの関税を原則としてゼロにするTPPへの対応を巡って日本国内も揺れている。シンガポールやニュージーランド、チリなど小規模な4カ国の構想がここまで大きくなったのは米国の参加と後押しがあってのことだ。米国の思惑は何なのか。日本にはどんな影響を及ぼすのか。進路を考える際に知っておかなければならないテーマと言える。
<第6講>
概要：TPPと日本2
事前学習しておくべき用語やポイント[食料自給率]
詳細：具体的な項目について、点検する。なかでも国内の農業生産者をどう守るのか、どこまで競争にさらすのかは大きな政治的争点となっている。安全保障の重要なテーマの一つである食料自給のあり方についても考える。
<第7講>
概要：米国経済の現況
事前学習しておくべき用語やポイント[米国の政治制度]
詳細：再選を果たし第2期に入ったオバマ大統領は「財政の崖」に直面している。オバマ政権は08年のリーマンショックはどうにか乗り切ったものの、ドルの価値は不安定だ。世界を先導してきた米国も日本と同様に不況に突入する懸念はぬぐえない。今秋の中間選挙に向けた争点を点検しながら、政策の課題を考える。
<第8講>
概要：米国各論＝格差社会
事前学習しておくべき用語やポイント[ウォール街]
詳細：米ウォール街の占拠運動に端を発した格差への異議申立は世界に広がった。すべての国民に成功のチャンスが与えられるアメリカン・ドリームはどこにいったのか。全国民をカバーする医療保険制度が整っていない米国の現状を知った上で、世界規模で進む格差社会の背景を知り、今後の対応策を考える。
<第9講>
概要：米国各論＝財政危機
事前学習しておくべき用語やポイント[財政の崖、ティーパーティー]
詳細：米国の財政赤字は膨張している。ようやく医療保険制度を発足させたオバマ大統領だが、国民に税負担を迫る「大きな政府」を嫌う共和党の抵抗は激しい。とりわけ超保守グループといえるティーパーティーの主張は強硬だ。ついには政府の資金が底をつく「財政の崖」が目前に迫る事態となった。米国の政治システムを学ぶとともに、民主党、共和党の政策理念を比較する。
<第10講>
概要：欧州経済の現況
事前学習しておくべき用語やポイント[EU]
詳細：28カ国が加わる欧州共同体（EU）。半世紀に及ぶ統合の歴史を振り返り、その背景にある「不戦の誓い」を考える。また、ソ連の解体に伴う東西の壁の崩壊がもたらした社会の変化についても考察しよう。
<第11講>
概要：欧州各論＝曲がり角の通貨統合
事前学習しておくべき用語やポイント[ユーロ]
詳細：EUのメンバー28カ国のうち18カ国が加わったのが統一通貨ユーロだ。各国が自らの通貨を放棄してユーロに集まったが、ギリシアなどの経済危機で先行きは不透明だ。そうしたなか欧州の失業率は深刻度を深め、ユーロの安定にも影を落とす。日本と比較しながら若者が働かない社会の将来像を考える。
<第12講>
概要：アジア経済の現況1＝中国
事前学習しておくべき用語やポイント[人民元]
詳細：21世紀に入ってからの中国の躍進はめざましい。GDPでは日本を抜き、世界第二の経済大国となった。とはいえ、急成長のひずみは各所にあらわれ、日本との通商関係も複雑に揺れる。中国の現状を見ることで、日本の復活のカギも浮かんでくる。
<第13講>
概要：アジア経済の現況2＝韓国、ASEAN
事前学習しておくべき用語やポイント[ガラパゴス化]
詳細：サムスンに代表される韓国企業は日本の電器産業を追い詰めつつある。世界市場と無関係に独自の進化を遂げ「ガラパゴス」と揶揄される日本製の携帯電話と米アップル社との連携で急拡大している韓国製スマホ。自動車などでもこの構図が現実になるのか。90年代後半に経済危機を体験した後、急回復した韓国の秘密を探る。また、アジア諸国の現状にも触れる。
<第14講>
概要：日本の将来
事前学習しておくべき用語やポイント[市場経済]
詳細：ここまで欧州、米国、アジアの経済について学んだ。では日本はどう対応すべきか。市場経済の波にさらされるなかで、これに押し流されることなく、逆に軽やかに乗っていく覚悟が求められる。これまでの学習成果を踏まえて論じ合いたい。就職を考える学生にとっては、おのずと将来性のある企業や産業を検討する機会となる。
<第15講>
概要：補論　これまでの授業で論じきれなかったテーマについて、とりあげる。

■教科書

必要に応じて、授業の中で指示する。

■指定図書

必要に応じて、授業の中で指示する。

■参考文献

必要に応じて、授業の中で指示する。

■参考URL

■評価方法

ゼミ活動に取り組む姿勢を評価する。とくに、それぞれに割り振られた報告については、その内容を重視する。

■評価基準

絶対評価とし、以下のような観点から判定する
1.現在起こっている問題の概要を理解しているのか。
2.国際的な問題を自らの視点から論じられるか。
3.説得力のある説明ができるか

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

実社会に出ていく皆さんに、付け焼き刃でない知識を習得してもらうことが最大の狙いであり、新聞など活字メディアからの情報の取得により、しっかりとした考え方を身につけてもらいたい。また、メディア関連業界への就職を考える学生とは、別途、指導の機会を設ける。

科目名 プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル 商品・サービスを売るという事の全体像をつかむ

担当教員 栢原　伸也

■講義目的

人は問題を抱えると、早く解決したいと思うため、「思い付き」で、一面的に対処しようとしてしまう傾向がある。このような姿勢では、問題を正しく解決することができない。
　問題は、全体像を把握した上で、解決の方法を探らなければならない。そこで、ダイレクトマーケティングという概念の理解と実践を通して、物事の全体象を把握するとはどういうことかを体感する。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

①ダイレクトマーケティングの用語の意味が理解できる。
②マーケティングのフレームワークを理解し、実践できる。
③ビジネスの全体像を体感する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講>
概要： マーケットの歴史および市場の全体像
事前学習しておくべき用語やポイント[3C]
詳細：マーケット（市場）。なぜ市場は生まれたのか？市場を理解するポイントは何か？
<第2講>
概要： マーケットを見る目1
事前学習しておくべき用語やポイント[4P]
詳細　　商品・サービス。値段。販売促進。流通チャネル。これらの言葉の意味を深めることで、ものを売るとはどういうことか？を理解する。
<第3講>
概要： マーケットを見る目2
事前学習しておくべき用語やポイント[4C]
詳細：ものが売れたとか売れないとは何が原因か。第2講の用語を顧客視点に置き換えることで理解する。
<第4講>
概要： ビジネスをして儲ける仕組み。
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスモデル]
詳細：ビジネスの儲け方には様々な方法がある。ダイレクトマーケティングに入る前に、いくつかのビジネスモデルを理解する。
<第5講>
概要： ダイレクトマーケティングの構造
事前学習しておくべき用語やポイント[顧客関係性・顧客データベース]
詳細：ダイレクトマーケティングというビジネスの特徴を理解する。
<第6講>
概要： ダイレクトマーケティングの魅力1
事前学習しておくべき用語やポイント[レスポンス広告]
詳細：
ダイレクトマーケティングはテレビコマーシャルなどと何が違うだろうか？
<第7講>
概要： ダイレクトマーケティングの魅力2
事前学習しておくべき用語やポイント[アイドマの法則]
詳細：顧客の興味・関心を惹きつけるコツとしての古典的な法則を知る。
<第8講>
概要： ダイレクトマーケティングの種類1
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：カタログ通販・ダイレクトメール販売の特徴を知る。
<第9講>
概要： ダイレクトマーケティングの種類2
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：テレビショッピング・ネットショッピングの特徴を知る。
<第10講>
概要： ダイレクトメールを作ってみよう。
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：実際に簡単なダイレクトメールを作ってみる。
<第11講>
概要： テレビショッピングをやってみよう。
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：実際にテレビショッピングの出演者になってみる。
<第12講>
概要： ダイレクトマーケティングとブランド
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：ブランドとは何か。ダイレクトマーケティングにどのような影響があるのか？
<第13講>
概要： マーケティング分析
事前学習しておくべき用語やポイント[CPO・コンバージョン率等]
詳細：マーケティングの結果を分析する手法を知る。
<第14講>
概要： ダイレクトマーケティングと個人情報
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：個人情報を扱う上での必要な知識を身に着ける。
<第15講>
概要： ダイレクトマーケティングを取り巻くビジネス環境
事前学習しておくべき用語やポイント[　]
詳細：注文を受け付けるコールセンター、商品を発送する物流センター等の仕組みを知る。

■教科書

無し

■指定図書

無し

■参考文献

無し

■参考URL

■評価方法

出席（30%）講義中の演習（70%）

■評価基準

相対評価
講義中の演習は以下の点を中心に評価する。
①用語の意味が理解できているか。
②マーケティングのフレームワークを使い、簡易なマーケティング活動ができるようになったか。

■事前履修科目等

無し

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

学外学習としてダイレクトマーケティングの現場見学等を想定しているが、講義の進行および履修生の状況などで変更する場合もある。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ(Project Seminars Ⅰ～XⅡ)

サブタイトル　サービス・ラーニングⅠ

担当教員　片桐　徹也

■講義目的

多摩ニュータウンは、街びらきから43年が経過し、ニュータウン地域が6割を占める多摩市は、様々な問題・課題を抱えている。そこで外的驚異を克服し、一方で、強みや機会を活かす、新たな地域経営手法の創出・実践が求められる。地域主体の一つでもある「多摩大学」をはじめ、周辺地域大学の学生が、「学び」と「地域貢献活動」の組み合わせによる「地域課題/社会問題」の解決、そして、将来求められる地域像の創出へ関わっていくことは、学生や、地域の双方にとり有益である。

この講座は、地域の現状と課題の発見を通じ、学びつつ、地域経営の協働主体となり得る行政・企業・NPO・地域団体等と、地域大学（生）がパートナーシップ（連携）・協働し、地域が活性していく仕掛けを創出するプロセスに関わることを体験することを目的とする。

具体的には、個々の学生の特性を活かした役割を担うことを前提に、地域イベントの企画・実践に関わることで社会人力が育成される。マルチステークホルダー（地域課題解決に取り組む複数の主体（NPO等・行政・地域金融機関・大学・企業）との連携によりサスティナブル（持続可能）な地域経営手法の創出に関わる。

このことは、街の再生・活性策を技術的な手法のみに依存するのではなく、大学生と地域の双方が連携した地域づくりに参画し活動していくプロセス（過程）を体験しつつ能動的にビジネスに関わることで、地域や、履修生の双方に変革がもたらされるという体感・実践的知識を獲得していくということに他ならない。

例えば税収増や、バランスのとれた地域づくりのため、「子育て世代の居住誘引」につなげることは、もはや行政力だけでは不可能であるし、かつ民間ビジネス手法だけでも難しい場合、官民連携にて「ニュータウン再生」や、将来投資、また、住民コミュニティが醸成されていく仕掛けを探求する。連携（パートナーシップ）とは、リスクの分担と、契約によるガバナンスで成り立つことを学ぶ。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、地域ビジネス

■到達目標

・地域課題や社会問題の解決を他主体との協働体験による地域活性化滋養の理解
・官民連携（Public-Private Partnership）の基本を理解
・地域企業（NPOを含む）が実際に行うイベントにおいて社会人と連携して企画・実践し成果を出す

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
その他(協働する地域企業におけるプロジェクト会議への参加)：学外学習有

■講義の概要

<第1講> ガイダンス
概要： セミナール説明
事前学習しておくべき用語やポイント[サービスラーニング、地域SNS、地域貢献]
詳細：ゼミナールの目的と使命、方針を理解する。
<第2講> 人口推計から読み解く我が国や地域の将来
概要：我が国の現状と人口推計から見える今後、および、多摩ニュータウンの概要
事前学習しておくべき用語やポイント[団塊世代、高齢化、多摩ニュータウン]
詳細：予め人口推計等から、将来の我が国の状況や、アジア経済を理解しつつ、強み、弱み、チャンス、脅威をとらえた将来構想を考える。広域多摩圏について。
<第3講> フィールドワーク
概要：多摩ニュータウン・諏訪/永山～貝取地域-まち歩き
事前学習しておくべき用語やポイント[多摩ニュータウン諏訪/永山、多摩市の歴史]
詳細：対象とするフィールドを実際に自分の目で見て、地域の声を聞くことで、地域を実感する。
<第4講> サービス・ラーニング
概要：コミュニティ・サービス・ラーニング（学生の地域/社会貢献と学び）の実態
事前学習しておくべき用語やポイント[サービス・ラーニング]
詳細：サービス・ラーニングのケーススタディ
多摩地域で展開するサービス・ラーニングについて解説
<第5講> 買い物弱者と地域活性
概要：民間による移動販売の事例を基に、地域コミュニティとの関係性を検討する
事前学習しておくべき用語やポイント[買い物弱者、買い物難民、多世代交流、鉄道事業、インセンティブ]
詳細：高齢化社会における物流や、地域コミュニティの在り方を、実例を基に、考察する。交流イベントを計画し、実践する構想もたてる。
<第6講> 社会的事業（SB）、コミュニティビジネス（CB）、公民連携（P／PP）
概要： 地域課題解決、社会問題解決の主体について学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント
[ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、NPO、PPP]
詳細：地域社会の担い手や、ビジネス手法について学び理解する。具体例のケーススタディ
<第7講> “市”イベント
概要： “市”“マルシェ”主催・支援
事前学習しておくべき用語やポイント[市、マルシェ、オーガニック、観光]
詳細：実際に、「手づくり市」、「移動販売」に関わり、主催側、支援側の立場を体験する。
<第8講> NPO法人との協働（留学生協働プロジェクト）
概要： コミュニティカフェイベント共催
事前学習しておくべき用語やポイント[コミュニティカフェ、NPO福祉亭、アジア経済]
詳細：留学生参画による、地域におけるフードイベントを共催する。
<第9講> 企業との連携
概要： 環境学習イベントの創出と実践
事前学習しておくべき用語やポイント[環境教育、ハロウィンin多摩センター、ベネッセ]
詳細：「ハロウィンin多摩センター」にて、企業と協働して行う、環境学習イベントの企画、運営を構想・企画する。
<第10講> 行政との連携
概要：「わがまち学習講座」
事前学習しておくべき用語やポイント[市民活動、ワークショップ、グラフィックファシリテーション]
詳細：行政課題、地域課題の解決のため自治が不可欠である。しかしながら、市民参画を醸成するには、問題も多い。市民参画を創出すること、産官学市民連携を創出する仕掛けを学び実践する。
<第11講> 地域創造（自治会と連携）
概要： 高齢化する街、コミュニティ創出と地域課題の解決
事前学習しておくべき用語やポイント[地域イベント、人口コーホート]
詳細：地域のお祭りを通じ、地域の方との協働による子どもたち向けイベントを地域の中学校とも連携し実行する。
<第12講> 公民連携（P／PP）
概要： 公民連携、官民パートナーシップ、PPPについて学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[PPP]
詳細：世界のPPP、日本におけるPPPを学び、これからのニュータウンに不可欠なPPPを討議する。
<第13講> プロジェクト戦略会議Ⅰ
概要： 地域経営計画構築
詳細：実際に地域ビジネスのストラクチャー（構造）を、PPPやファイナンス要素を入れて計画する。
<第14講> プロジェクト戦略会議Ⅱ
概要： 地域経営計画構築
詳細：実際に地域ビジネスのストラクチャー（構造）を、PPPやファイナンス要素を入れて計画する。
<第15講> 中間発表
概要： 春学期の総括
詳細：各人の特性やチーム力を活かしたサービスラーニング（学びによる地域貢献）、地域の繋がりの仕掛けの実際を考察、秋学期へ向けての戦略方針修正を行う。

■教科書

無し

■指定図書

・サラ・コナリー、マージット・ミサンギ・ワッツ著山田一隆・井上泰夫訳
「関係性の学び方」晃洋書房
・西山康雄/西山八重子著
「イギリスのガバナンス型まちづくり」学芸出版社

■参考文献

丹保憲仁著「人口減少下の社会資本整備-拡大から縮小への処方箋-」(社)土木学会
岡田知弘著「地域づくりの経済学入門-地域内再投資力論-」自治体研究社

■参考URL

http://www.tumblr.com/blog/kata-semi

■評価方法

ゼミナールへの出席（50%）、プロジェクトへの参加（50%）

■評価基準

相対評価
評価P:合格、或いは、評価F：不合格

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・秋学期の「プロジェクトゼミⅠ（公民連携による地域/社会貢献ビジネス）」
～サービス・ラーニングII～と通年開講であるため、春学期を履修したものは、秋学期も履修する必要がある。
・実際の地域活動を実践していくプロジェクトのため、外部活動が伴う。
（地域活動団体との協議や、地域イベント参画など）
そのため、必然的に土・日・祝日の活動が生じる。
・近隣大学ゼミ、多摩市役所関係部局、地域企業との連携を行う。
・地域コミュニティの促進や、人と情報のネットワーク、市民活動中間支援、社会的企業、環境学習、子ども、地域／社会貢献等に興味のある学生の参加が望まれる。
・効率的なゼミナール活動のため、教員や、学生間において、ソーシャルメディア（Facebook、twitter、SNS）を使ったコミュニケーションが必須となる。
・ゼミナールに出席しただけでは、単位認定とならないことに留意のこと。地域の主体（行政・企業・NPO等）と協働したイベントを企画・計画すると共に、実際に実行するプロセスに参画する必要がある。

科目名	プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ(Project Seminars Ⅰ～XⅡ)
サブタイトル	サービス・ラーニングⅡ
担当教員	片桐　徹也

■講義目的

多摩ニュータウンは、街びらきから43年が経過し、ニュータウン地域が6割を占める多摩市は、様々な問題・課題を抱えている。そこで外的驚異を克服し、一方で、強みや機会を活かす、新たな地域経営手法の創出・実践が求められる。地域主体の一つでもある「多摩大学」をはじめ、周辺地域大学の学生が、「学び」と「地域貢献活動」の組み合わせによる「地域課題/社会問題」の解決、そして、将来求められる地域像の創出へ関わっていくことは、学生や、地域の双方にとり有益である。

この講座は、地域の現状と課題の発見を通じ、学びつつ、地域経営の協働主体となり得る行政・企業・NPO・地域団体等と、地域大学（生）がパートナーシップ（連携）・協働し、地域が活性していく仕掛けを創出するプロセスに関わることを体験することを目的とする。

具体的には、個々の学生の特性を活かした役割を担うことを前提に、地域イベントの企画・実践に関わることで社会人力が育成される。マルチステークホルダー（地域課題解決に取り組む複数の主体（NPO等・行政・地域金融機関・大学・企業）との連携によりサスティナブル（持続可能）な地域経営手法の創出に関わる。

このことは、街の再生・活性策を技術的な手法のみに依存するのではなく、大学生と地域の双方が連携した地域づくりに参画し活動していくプロセス（過程）を体験しつつ能動的にビジネスに関わることで、地域や、履修生の双方に変革がもたらされるという体感・実践的知識を獲得していくということに他ならない。

例えば税収増や、バランスのとれた地域づくりのため、「子育て世代の居住誘引」につなげることは、もはや行政力だけでは不可能であるし、かつ民間ビジネス手法だけでも難しい場合、官民連携にて「ニュータウン再生」や、将来投資、また、住民コミュニティが醸成されていく仕掛けを探求する。連携（パートナーシップ）とは、リスクの分担と、契約によるガバナンスで成り立つことを学ぶ。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、地域ビジネス

■到達目標

・地域課題や社会問題の解決を他主体との協働体験による地域活性化滋養の理解
・官民連携（Public-Private Partnership）の基本を理解
・地域企業（NPOを含む）が実際に行うイベントにおいて社会人と連携して企画・実践し成果を出す

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
その他(協働する地域企業におけるプロジェクト会議への参加)
：学外学習有

■講義の概要

<第1講> ガイダンス
概要： セミナール説明
事前学習しておくべき用語やポイント[サービスラーニング、地域SNS、地域貢献]
詳細：ゼミナールの目的と使命、方針を理解する。春学期の振り返り。
<第2講> 「ハロウインin多摩センター」運営管理
概要：子ども系NPOとの協働
事前学習しておくべき用語やポイント[NPO法人多摩子ども劇場]
詳細：地域の子ども達のふるさとづくりの理念を理解すると共に、11回目を迎える「ハロウインin多摩センター」イベントの企画運営を体験学習する。
<第3講> 環境学習イベントon「ハロウインin多摩センター」
概要：地域企業と繰り広げる地域貢献イベントを実践
事前学習しておくべき用語やポイント[環境学習、CSR]
詳細：イベント参画のチームワーク、企業と協働する意義、成果について仮説・検証する。
<第4講> サービス・ラーニング
概要：コミュニティ・サービス・ラーニング（学生の地域/社会貢献と学び）の実態
事前学習しておくべき用語やポイント[サービス・ラーニング]
詳細：サービス・ラーニングのケーススタディ
多摩地域で展開するサービス・ラーニングについて解説
<第5講> 買い物弱者と地域活性
概要：民間による移動販売の事例を基に、地域コミュニティとの関係性を検討する
事前学習しておくべき用語やポイント[買い物弱者、買い物難民、多世代交流、鉄道事業、インセンティブ]
詳細：高齢化社会における物流や、地域コミュニティの在り方を、実例を基に考察する。交流イベントを計画し、実践する。
<第6講> 多摩市の観光開発
概要： エンターテイメント施設と、友好都市・長野県富士見町、味噌づくり体験等を踏まえた着地型観光開発
事前学習しておくべき用語やポイント
[着地型観光、交流人口、サンリオピューロランド、富士見町、多摩市の農産]
詳細：多摩市の交流人口拡大と観光開発を、地域エンターテイメント企業や、行政、外国人の視点で企画・提案・実現させる。
<第7講> “市”イベント
概要：“市”“マルシェ”主催・支援
事前学習しておくべき用語やポイント[市、マルシェ、観光]
詳細：実際に、「移動販売」と、地域に関わり、主催側、支援側の立場を体験する。この実践によって、地域の課題と、自治による地域づくりの実践手法を考察する。
<第8講> NPO法人との協働（留学生協働プロジェクト）
概要： コミュニティカフェイベント共催
事前学習しておくべき用語やポイント[コミュニティカフェ、NPO福祉亭、アジア経済]
詳細：留学生参画による、地域におけるフードイベントを共催する。
<第9講> デザインのチカラ
概要： 小学生向けの知育玩具を企画する
事前学習しておくべき用語やポイント[知育玩具、クラウドファンディング、メディア広報]
詳細：デザイナーと共に、従来にない商品を産み出すプロジェクトの実践を行う。「子どもが考える為の道具を作る」というテーマで、実際に、小学校の児童を対象にリサーチし、現代の資金調達手法を踏まえて商品化を目指す。
<第10講> 行政との連携
概要：「わがまち学習講座」
事前学習しておくべき用語やポイント[市民活動、ワークショップ、グラフィックファシリテーション]
詳細：行政課題、地域課題の解決のため自治が不可欠である。しかしながら、市民参画を醸成するには、問題も多い。市民参画を創出すること、産官学市民連携を創出する仕掛けを学び実践する。
<第11講>行政との連携Ⅱ
概要：「わがまち学習講座Ⅱ」
事前学習しておくべき用語やポイント[ムーブメント]
詳細：地域コミュニティの醸成には、共鳴・共感、理解が不可欠である。その起こし方と、進め方を実践する。起案者と、支援者、サポーターの役割について学ぶと共に、実践的にプロジェクトを遂行する。
<第12講> 公民連携（P／PP）
概要： 公民連携、官民パートナーシップ、PPPについて学ぶ
事前学習しておくべき用語やポイント[PPP]
詳細：世界のPPP、日本におけるPPPを学び、これからのニュータウンに不可欠なPPPを討議する。
<第13講> プロジェクト戦略会議Ⅰ
概要： 地域経営計画構築
詳細：実際に地域ビジネスのストラクチャー（構造）を、PPPやファイナンス要素を入れて計画する。
<第14講> プロジェクト戦略会議Ⅱ
概要： 地域経営計画構築
詳細：実際に地域ビジネスのストラクチャー（構造）を、PPPやファイナンス要素を入れて計画する。
<第15講> 最終発表
概要： 秋学期の総括
詳細：各人の特性やチーム力を活かしたサービスラーニング（学びによる地域貢献）、地域の繋がりの仕掛けの実際を考察、「地域プロジェクト発表祭へ向けての戦略方針修正を行う。
（発表祭の開催時期により日程の変更を行う）

■教科書

無し

■指定図書

・サラ・コナリー、マージット・ミサンギ・ワッツ著山田一隆・井上泰夫訳
「関係性の学び方」晃洋書房
・西山康雄/西山八重子著
「イギリスのガバナンス型まちづくり」学芸出版社

■参考文献

丹保憲仁著「人口減少下の社会資本整備-拡大から縮小への処方箋-」(社)土木学会
岡田知弘著「地域づくりの経済学入門-地域内再投資力論-」自治体研究社

■参考URL

http://www.tumblr.com/blog/kata-semi

■評価方法

ゼミナールへの出席（50%）、プロジェクトへの参加（50%）

■評価基準

相対評価
評価P:合格、或いは、評価F：不合格

■事前履修科目等

2年生以上：プロジェクトゼミナールⅠ（春学期）公民連携による地域/社会貢献ビジネス
1年生は、問わない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・春学期の「プロジェクトゼミⅠ（公民連携による地域/社会貢献ビジネス）」
～サービス・ラーニングII～と通年開講である。
秋学期から履修する1年生は、続けて次年度春学期開講の上記講座の履修が必須となる。
・実際の地域活動を実践していくプロジェクトのため、外部活動が伴う。
（地域活動団体との協議や、地域イベント参画など）
そのため、必然的に土・日・祝日の活動が生じる。
・近隣大学ゼミ、多摩市役所関係部局、地域企業との連携を行う。
・地域コミュニティの促進や、人と情報のネットワーク、市民活動中間支援、社会的企業、環境学習、子ども、地域／社会貢献等に興味のある学生の参加が望まれる。
・効率的なゼミナール活動のため、教員や、学生間において、ソーシャルメディア（Facebook、twitter、SNS）を使ったコミュニケーションが必須となる。
・ゼミナールに出席しただけでは、単位認定とならないことに留意のこと。地域の主体（行政・企業・NPO等）と協働したイベントを企画・計画すると共に、実際に実行するプロセスに参画する必要がある。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XII（Project Seminars Ⅰ～XII）

サブタイトル　メディア実践論Ⅰ

担当教員　木村　知義

■講義目的

2008年以来重ねてきたこのプロジェクトゼミ「メディアを創る－メディア実践論」は新たなステージにむけてよりステップアップをめざす。
活動の柱は
1．映像および音声番組の企画、制作
＊多摩地域に焦点を絞って、企画の発掘・制作をすすめる。またティームによる共同制作をめざす。
2．多摩地域の「コミュニティ・メディア」に関する調査・研究とプランニング
＊具体的には「多摩コミュニティFM放送局」の復活、再興に向けたプランニング
3．多摩大学「学生ジャーナル」の取材、編集への参画
＊取材と記事の執筆、写真も含めた紙面制作
の3つである。

その考え方のベースは、既成メディアとWebとの連携・融合という現代のメディアに起きている新たな潮流をふまえた「ハイブリッド・メディア」への挑戦にある。ここでいう「ハイブリッド・メディア」とは米・コロンビア大学大学院ジャーナリズム・スクールのシグ・ギスラー教授の「ハイブリッド報道」という提起に触発された新たな総合マルチメディアをイメージしたものである。映像表現＋音声表現＋活字表現を融合して一体のものとして取り組みWebと連携して情報発信していくというチャレンジである。

ではこの「メディア実践論」の背景にあるメディア状況への認識はどのようなものだろうか。

なによりもまず、メディアの世界にいま「新しい風」が起きているということがある。

ＩＣＴ(情報通信技術)のめざましい発展によって、これまでは情報の「受け手」としてしか存在し得なかった我々の誰もが情報発信の主体、「送り手」になれる時代がやってきている。「オルタナティブ・メディア」あるいは「コミュニティ・メディア」といわれる市民によるメディア発信も、世界各地で活発におこなわれている。また、フェイスブックやツィッターといったソーシャルメディアを活用した、新たな情報発信もめざましい広がりをみせている。

しかし、それだけに、何を、どう伝えるのかが深く問われてくる。

プロジェクトゼミ「メディア実践論」では、社会や地域を見つめ、自らテーマを発見し、企画、取材、編集といった、メディアにかかわる全プロセスを体験することで、課題発見能力、企画力、取材力、そして問題解決能力にいたる総合的な力の獲得をめざす。こうした実践的知識と能力の錬磨を通じて、メディアリテラシーとコミュニケーション能力を育み、社会と人間へのまなざし、ものの見方、考え方を鍛え、社会で生きていくために不可欠な人間力の陶冶をめざす。さらに多様な発想にもとづくメディア実践を通して現代社会におけるメディアの責任と使命、ビジネスICTの現状と可能性についても学ぶ。

こうした積み重ねの上に2014年度は大学が立地する多摩地域に視点を置いて、プロジェクト参画者によるティームでの企画・制作（共同制作）活動と地域に向けた情報発信に努力を集中することにする。また、昨年度の「コミュニティ・メディア」についての調査研究に立脚して多摩地域における「コミュニティ・メディア」の創出にむけたプランニングに取り組むことにする。そして、こうした活動のさまざまな舞台や局面、状況を「活字媒体」である多摩大学「学生ジャーナル」の紙面に「現場リポート」として反映させていくことにする。

当プロジェクトゼミは、2008年からインターネットラジオでの発信をイメージした音声番組の企画、制作ワークを積み重ね、2011年からはステージを新たにして、映像メディアの企画、制作に踏み出した。さらに2012年秋学期から「学生ジャーナル」の取材・編集に参画することで、音声、映像、活字といったメディアミックスによる情報発信へとフィールドを広げてきた。2011年3月11日に起きた東日本大震災を契機に、多くの大学生が被災地に入り、あるいは被災して避難生活を余儀なくされた人々のあいだに分け入って、人々の暮らしや被災の現状を記録するという活動と取り組み始めている。また全国各地で大学生による多様なメディアでの情報発信が一段と熱を帯びている。

こうした大学発の情報発信の高まりと広がりをふまえ、大学の立地する多摩地域に貢献できるチャレンジングで創造的なメディア実践－情報発信のプラットフォームをめざす。

■講義分類

社会人力育成　ビジネスマネジメント　ビジネスICT　ビジネス創造

■到達目標

1．広く社会に目を向けて、テーマを見つけ、企画を立て、取材し、インタビューしたりリポートしたりすることで、自らのことばで語り、伝えることができる。
2．映像や音声によるドキュメンタリーの企画、取材、編集という番組制作にかかわる全過程を経験して、メディア制作についての知識と実際的な技法、方法について学び外に向けて情報発信できる。
3．多摩大学「学生ジャーナル」の取材、編集に参画して、大学発の情報発信を担う。
4．多摩学を学ぶ活動や多摩地域をベースにしたゼミ活動などと連携し、地域社会に根ざすコミュニティメディアの創造にむけてのプランニングを担う。
5．これらの取り組みによって、問題発見能力、企画力、そして交渉力をはじめとするマネジメント能力、問題解決能力を鍛え、実社会で活用できる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習あり。

■講義の概要

＊以下の講義計画は「映像制作」の基本的なプロセスにそって各段階の作業に即したものである。実際には映像、音声、活字など各メディアについての基礎知識と基本的な技能の学習、習得と共同制作の実際的なワークの進捗状況に応じて個別に対応しながらすすめることになる。
また、多摩地域における「コミュニティ・メディア」の創設－具体的には「多摩コミュニティFM放送局」の復活，再興に向けたプランニングについても同時進行で取り組むことになる。
したがって、以下は「映像制作」をモデルにした講義計画と「多摩コミュニティFM放送局」の創設に向けたプロジェクトの進め方についての講義計画を融合したものである。あくまでも概要の提示にとどまらざるをえないが、プロジェクトのイメージはつかめるだろうと考える。

<第1講>企画・制作とはどのような営みなのか
概要：メディアにおける企画、取材、制作とはどのような営みなのか、いま、なぜ「コミュニティ・メディア」なのかを学びながら、このプロジェクトゼミがめざすものについて認識の共有をはかる。
事前学習しておくべき用語やポイント：大学生のドキュメンタリー制作活動例、全国のコミュニティ放送局の活動についてしらべる。
詳細：メディアを創り、多様なメディア発信のプロジェクトに参画する意味と意義について知るとともに、これから取り組む企画、取材、制作のプロセスに即して、このプロジェクトゼミを通じて何を学び、何をめざすのか、その目標とゼミのすすめ方について、意見発表、討論も交えて理解を深める。
また、ここで「多摩コミュニティFM放送局」創設－再興プロジェクトと番組制作プロジェクトのグループわけを行う。
「多摩コミュニティFM放送局」創設－再興プロジェクトについてはポイントを押さえて、各講の末尾に注記することとする。

<第2講>企画を立てる、メディアはメッセージだ!（1）
概要：メディアは企画がすべて!では企画をどう生み出すのか、討論を交えて実践的に学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：多摩地域の「動き」や「話題」についてリサーチして自分の取り組んでみたい企画についてまとめる。
詳細：メディアはメッセージだというのは不変のテーゼである。では企画をどう生み出すのか。一体、何を伝えたいのかを考えることを問題意識の基底にすえて、企画が生まれ、形あるものに発展していく過程を、多摩地域で企画を立てるとすればどうするのかを前提にして、それぞれの意見発表と討論を深めながらすすめる。
なお、制作にあたっての選択肢は、
1．ビデオ番組　2．デジタルカメラを活用したスライドショー構成番組　3．音声番組
4．活字、ペーパーメディアにおける記事　となる。
＊多摩コミュニティFM放送局」創設－再興プロジェクト（以下「FM多摩」と表記）グループは活動計画づくりと取り組む。同時に、ほかのゼミ（ホームゼミ・プロジェクトゼミ）との連携、協力についてリサーチする。

<第3講>企画を立てる、メディアはメッセージだ！（2）
概要：ネタ発掘会議をひらく。提案会議をひらき企画について議論する。
事前学習しておくべき用語やポイント：多摩地域のネタ掘り起し＝企画についてプレゼンテーションの準備をする。
詳細：各自の企画を俎上に乗せて議論することで企画のブラッシュアップをはかる。同時に、批判にさらされることで、多角的に「提案を揉む」意義について学ぶ。
また、企画・提案に至るプロセスで学ぶポイントは、
・説得力のある企画提案書はどうすれば書けるのか、企画意図をどう企画書にまとめ上げていくのか、それをどうプレゼンテーションすれば理解を得られるのか、認められるのかについて、実際に体験する。
・リサーチから企画をまとめ上げるまでのプロセスをしっかり身につける。
・放送現場での「企画書」をモデルに、それぞれが触発されたことを整理して、企画を発想する手法、方法論について深める。
＊「多摩FM」グループの活動計画について検討、議論する。同時に、ほかのゼミとの連携プランについて打ち合わせる。

<第4講>提案会議で企画についての検討、議論を深める。
概要：さらに「提案会議」で議論を深め、それぞれの企画のさらなるブラッシュアップをめざす。
事前学習しておくべき用語やポイント：企画をもとに構成を考える
詳細：提案会議を続けながら、当初の企画案が「提案会議」での議論を経てどのようにブラッシュアップされたのかをチェックして、企画力、提案力を鍛えていく。ここまでで番組制作の企画を固め企画書にまとめる。
＊「FM多摩」グループは活動計画を固めて、今後の工程表を作成、役割分担を決める。
<第5講>撮る！撮影の実際、「カメラの達人」になるために
概要：ビデオカメラを使って撮影の実際について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：ビデオカメラの使い方、カメラワーク
詳細：実際にビデオカメラに触れて、ビデオカメラの特性、撮影にあたっての注意について学ぶ。あわせて音声収録についても録音機材を使って、実際に即して学ぶ。
＊「FM多摩」グループの活動プランで、特に多摩市民および各方面への働きかけの活動計画を立てる。同時に、番組制作と連携して活動のプロセスをドキュメントで記録していく。
<第6講>「問い」がすべて!インタビューの力を鍛える
概要：配布教材をもとに、インタビューについて学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：インタビューとはどのような行為か
詳細：「問いは答えですものね」とは白寿まで作家として書き続けた野上弥生子さんのことばだ。ではその意味するところは何か?インタビューの方法論とその実際について学ぶ。
＊「FM多摩」グループの活動進捗状況をチェック。
<第7講>「構成」を検討する　概要：それぞれが書いた「構成表」をもとに議論、検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント：構成表を書いてみる
詳細：テーマ、メッセージが的確に伝わる「構成」とはどのようなものか、放送現場での「構成表」などを参考に、視聴者の関心、興味を引きつけながらメッセージを力強く伝えていく方法について学ぶ。
＊「FM多摩」グループは調査・研究をはじめ地域での働きかけなど学内・学外での活動へ。
<第8講>取材に向けて
概要：「構成」をもとに「取材計画」を立て検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント：取材計画の立案
詳細：「構成」をもとに「取材計画」を立てる。同時に、ロケ取材に使う機材についてもさらに習熟し、ミスなく確実なロケ取材ができるようにしていく。また、取材交渉の実際、「取材（協力）依頼文書」の書き方など、取材交渉からロケ計画まで、実際に即して、必要な段取りや作業について学ぶ。
＊「FM多摩」グループは、春学期中間点で活動状況の点検と今後の活動について明確化。
<第9講>編集と再構成～ポスト・プロダクションの実際～（1）
概要：編集ソフトと編集作業の実際について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：編集ソフト活用の実際
詳細：ロケ取材した素材をもとに編集作業に入ることになるが、そのためにどんな準備が必要なのかを学びながら、「構成」の手直し（再構成）の重要性について学ぶ。同時に編集ソフトについて習熟をはかる。また音声編集についても学ぶ。
＊「FM多摩」グループは活動の情報交換と共有。今後の活動の確認。
<第10講>編集と再構成～ポスト・プロダクションの実際～（2）
概要：ロケ取材した素材の編集作業をすすめながら、再構成をすすめる。
事前学習しておくべき用語やポイント：ポスト・プロダクション
詳細：ロケ取材した素材の編集作業をすすめながら、再構成した内容をもとに必要なコメント（ナレーション）や音楽材について検討し、制作の仕上げ（完プロ）にむけて準備する。
＊「FM多摩」グループは工程表に照らして活動の進捗状況をチェック。必要に応じて工程表の改定などをおこなう。
<第11講>編集と再構成～ポスト・プロダクションの実際～（3）
概要：編集した「素材」を視聴して、さらに吟味、検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント：構成の手直し、ナレーションコメントを書く
詳細：編集した「素材」を視聴して、さらに検討、議論を重ね、手直しの編集作業と取り組む。ポスプロの仕上げに向けてナレーションのコメントの作成、音素材の編集手直しなどと取り組む。
＊「FM多摩」は夏休み中の活動計画など「秋」に向けてのプラン立案。目標実現のためのティーム編成をどうするのかなど、具体的な実行プランを明確化する。
<第12講>「完プロ」仕上げ作業へ
概要：編集した「素材」とコメント（ナレーション）、音などを合わせてさらに検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント：完プロ用の構成台本を作成する
詳細：編集した「素材」とコメント（ナレーション）、音などを合わせてみてさらに検討を深める。その上で、確定版の構成台本を作成して、ナレーションなどを入れて完成させる。
＊「FM多摩」グループは実行プランとティーム編成を精査。実際の作業の分担など必要な作業をすすめる。
<第13講>　番組視聴と検証（1）
概要：制作した番組を視聴しながら議論を深め、番組について検証する。
事前学習しておくべき用語やポイント：番組を見る力
詳細：番組は出来上がればそれで「終わり！ではない！番組の検証を通して「次ぎ」への教訓を得てさらなる力にすることがなによりも重要。制作した番組を視聴しながら議論を深め、番組について検証していく。
＊「FM多摩」グループは番組制作と秋の「イベント」とどう連携していくのか検討。準備過程もふくめてドキュメントで記録していく。
<第14講>番組視聴と検証（2）
概要：番組の視聴と検証をさらにすすめる。
事前学習しておくべき用語やポイント：番組を評価する力、批判する力
詳細：番組の視聴と検証のプロセスを通じて、番組の見方を鍛えることが制作力を鍛えることに通じることを体得していく。
＊「FM多摩」グループの「秋」に向けての活動計画を全体で共有する。
<第15講>春学期を総括する
概要：企画から制作に至る全過程を振り返り総括する。
事前学習しておくべき用語やポイント：広く社会に目を向けてドキュメンタリーの制作へ
詳細：制作のプロセスをふりかえりながら、それぞれにとって成果は何か、課題は何かを再確認する。＊秋学期は全体で「FM多摩」グループのプロジェクトに注力することを確認。実行プランを明確化するとともに全体で認識を共有する。

■教科書

なし。

■指定図書

『メディアが震えた　テレビ・ラジオと東日本大震災』丹羽美之ほか編（東京大学出版会2013年）
『メディアをつくる～「小さな声」を伝えるために～』白石草（岩波書店2011年）
『映像制作入門　見せることへのファーストステップ』鈴木誠一郎ほか（ナカニシヤ出版2009年）
『市民メディアの挑戦』松本恭幸（リベルタ出版2009年）
『オルタナティブ・メディア』ミッチ・ウォルツ（大月書店　2008年）
『メディア・ルネサンス～市民社会とメディア再生～』津田正夫他（風媒社2008年）
『コミュニティ・メディア　コミュニティFMが地域をつなぐ』金山智子編著（慶應義塾大学出版会2007年）

■参考文献

『ドキュメンタリーの語り方　ボトムアップの映像論』遠藤大輔（勁草書房2013年）
『311を撮る』森達也ほか（岩波書店2012年）
『社会の今を見つめて　TVドキュメンタリーをつくる』大脇三千代（岩波書店2012年）
『シリーズ　日本のドキュメンタリー1　ドキュメンタリーの魅力』佐藤忠男編著（岩波書店2009年）
『送り手のメディアリテラシー　地域から見た放送の現在』黒田勇編（世界思想社2005年）
『現場主義の知的生産法』関　満博（筑摩書房2002年）
『メディアリテラシー～世界の現場から～』菅谷明子（岩波書店2000年）

■参考URL

■評価方法

普段のゼミへの参加の姿勢をはじめ番組制作プロセス、プロジェクト活動での努力に主眼をおいて評価する。　そのうえで、作り上げた作品のレベルとともに発想の豊かさ、企画力、実行力などを総合的に判断して評価する。結果としての番組の出来具合、プロジェクトの目標実現力も大事だが、なによりも真摯に努力する姿勢や積極性を重視する。
数値上の評価配分の基本は、日常のゼミ活動への出席40%　自主的な取材・制作活動30%、制作成果の評価30%とする。

■評価基準

絶対評価　ゼミの評価基準、P、Fの二分法にもとづいて評価。　ゼミのテーマ設定の性格から、不合格とせざるを得ない場合は事前に本人と話し合い、納得性の上に判定する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

自ら調べ、考え、企画を立てて議論し、取材に歩き、編集に取り組むなど、相当ハードなワークになる。それぞれの自発性にもとづく創造的な「学びの場」をめざすので、チャレンジ精神に富む学生諸君の参加を呼びかけたい。同時に、将来、進路としてメディアでの仕事を志す学生はもちろん、それ以外の学生にとっても重要な、ものの見方や考え方、社会性などを実戦的に鍛え、総合的なコミュニケーション能力の鍛練をめざしているので、メディア志望者に限らず、多様な問題意識をもった学生の参画を期待する。
また「コミュニティFM放送局」の創設－再興プロジェクトでは目標の実現に向けて地域社会に訴え、共感を広げて目標の実現をめざすという、具体的な成果が求められることを十分覚悟して参加してほしい。
以下の諸点について、あらかじめ理解、覚悟したうえで参加すること。
＊15回という限られた講義設定の中で目標を達成する必要があるので、病気、就活など

やむを得ない場合を除いて、全授業に出席することが前提となる。
＊また、ゼミ時間外に自主的に取材、編集などの作業に取り組むことが不可欠となる。
＊さらに、秋学期までの３０回を前提に作品の制作計画を立てるので、通年での履修が望ましい。
＊「コミュニティFM放送局」創設－再興プロジェクトは通年での取り組みが必須となる。
＊重ねて、かなりハードなワークとなるが、かならず努力が実を結び大きな達成感、充実感を手にすることができると確信する。
＊番組の企画、制作に取り組む面白さ、楽しさと「苦労」を体験しながら、社会に出て通用する実戦的な力を身につけたいという、意欲に燃えた諸君の参加を待つ。

科 目 名 プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル メディア実践論Ⅱ

担当教員 木村　知義

■講義目的

春学期のプロジェクト活動を引き続き発展させる。
活動の柱を再度確認しておくと、
1．映像および音声番組の企画、制作
＊多摩地域に焦点を絞って、企画の発掘・制作をすすめる。またティームによる共同制作をめざす。
2．多摩地域の「コミュニティ・メディア」に関する調査・研究とプランニング
＊具体的には「多摩コミュニティFM放送局」の復活，再興に向けたプランニング
3．多摩大学「学生ジャーナル」の取材、編集への参画
＊取材と記事の執筆、写真も含めた紙面制作
の3つである。
また、この「メディア実践論」に取り組む際の、現在のメディア状況についての認識と問題意識についていえば以下のとおりである。、
「YouTube」「USTREAM」・・・など、これまで閉ざされがちだったメディアの世界にいま「新しい風」が起きている。ICT(情報通信技術)のめざましい発展によって、これまでは情報の「受け手」としてしか存在し得なかったわれわれの誰もが情報発信の主体、「送り手」になれる時代がやってきた。また「オルタナティブ・メディア」といわれる市民によるメディア発信も、世界各地で活発におこなわれるようになってきた。
しかし、それだけに、何を、どう伝えるのかが深く問われてくる。
プロジェクトゼミ「メディアを創る－メディア実践論」では、社会や地域を見つめ、自らテーマを発見し、企画、取材、編集といった、メディアにかかわる全プロセスを体験することで、課題発見能力、企画力、取材力、そして問題解決能力にいたる総合的な力の獲得をめざしている。
こうした実践的知識と能力の錬磨を通じて、メディアリテラシーとコミュニケーション能力を育み、社会と人間へのまなざし、ものの見方、考え方を鍛え、社会で生きていくために不可欠な人間力の陶冶をめざす。
さらに多様な発想にもとづくメディア実践を通して現代社会におけるメディアの責任と使命、ビジネスICTの現状と可能性についても学ぶ。
これらを総合して、社会で実際に役立つ人材の育成と多摩地域における社会への貢献をめざす。

以上の立脚点に立って秋学期は、春学期から重ねてきたプロジェクト活動の一層の深化と充実、当初の目標の達成をめざす。

■講義分類

社会人力育成　ビジネスマネジメント　ビジネスICT　ビジネス創造

■到達目標

1．広く社会に目を向けて、テーマを見つけ、企画を立て、取材し、インタビューしたりリポートしたりすることで、自らのことばで語り、伝えることができる。
2．映像や音声によるドキュメンタリーの企画、取材、編集という番組制作にかかわる全過程を経験して、メディア制作についての知識と実際的な技法、方法について学び外に向けて情報発信できる。
3．多摩大学「学生ジャーナル」の取材、編集に参画して、大学発の情報発信を担う。
4．多摩学を学ぶ活動や多摩地域をベースにしたゼミ活動などと連携し、地域社会に根ざすコミュニティメディアの創造にむけてのプランニングを担う。
5．これらの取り組みによって、問題発見能力、企画力、そして交渉力をはじめとするマネジメント能力、問題解決能力を鍛え、実社会で活用できる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
：学外学習あり

■講義の概要

秋学期は、春学期の活動をふまえて、
1．企画・制作については制作活動を常態し、プロジェクト活動を日常化することをめざす。
2．コミュニティFM放送局＝FM多摩の復活、再興をめざすプロジェクトは学内の各ゼミなどとの連携を一層強化して、多摩市民や地域の各団体などへの働きかけを強化して、イベントの開催などを含む実際的な活動を展開する。
以上の2点を重点にプロジェクトゼミの活動をおこなうことにする。
以下の講義計画は春学期同様、「映像制作」の基本的な作業フローにそって輪郭として提示したにすぎない。実際のゼミ運営では、臨機応変、柔軟にプロジェクト活動をめぐる問題や課題を解決するために各講の場でとりくむものとする。
なお、企画・制作にあたっての選択肢は、春学期同様　1．ビデオ番組　2．デジタルカメラを活用したスライドショー構成番組　3．音声番組　4．活字、ペーパーメディアにおける記事　となる。

<第1講>映像番組制作のステップアップにむけて
概要：秋学期は、春学期に学んだことをもとに、さらにステップアップをめざす。
事前学習しておくべき用語やポイント：地方の時代映像祭、自治体、学生部門について知る
詳細：「誰もが映像表現できる時代」に、大学や地域に根差したメディアを創り出す意味について、議論を通して認識を深めチャレンジへのモチベーションを高める。同時に、プロジェクト活動を日常化、恒常化するためにどのような取り組みが必要か議論を通じて考える。また、共同制作の役割分担の再編成をおこなう。（担当を固定化せず、それぞれが多様な役割を担うことにする）
＊「FM多摩」プロジェクトは「秋」のイベント開催など目標の実行計画を詰めて、活動の本格化に入る。

<第2講>ステップアップをめざして、企画を立てる（1）
概要：「メディアは企画がすべて」というのは春学期にも学んだ。多摩地域に焦点を絞って企画の掘り起しに取り組む。
事前学習しておくべき用語やポイント：NHKドキュメント20min. など事例研究
詳細：視野を広くとって多摩地域の問題や話題を洗い出して企画のテーマを考える。また、グループワーク（共同制作）という取り組みの実をあげるために何が必要かを実践的に考える。企画の掘り起しの図書館などで新聞や各種資料に当たるとともに、現場に出かけてリサーチを重ねる。また、大学発や地域発の映像番組による情報発信の例について調べ、その番組の内容などから学ぶべき点を探る。
＊「FM多摩」プロジェクトは活動状況のチェックと情報共有。活動のための体制をゼミ全員で構築、編成する。

<第3講>ステップアップをめざして、企画を立てる（2）　概要：リサーチをもとに「提案会議」で企画を検討、議論する。
事前学習しておくべき用語やポイント：ドキュメント20min. など事例研究を続ける
詳細：一人の人間が考えることのできる企画には限界がある。それを補い、深め、発展させて、より大きく、骨太にしていくのが提案会議(企画会議)。提案会議の議論を通じて企画を骨太、豊かなものにブラッシュアップする。
＊「FM多摩」プロジェクトは活動状況のチェックと情報共有。次の一週間の活動、行動の確認。

<第4講>ステップアップをめざして、企画を立てる（3）
概要：企画を絞り、取材計画を立てる。
事前学習しておくべき用語やポイント：さらに番組の事例研究を続ける
詳細：「提案会議」で企画を絞り、決定する。同時に企画のレベルをより高めて番組化するための道筋について考えた上で、提案の採否を決定して「提案票」の決定稿を仕上げる。その上に、「（仮）構成表」を書いてみる。ロケなど取材計画を考える。
＊「FM多摩」プロジェクトは活動状況のチェックと情報共有。次の一週間の活動、行動の確認。

<第5講>構成表を書く　概要：提案表にもとづいて構成を検討し、構成表をつくりあげる。
事前学習しておくべき用語やポイント：構成表の書き方を復習する
詳細：よい企画があればそれでよい番組ができるというものではない！構成力が勝負を決めることは春学期にも学んだ。では構成力とはどういうものなのか。議論しながら構成を豊かにしていき、構成を練り上げていく。このプロセスを通して、構成力ということについて深く学ぶ。構成にもとづいて取材計画を立て、取材交渉をはじめる。
＊「FM多摩」プロジェクトはおおむねこの時点で第一段階の目標（地域・市民にむけたイベントなどのプログラム）の実施、実行をはかることになる。以降はこうしたプログラムの実行を踏まえて、次の段階のプランニングに入ることになる。

<第6講>ロケ取材へ
概要：ロケ取材の実際についてさらにステップアップして学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：カメラの操作、ロケのポイントについて復習
詳細：構成まではできた。しかし、それはあくまでも机上のものだ。取材して必要な要素を集めることができなければ単なる「絵に描いた餅」に終わる。取材はむずかしい！さてどうする。取材交渉から取材計画の立案など、ロケ取材の実際についてさらにステップアップして学ぶ。
＊「FM多摩」プロジェクトは次の第二段階の活動に向けて計画の検討、議論に入る。

<第7講>ロケ取材の実際　概要：取材交渉からロケへ。
事前学習しておくべき用語やポイント：カメラワーク、ロケ取材の実際
詳細：ロケ取材の準備過程で見えた問題や課題、疑問を出し合いながら、それをどう乗りこえ、解決していくのか、議論を通じて解決への道筋を見つけていく。同時に現場でのイ

ンタビュー内容やリポート収録の準備についてもチェックする。ロケ取材の実施へ！
＊「FM多摩」プロジェクトは引き続き第二段階の活動に向けて計画の検討、議論を重ねる。
<第8講>編集作業へ
概要：ロケしてきた素材を試写しながら編集の構想を練る。
事前学習しておくべき用語やポイント：編集ソフトの使い方を復習する
詳細：ロケ取材した「映像素材」をもとに詳細な「カット表」を作るとともに並行してインタビュー内容など「音素材」の「字起こし」の作業と取り組む。また、制作の進み具合をチェックし、進んでいない場合は何がカベになっているのか、それを突き破るためにはどうすればいいのかを議論して解決策を考える。取材が進んでいるケースでは、さらに補足取材すべき要素はないかなど検討して、番組の質の向上をめざす。
＊「FM多摩」プロジェクトは第二段階の活動計画の立案、提示。全体で共有するとともにさらに検討。
<第9講>編集と取り組む
概要：取材してきた映像素材を視聴しながら「再構成」し、番組内容の深化、ブラッシュアップをはかる。　事前学習しておくべき用語やポイント：より高度な編集の技法についてさらに研究する
詳細：取材できた映像素材をどう生かせばいい番組になるのかを考え構成をさらに手直し、構成表の「改定版」を作る。それにもとづいて編集作業と取り組む。また、そこから何が足りないのかを考えて再取材、補足取材の必要な事柄を洗い出す。
また、コミュニティFMについての調査研究をさらに深める。
<第10講>編集作業をすすめる
概要：春学期に編集の基本については学んだが、より高度で複雑な編集作業について、編集の実際を体験しながら学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント：番組研究をもとに編集の技法についてさらに深める
詳細：引き続き、なぜ「再構成」が必要なのか、「再構成」とはどういう作業なのかを体験的に学ぶ。そこでは豊かな発想力、構想力がカギになることを学び、「再構成」をもとに編集作業をすすめる。
なお、この間、制作活動を常態化、日常化させることをめざしてきたことをふまえ、活動の中間的な総括をしておく。
＊「FM多摩」プロジェクトの第二段階の活動について情報の共有と次の一週間の活動計画の確認。
<第11講>「一編」の試写と編集の手直し、再・再構成へ
概要：「粗編集」した「一編」（一回目の編集結果）を視聴しながら構成の再度の検討とそれにもとづいた再編集と取り組む。
事前学習しておくべき用語やポイント：ナレーションの要員、人材の発掘と実際的訓練
詳細：「粗編集」で仕上げた「一編」を視聴して構成の再手直しをする。構成の再度の検討とそれにもとづいた再編集と取り組む。同時にナレーションのコメントや効果音など仕上げに向け準備をすすめる。
＊「FM多摩」プロジェクトは第二段階の活動を進めながら、この一年間の活動の総括報告の準備をすすめる。
<第12講>完プロ、制作の仕上げへ
概要：編集できた素材にナレーションや効果音、必要な字幕などを加え、完成させる。
事前学習しておくべき用語やポイント：ナレーションの実際と効果音などの音処理
詳細：編集できた素材をもとにナレーションや効果音などを加え、作品を完成させる。必要に応じて字幕を入れる。加えて、視聴、検証に向けてナレーションコメントなども書き入れた「構成表」の最終確定版を作り上げておく。
＊「FM多摩」プロジェクトは引き続き第二段階の活動を進めながら、一年間の活動の総括報告の準備をすすめる。
<第13講>番組視聴と検証（1）
概要：出来上がった番組を視聴しながら議論と検証を深める。
事前学習しておくべき用語やポイント：「批判的に見る力」について考える
詳細：番組の出来具合を確認するだけではなく、番組の試聴を通して、それぞれが番組に対して意見や評価を持ち、論理的に発言し議論を深めることができるように努力する。また、そこで出された意見や評価にどう学んだのかなどを整理して深めていく。制作力は番組を「見る力」（読み解く力）と密接不可分であることを体験しながら学ぶ。
＊「FM多摩」プロジェクトは一年間の活動の総括報告の概要を提示して全体で検討、共有。
<第14講>番組視聴と検証（2）
概要：引き続き番組を視聴して議論、検証を重ねる。
事前学習しておくべき用語やポイント：番組を見る力、読み解く力とはどのような力か
詳細：なぜ「事後」の検証が必要なのか、事後の検証作業が持つ意味について再確認して深める。「事後検証」が番組の質的向上、深化（進化）にとって不可欠であることを学ぶ。議論を通じて、番組制作と取り組んだ成果と課題について整理する。また、全国の大学生による映像番組制作の取り組みや市民メディアといわれる多様な情報発信について調べ、整理する。秋学期とこの一年の番組制作ワークについて総括のレポートをまとめる。
＊「FM多摩」プロジェクトは一年間の活動報告をまとめ上げるとともに、第二段階の取り組みを含め、今後のプロジェクト活動の方向性、計画の確認をおこなう。
<第15講>もうひとつのメデイア創出をめざして－終講にあたって
概要：一年間取り組んできた映像番組の制作を通して獲得した力は、現在の社会でどのような意味があるのかを考えながら、各自の総括レポートをもとに成果を発表、共有する。
事前学習しておくべき用語やポイント：市民メディア、コミュニティメディア、ビデオジャーナリスト
詳細：この一年、プロジェクトゼミで学んだことや成果と今後の課題について、認識と問題意識を共有することをめざす。さらに「もうひとつのメディア=オルタナティブ・メディア」の社会的意味とそこでの大学発、あるいは地域発の情報発信の意義を確認する。同時に、このプロジェクトをどう恒常化し発展させるのかについて明示、共有する。
＊「FM多摩」プロジェクトの総括、成果を確認し共有。来年度にむけての活動計画を明確化する。

■教科書

なし。

■指定図書

『メディアが震えた　テレビ・ラジオと東日本大震災』丹羽美之ほか編（東京大学出版会2013年）
『メディアをつくる～「小さな声」を伝えるために～』白石草（岩波書店2011年）
『映像制作入門　見せることへのファーストステップ』鈴木誠一郎ほか（ナカニシヤ出版2009年）
『市民メディアの挑戦』松本恭幸（リベルタ出版2009年）
『オルタナティブ・メディア』ミッチ・ウォルツ（大月書店　2008年）
『メディア・ルネサンス～市民社会とメディア再生～』津田正夫他（風媒社2008年）
『コミュニティ・メディア　コミュニティFMが地域をつなぐ』金山智子編著（慶應義塾大学出版会2007年）

■参考文献

『ドキュメンタリーの語り方　ボトムアップの映像論』遠藤大輔（勁草書房2013年）
『311を撮る』森達也ほか（岩波書店2012年）
『社会の今を見つめて　TVドキュメンタリーをつくる』大脇三千代（岩波書店2012年）
『シリーズ　日本のドキュメンタリー1　ドキュメンタリーの魅力』佐藤忠男編著（岩波書店2009年）
『送り手のメディアリテラシー　地域から見た放送の現在』黒田勇編（世界思想社2005年）
『現場主義の知的生産法』関　満博（筑摩書房2002年）
『メディアリテラシー～世界の現場から～』菅谷明子（岩波書店2000年）

■参考URL

■評価方法

普段のゼミへの参加の姿勢をはじめ番組制作プロセス、プロジェクト活動での努力に主眼をおいて評価する。　そのうえで、作り上げた作品のレベルとともに発想の豊かさ、企画力、実行力などを総合的に判断して評価する。結果としての番組の出来具合、プロジェクトの目標実現力も大事だが、なによりも真摯に努力する姿勢や積極性を重視する。
数値上の評価配分の基本は、日常のゼミ活動への出席40%　自主的な取材・制作活動30%、制作成果の評価30%とする。

■評価基準

絶対評価　ゼミの評価基準、P、Fの二分法にもとづいて評価。　ゼミのテーマ設定の性格から、不合格とせざるを得ない場合は事前に本人と話し合い、納得性の上に判定する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

なし。

■留意点

春学期同様だが、念のため繰り返すと、
自ら調べ、考え、企画を立てて議論し、取材に歩き、編集に取り組むなど、相当ハードなワークになる。それぞれの自発性にもとづく創造的な「学びの場」をめざすので、チャレンジ精神に富む学生諸君の参加を呼びかけたい。同時に、将来、進路としてメデイアでの仕事を志す学生はもちろん、それ以外の学生にとっても重要な、ものの見方や考え方、社会性などを実戦的に鍛え、総合的なコミュニケーション能力の鍛錬をめざしているので、メデイア志望者に限らず、多様な問題意識をもった学生の参画を期待する。
　また「コミュニティFM放送局」の創設－再興プロジェクトでは目標の実現に向けて地域社会に訴え、共感を広げて目標の実現をめざすという、具体的な成果が求められることを十分覚悟して参加してほしい。
以下の諸点について、あらかじめ理解、覚悟したうえで参加すること。
＊15回という限られた講義設定の中で目標を達成する必要があるので、病気、就活など

やむを得ない場合を除いて、全授業に出席することが前提となる。
＊また、ゼミ時間外に自主的に取材、編集などの作業に取り組むことが不可欠となる。
＊さらに、秋学期までの３０回を前提に作品の制作計画を立てるので、通年での履修が望ましい。
＊「コミュニティFM放送局」創設－再興プロジェクトは通年での取り組みが必須となる。
＊重ねて、かなりハードなワークとなるが、かならず努力が実を結び大きな達成感、充実感を手にすることができると確信する。
＊番組の企画、制作に取り組む面白さ、楽しさと「苦労」を体験しながら、社会に出て通用する実戦的な力を身につけたいという、意欲に燃えた諸君の参加を待つ。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ(Project Seminars Ⅰ～XⅡ)

サブタイトル　地域活性化のための位置情報コンテンツの開発

担当教員　田中　雄

■講義目的

(1)身近な地理情報システム(GIS)を学ぶ。
(2)散歩リンク、まちクエスト、Geocachingなどの使い方を学ぶ。
(3)チームでアイディアを出して、地域活性化コンテンツの企画書を作成する。
(4)試作品を開発して、SRCで発表する。

■講義分類

・ビジネスICT
・地域ビジネス

■到達目標

地域活性化のための位置情報コンテンツを企画・試作して、SRCなどで発表する。

■講義形態

講義+GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1,2講>
概要：ゼミ紹介とソフトウェアのセットアップ
事前学習しておくべき用語やポイント：カシミール3D、Google Earth、Dropbox、山旅ロガー、地図ロイド、GPXフォトサーチ、GPS Master
詳細：ゼミの活動内容の紹介と、受講者の自己紹介、開発環境のセットアップ、動作テストを行う。
到達目標：開発環境のインストールを完了させる。
<第3講>
概要：位置情報を取得してみよう
事前学習しておくべき用語やポイント：GPSログ、散歩リンク、カシミール3D、Google Earth
詳細：スマートホンでGPSロガーを動かしながら、校庭で様々なものを撮影する。教室に戻ったら、GPSログと写真を取り出して、散歩リンク、カシミール3D、Google Earthなどで表示して、位置情報の活用を体験する。
到達目標：GPSログを理解する。GPSログと写真を組み合わせる体験をする。
<第4講>
概要：まちクエストとGeocaching
事前学習しておくべき用語やポイント：まちクエスト、Geocaching
詳細：街中で宝探しやランドマークを探すサービスである「まちクエスト」と「Geocaching」を紹介する。課題として、チームで「まちクエスト」か「Geocaching」でいくつかのクエストに挑戦して、その間のGPSログと写真を記録して、次回持ってくる。
到達目標：まちクエストとGeocachingを体験する。
<第5講>
概要：クエストの成果報告会
事前学習しておくべき用語やポイント：まちクエスト、GeoCaching、散歩リンク、GPSログ
詳細：第4構で課題とした「まちクエスト」か「GeoCaching」のクエストの様子を、散歩リンクを使って報告する。
到達目標：「まちクエスト」か「GeoCaching」を利用してフィールドワークの様子を記録して、散歩リンクを使ってプレゼンテーションする。
<第6~8講>
概要：散歩リンクで多摩大学ツアーを作成しよう。
事前学習しておくべき用語やポイント：GPSログ、カシミール3D、EXIF、散歩リンク
詳細：多摩大学の校門から、多摩大学の設備を紹介するツアーデータを作成する。カシミール3Dを使って、多摩大学のルートを設計する。解説場所の写真を撮影して、GPSログに時間か場所で紐付ける。最後にコメントを入れて、多摩大学を紹介するツアーを完成させる。作業はチーム分けをして、分担して行う。
到達目標：散歩リンクを使った多摩大学構内のツアーページを作成する。
<第9,10講>
概要：コンテンツの企画会議
事前学習しておくべき用語やポイント：多摩大学、多摩市、まち歩き
詳細：これまでに学んだ様々な手法を使って、多摩大学や多摩市を魅力的にするコンテンツを企画する。客層、規模、コース設定、ガイド内容などをチームで考え、企画書にまとめる。その際に利用するアプリケーションの設計も行う。
到達目標：ツアーの企画書を作成する。
<第11~15講>
概要：コンテンツの試作とプレゼンテーション
事前学習しておくべき用語やポイント：多摩大学、多摩市、まち歩き
詳細：作成した企画案に沿って、試作品の開発とSRCの発表準備を行う。
到達目標：SRCで、試作品と併せて、地域活性化のための位置情報コンテンツの企画を発表する。できれば、試作品を使ったモデルイベントを開催して、感想をアンケートで回収したい。

■教科書

なし。

■指定図書

茶谷幸治(2012).「まち歩き」をしかける　学芸出版社

■参考文献

なし。

■参考URL

http://edu.amdv.net/semi14/

■評価方法

原則として80%以上の出席を前提として、課題(50%)、SRC発表(50%)で採点する。

■評価基準

評価P:出席80%以上、かつ、課題とSRC発表を合わせて60点以上。
評価F:評価Pの条件を満たせなかった場合。

■事前履修科目等

なし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

・開発はチームで行うので、プログラミングが不得意であったり、未体験でも、フォローしてくれる仲間を募れば問題ない。
・欠席しないこと。合格基準を下回った時点で、原則としてそれ以降の受講は認めない。
・SRCなどの発表会で、成果を発表すること。
・PCを持参すること。

科目名 プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル ニュータウン再生プロジェクト

担当教員 多摩市役所

■講義目的

国の総人口の減少が見込まれる中、大都市郊外部では人口減少とともに急速な高齢化が予測されています。

多摩ニュータウンが所在する多摩市は、その代表的な例として、今後の「ニュータウン再生」の取り組みが注目を浴びています。

本プロジェクトゼミナールでは、持続可能なまちづくりのうえでの「ミクストコミュニティ」に着目し、地域の課題を調査したうえで、学生の視点から課題解決に向けた企画を立案することを目的とします。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、社会人力育成、地域ビジネス

■到達目標

1. 地域コミュニティ特有の環境を理解する
2. 生活者の視点から地域コミュニティの中にテーマを発見し、実行可能な企画提案ができる

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

当講義は、学外でのフィールドワークやヒアリングを予定している。このため実際の講義スケジュールは、下記と異なる場合がある。
詳細は講義内で知らせるので、第1講は必ず参加すること。

<第1講>
概要： オリエンテーションと導入
事前学習しておくべき用語やポイント[多摩ニュータウンに関する新聞記事等を調べておく]
詳細：日本の高度経済成長の象徴とも言うべき「多摩ニュータウン」も、初期入居から40年余りが経つ中で「成熟期」を迎え、昨今ではネガティブな側面が伝えられることも多くなっている。これには、大都市郊外部の課題が先行して顕在化するという背景はあるものの、高水準の都市基盤や緑豊かな自然環境などの一朝一夕では得られない住環境や、一説には「強固」といわれる地盤の良さ、都心からの交通アクセスなどの立地環境も含め、多摩ニュータウンは大きなポテンシャルを有していることも事実である。そこで、第1講では、多摩市における多摩ニュータウン再生検討会議での検討状況や現時点での到達点について知るとともに、このプロジェクトゼミが目指すものについて認識の共有を図る。
<第2講> <第3講>
概要： ニュータウン再生とはなにか
事前学習しておくべき用語やポイント[日本の将来人口推計について調べておく。多摩ニュータウンが再生した姿（概ね50年後のまちのイメージ）について考えてみる。]
詳細：日本の総人口は、今後、長期の人口減少過程に入り、平成60年には1億人を割りこむとの推計がされている。そのような将来人口推計を踏まえつつ、多摩ニュータウンが再生した姿（概ね50年後のまちのイメージ=理想像）について討議を行い、問題発見を行う。また、多世代が交流・共生する地域社会を形成することを念頭に、50年後のまちイメージを実現するために「今から」取り組むべき優先事項（課題）についてグループ毎に討議し、発表する。
<第4講><第5講><第6講>
概要： ミクストコミュニティの視点からの現状把握（地域訪問）
事前学習しておくべき用語やポイント[自分たちの質問をまとめておく]
詳細： 「ミクストコミュニティの形成」に向けては、住民の年齢構成のバランス化と実質的な多世代交流の場や機会の設定の両面からのアプローチが必要となるが、昭和40年代初頭から新住宅市街地開発事業、土地区画整理事業により整備されてきた多摩ニュータウンでは、地域によりその現状は大きく異なっている。そこで、<第4講>から<第6講>では、実際に地域を訪問し、多世代が交流・共生する上での地域毎の工夫（取り組み）や課題、更には市内に在学する学生への期待等について、自治会やNPO等などに質問の機会をもらう（住民構成等が異なる2地区程度を予定）。
<第7講><第8講>
概要： サービスラーニングの可能性
事前学習しておくべき用語やポイント[地域訪問で得た情報をもとに、・学生としての自分たちにできる「サービスラーニング」を考えておく]
詳細：多摩市が定める最高規範である「多摩市自治基本条例」では、『市民』を「市内に居住する者、働く者及び学ぶ者並びに市内で事業を営むもの又は活動する団体等」と定義し、まちづくりの主体者としての「市民」を広く捉えている。<第7講>及び<第8講>では、地域訪問で得た情報や地域のニーズを踏まえ、まちづくりの主体者でもある学生にできる活動についてグループ毎に討議し、発表する。
<第9講><第10講>
概要： シティセールスの意義
事前学習しておくべき用語やポイント[住民参加型の「シティセールス」について考えておく]
詳細：地域の活性化を目指しシティセールスに取り組む自治体は多数あり、また、訴求する魅力や訴求方法も地域資源の状況により様々である。<第9講>及び<第10講>では、多摩ニュータウンの魅力の発掘及びその効果的な発信方法等について、グループで討議し、発表する。
<第11講><第12講><第13講>
概要：民間事業者への期待（ヒアリング）
事前学習しておくべき用語やポイント[自分たちの質問をまとめておく]
詳細：住宅都市として成長してきた多摩ニュータウンの今後を考える上では、「地域生活インフラ」とも言われる生活をおくる上で欠かせない基礎となるサービスを地域で享受できる環境づくりが重要となってくる。また、これらのサービス分野については、高齢者人口の絶対数の増加といった市場環境の変化から、今後は民間事業者の参入も期待される分野でもある。そこで、<第11講>から<第13講>では、多摩ニュータウンにおいて地域生活インフラを支える取り組みを行っている民間事業者などに対するヒアリングを行う。
<第14講>
概要： 事業提案書の作成・発表
事前学習しておくべき用語やポイント[グループ毎にプレゼンテーションを用意しておく]
詳細：<第2項>及び<第3講>で討議・発表を行った「ニュータウン再生に向けて「今から」取り組むべき優先事項」を立脚点として、「学生によるニュータウン再生プロジェクト」の事業提案の作成及び発表を行う。なお、具体的な事業提案内容は、「ミクストコミュニティの形成に寄与するサービスラーニング（<第7講>及び<第8講>）」、「住民参加型のシティセールス（<第9講>及び<第10項>）」の2項目とし、発表に対する他の学生からの質疑応答を行う。
<第15講>
概要： 事業提案書の最終発表
事前学習しておくべき用語やポイント[グループ毎に最終プレゼンテーションを用意しておく]
詳細：<第14講>での議論をもとに、「ミクストコミュニティの形成に寄与するサービスラーニング」、「住民参加型のシティセールス」のいずれかを選択し、最終発表を行う。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

必要に応じてゼミ中に指示

■参考URL

■評価方法

出席40%　演習30%　発表30%

■評価基準

相対評価
プロジェクトゼミの評価基準に則る

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義時間外（放課後、土日祝日等）にフィールドワークや市内のイベントに参加する場合があります。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル　創造的人間力と表現力のエンパワメントによる自己スタンダードの確立　YES! Attitude & Getting Your Way

担当教員　富田　直美

■講義目的

大学の学びで最も大切な事は、その後社会人としての人生に於ける幸福度をMaximize（最大化）する事ができる確固たる自己Standardを見いだす事である。一見複雑さを極めている現代の日本及び世界に於いて、ブレない自己基準を育む事は至難の業であると言う者が数多であるが、私はその点に関し異議を唱える者である。 グローバルICT企業9社のトップマネージメントの経験を通じ、普遍的なStandardを愉しく、確実に身につける道を示す。 結果、自己の幸せをもって、社会に貢献すると言う志を自己の使命と確信できる事を目指す。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、グローバルビジネス、ビジネスICT

■到達目標

（1）“自己スタンダード”の大切さを知り、構築をスタートする。
（2）“自己の幸せの構成要素”を把握し、実現のゲームプランをドラフトする。
（3）“説得力の構成要素”を把握し、各自の実現のゲームプランをドラフトする。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要： 自己スタンダードのチェック
事前学習しておくべき用語やポイント[StandardとStandardizationの意味]
詳細：辞書、WW Web等にてStandard（標準）と Standardization（標準化）の意味、相関関係、
MP（Master of Project）である富田について事前に調べておく。 特にWikipedia。
ダイヤモンドオンラインの富田による“真説IT考”も一読の事。
{http://diamond.jp/category/s-tomita_itkou}
<第2講>
概要： “知”について
事前学習しておくべき用語やポイント[データ、情報、知識、知恵の本人的価値とBig Data]
詳細：情報社会の中に於いて、データ、情報、知識、等を処理する技術がICTの世界で重要な役割を担っている。 特にBig Data等、e-Analytic, Digital Marketingが注目を集めているが。 その本質的な価値はあるのだろうか？
<第3講>
概要： 人生での成功とビジネス（プロジェクト）での成功
事前学習しておくべき用語やポイント[人生とビジネスでの成功の相関性、有無も含めて]
詳細：“成功”と言う言葉の定義、分類、をGDで行う。 その上で、グローバルレベルでの成功哲学者（ナポレオン・ヒル、ジム・ローン、ジェフリー・ギトマー,etc.,）、ビジネス成功者からの学びを行う。
<第4講>
概要： 成功の為の自分力（人間力）と創造性の関係を知る
事前学習しておくべき用語やポイント[人間力について事前にレポートを提出]
詳細：人生、プロジェクトでの成功の鍵を握る、人間力（自分力）の位置づけと、創造力との相関関係を理解する。
<第5講>
概要： 人間力（自分力）と創造力のエンパワメント実践編
事前学習しておくべき用語やポイント[全米トップ営業マンに学ぶ ”ポジティブ思考ージェフリー・ギトマー” 日経BPを読んでおく]
詳細：ポジティブ思考と成功の相関関係を理解し、ポジティブ思考を得るメカニズムを解明、身につける為のGame Planを示す。
<第6講>
概要： 説得力の構成要素の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[各自に1講～5講までのレポートをPPTにて発表していただく]
詳細：プロジェクト・プレゼンテーションは主にPPTを使って行われ事が多い、そこで、各自の学習成果をPPTにて発表、同時に発表する時の説得力を参加者が評価する。
<第7講>
概要： 説得力エンパワメントの指導
事前学習しておくべき用語やポイント[Mind Map等、PPT以外のプロジェクト見える化ツールをチェック]
詳細：PPTがデファクトとなっているが、Mind Map等で、プロジェクトを可視化するツールが注目を集めている。 特にMind Jetにてはガントチャートを始め、プロジェクトの可視化にガントチャート等も含まれ、数字的な達成目標と達成率まで一元管理され一見して把握できる。 このような道具を駆使する ⇒ Digital的アプローチ と、PresentationをPerformanceにする効果的な ⇒ Analog的アプローチの極意を研究。
<第8講>
概要： 総括
事前学習しておくべき用語やポイント[全体を通じて学んだ事を各自発表]
詳細：発表の形態は問わない。

■教科書

全米トップ営業マンに学ぶ ポジティブ思考ージェフリー・ギトマー 日経BP
{http://www.amazon.co.jp/%E5%85%A8%E7%B1%B3%E3%83%88%E3%83%83%E3%83%97%E5%96%B6%E6%A5%AD%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%81%AB%E5%AD%A6%E3%81%B6-%E3%83%9D%E3%82%B8%E3%83%86%E3-%82%A3%E3%83%96%E6%80%9D%E8%80%83-%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%95%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%82%AE%E3%83%88%E3%83%9E%E3%83%BC/dp/4822248100}

■指定図書

グローバルな一流ビジネスマン、プロジェクトマネジャーを目指すなら以下のVirtual Training（VT ＝ 仮想トレーニング ＝ eLearning）を強く薦める。
{http://www.gitomervt.com/}

■参考文献

なし

■参考URL

http://www.gitomer.com/

■評価方法

評価は、講義中の対応姿勢（40%）レポート（20%）、出席（40%）により行う。

■評価基準

絶対評価
A+ ：91%以上
A ：75～90%
B ：50～74%
C ：40～49%
F ：40%未満

■事前履修科目等

なし　但し、英語に対するアレルギーのある方は、対策を考えて下さい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業は、教わる場との考えでなく、自ら参加し、Involve（巻き込まれ）し、Engage（携わる）する場である事を認識していただきたい。 参加者が積極的に授業の瞬間瞬間に真剣に携わる事により、大きな成果の渦が誕生する。 勿論、引っ込み思案な人でも、自らを変えたいと考えているのであれば大歓迎。
“自らが望み、考えたように、人生はなって行く”ー ジム・ローン

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル　知的プロフェッショナルゼミナール

担当教員　中野　未知子

■講義目的

実習を通じて、問題解決のための実践的知識を獲得すること

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、社会人力育成

■到達目標

チームで協働し、顧客のニーズに応える情報収集・分析を行い、顧客視点に立った論理的構成をもった成果報告書の作成を完了すること

■講義形態

GD・GW・PR：学外学習有（履修人数によっては変更の場合あり）

■講義の概要

本ゼミは学習効果を高める観点から、1講義（90分）単位でなく連続講義を行う。詳細は初回講義で説明するので、講師の指示をよく確認して受講すること
<第1～2講>
①概要：イントロダクション
②事前学習しておくべき用語：特にないが、募集要項やシラバスを参照し、質問事項などあれば準備してくること
③詳細：ゼミの目的・目標確認とチーム分け、課題図書や課題の提示を行う
<第2～5講>
①概要：課題に対する成果物の発表
②事前学習しておくべき用語：サービス・イノベーション、サービス・マネジメント、サービス・デザイン
③詳細：プロジェクトワークに際し、事前に必要な情報（企業・業界や調査・分析方法に関すること）の収集・調査、課題図書の精読を課題とするので、その成果の発表を実施する
<第6～13講>
①概要：プロジェクトワーク
②事前学習しておくべき用語：第2～5同様
③詳細：企業の問題解決に関する課題を提示する。チームごとに課題への取り組み方を協議し、計画を立案し、教員への進捗報告や相談を行いながら、フィールドワークを行い結果を分析・統合、成果報告書へまとめていく。プロジェクトワークと並行して、教員から報告書の論理的構成の仕方に関するレクチャーを行う
<第14～15講>
①概要：成果報告
②事前学習しておくべき用語：特になし
③詳細：成果報告書を用いたプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後に教員からフィードバックを行う。最後にプロジェクトワークの進め方に関してチームごとに振り返り、発表を行う

■教科書

なし

■指定図書

『ライブ講義　質的研究とは何か』　新曜社　西條剛央 著
指定図書の入手方法については、初回ゼミにて指示するので、事前購入の必要はなし

■参考文献

ゼミ中に適宜配布もしくは指示する

■参考URL

■評価方法

ゼミへの出欠状況30%、ゼミ参加への積極性30%、課題提出の納期遵守状況20%、成果物（報告書、発表）の品質20%の4点で評価する

■評価基準

評価はP/F
評価F：一定数の欠席・遅刻を越えた場合と、成果報告書及びプレゼンテーションの品質が到達目標に対して著しく乖離している場合

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

出席率を重視する

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ(Project Seminars Ⅰ～XⅡ)

サブタイトル　Webプログラミング実践

担当教員　中村　紳吾

■講義目的

インターネットで広く利用されているシステムの多くはプログラムとデータベースの連携を基本構成としている。このプロジェクトゼミでは、Webデータベースシステムを構成する技術を学習し、実践としてPCおよびスマートフォンから利用できるWebデータベースシステムを構築することにより、Webやインターネットへの理解を深め、より活用できるスキルを修得することを目標とする。基盤システムは、Webで広く利用されているLAMP(Linux,Apache,MySQL,PHP)を使用する。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

(1)Webデータベースシステムの技術的仕組みを理解する。
(2)HTMLのフォームを学習し、利用する。
(3)JavaScript（jQuery含む）を学習し、利用する。
(4)データベースの基礎を学習し、利用する。
(5)PHPプログラム（データベースとの連携方法など）を学習し、利用する。
(6)Webデータベースシステムを設計し、開発する。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR
その他(PCを使用した実習)：学外学習無

■講義の概要

<第1講>
概要：オリエンテーション
事前学習しておくべき用語：Webプログラミング
詳細：オリエンテーションとして、講義の進め方および講義で使用するシステムの使用方法について説明し、システムを使用しながら簡単なHTMLやPHPプログラムを作成する。
<第2～3講>
概要：HTML、CSS概要
事前学習しておくべき用語：HTML、CSS
詳細：Webページの表示を制御するHTMLおよびCSSについて学習し、作成する。
<第4～5講>
概要：JavaScript概要
事前学習しておくべき用語：JavaScript、jQuery
詳細：JavaScriptおよびjQuery（jQuery Mobile含む）の基礎について学習し、作成する。
<第6～7講>
概要：データベース概要
事前学習しておくべき用語：データベース、SQL
詳細：データベースおよびSQLの基礎について学習し、作成する。
<第8～9講>
概要：データベースプログラミング
事前学習しておくべき用語：PHP
詳細：PHPによるデータベース処理方法を学習し、作成する。
<第10～14講>
概要：Webデータベースシステム開発
事前学習しておくべき用語：Webで利用されているさまざまなシステム
詳細：これまでに学習した内容を踏まえ、Webデータベースシステムを設計し、構築する。ゼミの進捗状況により、グループ開発にする場合もある。
<第15講>
概要：最終発表
事前学習しておくべき用語：なし
詳細：開発したシステムについて最終発表を行う。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

適宜紹介

■参考URL

■評価方法

課題提出(50%)、システム開発(30%)、平常点(20%)

■評価基準

相対評価
　課題については、課題内容を満たしているかどうかで判断する。
　システム開発は、設計内容にしたがって構築できたかどうかで判断する。
　受講態度は、出席回数および講義への学習意欲で判断する。

■事前履修科目等

Webプログラミングを履修あるいは同程度の知識を学習していることを前提とする。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

ＰＣ持参必須。
実際に動作するシステムを題材にするため、システムを把握してカスタマイズするために必要な知識は非常に多いいっぽうで、講義ではそれらについて十分に解説する時間を設けることはできないので、講義時間外に自ら理解を深める努力が求められる。
受講者数や受講者の技術レベルにより、Webプログラミングシステムの学習という範囲内で内容の難易度および題材が変わる可能性がある。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル　多摩市のシティセールス「地域共存型コミュニティの形成」

担当教員　浜田　健史

■講義目的

本ゼミでは、「高齢化の最先端地域」「オールドタウン」等と形容される事の多い、多摩市内において新しい世代を中心としたコミュニティ形成を目指す拠点をモデルケースとして研究し、多摩市のシティセールス（多摩市の魅力を内外にアピールして、活性化を促す）に繋げていく事までを一つの目的として、プロジェクトマネジメントの手法ならびに新たなビジネスモデル創造までのプロセス等を学びます。

今年度は、2014年春に多摩市内の諏訪団地名店街にオープンするコミュニティカフェを題材として地域との共栄、各種イベント企画、創業支援施設の運営形態に触れながら多摩市のシティセールスに繋がるような企画を立案・運営していきます。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、ビジネスICT、地域ビジネス

■到達目標

1）自分たちでプロジェクトを企画、実践し、設定した目標を達成する。
2）地域コミュニティならではのマネジメントの考え方を理解する。
3）地域コミュニティそのものの考え方及びこれからのコミュニティビジネスを考える。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<春学期>
・キックオフミーティング
・プロジェクトマネジメント、ビジネス企画立案・活動の基礎を学ぶ。
・調査活動
・プロジェクトの立案、実践
<秋学期>
※春学期のみ開講
<第1講>自己紹介並びに地域活動におけるキャリアプロセス
概要：なぜシティセールスを担うようになったのか？
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし
<第2講>今後のキャリアパスにおけるコミュニティビジネスの重要性
概要：コミュニティビジネスとは何か？地域との関わりとは何か？
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし
<第3講>地域共存型コミュニティの実例（諏訪名店街内店舗での演習）
概要：地域における「つなぎ」役とは？
事前学習しておくべき用語やポイント：コミュニティビジネス、NPO等
<第4講>地域における魅力確認及び取り組み課題の設定①
概要：春学期における取り組みプロジェクトの設定と課題の仮説設定
事前学習しておくべき用語やポイント：コミュニティビジネス、NPO等
<第5講>地域における魅力確認及び取り組み課題の設定②
概要：春学期における取り組みプロジェクトの設定と課題の仮説設定
事前学習しておくべき用語やポイント：コミュニティビジネス、NPO等
<第6講>地域における魅力確認及び取り組み課題の設定③
概要：春学期における取り組みプロジェクトの設定とチームの編成
事前学習しておくべき用語やポイント：コミュニティビジネス、NPO等
<第7講>地域における魅力確認及び取り組み課題の設定④（諏訪名店街内）
概要：春学期における取り組みプロジェクトの設定とフィールドワーク
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし
<第8講>地域における魅力確認及び取り組み課題の設定⑤
概要：春学期における取り組みプロジェクトの設定とプロジェクトチーム編成
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし
<第9講>地域における魅力確認及び取り組み課題の進捗（諏訪名店街内）
概要：プロジェクト進捗確認
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし
<第10講>地域における魅力発信と共存企画
概要：プロジェクト進捗確認
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし
<第11講>フィールドワーク①（諏訪名店街内）
概要：プロジェクト進捗確認
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし
<第12講>フィールドワーク②（諏訪名店街内）
概要：プロジェクト進捗確認
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし
<第13講>フィールドワーク③（諏訪名店街内）
概要：プロジェクト進捗確認
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし
<第14講>まとめ①
概要：プロジェクト進捗確認
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし

<第15講>まとめ②
概要：今後に向けて
事前学習しておくべき用語やポイント：特になし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

ゼミ中に指示します。

■参考URL

■評価方法

ゼミ中に提出してもらうレポートなどとゼミ中の取り組む姿勢等で判断します。

■評価基準

相対評価
企画立案などを自分なりの視点で行えたか。
グループワーク、フィールドワークに自主的・積極的に貢献したか。
仲間と一緒に協力してプロジェクトを運営できたか。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

本ゼミは、春学期のみの開講となります。
講義時間外（放課後、土日祝日、夏休み等）にフィールドワークしたり、グループで作業したり、大学のイベント等に参加したりする場合があります。（希望者ではなく全員）
月に一度は諏訪名店街のコミュニティスペースにおいて実地調査、研修等も実施していく為、学外での開講も必ず発生します。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル

担当教員　原田　曜平

■講義目的

博報堂ブランドデザイン若者研究所（「若者研」と略す）では、若者たちの肌感覚やネットワークを活かし、若者たちと協働し、若者の「新しい消費行動」を研究している。同時に、様々な企業とコラボレーションし、若者向けの調査、商品開発、広告コミュニケーション制作を行っている。つまり、「消費者（若者）研究」と、その知見を活かした「マーケティングの実践」が若者研の武器であり（机上の空論では意味がない）、この科目の目的は、この両立を目的とする。
若者研には、一般の高校生・大学生～若手社会人まで約100名が所属しており、「現場研究員」と呼ばれ、彼らと協働し、上記各種業務を行っている。多摩大のこの科目の受講者の学生にも「現場研究員」の一員になってもらい、様々な業務を協働する。
なお、第一回目の講義は多摩大で行うが、それ以外は全て赤坂の博報堂（〒107-6322　東京都港区赤坂5丁目3番1号　赤坂Bizタワー）で開催し、他の現場研究員と協働してもらう予定。開催日時は未定だが、毎月月末に1日程度、一回6時間程度の会議を行う。
また、行った若者の消費行動研究は、日経トレンディネットの原田の連載上で原稿化する予定である。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人力育成

■到達目標

1、マーケティングにおけるターゲッティング（今回の場合は「若者」）分析が理解できる。
2、前述したように、企業とコラボレーションし、研究知見を企業のマーケティングとしてアウトプットすることができる（可能性がある）。
3、前述したように、日経トレンディネット上に原稿執筆ができる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講>
概要：「博報堂ブランドデザイン若者研究所」の説明と、今後の授業の進め方の説明と、「さとり世代」についての講義。（@多摩大）
事前学習しておくべき用語やポイント[前述した「さとり世代」の本を読んでおくこと]
詳細：若者研という組織の説明と、そこに所属する現場研究員（多摩大のこの科目の生徒にもなってもらう）の今後の取り組みの説明と、これまで若者研で行ってきたさとり世代についての消費行動の講義を行う。また、2講以下の授業の開催日をここで決定する（基本的には月末）。
<第2講> ～<第15講>
概要：若者の「消費行動」の研究（@赤坂・博報堂）
事前学習しておくべき用語やポイント[若者の新しい消費行動の事例を考えておく]
詳細：博報堂に来社し、既存の現場研究員たちとグループを結成し、各グループごとに若者の新しい消費行動を研究し、レポーティング作業に取り掛かる。レポートが素晴らしい形で完成した場合、前述したように、日経トレンディネット上の私の連載上で掲載する。
※第2講以下、全て第2講と同じ方式で授業を進行する。但し、状況によっては、いろいろな企業と組み、共同でワークショップ等々を開催し、企業のマーケティング施策を考える。

■教科書

原田 曜平（著）『さとり世代 盗んだバイクで走り出さない若者たち』角川書店

■指定図書

な し

■参考文献

講義の中で適宜、指示する。

■参考URL

http://consulaction.hakuhodo.co.jp/wakamonoken/

■評価方法

評価は、出席（80%）、作業中のアウトプット（20%）により行う。

■評価基準

絶対評価
出席を最重視するとともに、以下の点を中心に評価する。
1、自分の意見をきちんと出し、自分でしっかり調べ、他の現場研究員たちとグループワークをきちんと行えたか。
2、日経トレンディネット上に、研究内容が、実際の原稿化されたか。
　P：上記の評価項目を満たし、到達目標に達した。
　F：出席不足ないし上記の評価項目を満たすことができなかった。

■事前履修科目等

な し

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本ゼミナールでは、学外の人たちとの共同作業を通じて学びを深めていくため、基本として学外（赤坂の博報堂）でのゼミ実施となります。ゼミの実施日等の詳細は、第1回目の講義の際に説明しますので、受講希望者は必ず第1回目の講義に出席してください。第1回目の講義に出席しない者の履修は許可しません。
また、ゼミは多摩大学生以外の者との協働作業が中心となるため、他の参加者に迷惑をかけないように心がけることと、欠席せず全回出席して下さい。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル　集客施設のマーケティング

担当教員　松本　祐一

■講義目的

サンリオピューロランドは、日本で初めての全天候型のテーマパークとして、ブランド力のあるキャラクターや質の高いパフォーマンスを武器に世界中から愛されている集客施設ですが、様々な経営上の課題を抱えています。本ゼミでは、サンリオの企業理念や歴史を学びながら、施設の課題を調査し、学生の視点から、その課題を解決するためのプロジェクトを運営していきます。過去5年間は年末のイベントを企画・運営してきましたが、今年度からはイベントにとらわれない長期的な視野からのプロジェクトを実施する予定です。ゼミにはサンリオピューロランドの社員も参加し、共同で施設の魅力を高めていくことを目指します。

社会人と一緒に学ぶプロセスの中で、履修者は集客施設のマーケティングの考え方、手法を学びます。

■講義分類

顧客理解　ビジネス環境理解　ビジネス創造　ビジネスマネジメント　社会人力育成　ビジネスＩＣＴ　地域ビジネス

■到達目標

1）自分たちでプロジェクトを企画、実践し、設定した目標を達成する。
2）集客施設のマーケティングの考え方を理解する。
3）調査手法やイベントマネジメントの手法を理解する。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR：学外学習あり

■講義の概要

〈第1講〉キックオフ
概要：プロジェクトの主旨を理解する。事前学習しておくべき用語やポイント［プロジェクト］
詳細：ゼミの内容とプロジェクトの主旨を理解する。
〈第2講、第3講、第4講〉チームビルディング
概要：プロジェクト実施のためのチームをつくる。事前学習しておくべき用語やポイント［チームビルディング］
詳細：プロジェクト実施のためのチームをつくる。
〈第5講、第6講、第7講、第8講〉サンリオ研究
概要：サンリオの歴史やビジネスモデルを理解する。事前学習しておくべき用語やポイント［サンリオ、フィールドワーク］
詳細：サンリオ、サンリオピューロランドの歴史やビジネスモデルを研究する。また、サンリオピューロランドのフィールドワークを行う。
〈第9講、第10講、第11講、第12講、第13講、第14講、第15講〉プロジェクト企画の立案
概要：今年度のプロジェクトの企画を行う。事前学習しておくべき用語やポイント［イベント企画、調査］
詳細：今年度の中心となるプロジェクトの企画を立案し、実施のための体制をつくる。そのための調査等も行う。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

ゼミ中に指示します。

■参考URL

http://www.puroland.jp/

■評価方法

ゼミ中に提出してもらうレポートなどとゼミ中の取り組む姿勢等で判断します。

■評価基準

相対評価
企画立案などを自分なりの視点で行えたか。
グループワーク、フィールドワークに自主的・積極的に貢献したか。
仲間と一緒に協力してプロジェクトを運営できたか。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本ゼミは、1年間（春学期・秋学期両方）の履修が前提です。
講義時間外（放課後、土日祝日、夏休み等）にフィールドワークしたり、グループで作業したり、大学のイベント等に参加したりする場合があります。（希望者ではなく全員）

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル　集客施設のマーケティング

担当教員　松本　祐一

■講義目的

サンリオピューロランドは、日本で初めての全天候型のテーマパークとして、ブランド力のあるキャラクターや質の高いパフォーマンスを武器に世界中から愛されている集客施設ですが、様々な経営上の課題を抱えています。本ゼミでは、サンリオの企業理念や歴史を学びながら、施設の課題を調査し、学生の視点から、その課題を解決するためのプロジェクトを運営していきます。過去5年間は年末のイベントを企画・運営してきましたが、今年度からはイベントにとらわれない長期的な視野からのプロジェクトを実施する予定です。ゼミにはサンリオピューロランドの社員も参加し、共同で施設の魅力を高めていくことを目指します。

社会人と一緒に学ぶプロセスの中で、履修者は集客施設のマーケティングの考え方、手法を学びます。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、ビジネスＩＣＴ、地域ビジネス

■到達目標

1）自分たちでプロジェクトを企画、実践し、設定した目標を達成する。
2）集客施設のマーケティングの考え方を理解する。
3）調査手法やイベントマネジメントの手法を理解する。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR：学外学習あり

■講義の概要

〈第1講、第2講、第3講、第4講、第5講、第6講、第7講、第8講、第9講、第10講、第11講、第12講〉プロジェクト企画の実施
概要：企画したプロジェクトを運営する。事前学習しておくべき用語やポイント［プロジェクトマネジメント］
詳細：春学期に企画したプロジェクトを立ち上げ、運営する。
〈第13講、第14講、第15講〉プロジェクトの効果測定とまとめ
概要：プロジェクトの成果を評価し、まとめる。事前学習しておくべき用語やポイント［効果測定］
詳細：今年度のプロジェクトの成果の効果測定を行い、成果報告書を作成しまとめる。さらに成果発表会を行い、結果を共有する。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

ゼミ中に指示します。

■参考URL

http://www.puroland.jp/

■評価方法

ゼミ中に提出してもらうレポートなどとゼミ中の取り組む姿勢等で判断します。

■評価基準

相対評価
企画立案などを自分なりの視点で行えたか。
グループワーク、フィールドワークに自主的・積極的に貢献したか。
仲間と一緒に協力してプロジェクトを運営できたか。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本ゼミは、1年間（春学期・秋学期両方）の履修が前提です。
講義時間外（放課後、土日祝日、夏休み等）にフィールドワークしたり、グループで作業したり、大学のイベント等に参加したりする場合があります。（希望者ではなく全員）

科目名 プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル BOPビジネス入門講座

担当教員 見山　謙一郎

■講義目的

現在進行形の“今”をテーマにした実践型のゼミナールで、開発途上国におけるビジネス（BOPビジネス）を理解することを通じて、新時代の企業戦略やマーケティングを学び、ビジネスプランを作成することを目的とする（ビジネスプランは、既存企業に対する提案でも、起業を前提としたものでもどちらでも可）。

エネルギーやインフラは不十分ながら今後の大きな飛躍が期待される開発途上国におけるビジネスを学ぶことは、過去の単純な延長線上で未来を捉えようとする日本企業にとっては、今後の成長シナリオを描く上で大きなヒントになる。また、学生諸君にとっては柔軟な発想を生かしたビジネスプランを描き、それを実現するチャンスでもある。こうしたことから、本ゼミナールは「企業戦略における意思決定プロセスを学ぶゼミ」とも言える。

尚、研究対象地域としては、南アジアの開発途上国バングラデシュを取り上げる。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、グローバルビジネス、地域ビジネス

■到達目標

（1）開発途上国（バングラデシュ）の現状と課題を理解すること。
（2）世界における日本の現状と課題を理解すること。
（3）グループワークを通じて、多面的且つ柔軟な思考を身につけ、ビジネスプランを作成すること。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講>
概要：オリエンテーション（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[開発途上国の問題]
詳細：本ゼミナールの目的を説明、解説する。開発途上国の問題について事前に調べた情報を共有しあい、グループに分かれてディスカッションを行う。尚、ディスカッションのテーマ、ポイントについては、当日、講義内で説明、解説を行う。
<第2講>
概要： オリエンテーション（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[BOPビジネス]
詳細：第1講に続き本ゼミナールの目的を説明、解説する。BOPビジネスについて事前に調べた情報を共有しあい、グループに分かれてディスカッションを行う。尚、ディスカッションのテーマ、ポイントについては、当日、講義内で説明、解説を行う。
<第3講>
概要： オリエンテーション（3）
事前学習しておくべき用語やポイント[BOPビジネスの事例]
詳細：自分が興味を持ったBOPビジネスの事例を1つ選び、その理由と、どんな社会的課題を解決しようとするビジネスなのかを説明してもらう。その後、グループに分かれて、ディスカッションを行う。尚、ディスカッションのテーマ、ポイントについては、当日、講義内で説明、解説を行う。
<第4講>
概要： バングラデシュの現状を知る（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[バングラデシュの現状と課題について]
詳細：バングラデシュについて事前に調べた情報を共有しあい、グループに分かれてディスカッションを行う。尚、ディスカッションのテーマ、ポイントについては、当日、講義内で説明、解説を行う。
<第5講>
概要： バングラデシュの現状を知る（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[ODA、NGO]
詳細：バングラデシュの現状と課題について、解説を行う。その後、グループに分かれて、ディスカッションを行う。尚、ディスカッションのテーマ、ポイントについては、当日、講義内で説明、解説を行う。
<第6講>
概要： バングラデシュの現状を知る（3）
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼン資料作成とプレゼンテーション]
詳細：バングラデシュに関するこれまでの講義やグループでのディスカッションを踏まえ、グループごとに、「バングラデシュの現状と課題、その解決策」について、プレゼンテーションを行ってもらう。
<第7講>
概要： バングラデシュへの企業の進出事例研究
事前学習しておくべき用語やポイント[労働集約型産業（繊維産業）]
詳細：労働集約型産業（特に繊維産業）の特徴を学び、その後、関連したテーマに関し、グループディスカッション及び、発表を行う。ディカッションのテーマは、当日講義内で発表する。
<第8講>
概要： 開発途上国でのビジネスアイデアを考える（ディスカッション編-1）
事前学習しておくべき用語やポイント[ブレーンストーミング]
詳細：既存企業に対する提案、もしくは起業を前提学生自らが行う開発途上国におけるビジネスのアイデアについてグループに分かれ、ブレーンストーミングにより発想を膨らませることに主眼を置きディスカッションをしてもらう。その後、全体でのディスカッションを通じて改善点や論理矛盾を起こしている点の確認、抽出を行う。
<第9講>
概要： 開発途上国でのビジネスアイデアを考える（ディスカッション編-2）
事前学習しておくべき用語やポイント[クリエイティブシンキング]
詳細：第8講に続き、開発途上国におけるビジネスアイデアについてグループに分かれディスカッションをしてもらう。その後、全体でのディスカッションを通じて改善点や論理矛盾を起こしている点の確認、抽出を行う。
<第10講>
概要： 開発途上国でのビジネスアイデアを考える（ディスカッション編-3）
事前学習しておくべき用語やポイント[クリティカルシンキング]
詳細：第8講、第9講で行ったビジネスアイデアに関するブレーンストーミング、クリエイティブシンキングを踏まえ、グループに分かれ改善点や論理矛盾を起こしている点についてディスカッションを行う。その後、再度全体でのディスカッションを行い、具体的なプランにつながるよう議論の精度を高めて行く。
<第11講>
概要：ビジネスプラン作成講義
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスプラン作成とプレゼンテーション]
詳細：ビジネスプラン作成とプレゼンテーションについて、ポイントの整理と解説を行う。
<第12講>
概要： 開発途上国でのビジネスプランを作成する（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスプラン作成とプレゼンテーション]
詳細：第8講～第10講のディスカッションを踏まえ、グループワークにより学生にビジネスプランを作成してもらう。その後、全体でのディスカッションを通じて改善点や論理矛盾を起こしている点の確認、抽出を行う。
<第13講>
概要：開発途上国でのビジネスプランを作成する（2）
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスプラン作成とプレゼンテーション]
詳細：第12講に続き、グループワークにより学生にビジネスプランを作成してもらう。その後、全体でのディスカッションを通じて改善点や論理矛盾を起こしている点の確認、抽出を行う。
<第14講>
概要： 開発途上国でのビジネスプランを発表する（1）
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスプラン作成とプレゼンテーション]
詳細：第12講、第13講において、グループワークにより作成したビジネスプランを発表してもらう。その後、全体でのディスカッションを通じて改善点や論理矛盾を起こしている点の確認、抽出を行い、最終発表に向けた改善点を確認する。
<第15講>
概要：開発途上国でのビジネスプランを発表する（最終発表）
事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスプラン作成とプレゼンテーション]
詳細：グループごとに、バングラデシュにおけるビジネスプランの最終発表を行ってもらう。

■教科書

特に設けない。

■指定図書

必要に応じて、都度講義内で指定する。

■参考文献

「ネクスト・マーケット【増補改訂版】」C.K.プラハラード(英治出版 2010年)、「コトラーのマーケティング3.0 ソーシャル・メディア時代の新法則」フィリップ・コトラ

ー他（朝日新聞出版 2010年）、「傲慢な援助」ウィリアム・イースタリー(東洋経済新報社 2009年)、「バングラデシュ国づくり奮闘記」池田洋一郎（英治出版 2013年）

■参考URL

http://diamond.jp/category/s-miyama_econews/

■評価方法

出席状況（単位取得には2/3以上の出席が必要となる）、講義内での発言や貢献度、最終プレゼンテーションにて評価を行う。

■評価基準

絶対評価
出席状況（50%）、講義内での発言や貢献度（30%）、最終プレゼンテーション(20%)にて評価を行う。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

実際の企業に対するプレゼンテーションも学生の希望によって検討する。
（過去の見山ゼミにおけるプレゼン実施企業社名：セブン&アイ・ホールディングス、オリエンタルランド等）

科目名 プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル 顧客の声活用実践講座（もしもしホットライン）

担当教員 もしもしホットライン

■講義目的

本ゼミでは、顧客の声（Voice Of Customer=VoC）を基点としたCRM（カスタマーリレーションシップマネジメント）事例を学び、実践的知識獲得を目的とします。皆さんが、製品やサービスに関して、企業のコンタクトセンターに問合せをする思いますが、現代のコンタクトセンターは、お客様から問合せに応えるだけではなく、マーケティング情報収集という重要な機能も担っています。企業のビジネスに 役立つ情報収集のあり方、ICTを活用した課題解決の方法、具体的なマネジメントプロセス等を講義します。この科目では学生にケース企業を想定したグループワークを実施します。このグループワークを通じて、自らが課題発見、問題解決の方法を経験することができ、実社会でも役立つ実践講座となります。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネスICT

■到達目標

顧客の声データの収集、分析、レポーティングといった一連のデータ活用プロセスの体験を通じて、ビジネスでのデータに基づいた事実の発見、共有するスキルを身に着ける。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：予定なし

■講義の概要

<第1~4講> イントロダクション（講義の目指すもの）①企業に蓄積される様々なデータの中で顧客の声（VOC）がある。その顧客の声から ビジネス課題の発見、分析、共有、施策展開（活用）を行う全体像を理解する。 ②CRMついての考え方、ビジネス課題の背景、課題解決に必要なデータの取得方法を学ぶ（例：VOCヒアリング技法、新しいマーケティングリサーチの活用など）。③テキストマイニングや データマイニングを使いこなす為に必要な分析視点を学ぶ。
<第5~8講>顧客の声収集実践 、①調査企画の設計②調査票の設計の技術と作成③実査（データ収集）
<第9~12講>顧客の声データ分析実践、①データ加工②集計③分析④レポーティング作成
<第13~15講>プレゼンテーション資料作成と発表の実践
<事前に学習しておくべき用語>
VoC（ボイス・オブ・カスタマー）、CRM（カスタマーリレーションシップマネジメント）、マーケティングリサーチ、テキストマイニング、データマイニング、コンタクトセンター、ビックデータ

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■参考URL

■評価方法

ゼミへの出欠状況（60%）、ゼミへの積極的発言（10%）、グループワークの成果物（30%）

■評価基準

絶対評価 P：顧客の声活用プロセス、各プロセスの要点が理解できていると講師が判断した場合 F：出欠状況および、ゼミ参加への積極性を著しく欠くと講師が判断した場合

■事前履修科目等

マーケティング入門、リサーチ入門を履修しておくことを推奨する

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

PCにて分析ツールを演習として使用予定。PC必須の授業です。PC持参でない場合は出席にならない場合があります。

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ(Project Seminars Ⅰ～XⅡ)

サブタイトル　データ分析の考え方

担当教員　森本　美行

■講義目的

近年の情報技術の発達、普及により莫大な量のデータいわゆるビッグデータの取得が可能になりました。またビッグデータを効率的に処理するためのテクノロジーも同様に発達しています。しかし重要な事はそれらのデータという情報から課題を発見し、問題を解決するという実践的知識を習得することです。　起きた現象の原因を探るために仮説を立て、データを収集し、分析を行い検証し問題解決に役立てるという一連のプロセスをスポーツという身近なコンテンツを利活用して学び、実践的知識を獲得することを本講義の目的としています。

■講義分類

ビジネスマネジメント/ビジネスICT/課題発見/ビジネス環境理解

■到達目標

（1）サッカー、フットサル、野球、バレーボール等の実際の試合から、勝ち負け、 得失点、ゲームの進め方（優勢、劣勢）を決める要因はどのようなことが考えられるか、データを活用して説得力のある分析を行う。　（2）スポーツの試合で起きている様々なアクション（非構造的なデータ）を映像から　取得し、それを元に仮説を立て、質の高い分析を元に検証を行い原因の探求及び問題解決のための考え方を習得する。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：校外学習あり。

■講義の概要

<第1講>自己紹介/この講義の狙い/スポーツの歴史
概要：データ分析の必要性を理解し、本講義の最終アウトプットのイメージを共有する。
事前学習しておくべき用語やポイント[改善/客観性]
詳細：「己を知る」＝自己評価/「相手を知る」＝環境の理解の重要性を学ぶ。
<第2講> 分析とは？
概要：スポーツを元に「分析」という作業を学び理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[PDCAサイクル]
詳細：情報の収集、蓄積、選別、加工、提供という分析に必要な一連のプロセスを学ぶ
<第3講>セイバーメトリクスの考え方
概要：データ分析の活用法を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[SABR　METRIX]
詳細：現場での活用＝強化/マネージメントサイドでの活用＝評価について学ぶ。
<第4講>スポーツにおけるビジネスマネジメントについて考える
概要： スポーツ選手の評価と報酬についてマネージメントサイドから考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[評価]
詳細：プロサッカークラブの評価についてケーススタディで議論を行う。
<第5講>スポーツにおけるデータ取得方法の事例紹介（バレーボール/ラグビー/野球等）
概要： スポーツデータを事業化している企業を紹介。
事前学習しておくべき用語やポイント[データベースマネジメント]
詳細：競技者のフィジカルデータ、メディカルデータ等の活用方法について学ぶ
<第6講>フィールドスタディ
概要： 実際の試合を視察する。
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：実際の現場に訪問し、分析の際映像には映らないが分析の際考慮すべき様々なデータについて考える。
<第7講>フィールドスタディフィードバック
概要：実際の試合を見て感じたことを元にディスカッション。
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：フィールドマネジメント、ビジネスマネジメント両面からディスカッションを行う。
<第8講>チーム分けと分析テーマの決定
概要：チーム分けを行い、誰がどの競技を対象に分析するかを明確にする。またどのような仮説を立て、何を分析するのか方向性を確定させる。
事前学習しておくべき用語やポイント[仮説/検証]
詳細：チームごとにそれぞれの仮説、何を分析するのかについて発表する。
<第9講>情報（データ）の収集と蓄積の方法
概要： どのような情報（データ）をどのように収集するのか。
事前学習しておくべき用語やポイント[データベース、検索]
詳細：どのような情報（データ）をどのように取得するかチームごとに考え発表する。
<第10講>収集した情報（データ）の選別、加工、提供方法
概要： 収集した情報（データ）をどのように加工していくのか確認する。
事前学習しておくべき用語やポイント[優先順位]
詳細：必要な人になるべく分かりやすく情報を届けるために重要なことを議論する。
<第11講>他のスポーツの分析事例紹介（バレーボール/ラグビー/野球等）
概要： 異なる競技における分析の視点を理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[多様性]
詳細：他のスポーツにおける取得データ、分析切り口等について学ぶ
<第12講> 最新のデータ分析テクノロジーの紹介
概要： 欧米の最先端技術に関する最前線事例の紹介。
事前学習しておくべき用語やポイント[トラッキングシステム]
詳細：現在のIT技術で可能なデータ取得方法の紹介と分析事例。
<第13講>実際の現場での分析の事例紹介
概要：トッププロで行われた分析の事例を紹介する。
事前学習しておくべき用語やポイント[トッププロ]
詳細：プロスポーツの現場においてどのように問題解決が行われたのか体験する。
<第14講>プレゼンテーション
概要： グループ毎の発表と質疑応答
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：テーマに沿ったチームごとのプレゼンテーションとそれに対するフィードバック。
<第15講>プレゼンテーション
概要： グループ毎の発表と質疑応答
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
詳細：テーマに沿ったチームごとのプレゼンテーションとそれに対するフィードバック。

■教科書

なし。

■指定図書

なし。

■参考文献

ビッグデータの正体 情報の産業革命が世界のすべてを変える
会社を変える分析の力
プロスポーツクラブのマネジメント
スポーツ・マネジメント理論と実務

■参考URL

http://www.football-lab.jp/

■評価方法

評価は、講義及びグループワークへの貢献(30%),プレゼンテーション(40%)、出席(30%)により行う。グループワークの重要性、共通理解を元にしたプレゼンのために出席することは非常に重要。

■評価基準

相対評価　講義及びグループワークへの貢献については次の2点を中心に評価する。
(1)講義に対して関心も持って参加し、積極的に疑問を解決するために意見を述べたか
(2)グループワーク時に積極的にディスカッションに参加したか、情報（データ）収集、加工等常に　チームのメンバーの一人として貢献できたかについて評価を行う。
プレゼンテーションは次の3点から評価する。
(1)説得力を持つように論理的に構成されていたか
(2)情報（データ）の量、質が適切で説得力のある分析ができたか
(3)聴く人の興味を引く魅力的な構成のプレゼンテーションだったか
これらを基準にプレゼン資料、情報（データ）の見せ方、発表の仕方から評価を行う。

■事前履修科目等

なし。

■卒業年次生対象再試験の実施

特に実施しない。

■留意点

起きている現象をより本質的に理解するために多種、大量のデータ（ビッグデータ）から分析を行い経営の意思決定に役立てる手法が重要視され始めている。しかし様々な環境において、必ずしも常にビッグデータが入手できるとは限らない。今回のゼミではスポーツというコンテンツにおいて各自が入手可能なデータを考えて取得する手法を学ぶ。それらのデータを利活用し、課題を発見し、解決するために、仮説、検証を行う一連のプロセスを学ぶ。その先にスポーツに限らず様々なビジネスシーンにおいても適用できるような実践的知識を身につけるように心がける。

科目名 プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル 女性学生限定講座

担当教員 八代　比呂美

■講義目的

男女雇用機会均等法ができて２８年目、先輩女性がビジネス界を開拓してきました。今こそ、女性のビジネスにおける活躍が必要とされています。女性力が日本を変えていくといっても過言ではありません。世界に羽ばたける女性になるために、各業界で活躍する先輩のお話を伺い、ビジネスの現状、女性がバランスよく働く秘訣を学びます。また社会人としての女性マナーも学び、就活にも役立てます。自己分析を行い自己PRができる力を補います。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人力育成、グローバルビジネス

■到達目標

諸先輩の話から自分を再度顧みて、自分分析をして自己PRをしていただきます。
聴く、考える、分析する、創造する、PRする　の5つをディスカッション、レポート（外部講師および企業訪問は全て毎回感想・意見をまとめて提出。文字数は問いませんが、A41枚以上が理想）、プレゼンを通して評価します。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講>
概要： 女性が働く意味
事前学習しておくべき用語やポイント[女性の労働の歴史]
詳細：データをもとに女性社会進出の実態探ります。また女性がなぜ働くのかディスカッションを通して考えます。
<第2講>
概要： ホテル業界の先輩のお話（外部講師予定）
詳細：第2～3講は順番未定。詳細は、講義開始後お知らせします。
<第3講>
概要： 多摩大学出身活躍する女性の先輩のお話（外部講師予定）
<第4講>
概要： ファッション業界のお話（外部講師予定）
<第5講>
概要： 女性の強みを生かす
詳細：女性の強みは感性力・共感力・決断力です。このあたりを事例を通して考えます。
<第6講>
概要： ワーク・ライフバランス
事前学習しておくべき用語やポイント[ワーク・ライフバランスとは？]
詳細：各自の周りの方のワーク・ライフバランスを考えながらより良いバランスを考えていきます。
<第7講>
概要：会社訪問①
詳細：クラスを2つに分けて①②とし企業訪問をして、働く女性の姿を拝見します。
<第8講>
概要： 会社訪問②
<第9講>
概要：ワーク・ライフバランス（外部講師予定）
詳細：出産・子育てをしながら一線で働く女性のお話しを伺います。
★第9～１２講の外部講師順番は未定。詳細は、講義開始後お知らせします。
<第10講>
概要： 社会人としての服装（外部講師予定）
事前学習しておくべき用語やポイント[就活時に着る予定の服装で出席してください]
詳細：就活で大切なのは第一印象です。服装やお化粧は大事なことです。
このあたりを個性を残しながらも、社会人としておかしくないものを学びます。
<第11講>
概要： 言葉はその人の品格を表す（外部講師予定）
詳細：どんなに美しくても、言葉が乱雑だと好印象は受けません。
女性としての言葉使いは大切です。そのあたりを外部講師から教えて頂きます。
<第12講>
概要： 美しく見える女性の立ち振る舞い（外部講師予定）
詳細：姿勢が悪いとせっかくの知性や美しさが引き立ちません。
女性としてどんな立ち振る舞いが凛とみえるかをお教えいただきます。
<第13講>
概要： 自己分析・自己PR
事前学習しておくべき用語やポイント[自己ＰＲ]
詳細：自分を客観視できる力をつけます。日本人は自己PRが苦手と言われています。しかし今まで生きてきた体験を通してその人個人の良さが見えてきます。そこを見つめて、自己をPRしていく方法を学びます。
<第14講>
概要： プレゼン試験『自己ＰＲ』前期
詳細：先輩の話や自分分析を通して、自己PRをして頂きます。
自分を見つめなおして、以下にPRできるかを問います。それがマニュアルにない就活ＰＲにつながります。
<第15講>
概要： プレゼン試験『自己ＰＲ』後期

■教科書

未定

■指定図書

未定

■参考文献

職場・仕事のヒント（企業と人材連載）

■参考URL

■評価方法

絶対評価

■評価基準

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　プロジェクトゼミナールⅠ～XⅡ（Project Seminars Ⅰ～XⅡ）

サブタイトル　グローバルビジネスマン養成講座～好奇心とフットワークで社会を知る～

担当教員　渡辺　幸裕

■講義目的

社会人としての基礎力をつけるため、国内外で活躍する各分野での最新事例を直接知ることは大変貴重である。この科目では企業や団体の現役ビジネスパーソンなどから直接"社会の現実"を聞き、日々の課題を解決している現場の雰囲気を自ら感じ取り、問題解決手法の学習を行う。それらを更に理解し実践すべく、対人コミュニケーション能力開発技術をも習得する。

■講義分類

ビジネス環境理解、社会人力育成、グローバルビジネス

■到達目標

社会環境を知り、時代感覚を養い、自分のビジネスライフをイメージしそれを強化支援する自分なりの入り口を見つける。

■講義形態

講義 ＋ GD：学外学習有

■講義の概要

<第1講>　オリエンテーション　今後の予定
・渡辺の自己紹介と昨年の講座内容説明
<第2講>　ゲストスピーカーの話　（1）
（内容は以下）
渡辺がインタビューしてお聞きする形式
当該企業・団体の事業分野、歴史、特色、市場での評価、将来展望
課題とその解決の為にしている事
若者、若手社員に臨む資質
学生時代に何を取得しておいたら良いか
質疑応答　などを想定している。
（候補ゲスト：民間企業、団体、外務省等の社員職員を想定、）
<第3講>　ゲストスピーカーの話　（2）
進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する
<第4講>　ゲストスピーカーの話　（3）
進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する
<第5講>　ゲストスピーカーの話　（4）
進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する
<第6講>　ゲストスピーカーの話　（5）
進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する
<第7講>　前半終了時の総括　及び、「自分の国を知る大切さ」の講義
<第8講>　ワークショップ　訪問　（1）
企業訪問　または渡辺主催のイベントに参加、聴講
訪問場所、ゲストの話題により当然内容は変化する
（訪問想定先：外務省などの役所を想定）
<第9講>　ワークショップ　訪問　（2）
・雑誌編集者、又はテレビ番組制作者のセミナー＆意見交換会　を想定
（訪問想定企業：出版社、テレビ局等、）
<第10講>　ワークショップ　訪問　（3）
企業訪問　または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講
進行は第8講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する
<第11講>　ワークショップ　訪問　（4）
企業訪問　または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講
進行は第8講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する
<第12講>　ワークショップ　総括
訪問、参加した企業や団体、イベント現場での現実を総括し、
特にコミュニケーション力アップの為のテクニックを学ぶ
情報取集術、企画立案術、イベント実施ノウハウ　等
<第13講>　真の国際化とは自分の国を知る事（1）
自分達の周囲の生活文化を学ぶ
<第14講>　真の国際化とは自分の国を知る事（2）
自分達の周囲の生活文化を学ぶ
<第15講>　グローバルビジネスマン養成講座　総括
グループでテーマを決め、自らの将来の為に何が役に立ったか、
今後も引き続き興味を持って注目したい分野、企業、活動などを発表し、
それを担当講師が総括し、アドバイスを行う。
納会実施予定
上記はあくまでも予定であり、ゲストとの調整が出来れば現場に出向き、直接交流した上で出張学習も実施する。
※事前に学習しておくべきポイント：ゲスト講師が決まり次第、早めにアナウンスしますので、授業の前にサイトや図書館などでその会社や周辺の基本的な情報を知ってから授業に臨んでください。何も知らないで話を聞くと「へぇ、そうか」で終わってしまいます。基本の情報は学べる時代です。時間を無駄にせず、より一層興味深く学ぶ為これを心がけてください。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

(http://www.gillie.co.jp/yamato.html)

■参考URL

http://www.gillie.co.jp/

■評価方法

出席50%，中間レポート　20%，期末レポート　30%

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特に無し

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

実際に多くの社会人の方に話を聞くのが学習の場です。若者の好奇心と軽快なフットワークで、自分の将来を考えて、ビジネスマインド、センスをつける為に貴重な時間になります。受講学生の将来の為、日本の未来の為へと協力依頼をし、多忙な時間を割いて頂く方ばかりですので、話を聞かせて貰う場に最低の礼儀をわきまえない非常識な態度はその時点で失格となります。"志を持った多摩大学学生"としての態度で臨まれる事を希望します。

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　大森　拓哉

■講義目的

心理学の入門、情報分析の仕方の基本および意思決定課題の解き方を学ぶ。与えられた課題に対して、グループワークによりに分析を行い、発表会を行う。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成、ビジネスICT

■到達目標

心理学の基礎的知識・トピックスについて理解ができているか、情報の適切な収集方法、処理方法、伝達方法が理解・習得できているか。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

合宿形式にてゼミを行う。
事前学習しておくべき用語やポイント[事前に指示された心理学トピックス]
詳細： このゼミでは、新2年生による心理学トピックスの授業、全学年合同によるグループワーク、グループ発表、レポート作成、SRCでの発表、を一連の課題とする。今回の全学年合同ゼミのテーマは「SPI試験の適切な識別力問題作成」と「ボードゲームにおける戦略研究と実践」である。

■教科書

■指定図書

認知心理学、箱田裕司他著、有斐閣

■参考文献

■参考URL

■評価方法

出席90%、課題10%

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は合宿形式で行う。参加したものにのみ単位が認定される。ノートパソコンを持参すること。事前の講義・事後レポート・SRCでの発表が単位認定の必須要件である。

科目名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル　現場を見て収益性の高いビジネスの秘訣を探る

担当教員　金子　邦博

■講義目的

本ゼミナールは、産業社会においてビジネスがどのように行われているのかを、文献などの情報による調査研究とビジネスの現場に出かけて調査することを通じて、さまざまな実例の中から「儲ける」というビジネスの基本が、実社会においてどのように実現されているのか、またそこで働く人々はどのような意欲と知識・経験を持って仕事を遂行しているのかを学んでいくことを目的にしている。

そのため、本ゼミナールでは、春学期は主に収益性の高い事業を展開できている企業について財務情報や経営戦略、商品展開などの分析・調査を中心に行うと共に、ビジネスが行われている現場（工場、商店街、会社など）へのフィールドワークを適宜組み合わせて演習を展開していく。フィールドワークは、「事前調査」→「実地調査」→「調査結果の報告（プレゼンテーション）」をワンセットに、春学期及び夏期合宿を通じて4箇所程度の調査を行うことを予定している。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

「儲ける」ために、経営者は何を考え、その実現に向けてどのような努力をし、結果を出したのかを見いだせる理解力や分析力を身につけることを目指していく。

■講義形態

GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

概要： ビジネスが行われている現場（工場、商店街、会社など）へのフィールドワークを行う。
事前学習しておくべき用語やポイント：[なし]
詳細：フィールドワークは、「事前調査」→「実地調査」→「調査結果の報告（プレゼンテーション）」をワンセットになる。調査先について、現地調査で確認すべきことをインターネットなどで事前に調べ、現場調査では事前の調査では分からなかった点を確認し、調査結果からビジネスを持続していける秘訣を考察して報告書（レポート）をまとめ、その内容を発表する。この作業を4回程度繰り返す。

フィールドワークにおいては、事前にどれだけ調査対象の内容を理解しているのかが最終的な成果の良し悪しの分かれ目になる。そのため、現場に行ってから何かを探し出すという取り組み姿勢ではなく、事前の調査において現場で深掘りすべき内容をピックアップできるよう、時間をかけて幅広く調べておくことが必要である。

■教科書

演習の各段階で指示する。

■指定図書

なし

■参考文献

演習の各段階で指示する。

■参考URL

■評価方法

出席と調査報告内容の発表と報告書により総合的に評価する。

■評価基準

出席については、ゼミに参加し積極的に発言しているか。発表や報告書については、報告をまとめる過程で報告内容について十分に検討を行ったかどうかという考察過程を中心に、「儲ける」ことを実践できるノウハウを理解したのかという点に着目して評価する。
絶対評価
　P　：ゼミ活動の到達目標に概ね達している。
　F　：ゼミ活動への参加が不十分でゼミ活動の到達目標に達していない。

■事前履修科目等

ゼミの参加に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(1) 合同ゼミであるので、履修は金子ホームゼミナールの参加者に限る。
(2) ゼミやフィールドワークは、参加者の予定を調整した上で、学期中に集中講義方式で適宜実施する。
(3) 正当な理由なしに欠席する者には単位を付与しない。

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　酒井　麻衣子

■講義目的

本演習では、アンケート調査の一連の流れを実践することを目的とする。
調査課題をどのように設定し、それを明らかにするためにはどのような調査票を作る必要があるのか。データを集めるには誰にどのように回答を依頼すればよいのか。得られたデータをどのように分析し、解釈すればよいのか。調査結果をどのようにまとめて報告すればよいのか。これらを実践し、アンケート調査実施の基礎を身に付けることを目指す。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

アンケート調査の一連の流れを理解し、調査実施の基礎を身につける。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

詳細：アンケート調査の企画・設計から、実調査、データ分析、プレゼンテーションまでを総合的に実践する。
可能な限り、企業との共同研究形式をとり、産業社会での実際の課題に対する問題解決に取り組む。
以下を予定している。
・3学年混合のグループワーク
・学内外の関係者を招いた成果発表会でのプレゼンテーション
<事前に学習しておくべき用語>プロジェクトで扱う業界、テーマに関する基礎的な用語全般

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

■評価方法

グループワーク参加状況、プレゼンテーション等で総合的に評価する。

■評価基準

相対評価
<学年共通>
・グループワークへの積極的な参加と貢献。
<2年生>
・アンケート調査の一連の流れを理解し、留意点を把握できたか。
<3年生・4年生>
・昨年度の合同ゼミ「アンケート調査実践」における反省点を克服できたか。

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

酒井ゼミ2年生・3年生・4年生を対象とする。2・3年生は履修必須、4年生は任意で履修可能とする。

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　豊田　裕貴

■講義目的

豊田ゼミでは、通常の学年ごとの演習に加え、全学年を通じたゼミを開講し、より積極的な演習への取り組みを行う。具体的には、春学期・秋学期ともに合宿ならびに合宿前後の準備ゼミにより、学年を横断するチームを編成し、各種ケーススタディやプランニング演習を行う。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

学年横断で組まれるグループにて、限られた時間内に、設定された課題に取り組み、発表する。その際、発表前のグループワークの段階で、どのような質問や意見がなされるかを考え、それを織り込んだストーリー展開を考えることが、望まれるレベルである。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習有

■講義の概要

演習科目のため、毎回の課題を事前に学習し、準備の上、ゼミに臨むこと。
詳細：（合同ゼミは履修者の興味、その時々の研究テーマに応じて内容が変わり、かつ集中講義を行うため、15回の詳細については割愛する）。

■教科書

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

演習科目であり、積極的にグループワークに取り組むことが最低限の評価基準である。その上で、発表された課題についての質や質疑応答の仕方など総合的に判断し、評価を行う。

■評価基準

・本科目は、演習科目であり、PないしはFの絶対評価となる。
・面白い発想や独自の視点を高く評価する。
・やる気とゼミへの参加姿勢を評価の大前提とする。
・ゼミ外での発表(SRCや学外での発表など)も高く評価する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

・合同ゼミであるから、履修はホームゼミ（豊田ゼミ）のメンバーに限る。
・EXゼミの履修上限コマの問題から、他のEXゼミを履修したい場合には、本EXゼミを聴講扱いとして参加すること(ただし、豊田ゼミ生は単位の登録の有無に関わらず合同ゼミの参加を必須とする)。
・集中講義の日程については、ホームゼミにて連絡する。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　村山　貞幸

■講義目的

プロフェッショナル ビジネスパーソンに必要なマインドとスキルを獲得することで、ビジネスの高度な問題解決を行う能力を養う。
それは、就職力向上にもつながり、厳しい就職活動に打ち勝つ能力を獲得することになる。
本ゼミでは、プロフェッショナル ビジネスパーソンを、「社会性を重視し、組織目標を圧倒的に優れた能力により達成する人」とする。
そのために必要な能力は、以下と考える。
-社会性
-行動力
-創造力
-人脈構築力
-コミュニケーション力
-論理的思考力

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

（1）プロフェッショナル マインドを高いレベルで獲得する。
（2）プロフェッショナル スキルを高いレベルで獲得する。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<活動>
目的達成のための活動は、教員の提案に基づき、ゼミ生とともに検討する。
読書年100冊は必須。
概要は以下の通り。
-2年生　ビジネスプラニング フェーズ
主課題:　論理的思考力、創造力
-3年生　プラン実行フェーズ
主課題:　行動力　表現力　人脈構築力
-4年生　コーチング フェーズ
主課題:　能力確認
別に、3年生後半から4年生にかけ、就職活動を意識したメニューを多彩に用意している。
<基本方針>
大学にとどまらず、社会人や他大学生、その他の組織の方々とともに、活動する。
企画にとどまらず、企画実行することを通じて学びを高める。
ゼミ活動にとどまらず、プライベートを含め、あらゆる活動をプロフェッショナル能力の獲得につなげる。
<事前に学習しておくべき用語>マーケティング、STP、マーケティングミックス、顧客満足、プロフェッショナル マインド、プロフェッショナル スキル、社会人基礎力

■教科書

グロービス・マネジメント・インスティテュート『改訂3版グロービスMBAマーケティング』（『新版MBAマーケティング』も可）　ダイヤモンド社

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

出席50%、ゼミ活動に対する貢献度50%。

■評価基準

各活動の量と質により総合的に評価。

■事前履修科目等

マーケティング入門

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　大森　拓哉

■講義目的

心理学の入門、情報分析の仕方の基本および意思決定課題の解き方を学ぶ。与えられた課題に対して、グループワークによりに分析を行い、発表会を行う。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

心理学の基礎的知識・トピックスについて理解ができているか、情報の適切な収集方法、処理方法、伝達方法が理解・習得できているか。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

合宿形式にてゼミを行う。
事前学習しておくべき用語やポイント[事前に指示された心理学トピックス]
詳細： このゼミでは、2年生による多変量解析集中講座の授業、全学年合同によるグループワーク、グループ発表、レポート作成、SRCでの発表、を一連の課題とする。今回のテーマは「行動データの心理効果量の測定」である。

■教科書

■指定図書

ゼロからはじめてよくわかる多変量解析、長谷川勝也著、技術評論社

■参考文献

■参考URL

■評価方法

出席90%、課題10%

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は合宿形式で行う。参加したものにのみ単位が認定される。ノートパソコンを持参すること。事前の講義・事後レポート・SRCでの研究発表が単位認定の必須要件である。

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル　ビジネスの現場から生き残っていくための秘訣を探る

担当教員　金子　邦博

■講義目的

本ゼミナールは、産業社会においてビジネスがどのように行われているのかを、文献などの情報による調査研究とビジネスの現場に出かけて調査することを通じて、さまざまな実例の中から「儲ける」というビジネスの基本が、実社会においてどのように実現されているのか、またそこで働く人々はどのような意欲と知識・経験を持って仕事を遂行しているのかを学んでいくことを目的にしている。

　そのため、本ゼミナールでは、秋学期は企業の持続可能性（長期的な収益性）に注目して企業の財務情報や経営戦略、商品展開などの分析・調査を中心に行うと共に、ビジネスが行われている現場（工場、商店街、会社など）へのフィールドワークを適宜組み合わせて演習を展開していく。フィールドワークは、「事前調査」→「実地調査」→「調査結果の報告（プレゼンテーション）」をワンセットに、秋学期及び冬期合宿を通じて4箇所程度の調査を行うことを予定している。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

「儲ける」ために、経営者は何を考え、その実現に向けてどのような努力をし、結果を出したのかを見いだせる理解力や分析力を身につけることを目指していく。

■講義形態

GD・GW・PR　：学外学習有

■講義の概要

概要：ビジネスが行われている現場（工場、商店街、会社など）へのフィールドワークを行う。
事前学習しておくべき用語やポイント：[なし]
詳細：フィールドワークは、「事前調査」→「実地調査」→「調査結果の報告（プレゼンテーション）」をワンセットになる。調査先について、現地調査で確認すべきことをインターネットなどで事前に調べ、現場調査では事前の調査では分からなかった点を確認し、調査結果からビジネスを持続していける秘訣を考察して報告書（レポート）をまとめ、その内容を発表する。この作業を4回程度繰り返す。

　フィールドワークにおいては、事前にどれだけ調査対象の内容を理解しているのかが最終的な成果の良し悪しの分かれ目になる。そのため、現場に行ってから何かを探し出すという取り組み姿勢ではなく、事前の調査において現場で深掘りすべき内容をピックアップできるよう、時間をかけて幅広く調べておくことが必要である。

■教科書

演習の各段階で指示する。

■指定図書

なし

■参考文献

演習の各段階で指示する。

■参考URL

■評価方法

出席と調査報告内容の発表と報告書により総合的に評価する。

■評価基準

出席については、ゼミに参加し積極的に発言しているか。発表や報告書については、報告をまとめる過程で報告内容について十分に検討を行ったかどうかという考察過程を中心に、「儲ける」ことを実践できるノウハウを理解したのかという点に着目して評価する。
絶対評価
　　P　：ゼミ活動の到達目標に概ね達している。
　　F　：ゼミ活動への参加が不十分でゼミ活動の到達目標に達していない。

■事前履修科目等

ゼミの参加に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(1) 合同ゼミであるので、履修は金子ホームゼミナールの参加者に限る。
(2) ゼミやフィールドワークは、参加者の予定を調整した上で、学期中に集中講義方式で適宜実施する。
(3) 正当な理由なしに欠席する者には単位を付与しない。

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　彩藤　ひろみ

■講義目的

地域活性化へのアイディア提供と、3DCG技術の応用を絡めて、期間を区切ったプロジェクトを1～2つ実施する。これまで、サンリオピューロランドコンテンツを使ったARスタンプラリー、立川で行ったアニメを使った街づくりへの参加、ARネコ合わせによる永山学園祭参加、ラバルバーチャル学生コンテストを目指したARコンテンツづくり、AR浅草マッププロジェクトなどを行ってきた。
今年度は、3Dプリンタを利用して、地域に喜ばれるものの開発や、コンテスト企画運営などを実施予定である。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

プロジェクトを仕上げる経験を持つ。
タイム管理と、全体目標に対する自分の立ち位置を的確に見つける訓練をする。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

事前に学習しておくべきポイント：Blenderの練習、デッサン、アイディアをまとめる訓練

■教科書

特になし
参考文献は適時提示する

■指定図書

特になし。必要に応じて用意する。

■参考文献

特になし

■参考URL

http://cat.tama.ac.jp

■評価方法

プロジェクト

■評価基準

プロジェクトへの貢献度
絶対評価
　P：目標に沿って、よく努力したかどうか
　F：

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

積極的に参加すること

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　酒井　麻衣子

■講義目的

本演習は、データマイニングの基礎を身に付けるとともに、一連のデータマイニング作業を実践することを目的とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

大量データを用いたデータマイニングの一連の流れを理解し、実践できるようになる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

詳細：データマイニングの概要と手法の基礎を学ぶとともに、統計解析ツール・データマイニングツール（IBM SPSS Statistics、IBM SPSS Modeler等）の基本的操作方法を習得する。さらに、実際の大量データを用いてデータマイニングを実践し、その計画・実行・解釈・報告までを経験する。
以下を予定している。
・事前課題
・3学年混合のグループワーク
・プレゼンテーション
<事前に学習しておくべき用語>データ分析、データマイニングに関する基礎的な用語全般

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

■評価方法

事前課題の内容、グループ参加状況、プレゼンテーション等で総合的に評価する。

■評価基準

相対評価
<学年共通>
・事前課題の提出
・グループワークへの積極的な参加と貢献。
<2年生>
・統計解析ツール・データマイニングツールを用いた一連のデータマイニングの流れを身につけることができたか
<3年生・4年生>
・統計解析ツール・データマイニングツールを用いたデータマイニングの基本を復習して確実なものとすると同時に、より高度なアルゴリズムを用いたモデリング等にチャレンジできたか

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

酒井ゼミ2年生・3年生・4年生を対象とする。

科目名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　下井　直毅

■講義目的

この講義では、日本経済全般に触れ、産業社会（経済）について学ぶ。戦後の日本経済がどのように歩んできたのか、という点に始まり、日本経済を取り巻く環境はどうなっているのか、ということについて最前線の事例も含めて理解を深める。
学年をまたいで意見交換をすることで、幅広い見方を身につける。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

日本経済やグローバル化が進展する世界経済の動向や課題についての基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<第1講>
概要：日本経済の歩み(I)
事前学習しておくべき用語やポイント[高度経済成長、石油危機]
詳細：1950年代から80年代にかけての日本の経済はどのように推移したのかを学ぶ
<第2講>
概要：日本経済の歩み(II)
事前学習しておくべき用語やポイント[バブル経済、失われた10年、内需主導型、デフレ]
詳細：1980年代以降の日本経済はどのように推移したのかを学ぶ
<第3講>
概要：日本経済の成長と循環(I)
事前学習しておくべき用語やポイント[国内総生産、三面等価の原則、日本経済の成長力]
詳細：高度経済成長期の日本経済の経済成長率が高かった要因は何と考えられるかを学ぶ
<第4講>
概要：日本経済の成長と循環(II)
事前学習しておくべき用語やポイント[景気循環、景気循環の4つの波]
詳細：景気循環とは何か、その要因として何があるかを学ぶ
<第5講>
概要：日本の経済政策(I)
事前学習しておくべき用語やポイント[公共財、所得格差、総需要管理政策、スタグフレーション]
詳細：総需要管理政策とは何かを学ぶ
<第6講>
概要：日本の経済政策(II)
事前学習しておくべき用語やポイント[1955年体制、官僚主導の政策決定、変動相場制下のマクロ経済政策、行財政改革]
詳細：1955年体制とはどういうものなのかを学ぶ
<第7講>
概要：企業経営と産業組織(I)
事前学習しておくべき用語やポイント[3つの過剰、日本の企業経営、ベンチャー、M&A]
詳細：バブル崩壊後の3つの過剰には何があるのか。グローバル化社会に必要な経営体質はどういうものかを学ぶ
<第8講>
概要：企業経営と産業組織(II)
事前学習しておくべき用語やポイント[競争政策、技術革新、独占禁止法]
詳細：競争政策とは何かを学ぶ
<第9講>
概要：労働市場(I)
事前学習しておくべき用語やポイント[用・賃金、失業率、少子高齢化、女性、高齢者、サービス化、グローバル化]
詳細：労働市場において少子高齢化が引き起こす問題は何かを学ぶ
<第10講>
概要：労働市場(II)
事前学習しておくべき用語やポイント[日本的雇用慣行、働くものの権利と意識]
詳細：日本的雇用慣行とは何か／何だったのかを学ぶ
<第11講>
概要：世界経済の動向と日本の役割(I)
事前学習しておくべき用語やポイント[レーガノミックス、IT革命、欧州連合、石油価格高騰]
詳細：戦後の世界経済はどのように推移したのかを学ぶ
<第12講>
概要：世界経済の動向と日本の役割(II)
事前学習しておくべき用語やポイント[国際金融市場、累積債務問題、通貨危機、WTO、自由貿易協定]
詳細：今日の世界経済が抱える問題は何かを学ぶ
<第13講>
概要：日本の経済の現状と課題(I)
事前学習しておくべき用語やポイント[グローバル、アジア]
詳細：今日の日本経済が抱える問題は何かを学ぶ
<第14講>
概要：日本の経済の現状と課題(II)
事前学習しておくべき用語やポイント[農業、環境、医療]
詳細：今日の日本経済が抱える問題は何かを学ぶ
<第15講>
概要：日本の経済の現状と課題(III)
事前学習しておくべき用語やポイント[農業、環境、医療]
詳細：今日の日本経済が抱える問題は何かを学ぶ

■教科書

金森久雄・香西泰・加藤裕己　『日本経済読本』　東洋経済新報社(2007)

■指定図書

講義中に紹介する

■参考文献

三橋規宏・池田吉紀・内田茂男　『ゼミナール日本経済入門』　日本経済新聞出版社(2008)
橋本寿朗・宮島英昭・長谷川信　『現代日本経済』　有斐閣アルマ(2006)

■参考URL

■評価方法

評価は、講義中の演習(30%)、出席(70%)により行う

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　豊田　裕貴

■講義目的

豊田ゼミでは、通常の学年ごとの演習に加え、全学年を通じたゼミを開講し、より積極的な演習への取り組みを行う。具体的には、春学期・秋学期ともに合宿ならびに合宿前後の準備ゼミにより、学年を横断するチームを編成し、各種ケーススタディやプランニング演習を行う。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

学年横断で組まれるグループにて、限られた時間内に、設定された課題に取り組み、発表する。その際、発表前のグループワークの段階で、どのような質問や意見がなされるかを考え、それを織り込んだストーリー展開を考えることが、望まれるレベルである。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

演習科目のため、毎回の課題を事前に学習し、準備の上、ゼミに臨むこと。
詳細：（合同ゼミは履修者の興味、その時々の研究テーマに応じて内容が変わり、かつ集中講義を行うため、15回の詳細については割愛する）。

■教科書

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

演習科目であり、積極的にグループワークに取り組むことが最低限の評価基準である。その上で、発表された課題についての質や質疑応答の仕方など総合的に判断し、評価を行う。

■評価基準

・本科目は、演習科目であり、PないしはFの絶対評価となる。
・面白い発想や独自の視点を高く評価する。
・やる気とゼミへの参加姿勢を評価の大前提とする。
・ゼミ外での発表(SRCや学外での発表など)も高く評価する。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

■留意点

・合同ゼミであるから、履修はホームゼミ（豊田ゼミ）のメンバーに限る。
・EXゼミの履修上限コマの問題から、他のEXゼミを履修したい場合には、本EXゼミを聴講扱いとして参加すること(ただし、豊田ゼミ生は単位の登録の有無に関わらず合同ゼミの参加を必須とする)。
・集中講義の日程については、ホームゼミにて連絡する。

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　村山　貞幸

■講義目的

プロフェッショナル ビジネスパーソンに必要なマインドとスキルを獲得することで、ビジネスの高度な問題解決を行う能力を養う。
それは、就職力向上にもつながり、厳しい就職活動に打ち勝つ能力を獲得することになる。
本ゼミでは、プロフェッショナル ビジネスパーソンを、「社会性を重視し、組織目標を圧倒的に優れた能力により達成する人」とする。
そのために必要な能力は、以下と考える。
-社会性
-行動力
-創造力
-人脈構築力
-コミュニケーション力
-論理的思考力

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

（1）プロフェッショナル マインドを高いレベルで獲得する。
（2）プロフェッショナル スキルを高いレベルで獲得する。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

<活動>
目的達成のための活動は、教員の提案に基づき、ゼミ生とともに検討する。
読書年100冊は必須。
概要は以下の通り。
-2年生　ビジネスプラニング フェーズ
主課題:　論理的思考力、創造力
-3年生　プラン実行フェーズ
主課題:　行動力　表現力　人脈構築力
-4年生　コーチング フェーズ
主課題:　能力確認
別に、3年生後半から4年生にかけ、就職活動を意識したメニューを多彩に用意している。
<基本方針>
大学にとどまらず、社会人や他大学生、その他の組織の方々とともに、活動する。
企画にとどまらず、企画実行することを通じて学びを高める。
ゼミ活動にとどまらず、プライベートを含め、あらゆる活動をプロフェッショナル能力の獲得につなげる。
<事前に学習しておくべき用語>マーケティング、STP、マーケティングミックス、顧客満足、プロフェッショナル マインド、プロフェッショナル スキル、社会人基礎力

■教科書

グロービス・マネジメント・インスティテュート『改訂3版グロービスMBAマーケティング』（『新版MBAマーケティング』も可）　ダイヤモンド社

■指定図書

■参考文献

■参考URL

■評価方法

出席50%、ゼミ活動に対する貢献度50%。

■評価基準

各活動の量と質により総合的に評価。

■事前履修科目等

マーケティング入門

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科 目 名　合同ゼミナール（EX Seminars ）

サブタイトル

担当教員　諸橋　正幸

■講義目的

言葉の法則性について、従来の言語学で中心となっている研究は、書き言葉における「文の構造」を把握するための文法であり、絶対的な法則とその根拠を説明することに重点が置かれていた。
そこからは、精緻な構文構造を把握できるという利点はあるものの、分析が単独の文という制約から、文章解析においては力不足である。
　そこで、文という単位に限ることなく文章の流れの中で、あるいは、対話における流れの中で、言葉の使用順の法則性を見つけることが有効であるとの考え方が主流になりつつある。
　本演習では、この考え方に立って、実際の文章コーパス(実際に存在する、ある程度多量の文章データ)を用いて言葉の法則性を、統計的手法を用いて発見することを主眼とする。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
ビジネスICT

■到達目標

形態素解析ソフトおよび統計マクロ付きのエクセルを用いて、大規模テキストを対象としたテキストマイニング技術の基本をマスターする。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習有

■講義の概要

言語データを複数個与え、各自で選んだデータに基づき処理結果を発表・議論する。
予習、復習のポイント：
到達目標に述べるように、ゼミ生は各自の達成目標を自分なりに定義することになるが、その目標達成のためには、自身で必要な技術について習得する必要がある。それに役立つ文献や演習問題については、研究進度にあわせ、適宜紹介する。

■教科書

■指定図書

■参考文献

石川慎一郎他　「言語研究のための統計入門」くろしお出版(2010)

■参考URL

■評価方法

出席および成果発表の結果で合否判定をする。

■評価基準

絶対評価
演習、レポート、期末試験ともに、講義内容をどの程度理解したかを見る。

■事前履修科目等

ホームゼミ履修者に限る。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名　教育原理(Educational Principle)

サブタイトル　身近で知らない「教育学」の全体像を把握する

担当教員　杉森　知也

■講義目的

教育という営みは、もっとも身近なものの一つであるが、意外と意識化できていない。そこで、できる限り各自の経験を意識化し、「教育」という営みについて客観的に理解できるようにしたい。
また、学校教育のみに限らず、社会教育・生涯学習との連携についても把握し、教職課程を履修していく上で、幅広い視野で臨めるようにする。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

1.教育の目的や歴史について原理的に考察し、それを自分の言葉で説明できる。
2.教育の最新事情やその背景・課題などについて、多角的に把握することができる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　ガイダンス
概要:授業の進め方
事前学習しておくべき用語:今まで受けてきた「教育」の場面について振り返っておくこと。
詳細:本講の概要の説明と、事故の教育との出会いについて細かく振り返る機会にする。教員との一対一のヒアリングのほか、参加者同士の聞き取りなども、状況によっては実施したい。
<第2講>　教育の本質1
概要:教育と文化
事前学習しておくべき用語:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくること。
詳細:教育と「文化の伝承」について、他の動物との比較などを通して根源的に考える。
<第3講>　教育の本質2
概要:教育と人間形成
事前学習しておくべき用語:人間にとっての「教育」の意味
詳細:教育と人間形成との関係について、また、これに付随して「教育の目的」についても考察する。
<第4講>　教育の歴史的展開1
概要:古代から中世
事前学習しておくべき用語:ルネサンス
詳細:大学の成立と中等教育の勃興について、特に古代ギリシャ・ローマから中世ヨーロッパ社会における教育について理解する。
<第5講>　教育の歴史的展開2
概要:近代以降
事前学習しておくべき用語:宗教改革、市民革命、帝国主義
詳細:庶民のための教育機関の広まりと学校の制度化について、「近代国家」をキーワードに大きく把握する。
<第6講>　子どもの発見・家族の発見
概要:中世と近代のヨーロッパにおける子ども観・家族観
事前学習しておくべき用語:フィリップ・アリエス、子供の誕生
詳細:アリエスやバダンテールの研究の紹介を通して、中世までの「子どもの発見」、「家族の発見」という意味を理解する。
<第7講>　イリイチの「脱学校論」が指摘したこと
概要:イリイチの教育思想と生涯学習の理念
事前学習しておくべき用語:授業後に渡すコメントシートを完成して翌週、提出。
詳細:イリイチの「脱学校論」の記述の理解を通して、彼のいう「脱学校」の意味を精密に読み解く。そのうえで、生涯学習との関連性についても触れたい。
<第8講>　教育課程
概要:教育の目的と学習指導要領
事前学習しておくべき用語:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくること。
詳細:既習内容の教育の目的について復習し、現代の日本における学習指導要領の意味を理解する。
<第9講>　「学力」論争と「学力」論1
概要:学力調査と「効果のある学校」
事前学習しておくべき用語:指定教科書と指定図書の該当部分を、事前に読んでくること。
詳細:日本および諸外国の学校効果研究の成果を紹介し、その共通点を検討する。
<第10講>「学力」論争と「学力」論2
概要:学力と格差社会
事前学習しておくべき用語:指定教科書と指定図書の該当部分を、事前に読んでくること。
詳細:格差社会と学力格差についての諸研究を紹介する。格差是正が叫ばれる意味について、「意欲格差」という観点も含めて考察する。
<第11講>「教育基本法」を読む
概要:「教育基本法」の精読
事前学習しておくべき用語:現行の教育基本法と改正前の教育基本法をインターネットで検索して印刷し、どこが変化したのかについて事前にチェックしておくこと。
詳細:「教育基本法」を精読し、その規程範囲と法の目的について把握する。
<第12講> キャリア教育の意味するもの
概要:キャリア教育の実践を体験し、自己分析を深める。
事前学習しておくべき用語:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくること。
詳細:外部講師によるキャリア教育の実践を体験し、教育現場で重視されつつあるキャリア教育の意味を見出す。また、キャリア教育の実践に触れながら、同時に自己分析を進めていく。
<第13講>特別支援教育
概要:インテグレーションの理念とその課題
事前学習しておくべき用語:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくること。
詳細:障害児教育の歴史的変遷を理解するとともに、インテグレーションに向かおうとする世界的な動向とその課題について検討する。参加者同士の意見の交換もおこないたい。
<第14講>「もっと僕を知ってほしい」を観て
概要:ADHDの児童のDVDを観る。
事前学習しておくべき用語:発達障害をキーワードに、その種類と症状について事前に勉強しておくこと。
詳細:「もっと僕を知ってほしい(NHK)」を観て、ADHDの症状や親・教師の苦悩、児童の「戸惑い」などを理解するとともに、日本とアメリカの対応の違いと共通点を整理する。
<第15講> 子どもの生活をめぐる諸問題
概要:不登校、いじめ、子ども(若者)文化と格差社会
事前学習しておくべき用語:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくること。
詳細: 不登校、いじめ、子ども(若者)文化について、教育社会学の成果を中心に紹介する。また、これと既習内容の格差社会とも関連付ける。

■教科書

安彦忠彦ら編著『よくわかる教育学原論』、ミネルヴァ書房
その他、授業時にプリントを配布する。

■指定図書

ケネス・ハウ『教育の平等と正義』、東信堂
その他は、授業時に指示する。

■参考文献

イヴァン・イリッチ『脱学校の社会』、東京創元社
辻本雅史『「学び」の復権-模倣と習熟』、角川書店
広田照幸監修『リーディングス 日本の教育と社会①～⑳』、日本図書センター
河原和枝『子ども観の近代-「赤い鳥」と「童心」の理想』、中公新書
山内乾史ら著『学力論争とはなんだったのか』、ミネルヴァ書房
『日本教育新聞』(日本教育新聞社)
その他は、授業時に指示する。

■参考URL

■評価方法

平常点(授業態度等を含む)70%、レポート30%で評価する。

■評価基準

A+:教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を十分に発揮している
A　:教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を一程度、発揮している
B　:講義に参加しているが、積極的な姿勢が十分ではない
C　:講義に参加しているが、理解度が十分ではなく、また提出物の提出についても遅滞が多い
F　:出席が足りない、講義内容がほとんど理解できない、他者と協力することができない

など、いずれか一つ以上当てはまる

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

学生には、迷いながら教師を目指して欲しい。明確に教師を目指している人だけでなく、教師を目指すか迷っている人もぜひ受講して一緒に考えて欲しい。また、授業は学生の主体的な働きかけで進むものである。疑問や意見を持ったら必ず発言して、全体で共有しながら進めたい。状況によっては、内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもあり得る。なお、事前に、新聞等で、最新の教育情報を常にチェックしておくこと。

科目名　教育史(Education History)

サブタイトル

担当教員　齋藤　S.裕美

■講義目的

本講義は、諸外国と日本の教育の歴史的展開と代表的な思想家の教育思想や教育実践についての基礎的な知識を習得し、理解を深めることを目的とする。この講義を通じて、歴史を全体的にどう見るかという根本的なものの見方を考え、歴史的事象と教育の間に関連を見出すことによって、教職を目指す者が身に付けなければならない必須の教養を深める。教育史上に重要な役割を果たした人物を中心に、その背景となっている歴史の流れをたどり、教育の本質について考察を進める。

■講義分類

■到達目標

諸外国および日本の教育史を時系列的にたどり、教職に就く者として求められる教育の歴史について、基本的な知識の習得をめざす。具体的には、①諸外国の教育史および代表的な思想家の教育思想や教育実践についての知識の習得、②日本の教育史、とりわけ近代以降の公教育制度の整備の歴史についての知識の習得、③教育観や子ども観の変遷についての知識の習得の3点をめざす。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

西洋の教育の歴史

<第1講>　古代ギリシアの教育

古代ギリシアの教育について、ポリスにおける市民の役割と教育の観点からソクラテスの産婆術、プラトン、アカデメイア、自由七科の成立などを概観する。

<予習・復習のポイント>

ポリス、ソフィスト、ソクラテス、産婆術、プラトン、アカデメイア、アリストテレス、自由七科などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第2講>　中世ヨーロッパの教育

中世ヨーロッパの教育について、貴族・聖職者・庶民などの階級制度の中でどのような教育・子育てが行われていたのかを概観する。また、近代の夜明けともいえる宗教改革やルネサンスについても解説する。

<予習・復習のポイント>

教会での教育、中世の大学、自由七科、騎士道、徒弟制、ギルド、宗教改革、ルター、マキャベリ、ルネサンスなどのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第3講>　17世紀の教育

17世紀ヨーロッパの教育について、近代市民革命とコメニウスの学校体系、実学主義と直観主義などについて概観するが、近代の学校体系や民衆教育についてはとりわけ深く学習する。

<予習・復習のポイント>

実学主義，汎知主義，コメニウス，直観教育，民衆教育などのキーワードについて理解し，説明できるか。

<第4講>　18世紀の教育改革

18世紀ヨーロッパの教育について，ロック，ルソー，ペスタロッチなど教育思想家の教育思想と教育の実践について学習し，またカントや百科全書派など教育の諸思潮についても学習する。

<予習・復習ポイント>

ロック，労働学校，ルソー，子どもの発見，ペスタロッチ，民衆教育，カント，汎愛派，百科全書派などのキーワードについて理解し，説明できるか。

<第5講>　市民革命と教育

イギリス市民革命，アメリカ独立革命，フランス革命とそれぞれの革命が教育にもたらした影響について概観する。

<予習・復習のポイント>

ピューリタン革命，名誉革命，アメリカ独立革命，教育の機会均等，フランス革命，自然権の承認，公教育計画などのキーワードについて理解し，説明できるか。

<第6講>　産業革命と教育

諸国の産業革命と公教育との関連について概観し，イギリスの公教育制度について学習する。

<予習・復習ポイント>

産業革命，監督権，公教育などのキーワードについて理解し，説明できるか。

<第7講>　近代公教育制度の発達

各国の公教育制度について概観する。フランス，ドイツ，アメリカの公教育制度について学習する。

<予習・復習ポイント>

ナポレオン学制，プロイセン憲法，ドイツ統一，コモン・スクール，教育税制度，教育委員会制度などのキーワードについて理解し，説明できるか。

<第8講>　19世紀の教育思想

19世紀ヨーロッパの教育思想について，ヘルバルト学派の教授段階説の展開，フレーベル，スペンサー，ドイツやロシアの教育思想家の思想や教育実践について概観する。

<予習・復習ポイント>

ヘルバルト，ツィラー，ライン，教授段階説，フレーベル，幼稚園，スペンサー，三育論などのキーワードについて理解し，説明できるか。。

<第9講>　世界新教育運動の展開

19世紀末から20世紀初頭にかけて起こった子どもを中心とする教育思想および教育実践について，その展開の様子を概観する。

<予習・復習ポイント>

「児童から」，児童の世紀，デューイ，実験学校，プロジェクト・メソッド，ドルトン・プラン，モンテッソリなどのキーワードについて理解し，説明できるか。

<第10講>　民主主義の発展と教育

第一次世界大戦後のヨーロッパ諸国における学校体系，各国の教育改革について概観し，併せて教育の国際化や生涯教育など現代の教育の動向についても学習する。

<予習・復習ポイント>

複線型・単線型・分岐型，統一学校運動，ユネスコ，児童権利宣言，教育の現代化，脱学校化，生涯教育などのキーワードについて理解し，説明できるか。

日本の教育の歴史

<第11講>　近世までの教育

日本の古代・中世・近世の教育について概観する。

<予習・復習ポイント>

大宝律令の学令，大学寮，武士道，金沢文庫，足利学校，五山文学，朱子学，藩校，寺子屋，私塾などのキーワードについて理解し，説明できるか。。

<第12講>　近代教育制度の創始

明治5年の学制の制定から教育令までの教育制度と教育政策の展開，また教育方法の模索の様子などを概観する。

<予習・復習ポイント>

学制，教育令，教学聖旨，教科書，開発主義などのキーワードについて理解し，説明できるか。。

<第14講>　公教育制度の整頓と近代日本の教育方法の発達

明治18年の教育令改正および明治33年の小学校令改正による義務教育の確立と中・高等教育の拡充の経緯を学習する。また，自由教育運動や社会主義運動など近代日本における教育方法の発達の様子も概観する。

<予習・復習ポイント>

検定教科書，教育勅語，義務教育，5段階教授説，「新しい学校」，八大教育主張，教員組合などのキーワードについて理解し，説明できるか。

<第15講>　第二次世界大戦前後の教育

戦時体制下の教育と戦後の教育改革，現代の教育に至る進展の様子を概観する。

<予習・復習のポイント>

国民学校令，学徒勤労令，戦時教育令，四大教育指令，教育基本法，学校教育法，単線型学校体系，教育委員会，中央教育審議会，学習指導要領，コア・カリキュラムなどのキーワードについて理解し，説明できるか。

■教科書

教師養成研究会・森秀夫『教育史　西洋・日本』，学芸図書

■指定図書

[1] 柴田義松他編著　『ポイント教育学　教育史』　学文社
[2] 教員試験情報研究会編　『教職教養　教育史』　一ツ橋書店

■参考文献

荒井武編著　『教育史』　福村出版

■参考URL

■評価方法

期末試験35%，レポート・発表35%，出席30%

■評価基準

次の3点を中心に評価する。

(1)ヨーロッパ諸国および日本の歴史と教育との関連について理解しているか。
(2)様々な教育思想家の思想や教育実践の内容を理解しているか。
(3)レポートや期末試験における記述が正確であるか。

絶対評価

A+ ：上記評価方法で評価点95点以上
A ：上記評価方法で評価点80点以上95点未満
B ：上記評価方法で評価点70点以上80点未満
C ：上記評価方法で評価点60点以上70点未満
F ：上記評価方法で評価点60点未満

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・講義は毎回出席し、積極的な態度が望まれる。（原則として、欠席・遅刻はしないこと）
・教員としての資質を啓発するために、資料を収集・整理して発表する機会を設ける。

科目名　教育実習(Practice Teaching)

サブタイトル

担当教員　大森　拓哉

■講義目的

本講義は、教育実習の前後に行う指導である。事前に、教育実習の意義、実習上の留意事項、授業の見方、授業の実施方法、実習校とのかかわり方などについて講義するとともに、模擬実習を組み込んで2週間～3週間の教育実習の指導・助言を図る。

実習後には、実習体験の整理の方法などについてふれる。その際に、教育実習が単に教える技術を学ぶ場だけではなく、主体的に行動し人間関係を創ってゆく総合的な体験の機会であったことを思い起こし、この体験を通じて得た自信を今後の社会人としての生活に生かせるように総括する。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

教職に就く者として求められる教育実習について、講義技法と教育者としての態度を身に付け、基本的な知識の修得をめざす。
※この科目の単位修得時の学習目標をお書き下さい

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習有

■講義の概要

教育実習は、高等学校では2週間～3週間の期間で行われる。その前後に1単位分の事前および事後指導をすることが教員免許法で定められている。その中身は特に定められていないが、はじめて実習校で生徒の前に立って授業をする以上、少しでも円滑に進められるように準備をしておくことが必要になる。また、高等学校の教育活動の全体を知り、経験を通じて学ぶことも教育実習の重要な目的とされており、そのための基礎的な知識を与えることも大切なことである。

教育実習の講義では、こういった目的を果たすために教育実習前(事前)の指導に必要な準備をする。また、教育実習後(事後)に、主体的に行動し人間関係を創ってゆく総合的な体験の機会であったことを思い起こし、この体験を通じて得た自信を今後の社会人としての生活に生かせるように総括する。

●事前指導I
教育と教師を見つめ直そう
教師になるには何が必要か
教育実習がなぜ必要か
教員としての心がまえ
実習生としてふさわしい学生とは
実習校の組織(分掌)を知ろう
身だしなみで注意したいこと
ホームルーム経営への参加
実習にかかわる事務手続き
実習ノートの書き方
●事前指導II
教育実習は教師へのワンステップ
単元指導案・学習指導案の作成
わかりやすい授業とは
●事前指導III
指導教師から学ぶもの
実習は全力投球で
効果的な教材研究
授業参観の着眼点
板書・ノート指導・話し方
<予習・復習ポイント>
教職に携わる者として求められる知識・態度が何かを理解し、教職を目指す者としての公的な立場の職責をしっかりと身に付けたか。
●事後指導
実習を終えたら
実習後の事務処理
実習校・生徒へのお礼状の作成
実習ノートの取りまとめ
実習の経験を今後の社会人としての生活に生かすには
<予習・復習ポイント>
教職の場での実習を通じて何が求められているのかを理解し、教職の免許状を取得した社会人としての生き方を深く考察できるか。

■教科書

講義の中で、プリント資料・インターネットからの資料・DVD資料などを指示する。

■指定図書

小松喬生他編　『教員採用シリーズ　教育実習を成功させよう』　一ツ橋書店
寺崎昌男編　　『教育実習57の質問』　学文社
教師養成研究会編　『教育実習の研究』　学芸図書

■参考文献

入江昌明他著　『教育実習』　EXP
■参考URL
講義時に指示する。

■参考URL

■評価方法

出席80%、レポート20%

■評価基準

絶対評価
A+　：講義内容を完全に理解できている
A　：実習に行く準備・実習後のまとめがきちんとできている
B　：講義内容が理解できている
C　：最低限の理解ができている
F　：講義科目の履修目標に達していない

■事前履修科目等

3年次までの教職科目を単位履修していないと、本講義を受講することはできない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は集中授業であるため、実施日については別途連絡する。

　※ GD ＝グループディスカッション・GW ＝グループワーク・PR ＝プレゼンテーション

科目名 教育制度論(Educational System)

サブタイトル 教育の制度を比較的な視点で把握する

担当教員 杉森　知也

■講義目的

教育をとりまく社会･行政の制度改革の動向を含めて、広く考察するとともに、現在の日本の教育制度･行政等について、歴史的視点と国際的視点の両面から比較する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

現在の日本の教育制度設計を、政策の動向を加味しながら客観的に評価できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　ガイダンス
概要:「教育の制度」とは何か
事前学習しておくべき用語:教育のフィールド、学校教育の制度
詳細:本講の全体像を示すとともに、「制度」という意味を考える。その上で、教育制度がどのような範囲をカバーするのかについて把握する。
<第2講>　学校体系1
概要:ヨーロッパ諸国の学校体系
事前学習しておくべき用語:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくること。
詳細:多様な制度を形成している背景に、歴史・文化があることについて提示する。
<第3講>　学校体系2
概要:日本の学校体系の変遷
事前学習しておくべき用語:戦前の学校体系と戦後の学校体系の比較、米国教育使節団報告書の概要
詳細:米国教育使節団報告書を手掛かりにしながら、戦後の日本はなぜ単線型の学校体系をとったのかについて紹介する。
<第4講>　学校体系3
概要:学校制度体系の類型と諸外国が抱える課題
事前学習しておくべき用語:パブリックスクール、シックスフォーム、バカロレア、アビトゥーア
詳細:各国がそれぞれの歴史と文化を引きずりながら学校体系が形成されていることと、そのような学校体系を通して社会が再形成(再生産)されていることを提示する。その上で、各国がどのように克服しようとしているのかについて把握する。
<第5講>　教育に関する法規
概要:日本の教育法規体系
事前学習しておくべき用語:学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律
詳細:「教育基本法」、「学校教育法」、「地教行法」を中心に、日本の教育法規の体系について把握する。
<第6講>　教育に関する行政と財政1
概要:教育行政の原理と文部科学省
事前学習しておくべき用語:文部科学省HPをよく見ておくこと
詳細:文部科学省が持っている権限・管轄の範囲について紹介する。
<第7講>　教育に関する行政と財政2
概要:教育委員会設置の意味
事前学習しておくべき用語:自分の住んでいる地域の教育委員会のHPをよく見ておくこと
詳細:教育委員会が行政委員会として設置されている意味を、米国教育使節団報告書を手掛かりに紹介する。また、教育委員の仕組みと選出方法などについて、実際の委員の経歴などの調査を通して把握する。
<第8講>　教育に関する行政と財政3
概要:大阪府の教育基本条例案を読む
事前学習しておくべき用語:教育委員会廃止論
詳細:大阪府の教育基本条例案については賛否両論が出されているが、それぞれの主張について精密に突合せつつ、なぜ教育委員会廃止論などが生じているのかについて考える。また、本講と第7講の内容とを突合せて自己の意見を形成する。出席者同士の意見交換、ディスカッションもおこないたい。
<第9講>　教育内容と学習指導要領1
概要:学習指導要領の歴史的変遷と改定のポイント
事前学習しておくべき用語:学習指導要領の「改訂の要点」
詳細:学習指導要領の改訂ポイントについて、時代背景を含めながら提示する。
<第10講>教育内容と学習指導要領2
概要:学級経営と集団づくり
事前学習しておくべき用語:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくること。
詳細:教師の職務としての学級経営の内実について把握する。
<第11講> 教育の平等を考える1
概要:機械の均等と平等
事前学習しておくべき用語:指定図書を事前に読んでおくこと。
詳細:「結果の平等」を求めてきた日本の教育は善か悪か。
<第12講>教育の平等を考える2
概要:「機械の均等」と「結果の平等」
事前学習しておくべき用語:教育の機会均等と結果の平等
詳細:「機会均等」の意義を見出しつつ、「結果の平等」を目指す方向性とあわせてどこに課題があるか、討論する。
<第13講>教育の市場化と新自由主義
概要:新自由主義下の教育政策
事前学習しておくべき用語:福祉国家観、新自由主義(新保守主義)
詳細:イギリスのサッチャー政権のおこなった教育政策と、中曽根、小泉内閣の改革路線を検証する。
<第14講> 臨時教育審議会
概要:臨時教育審議会の検討概要とその意味
事前学習しておくべき用語:指定教科書の該当部部分を、事前に読んでくること。
詳細:臨時教育審議会がどのような審議をおこない、何を答申したかについて把握する。また、その答申が現在の教育にどのように生きているかについて、考察する。
<第15講> まとめ
概要:本講のまとめ
事前学習しておくべき用語:教育制度論で学習した内容を総括しておくこと
詳細:本講で扱ってきた内容のうち、特に反応の良かった部分について再検討をしつつ、半期の総括をおこなう。

■教科書

安彦忠彦ら編著『よくわかる教育学原論』、ミネルヴァ書房
その他は、授業時にプリントを配布する。

■指定図書

ケネス・ハウ『教育の平等と正義』、東信堂
大田直子・黒崎勲　『学校をよりよく理解するための教育学』1~6、学事出版
解説教育六法編修委員会編　『解説 教育六法2012』、三省堂
その他は、授業時に指示する。

■参考文献

渡部蓊『図解問答 教育法規･教育行政入門』、学術出版会
『日本教育新聞』　日本教育新聞社
その他は、授業時に指示する。

■参考URL

■評価方法

平常点(授業態度等)70%、レポート30%で評価する。

■評価基準

A+:教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を十分に発揮している
A　:教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を一程度、発揮している
B　:講義に参加しているが、積極的な姿勢が十分ではない
C　:講義に参加しているが、理解度が十分ではなく、また提出物の提出についても遅滞が多い
F　:出席が足りない、講義内容がほとんど理解できない、他者と協力することができないなど、いずれか一つ以上当てはまる

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

必ず、最新の教育情報を、新聞等で常にチェックしておくこと。
また、授業は学生の主体的な働きかけで進むものである。疑問や意見を持ったら必ず発言して、全体で共有しながら進めたい。したがって、状況によっては若干内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもある。

科目名　教育方法(Teaching Method)

サブタイトル

担当教員　齋藤　S.裕美

■講義目的

平成25年度入学生より学習指導要領が改訂され、基礎的な知識・技能の習得に加え、確かな学力が重要視されるようになった。また、習得した知識・技能を活用して自ら考え、判断し、表現することにより様々な問題に積極的に対応し、解決する力を求められるようになった。
本講義では、教育方法の変遷を欧米における教授理論の展開と日本における教育課程の変遷において概観し、その上で授業構成要素である学習目標、学習内容、指導方法・学習方法、指導組織・形態、学習環境・メディア、学習評価等について基礎理論を学ぶ。さらに具体的な指導案や教材・教具の開発を行い、事例に基づいて理解を深め、それら事例における工夫や改善のあり方についても検討する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

・教育方法の基本的な概念がわかる。
・教育方法の変遷、現代的課題がわかる。
・教授-学習過程の構造がわかり、教授原理について説明できる。
・指導内容、教材、教具の関係について説明でき、教材を活用した授業を設計できる。
・教材研究の機能を説明し、具体的な教材開発ができる。
・教育評価の機能と授業評価の種類や方法を説明できる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　教育方法の二つの側面
学習指導-知識の習得とその応用・活用についての指導について、生徒が学習する意味や学校教育の意味を考察し、そこから敷衍して「教育方法」という科目の意義について確認する。
<予習・復習のポイント>
生徒にとって学校教育において学ぶ意味とはどのようなことであるか、「教育方法」を学ぶ意味は何か。
<第2講>　近代までの教育方法の思想
西洋古代から西洋中世までの教育方法（ソクラテスの産婆術、アリストテレスの演繹法、7自由科の成立、F．ベーコンの帰納法）、西洋近代の教育方法（コメニウスの近代教授学、実学主義と直感主義、ペスタロッチの教育方法、ヘルバルト学派）、現代の教育方法（経験主義、児童中心主義、新教育運動、エッセンシャリズム、プログレッシビズム）の順に追い、教育方法の歴史的変遷について確認する。
<予習・復習のポイント>
古代から近代までにどのような教育方法が生み出されてきたのだろうか。
<第3講>　近現代の教育方法の思想
近現代の教育方法（経験主義、児童中心主義、新教育運動、エッセンシャリズム、プログレッシビズム）について確認し、現在の日本の学校教育との関連について確認する。
<予習・復習のポイント>
近現代の教育方法とはどのようなものか。
<第4講>　近代日本教育方法の変遷
江戸時代の教育方法から明治期の学制に見られる教育観、大正新教育運動と各学校の成立過程、戦後の学習指導要領と教育方法の変遷を確認し、現行の学習指導要領と新学習指導要領の特徴について概説する。
<予習・復習のポイント>
近現代の日本の教育方法はどのような歴史的変遷をたどったのか、学習指導要領改訂はどのような社会的背景のもとになされたのか。
<第5講>　教育課程とその類型
経験カリキュラム、教科カリキュラム、融合カリキュラム、広領域カリキュラム、コア・カリキュラムなどのカリキュラムの類型について確認し、現行の教育課程の特徴と教育課程編成の原理などについて概説する。
<予習・復習のポイント>
教育課程とは何か、その類型にはどのようなものがあるか、教育課程の編成はどのような原理のもとで行われるのか。
<第6講>　学習の諸原理
興味の原理、経験の原理、自発性の原理、社会性の原理、直観の原理について確認し、さらに学力とは何か、学力低下問題やPISA型学力などの現代的問題についても取り上げる。
<予習・復習のポイント>
学習の原理にはどのようなものがあるか。
<第7講>　教授学習の過程
教授学習過程の流れについて確認し、授業を構成する三要素、授業の構造について概説する。さらに、授業設計と主題研究の関わり、指導法検討の意義についても考察する。
<予習・復習のポイント>
授業とは何か、主題研究の意義はどのようなものであるか。
<第8講>　単元の設定と展開
カリキュラムについて、大単元と小単元、導入-展開-まとめについて概説する。
<予習・復習のポイント>
単元とは何か、導入-展開-まとめの意義はどのようなものであるか。
<第9講>　教材教具
教材とは何か、教具とは何か、教材教具の必要性について概説し、教材教具をどのような場合に開発すべきか考察する。
<予習・復習のポイント>
教材教具はどのような場合に必要か。課題として教材作成を行う。
<第10講>　教育工学
教育機器や視聴覚教材の利用について、フラット教材、オーディオ教材、ビジュアル教材--Teaching Machineについて概説する。
<予習・復習のポイント>
教育機器や視聴覚教材にはどのようなものあるか、どのような場面で活用すべきか。
<第11講>　授業設計(1)
授業設計の手順と方法について概説する。
<予習・復習のポイント>
授業設計の手順と方法はどのようなものか。
<第12講>　授業設計(2)
学習指導案の作成法について概説する。
<予習・復習のポイント>
学習指導案を作成し、どのような手順で学習指導案を作成するのか、作成時の留意点とは何かを理解する。
<第13講>　授業設計(3)
模擬授業演習
<予習・復習のポイント>
模擬授業のための準備を行うこと。課題として学習指導案作成を行う。
<第14講>　教育評価
学習評価の分類、測定の方法、絶対評価と相対評価、観点別評価と絶対評価の尺度、データ解析の方法について概説する。
<予習・復習のポイント>
教育評価の目的は何か、観点別評価と絶対評価の関連はどのようなものであるか。課題として評価規準と評価基準の作成を行う。

■教科書

谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著　『教育方法論』　一藝社

■指定図書

樋口直宏・林尚示・牛尾直行著　『実践に活かす 教育課程論・教育方法論』　学事出版
柴田義松・山崎準二著　『教育の方法と技術』　学文社
西之園晴夫・宮寺晃夫著　『教育の方法と技術』　ミネルヴァ書房
日本教育方法学会著　『日本の授業研究（上巻）授業研究の歴史と教師教育』　学文社
日本教育方法学会著　『日本の授業研究（下巻）授業研究の方法と形態』　学文社

■参考文献

日本教育方法学会著　『現代カリキュラム研究と教育方法学―新学習指導要領・PISA型学力を問う』
図書文化社
植野真臣著　『知識社会におけるe-learning』　培風館

■参考URL

■評価方法

期末試験45%、学期中のレポートや課題、発表40%、出席状況15%を基本とし、授業

への参加態度などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

次の3点を中心に評価する。

(1)教育方法史や教育課程の変遷について理解しているか。
(2)教育現場における方法技術を理解・体得できているか。
(3)レポートや期末試験における記述が正確であるか。

絶対評価

A+ ：上記評価方法で評価点95点以上
A ：上記評価方法で評価点80点以上95点未満
B ：上記評価方法で評価点70点以上80点未満
C ：上記評価方法で評価点60点以上70点未満
F ：上記評価方法で評価点60点未満

■事前履修科目等

2年次春学期の教職課程科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

特になし。

科目名　教職概論(Teaching Profession)

サブタイトル　自らの「教師像」を構成する

担当教員　杉森　知也

■講義目的

教職についての基本的事項(教職の意義、教員の役割、職務内容等)をおさえるとともに、現行教員養成制度の原理や政策的な課題について理解する。また、近年の政策動向のなかで、新たに求められつつある教師の資質と力量について考えながら、自己の教職観・教師像の構築をはかる。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

教員の養成・採用・研修を、「教師の成長」という観点から考え、教職の意義、教師の仕事、教職の専門性について総合的に説明できる。
現在の地方分権、構造改革下の教員養成政策を確認しながら、新たな教師像を模索する動向について世界的な流れを含めて説明できる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR：学外学習無

■講義の概要

<第1講>　ガイダンス
概要:教師との出会いの原体験から教職課程受講の意味を再確認する
事前学習しておくべき用語:教員免許の取得を目指そうとした理由を振り返る
詳細:本講は、教職課程の入門的科目となる。出会った教師たちを振り返りながら、そもそもなぜ教職課程を受講しているかについて省察する。
<第2講>　教師の職務
概要:教師の職務内容とその範囲
事前学習しておくべき用語:教師の職務内容
詳細:教師の職務の多様さを理解し、それらの職務について具体的な事例を踏まえながら紹介する。
<第3講>　教師の地位と身分1
概要:教師の「地位」
事前学習しておくべき用語:全体の奉仕者、教育基本法第9条、地方公務員法第30～38条
詳細:教師の地位について、「教育基本法」や「地方公務員法」をもとに理解する。
<第4講>　教師の地位と身分2
概要:教師の義務と身分保障の意味
事前学習しておくべき用語:「不適格教員」と「指導力不足教員」の違い
詳細:教師に課せられている義務について、特に「地方公務員法」を中心に検討する。また、教師の身分保障の意味について
<第5講>　教師の地位と身分3
概要:教師の待遇
事前学習しておくべき用語:人材確保法、給与等特措法
詳細:教師の給与水準について、諸法令の規定を含めながら検討する。また、それらの規定が現状に合わなくなっていることなども指摘し、今後の政策の方向性等について意見交換をおこなう。
<第6講>　教員研修
概要:教員研修の種類と意義
事前学習しておくべき用語:自分の住んでいる地域の教員研修施設(教育センター等)の調査
詳細:教員研修の種類を把握するとともに、公的な研修と自主的な研修の関係性について考える。また、その中でも校内研修の重要性について、最新の研究を紹介しながら理解する。
<第7講>　教師のやりがいとバーンアウト
概要:教師のバーンアウト要因を中心に、日本と諸外国の比較をおこなう。
事前学習しておくべき用語:三楽病院HP検索、バーンアウト
詳細:教師のやりがいや「誇り」、またバーンアウトスコア等を諸外国との比較をおこないながら、各国の抱えている教師を取り巻く環境や政策の影響等について考える。
<第8講>　価値多様化社会の中の専門職1
概要:専門職といわれる職業が価値多様化社会のなかでどのような変化を求められているか。
事前学習しておくべき用語:指定図書の『専門家の知恵』を読んでおくこと。
詳細:法曹関係者や医療従事者と教職との関係性について、価値多様化社会の到来と同時に求められた変化を見出す。モンスターペアレントの問題や教育の私事化についても触れる。
<第9講>　価値多様化社会の中の専門職2
概要:「反省的実践家」としての専門職集団づくり
事前学習しておくべき用語:反省的実践家、「効果のある学校」
概要:専門職である者が「反省的実践家」である必要はどこにあるのか、ドナルド・ショーンらの研究を手掛かりに検討する。
<第10講>教員免許制度の現状分析
概要:戦後初期の教員免許に関する理念と近年の動向について検証する。
事前学習しておくべき用語:日本の教員免許制度の問題点
詳細:「教育職員免許法」制定当初の理念を把握するとともに、その理念が様々な方面で崩れてきていることを紹介する。社会人を教員や校長に登用しようとする動きの意味についても紹介するので、この点について意見交換したい。
<第11講>教職観の変遷
概要:開放制の「ゆらぎ」
事前学習しておくべき用語:開放制教員養成、師範学校
概要:教員の計画養成がはじまった意味と教員の需給関係について概観し、そこに教育大学や教育学部が存在する意味について考える。同時に、私立大学をはじめとして目的養成でないところで教員免許を取得できるということの意味と問題点について把握する。
<第12講> 新しい教師の力量1
概要:日本の教師と世界の教師との比較を中心に
事前学習しておくべき用語:教員研修、教員免許制度、各国の教員養成制度の比較(文科省HP)
概要:東アジアの教師像と西欧諸国の教師像の違いについて理解するとともに、それぞれがその教職観を乗り越えようとしている意味について、その背景を含めて把握する。
<第13講> 新しい教師の力量2
概要:OECDの政策提言から世界的な動向を見出す
事前学習しておくべき用語:OECDの政策提言を指定図書を読んで把握する。
詳細:日本の政策動向とOECDの政策提言との共通項を見出す。
<第14講> 新しい教師の力量3
概要:「学校を変えるのは誰だ(NHK)」を観て、「開かれた学校づくり」の現状を理解する。
事前学習しておくべき用語:開かれた学校づくり
詳細:「学校を変えるのは誰だ(NHK)」を観て、学校支援ボランティア、民間人校長、コミュニティー・スクール導入の意味やその課題について把握し、意見交換をおこなう。
<第15講> 教師への聞き取りから見えるもの
概要:レポートへのフィードバックを中心に
事前学習しておくべき用語:理想の教師像を、再考して授業に臨むこと。
概要:本講義を受けた上で自らの考える「理想の教師像」について、発表・意見交流をおこなう。

■教科書

授業時に、プリントを配布する。

■指定図書

佐藤学『教師というアポリア』、世織書房
ドナルド・A・ショーン『省察的実践とは何か－プロフェッショナルの行為と思考－』鳳書房
稲垣忠彦ら編『教師のライフコース』、東京大学出版会
山田浩之『マンガが語る教師像』、昭和堂
解説教育六法編修委員会編『解説 教育六法 2013』、三省堂

■参考文献

日本教師教育学会　『講座 教師教育学Ⅰ 教師とは』、学文社
日本教師教育学会　『講座 教師教育学Ⅱ 教師をめざす』、学文社
日本教師教育学会　『講座 教師教育学Ⅲ 教師として生きる』、学文社
ドナルド・ショーン『専門家の知恵-反省的実践家は行為しながら考える』、ゆみる出版
『日本教育新聞』、日本教育新聞社
その他は、授業時に指示する。

■参考URL

■評価方法

レポート50%、平常点50%で評価する。レポートは、ヒアリングをもとに作成するので、できる限り早めに教師・学校アポイントメントを取っておくことが望ましい。レポートについては、期日までに提出しなければ、原則として評価をしない。

■評価基準

A+:教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を十分に発揮している
A　:教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を一程度、発揮している
B　:講義に参加しているが、積極的な姿勢が十分ではない
C　:講義に参加しているが、理解度が十分ではなく、また提出物の提出についても遅滞が多い
F　:出席が足りない、講義内容がほとんど理解できない、他者と協力することができないなど、いずれか一つ以上当てはまる

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

学生には、迷いながら教師を目指して欲しい。本講義は本来、教職課程の入門的科目でもあり、敢えて「迷う」ことを誘う内容になっている。明確に教師を目指している人だけでなく、教師を目指すか迷っている人もぜひ受講して一緒に考えて欲しい。また、授業は学生の主体的な働きかけで進むものである。疑問や意見を持ったら必ず発言して、全体で共有しながら進めたい。状況によっては、内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもあり得る。

科目名　教職課程総論(Curriculum)

サブタイトル

担当教員　山原　克明

■講義目的

教育課程(curriculum:カリキュラム)は、教育内容の一般的な計画の側面をもっており、学校に
おける教育活動は教育課程を核として展開される。教育課程により、包括的に教育内容を捉え、教育全般を概観できる。この研究を通じて、新しい時代を担う教員としての資質・能力を形成する。
　本講義では、教育課程の意義と編成の方法について、「学ぶため・学び方のコース」とし
ての一般方針・配慮事項、編成の基準、類型と評価、指導計画の編成と指導の工夫などを取り扱う。目標として、時代の進展や社会の変化に応じた指導力を生かすために、留意すべき諸点に注目し、必要な知識と編成の技能が着実に身に付けることを目指す。

■講義分類

■到達目標

教職に就く者として求められる教育課程(カリキュラム)について、基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ：学外学習　無

■講義の概要

教育課程(curriculum:カリキュラム)は、教育内容の一般的な計画の側面をもっており、学校における教育活動は教育課程を核として展開される。教育課程により、包括的に教育内容を捉え、教育全般を概観できる。この研究を通じて、新しい時代を担う教員としての資質・能力を形成する。
<第 Ⅰ :第1講～第3講>　教育課程とは何か　教育課程改革と学習指導要領
　学習指導要領は、幾多の変遷を経て今日に至っている。21世紀を展望し、我が国の教育について、「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむことを重視するよう提言している(中央教育審議会の第一次答申)。「生きる力」について、同答申は「いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」、「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」、そして、「たくましく生きるための健康や体力」を重要な要素としてあげている。改訂高等学校学習指導要領(平成21年3月)が公表され、平成25年度入学生から新学習指導要領として学年進行で実施されることになった。「生きる力」をはぐくむことは、新しい学習指導要領の基本的な考え方としても引き継がれる。
<予習・復習ポイント>
　　教育課程とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 Ⅱ :第4講～第6講>　教育課程(curriculum)の意義と編成
　一般的に教育課程といわれ、教育目標に即して生徒の学習を指導するために、学校が計画的・組織的に編成して課す教育内容の全体計画を意味する。
　　・教育課程編成の一般方針　　・普通教育に関する各教科・科目及び標準単位数
　　・学校設定科目・学校設定教科　　・各教科・科目の履修等
　　・各教科・科目、特別活動及び総合的な学習の時間の授業時数等
　　・教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項
　　・単位の修得および卒業の認定、　・通信制の課程における教育課程の特例
<予習・復習ポイント>
教育課程)の意義と編成について理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 Ⅲ :第7講～第9講>　教育課程の類型とその評価
　教育課程のいろいろな類型を取り上げ、その評価について考えてみる。
・教科カリキュラム　　・相関カリキュラム
・融合カリキュラム
・広域カリキュラム　　・コア・カリキュラム
・経験カリキュラム
<予習・復習ポイント>
　　教育課程)の類型と評価について理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 Ⅳ・Ⅴ :第10講～第12講>　高等学校のカリキュラム編成の基準とモデル
各教科および特別活動の指導計画は、学校の教育目標の達成の上で重要な役割を果たすものである。指導計画の種類は、学校全体の教育計画に位置づけた全体の指導計画と、それをふまえて策定する内容ごとの全体計画や、年間指導計画、1単位時間の指導計画(単元指導案・学習指導案)などがある。
カリキュラムのモデル作成時に留意すべき事項は、学習指導要領が示している基本的な配慮事項を十分にふまえて、学校としての創意工夫をすることである。その際に、全職員の参加と協力を求めて、共通理解を図り、指導組織間の連携を深めることが必須といえる。また、この指導計画は、生徒の活動計画のよりどころとなるもので、生徒自身による計画化が容易であるように留意してモデルを作成する。
<予習・復習ポイント>
　　高等学校のカリキュラム編成の基準とモデルについて理解し、生徒の活動計画のよりどころとなる知識が身に付いたか。
<第 Ⅵ・Ⅶ :第13講～第15講>　教育課程のデザインと指導計画の作成演習
・教育委員会の役割を考えてみる。
　　・文部科学省ホームページ(http://www.mext.go.jp)から、各審議会による答申等を検
索して、関連するデータを収集・分析する。
・実際の教育課程(母校の教育課程表)を改めて見直してみる。
・各県の高等学校のカリキュラム、指導目標などを比較してみる。
・3年間の模擬的教育課程を編成し、問題点と改善点を指摘してみる。
・新しい形の高等学校のホームページから、各校の教育課程の特色を指摘してみる。
・各高等学校のホームページから、具体的な教育課程表を収集し、講義で学習した知識を検証したうえで、それぞれの高等学校の教育目標や、実際の教育内容の特徴とを比較検討してみる。
<予習・復習ポイント>
　　教育課程のデザインについて理解し、生指導計画の作成ができるか。

■教科書

講義の中で適宜指示する

■指定図書

[1] 文部科学省編　『高等学校学習指導要領解説　総則編』　東山書房
[2] 柴田義松著　『教育課程　カリキュラム入門』　有斐閣

■参考文献

特になし。

■参考URL

http://www.mext.go.jp/

■評価方法

期末試験(40%)　提出物(10%)　出席(50%)

■評価基準

絶対評価
期末試験　・講義内容の全般にわたる知識をどの程度身に付けているか。
　　・専門の用語を正確に理解しているか。
　　・出題の意図よく理解し、適当な分量で的確に答えているか。
提 出 物　・講義で取り上げた項目をよく理解しているか。
　　・主要な課題を取り上げ、適切な分量で記述しているか。
　　・正確・簡潔な表現で、よく整理された構成になっているか。
出　　席　・原則として、すべての講義に出席しているか

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・講義には欠席・遅刻なくすべての講義に出席して、教員としての立場からも真剣に受講する必要がある。
・参考資料を配布して講義を進める。
・課題を設定して、指導上の諸問題を解決する研究を適宜指示する。

科目名 教職実践演習

サブタイトル 4年間の振り返りを通して、自己の教職観を再構築する

担当教員 杉森　知也

■講義目的

4年間の学生生活(特に、教職に関すること)を省察し、その過程で、自己の強み・弱みを見出す。また、こうした活動を通して、自己の教職観を再構成する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

教育実習の振り返りを、各自のワーク、全体討議を通しておこない、経験の共有化をはかる。
学生時代の振り返りを通して、今後の自己の成長に必要なことを見出す。
以上の活動を通して、自己の授業観、教職観を再構成する。

■講義形態

GD・GW・PR：学外学習あり

■講義の概要

第1回 カルテによる振り返り1
概要:学生時代を振り返る
事前学習しておくべき用語:指定図書の第2章を読んでおく。
詳細:特に、学業についての振り返りをおこない、「振り返りシート」にまとめる。
第2回 カルテによる振り返り2
概要:学生時代を振り返る
事前学習しておくべき用語:指定図書の第3章を読んでおく。
詳細:特に、サークル活動やアルバイト等についての振り返りをおこない、「振り返りシート」にまとめる。
第3回 卒業までにできること
概要:学生時代にできることについて意見交換する
事前学習しておくべき用語:第1・2講でまとめた内容に基づいて、プレゼンテーションできるようにまとめておくこと。
詳細:短いながらも、学生時代にできることについて、第1・2講の振り返りをもとにプレゼンテーションと意見交換をおこなう。
第4回 教育実習の振り返り1
概要:教育実習の出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:指定図書の第3章を読んでおく。
詳細:教科指導の課題について振り返り、「振り返りシート」にまとめる。
第5回 教育実習の振り返り2
概要:教育実習の出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:第4講でまとめた内容に基づいて、プレゼンテーションできるようにまとめておくこと。
詳細:教科指導の課題について意見交換をおこない、「良い授業」の要件と自己の課題について意見交換をおこなう。
第6回 教育実習の振り返り3
概要:教育実習の出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:第5講で提示された問題や自己の意見を書き留めておき、自分なりの意見をまとめておくこと。
詳細:第5講の続きをおこなう。
第7回 教育実習の振り返り4
概要:教育実習の出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:教育実習ノートを再読しておく。
詳細:特別活動の指導について振り返りをおこない、「振り返りシート」にまとめる。
第8回 教育実習の振り返り5
概要:教育実習の出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:第7講でまとめた内容に基づいて、プレゼンテーションできるようにまとめておくこと。
詳細:特別活動の振り返りをプレゼンテーションし、意見交換をおこなう。
第9回 教育実習の振り返り6
概要:教育実習の出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:指定図書の第5章を読んでおくこと。
詳細:生活指導の場面について振り返り、「振り返りシート」にまとめる。
第10回教育実習の振り返り7
概要:教育実習の出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:第9講でまとめたことについて、プレゼンテーションできるようにしておく。
詳細:生活指導の場面について例示し、それについて意見交換をおこなう。
第11回教育実習の振り返り8
概要:教育実習の出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:第10講で意見交換したことを振り返りつつ、特に自己の意見がどのようなものであったのかについてメモしたことを振り返り、どのような指向を持っているのか確認しておく。
詳細:第10講の続きとして、生活指導の場面について例示し、それについて意見交換をおこなう。
第12回教育実習の振り返り9
概要:教育実習出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:第4～第11講でおこなった振り返りと、意見交換、およびそれに対する自己の意見表明の傾向等をまとめながら、自己の教職観について考えておくこと。
詳細:第4～第1講でおこなった振り返りと、意見交換、およびそれに対する自己の意見表明の傾向等のまとめをもとに、他者から見た理解を受けあう。
第13回教育実習の振り返り10
概要:教育実習の出来事を細かく振り返る
事前学習しておくべき用語:指定図書の第8章を読んでおく。
詳細:第12講で自己の指向について他者理解を得たが、それと自己理解をかみ合わせる。個別学習によって、深化を促す。
第14回自己の教職観を再構成する
概要:第1～第13講までの内容を総合する
事前学習しておくべき用語:各自がこれまでの振り返り活動を通して得られた自己理解・他者理解に基づいて自己の教職観の根源について考えておくこと。
詳細:これまでの振り返り活動を通して得られた自己理解・他者理解に基づいて、自己の教職観の根源についてレポートを作成する。
第15回まとめ
概要:反省的実践と教職観
事前学習しておくべき用語:指定図書の第8章を読んでおく。
詳細:反省的実践についての概要を講義し、そのうえで、教職に就いた場合にどのような成長をどのように遂げていくかについての見通しについて考える。

■教科書

なし

■指定図書

F・コルトハーヘン『教師教育学－理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ－』学文社　その他は、授業時に指示する。

■参考文献

授業時に指示する

■参考URL

■評価方法

授業時の積極的な姿勢(特に、ワークやディスカッション)を、平常点(100%)として評価する。

■評価基準

A+:教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を十分に発揮している
A　:教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を一程度、発揮している
B　:講義に参加しているが、積極的な姿勢が十分ではない
C　:講義に参加しているが、理解度が十分ではない
F　:出席が足りない、講義内容がほとんど理解できない、他者と協力することができないなど、いずれか一つ以上当てはまる

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

最新の教育情報を、新聞等で常にチェックしておくこと。
授業は、学生の主体的な働きかけで進むものである。疑問や意見を持ったら必ず発言して、全体で共有しながら進めたい。したがって、状況によっては若干、内容の変更が生じることもある。また、本講は集中授業の形式でおこなうため、便宜上、1～15講に分けて記載しているが、事前学習は講義の中で章かするものも多い。少なくとも、指定図書の読破に関しては、講義開始前におこなっておくことが求められる。

科目名　情報科教育法(Teaching Method on Information Education)

サブタイトル

担当教員　齋藤　S.裕美、山原　克明

■講義目的

本講義は、高等学校情報科の教員として多様な高校生に「情報」の本質を指導する基本的な能力を身に付けることを目的とする。情報にかかわる理念、制度、知識・技能、指導法等の情報教育の基本的な事項の理解を深めながら、実践的な指導力や教師としての資質の習得を図ることを目的とする。
本講義では、新学習指導要領(平成25年度入学生から学年進行で実施)の改訂ポイントや主な改善事項について触れ、模擬授業などの実習を通じて情報科教育の研究を進め、教材研究の方法、学習指導の工夫などの授業創りの実際を体験する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

教職に就く者として求められる教科教育(情報)について、基本的な知識と授業実践の手法の習得をめざす。
・情報教育の沿革と現状、在り方について説明できる。
・共通教科「情報」(各学科に共通する教科「情報))と専門教科「情報」(主として専門学科において開設　される教科「情報」)の基本的な理念について説明できる。
・共通教科「情報」と専門教科「情報」の目標、内容、構成を理解する。
・指導計画を作成し、それを基に模擬授業を通じた実践ができる。
・他の学生の模擬授業を見て、改善点や修正点などを相互に指摘できる。
・指摘を受け入れて、自らの指導計画や授業などを改善・工夫できる。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習　無

■講義の概要

・講義と研究授業の形式による模擬授業(教壇実習)を行う。
・高等学校(情報科)の教員として、基本的な理念、制度、知識・技能、指導法等の情報教育の基本的な事項の理解を深めながら、実践的な資質や指導力の習得を図る。
・改訂高等学校学習指導要領(平成21年3月)が公表され、平成25年度入学生から新学習指導要領として学年進行で実施されることになった。「生きる力」をはぐくむことは、新しい学習指導要領の基本的な考え方としても引き継がれる。本講義では、これまでの普通教科「情報A」「情報B」「情報C」の内容を再構成し、共通教科「社会と情報」・「情報の科学」の2科目構成とした高等学校「情報科」の改訂ポイントや主な改善事項についてふれ、専門教科「情報科」の改訂ポイントや主な改善事項についても検討する。
<内容・教育方法>
『高等学校学習指導要領解説　情報編』(文部科学省編　開隆堂出版)を中心に、指導用図書(高等学校で使用する教科書)や参考資料を配布して講義を進める。
(1)科目ごとに課題を呈示し、科目の内容について担当教員の立場から研究を進め、教材研究の方法、学習指導の工夫の実習を通じて授業作りの実際を体験する。また、主要な問題を取り上げ、内容の分析と要点を考察する。
(2)担当する科目の単元を定めて、年間指導計画、単元案・学習指導案を実際に作成するとともに、研究授業の形式による模擬授業(教壇実習)を行い、教育現場を想定した実際の授業体験をしてみる。
(3)共通教科「情報」および専門教科「情報」の指導に必要な能力を身に付けるとともに、教員として求められる資質を涵養する。
<第1講>　情報教育の沿革と現状
・「情報」、「情報教育」、「情報科教育」の沿革と現状および基本的な理念についてふれる。
・新学習指導要領について
・共通教科情報科、専門教科情報科の改訂のポイント
・「社会と情報」・「情報の科学」の改善事項
<予習・復習ポイント>
　「情報」、「情報教育」、「情報科教育」についてよく理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。
<第2講>　高等学校学習指導要領における情報教育の全体像
・共通教科「情報」の構成について
「第2章 普通教育に関する各教科 第10節 情報」の「総説」、「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」について解説する。
・専門教科情報の構成について
「第3章 専門教育に関する各教科　第7節 情報の「総説」、「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」について解説する。
<予習・復習ポイント>
・共通教科「情報」の全体像を理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。
・専門教科「情報」の全体像を理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。
<第3講～10講>
高等学校学習指導要領「第2章 普通教育に関する各教科 第10節 情報」」・「第3章 専門教育に関する各教科 第7節 情報」の各科目の「目標」・「内容」・「内容の取扱い」の要点を解説する。
・共通教科「情報」・専門教科「情報」の基本的な概念について
・共通教科「情報」・専門教科「情報」の各科目の目標・内容・内容の取扱いについて
・各科目
「社会と情報」・「情報の科学」
・各科目
「情報産業と社会」・「課題研究」・「情報の表現と管理」・「情報と問題解決」・「情報テクノロジー」・「アルゴリズムとプログラム」・「ネットワークシステム」・「データベース」・「情報システム実習」・「情報メディア」・「情報デザイン」・「表現メディアの編集と表現」・「情報コンテンツ実習」
<予習・復習ポイント>
・各科目の基本的な概念や要点を理解し、指導するうえで基礎的な知識が身に付いたか。
・知識を情報教育に展開させ、わかりやすい指導に結び付けることができるか。
<第11講～第14講>　指導計画の作成
各科目の指導計画と学習指導案(教案)の作成に際して、いろいろな形式のものがあり、それを通じて多様な情報の授業が展開されている。雛型を参考にして、十分に練られた学習指導案（教案）を作成できるようにするだけではなく、指導計画の各教科・科目および特別活動の指導内容と相互に関連させ、全体として調和がとれたものとなるようにする。さらに、創意工夫を生かして、発展的・系統的な指導ができるような学習指導案(教案)となるように留意させる。
<予習・復習ポイント>
・指導計画の作成について理解し、創意・工夫した指導計画を作成する知識・技能が身に付いたか。
・どの程度適切なものであるか，自ら評価できるか。
<第15講～29講>　模擬授業
分担する模擬授業の範囲（科目・単元，章・節）を決め、学習指導案を1単位時間分(50分)作成する。指導の詳細手順、キーターム、参考事項をノートなどにまとめ、実際に教壇に立って模擬授業を行い、良かったところ、さらに工夫すべきところを検討する。情報教育を担当する教員としての適性を自ら観察して、要求される資質がどの程度まで備わっているかを確認する。
<予習・復習ポイント>
・学習指導案を作成するために、教科書などの印刷教材、インターネット上の資料を収集し、要点をよく把握した教材研究が十分になされているか。
・学習指導案の作成に十分な時間をかけて、内容をよく理解したうえで、授業の進め方、板書・配布物の準備ができているか。
・教育を実践する者として、円滑に模擬授業を進め、その大切さを自覚できたか。
・1単位時間分(50分)の指導を実践して、教員としての態度・見識がしっかりと身に付いたか。
<第30講>　教育課程の編成
学習指導要領第3款に示されている「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」に留意しながら、指導計画を作成し、具体的な教育課程を仮に編成し、これまでの講義を総括する。
<予習・復習ポイント>
教育課程の編成について理解し、教職に就く者として求められる思考力・判断力が身に付いたか。

■教科書

文部科学省編　『高等学校学習指導要領解説　情報編』　開隆堂出版
この他に、課題研究や模擬授業に必要な高等学校の教科書等の資料を配布する。

■指定図書

文部科学省編　『高等学校学習指導要領』　国立印刷局

■参考文献

文部科学省ホームページ　『新学習指導要領　パンフレット』・『新学習指導要領　新旧

対照表』

■参考URL

■評価方法

期末試験(30%)　提出物(30%)　出席(40%)

■評価基準

絶対評価
・模擬授業などの際に、安定した技術(話し方・書き方・聞き方・調べ方・ま　とめ方)、能力を発揮しているか。
・教員として、ふさわしいものの考え方・見方・態度を身に付けているか。
・教育と指導に対する情熱・資質を持ち、相応の適性を有しているか。
期末試験
・講義内容の全般にわたり、教員となるために十分な知識を身に付けているか。
・教職および情報にかかわる専門用語を正確に理解しているか。
・出題の意図をよく理解し、適当な分量で的確に答えているか。
提出物
・講義で取り上げた項目をよく理解して作成されているか。
・主要な課題を取り上げ、適切な分量で的確に記述しているか。
発表(模擬授業)
・十分な教材研究に基づいて、正確・簡潔な表現で、よく整理された授業の構成になっているか。
・学習指導案(導入⇒展開⇒まとめ)の指導プロセスと模擬授業が整合しているか。

■事前履修科目等

2年次および3年次春学期の教職課程科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・高等学校で使用している「情報」の教科書を講義の中心に位置付け、レジュメおよび参考資料を配布する。
・講義には毎回出席し、意欲的な受講態度や丁寧な教案・資料作りが求められる。
・各自で学習指導案・単元指導案および参考資料(手許資料)を作成して、他の実習予定者にも配布する。
・研究課題ごとに、複数回の教材研究と模擬授業の機会を課する。
・教職に就く者として教科教育について強い「意志」が求められ、基本的な知識・態度と授業実践の手法の十分な習得が欠かせない。
・教員としての資質を啓発するために、指定した課題についての発表・模擬授業の機会を設け、教員としての適性の有無を観察・評価する。

科目名　生徒指導(Student Direction)

サブタイトル

担当教員　山原　克明

■講義目的

本講義では、生徒指導の意義と課題、生徒指導の原理、生徒理解の考え方と方法、生徒指導と教育課程、生徒指導のあり方について理解を深め、教員として生徒指導上の諸問題に対応できる能力を高めることを目的とする。

学校教育の成否は、生徒の教育に直接携わる教員の資質能力に負うところが極めて大きく、その向上がその重要なポイントとなる。いじめや登校拒否など深刻な問題が生じており、教科指導以外の生徒指導やホームルーム経営の面でも、新たな資質・能力が求められている。生徒の指導にあたって、特に重視されている学校における教育相談、進路指導の現状とその課題などについても理解を深める。

■講義分類

■到達目標

教職に就く者として求められる生徒指導について、講義のほかにグループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、教員として生徒指導の重要性について深く考察し、基本的な知識の確実な習得をめざす。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習　無

■講義の概要

生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の1つであり、子どもの人格の形成を図るうえで、大きな役割を担っている。平成21年6月に「生徒指導提要の作成に関する協力者会議」が設置され、生徒指導の実践に際し教員間や学校間で共通理解を図り、小学校段階から高等学校段階までの組織的・体系的な生徒指導を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として、『生徒指導提要』(平成22年4月2日)が取りまとめられた。

この提要では、学校種間の連携についても述べ、複雑化・多様化する児童生徒をめぐる課題について、児童生徒全体への指導と、個別の課題ごとの指導の基本的な考え方について解説し、発達障害についての理解と支援の在り方についてもふれている。

本講義では、この生『生徒指導提要』を基本教材として、生徒指導の意義と課題、生徒指導の原理、生徒理解の考え方と方法、生徒指導と教育課程、生徒指導のあり方について理解を深め、生徒指導上の諸問題に対応できる能力を高めることを目的とする。講義に加えて，グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、教員として生徒指導の重要性についてよく理解し、そのための基本的な知識を確実に習得する。

<第1講～3講>　生徒指導とは何か(生徒指導の意義と原理)

生徒指導は、人間の尊厳という考えに基づき、一人一人の生徒を常に目的そのものとして扱うことを基本とする。これは、価値を内在した個々の生徒の自己実現を助ける過程であり、人間性の発達を目的とするものである。生徒は、このように社会化を続けながら、自覚的な存在として、自主的に自己の人生目標を選択し、設定し、追求して行く過程にある存在と捉えることができる。ここに生徒指導の原理を考察することになる。

内　容

・生徒指導の意義と課題
・教育課程における生徒指導の位置付け
・生徒指導の前提となる発達観と指導観
・集団指導・個別指導の方法原理

<予習・復習ポイント>

生徒指導の意義や原理をよく理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第4講～第5講>　生徒理解の考え方と方法

生徒指導における生徒理解の考え方、生徒指導における生徒理解の必要性、生徒理解の対象、生徒理解の立場、生徒理解のための資料、生徒理解のための資料を集める方法、生徒理解の留意点について考える。

<予習・復習ポイント>

生徒理解とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第6講～第7講>　生徒指導と教育課程

教育課程の展開としての生徒指導は、生徒に直接働きかける教育活動として、休憩時間や放課後などにおいて個別に行われる指導やいろいろな形式で行われる教育相談などが生徒指導の仕事としてあげられる。

内　容

・教科における生徒指導
・道徳教育における生徒指導
・総合的な学習の時間における生徒指導
・特別活動における生徒指導・

<予習・復習ポイント>

生徒指導と教育課程と生徒指導について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第8講～10講>　生徒指導の在り方

学校における生徒指導体制、生徒指導とホームルーム担任の教員、生徒指導と社会環境について、ホームルーム担任という想定のもとに、具体的な研究内容のロングホームルーム形式の模擬実習を行う。

内　容

・生徒指導体制の基本的な考え方
・生徒指導の組織と生徒指導主事の役割・
・年間指導計画　・生徒指導のための教員の研修
・資料の保管・活用と指導要録　・全校指導体制の確立　・生徒指導の評価と改善

<予習・復習ポイント>

生徒指導の在り方について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第11講・12講>　学校における教育相談

生徒指導における教育相談の意義と特質、教育相談の方法、教育相談の限界と他の機関との連携、教育相談を担当する教員の資質と訓練について、具体的な研究内容として、カウンセリング研修ビデオを視聴し、事例を通じて生徒指導上で必要なカウンセリングの基本的な知識・技術によるいじめ・暴力行為・不登校への対応の理解を図る。

内　容

・教育相談の意義　・教育相談体制の構築　・教育相談の進め方
・スクールカウンセラー、専門機関等との連携　・守秘義務と説明責任

<予習・復習ポイント>

教育相談について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第13・14講>　進路指導と学級担任・ホームルーム担任の指導

進路指導については、学習指導要領に規定がある。人間としての在り方や生き方に関する教育の一環として位置づけられ、学校の教育活動全体を通じて推進を図る。

内　容

・生徒指導における学級担任・ホームルーム担任の立場
・基本的な生活習慣の確立
・校内規律に関する指導の基本
・児童生徒の安全にかかわる問題
・個別の課題を抱える児童生徒への指導

<予習・復習ポイント>

進路指導の在り方や課題について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第15講>　これからの生徒指導

1.人間関係の改善と望ましい人間関係の促進
2.生徒の自然体験や生活体験の不足を補うような望ましい習慣の形成
3.生徒の将来展望の不確実さや不安の解消および自己指導能力の伸長

<予習・復習ポイント>

これからの生徒指導について考え、何が求められているのかが考察できたか。

■教科書

講義の中で、『生徒指導提要』(文部科学省:電子データ)を印刷教材として配布する。

■指定図書

[1]文部科学省編　『生徒指導資料第6集　担任教師による生徒指導』　大蔵省印刷局
[2]高野清純編著　『放送大学教材　生徒指導』　放送大学教育振興会

■参考文献

[1]文部省新学校経営研究会編　『Q&A生徒指導の基礎知識』　教育開発研究所
[2]白井三恵編著　『生徒の自己実現を援ける生徒指導』　学事出版

■参考URL

http://www.mext.go.jp

■評価方法

期末試験(30%)　提出物・模擬指導(10%)　出席(60%)

■評価基準

絶対評価

・指導者(教員)として生徒指導の方法をよく理解し、安定した資質を発揮して、ふさわしい考え方・ものの見方を身に付けているか。

期末試験　・教員を目指す者として、講義内容の全般にわたる知識を十分に身に付

けているか。
・教員としての教養を身に付け、生徒指導に関する事項を正確に理解しているか。
・出題の意図よく理解し、適当な分量で的確に答えているか。
提出物　・教員としての視点から、講義で取り上げた内容をよく理解しているか。
・主要な論点を取り出し、適切な分量で論述しているか。
・正確でわかりやすい表現で、整理された論理構成で話されているか。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・講義には、欠席・遅刻なく出席することが必要である。(原則として、欠席・遅刻はできない。)
・『生徒指導提要』によるレジュメを中心に、参考資料を配布して講義を進める。
・生徒指導上の諸課題を具体的に考察し、実践的、基礎的・基本的な考え方を扱う。

科目名　特別活動(Extracurricular activity)

サブタイトル

担当教員　山原　克明

■講義目的

教育課程改革の経緯や高等学校学習指導要領(学習指導要領という)の変遷をふまえて、特別活動の「なすことにより学ぶ」という本質から、教育的な意義と目標、特質、教員としての実践的な資質や指導力の習得を図る。合わせて、高等学校の教育課程(カリキュラム)の意義と、学習指導要領に準拠してどのように編成するかを考える。　改訂高等学校学習指導要領は、平成25年度入学生から学年進行で実施される。新たな特別活動の中で、新学習指導要領の理念に基づいて、具体的な手立てを考察する

■講義分類

■到達目標

特別活動および教育課程の意義と編成について、講義とともにグループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、教員としてホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の重要性について考え、そのための基本的な知識の確実な習得をめざす。

■講義形態

講義 ＋ GD・GW・PR　：学外学習　　無

■講義の概要

各特別活動では、教科・科目、総合的な学習の時間で学んだことを生活や行動に生かすという目主的・実践的な態度を育てることが求められる。本講義は、学習指導要領の改訂による教育の基調の転換をふまえて、特別活動の「なすことによって学ぶ」という本質に基づき、体験的指導力(人間的な魅力)の育成を目指して展開する。

新高等学校学習指導要領では、「生きる力」をはぐくむことが基本的な考え方として引き
継がれる。本講義では、どのようにこの理念を実現するかについて考察する。
教育実践の事例、総合的な学習の時間などとの相互の関連について考察を深め、教育的な意義と目標、将来の教員としての実践的な資質や能力の習得を図る。目標として、時代の進展や社会の変化に応じた指導力を涵養するために、留意すべき諸点に注目する。グループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、教員としてホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の重要性についてよく考え、そのための基本的な知識を確実に身に付ける。

<第 Ⅰ 講>　意義と目標・改訂の経緯と趣旨

配布した参考プリントから、に小学校、中学校、高等学校の学習指導要領の目標の違いに注目し、それぞれの目標の違いから、特に高等学校における特別活動の学校教育上の意義を考えてみよう。
総説(改訂の経緯・改訂の趣旨・改訂の要点)、目標(特別活動の目標・各活動・学校行事の目標との関連)、基本的な性格と教育的意義(教育課程上の位置付け・人間形成と特別活動・教育的意義・内容相互の関連・各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間等との関連)
<予習・復習ポイント>
　特別活動とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 Ⅱ 講>　ホームルーム活動の内容と指導
ホームルームは、学校における生徒の生活の単位組織と、固有の生徒の活動が行われ、学校における生徒の様々な活動の基盤としての役割を果たす場である。学校における生徒指導（進路指導を含む）を進めるために、生徒が心理的に最も安定して帰属できる「心の居場所」としての意義も大きい。相互の受容と共感による親密な人間関係に基づく家庭的な雰囲気の中で指導が行われる。
ホームルーム活動の目標は、望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題や、生徒の発達の課題に即した諸課題を解決しつつ、社会的に自立しようとする自主的、実践的な態度を育成することにある。高等学校の特別活動における道徳教育は、人間としての在り方生き方に関する指導を通じて充実が図られ、特にホームルーム活動は大きな役割を果たすことに留意させる。
ホームルーム活動(ホームルーム活動の目標・ホームルーム活動の内容・活動の指導計画・ホームルーム活動の内容の取扱い)
<予習・復習ポイント>
　ホームルームとは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 Ⅲ・Ⅳ 講>　生徒会活動の内容と指導
生徒会活動は、全生徒を会員として組織し、学校における自分たちの生活の充実・発展、学校生活の改善・向上を目指す。生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動である。生徒会活動の目標は、生徒会の集団における望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育成することにある。
生徒会活動で期待されることは、目標を実現する過程で、生徒の自主性・主体性を育て、学校集団としての活力を高めるとともに、健全で豊かな学校生活が展開できるような集団を育成することである。
生徒会活動(生徒会活動の目標・生徒会活動の内容・生徒会活動の指導計画・生徒会活動の内容の取扱い)
<予習・復習ポイント>
　生徒会活動について理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 Ⅴ・Ⅵ 講>　学校行事の内容と指導
学校行事は、全校若しくは学年またはそれらに準ずる比較的大きな集団を単位として、日常の学習や経験を総合的に発揮し、その発展を図る体験的な活動である。
学校行事の目標は、大きな集団における望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築き、社会的に自立しようとする自主的、実践的な態度を育成することにある。
目標を実現する過程で育てることは、自己理解をいっそう深め、規律、協同、責任、思いやりなどの社会性、集団や社会における自己の生かし方、集団行動における望ましい態度などを育てることになる。
学校行事(学校行事の目標・学校行事の内容・学校行事の指導計画・学校行事の内容の取扱い)
<予習・復習ポイント>
　行事について理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 Ⅶ・Ⅷ 講>　指導計画の作成と内容の取り扱いとこれからの課題
　教育課程(カリキュラム)の意義と編成

各教科および特別活動の指導計画は、学校の教育目標達成の上で重要な役割を果たすものである。指導計画の種類は、学校全体の教育計画に位置づけた全体の指導計画と、それをふまえて策定する各内容の全体計画や、年間指導計画、1単位時間の指導計画(指導案)などがある。学習指導要領の特別活動の分析を行い、相互の違いを明らかにして、21世紀の教育の目指すところを考えてみる。
<予習・復習ポイント>
文部科学省ホームページから特別活動に関連するデータを収集・分析する。
<予習・復習ポイント>
　指導計画の作成と内容の取り扱いと指導計画の作成、高等学校のカリキュラム編成と基準について理解し、求められる知識が身に付いたか。

■教科書

文部科学省編　『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』　東山書房

■指定図書

[1]文部科学省編　『高等学校特別活動指導資料』　海文堂出版
[2] 山崎準二編　『教育課程』　学文社
[3]森嶋昭伸他編著　『高等学校新学習指導要領の解説　特別活動』　学事出版

■参考文献

日本特別活動学会編　『キーワードで拓く新しい特別活動』　東洋館出版社
文部科学省ホームページ　『新学習指導要領　パンフレット』

■参考URL

http://www.mext.go.jp/

■評価方法

期末試験(30%)　提出物(10%)　出席(60%)

■評価基準

絶対評価
・教員として、報告や発表の際に安定した資質を発揮して、ふさわしいものの考え方・見方を身に付けて いるか。
期末試験
・講義内容の全般にわたる知識について、教員を目指す者として十分に身に付けているか。
・専門の用語を正確に理解しているか。
・出題の意図よく理解し、適当な分量で的確に答えているか。

提出物
・講義で取り上げた項目をよく理解しているか。
・主要な課題を取り上げ、適切な分量で記述しているか。
・正確・簡潔な表現で、よく整理された構成になっているか。

■事前履修科目等

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・教育課程(カリキュラム)の意義と編成についてふれる。
・講義には欠席や遅刻なく毎回出席して、教員としての立場から真剣に受講することが求められる（原則として、欠席・遅刻はできない）。
・教科書『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』を中心に、参考資料を配布して講義を進める。
・研究課題を設定して、指導上の諸問題を解決する力を求める。

経営情報学部１年生向け　履修チェックリスト

大学生活最初の１年間は新たな生活リズムをつくるための重要な期間です。下記に、特に重要な項目を抜粋してまとめました。はじめは難解な内容も含まれますが、１つずつ理解して有意義な大学生活を送ってください。

春学期　入学直後

- □ シラバスに名前を書きましたか？
- □ プレゼミナール担当教員の名前はわかりましたか？
- □ 事前にクラス分けされている科目について、自分自身のクラスを確認しましたか？
- □ シラバス内の2014年度前提科目一覧を確認しましたか？
- □ 語学（英語、中国語、韓国語のいずれか）の履修の希望を提出しましたか？
- □ 各言語に対応したＤ区分の1年次配当科目両方（英語であればEnglish Expression Ⅰ及びⅡ）を履修していなければ、各言語に対応したＤ区分の2年次配当科目（Practical English Conversation Ⅰなど）は、履修できないことを理解できていますか？
- □ Ｔ－ＮＥＸＴにログインして、各種の情報を取得できるようになりましたか？
- □ 進級要件と卒業要件を理解できましたか？
- □ 履修登録の方法を理解できましたか？
- □ シラバスを見て受講する科目を確認できましたか？
- □ ビジネスコミュニケーション入門Ⅰ（必修科目）の履修登録を完了しましたか？
- □ ビジネス入門Ⅰ（必修科目）の履修登録を完了しましたか？
- □ プレゼミナールⅠ（必修科目）の履修登録を完了しましたか？
- □ 事前に指定されたクラス分けに従い履修登録できましたか？
- □ 学年暦を確認しましたか？
- □ 毎日、大学に通学できる生活スタイルは整いましたか？

春学期　ゴールデンウィーク明け

- □ Ｔ－ＮＥＸＴからの通知を確認していますか？
- □ 継続して大学に通学していますか？
- □ 学習内容に関して分からないことが残っていた場合、プレゼミナール担当教員に確認して解決しましたか？
- □ 進級要件や卒業要件に関して分からないことが残っていた場合、プレゼミナール担当教員もしくは教務課で確認して解決しましたか？
- □ その他、学生生活などで悩み事があった場合、プレゼミナール担当教員や学生課に相談して解決しましたか？

春学期　定期試験前後

- □ Ｔ－ＮＥＸＴからの通知を確認していますか？
- □ 定期試験がある科目を確認できていますか？
- □ 定期試験の時間割を確認していますか？
- □ 秋学期の授業開始日を確認しましたか？
- □ 秋学期の履修登録期間を確認しましたか？
- □ シラバスを読んで秋学期の履修科目をイメージしていますか？

秋学期　授業開始前後

- □ Ｔ－ＮＥＸＴからの通知を確認していますか？
- □ 成績を確認しましたか？
- □ 最新の時間割を入手しましたか？
- □ 秋学期の履修登録期間を確認しましたか？
- □ シラバスを見て受講する科目を確認しましたか？
- □ ビジネスコミュニケーション入門Ⅱ（必修科目）の履修登録を完了しましたか？
- □ ビジネス入門Ⅱ（必修科目）の履修登録を完了しましたか？
- □ プレゼミナールⅡ（必修科目）の履修登録を完了しましたか？
- □ 事前にクラス分けされている科目について、自分自身のクラスを確認して、履修登録しましたか？
- □ 春学期に履修した科目を振り返り、プレゼミナール担当教員と相談し、将来どのようなホームゼミナールに所属したいかイメージできていますか？

秋学期　中頃

- □ Ｔ－ＮＥＸＴからの通知を確認していますか？
- □ 継続して大学に通学していますか？
- □ プレゼミナール担当教員と相談するなどして、所属したいホームゼミナールの検討は進んでいますか？
- □ プレゼミナール担当教員と相談するなどして、希望するホームゼミナールに所属する方法を確認しましたか？

秋学期　定期試験前後

- □ Ｔ－ＮＥＸＴからの通知を確認していますか？
- □ 定期試験がある科目を確認しましたか？
- □ 定期試験の時間割を確認しましたか？
- □ 秋学期の授業開始日を確認しましたか？
- □ 秋学期の履修登録期間を確認しましたか？

- □ プレゼミナール担当教員と相談するなどして検討し、2年次に経営情報学科か、マネジメントデザイン学科かどちらに所属するか決め、学科分属希望調査の回答をしましたか？
- □ シラバスを読んで春学期の履修科目をイメージしていますか？

次年度春学期　授業開始直前

- □ Ｔ－ＮＥＸＴからの通知を確認していますか？
- □ 成績を確認しましたか？
- □ オリエンテーション、健康診断、時間割、並びに履修登録期間の確認をしましたか？
- □ 履修登録するにあたり、必要に応じてホームゼミナール担当教員と相談の上、2年次配当の必修科目を確認しましたか？